高野山大学・大学院

講義概要・授業計画

令和2年度

2020
KOYASAN UNIVERSITY
OVERVIEW LECTURE-LESSON PLANS

講義概要・授業計画

令和２年度（2020）

高野山大学

総　目　次

■　本誌の利用に際して

■　シラバスを活用しよう！

■　入学から卒業までの履修について　密教学科・人間学科

■　《僧侶実力養成プログラム》

■　カリキュラムマップ　密教学科・人間学科

■　講義概要・授業計画

文学部／別科　文１～文73

大　学　院　院１～院11

教員別索引（50音順）　索引１～索引３

本誌の利用に際して

この「講義概要・授業計画」は、令和２年度に開講される授業科目の講義内容を掲載したものです。

学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により、当該科目のページを開くことで見ることができます。

文　学　部

別　　科

シラバスを活用しよう！

副学長（教務担当）

この冊子は『高野山大学・大学院　講義概容・授業計画　令和２年度』と名づけられています。その名の通り、ここには今年度の高野山大学のすべての科目について、授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、準備学習とその時間、テキスト、参考書・参考資料、学生に対する評価方法、ルーブリック（目標に準拠した評価）、課題に対するフィードバックの方法、その他の注意点などがコンパクトにまとめられています。こういうものを「シラバス」（syllabus）とも言います。シラバスは、今年度１年間のみなさんの学修の指針となるものです。別の言い方をすると、シラバスは、学生諸君に対する私たち教員の約束です。今年度１年間の授業はここに書いてあるように展開されます。シラバスを大切にし、学修に役立ててください。

本学は、2019 年度から GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制を導入しました。GPA については後のページに載せてありますが、分かりにくければ、教務担当の事務職員に何度でもたずねてください。とても大事なことですから、はっきりした理解を持ってください。

また本学は、2019 年度から新しいカリキュラムを導入しました。これについても注意してください。しかし、この新カリキュラムが「宗教的教養を持った社会人」を育成するよう設計されていることは、これまでのカリキュラムと変わりません。宗教的教養を持った社会人とは、宗教の智慧を人生の指針とし、それを社会で活かしていける力を持った社会人です。言い換えれば、弘法大師の教えを具現化できる人です。

カリキュラムマップは、そういう人になるための学修の体系を図示したものです。弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を経営したり、福祉事業を展開したりするための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっています。

こうした能力、こうした教養は、僧侶になる人にも一般企業に就職する人にも役に立ちます。これを基礎に、僧侶を目指す人は教学実習科目等の授業を、一般企業を目指す人は就職支援授業をさらに活用してください。

みなさんの健闘を期待しています。

◆目次について

この『令和２年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学科のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門	乾　　龍　仁	2	1年次	―		1

開講学期
曜日
時間

講義コード

授業科目名

担当教員名

単位数

シラバス
ページ番号

◆講義コードについて

講義コードは５ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

□　□　□　□　□　（５ケタ）

課程
３＝文学部１回生用
４＝文学部２～４回生用
５＝文学部共通
８＝別科生用
９＝大学院生用

曜日
１＝月曜日
２＝火曜日
３＝水曜日
４＝木曜日
５＝金曜日
６＝土曜日
７＝集中講義
８＝実習
９＝論文

時限
１＝１講時
２＝２講時
３＝３講時
４＝４講時
５＝５講時
６＝６講時
７＝７講時

通し番号
01～24＝前期授業
　　および通年授業（高野山）
25～49＝前期授業
　　および通年授業（難波）
51～74＝後期授業（高野山）
75～99＝後期授業（難波）

◆受講登録について

1　受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、４月６日（月）から４月 10 日（金）午後５時までに教務課へ提出してください。

2　履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。

①　学籍番号（※身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。

②　履修登録欄には、今年度に受講するすべての授業科目を、『令和２年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。

※１年間に履修登録できるのは自由科目を除き 50 単位までです。

3　履修登録票を教務課へ提出した学生は、４月 20 日（月）から４月 24 日（金）午後５時までに、教務課で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、教務課へ提出してください。

4　最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、１年間保管してください。

5　履修を取り消したい科目がある場合は、前期は５月 29 日（金）まで、後期は 10 月 30 日（金）まで受け付けますので教務課に申し出てください。（※ただし、導入研修、英語Ⅰ・Ⅱは履修取り消しができません。）

6　後期（９月 23 日開講）授業科目の追加及び登録変更は、９月 23 日（水）から９月 30 日（水）午後５時までの後期履修登録変更期間に、教務課へ申し出てください。ただし、通年科目の追加･変更･取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第１回目から第３回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。

それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の３分の２以上の出席がないと「失格」（999）になりますので留意してください。

◆報恩日（21 日）の授業実施について

報恩日（21 日）は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

◆ＧＰＡについて

1　ＧＰＡとは

ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のＧＰ（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

2　目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを目的としています。

3　対象

平成31年度入学生から対象となります。また３年次編入学生は令和３年度入学生からとなります。

4　ＧＰＡの計算方法

履修登録した各科目の成績（ＧＰ）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第３位は四捨五入。

合　否	評　点	評語	ＧＰ	判　定　基　準
合　格	90点以上	S	4	特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	優れた成績である
	79点～70点	B	2	妥当と認められる成績である
	69点～60点	C	1	合格と認められる最低限の成績である
不合格	59点以下	D	0	合格と認められない成績である
失　格	999点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認　定	888点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録した科目のＧＰ×その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

5　ＧＰＡに参入されない科目

他大学で取得し、本学にて認定された「N」評価の科目。

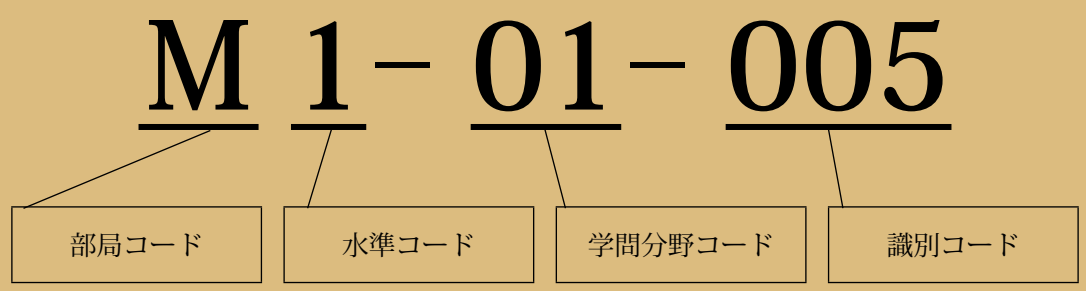
6　履修取り消し

前期は５月29日（金）まで、後期は10月30日（金）までと履修取り消し期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、ＧＰＡ算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目（導入研修・英語Ⅰ・Ⅱ）もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

＜高野山大学科目ナンバリングの形式＞



1　各コードの定義について

（1）部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するために項目です。

＜部局コード分類表＞

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
B	別科
D	大学院

（2）水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

（3）学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字２ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	07	外国語	13	情報学	19	論文指導
02	仏教学	08	哲学	14	統計学	20	その他
03	宗教学	09	法学	15	数学		
04	文学	10	心理学	16	キャリア教育		
05	国語学	11	社会学	17	教育学		
06	書道	12	歴史学	18	博物館学		

（4）識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字３ケタで表記しています。

入学から卒業までの履修について(密教学科)2019年度以降の入学生用

卒業認定・学位授与に関する方針（密教学科ディプロマ・ポリシー　ＤＰ）

高野山大学文学部密教学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

１．仏教・密教に関する専門知識。（DP1）
２．体系的に学んだ方法論・技能にもとづいて問題を探求し、論理的・実証的に思考するとともに、それを表現する能力。（DP2）
３．真言宗僧侶としての基礎的技能。（DP3）
４．日本やアジアの伝統文化をグローバルな視点から理解する能力。（DP4）
５．現代社会における宗教の役割を理解し、実践することのできる能力。（DP5）

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部密教学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条）。

密教学科の科目は、建学の精神科目、導入科目、語学科目、基礎ゼミ、基礎科目、実技科目、講読、実習、特殊講義、講読演習、演習、卒業論文の必修科目と、選択科目、自由科目に区分されています。

必修科目では、科目区分ごとに必要単位数が決められています。必修科目の同一区分内で、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。必修科目では、各科目区分の必要単位を取得し、合計64単位以上を取得してください。

また、必修科目以外に、選択科目の中から60単位を取得する必要があります。ただし、１年間に履修できるのは50単位までです。（自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが30以上の人は58単位まで履修可能です。）

密教学科の学生は、必修科目64単位と選択科目60単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	２単位	基礎科目	４単位	特殊講義	４単位
導入科目	２単位	実技科目	10単位	講読演習	４単位
語学科目	６単位	講　　読	８単位	演　　習	８単位
基礎ゼミ	４単位	実　　習	４単位	卒業論文	８単位
				必修科目合計	64単位
				選択科目合計	60単位
				合　　計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、１回生は履修できません。

以下では、密教学科の学生が卒業に必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。
卒業後にどのようになりたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかを考えてください。

高野山キャンパスで学んでいる２回生以上の学生は、難波サテライト教室で開講されている科目を履修することができます（１部科目を除く）。ただし、１回生から入学した学生については、難波サテライト教室や学外で行う科目を60単位までしか認定されません。難波サテライト社会人編入生については関係ありません。

必修科目

必修科目は、卒業するためには必ず64単位以上を取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義を設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、基礎講義は４単位以上となっていますが、開講科目は８単位分開講されおり、その中から４単位以上を履修することができます。

科目区分／科目名	学年配当	開講時期	履修単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	授業内容
【建学の精神科目】２単位必修									
空海の思想入門	1	半期	2	◎		○			仏教思想の基礎と建学の精神である空海の思想を学ぶ。
【導入研修】２単位必修									
導入研修	1	半期	2	○	◎				合宿形式で、大学での学びを体験するとともに、グループ活動・宗教体験を通して自己を見つめる。
【語学科目】６単位必修（英語Ⅰ・英語Ⅱは必修、漢文・サンスクリット語はどちらか２単位を必修）									
英語Ⅰ	1	通年	2		◎		○		リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
英語Ⅱ	2	通年	2		◎		○		リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するとともに、e-learning教材でリスニングも行う。
漢文	1	通年	2		◎		○		訓点を正しく使う能力を養い、漢文読解の基礎を身に付ける。
サンスクリット語	1	通年	2		◎		○		サンスクリット語の基礎を学び、読解力を高める。
【基礎ゼミ】２＋２単位必修（２科目４単位以上）									
密教学科基礎ゼミ	1	半期	2		◎	○			密教学科の学びの基礎となる資料収集や文章読解、文章作成、実践などをトレーニングする。
【基礎科目】２＋２単位必修（２科目４単位以上）									
密教学概論	2	半期	2	◎				○	密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。
仏教学概論	2	半期	2	◎				○	縁起・空・唯識・中観といった仏教の専門用語を習得し、仏教思想の総合的理解を培う。
密教史概説	2	半期	2	◎				○	インド・チベット・中国における密教の歴史に関する基礎知識を習得し、あわせて日本密教の歴史的展開を理解する。
仏教史概説	2	半期	2	◎				○	インド文化における仏教の誕生と天界に関する基礎知識を習得し、あわせて東アジアの仏教の歴史的変遷を理解する。
【実技科目】10単位必修（常用経典・声明・法式・布教は必修。漢字Ⅰ・かなⅠはどちらか２単位を履修）									
常用経典	1	通年	2	○		◎			真言宗の常用経典の読誦法（お経の読み方）の習得。
声明	1	通年	2	○		◎			真言宗の僧侶として必要な仏教音楽「声明」の基礎的トレーニング。
法式	1	通年	2	○		◎			真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識の解説。
布教	1	通年	2	○		◎			布教原理の学習と実習（真言法話・詠歌等）を通して伝道の重要性を認識する。
漢字Ⅰ	1	通年	2		◎	○			中国の伝統的書道教育を根底に、楷書・篆書・隷書などの臨書を経て、作品制作を行う。
かなⅠ	1	通年	2		◎	○			「かな」成立の歴史を知り、実習を経て行書き・ちらし書きの創作を行う。
【講読】８単位必修（祖典講読Ⅰは必修。祖典講読Ⅱ・宗典講読はどちらか4単位を履修）									
祖典講読Ⅰ	2	通年	4	◎		○			弘法大師空海の『即身成仏義』を読み、その根本思想を把握する。
祖典講読Ⅱ	3	通年	4	◎		○			弘法大師の著作の講読を通して、その思想の特質を理解するとともに、真言密教の教理と実践の関係を理解する。
宗典講読	3	通年	4	○		◎			密教・真言宗の文献の講読を通して、密教の思想と実践を学び、真言密教が社会に提供できるものを考える。

【実習】４単位必修

加行Ⅰ	1	集中	1	○		◎			前期加行の実習を通して、自分自身を見つめ、真言密教の修学に結び付ける。
加行Ⅱ	1	集中	1	○		◎			後期加行の実習を通して、自分自身を見つめ、真言密教の修学に結び付ける。
ボランティア	1	集中	2			○		◎	ボランティアの体験を通じて社会貢献の精神、公共性、社会性を身につける。
巡礼・遍路	1	集中	2		○			◎	巡礼・遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養し、企画力、実行力、報告能力を身に付ける。

【特殊講義】２＋２単位必修（２科目４単位以上）

密教学特殊講義	3	集中	2	◎			○		密教学／仏教学の卒業論文作成に向けた専門教育の講義であり、各自の希望に応じた選択によって、専門知識の習得や資格取得を実現する。
仏教学特殊講義	3	集中	2	◎				○	
真言密教特殊講義	3	集中	2	◎		○			

【講読演習】２＋２単位必修（２科目４単位以上）

密教学講読演習	3	集中	2	◎			○		密教学／仏教学の卒業論文作成に向けて、各自の希望に応じた選択によって、専門的な文献の読解を行う。
仏教学講読演習	3	集中	2	◎				○	
真言密教講読演習	3	集中	2	◎		○			

【演習】４＋４単位必修（３回生、４回生で各１科目必修）

密教学演習	3・4	通年	4	○	◎				卒業論文作成のために、資料収取、読解、報告、執筆する力を身につける。

【卒業論文】８単位必修

密教学科卒業論文	4	通年	8	◎	○				4年間の学びの集大成として、各自の研究成果を論文として作成する。

選択科目

密教学科の必修科目を64単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの60単位は、人間学科の必修科目（人間学演習を除く）や文学部共通科目である企画科目、外国語科目、僧侶科目、実技・実習科目、古文書学科目、普通科目、書道師範科目、学芸員資格科目から履修することができます。また余分に履修した密教学科必修科目を当てることもできます。

自由科目

自由科目は、教員免許状を取得するためのものです。卒業単位にはなりませんので、注意してください。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（密教学科）2019年度からの入学生用

	１年次		２年次		３年次		４年次
建学の精神科目	空海の思想入門						
導入科目	導入研修						
語学科目	英語Ⅰ		英語Ⅱ				
	漢文	※１科目選択					
	サンスクリット語						
基礎ゼミ	密教学基礎ゼミ	※２科目受講					
基礎科目			密教学概論	※２科目選択			
			仏教学概論				
			密教史概説				
			仏教史概説				
実技科目	常用経典						
	声明						
	法式						
	布教						
	書道（漢字Ⅰ）	※１科目選択					
	書道（かなⅠ）						
講読			祖典講読Ⅰ		祖典講読Ⅱ	※1科目選択	
					宗典講読		
実習	加行Ⅰ	※春期休業中	加行Ⅱ	※夏期休業中			
	ボランティア	※１科目選択	ボランティア	※１科目選択			
	巡礼・遍路		巡礼・遍路				
特殊講義					密教学特殊講義	※２科目選択	
					仏教学特殊講義		
					真言密教特殊講義		
講読演習					密教学講読演習	※２科目選択	
					仏教学講読演習		
					真言密教講読演習		
演習					密教学演習		密教学演習
卒業論文							密教学科卒業論文
選択科目							

《僧侶実力養成プログラム》（2019 年度からの入学生用）

密教学科主任

密教学科の講義の中には潅頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

密教学科では、２回生までに得度・受戒・加行・灌頂を終えるケースをモデルとして想定しています。

＜モデルケース＞

	《僧侶への道》		《授業科目》	
1回生	５～６月頃	得　　度	常用経典	実技科目（教学実習科目）
	６月頃	受　　戒	声　　明	
	⋮		法　　式	
	春期休業	前期加行	布　　教	
2回生	⋮		加行Ⅰ	※受講登録・レポート提出
	夏期休業	後期加行		
	⋮		加行Ⅱ	※受講登録・レポート提出
	11 月頃	灌　　頂		

《授業科目》※開講科目例。変更する場合もあります。

3回生 4回生	十八道次第	諸作法伝授
	秘密儀軌	引導作法伝授
	金剛界伝授次第	中院流三十三尊法 1
	胎蔵界伝授次第	中院流三十三尊法 2

２年次において専修学院（学外施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

専修学院以外の場所で加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用経典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用経典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので、必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

専修学院（学外施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、学外施設において開講する指定科目を履修することにより本学の開講する必修科目・選択科目と同等の科目と見なし算入することができます。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

入学から卒業までの履修について (密教学科)2018 年度までの入学生用

文学部密教学科では卒業までに 130 単位以上の科目を履修することとしています（履修規程第３条)。

授業科目は、大きく必修科目と選択科目に分かれ、その中でいくつかにグループ分けされていて、グループごとに何単位を履修するかが定められています。また、必修・選択科目以外に資格取得や就職準備のための自由科目が用意されていますが、自由科目は卒業に必要な単位に算入されません。また履修できるのは１年間に 50 単位まで（2019 年４月変更）と上限が定められています（自由科目を除く）ので、４年で卒業するには１回生からコンスタントに学習することが重要です。

必修科目には、①１回生履修科目、②２回生履修科目、③３回生履修科目、④４回生履修科目があり、①～④で卒業に必要な単位数が決まっています。選択科目には密教学科科目、総合科目などの種類がありますが、基本的には選択科目全体で卒業に必要な合計単位数が決まっています。それぞれの科目グループで単位をいくつ履修しなければならないかの詳細は、『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程 別表Ⅰに記載していますので参照してください。なお、原則として最終授業時に、期末試験・レポート試験の採点済み答案を返却します。

以下では必修・選択科目それぞれの中にある科目グループについて説明します。これを参考に、各自の興味や関心に沿った履修を計画してください。

必修科目

必修科目とは、卒業までに必ず履修しなければならない科目のことです。学年が上がってくると、「○科目のうちから○科目以上履修すればよい」という場合もありますが、１、２回生では「指定された科目を必ず履修しなければならない」という場合がほとんどです。これを取り損ねると次年度からの履修にも支障を来しますので、必ず指定された学年で履修しましょう。

１回生必修科目

以下の１回生必修科目はすべて合格しないと卒業できない科目です。それだけ今後の学習において重要な位置を占めると考え、必ず１回生のうちに履修をすませてください。

１）「建学の精神」科目

空海の思想入門

文字どおり本学の教育の基本となる科目で、学長が担当します。空海について名前くらいしか知らないという人を想定して、その思想を中心に基本的なことを学びます。

２）語学科目

英語Ⅰ

語学はコミュニケーションの手段としても、またそれを通じて世界の見方を広げる手段としても重要です。１回生では高校レベルの復習を中心に学びます。１回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

３）導入科目

日本語

大学での筆記試験やレポート、ひいては４回生での卒業論文の作成を念頭に、その準備として「読む・書く」を中心としたトレーニングをします。１回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

４）基礎講義

現代思想　人間と宗教　釈尊伝　弘法大師伝

本学で学び始めたみなさんに最低限知っておいてもらいたい、考えてもらいたい内容です。一方で、現代の抱える問題、人間が抱えてきた問題を学び、他方で仏教の開祖であるブッダや真言宗の開祖である弘法大師について、名前くらいしか知らないという人を想定して、その時代背景と生涯を学びます。

５）古典語

漢文Ⅰ・Ⅱ

古典を学ぶのに必須となる漢文の力を養います。１回生では中学・高校レベルの復習を中心に学びます。

２回生必修科目

以下の２回生必修科目もほとんどが合格しないと卒業できない科目です。３回生から始まる専門科目を学ぶための基礎としても重要です。必ず２回生のうちに履修をすませてください。

１）語学科目

英語Ⅱ

２年次には高校レベルをベースに長文を読み進める忍耐力を養います。２回生で不合格になった場合は次年度に再履修コースを受講します。

２）講義Ⅰ

密教学概論　密教史概説　仏教学概論　仏教史概説

１年次の**空海の思想入門、釈尊伝、弘法大師伝**を基礎として、密教と仏教それぞれについて、その学問分野の全体像と歴史を学びます。

３）２回生講読

祖典講読Ⅰ・Ⅱ

弘法大師の思想は本学での学習に欠かせない要素です。それを原典の漢文で読み進めていきます。弘法大師の思想に触れると共に、それが漢文でどのように表現されているかについても学びます。

３回生必修科目

いよいよ３回生から本格的な専門の内容を学びます。履修科目の選択にあたっては４回生になってどんな内容で卒業論文を書きたいか、その希望も踏まえてその領域の科目を重点的に学んでください。

１）３回生講読

祖典講読Ⅲ・Ⅳ

２回生に引きつづき弘法大師の著作を原典で読み、その思想に触れます。漢文の勉強もしっかり進めてください。

２）講読演習

密教学講読演習　仏教学講読演習　真言密教講読演習

講読演習は卒業論文作成の準備作業としての意義を持つ科目です。１冊または複数の文献を丁寧に読み、要点をまとめ、それを自分の考察や議論に生かしていくための方法を学びます。

３）講義Ⅱ

密教学特殊講義　仏教学特殊講義　真言密教特殊講義

２回生までに学んだ密教、仏教の基礎的知識を踏まえ、担当教員がそれぞれの得意分野で専門的な講義を展開します。自分の興味や卒業論文のテーマに合わせ、３回生と４回生で必要単位がそろうように履修してください。

４）演習Ⅰ

密教学演習

４回生、大学院生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。３回生のうちは特に、４回生の卒論報告を聞いて資料の集め方、議論の進め方、発表の仕方などを学びます。このほかに、卒論作成の力をつける課題に取り組むこともあります。

４回生必修科目

１）講読演習

密教学講読演習　仏教学講読演習　真言密教講読演習

３回生必修科目と同じです。

２）講義Ⅱ

密教学特殊講義　仏教学特殊講義　真言密教特殊講義

３回生必修科目と同じです。

３）演習Ⅱ

密教学演習

３回生、大学院生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。４回生の卒論報告は３回生のための手本ともなります。必要に応じて担当教員に相談しながら、早めに準備を始めて納得のいく卒業論文を仕上げてください。このほかに、卒論作成の力をつける課題に取り組むこともあります。

※演習の選択にあたって

演習は卒業論文を作成するための科目です。主にどの教員の指導を受けて卒論を書くか、３回生までにいろいろな教員の授業を受けながらよく考えておいて下さい。何か書いてみたいテーマがぼんやりとでも見えてきたら、オフィスアワーや授業の前後の時間を利用して、教員に直接相談してみるのもよいでしょう。場合によっては、卒論はこの先生の指導で書くが、あの先生の演習も受けて参考にしたいという希望が出てくるかもしれません。その時にはそれぞれの教員にその希望を伝え、十分に相談してから受講して下さい。

選択科目

選択科目とは、本学での学びを支えるために用意された科目です。企画科目や総合科目などいくつかのグループがありますが、グループ分けにこだわらず興味のあるものを選び、卒業までに全体で 52 単位を履修することが必要です。

選択科目と必修科目が重複して開講されている場合には必修科目を優先して履修してください。時間割をつくる際には、まず前の学年で履修できなかった必修科目があればそれを登録し、次に今の学年の必修科目を登録し、その後で空いている時間に選択科目を登録していくといいでしょう。１学年で履修できる科目の上限が 50 単位ですから、月曜から金曜まで、１講時から４講時（５講時）まで、すべてを授業で埋めることはできません。受けている授業の予習・復習をしたり、図書館で調べ物をしたり、空き時間をうまく活用して勉強を進めてください。密教合同研究室を覗いて先輩たちにアドバイスをもらったり、学習・就職支援室で就職活動の準備をするのもいいでしょう。

資格科目について

密教学科では、必要な科目を履修することによって、以下の免許・資格を取得できます。

・教育職員免許（宗教中学校１種、宗教高等学校１種、国語中学校１種、国語高等学校１種）
・高野山金剛峯寺・高野山大学書道師範
・社会福祉主事任用資格
・僧階

いずれも『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程および高野山大学履修要項を参考にしてください。特に教職免許は卒業単位以外に必要となる科目が多いので、１回生のうちから計画的に履修していくことが重要です。

カリキュラムマップ（密教学科）

建学の精神科目　空海の思想入門

		古典に学ぶ	伝統文化を学ぶ	人と関わる	社会に生かす	僧侶
1・2回生	必修	密教学概論Ⅰ・Ⅱ 仏教学概論Ⅰ・Ⅱ 密教史概説Ⅰ・Ⅱ 仏教史概説Ⅰ 祖典講読Ⅰ・Ⅱ	漢文Ⅰ・Ⅱ	人間と宗教 英語Ⅰ・Ⅱ	現代思想	
	選択	サンスクリット語Ⅰ・Ⅱ チベット語 宗教思想史Ⅰ・Ⅱ 宗教学Ⅰ・Ⅱ 宗教史Ⅰ・Ⅱ 総合科目（書誌学） 総合科目（古文書学） 日本文学概論Ⅰ・Ⅱ 漢文学概論Ⅰ・Ⅱ 企画科目（古文書解読）	日本文学Ⅰ・Ⅱ 国文法Ⅰ・Ⅱ 国語学Ⅰ・Ⅱ 漢字Ⅰ・Ⅱ かなⅠ・Ⅱ 企画科目（舞踊） 企画科目（華道） 企画科目（仏画） 企画科目（歴史学） 日本文学史概説Ⅰ・Ⅱ 日本文学史概説Ⅰ・Ⅱ 国語学講義Ⅰ・Ⅱ 篆刻Ⅰ・Ⅱ 書道史（中国） 伝統文化実習（茶道） 企画科目（巡礼・遍路）	心理学Ⅰ・Ⅱ 中国語ⅠⅠ・Ⅱ 体育実技 企画科目（地域連携Ⅰ・Ⅱ） 哲学方法論 企画科目（高野文化圏論） 企画科目（キャリア研修）	社会学Ⅱ 現代の人権 日本国憲法 情報処理 社会保障総論Ⅱ 社会福祉各論Ⅱ（地域福祉Ⅱ） キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ 企画科目（社会調査入門） 企画科目（質的調査論） 企画科目（地域産業論） 企画科目（カウンセリング論） 企画科目（発達心理学） 伝統文化実習（民俗調査）	梵字悉曇 常用経典 声明 法式 布教 企画科目（寺院経営） 企画科目（声明上級） 企画科目（詠歌） 企画科目（加行Ⅰ） 企画科目（加行Ⅱ） 宗教学方法論

3・4回生	必修	祖典講読ⅢＡ（『菩提心論』を読む）【高野山】 祖典講読ⅢＢ（『弁顕密二教論』巻上を読む 1）【高野山】 祖典講読ⅢＣ（『弁顕密二教論』巻上を読む 1）【難波】 祖典講読ⅢＤ（『般若心経秘鍵』を読む）【難波】	祖典講読ⅣＡ（『吽字義』を読む）【高野山】 祖典講読ⅣＢ（『弁顕密二教論』巻上を読む 2）【高野山】 祖典講読ⅣＣ（『弁顕密二教論』巻上を読む 2）【難波】 祖典講読ⅣＤ（『般若心経秘鍵』を読む）【難波】
	講読演習	密教学講読演習Ａ（密教図像に関する体系的学習）【高野山】 密教学講読演習Ｂ（数息観・月輪観・阿字観）【高野山】 密教学講読演習Ｃ（阿字観とその意義）【高野山】 密教学講読演習Ｇ（密教図像学を学ぶ）【難波】 仏教学講読演習Ａ（スッタニパータ）【高野山】 仏教学講読演習Ｂ（歴史学から仏教を研究する手法）【高野山】 仏教学講読演習Ｃ（心とはなにかⅡ）【難波】 仏教学講読演習Ｄ（『発心集』を読む―仏教説話入門―）【難波】 仏教学講読演習Ｅ（スッタニパータ）【難波】	真言密教講読演習Ｂ（次第のルーツを探る）【高野山】 真言密教講読演習Ｃ（次第のルーツを探る）【高野山】 真言密教講読演習Ｄ（金剛界の和会次第）【高野山】 真言密教講読演習Ｅ（胎蔵界の和会次第）【高野山】 真言密教講読演習Ｆ（『性霊集』を読む）【難波】 真言密教講読演習Ｇ（「感身学正記を読む」）【難波】 真言密教講読演習Ｈ（真言密教の儀礼の解説と体験（上級篇））【難波】 真言密教講読演習Ｉ（真言密教の儀礼の解説と体験（初級篇））【難波】 真言密教講読演習Ｊ（地蔵説話の世界）【難波】
	特殊講義	密教学特殊講義Ａ（インド・チベット密教の図像資料の研究）【高野山】 密教学特殊講義Ｄ（空海書学－１）【難波】 密教学特殊講義Ｅ（空海書学Ａ－２）【難波】 密教学特殊講義Ｆ（密教図像学を学ぶ）【難波】 密教学特殊講義Ｇ（空海書学Ｂ－１）【難波】 密教学特殊講義Ｈ（空海書学Ｂ－２）【難波】 密教学特殊講義Ｉ（『大日経』を読む）【高野山】 密教学特殊講義Ｊ（『金剛頂経』としての『理趣経』を読む）【高野山】 密教学特殊講義Ｋ（インド密教の歴史）【難波】 密教学特殊講義Ｌ（インド後期密教入門）【難波】 仏教学特殊講義Ａ（宗教体験と言葉）【高野山】 仏教学特殊講義Ｂ（仏教関係法令からみた平安時代初期の仏教）【高野山】 仏教学特殊講義Ｃ（心とはなにかⅠ）【難波】 仏教学特殊講義Ｄ（漢訳語と原典における語彙の異相）【難波】 仏教学特殊講義Ｆ（尊像の信仰の歴史と形像の変化について１）【高野山】	仏教学特殊講義Ｇ（尊像の信仰の歴史と形像の変化について２）【高野山】 仏教学特殊講義Ｈ（死後の世界を考える）【高野山】 仏教学特殊講義Ｉ（死後の世界を考える）【難波】 真言密教特殊講義Ａ（日用小作法の伝授 1）【高野山】 真言密教特殊講義Ｂ（日用小作法の伝授 2）【高野山】 真言密教特殊講義Ｃ（密教における死生観）【高野山】 真言密教特殊講義Ｄ（一尊法次第）【高野山】 真言密教特殊講義Ｅ（一尊法次第）【高野山】 真言密教特殊講義Ｆ（空海『性霊集』を読む）【難波】 真言密教特殊講義Ｇ（日本仏教・密教の思想や歴史、文化を学ぶ（初級篇））【難波】 真言密教特殊講義Ｈ（日本仏教・密教の思想や歴史、文化を学ぶ（上級編））【難波】 真言密教特殊講義Ｉ（密教瞑想）【難波】 真言密教特殊講義Ｊ（『宗義決択集』の研究）【高野山】 真言密教特殊講義Ｋ（四国遍路の歴史）【高野山】 真言密教特殊講義Ｌ（四国遍路の歴史）【難波】
	演習	密教学演習Ａ（卒業制作と論文指導）【高野山】 密教学演習Ｂ（釈雲照書簡の研究）【高野山】 密教学演習Ｃ（仏教基礎と論文の書き方）【高野山】 密教学演習Ｄ（歴史学から密教を研究する）【高野山】 密教学演習Ｅ（『大日経開題』の研究）【高野山】 密教学演習Ｆ（密教図像資料の研究）【高野山】	密教学演習Ｇ（『行法肝葉鈔』を読む）【高野山】 密教学演習Ｈ（再履修）（中国仏教に関連する文献を読む）【高野山】 密教学演習Ｉ（密教思想の研究方法）【難波】 密教学演習Ｊ（テーマ選びから論文作成まで）【難波】 密教学演習Ｋ（日本文学研究法）【高野山】
	選択	日本文化特殊講義Ａ（『和泉式部日記』を読む）【高野山】 日本文化特殊講義Ｂ（『感身学正記』を読む）【高野山】 日本文化特殊講義Ｃ（鎌倉後期の王権と真言密教）【高野山】 中国文化講読演習Ａ（漢字学の原点『説文解字』を読む）【高野山】 中国文化講読演習Ｂ（『文選』を読む）【難波】 中国文化特殊講義（王羲之から空海へ（書道実技））【高野山】	キャリアカウンセリングⅢ（就職活動に必要なスキルの修得①） 総合科目（インターンシップ）（就職活動に必要なスキルの修得②） 総合科目（古文書学）（日本古文書学の諸問題） 総合科目（書誌学）（古典籍と書誌学・文献学） 条幅制作Ａ（漢字）（条幅作品の創作①） 条幅制作Ｂ（かな）（条幅作品の創作②）

卒　業　論　文

教員・就職（自由科目）			
１回生	２回生	３回生	４回生
教職入門 教育原論 教育社会学 教育課程論	教育心理学 宗教科教育法Ⅰ・Ⅱ 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ 教育方法論 情報技術論 道徳教育の研究 特別教育活動 生徒指導・進路指導	宗教科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 教育相談 教育実習Ⅰ 教育実習の研究	教職実践演習 教育実習Ⅱ

入学から卒業までの履修について(人間学科)2019年度以降の入学生用

卒業認定・学位授与に関する方針（人間学科ディプロマ・ポリシー　ＤＰ）

高野山大学文学部人間学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

１．社会人として必要な一般教養を身に付けている。（**DP1：社会人基礎力**）

２．他者の理解ができるとともに、自分の考えてをまとめ、他者に伝達するコミュニケーション能力を持っている。（**DP２：コミュニケーション力**）

３．自らが置かれた現状を客観的に分析し、対応を立案し、実行できる。（**DP3：課題解決能力**）

４．大学での学びを社会のために、役立てようとする意識を持っている。（**DP4：社会貢献意識**）

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部人間学科では、卒業するためには124単位以上を取得する必要があります（履修規程第３条）。

人間学科の科目は、建学の精神科目、導入科目、語学科目、基礎ゼミ、基礎科目、キャリア科目、教養科目、実習、専門講義、実践演習、演習、卒業論文に区分されています。これらは必修ですが、複数の科目が開講されている場合には、その中から選択できる選択必修になっています。

これらの科目では、必要単位が決められています。各科目の必要単位を合計62単位以上取得しなければ、卒業できません。

また、必修科目以外に、選択科目の中から62単位を取得する必要があります。ただし、１年間に履修できるのは50単位までです。（自由科目を除く。ただし、前年度のGPAが30以上の人は58単位まで履修可能です。）

人間学科の学生は、必修科目62単位と選択科目62単位の合計124単位以上を取得しなければ、卒業できません。

各科目の必要単位

建学の精神科目	２単位	基礎科目	６単位以上	専門講義	４単位以上
導入科目	２単位	キャリア科目	10単位以上	実践演習	２単位以上
語学科目	４単位	教養科目	４単位以上	演習	８単位
基礎ゼミ	８単位	実習	４単位以上	卒業論文	８単位
				必修科目合計	62単位
				選択科目合計	62単位
				合　　計	124単位

各科目は、履修できる学年が決められています。たとえば履修年次が2回生以上と指定されている科目は、１回生は履修できません。

以下では、人間学科の学生が卒業のために必ず履修しなければならない科目を学年ごとに説明します。卒業後にどのようになりたいのか、どのコース（地域デザイン・心理ケア）に進みたいのか、どの資格を取得したいのか、そのためにはどの科目を学べばよいのかなどを考えてください。高野山キャンパスで学んでいる2回生以上の学生は、難波サテライト教室で開講されている心理ケア関係の科目を履修することができます。ただし、１回生から入学した学生については、難波サテライト教室や学外で行う科目を60単位までしか認定できません。編入生については関係ありません。

必修科目

卒業するためには、必修科目を62単位以上取得しなければなりません。科目によっては、複数の講義が設定されており、選択することができるものもあります。たとえば、専門講義は4単位以上となっていますが、地域デザインや心理ケアの専門的な講義が複数開講されており、その中から4単位以上を選択することができます。

科目区分／科目名	履修単位	学年配当	DP1	DP2	DP3	DP4	授業内容
【建学の精神科目】２単位必修							
空海の思想入門	2	1				◎	建学の精神である空海の思想を学ぶ。
【導入科目】２単位必修							
導入研修	2	1	○		○	◎	合宿形式で、大学での学びを体験するとともに、グループ活動から協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。
【語学科目】４単位必修							
英語Ⅰ	2	1	○	◎			リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するともに、e-learning教材でリスニングも行う。
英語Ⅱ	2	2	○	◎			リーディングを中心に、語彙・文法の実力を強化するともに、e-learning教材でリスニングも行う。
【基礎ゼミ】８単位必修							
基礎ゼミⅠ、Ⅱ	4	1	○	◎	○	○	文章読解、資料収集、プレゼンテーション、文章作成などの学び方の基礎を学ぶ。
基礎ゼミⅢ、Ⅳ	4	2	○	◎	○	○	専門教育に向けて、専門文献の講読や資料収集などの方法を学ぶ。
【基礎科目】６単位以上必修（社会学必修、心理学Ⅰ・Ⅱと社会福祉論・社会保障論は各１科目２単位以上） ※これらは、社会福祉主事任用資格科目となっている。							
心理学Ⅰ、Ⅱ	4	1	◎			○	心理ケアの基本を学ぶ。
社会学	2	1	◎			○	時事問題に触れることを通して、地域デザインの基本を学ぶ。
社会福祉論	2	1	◎			○	両コースの基礎となる社会福祉・社会保障を学ぶ。
社会保障論	2	1	◎			○	
【キャリア科目】10単位上必修（キャリアデザインⅠ～Ⅳ必修、その他１科目２単位以上選択）							
キャリアデザインⅠ、Ⅱ	4	1	◎	○	○	◎	進路を考える前提として、自己分析・自己理解を行う。
キャリアデザインⅢ、Ⅳ	4	2	◎	○	○	○	多様な進路を理解するために、業界・業種の研究を行う。
キャリアデザインⅤ、Ⅵ	4	3	◎	○	○	○	インターンシップや就職活動を目前として、その意義を考える。
キャリア研修	2	2	○	○	◎	○	合宿研修を通じて、これまで学んできたことを実践し、その後の学修に結び付ける。
インターンシップ	2	3	○	○	◎	○	職場での実体験を通して、進路に対する意識を強くするとともに、実社会を理解する。
【教養科目】4単位以上必修（2科目4単位以上選択）							
教養講義	2	1	◎			○	高校での教育を確認し、大学の学びにつなげるとともに、社会人基礎力を養成する。
【実習】４単位以上必修（人間学実習は必修、その他１科目２単位以上選択）							
人間学実習	2	2	○		◎		調査実習を通して、地域デザイン、心理ケアの研究方法を体験し、専門教育につなげる。
ボランティア	2	1	○			◎	ボランティアの体験を通じて社会貢献の精神、公共性、社会性を身につける。
巡礼・遍路	2	1	◎			○	巡礼・遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養し、企画力、実行力、報告能力を身に付ける。

【専門講義】４単位以上（２科目４単位以上選択）

人間学専門講義	2	2	◎			○	地域デザイン・心理ケアの専門教育にあわせた講義であり、各自の希望に応じた選択によって資格取得、志望する進路を実現する。

【実践演習】２単位以上（１科目以上選択）

人間学実践演習	2	3	○	◎	◎	○	卒業論文に向けて、より専門性の高い調査方法を学ぶ。

【演習】８単位上必修（３回生、４回生で各１科目必修）

人間学演習	8	3・4	○	◎	◎	○	卒業論文の作成のために、資料収取、読解、報告、執筆する力を身につける。特に討論などのグループによる学びを通じて、効果を高める。

【卒業論文】８単位以上必修

人間学科卒業論文	8	4	○	◎	◎	○	4年間の学びの集大成として、各自の研究成果を論文として作成する。

※DP1：社会人基礎力、DP２：コミュニケーション力、DP3：課題解決能力、DP4：社会貢献意識

選択科目

人間学科の必修科目を62単位以上履修すれば、卒業に必要な残りの62単位は、密教学科の必修科目（密教学演習を除く）や文学部共通科目である企画科目、外国語科目、僧侶科目、実技・実習科目、古文書学科目、普通科目、書道師範科目、学芸員資格科目から履修することができます。また余分に履修した人間学科必修科目を当てることもできます。

※開講科目の一覧については、この講義概要・授業計画の文学部目次で確認してください。

カリキュラムマップ（人間学科）2019年度入学生用

	1年次	2年次	3年次	4年次
建学の精神科目	空海の思想入門			
導入科目	導入研修			
語学科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ		
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ・Ⅱ	基礎ゼミⅢ・Ⅳ		
基礎科目	心理学Ⅰ・Ⅱ			
	社会福祉論			
	社会保障論			
キャリア科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ			
		キャリアデザインⅢ・Ⅳ		
			キャリアデザインⅤ・Ⅵ	
		キャリア研修		
			インターンシップ	
教養科目	教養講義（社会科学）			
	教養講義（人文科学）			
	教養講義（数的処理）			
	教養講義（自然科学）			
	教養講義（数的処理）			
	教養講義（人権論）			
実習科目		人間学実習（社会調査）		
		人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ）		
	ボランティア			
	巡礼・遍路			
専門講義科目		人間学専門講義		
		社会調査入門		
		社会調査方法論		
		質的調査論		
		情報リテラシー論		
		基礎統計学		
		地方行政論		
		地方自治法		
		地域産業論		
		高野文化圏論		
		地域連携		
		こころのケアとは		
		発達心理学		
		家族心理学		
		学校心理学		
		社会心理学		
		深層心理学		
		災害心理学		
		カウンセリング論		
		もの語り心理学		
		メンタルヘルス		
		心理統計法		
		心理測定法		
		臨床心理学面接演習Ⅰ～Ⅳ		
		理検査法演習Ⅰ・Ⅱ		
		心理学基礎実験演習Ⅰ・Ⅱ		
		スピリチャルケア実践論		
		スピリチュアルケア演習Ⅰ・Ⅱ		
		臨床死生学		
		死生観		
		自殺学		
		悲嘆学		
		宗教学入門		
		一神教の世界		
実践演習			人間学実践演習（学外研修Ⅰ）	人間学実践演習（学外研修Ⅱ）
			人間学実践演習（聖地巡礼Ⅰ・Ⅱ）	
			人間学実践演習（臨床実習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ）	人間学実践演習（臨床実習Ⅱ・Ⅴ）
人間学演習			人間学演習	人間学演習
人間学科卒業論文				人間学科卒業論文
選択科目				

※　科目によって半期・通年・集中がある。
※　開講科目については、隔年開講も含めて年度ごとに変更する。
※　開講場所は、高野山キャンパスのみ、難波サテライト教室のみ、両方、学外で開講する科目がある。

入学から卒業までの履修について（人間学科）2018 年度までの入学生用

文学部人間学科では卒業までに 124 単位以上の科目を履修することとしています（履修規程第３条）。

授業科目は、大きく**必修科目**と**選択科目**に分かれ、その中でいくつかにグループ分けされていて、グループごとに何単位を履修するかが定められています。また、必修・選択科目以外に資格取得や就職準備のための**自由科目**が用意されていますが、自由科目は卒業に必要な単位に算入されません。また履修できるのは**１年間に 50 単位まで（2019 年４月変更）**と上限が定められています（**自由科目を除く**）ので、４年で卒業するには 1 回生からコンスタントに学習することが重要です。

必修科目には、①１回生履修科目、②２回生履修科目、③３回生履修科目、④４回生履修科目があり、①～④で卒業に必要な単位数が決まっています。選択科目は、選択科目全体で卒業に必要な合計単位数が決まっています。それぞれの科目グループで単位をいくつ履修しなければならないかの詳細は、『**高野山大学要覧**』の**高野山大学履修規程 別表Ⅰ**に記載していますので参照してください。

以下では必修・選択科目それぞれの中にある科目グループについて説明します。これを参考に、各自の興味や関心に沿った履修を計画してください。

必修科目

卒業までに必ず履修しなければならない科目のことです。これを取り損ねると次年度からの履修にも支障を来しますので、必ず指定された学年で履修しましょう。

１回生必修科目

以下の 1 回生必修科目はすべて合格しないと卒業できない科目です。必ず １回生のうちに履修をすませてください。

１）「建学の精神」科目

空海の思想入門

空海について名前くらいしか知らないという人を想定して、その思想を中心に基本的なことを学びます。

２）語学科目

英語Ⅰ

１回生では高校レベルの復習を中心に学びます。

３）学科基礎科目

人間学基礎ゼミⅠ、Ⅱ

大学での筆記試験やレポート、ひいては４回生での卒業論文の作成を念頭に、その準備として「読む・書く」を中心としたトレーニングをします。

４）基礎講義

現代思想　人間と宗教

人間学科での学びの出発点となる、いろいろな問題を学びます。

５）キャリア教育

キャリアカウンセリングⅠ

働くことの意義を学ぶことで、社会に出る準備を始めます。

２回生必修科目

以下の２回生必修科目も３回生から始まる専門科目を学ぶための基礎としても重要です。必ず２回生のうちに履修をすませてください。

１）語学科目

英語Ⅱ

２年次には高校レベルをベースに長文を読み進める忍耐力を養います。

２）講義
　人間学概論Ⅰ・Ⅱ
　地域デザイン、日本文化、心理ケアの連続講義で、一つのテーマを５つの学問の視点から考察します。さまざまな角度から人間を見ることを学びます。
３）ゼミ
　人間学基礎ゼミⅢ、Ⅳ
　人間学概論で学んだ知識を深めるための、人間学概論で取り上げられたテーマに関する文献講読、発表、話し合いを行います。
４）伝統文化実習
　茶道、民俗調査など
実際に体を使った学びを通して、たんなる座学に留まらない立体的学びを目指します。
５）キャリア教育
　キャリアカウンセリングⅡ
職業世界について理解を深め、自己分析を通した自分の職業的傾向を把握します。

３回生必修科目
　いよいよ卒論に向けた準備が始まります。自分なりのテーマを見つけ、卒業論文作成に向けて、計画的に研究を進めましょう。
１）語学科目
　英語Ⅲ
　３年次には、ネット上の時事英語の読解など、より実践的な英語を学びます。
２）ゼミ
　人間学演習Ⅰ
　３，４年生共通の卒論作成ゼミです。先輩の卒論発表を聴き、議論に参加することで、卒論作成についての準備を開始します。
　人間学特殊ゼミⅠ、Ⅱ
　地域デザイン、日本文化、心理ケアのコースごとに開講されます。自分の卒論テーマに近い特殊ゼミを受講し、それぞれの専門分野の理解を深めます。
３）キャリア教育
　キャリアカウンセリングⅢ
　就職活動に必要な知識、技能を学びます。

４回生必修科目
１）ゼミ
　人間学演習Ⅱ
　３回生と共に学びます。目標は卒業論文の作成で、その途中経過を報告して質問やコメントを受けたり、担当教員からアドバイスをもらったりします。４回生の卒論報告は３回生のための手本ともなります。必要に応じて担当教員に相談しながら、早めに準備を始めて納得のいく卒業論文を仕上げてください。

選択科目
　選択科目とは、必修科目に加えて、より広い教養を身につけてもらうための科目です。なお、人間学科生が密教学科科目を履修した場合、選択科目にカウントされます。密教学科科目を含めた選択科目の中から、72 単位を履修してください。

＊時間割作成上の注意

選択科目と必修科目が重複して開講されている場合には必修科目を優先して履修してください。時間割をつくる際には、まず前の学年で履修できなかった必修科目があればそれを登録し、次に今の学年の必修科目を登録し、その後で空いている時間に選択科目を登録していくといいでしょう。

資格科目について

人間学科では、必要な科目を履修することによって、以下の免許・資格を取得できます。

・高野山金剛峯寺・高野山大学書道師範
・社会福祉主事任用資格
・僧階

いずれも『高野山大学要覧』の高野山大学履修規程および高野山大学履修要項を参考にしてください。

カリキュラムマップ（人間学科）

講義・実習をゼミ・卒業論文へつなぐ

・３年生から地域デザイン、日本文化、心理ケアの３コースに所属して、それぞれの専門分野について学びます。人間学概論、人間学特殊ゼミで、３コースの基礎を学びます。

・１回生～４回生までのゼミが学びの中心です。発表・議論を通してコミュニケーション能力を養うとともに、ゼミ生同士や教員とのふれあいによって人間力を向上させます。４年間の総括として卒業論文を作成します。コース毎に用意された選択科目を目安として履修し、専門性を深め、自分なりのテーマを見つけましょう。

・伝統文化実習では、茶道や民俗調査によって、体験的に伝統文化や地域の文化を学びます。

・キャリアカウンセリングは１回生から始まります。社会人基礎力の習得に向けた段階的指導を行います。

・１回生から、一人ひとりの学生にチューターを決め、個人学習支援を行います。個人学習支援では、修学に関することはもちろん、進路のことなども含めた支援を行います。

人間学科　コース制　カリキュラム（平成29年度入学生より）

		１年次	２年次		３年次		４年次
必修科目	建学の精神科目	空海の思想入門					
	語学科目	英語Ⅰ	英語Ⅱ		英語Ⅲ		
	導入科目	人間学基礎ゼミⅠ	人間学基礎ゼミⅢ				
		人間学基礎ゼミⅡ	人間学基礎ゼミⅣ				
	演習				人間学演習Ⅰ		人間学演習Ⅱ
	特殊ゼミ				人間学特殊ゼミⅠ		
					人間学特殊ゼミⅡ		
	卒業論文						人間学科卒業論文
	講義Ⅰ		人間学概論Ⅰ				
			人間学概論Ⅱ				
	伝統文化		伝統文化実習				
	基礎講義	現代思想					
		人間と宗教					
	キャリア教育	キャリアカウンセリングⅠ	キャリアカウンセリングⅡ		キャリアカウンセリングⅢ		
専門・選択科目	日本文化コース	日本文学Ⅰ	国語学講義Ⅰ		日本文化特殊講義Ａ		
		日本文学Ⅱ	国語学講義Ⅱ		日本文化特殊講義Ｂ		
		歴史学	日本文学史概説Ⅰ		日本文化特殊講義Ｃ		
		国文法Ⅰ	日本文学史概説Ⅱ		中国文化特殊講義		
		国文法Ⅱ	日本文学概論Ⅰ		中国文化講読演習Ａ		
		国語学Ⅰ	日本文学概論Ⅱ		中国文化講読演習Ｂ		
		国語学Ⅱ	漢文学概論Ⅰ				
			漢文学概論Ⅱ				
			書道史				
専門・選択科目	地域デザインコース	心理学Ⅰ	社会調査入門	※	インターンシップ		
		心理学Ⅱ	質的調査論	※	真言密教特殊講義Ｇ		
		社会学Ⅰ	キャリア研修	※	真言密教特殊講義Ｈ		
		社会学Ⅱ	社会調査方法論	※	社会保障総論Ⅰ		
			高野文化圏論	※	社会保障総論Ⅱ		
			心理統計学	※	社会福祉各論Ⅰ		
			地方行政論	※	社会福祉各論Ⅱ		
			地方自治法	※			
			地域連携	※			
専門・選択科目	心理ケアコース	心理学Ⅰ	心理統計学	※	心理検査法Ⅰ	※	臨床実習Ⅱ
		心理学Ⅱ	心理測定法	※	心理検査法Ⅱ	※	臨床実習Ⅴ
		教育心理学	心理学基礎実験演習Ⅰ	※	臨床心理学面接演習Ⅰ	※	
		教育相談	心理学基礎実験演習Ⅱ	※	臨床心理学面接演習Ⅱ	※	
			発達心理学	※	スピリチュアルケア概論	※	
			家族心理学	※	スピリチュアルケア演習Ⅰ	※	
			社会心理学	※	スピリチュアルケア演習Ⅱ	※	
			カウンセリング論	※	臨床実習Ⅰ	※	
			コミュニケーション訓練Ⅰ	※	臨床実習Ⅲ	※	
			コミュニケーション訓練Ⅱ	※	臨床実習Ⅳ	※	
			死生学	※	メンタルヘルス	※	

※印は企画科目です。

《僧侶実力養成プログラム》（2018 年度までの入学生用）

密教学科主任

僧階取得を目指す学生は、必ず得度、受戒、加行、灌頂を在学中におこなってください。詳しくは掲示に注意するとともに学生手帳「D 僧侶の道」をよく読んでおいてください。

二年次において専修学院（学外授業実施施設）にてこれらの行位を全て履修することもできます。

専修学院以外の場所で加行をする人は、「教学実習」科目、法式、声明、常用経典、布教を加行に入る前にできるだけ履修してください。特に、声明、常用経典は、加行をすすめるのには必要不可欠ですので必ず履修するとともに練習を積んでおいてください。

専修学院（学外授業実施施設）にて加行、灌頂と講義を受ける事を希望する学生は、学外施設において開講する指定科目を履修することにより本学の開講する必修科目・選択科目と同等の科目と見なし算入することができます。学外施設における指定された科目は毎年 12 月頃に掲示で告知しますので注意しておいてください。なお、『大学要覧』の「学外施設（高野山専修学院）における授業の単位取得」にも必ず目を通しておいてください。

密教学科の講義の中には灌頂を修した後に初めて受けることが出来る講義があります。早めに加行と灌頂を終わらせて積極的にこれらの講義を受講するようにしてください。

その他、僧侶として身につけておいた方が良い科目群を「僧侶実力養成プログラム」と題して選び出しています。これらの科目についても積極的に受講してください。

受講モデルケース

１回生		
常用経典	阿字観	声明
詠歌	法式	

２回生		
布教	声明上級	梵字悉曇

３回生　４回生		
法式上級	密教学特殊講義（事相）	一流伝授

僧侶実力養成プログラム

【教学実習科目】

法式　声明　常用経典　布教

【企画科目】

詠歌　阿息観　月輪観と阿字観　法式上級　声明上級　一流伝授

【選択科目】

梵字悉曇

【講義】

金剛界伝授次第　胎蔵界伝授次第　事作法伝授　葬送儀礼　中院流三十三尊法の研究

文 学 部 目 次

H31から文学部　密教学科

1　必修科目

[密教学科1年次履修科目]

1）「建学の精神」科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	乾　龍　仁	2	1年次	－		文-1
前期	火	2	52225	空海の思想入門B	櫻　木　潤	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52

2）導入科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	37001	導入研修	学科主任	2	1年次	－		文-1

3）語学科目（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	2	31201	英語Ⅰ	伊藤佳世子	2	1年次	教職基礎		文-1
通年	月	1	51101	英語Ⅰ（再履修）	伊藤佳世子	2	2年次	－		文-1
通年	木	1	34101	漢文	南　昌　宏	2	1年次	－		文-3
通年	木	1	34102	サンスクリット語A	徳重弘志	2	1年次	－		文-3
通年	金	3	35325	サンスクリット語B	前　谷　彰	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52

4）基礎ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	31401	密教学基礎ゼミA1	櫻　木　潤	2	1年次	－		文-3
後期	月	4	31451	密教学基礎ゼミA2	櫻　木　潤	2	1年次	－		文-3
前期	月	4	31402	密教学基礎ゼミB1	松長潤慶	2	1年次	－		文-4
後期	月	4	31452	密教学基礎ゼミB2	松長潤慶	2	1年次	－		文-4
前期	月	4	31403	密教学基礎ゼミC1	佐藤隆彦	2	1年次	－		文-4
後期	月	4	31453	密教学基礎ゼミC2	佐藤隆彦	2	1年次	－		文-4

5）実技科目（10）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮田永明	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	金	1	55101	声明	辻　秀　道	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	月	1	51102	法式	内海周浩	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	火	4	32401	布教A	近藤堯寛	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	木	3	34301	布教B（詠歌）	辻・本間・西山	2	1年次	僧階補任		文-7
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野　田　悟	2	1年次	書道師範/教免（国語）		文-7
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範/教免（国語）		文-7

6）実習（6）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	37002	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	－		文-7
通年	集中	集中	37005	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	－		文-8
通年	集中	集中	37004	巡礼・遍路	密教学科主任	2	1年次	－		文-8

[密教学科2年次履修科目]

1）語学科目（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	3	33301	英語Ⅱ	伊藤佳世子	2	2年次	－		文-11

2）基礎科目（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	31202	密教学概論	佐藤隆彦	2	2年次	教免（宗教）		文-12
前期	水	1	33101	仏教学概論	前谷彰	2	2年次	教免（宗教）		文-12
前期	月	3	31303	密教史概説	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		文-13
後期	水	1	33151	仏教史概説	前谷彰	2	2年次	教免（宗教）		文-13

3）2回生講読（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	2	32201	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	2年次	教免（宗教）		文-14
通年	火	2	32202	祖典講読ⅠB	土居夏樹	4	2年次	教免（宗教）		文-14

4）実習（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	37003	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	－		文-8

2　選択科目

1）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	戸來知子	2	1年次	社会福祉主事		文-8
後期	集中	集中	57075	心理学ⅠB	上野和久	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	戸來知子	2	1年次	社会福祉主事		文-9
後期	集中	集中	57076	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52
前期	月	3	31302	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		文-9
前期	木	3	34303	社会福祉論	福本幹雄	2	1年次	社会福祉主事		文-9
前期	木	4	34402	社会保障論	福本幹雄	2	1年次	社会福祉主事		文-9
前期	火	2	32203	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次	－		文-10
後期	火	2	32251	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	1年次	－		文-10
後期	火	4	32451	教養講義（自然科学）	木地茂典	2	1年次	－		文-10
前期	木	1	34103	教養講義（社会科学）	森本一彦	2	1年次	－		文-11
後期	水	4	33451	教養講義（人権論）	竹村和也	2	1年次	－		文-11
後期	木	1	34151	教養講義（人文科学）	森本一彦	2	1年次	－		文-11
前期	火	4	32404	教養講義（数的処理）	木地茂典	2	1年次	－		文-10
前期	火	4	32403	キャリアデザインⅢ	高田綾子	2	2年次	－		文-15
後期	火	4	32452	キャリアデザインⅣ	高田綾子	2	2年次	－		文-15
後期	集中	集中	37051	キャリア研修	就職担当	2	2年次	－		文-18
前期	火	2	52202	人間学基礎ゼミⅢA	上野和久	2	2年次	－		文-14
後期	火	2	52251	人間学基礎ゼミⅣA	上野和久	2	2年次	－		文-14
通年	木	3	34302	人間学実習（社会調査）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-15
後期	集中	集中	37077	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ）	橋本久仁彦	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-53
後期	集中	集中	37078	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅱ）	橋本久仁彦	2	2年次	－		文-53
前期	火	3	32301	人間学専門講義（カウンセリング論A）	上野和久	2	2年次	－		文-15
前期	水	1	33102	人間学専門講義（高野文化圏論）	森本一彦	2	2年次	－		文-16
後期	木	4	34451	人間学専門講義（死生観A）	山脇雅夫	2	2年次	－		文-16
後期	木	2	34251	人間学専門講義（自殺学A）	森崎雅好	2	2年次	－		文-18
前期	月	2	31203	人間学専門講義（社会調査入門）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-16
後期	月	2	31251	人間学専門講義（社会調査方法論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-16
後期	水	1	33152	人間学専門講義（情報リテラシー論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-17
前期	金	4	35401	人間学専門講義（地域産業論）	鈴木裕範	2	2年次	－		文-17
前期	木	4	34403	人間学専門講義（地域連携）	森本一彦	2	2年次	－		文-17
後期	火	3	32351	人間学専門講義（発達心理学A）	上野和久	2	2年次	－		文-17
前期	木	2	34201	人間学専門講義（悲嘆学A）	森崎雅好	2	2年次	－		文-18

後期	水	7	33776	人間学専門講義（カウンセリング論Ｂ）	木 下 忠 恭	2	２年次	－	文-53
前期	木	5	34525	人間学専門講義（こころのケアとは）	山 添 正	2	２年次	－	文-53
前期	土	第3週	36027	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）	大 河 内 大 博	2	２年次	－	文-54
後期	土	第3週	36077	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）	大 河 内 大 博	2	２年次	－	文-54
後期	集中	集中	37075	人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）	窪 寺 俊 之	2	２年次	－	文-54
後期	木	6	34675	人間学専門講義（スピリチュアルケア実践論）	大 河 内 大 博	2	２年次	－	文-61
前期	土	第1週	36025	人間学専門講義（メンタルヘルス）	根 岸 和 政	2	２年次	－	文-54
後期	集中	集中	37079	人間学専門講義（もの語り心理学）	やまだようこ	2	２年次	－	文-55
後期	月	7	31775	人間学専門講義（家族心理学）	小 林 奈 緒 美	2	２年次	－	文-55
前期	水	7	33725	人間学専門講義（学校心理学）	木 下 忠 恭	2	２年次	－	文-55
前期	月	6	31625	人間学専門講義（教育心理学）	上 野 和 久	2	３年次	－	文-60
後期	火	5	32575	人間学専門講義（一神教の世界）	山 脇 雅 夫	2	２年次	－	文-61
後期	水	7	33775	人間学専門講義（災害心理学）	森 崎 雅 好	2	２年次	－	文-55
後期	集中	集中	37076	人間学専門講義（死生観Ｂ）	山 本 佳 世 子	2	２年次	－	文-56
後期	火	6	32675	人間学専門講義（自殺学Ｅ）	森 崎 雅 好	2	２年次	－	文-61
後期	土	第1週	36075	人間学専門講義（社会心理学）	松 下 歩 睦	2	２年次	－	文-56
前期	火	5	32525	人間学専門講義（宗教学入門）	山 脇 雅 夫	2	２年次	－	文-60
前期	金	7	35725	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）	五 明 優 介	2	２年次	－	文-56
後期	金	7	35775	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）	五 明 優 介	2	２年次	－	文-56
前期	水	6	33625	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）	木 下 忠 恭	2	２年次	－	文-57
後期	水	6	33675	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）	木 下 忠 恭	2	２年次	－	文-57
後期	金	6	35675	人間学専門講義（心理測定法）	五 明 優 介	2	２年次	－	文-57
前期	金	6	35625	人間学専門講義（心理統計学）	五 明 優 介	2	２年次	－	文-57
後期	木	5	34575	人間学専門講義（深層心理学）	山 添 正	2	２年次	－	文-58
後期	月	6	31675	人間学専門講義（人格心理学）	上 野 和 久	2	３年次	－	文-61
前期	月	7	31725	人間学専門講義（発達心理学Ｂ）	小 林 奈 緒 美	2	２年次	－	文-58
前期	火	6	32625	人間学専門講義（悲嘆学Ｅ）	森 崎 雅 好	2	２年次	－	文-60
前期	木	6	34626	人間学専門講義（悲嘆学Ｆ）	森 崎 雅 好	2	２年次	－	文-60
前期	木	6	34625	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ＩＡ）	山 添 正	2	２年次	－	文-58
前期	土	第2週	36026	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ＩＢ）	山 添 正	2	２年次	－	文-58
後期	木	6	34676	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡＡ）	山 添 正	2	２年次	－	文-59
後期	土	第2週	36076	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡＢ）	山 添 正	2	２年次	－	文-59
前期	土	第4週	36028	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）	山 本 和 美	2	２年次	－	文-59
後期	土	第4週	36078	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）	森 崎 雅 好	2	２年次	－	文-59

大阪サテライト教室にて開講

2）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52501	総合科目（チベット仏教入門ＩＢ）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-29
後期	火	5	52551	総合科目（チベット仏教入門ⅡＢ）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-30
通年	金	5	55525	総合科目（チベット語入門）	テンジン・ウセル	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-70
前期	金	6	55625	総合科目（チベット仏教入門ＩＡ）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-70
後期	金	6	55675	総合科目（チベット仏教入門ⅡＡ）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-70

3）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52401	企画科目（仏画）	有 松 孝 雄	2	1年次	学芸員		文-30
前期	水	3	53301	企画科目（寺院経営講座）	加 賀 博	2	1年次	－		文-31
通年	木	4	54402	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	廣 田 恵 美 子	2	1年次	－	外国人留学生に限る	文-32
通年	木	5	54501	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	廣 田 恵 美 子	2	1年次	－		文-31
通年	月	3	51301	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	松 本 貴 子	2	1年次	－		文-32
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	松 本 貴 子	2	1年次	－		文-31
前期	土	第4週	56025	企画科目（密教入門講座1）	密教学科主任	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-71

4）外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	34401	サンスクリット語上級	前　谷　　彰	2	2年次	－		文-32
通年	木	4	54401	チベット語	テンジン・ウセル	2	2年次	－		文-32
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	－		文-33
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	－		文-33

5）僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	35301	声明上級	辻　　秀　道	2	2年次	－		文-33
通年	金	3	55301	梵字悉曇Ａ	齋　藤　天　譽	2	1年次	－		文-33
後期	集中	集中	57077	梵字悉曇Ｂ	五十嵐啓道	2	1年次	－	7/29～7/31	文-73

6）実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54302	体育実技	今　井　邦　夫	2	1年次	教職基礎		文-34
通年	火	3	52301	情報処理	木　地　茂　典	2	1年次	教職基礎		文-34
通年	火	4	32402	伝統文化（華道）	五　味　和　樹	2	1年次	－		文-34
通年	水	3	33302	伝統文化（茶道）	岡　本　文　音	2	1年次	－		文-34
通年	月	3	31301	宗教芸能（舞踊）	高　祖　・　辻	2	1年次	－		文-35

7）古文書学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	33201	歴史学	坂　口　太　郎	2	2年次	学芸員		文-35
後期	水	2	33251	古文書解読Ａ	坂　口　太　郎	2	2年次	学芸員		文-35
前期	火	4	32425	古文書解読Ｂ	坂　口　太　郎	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-70

8）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55203	宗教学Ⅰ	奥　山　直　司	2	2年次	教免（宗教）		文-35
後期	金	2	55252	宗教学Ⅱ	奥　山　直　司	2	2年次	教免（宗教）		文-36
前期	金	4	55401	宗教思想史ⅠＡ	奥　山　直　司	2	1年次	教免（宗教）		文-36
前期	月	3	51302	宗教思想史ⅡＡ	櫻　木　　潤	2	1年次	教免（宗教）		文-36
前期	金	1	55102	宗教史Ⅰ	土　居　夏　樹	2	2年次	学芸員		文-36
後期	金	1	55151	宗教史Ⅱ	土　居　夏　樹	2	2年次	学芸員		文-37
後期	月	3	31351	哲学	山　脇　雅　夫	2	1年次	教免（宗教）		文-2
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森　本　一　彦	2	2年次	教免（宗教）		文-37
前期	金	3	55302	国語学Ⅰ	上　田　恭　寿	2	2年次	教免（国語）		文-37
後期	金	3	55351	国語学Ⅱ	上　田　恭　寿	2	2年次	教免（国語）		文-38
前期	月	4	51403	国文法Ⅰ	浜　畑　圭　吾	2	2年次	教免（国語）		文-38
後期	月	4	51453	国文法Ⅱ	浜　畑　圭　吾	2	2年次	教免（国語）		文-38
前期	火	4	52403	日本文学史概説Ⅰ	下　西　　忠	2	2年次	教免（国語）		文-38
後期	火	4	52451	日本文学史概説Ⅱ	下　西　　忠	2	2年次	教免（国語）		文-39
前期	火	5	52502	日本文学Ⅰ	浜　畑　圭　吾	2	1年次	教免（国語）		文-39
後期	火	5	52552	日本文学Ⅱ	浜　畑　圭　吾	2	1年次	教免（国語）		文-39
前期	木	3	54303	漢文学概論Ⅰ	南　　昌　宏	2	2年次	教免（国語）		文-40
後期	木	3	54351	漢文学概論Ⅱ	南　　昌　宏	2	2年次	教免（国語）		文-40
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹　村　和　也	2	1年次	教職基礎		文-42

9）書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52402	漢字Ⅱ	木本滋久	2	2年次	書道師範/教免（国語）		文-42
通年	木	3	54301	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範/教免（国語）		文-43
通年	火	1	32101	篆刻	野田悟	2	2年次	書道師範		文-43
通年	金	1	35101	書道史	野田悟	4	2年次	書道師範		文-44

10）学芸員資格関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	31501	生涯学習概論	櫻木潤	2	1年次	学芸員		文-44
前期	木	5	34501	博物館概論	坂口太郎	2	1年次	学芸員		文-45
後期	集中	集中	37052	博物館経営論	内藤栄	2	2年次	学芸員		文-45
前期	金	3	35302	博物館資料論	坂口太郎	2	2年次	学芸員		文-45
後期	木	3	34351	博物館資料保存論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		文-45
後期	集中	集中	37053	博物館展示論	山口隆介	2	2年次	学芸員		文-46
前期	木	3	34304	博物館情報・メディア論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		文-46
後期	月	5	31551	博物館教育論	櫻木潤	2	2年次	学芸員		文-46

3　自由科目（卒業要件には参入されません）

1）教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	水	2	53251	教育原論	山脇雅夫	2	1年次	教免必修/社会福祉主事		文-46
前期	水	1	53101	教職入門	嶋田博	2	1年次	教免必修		文-47
通年	集中	集中	37006	特別支援教育	伊藤一雄	1	2年次	教免必修	4/21，5/21，10/21	文-47
後期	木	1	54151	教育心理学	戸來知子	2	2年次	教免必修		文-47
後期	月	3	51351	教育社会学	森本一彦	2	1年次	教免必修		文-47
後期	水	1	53151	教育課程論	嶋田博	2	1年次	教免必修		文-48
前期	木	1	34104	道徳教育指導論	戸來知子	2	2年次	教免必修		文-48
前期	木	2	34202	総合的な学習の時間・特別活動	戸來知子	2	2年次	教免必修		文-48
前期	集中	集中	57001	教育方法論	伊藤博美	2	2年次	教免必修	8/6～8/8	文-48
後期	木	2	54251	生徒指導・進路指導	戸來知子	2	2年次	教免必修		文-49
前期	月	1	51103	宗教科教育法Ⅰ	松長潤慶	2	2年次	教免（宗教）		文-49
後期	月	1	51151	宗教科教育法Ⅱ	松長潤慶	2	2年次	教免（宗教）		文-50
前期	火	3	52302	国語科教育法Ⅰ	下西忠	2	2年次	教免（国語）		文-50
後期	火	3	52351	国語科教育法Ⅱ	下西忠	2	2年次	教免（国語）		文-50

H31から文学部　人間学科

1　必修科目

[人間学科1年次履修科目]

1）「建学の精神」科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	乾　龍　仁	2	1年次	－		文-1
前期	火	2	52225	空海の思想入門B	櫻　木　潤	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52

2）導入科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	集中	集中	37001	導入研修	学科主任	2	1年次	－		文-1

3）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	2	31201	英語Ⅰ	伊藤佳世子	2	1年次	－		文-1
通年	月	1	51101	英語Ⅰ（再履修）	伊藤佳世子	2	2年次	－		文-1

4）基礎ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51401	人間学基礎ゼミⅠA	森本一彦	2	1年次	－		文-5
前期	月	4	51402	人間学基礎ゼミⅠB	山脇雅夫	2	1年次	－		文-5
後期	月	4	51451	人間学基礎ゼミⅡA	森本一彦	2	1年次	－		文-5
後期	月	4	51452	人間学基礎ゼミⅡB	山脇雅夫	2	1年次	－		文-5

5）基礎科目（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	戸來知子	2	1年次	社会福祉主事		文-8
後期	集中	集中	57075	心理学ⅠB	上野和久	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	戸來知子	2	1年次	社会福祉主事		文-9
後期	集中	集中	57076	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52
前期	月	3	31302	社会学	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		文-9
前期	木	3	34303	社会福祉論	福本幹雄	2	1年次	社会福祉主事		文-9
前期	木	4	34402	社会保障論	福本幹雄	2	1年次	社会福祉主事		文-9

6）キャリア科目（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	32203	キャリアデザインⅠ	高田綾子	2	1年次	－		文-10
後期	火	2	32251	キャリアデザインⅡ	高田綾子	2	1年次	－		文-10

7）教養科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	火	4	32451	教養講義（自然科学）	木地茂典	2	1年次	－		文-10
前期	木	1	34103	教養講義（社会科学）	森本一彦	2	1年次	－		文-11
後期	水	4	33451	教養講義（人権論）	竹村和也	2	1年次	－		文-11
後期	木	1	34151	教養講義（人文科学）	森本一彦	2	1年次	－		文-11
前期	火	4	32404	教養講義（数的処理）	木地茂典	2	1年次	－		文-10

8）実習（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	集中	集中	37005	ボランティア	人間学科主任	2	1年次	－		文-8
通年	集中	集中	37004	巡礼・遍路	密教学科主任	2	1年次	－		文-8

［人間学科2年次履修科目］

1）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	3	33301	英語Ⅱ	伊藤佳世子	2	2年次	－		文-11

2）基礎ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52202	人間学基礎ゼミⅢA	上野和久	2	2年次	－		文-14
後期	火	2	52251	人間学基礎ゼミⅣA	上野和久	2	2年次	－		文-14

3）キャリア科目（6）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	4	32403	キャリアデザインⅢ	高田綾子	2	2年次	－		文-15
後期	火	4	32452	キャリアデザインⅣ	高田綾子	2	2年次	－		文-15
後期	集中	集中	37051	キャリア研修	就職担当	2	2年次	－		文-18

4）実習（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	34302	人間学実習（社会調査）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-15
後期	集中	集中	37077	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ）	橋本久仁彦	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-53
後期	集中	集中	37078	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅱ）	橋本久仁彦	2	2年次	－		文-53

5）専門講義（8）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	3	32301	人間学専門講義（カウンセリング論A）	上野和久	2	2年次	－		文-15
前期	水	1	33102	人間学専門講義（高野文化圏論）	森本一彦	2	2年次	－		文-16
後期	木	4	34451	人間学専門講義（死生観A）	山脇雅夫	2	2年次	－		文-16
後期	木	2	34251	人間学専門講義（自殺学A）	森崎雅好	2	2年次	－		文-18
前期	月	2	31203	人間学専門講義（社会調査入門）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-16
後期	月	2	31251	人間学専門講義（社会調査方法論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-16
後期	水	1	33152	人間学専門講義（情報リテラシー論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-17
前期	金	4	35401	人間学専門講義（地域産業論）	鈴木裕範	2	2年次	－		文-17
前期	木	4	34403	人間学専門講義（地域連携）	森本一彦	2	2年次	－		文-17
後期	火	3	32351	人間学専門講義（発達心理学A）	上野和久	2	2年次	－		文-17
前期	木	2	34201	人間学専門講義（悲嘆学A）	森崎雅好	2	2年次	－		文-18
後期	水	7	33776	人間学専門講義（カウンセリング論B）	木下忠恭	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-53
前期	木	5	34525	人間学専門講義（こころのケアとは）	山添正	2	2年次	－		文-53
前期	土	第3週	36027	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）	大河内大博	2	2年次	－		文-54
後期	土	第3週	36077	人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）	大河内大博	2	2年次	－		文-54
後期	集中	集中	37075	人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）	窪寺俊之	2	2年次	－		文-54
後期	木	6	34675	人間学専門講義（スピリチュアルケア実践論）	大河内大博	2	2年次	－		文-61
前期	土	第1週	36025	人間学専門講義（メンタルヘルス）	根岸和政	2	2年次	－		文-54
後期	集中	集中	37079	人間学専門講義（もの語り心理学）	やまだようこ	2	2年次	－		文-55
後期	月	7	31775	人間学専門講義（家族心理学）	小林奈緒美	2	2年次	－		文-55
前期	水	7	33725	人間学専門講義（学校心理学）	木下忠恭	2	2年次	－		文-55
前期	月	6	31625	人間学専門講義（教育心理学）	上野和久	2	3年次	－		文-60
後期	火	5	32575	人間学専門講義（一神教の世界）	山脇雅夫	2	2年次	－		文-61
後期	水	7	33775	人間学専門講義（災害心理学）	森崎雅好	2	2年次	－		文-55
後期	集中	集中	37076	人間学専門講義（死生観B）	山本佳世子	2	2年次	－		文-56
後期	火	6	32675	人間学専門講義（自殺学E）	森崎雅好	2	2年次	－		文-61
後期	土	第1週	36075	人間学専門講義（社会心理学）	松下歩睦	2	2年次	－		文-56
前期	火	5	32525	人間学専門講義（宗教学入門）	山脇雅夫	2	2年次	－		文-60

前期	金	7	35725	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）	五 明 優 介	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-56
後期	金	7	35775	人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）	五 明 優 介	2	2年次	－		文-56
前期	水	6	33625	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）	木 下 忠 恭	2	2年次	－		文-57
後期	水	6	33675	人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）	木 下 忠 恭	2	2年次	－		文-57
後期	金	6	35675	人間学専門講義（心理測定法）	五 明 優 介	2	2年次	－		文-57
前期	金	6	35625	人間学専門講義（心理統計学）	五 明 優 介	2	2年次	－		文-57
後期	木	5	34575	人間学専門講義（深層心理学）	山 添 正	2	2年次	－		文-58
後期	月	6	31675	人間学専門講義（人格心理学）	上 野 和 久	2	3年次	－		文-61
前期	月	7	31725	人間学専門講義（発達心理学Ｂ）	小林奈緒美	2	2年次	－		文-58
前期	火	6	32625	人間学専門講義（悲嘆学Ｅ）	森 崎 雅 好	2	2年次	－		文-60
前期	木	6	34626	人間学専門講義（悲嘆学Ｆ）	森 崎 雅 好	2	2年次	－		文-60
前期	木	6	34625	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅠA）	山 添 正	2	2年次	－		文-58
前期	土	第2週	36026	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅠB）	山 添 正	2	2年次	－		文-58
後期	木	6	34676	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡA）	山 添 正	2	2年次	－		文-59
後期	土	第2週	36076	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡB）	山 添 正	2	2年次	－		文-59
前期	土	第4週	36028	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）	山 本 和 美	2	2年次	－		文-59
後期	土	第4週	36078	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）	森 崎 雅 好	2	2年次	－		文-59

2　選択科目

1）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	1	34102	サンスクリット語A	徳 重 弘 志	2	1年次	－		文-3
通年	金	3	35325	サンスクリット語B	前 谷 彰	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52
通年	木	1	34101	漢文	南 昌 宏	2	1年次	－		文-3
通年	水	4	53401	常用経典	宮 田 永 明	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	金	1	55101	声明	辻 秀 道	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	月	1	51102	法式	内 海 周 浩	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	火	4	32401	布教A	近 藤 堯 寛	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	木	3	34301	布教Ｂ（詠歌）	辻・本間・西山	2	1年次	僧階補任		文-7
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野 田 悟	2	1年次	書道師範		文-7
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範		文-7
通年	集中	集中	37002	加行Ⅰ	密教学科主任	1	1年次	－		文-7
通年	集中	集中	37003	加行Ⅱ	密教学科主任	1	2年次	－		文-8
前期	月	2	31202	密教学概論	佐 藤 隆 彦	2	2年次	教免（宗教）		文-12
前期	水	1	33101	仏教学概論	前 谷 彰	2	2年次	教免（宗教）		文-12
前期	月	3	31303	密教史概説	奥 山 直 司	2	2年次	教免（宗教）		文-13
後期	水	1	33151	仏教史概説	前 谷 彰	2	2年次	教免（宗教）		文-13
前期	火	2	32201	祖典講読ⅠA	松 長 潤 慶	4	2年次	－		文-13
前期	火	2	32202	祖典講読ⅠB	土 居 夏 樹	4	2年次	－		文-13

2）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	5	52501	総合科目（チベット仏教入門ⅠB）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-29
後期	火	5	52551	総合科目（チベット仏教入門ⅡB）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-30
通年	金	5	55525	総合科目（チベット語入門）	テンジン・ウセル	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-70
前期	金	6	55625	総合科目（チベット仏教入門ⅠA）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-70
後期	金	6	55675	総合科目（チベット仏教入門ⅡA）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-70

3）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52401	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	1年次	学芸員		文-30
前期	水	3	53301	企画科目（寺院経営講座）	加賀博	2	1年次	－		文-31
通年	木	4	54402	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	廣田恵美子	2	1年次	－	外国人留学生に限る	文-32
通年	木	5	54501	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	廣田恵美子	2	1年次	－		文-31
通年	月	3	51301	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	松本貴子	2	1年次	－		文-32
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	松本貴子	2	1年次	－		文-31
前期	土	第4週	56025	企画科目（密教入門講座1）	密教学科主任	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-71

4）外国語科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	4	34401	サンスクリット語上級	前谷彰	2	2年次	－		文-32
通年	木	4	54401	チベット語	テンジン・ウセル	2	2年次	－		文-32
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	－		文-33
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	－		文-33

5）僧侶科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	35301	声明上級	辻秀道	2	2年次	－		文-33
通年	金	3	55301	梵字悉曇Ａ	齋藤天譽	2	1年次	－		文-33
後期	集中	集中	57077	梵字悉曇Ｂ	五十嵐啓道	2	1年次	－	7/29～7/31	文-73

6）実技・実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54302	体育実技	今井邦夫	2	1年次	－		文-34
通年	火	3	52301	情報処理	木地茂典	2	1年次	－		文-34
通年	火	4	32402	伝統文化（華道）	五味和樹	2	1年次	－		文-34
通年	水	3	33302	伝統文化（茶道）	岡本文音	2	1年次	－		文-34
通年	月	3	31301	宗教芸能（舞踊）	高祖・辻	2	1年次	－		文-35

7）古文書学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	2	33201	歴史学	坂口太郎	2	2年次	学芸員		文-35
後期	水	2	33251	古文書解読Ａ	坂口太郎	2	2年次	学芸員		文-35
前期	火	4	32425	古文書解読Ｂ	坂口太郎	2	2年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-70

8）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55203	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	2年次	－		文-35
後期	金	2	55252	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	2年次	－		文-36
前期	金	4	55401	宗教思想史ⅠＡ	奥山直司	2	1年次	－		文-36
前期	月	3	51302	宗教思想史ⅡＡ	櫻木潤	2	1年次	－		文-36
前期	金	1	55102	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	学芸員		文-36
後期	金	1	55151	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	学芸員		文-37
後期	月	3	31351	哲学	山脇雅夫	2	1年次	－		文-2
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	－		文-37
前期	金	3	55302	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	－		文-37
後期	金	3	55351	国語学Ⅱ	上田恭寿	2	2年次	－		文-38
前期	月	4	51403	国文法Ⅰ	浜畑圭吾	2	2年次	－		文-38
後期	月	4	51453	国文法Ⅱ	浜畑圭吾	2	2年次	－		文-38

前期	火	4	52403	日本文学史概説Ⅰ	下　西　　忠	2	2年次	－		文-38
後期	火	4	52451	日本文学史概説Ⅱ	下　西　　忠	2	2年次	－		文-39
前期	火	5	52502	日本文学Ⅰ	浜 畑 圭 吾	2	1年次	－		文-39
後期	火	5	52552	日本文学Ⅱ	浜 畑 圭 吾	2	1年次	－		文-39
前期	木	3	54303	漢文学概論Ⅰ	南　　昌　宏	2	2年次	－		文-40
後期	木	3	54351	漢文学概論Ⅱ	南　　昌　宏	2	2年次	－		文-40
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹 村 和 也	2	1年次	－		文-42

9）書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	火	4	52402	漢字Ⅱ	木 本 滋 久	2	2年次	書道師範		文-42
通年	木	3	54301	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		文-43
通年	火	1	32101	篆刻	野　田　　悟	2	2年次	書道師範		文-43
通年	金	1	35101	書道史	野　田　　悟	4	2年次	書道師範		文-44

10）学芸員資格関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	5	31501	生涯学習概論	櫻　木　　潤	2	1年次	学芸員		文-44
前期	木	5	34501	博物館概論	坂 口 太 郎	2	1年次	学芸員		文-45
後期	集中	集中	37052	博物館経営論	内　藤　　栄	2	2年次	学芸員		文-45
前期	金	3	35302	博物館資料論	坂 口 太 郎	2	2年次	学芸員		文-45
後期	木	3	34351	博物館資料保存論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		文-45
後期	集中	集中	37053	博物館展示論	山 口 隆 介	2	2年次	学芸員		文-46
前期	木	3	34304	博物館情報・メディア論	那須真裕美	2	2年次	学芸員		文-46
後期	月	5	31551	博物館教育論	櫻　木　　潤	2	2年次	学芸員		文-46

H30まで文学部　密教学科

1　必修科目

[密教学科1年次履修科目]

1）「建学の精神」科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	乾　龍　仁	2	1年次	－		文-1
前期	火	2	52225	空海の思想入門B	櫻　木　潤	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52

2）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	1	51101	英語Ⅰ（再履修）	伊藤佳世子	2	2年次	教職基礎		文-1

3）基礎講義（2+2+2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	3	41351	現代思想	山脇雅夫	2	1年次	教免（宗教）		文-2
前期	木	1	44102	人間と宗教	山脇雅夫	2	1年次	－		文-2

4）古典語（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	44103	漢文Ⅰ	南　昌　宏	2	1年次	－		文-2
後期	木	1	44151	漢文Ⅱ	南　昌　宏	2	1年次	－		文-2

[密教学科2年次履修科目]

1）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	43401	英語Ⅱ（再履修）	伊藤佳世子	2	3年次	教職基礎		文-12

2）講義Ⅰ（2+2+2+2+2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	41201	密教学概論Ⅰ	佐藤隆彦	2	2年次	教免（宗教）		文-12
後期	月	2	41251	密教学概論Ⅱ	佐藤隆彦	2	2年次	教免（宗教）		文-12
前期	水	1	43101	仏教学概論Ⅰ	前谷　彰	2	2年次	教免（宗教）		文-12
前期	月	3	41303	密教史概説Ⅰ	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		文-13
後期	月	3	41352	密教史概説Ⅱ	櫻　木　潤	2	2年次	教免（宗教）		文-13
後期	水	1	43151	仏教史概説Ⅰ	前谷　彰	2	2年次	教免（宗教）		文-13

3）2回生講読（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	42201	祖典講読ⅠA	松長潤慶	2	2年次	教免（宗教）		文-13
前期	火	2	42202	祖典講読ⅠB	土居夏樹	2	2年次	教免（宗教）		文-13
後期	火	2	42251	祖典講読ⅡA	松長潤慶	2	2年次	教免（宗教）		文-14
後期	火	2	42252	祖典講読ⅡB	土居夏樹	2	2年次	教免（宗教）		文-14

［密教学科3年次履修科目］

1）3回生講読（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	3	42302	祖典講読ⅢA	佐藤隆彦	2	3年次	－		文-18
前期	火	3	42303	祖典講読ⅢB	土居夏樹	2	3年次	－		文-19
前期	月	3	41325	祖典講読ⅢC	土居夏樹	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-62
前期	金	3	45326	祖典講読ⅢD	松長潤慶	2	3年次	－		文-62
後期	火	3	42351	祖典講読ⅣA	佐藤隆彦	2	3年次	－		文-19
後期	火	3	42352	祖典講読ⅣB	土居夏樹	2	3年次	－		文-19
後期	月	3	41375	祖典講読ⅣC	土居夏樹	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-62
後期	金	3	45375	祖典講読ⅣD	松長潤慶	2	3年次	－		文-62

2）講読演習（2+2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	41252	密教学講読演習A	松長潤慶	2	3年次	教免（宗教）		文-19
前期	木	2	44202	密教学講読演習B	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）		文-20
後期	木	2	44251	密教学講読演習C	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）		文-20
後期	金	4	45475	密教学講読演習G	松長潤慶	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-63
後期	火	2	42254	仏教学講読演習A	前谷彰	2	3年次	教免（宗教）		文-20
前期	木	1	44104	仏教学講読演習B	櫻木潤	2	3年次	教免（宗教）		文-20
後期	月	4	41475	仏教学講読演習C	岡田英作	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-63
前期	金	2	45225	仏教学講読演習D	浜畑圭吾	2	3年次	－		文-63
前期	金	4	45426	仏教学講読演習E	前谷彰	2	3年次	－		文-63
前期	木	1	44105	真言密教講読演習B	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-21
後期	木	1	44153	真言密教講読演習C	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-21
前期	金	1	45102	真言密教講読演習D	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-21
後期	金	1	45151	真言密教講読演習E	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-21
後期	火	2	42275	真言密教講読演習F	櫻木潤	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-64
後期	火	4	42475	真言密教講読演習G	坂口太郎	2	3年次	－		文-64
後期	水	5	43575	真言密教講読演習H	北川真寛	2	3年次	－		文-64
前期	水	6	43625	真言密教講読演習Ⅰ	北川真寛	2	3年次	－		文-64
後期	金	2	45275	真言密教講読演習J	浜畑圭吾	2	3年次	－		文-65

3）講義Ⅱ（2+2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	3	41353	密教学特殊講義A	奥山直司	2	3年次	教免（宗教）		文-22
前期	木	3	44303	密教学特殊講義Ⅰ	川﨑一洋	2	3年次	教免（宗教）		文-22
後期	木	3	44351	密教学特殊講義J	川﨑一洋	2	3年次	教免（宗教）		文-22
前期	木	3	44325	密教学特殊講義D	野田悟	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-65
後期	木	3	44375	密教学特殊講義E	野田悟	2	3年次	－		文-66
前期	金	4	45425	密教学特殊講義F	松長潤慶	2	3年次	－		文-66
前期	木	4	44425	密教学特殊講義G	野田悟	2	3年次	－		文-66
後期	木	4	44475	密教学特殊講義H	野田悟	2	3年次	－		文-66
前期	水	4	43425	密教学特殊講義K	川﨑一洋	2	3年次	－		文-65
後期	水	4	43475	密教学特殊講義L	川﨑一洋	2	3年次	－		文-65
前期	火	2	42204	仏教学特殊講義A	前谷彰	2	3年次	教免（宗教）		文-22
後期	木	1	44152	仏教学特殊講義B	櫻木潤	2	3年次	教免（宗教）		文-23
前期	火	4	42405	仏教学特殊講義F	和田圭子	2	3年次	教免（宗教）		文-23
後期	火	4	42452	仏教学特殊講義G	和田圭子	2	3年次	教免（宗教）		文-23
前期	木	2	44203	仏教学特殊講義H	川﨑一洋	2	3年次	教免（宗教）		文-23

前期	月	4	41425	仏教学特殊講義C	岡 田 英 作	2	3年次	−	大阪サテライト教室にて開講	文-67
後期	金	4	45476	仏教学特殊講義D	前 谷 彰	2	3年次	−		文-67
前期	水	3	43325	仏教学特殊講義Ⅰ	川 﨑 一 洋	2	3年次	−		文-67
前期	月	1	41101	真言密教特殊講義A	中 西 雄 泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-24
後期	月	1	41151	真言密教特殊講義B	中 西 雄 泰	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-24
前期	金	2	45201	真言密教特殊講義C	土 居 夏 樹	2	3年次	教免（宗教）		文-24
前期	金	2	45202	真言密教特殊講義D	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-24
後期	金	2	45251	真言密教特殊講義E	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-25
後期	金	2	45252	真言密教特殊講義Ｊ	土 居 夏 樹	2	3年次	教免（宗教）		文-25
後期	木	2	44252	真言密教特殊講義K	川 﨑 一 洋	2	3年次	教免（宗教）		文-25
後期	火	3	42375	真言密教特殊講義F	南 昌 宏	2	3年次	−	大阪サテライト教室にて開講	文-67
前期	水	5	43525	真言密教特殊講義G	北 川 真 寛	2	3年次	−		文-68
前期	水	7	43725	真言密教特殊講義H	北 川 真 寛	2	3年次	−		文-68
後期	集中	集中	47075	真言密教特殊講義Ⅰ（密教瞑想）	佐 藤 隆 彦	2	3年次	−		文-68
後期	水	3	43375	真言密教特殊講義L	川 﨑 一 洋	2	3年次	−		文-68

4）演習Ⅰ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	43201	密教学演習A	野 田 悟	4	3年次	−		文-25
通年	水	2	43203	密教学演習C	前 谷 彰	4	3年次	−		文-26
通年	水	2	43204	密教学演習D	櫻 木 潤	4	3年次	−		文-26
通年	水	2	43205	密教学演習E	土 居 夏 樹	4	3年次	−		文-26
通年	水	2	43206	密教学演習F	松 長 潤 慶	4	3年次	−		文-27
通年	水	2	43207	密教学演習G	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	3年次	−	已灌頂者	文-27
通年	木	2	44201	密教学演習H（再履修）	南 昌 宏	4	3年次	−		文-27
通年	水	2	43208	密教学演習K	浜 畑 圭 吾	4	3年次	−		文-27
通年	月	2	41225	密教学演習Ⅰ	土 居 夏 樹	4	3年次	−	大阪サテライト教室にて開講	文-69

［密教学科4年次履修科目］

1）講読演習（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	2	41252	密教学講読演習A	松 長 潤 慶	2	4年次	教免（宗教）		文-19
前期	木	2	44202	密教学講読演習B	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	4年次	教免（宗教）		文-20
後期	木	2	44251	密教学講読演習C	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	4年次	教免（宗教）		文-20
後期	金	4	45475	密教学講読演習G	松 長 潤 慶	2	4年次	−	大阪サテライト教室にて開講	文-63
後期	火	2	42254	仏教学講読演習A	前 谷 彰	2	4年次	教免（宗教）		文-20
前期	木	1	44104	仏教学講読演習B	櫻 木 潤	2	4年次	教免（宗教）		文-20
後期	月	4	41475	仏教学講読演習C	岡 田 英 作	2	4年次	−	大阪サテライト教室にて開講	文-63
前期	金	2	45225	仏教学講読演習D	浜 畑 圭 吾	2	4年次	−		文-63
前期	金	4	45426	仏教学講読演習E	前 谷 彰	2	4年次	−		文-63
前期	木	1	44105	真言密教講読演習B	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-21
後期	木	1	44153	真言密教講読演習C	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-21
前期	金	1	45102	真言密教講読演習D	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-21
後期	金	1	45151	真言密教講読演習E	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-21
後期	火	2	42275	真言密教講読演習F	櫻 木 潤	2	4年次	−	大阪サテライト教室にて開講	文-64
後期	火	4	42475	真言密教講読演習G	坂 口 太 郎	2	4年次	−		文-64
後期	水	5	43575	真言密教講読演習H	北 川 真 寛	2	4年次	−		文-64
前期	水	6	43625	真言密教講読演習Ⅰ	北 川 真 寛	2	4年次	−		文-64
後期	金	2	45275	真言密教講読演習Ｊ	浜 畑 圭 吾	2	4年次	−		文-65

2）講義Ⅱ（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	3	41353	密教学特殊講義A	奥山直司	2	4年次	教免（宗教）		文-22
前期	木	3	44303	密教学特殊講義Ⅰ	川﨑一洋	2	4年次	教免（宗教）		文-22
後期	木	3	44351	密教学特殊講義J	川﨑一洋	2	4年次	教免（宗教）		文-22
前期	木	3	44325	密教学特殊講義D	野田悟	2	4年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-65
後期	木	3	44375	密教学特殊講義E	野田悟	2	4年次	－		文-66
前期	金	4	45425	密教学特殊講義F	松長潤慶	2	4年次	－		文-66
前期	木	4	44425	密教学特殊講義G	野田悟	2	4年次	－		文-66
後期	木	4	44475	密教学特殊講義H	野田悟	2	4年次	－		文-66
前期	水	4	43425	密教学特殊講義K	川﨑一洋	2	4年次	－		文-65
後期	水	4	43475	密教学特殊講義L	川﨑一洋	2	4年次	－		文-65
前期	火	2	42204	仏教学特殊講義A	前谷彰	2	4年次	教免（宗教）		文-22
後期	木	1	44152	仏教学特殊講義B	櫻木潤	2	4年次	教免（宗教）		文-23
前期	火	4	42405	仏教学特殊講義F	和田圭子	2	4年次	教免（宗教）		文-23
後期	火	4	42452	仏教学特殊講義G	和田圭子	2	4年次	教免（宗教）		文-23
前期	木	2	44203	仏教学特殊講義H	川﨑一洋	2	4年次	教免（宗教）		文-23
前期	月	4	41425	仏教学特殊講義C	岡田英作	2	4年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-67
後期	金	4	45476	仏教学特殊講義D	前谷彰	2	4年次	－		文-67
前期	水	3	43325	仏教学特殊講義Ⅰ	川﨑一洋	2	4年次	－		文-67
前期	月	1	41101	真言密教特殊講義A	中西雄泰	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-24
後期	月	1	41151	真言密教特殊講義B	中西雄泰	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-24
前期	金	2	45201	真言密教特殊講義C	土居夏樹	2	4年次	教免（宗教）		文-24
前期	金	2	45202	真言密教特殊講義D	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-24
後期	金	2	45251	真言密教特殊講義E	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	4年次	教免（宗教）	已灌頂者	文-25
後期	金	2	45252	真言密教特殊講義J	土居夏樹	2	4年次	教免（宗教）		文-25
後期	木	2	44252	真言密教特殊講義K	川﨑一洋	2	4年次	教免（宗教）		文-25
後期	火	3	42375	真言密教特殊講義F	南昌宏	2	4年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-67
前期	水	5	43525	真言密教特殊講義G	北川真寛	2	4年次	－		文-68
前期	水	7	43725	真言密教特殊講義H	北川真寛	2	4年次	－		文-68
後期	集中	集中	47075	真言密教特殊講義Ⅰ（密教瞑想）	佐藤隆彦	2	4年次	－		文-68
後期	水	3	43375	真言密教特殊講義L	川﨑一洋	2	4年次	－		文-68

3）演習Ⅱ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	43201	密教学演習A	野田悟	4	4年次	－		文-25
通年	水	2	43202	密教学演習B	奥山直司	4	4年次	－		文-26
通年	水	2	43203	密教学演習C	前谷彰	4	4年次	－		文-26
通年	水	2	43204	密教学演習D	櫻木潤	4	4年次	－		文-26
通年	水	2	43205	密教学演習E	土居夏樹	4	4年次	－		文-26
通年	水	2	43206	密教学演習F	松長潤慶	4	4年次	－		文-27
通年	水	2	43207	密教学演習G	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	4年次	－	已灌頂者	文-27
通年	木	2	44201	密教学演習H（再履修）	南昌宏	4	4年次	－		文-27
通年	水	2	43208	密教学演習K	浜畑圭吾	4	4年次	－		文-27
通年	月	2	41225	密教学演習Ⅰ	土居夏樹	4	4年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-69
通年	木	2	44225	密教学演習J	奥山直司	4	4年次	－		文-69

4）卒業論文（8）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	論文	論文	49001	密教学科卒業論文	密教学科主任	8	4年次	－		
前期	論文	論文	49003	密教学科卒業論文（前期）	密教学科主任	8	4年次	－	7月提出許可者	

2　選択科目

1）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	3	45351	総合科目（古文書学）	坂口太郎	2	3年次	－		文-30
前期	水	1	43102	総合科目（書誌学）	坂口太郎	2	3年次	－		文-30
通年	集中	集中	47005	総合科目（インターンシップ）	就職担当	2	3年次	－		文-29
前期	火	5	52501	総合科目（チベット仏教入門ⅠＢ）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-29
後期	火	5	52551	総合科目（チベット仏教入門ⅡＢ）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-30
通年	金	5	55525	総合科目（チベット語入門）	テンジン・ウセル	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-70
前期	金	6	55625	総合科目（チベット仏教入門ⅠＡ）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-70
後期	金	6	55675	総合科目（チベット仏教入門ⅡＡ）	テンジン・ウセル	2	1年次	－		文-70

2）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	41202	企画科目（社会調査入門）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-16
後期	月	2	41253	企画科目（社会調査方法論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-16
通年	月	3	41301	企画科目（舞踊）	高祖・辻	2	1年次	－		文-35
前期	火	3	42305	企画科目（カウンセリング論Ａ）	上野和久	2	2年次	－		文-15
後期	火	3	42354	企画科目（発達心理学Ａ）	上野和久	2	2年次	－		文-17
通年	火	4	42402	企画科目（華道）	五味和樹	2	1年次	－		文-34
前期	火	4	42404	企画科目（数的処理）	木地茂典	2	1年次	－		文-10
後期	火	4	42451	企画科目（自然科学）	木地茂典	2	1年次	－		文-10
通年	火	4	52401	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	1年次	－		文-30
前期	水	1	43103	企画科目（高野文化圏論）	森本一彦	2	2年次	－		文-16
後期	水	1	43152	企画科目（情報リテラシー論）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-17
前期	水	2	43214	企画科目（歴史学）	坂口太郎	2	2年次	－		文-35
後期	水	2	43251	企画科目（古文書解読Ａ）	坂口太郎	2	2年次	－		文-35
前期	水	3	53301	企画科目（寺院経営講座）	加賀博	2	1年次	－		文-31
通年	木	3	44301	企画科目（詠歌）	辻・本間・西山	2	1年次	－		文-7
前期	木	4	44404	企画科目（地域連携）	森本一彦	2	2年次	－		文-17
後期	木	4	44451	企画科目（死生観Ａ）	山脇雅夫	2	2年次	－		文-16
通年	金	3	45302	企画科目（声明上級）	辻秀道	2	2年次	－		文-33
前期	金	4	45401	企画科目（地域産業論）	鈴木裕範	2	2年次	－		文-17
後期	火	2	42253	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅠ-2）	高田綾子	2	1年次	－	キャリアカウンセリングⅠ-1と同年に履修すること	文-10
後期	火	4	42453	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅡ-2）	高田綾子	2	2年次	－	キャリアカウンセリングⅡ-1と同年に履修すること	文-15
後期	火	3	42353	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅢ-2）	高田綾子	2	3年次	－	キャリアカウンセリングⅢ-1と同年に履修すること	文-31
後期	集中	集中	47051	企画科目（キャリア研修）	就職担当	2	2年次	－		文-18
通年	集中	集中	47004	企画科目（ボランティア）	人間学科主任	2	1年次	－		文-8
通年	集中	集中	47001	企画科目（加行Ⅰ）	密教学科主任	1	1年次	－		文-7
通年	集中	集中	47002	企画科目（加行Ⅱ）	密教学科主任	1	2年次	－		文-8
通年	集中	集中	47003	企画科目（巡礼・遍路）	密教学科主任	2	1年次	－		文-8
通年	木	4	54402	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	廣田恵美子	2	1年次	－	外国人留学生に限る	文-32
通年	木	5	54501	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	廣田恵美子	2	1年次	－		文-31
通年	月	3	51301	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	松本貴子	2	1年次	－		文-32
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	松本貴子	2	1年次	－		文-31

前期	火	4	42425	企画科目（古文書解読Ｂ）	坂 口 太 郎	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-70
前期	水	6	43626	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）	木 下 忠 恭	2	3年次	－		文-57
後期	水	6	43675	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）	木 下 忠 恭	2	3年次	－		文-57
後期	金	6	45675	企画科目（心理測定法）	五 明 優 介	2	2年次	－		文-57
前期	金	6	45625	企画科目（心理統計学）	五 明 優 介	2	2年次	－		文-57
後期	水	7	43775	企画科目（災害心理学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-55
前期	金	7	45725	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）	五 明 優 介	2	3年次	－		文-56
後期	金	7	45775	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）	五 明 優 介	2	3年次	－		文-56
前期	木	5	44525	企画科目（こころのケアとは）	山 添 正	2	3年次	－		文-53
後期	木	5	44575	企画科目（深層心理学）	山 添 正	2	3年次	－		文-58
前期	木	6	44625	企画科目（臨床心理学面接演習ＩＡ）	山 添 正	2	3年次	－		文-58
後期	木	6	44676	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＡ）	山 添 正	2	3年次	－		文-59
後期	月	7	41775	企画科目（家族心理学）	小林奈緒美	2	3年次	－		文-55
前期	月	7	41725	企画科目（発達心理学Ｂ）	小林奈緒美	2	3年次	－		文-58
後期	水	7	43776	企画科目（カウンセリング論Ｂ）	木 下 忠 恭	2	3年次	－		文-53
前期	水	7	43726	企画科目（学校心理学）	木 下 忠 恭	2	3年次	－		文-55
前期	土	第1週	46025	企画科目（メンタルヘルス）	根 岸 和 政	2	3年次	－		文-54
後期	土	第1週	46075	企画科目（社会心理学）	松 下 歩 睦	2	3年次	－		文-56
前期	土	第2週	46026	企画科目（臨床心理学面接演習ＩＢ）	山 添 正	2	3年次	－		文-58
後期	土	第2週	46076	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＢ）	山 添 正	2	3年次	－		文-59
前期	土	第3週	46027	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）	大河内大博	2	3年次	－		文-54
後期	土	第3週	46077	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）	大河内大博	2	3年次	－		文-54
前期	土	第4週	46028	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）	山 本 和 美	2	3年次	－		文-59
後期	土	第4週	46078	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-59
前期	土	第4週	56025	企画科目（密教入門講座1）	密教学科主任	2	3年次	－		文-71
通年	実習	実習	48025	企画科目（臨床実習Ⅰ）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-71
通年	実習	実習	48026	企画科目（臨床実習Ⅱ）	森 崎 雅 好	2	4年次	－		文-72
通年	実習	実習	48027	企画科目（臨床実習Ⅲ）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-72
通年	実習	実習	48028	企画科目（臨床実習Ⅳ）	川 口 道 雄	2	3年次	－		文-72
通年	実習	実習	48029	企画科目（臨床実習Ⅴ）	川 口 道 雄	2	4年次	－		文-72
後期	集中	集中	47078	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）	橋本久仁彦	2	3年次	－		文-53
後期	集中	集中	47079	企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）	橋本久仁彦	2	3年次	－		文-53
後期	集中	集中	47076	企画科目（スピリチュアルケア概論）	窪 寺 俊 之	2	3年次	－		文-54
後期	集中	集中	47080	企画科目（もの語り心理学）	やまだようこ	2	3年次	－		文-55
後期	集中	集中	47077	企画科目（死生観Ｂ）	山本佳世子	2	3年次	－		文-56
後期	集中	集中	47081	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-71
後期	集中	集中	47082	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）	森 崎 雅 好	2	4年次	－		文-71

3）語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	1	44101	サンスクリット語ＩＡ	徳 重 弘 志	2	1年次	－		文-3
通年	金	3	45325	サンスクリット語ＩＢ	前 谷 彰	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52
通年	木	4	44401	サンスクリット語Ⅱ	前 谷 彰	2	2年次	－		文-32
通年	木	4	54401	チベット語	テンジン・ウセル	2	2年次	－		文-32
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	－		文-33
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	－		文-33

4）健康実技

学期	曜日	時限	講義コード	授 業 科 目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54302	体育実技	今 井 邦 夫	2	1年次	－		文-34

5）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	4	55401	宗教思想史ⅠA	奥山直司	2	1年次	－		文-36
前期	月	3	51302	宗教思想史ⅡA	櫻木潤	2	1年次	－		文-36
前期	金	2	55202	心理学ⅠA	戸來知子	2	1年次	社会福祉主事		文-8
後期	集中	集中	57075	心理学ⅠB	上野和久	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文52
後期	金	2	55251	心理学ⅡA	戸來知子	2	1年次	社会福祉主事		文-9
後期	集中	集中	57076	心理学ⅡB	上野和久	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文52
前期	月	3	41302	社会学Ⅱ	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		文-9
前期	火	5	52502	日本文学Ⅰ	浜畑圭吾	2	1年次	教免（国語）		文-39
後期	火	5	52552	日本文学Ⅱ	浜畑圭吾	2	1年次	教免（国語）		文-39
前期	月	4	51403	国文法Ⅰ	浜畑圭吾	2	2年次	教免（国語）		文-38
後期	月	4	51453	国文法Ⅱ	浜畑圭吾	2	2年次	教免（国語）		文-38
前期	金	3	55302	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	教免（国語）		文-37
後期	金	3	55351	国語学Ⅱ	上田恭寿	2	2年次	教免（国語）		文-38
後期	水	4	43451	現代の人権	竹村和也	2	1年次	－		文-11
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	教職基礎		文-42
通年	火	3	52301	情報処理	木地茂典	2	1年次	教職基礎		文-34
通年	金	3	55301	梵字悉曇A	齋藤天響	2	1年次	－		文-33
後期	集中	集中	57077	梵字悉曇B	五十嵐啓道	2	1年次	－	7/29～7/31	文-73

6）教学実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮田永明	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	金	1	55101	声明	辻秀道	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	月	1	51102	法式	内海周浩	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	火	4	42401	布教	近藤堯寛	2	1年次	僧階補任		文-6

7）教育職員免許状関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	2	55203	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		文-35
後期	金	2	55252	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	2年次	教免（宗教）		文-36
前期	金	1	55102	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	教免（宗教）		文-36
後期	金	1	55151	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	教免（宗教）		文-37
前期	月	3	41304	哲学方法論	山脇雅夫	2	2年次	教免（宗教）		文-37
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	教免（宗教）		文-37
前期	月	5	41501	日本文学概論Ⅰ	浜畑圭吾	2	2年次	教免（国語）		文-39
後期	月	5	41551	日本文学概論Ⅱ	浜畑圭吾	2	2年次	教免（国語）		文-40
前期	火	4	52403	日本文学史概説Ⅰ	下西忠	2	2年次	教免（国語）		文-38
後期	火	4	52451	日本文学史概説Ⅱ	下西忠	2	2年次	教免（国語）		文-39
前期	木	3	54303	漢文学概論Ⅰ	南昌宏	2	2年次	教免（国語）		文-40
後期	木	3	54351	漢文学概論Ⅱ	南昌宏	2	2年次	教免（国語）		文-40
前期	金	4	45402	国語学講義Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	教免（国語）		文-40
後期	金	4	45451	国語学講義Ⅱ	上田恭寿	2	2年次	教免（国語）		文-41
後期	火	2	42255	日本文化特殊講義A	浜畑圭吾	2	3年次	教免（国語）		文-41
前期	木	3	44304	日本文化特殊講義B	坂口太郎	2	3年次	教免（国語）		文-41
後期	木	3	44352	日本文化特殊講義C	坂口太郎	2	3年次	教免（国語）		文-41
後期	金	4	45452	中国文化特殊講義	野田悟	2	3年次	教免（国語）		文-42
前期	金	4	45403	中国文化講読演習A	野田悟	2	3年次	教免（国語）		文-42
前期	火	3	42325	中国文化講読演習B	南昌宏	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-73

8）書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野　田　　悟	2	1年次	書道師範/教免（国語）		文-7
通年	火	4	52402	漢字Ⅱ	木 本 滋 久	2	2年次	書道師範/教免（国語）		文-42
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範/教免（国語）		文-7
通年	木	3	54301	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範/教免（国語）		文-43
前期	火	1	42101	篆刻Ⅰ	野　田　　悟	2	3年次	書道師範		文-43
後期	火	1	42151	篆刻Ⅱ	野　田　　悟	2	3年次	書道師範		文-43
通年	火	3	42301	条幅制作Ａ（漢字）	木 本 滋 久	2	2年次	－		文-44
通年	木	4	44402	条幅制作Ｂ（かな）	塩野三恵子	2	2年次	－		文-44
通年	金	1	45101	書道史（中国）	野　田　　悟	4	2年次	－		文-44

9）社会福祉主事関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	3	44305	社会福祉各論Ⅱ（地域福祉Ⅱ）	福 本 幹 雄	2	2年次	社会福祉主事		文-9
前期	木	4	44403	社会保障総論Ⅱ	福 本 幹 雄	2	1年次	社会福祉主事		文-9

10）キャリア科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	42203	キャリアカウンセリングⅠ-1	高 田 綾 子	2	1年次	－	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅰ-2）と同年に履修すること	文-10
前期	火	4	42403	キャリアカウンセリングⅡ-1	高 田 綾 子	2	2年次	－	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅱ-2）と同年に履修すること	文-15
前期	火	3	42304	キャリアカウンセリングⅢ-1	高 田 綾 子	2	3年次	－	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅲ-2）と同年に履修すること	文-29

11）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	44106	人間学概論Ⅰ	森 本 一 彦	2	2年次	－		文-11
後期	木	1	44154	人間学概論Ⅱ	森 本 一 彦	2	2年次	－		文-11
通年	水	3	43301	伝統文化実習（茶道）	岡 本 文 音	2	2年次	－		文-34
通年	木	3	44302	伝統文化実習（民俗調査）	森 本 一 彦	2	2年次	社会調査士		文-15
通年	金	3	45301	英語Ⅲ	亀 位 卓 阿	2	3年次	－		文-28
前期	木	2	44204	人間学特殊ゼミⅠＡ（悲嘆学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-18
前期	月	4	41401	人間学特殊ゼミⅠＢ（日本文化）	松 本 貴 子	2	3年次	－	外国人留学生に限る	文-28
前期	月	6	41625	人間学特殊ゼミⅠＣ（教育心理学）	上 野 和 久	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-60
前期	火	5	42525	人間学特殊ゼミⅠＤ（宗教学入門）	山 脇 雅 夫	2	3年次	－		文-60
前期	火	6	42625	人間学特殊ゼミⅠＥ（悲嘆学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-60
前期	木	6	44626	人間学特殊ゼミⅠＦ（悲嘆学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-60
後期	木	2	44253	人間学特殊ゼミⅡＡ（自殺学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-18
後期	月	4	41451	人間学特殊ゼミⅡＢ（日本社会）	松 本 貴 子	2	3年次	－	外国人留学生に限る	文-29
後期	月	6	41675	人間学特殊ゼミⅡＣ（人格心理学）	上 野 和 久	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-61
後期	火	5	42575	人間学特殊ゼミⅡＤ（一神教の世界）	山 脇 雅 夫	2	3年次	－		文-61
後期	火	6	42675	人間学特殊ゼミⅡＥ（自殺学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-61
後期	木	6	44675	人間学特殊ゼミⅡＦ（スピリチュアルケア実践論）	大 河 内 大 博	2	3年次	－		文-61

3　自由科目（卒業要件には参入されません）

1）教職科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	水	1	53101	教職入門	嶋　田　　博	2	1年次	教免必修		文-47
後期	水	2	53251	教育原論	山　脇　雅　夫	2	1年次	教免必修/社会福祉主事		文-46
後期	木	1	54151	教育心理学	戸　來　知　子	2	2年次	教免必修		文-47
後期	月	3	51351	教育社会学	森　本　一　彦	2	1年次	教免必修		文-47
後期	水	1	53151	教育課程論	嶋　田　　博	2	1年次	教免必修		文-48
前期	月	1	51103	宗教科教育法Ⅰ	松　長　潤　慶	2	2年次	教免（宗教）		文-49
後期	月	1	51151	宗教科教育法Ⅱ	松　長　潤　慶	2	2年次	教免（宗教）		文-50
前期	火	4	42406	宗教科教育法Ⅲ	岡　田　英　作	2	3年次	教免（宗教）		文-50
前期	火	3	52302	国語科教育法Ⅰ	下　西　　忠	2	2年次	教免（国語）		文-50
後期	火	3	52351	国語科教育法Ⅱ	下　西　　忠	2	2年次	教免（国語）		文-50
前期	火	2	42205	国語科教育法Ⅲ	浜　畑　圭　吾	2	3年次	教免（国語）		文-51
後期	月	3	41354	国語科教育法Ⅳ	南　　昌　宏	2	3年次	教免（国語）		文-51
前期	集中	集中	57001	教育方法論	伊　藤　博　美	2	2年次	教免必修	8/6～8/8	文-48
後期	水	2	43252	情報技術論	戸　來　知　子	2	2年次	教免必修		文-49
前期	木	1	44107	道徳教育の研究	戸　來　知　子	2	2年次	教免必修		文-48
前期	木	2	44205	特別教育活動指導	戸　來　知　子	2	2年次	教免必修		文-48
後期	木	2	54251	生徒指導・進路指導	戸　來　知　子	2	2年次	教免必修		文-49
前期	金	3	45303	教育相談	戸　來　知　子	2	3年次	教免必修		文-49
後期	金	3	45352	教職実践演習（中・高）	山脇・戸來	2	4年次	教免必修		文-51
前期	実習	実習	48001	教育実習Ⅰ	山脇・戸來	2	3年次	教免必修		
前期	実習	実習	48002	教育実習Ⅱ	山脇・戸來	2	4年次	教免必修		
前期	木	4	44405	教育実習の研究	山脇・戸來	1	3・4年次	教免必修		文-51

2）他学科演習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	43209	人間学演習ⅠA	森　本　一　彦	4	3年次	－		文-28
通年	水	2	43210	人間学演習ⅠB	上　野　和　久	4	3年次			文-28
通年	月	5	41525	人間学演習ⅠC（臨床心理学演習）	上　野　和　久	4	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-69
通年	火	7	42725	人間学演習ⅠD（臨床心理学演習）	森　崎　雅　好	4	3年次	－		文-69
通年	木	7	44725	人間学演習ⅠE（臨床心理学演習）	森　崎　雅　好	4	3年次	－		文-69
通年	水	2	43212	人間学演習ⅡA	森　本　一　彦	4	4年次	－		文-28
通年	水	2	43213	人間学演習ⅡB	上　野　和　久	4	4年次	－		文-28
通年	月	5	41526	人間学演習ⅡC（臨床心理学演習）	上　野　和　久	4	4年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-69
通年	火	7	42726	人間学演習ⅡD（臨床心理学演習）	森　崎　雅　好	4	4年次	－		文-69
通年	木	7	44726	人間学演習ⅡE（臨床心理学演習）	森　崎　雅　好	4	4年次	－		文-69

H30まで文学部　人間学科

1　必修科目

[人間学科1年次履修科目]

1）「建学の精神」科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	1	52102	空海の思想入門A	乾　龍　仁	2	1年次	－		文-1
前期	火	2	52225	空海の思想入門B	櫻　木　潤	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52

2）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	月	1	51101	英語Ⅰ（再履修）	伊藤佳世子	2	2年次	－		文-1

3）導入科目（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	4	51401	人間学基礎ゼミⅠA	森本一彦	2	1年次	－		文-5
前期	月	4	51402	人間学基礎ゼミⅠB	山脇雅夫	2	1年次	－		文-5
後期	月	4	51451	人間学基礎ゼミⅡA	森本一彦	2	1年次	－		文-5
後期	月	4	51452	人間学基礎ゼミⅡB	山脇雅夫	2	1年次	－		文-5

4）基礎講義（2+2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	月	3	41351	現代思想	山脇雅夫	2	1年次	－		文-2
前期	木	1	44102	人間と宗教	山脇雅夫	2	1年次	－		文-2

5）キャリア教育（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	42203	キャリアカウンセリングⅠ-1	高田綾子	2	1年次	－	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅠ-2）と同年に履修すること	文-10

[人間学科2年次履修科目]

1）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	43401	英語Ⅱ（再履修）	伊藤佳世子	2	3年次	－		文-11

2）講義Ⅰ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	44106	人間学概論Ⅰ	森本一彦	2	2年次	－		文-11
後期	木	1	44154	人間学概論Ⅱ	森本一彦	2	2年次	－		文-11

3）基礎ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	2	52202	人間学基礎ゼミⅢA	上野和久	2	2年次	－		文-14
後期	火	2	52251	人間学基礎ゼミⅣA	上野和久	2	2年次	－		文-14

4）伝統文化実習（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	3	43301	伝統文化実習（茶道）	岡本文音	2	2年次	－		文-34
通年	木	3	44302	伝統文化実習（民俗調査）	森本一彦	2	2年次	社会調査士		文-15

5）キャリア教育（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	4	42403	キャリアカウンセリングⅡ-1	高田綾子	2	2年次	－	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅡ-2）と同年に履修すること	文-15

［人間学科3年次履修科目］

1）語学科目（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	3	45301	英語Ⅲ	亀 位 卓 阿	2	3年次	－		文-28

2）演習（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	43209	人間学演習ＩＡ	森 本 一 彦	4	3年次	－		文-28
通年	水	2	43210	人間学演習ＩＢ	上 野 和 久	4	3年次	－		文-28
通年	水	2	43211	人間学演習ＩＦ	浜 畑 圭 吾	4	3年次	－		文-27
通年	月	5	41525	人間学演習ＩＣ（臨床心理学演習）	上 野 和 久	4	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-69
通年	火	7	42725	人間学演習ＩＤ（臨床心理学演習）	森 崎 雅 好	4	3年次	－		文-69
通年	木	7	44725	人間学演習ＩＥ（臨床心理学演習）	森 崎 雅 好	4	3年次	－		文-69

3）特殊ゼミ（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	2	44204	人間学特殊ゼミＩＡ（悲嘆学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-18
前期	月	4	41401	人間学特殊ゼミＩＢ（日本文化）	松 本 貴 子	2	3年次	－	外国人留学生に限る	文-28
前期	月	6	41625	人間学特殊ゼミＩＣ（教育心理学）	上 野 和 久	2	3年次	－	外国人留学生に限る	文-60
前期	火	5	42525	人間学特殊ゼミＩＤ（宗教学入門）	山 脇 雅 夫	2	3年次	－		文-60
前期	火	6	42625	人間学特殊ゼミＩＥ（悲嘆学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-60
前期	木	6	44626	人間学特殊ゼミＩＦ（悲嘆学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-60
後期	木	2	44253	人間学特殊ゼミⅡＡ（自殺学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-18
後期	月	4	41451	人間学特殊ゼミⅡＢ（日本社会）	松 本 貴 子	2	3年次	－	外国人留学生に限る	文-29
後期	月	6	41675	人間学特殊ゼミⅡＣ（人格心理学）	上 野 和 久	2	3年次	－	外国人留学生に限る	文-61
後期	火	5	42575	人間学特殊ゼミⅡＤ（一神教の世界）	山 脇 雅 夫	2	3年次	－		文-61
後期	火	6	42675	人間学特殊ゼミⅡＥ（自殺学）	森 崎 雅 好	2	3年次	－		文-61
後期	木	6	44675	人間学特殊ゼミⅡＦ（スピリチュアルケア実践論）	大 河 内 大 博	2	3年次	－		文-61

4）キャリア教育（2）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	火	3	42304	キャリアカウンセリングⅢ-1	高 田 綾 子	2	3年次	－	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅲ-2）と同年に履修すること	文-29

［人間学科4年次履修科目］

1）演習（4）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	43212	人間学演習ⅡＡ	森 本 一 彦	4	4年次	－		文-28
通年	水	2	43213	人間学演習ⅡＢ	上 野 和 久	4	4年次	－		文-28
通年	月	5	41526	人間学演習ⅡＣ（臨床心理学演習）	上 野 和 久	4	4年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-69
通年	火	7	42726	人間学演習ⅡＤ（臨床心理学演習）	森 崎 雅 好	4	4年次	－		文-69
通年	木	7	44726	人間学演習ⅡＥ（臨床心理学演習）	森 崎 雅 好	4	4年次	－		文-69

2）卒業論文（8）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	論文	論文	49002	人間学科卒業論文	人間学科主任	8	4年次	－		
前期	論文	論文	49004	人間学科卒業論文（前期）	人間学科主任	8	4年次	－	7月提出許可者	

2　選択科目

1）総合科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
後期	金	3	45351	総合科目（古文書学）	坂 口 太 郎	2	3年次	－		文-30
前期	水	1	43102	総合科目（書誌学）	坂 口 太 郎	2	3年次	－		文-30
通年	集中	集中	47005	総合科目（インターンシップ）	就 職 担 当	2	3年次	－		文-29

前期	火	5	52501	総合科目（チベット仏教入門ＩＢ）	テンジン・ウセル	2	１年次	－		文-29
後期	火	5	52551	総合科目（チベット仏教入門ⅡＢ）	テンジン・ウセル	2	１年次	－		文-30
通年	金	5	55525	総合科目（チベット語入門）	テンジン・ウセル	2	１年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-70
前期	金	6	55625	総合科目（チベット仏教入門ＩＡ）	テンジン・ウセル	2	１年次	－		文-70
後期	金	6	55675	総合科目（チベット仏教入門ⅡＡ）	テンジン・ウセル	2	１年次	－		文-70

2）企画科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	月	2	41202	企画科目（社会調査入門）	森本一彦	2	２年次	社会調査士		文-16
後期	月	2	41253	企画科目（社会調査方法論）	森本一彦	2	２年次	－		文-16
通年	月	3	41301	企画科目（舞踊）	高祖・辻	2	１年次	－		文-35
前期	火	3	42305	企画科目（カウンセリング論Ａ）	上野和久	2	２年次	－		文-15
後期	火	3	42354	企画科目（発達心理学Ａ）	上野和久	2	２年次	－		文-17
通年	火	4	42402	企画科目（華道）	五味和樹	2	１年次	－		文-34
前期	火	4	42404	企画科目（数的処理）	木地茂典	2	１年次	－		文-10
後期	火	4	42451	企画科目（自然科学）	木地茂典	2	１年次	－		文-10
通年	火	4	52401	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	１年次	－		文-30
前期	水	1	43103	企画科目（高野文化圏論）	森本一彦	2	２年次	－		文-16
後期	水	1	43152	企画科目（情報リテラシー論）	森本一彦	2	２年次	－		文-17
前期	水	2	43214	企画科目（歴史学）	坂口太郎	2	２年次	－		文-35
後期	水	2	43251	企画科目（古文書解読Ａ）	坂口太郎	2	２年次	－		文-35
前期	水	3	53301	企画科目（寺院経営講座）	加賀博	2	１年次	－		文-31
通年	木	3	44301	企画科目（詠歌）	辻・本間・西山	2	１年次	－		文-7
前期	木	4	44404	企画科目（地域連携）	森本一彦	2	２年次	－		文-17
後期	木	4	44451	企画科目（死生観Ａ）	山脇雅夫	2	２年次	－		文-16
通年	金	3	45302	企画科目（声明上級）	辻秀道	2	２年次	－		文-33
前期	金	4	45401	企画科目（地域産業論）	鈴木裕範	2	２年次	－		文-17
後期	火	2	42253	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅰ-2）	高田綾子	2	１年次	－	キャリアカウンセリングⅠ-1と同年に履修すること	文-10
後期	火	4	42453	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅱ-2）	高田綾子	2	２年次	－	キャリアカウンセリングⅡ-1と同年に履修すること	文-15
後期	火	3	42353	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅲ-2）	高田綾子	2	３年次	－	キャリアカウンセリングⅢ-1と同年に履修すること	文-31
後期	集中	集中	47051	企画科目（キャリア研修）	就職担当	2	２年次	－		文-18
通年	集中	集中	47004	企画科目（ボランティア）	人間学科主任	2	１年次	－		文-8
通年	集中	集中	47001	企画科目（加行Ⅰ）	密教学科主任	1	１年次	－		文-7
通年	集中	集中	47002	企画科目（加行Ⅱ）	密教学科主任	1	２年次	－		文-8
通年	集中	集中	47003	企画科目（巡礼・遍路）	密教学科主任	2	１年次	－		文-8
通年	木	4	54402	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	廣田恵美子	2	１年次	－	外国人留学生に限る	文-32
通年	木	5	54501	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	廣田恵美子	2	１年次	－		文-31
通年	月	3	51301	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	松本貴子	2	１年次	－		文-32
通年	月	5	51501	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	松本貴子	2	１年次	－		文-31
前期	火	4	42425	企画科目（古文書解読Ｂ）	坂口太郎	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-70
前期	水	6	43626	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）	木下忠恭	2	３年次	－		文-57
後期	水	6	43675	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）	木下忠恭	2	３年次	－		文-57
後期	金	6	45675	企画科目（心理測定法）	五明優介	2	２年次	－		文-57
前期	金	6	45625	企画科目（心理統計学）	五明優介	2	２年次	－		文-57
後期	水	7	43775	企画科目（災害心理学）	森崎雅好	2	３年次	－		文-55
前期	金	7	45725	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）	五明優介	2	３年次	－		文-56
後期	金	7	45775	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）	五明優介	2	３年次	－		文-56
前期	木	5	44525	企画科目（こころのケアとは）	山添正	2	３年次	－		文-53
後期	木	5	44575	企画科目（深層心理学）	山添正	2	３年次	－		文-58
前期	木	6	44625	企画科目（臨床心理学面接演習ＩＡ）	山添正	2	３年次	－		文-58
後期	木	6	44676	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＡ）	山添正	2	３年次	－		文-59

後期	月	7	41775	企画科目（家族心理学）	小林奈緒美	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-55
前期	月	7	41725	企画科目（発達心理学Ｂ）	小林奈緒美	2	3年次	－		文-58
後期	水	7	43776	企画科目（カウンセリング論Ｂ）	木下忠恭	2	3年次	－		文-53
前期	水	7	43726	企画科目（学校心理学）	木下忠恭	2	3年次	－		文-55
前期	土	第1週	46025	企画科目（メンタルヘルス）	根岸和政	2	3年次	－		文-54
後期	土	第1週	46075	企画科目（社会心理学）	松下歩睦	2	3年次	－		文-56
前期	土	第2週	46026	企画科目（臨床心理学面接演習ＩＢ）	山添正	2	3年次	－		文-58
後期	土	第2週	46076	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＢ）	山添正	2	3年次	－		文-59
前期	土	第3週	46027	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）	大河内大博	2	3年次	－		文-54
後期	土	第3週	46077	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）	大河内大博	2	3年次	－		文-54
前期	土	第4週	46028	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）	山本和美	2	3年次	－		文-59
後期	土	第4週	46078	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）	森崎雅好	2	3年次	－		文-59
前期	土	第4週	56025	企画科目（密教入門講座1）	密教学科主任	2	3年次	－		文-71
通年	実習	実習	48025	企画科目（臨床実習Ⅰ）	森崎雅好	2	3年次	－		文-71
通年	実習	実習	48026	企画科目（臨床実習Ⅱ）	森崎雅好	2	4年次	－		文-72
通年	実習	実習	48027	企画科目（臨床実習Ⅲ）	森崎雅好	2	3年次	－		文-72
通年	実習	実習	48028	企画科目（臨床実習Ⅳ）	川口道雄	2	3年次	－		文-72
通年	実習	実習	48029	企画科目（臨床実習Ⅴ）	川口道雄	2	4年次	－		文-72
後期	集中	集中	47078	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）	橋本久仁彦	2	3年次	－		文-53
後期	集中	集中	47079	企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）	橋本久仁彦	2	3年次	－		文-53
後期	集中	集中	47076	企画科目（スピリチュアルケア概論）	窪寺俊之	2	3年次	－		文-54
後期	集中	集中	47080	企画科目（もの語り心理学）	やまだようこ	2	3年次	－		文-55
後期	集中	集中	47077	企画科目（死生観Ｂ）	山本佳世子	2	3年次	－		文-56
後期	集中	集中	47081	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）	森崎雅好	2	3年次	－		文-71
後期	集中	集中	47082	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）	森崎雅好	2	4年次	－		文-71

3）語学科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	1	44101	サンスクリット語ＩＡ	徳重弘志	2	1年次	－		文-3
通年	金	3	45325	サンスクリット語ＩＢ	前谷彰	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-52
通年	木	4	44401	サンスクリット語Ⅱ	前谷彰	2	2年次	－		文-32
通年	木	4	54401	チベット語	テンジン・ウセル	2	2年次	－		文-32
通年	火	1	52101	中国語Ⅰ	土生川正賢	2	1年次	－		文-33
通年	火	2	52201	中国語Ⅱ	土生川正賢	2	1年次	－		文-33

4）健康実技

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	木	3	54302	体育実技	今井邦夫	2	1年次	－		文-34

5）普通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	金	4	55401	宗教思想史ＩＡ	奥山直司	2	1年次	－		文-36
前期	月	3	51302	宗教思想史ⅡＡ	櫻木潤	2	1年次	－		文-36
前期	金	2	55202	心理学ＩＡ	戸來知子	2	1年次	社会福祉主事		文-8
後期	集中	集中	57075	心理学ＩＢ	上野和久	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文52
後期	金	2	55251	心理学ⅡＡ	戸來知子	2	1年次	社会福祉主事		文-9
後期	集中	集中	57076	心理学ⅡＢ	上野和久	2	1年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文52
前期	月	3	41302	社会学Ⅱ	森本一彦	2	1年次	社会福祉主事		文-9
前期	火	5	52502	日本文学Ⅰ	浜畑圭吾	2	1年次	－		文-39
後期	火	5	52552	日本文学Ⅱ	浜畑圭吾	2	1年次	－		文-39
前期	月	4	51403	国文法Ⅰ	浜畑圭吾	2	2年次	－		文-38
後期	月	4	51453	国文法Ⅱ	浜畑圭吾	2	2年次	－		文-38

前期	金	3	55302	国語学Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	－		文-37
後期	金	3	55351	国語学Ⅱ	上田恭寿	2	2年次	－		文-38
後期	水	4	43451	現代の人権	竹村和也	2	1年次	－		文-11
後期	水	3	53351	日本国憲法	竹村和也	2	1年次	－		文-42
通年	火	3	52301	情報処理	木地茂典	2	1年次	－		文-34
通年	金	3	55301	梵字悉曇A	齋藤天譽	2	1年次	－		文-33
後期	集中	集中	57077	梵字悉曇B	五十嵐啓道	2	1年次	－	7/29～7/31	文-73
前期	金	2	55203	宗教学Ⅰ	奥山直司	2	2年次	－		文-35
後期	金	2	55252	宗教学Ⅱ	奥山直司	2	2年次	－		文-36
前期	金	1	55102	宗教史Ⅰ	土居夏樹	2	2年次	－		文-36
後期	金	1	55151	宗教史Ⅱ	土居夏樹	2	2年次	－		文-37
前期	月	3	41304	哲学方法論	山脇雅夫	2	2年次	－		文-37
後期	木	4	54451	宗教学方法論	森本一彦	2	2年次	－		文-37
前期	月	5	41501	日本文学概論Ⅰ	浜畑圭吾	2	2年次	－		文-39
後期	月	5	41551	日本文学概論Ⅱ	浜畑圭吾	2	2年次	－		文-40
前期	火	4	52403	日本文学史概説Ⅰ	下西忠	2	2年次	－		文-38
後期	火	4	52451	日本文学史概説Ⅱ	下西忠	2	2年次	－		文-39
前期	木	3	54303	漢文学概論Ⅰ	南昌宏	2	2年次	－		文-40
後期	木	3	54351	漢文学概論Ⅱ	南昌宏	2	2年次	－		文-40
前期	金	4	45402	国語学講義Ⅰ	上田恭寿	2	2年次	－		文-40
後期	金	4	45451	国語学講義Ⅱ	上田恭寿	2	2年次	－		文-41
後期	火	2	42255	日本文化特殊講義A	浜畑圭吾	2	3年次	－		文-41
前期	木	3	44304	日本文化特殊講義B	坂口太郎	2	3年次	－		文-41
後期	木	3	44352	日本文化特殊講義C	坂口太郎	2	3年次	－		文-41
後期	金	4	45452	中国文化特殊講義	野田悟	2	3年次	－		文-42
前期	金	4	45403	中国文化講読演習A	野田悟	2	3年次	－		文-42
前期	火	3	42325	中国文化講読演習B	南昌宏	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-73

6）教学実習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	4	53401	常用経典	宮田永明	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	金	1	55101	声明	辻秀道	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	月	1	51102	法式	内海周浩	2	1年次	僧階補任		文-6
通年	火	4	42401	布教	近藤堯寛	2	1年次	僧階補任		文-6

7）書道師範関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	金	2	55201	漢字Ⅰ	野田悟	2	1年次	書道師範		文-7
通年	火	4	52402	漢字Ⅱ	木本滋久	2	2年次	書道師範		文-42
通年	木	2	54201	かなⅠ	塩野三恵子	2	1年次	書道師範		文-7
通年	木	3	54301	かなⅡ	塩野三恵子	2	2年次	書道師範		文-43
前期	火	1	42101	篆刻Ⅰ	野田悟	2	3年次	書道師範		文-43
後期	火	1	42151	篆刻Ⅱ	野田悟	2	3年次	書道師範		文-43
通年	火	3	42301	条幅制作A（漢字）	木本滋久	2	2年次	－		文-44
通年	木	4	44402	条幅制作B（かな）	塩野三恵子	2	2年次	－		文-44
通年	金	1	45101	書道史（中国）	野田悟	2	2年次	－		文-44

8）社会福祉主事関係科目

学期	曜日	時限	講義コード	授業科目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	3	44305	社会福祉各論Ⅱ（地域福祉Ⅱ）	福本幹雄	2	2年次	社会福祉主事		文-9
前期	木	4	44403	社会保障総論Ⅱ	福本幹雄	2	1年次	社会福祉主事		文-9

9）他学科科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
前期	木	1	44103	漢文Ⅰ	南　昌　宏	2	1年次	－		文-2
後期	木	1	44151	漢文Ⅱ	南　昌　宏	2	1年次	－		文-2
前期	月	2	41201	密教学概論Ⅰ	佐藤隆彦	2	2年次	－		文-12
後期	月	2	41251	密教学概論Ⅱ	佐藤隆彦	2	2年次	－		文-12
前期	水	1	43101	仏教学概論Ⅰ	前谷　彰	2	2年次	－		文-12
前期	月	3	41303	密教史概説Ⅰ	奥山直司	2	2年次	－		文-13
後期	月	3	41352	密教史概説Ⅱ	櫻木　潤	2	2年次	－		文-13
後期	水	1	43151	仏教史概説Ⅰ	前谷　彰	2	2年次	－		文-13
前期	火	2	42201	祖典講読ⅠA	松長潤慶	2	2年次	－		文-13
前期	火	2	42202	祖典講読ⅠB	土居夏樹	2	2年次	－		文-13
後期	火	2	42251	祖典講読ⅡA	松長潤慶	2	2年次	－		文-14
後期	火	2	42252	祖典講読ⅡB	土居夏樹	2	2年次	－		文-14
前期	火	3	42302	祖典講読ⅢA	佐藤隆彦	2	3年次	－		文-18
前期	火	3	42303	祖典講読ⅢB	土居夏樹	2	3年次	－		文-19
前期	月	3	41325	祖典講読ⅢC	土居夏樹	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-62
前期	金	3	45326	祖典講読ⅢD	松長潤慶	2	3年次	－		文-62
後期	火	3	42351	祖典講読ⅣA	佐藤隆彦	2	3年次	－		文-19
後期	火	3	42352	祖典講読ⅣB	土居夏樹	2	3年次	－		文-19
後期	月	3	41375	祖典講読ⅣC	土居夏樹	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-62
後期	金	3	45375	祖典講読ⅣD	松長潤慶	2	3年次	－		文-62
後期	月	2	41252	密教学講読演習A	松長潤慶	2	3年次	－		文-19
前期	木	2	44202	密教学講読演習B	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	－		文-20
後期	木	2	44251	密教学講読演習C	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	－		文-20
後期	金	4	45475	密教学講読演習G	松長潤慶	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-63
後期	火	2	42254	仏教学講読演習A	前谷　彰	2	3年次	－		文-20
前期	木	1	44104	仏教学講読演習B	櫻木　潤	2	3年次	－		文-20
後期	月	4	41475	仏教学講読演習C	岡田英作	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-63
前期	金	2	45225	仏教学講読演習D	浜畑圭吾	2	3年次	－		文-63
前期	金	4	45426	仏教学講読演習E	前谷　彰	2	3年次	－		文-63
前期	木	1	44105	真言密教講読演習B	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	－	已灌頂者	文-21
後期	木	1	44153	真言密教講読演習C	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	－	已灌頂者	文-21
前期	金	1	45102	真言密教講読演習D	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	－	已灌頂者	文-21
後期	金	1	45151	真言密教講読演習E	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	3年次	－	已灌頂者	文-21
後期	火	2	42275	真言密教講読演習F	櫻木　潤	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-64
後期	火	4	42475	真言密教講読演習G	坂口太郎	2	3年次	－		文-64
後期	水	5	43575	真言密教講読演習H	北川真寛	2	3年次	－		文-64
前期	水	6	43625	真言密教講読演習Ⅰ	北川真寛	2	3年次	－		文-64
後期	金	2	45275	真言密教講読演習J	浜畑圭吾	2	3年次	－		文-65
後期	月	3	41353	密教学特殊講義A	奥山直司	2	3年次	－		文-22
前期	木	3	44303	密教学特殊講義Ⅰ	川﨑一洋	2	3年次	－		文-22
後期	木	3	44351	密教学特殊講義J	川﨑一洋	2	3年次	－		文-22
前期	木	3	44325	密教学特殊講義D	野田　悟	2	3年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-65
後期	木	3	44375	密教学特殊講義E	野田　悟	2	3年次	－		文-66
前期	金	4	45425	密教学特殊講義F	松長潤慶	2	3年次	－		文-66
前期	木	4	44425	密教学特殊講義G	野田　悟	2	3年次	－		文-66
後期	木	4	44475	密教学特殊講義H	野田　悟	2	3年次	－		文-66
前期	水	4	43425	密教学特殊講義K	川﨑一洋	2	3年次	－		文-65
後期	水	4	43475	密教学特殊講義L	川﨑一洋	2	3年次	－		文-65
前期	火	2	42204	仏教学特殊講義A	前谷　彰	2	3年次	－		文-22
後期	木	1	44152	仏教学特殊講義B	櫻木　潤	2	3年次	－		文-23

前期	火	4	42405	仏教学特殊講義Ｆ	和 田 圭 子	2	３年次	－		文-23
後期	火	4	42452	仏教学特殊講義Ｇ	和 田 圭 子	2	３年次	－		文-23
前期	木	2	44203	仏教学特殊講義Ｈ	川 﨑 一 洋	2	３年次	－		文-23
前期	月	4	41425	仏教学特殊講義Ｃ	岡 田 英 作	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-67
後期	金	4	45476	仏教学特殊講義Ｄ	前 谷 彰	2	３年次	－		文-67
前期	水	3	43325	仏教学特殊講義Ｉ	川 﨑 一 洋	2	３年次	－		文-67
前期	月	1	41101	真言密教特殊講義Ａ	中 西 雄 泰	2	３年次	－	已灌頂者	文-24
後期	月	1	41151	真言密教特殊講義Ｂ	中 西 雄 泰	2	３年次	－	已灌頂者	文-24
前期	金	2	45201	真言密教特殊講義Ｃ	土 居 夏 樹	2	３年次	－		文-24
前期	金	2	45202	真言密教特殊講義Ｄ	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	３年次	－	已灌頂者	文-24
後期	金	2	45251	真言密教特殊講義Ｅ	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	３年次	－	已灌頂者	文-25
後期	金	2	45252	真言密教特殊講義Ｊ	土 居 夏 樹	2	３年次	－		文-25
後期	木	2	44252	真言密教特殊講義Ｋ	川 﨑 一 洋	2	３年次	－		文-25
後期	火	3	42375	真言密教特殊講義Ｆ	南 昌 宏	2	３年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-67
前期	水	5	43525	真言密教特殊講義Ｇ	北 川 真 寛	2	３年次	－		文-68
前期	水	7	43725	真言密教特殊講義Ｈ	北 川 真 寛	2	３年次	－		文-68
後期	集中	集中	47075	真言密教特殊講義Ｉ（密教瞑想）	佐 藤 隆 彦	2	３年次	－		文-68
後期	水	3	43375	真言密教特殊講義Ｌ	川 﨑 一 洋	2	３年次	－		文-68

3　自由科目（卒業要件には参入されません）

1）他学科演習科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	履修年次	資格関係	備考・履修条件	頁
通年	水	2	43201	密教学演習Ａ	野 田 悟	4	３・４年次	－		文-25
通年	水	2	43202	密教学演習Ｂ	奥 山 直 司	4	４年次	－		文-26
通年	水	2	43203	密教学演習Ｃ	前 谷 彰	4	３・４年次	－		文-26
通年	水	2	43204	密教学演習Ｄ	櫻 木 潤	4	３・４年次	－		文-26
通年	水	2	43205	密教学演習Ｅ	土 居 夏 樹	4	３・４年次	－		文-26
通年	水	2	43206	密教学演習Ｆ	松 長 潤 慶	4	３・４年次	－		文-27
通年	水	2	43207	密教学演習Ｇ	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	３・４年次	－	已灌頂者	文-27
通年	木	2	44201	密教学演習Ｈ（再履修）	南 昌 宏	4	３・４年次	－		文-27
通年	月	2	41225	密教学演習Ｉ	土 居 夏 樹	4	３・４年次	－	大阪サテライト教室にて開講	文-69
通年	木	2	44225	密教学演習Ｊ	奥 山 直 司	4	４年次	－		文-69

別　科　目　次

別科

1　必修科目

1）基礎科目（16）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
通年	月	2	81201	真言宗の教え（別）	密教学概論Ⅰ	佐藤隆彦	4	1年次		文-12
					密教学概論Ⅱ					文-12
後期	水	1	83151	釈尊の生涯（別）	仏教史概説Ⅰ	前谷彰	2	1年次		文-13
前期	火	1	82101	弘法大師空海の生涯（別）	空海の思想入門A	乾龍仁	2	1年次		文-1
通年	火	2	82201	真言宗典講読１（別）	祖典講読ⅠA	松長潤慶	4	1～2年次		文-14
					祖典講読ⅡA					文-14
通年	火	3	82301	真言宗典講読２（別）	祖典講読ⅢA	佐藤隆彦	4	1～2年次		文-18
					祖典講読ⅣA					文-19

2）実習科目（14）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
通年	木	2	84201	観法の理論と実習（別）	密教学講読演習B	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	4	1～2年次		文-20
					密教学講読演習C					文-20
通年	金	3	85302	梵字悉曇（別）	梵字悉曇A	齋藤天譽	2	1年次		文-33
通年	金	1	85101	声明（別）	声明	辻秀道	2	1年次		文-6
通年	水	4	83401	常用経典（別）	常用経典	宮田永明	2	1年次		文-6
通年	月	1	81101	法式（別）	法式	内海周浩	2	1年次		文-6
通年	火	4	82401	布教（別）	布教	近藤堯寛	2	1年次		文-6

3）実習科目（18）

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	振替科目	担当者	単位	履修年次	備考	頁
後期	水	4	83451	人権と福祉（別）	現代の人権	竹村和也	2	1～2年次		文-11
通年	金	2	85202	世界の宗教（別）	宗教学Ⅰ	奥山直司	4	1～2年次		文-35
					宗教学Ⅱ					文-36
通年	金	1	85102	宗教の歴史（別）	宗教史Ⅰ	土居夏樹	4	1～2年次		文-36
					宗教史Ⅱ					文-37
通年	金	2	85201	心の科学（別）	心理学ⅠA	戸來知子	4	1～2年次		文-8
					心理学ⅡA					文-9
前期	水	3	83301	寺院と法律（別）	企画科目（寺院経営講座）	加賀博	2	1～2年次		文-31
通年	火	4	82402	仏教芸術（別）	企画科目（仏画）	有松孝雄	2	1～2年次		文-30
前期	木	1	84102	哲学A（別）	人間と宗教	山脇雅夫	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	文-2
後期	月	3	81351	哲学B（別）	現代思想					文-2
前期	月	3	81301	社会保障A（別）	社会学Ⅱ	森本一彦	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	文-9
前期	木	4	84402	社会保障B（別）	社会保障総論Ⅱ	福本幹雄				文-9
前期	木	3	84301	地域福祉A（別）	社会福祉各論Ⅱ（地域福祉Ⅱ）	福本幹雄	4	1～2年次	A・Bは同年に履修すること	文-9
前期	木	4	84403	地域福祉B（別）	企画科目（地域連携）	森本一彦				文-17
通年	木	1	84101	サンスクリット語（別）	サンスクリット語ⅠA	徳重弘志	2	1～2年次		文-3
通年	木	4	84401	チベット語（別）	チベット語	テンジン・ウセル	2	1～2年次		文-32
通年	金	3	85301	声明上級（別）	企画科目（声明上級）	辻秀道	2	1～2年次		文-33
通年	月	1	81102	密教儀礼の理論と実習（別）	真言密教特殊講義A	中西雄泰	4	1～2年次		文-24
					真言密教特殊講義B	中西雄泰				文-24

講　義　概　要

・

授　業　計　画

科目名	空海の思想入門A／弘法大師空海の生涯（別）	学期	前期	単位数	2	担当者	乾　龍仁
副　題							

ナンバリング	G1-01-001	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4,5

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師（空海）の教えを建学の精神にしている。大師の教育思想は『性霊集』巻十にある「綜芸種智院式并びに序」に述べられているが、その背景には密教の思想がある。本授業では、大師の生涯とその思想に関する基礎的知識を学習し、併せて『般若心経』を通して仏教の基本的な用語についても学ぶ。

授業の到達目標

弘法大師（空海）の密教思想を学ぶための基礎的な知識を身につける。

授業計画

1．インドから世界に広まった仏教
2．釈尊の教え　（三宝、四諦八聖道、四法印）
3．般若心経とは１　（五蘊・十二処・十八界）
4．般若心経とは２　（色即是空・空即是色）
5．般若心経とは３　（十二因縁・涅槃と菩提・神呪（真言））
6．密教とその広がり
7．高野山の開創とその意義
8．弘法大師の生涯
9．青年時代の思想遍歴と『三教指帰』
10. 密教とは何か　（密教の相承系譜）
11. 顕教と比較した密教の特色
12. 密教の修行論　（即身成仏思想）
13. 十段階の心のあり方　（十住心の思想）
14. 弘法大師の教育思想とその教え
15. 密教経典としての般若心経

準備学習（予習・復習）・時間

次回の授業に関連する仏教に関連する人物や用語を課題に出すので、それらを調べてノートに書き時間に臨むこと（計 90 分以上）。

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①高神覚昇『般若心経講義』角川ソフィア文庫②中村元・紀野一義『般若心経・金剛般若経』岩波文庫③松長有慶『高野山』(岩波新書) 岩波書店④松長有慶『大宇宙に生きる』(中公文庫）中央公論新社、他

学生に対する評価

期末の筆記試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）般若心経を唱えることができ、仏教や密教の基本用語を覚えている。
（B）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを含む複数の参考書を見ながら自分の言葉で説明できる。
（S）仏教や弘法大師の思想の基本用語について、テキストを含む複数の参考書を見ずに自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

前回の授業の内容について質問し、また課題に挙げた人物や用語について答えてもらい理解度・学習度を確認する。

その他

授業中にノートをしっかり取ること。配布資料や参考文献の必要な箇所に赤線を引くこと。

科目名	導入研修	学期	前期	単位数	2	担当者	学科主任
副　題							

ナンバリング	G 1-20-002	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	密 1,2　人 1,3,4

授業の目的と概要

合宿による集中講義により、大学での学びを体験するとともに、グループによって活動することで、協調性を身に付ける。また、宗教体験を経験することで、自己を見つめる。

授業の到達目標

各自が高野山大学における学ぶ目的意識を持つとともに、学習の仕方を習得する。

授業計画

1．高野山、高野山大学について
2．宗教体験①金剛峯寺参拝
3．宗教体験②奥之院参拝
4．大学で学ぶ意義を考える
5．大学生活を考える
6．自己を理解する
7．ワークショップ①大学教育を考える
8．宗教体験③勤行
9．山内フィールドワーク
10. ワークショップ②将来像を考える
11. 宗教体験④写経
12. ワークショップ③大学での計画を立てる
13. ワークショップ④計画をプレゼンテーションする
14. 宗教体験⑦（報恩日）
15. 宗教体験⑧（宗祖降誕日）

準備学習（予習・復習）・時間

学習した内容、発表、討論やワークを踏まえて、内容について各自で整理する。(180 分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第２版』ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価

レポート（40%）、発表など授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）指示されたことが理解でき
（B）授業内容を理解した上で、積極的に行動する。
（A）グループをまとめ、リーダーシップを発揮することができる。
（S）大学で学ぶ意義を理解して、行動することができる。

課題に対するフィードバックの方法

各回ごとに質問を受けるとともに、提出されたレポートを添削する。

その他

・本講義は、密教学科・人間学科の 2019 年度以降の入学生は全員必修となっているので、必ず履修すること。
・本講義は、入学式後のオリエンテーション期間中を中心に開講されるが、７月までの宗教行事（報恩日、宗祖降誕日など）に２回以上に参加するともに、レポートを提出することによって単位を認定する。
・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブラーニングを行う。

科目名	英語Ⅰ	学期	通年	単位数	2	担当者	伊藤佳世子
副　題							

ナンバリング	G 1-07-003	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

本講義では、リーディングを中心に語彙・文法の実力を強化し、e-learning教材でリスニング力も伸ばしていく。またテキスト内容から多文化を理解する。

授業の到達目標

基本的な英文法を再確認しながら英訳できるようになる。あわせて web を使用してリスニングを演習する。

授業計画

【前期】
1．予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2．【文化と宗教】　e-learning リスニング
3．【海外ニュース】e-learning リスニング
4．【生活と社会】e-learning リスニング
5．【ビジネス・金融】e-learning リスニング
6．中間テストと講評
7．【文化と宗教】e-learning リスニング
8．【海外ニュース】e-learning リスニング
9．【生活と社会】e-learning リスニング
10. 【ビジネス・金融】e-learning リスニング
11. 【環境】e-learning リスニング
12. 【技術】e-learning リスニング
13. 【文化と宗教】e-learning リスニング
14. 前期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 総括とフィードバック

【後期】
1．【文化と宗教】e-learning リスニング
2．【海外ニュース】e-learning リスニング
3．【生活と社会】e-learning リスニング
4．【ビジネス・金融】e-learning リスニング
5．【環境】　　e-learning リスニング
6．中間テストと講評
7．【文化と宗教】e-learning リスニングト
8．【海外ニュース】e-learning リスニング
9．【生活と社会】e-learning リスニング
10. 【ビジネス・金融】e-learning リスニング
11. 【環境】e-learning リスニング
12. 【文化と宗教】e-learning リスニング
13. 【海外ニュース】e-learning リスニング
14. 後期まとめテストとリスニングガイダンス
15. 総括とフィードバック

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと（計 90 分以上）

テキスト

プリント教材を準備し、初回講義で配布する。

参考書・参考資料等

参考書は講義中に適宜紹介し、プリントは配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。毎回の小テスト（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）パラグラフ単位で英文を理解できる。
（A）短い会話のやり取りができるようになる。
（S）ある程度まとまった英文を読んで理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他

必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキスト（配布したプリント）とノート、辞書を持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ 5 回まで。講義開始 30 分を超えて入室した場合は欠席とする。ICT（理解度把握システム）を使用した科目である。

科目名	英語Ⅰ（再履修）	学期	通年	単位数	2	担当者	伊藤佳世子
副　題							

ナンバリング	G 2-07-004	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

基本的な英文法を学習し身につける、練習問題やロールプレイを用いて理解を深める。

授業の到達目標

基本的な英文法を理解し、簡単な英会話が運用できるようになること。

授業計画

【前期】
1．予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2．Lincenglish reading Lesson 1
3．Lincenglish Listening Lesson 1
4．Lincenglish reading Lesson 2
5．Lincenglish Listening Lesson 2
6．Lincenglish reading Lesson 3
7．中間テスト、解答と解説
8．Lincenglish reading Lesson 4
9．Lincenglish Listening Lesson 4
10. Lincenglish reading Lesson 5
11. Lincenglish Listening Lesson 5
12. Lincenglish reading Lesson 6
13. Lincenglish Listening Lesson 6
14. 前期まとめテスト　解答と解説
15. 前期フィードバック

【後期】
1．Lincenglish reading Lesson 7
2．Lincenglish Listening Lesson 7
3．Lincenglish reading Lesson 8
4．Lincenglish Listening Lesson 8
5．Lincenglish reading Lesson 9
6．Lincenglish Listening Lesson 9
7．Lincenglish reading Lesson 10
8．Lincenglish Listening Lesson 10
9．Lincenglish reading Lesson 11
10. Lincenglish Listening Lesson 11
11. Lincenglish reading Lesson 12
12. Lincenglish Listening Lesson 12
13. Lincenglish Listening Lesson 13
14. 後期まとめテスト　解答と解説
15. 年間を通した講義のフィードバック

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと（計 90 分以上）

テキスト

初回講義でプリントを配布する。

参考書・参考資料等

講義内で適宜プリントを配布する

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期･後期試験を加味して行う。毎回の小テスト（80%）、発表（10%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）パラグラフ単位で英文を理解できる。
（A）短い会話のやり取りができるようになる。
（S）ある程度まとまった英文を読んで理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他

必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ 5 回まで。講義開始 30 分を超えて入室した場合は欠席とする。ICT（理解度把握システム）を使用した科目である。

科目名	現代思想／哲学／哲学Ｂ（別）	学期	後期	単位数	2	担当者	山脇雅夫
副題							

ナンバリング	Ｇ 1-08-005	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

「人の間」と書いて「人間」と読むことは、私たち人間にとって他の人とのかかわりが本質的であることをよく示していると思われる。この授業では、人間関係に関する哲学的問題を中心に、現代に生きていくために必要な思想は何かを考える。

授業の到達目標

人間観の基礎を構築する

授業計画

1．赤ちゃんの人間認識
2．対人関係と言葉
3．自他の境界
4．いじめ
5．「自分」の定義
6．「愛」の諸相
7．聴くことの力
8．理解と誤解
9．自己犠牲は可能か？
10．待つことの意味
11．人間関係と時間色
12．死者との共存
13．切れ字の存在論
14．実存
15．住まうこと
16．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

参考文献の全体に自事前に目を通す。予告されている講義内容について、事前に考えておく（予習）。各講義の後で、自分の事前の予想と照合しながら講義内容を振り返る（復習）。（計 90 分以上）

テキスト

初回授業時説明する。

参考書・参考資料等

永井均『子どものための哲学対話』（講談社）

学生に対する評価

期末テスト（65%）、小テスト（20%）、授業参加への積極性（15%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義の内容を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法

テストにコメントを付し、返却する。

その他

科目名	人間と宗教／哲学Ａ（別）	学期	前期	単位数	2	担当者	山脇雅夫
副題							

ナンバリング	Ｇ 1-03-006	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

世界のさまざまな宗教を参照しながら、宗教学の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

本学で密教を学ぶために、宗教学の基礎知識を習得する。

授業計画

1．宗教学の成立
2．宗教の定義
3．宗教の原初形態
4．アニミズム、マナイズム
5．自然崇拝
6．宗教の類型
7．宗教の四大要素
8．教義の諸相①（人間観、世界観）
9．教義の諸相②（存在観）
10．宗教儀礼①（通過儀礼など）
11．宗教儀礼②（祭り）
12．葬制の諸類型
13．宗教体験①（ジェイムズによる整理）
14．宗教体験②（教祖という宗教体験）
15．現代社会における宗教 16. テスト・講評

準備学習（予習・復習）・時間

テキスト該当箇所を事前に研究しておく（予習）。講義内容を整理するとともに関連する文献を図書館で調べ研究する（復習）。（計 90 分以上）

テキスト

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよび小作文（30%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）宗教学の基本的概念を理解している。
（B）宗教学の基礎的概念を説明できる。
（A）宗教学の知識に基づいて、宗教学のより専門的な問題について自分で学習できる。
（S）宗教学の専門的知識に基づき、宗教の問題についての自分の見解を構築している。

課題に対するフィードバックの方法

テストにコメントを付し、返却する。

その他

科目名	漢文Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	南　昌宏
副題							

ナンバリング	Ｍ 1-07-007	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。返り点のとおりに読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。訓点･置き字･書き下し文･漢文の文法構造･再読文字･様々な否定の形･疑問文･反語。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。日本と中国との文化、現代社会と当時との相違について理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて、理解を深める。

授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語。

授業計画

1．送りがな・返り点（テキスト第 1 日）
2．書き下し文（1）（テキスト第 2 日）
3．書き下し文（2）（テキスト第 3 日）
4．熟語の構造（テキスト第 4 日）
5．漢文の構造（テキスト第 5 日）
6．再読文字（1）（テキスト第 7 日）
7．再読文字（2）（テキスト第 8 日）
8．否定の形（1）（テキスト第 10 日）
9．否定の形（2）（テキスト第 11 日）
10．否定の形（3）（テキスト第 12 日）
11．否定の形（4）（テキスト第 13 日）
12．疑問・反語の形（1）（テキスト第 15 日）
13．疑問・反語の形（2）（テキスト第 16 日）
14．復習（1）（テキスト第 1 日～第 8 日）
15．復習（2）（テキスト第 10 日～第 16 日）

準備学習（予習・復習）・時間

毎回、テキスト 2 ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。（60 分）

テキスト

佐藤雅一『発展 30 日完成（33）漢文高校初級用』（日栄社）　書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫　2010 年　など。

学生に対する評価

定期試験の得点を評点とする。60 点未満の場合は、宿題 1 枚を 1 点として加算し、60 点以上に達すれば、60 点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は 2 分の 1 欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	南　昌宏
副題							

ナンバリング	Ｍ 1-07-008	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加など。ほかに、漢文に特有な漢字の用法を習得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。日本と中国との文化、現代社会と当時との相違について理解する。同時に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および授業の到達目標

授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などのほか、漢文に特有な漢字の用法。

授業計画

1．疑問・反語の形（3）（テキスト第 17 日）
2．使役・受身の形（テキスト第 19 日）
3．比較選択・願望の形（テキスト第 20 日）
4．仮定・抑揚の形（テキスト第 21 日）
5．限定・累加の形（テキスト第 22 日）
6．文字の整理（1）（テキスト第 24 日）
7．文字の整理（2）（テキスト第 25 日）
8．文字の整理（3）（テキスト第 26 日）
9．文字の整理（4）（テキスト第 27 日）
10．文字の整理（5）（テキスト第 28 日）
11．文字の整理（6）（テキスト第 29 日）
12．復習（3）（テキスト第 17 日～第 20 日）
13．復習（4）（テキスト第 21 日～第 24 日）
14．復習（5）（テキスト第 25 日～第 27 日）
15．復習（6）（テキスト第 28 日～第 29 日）

準備学習（予習・復習）・時間

毎回、テキスト 2 ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。（60 分）

テキスト

佐藤雅一『発展 30 日完成（33）漢文高校初級用』（日栄社）　書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫　2010 年　など。

学生に対する評価

定期試験の得点を評点とする。60 点未満の場合は、宿題 1 枚を 1 点として加算し、60 点以上に達すれば、60 点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）宗訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は 2 分の 1 欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文	学期	通年	単位数	2	担当者	南　昌宏
副題							

ナンバリング	M 1-07-009	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

高校レベルの復習をする。返り点のとおりに読む練習、返り点を打つ練習から始める。テキストの問題は毎回の宿題とし、提出を義務とする。修得しなければならない文法は、以下のとおり。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加など。ほかに、漢文に特有な漢字の用法を習得する。あわせて、具体的な漢文を読み、テキストを参照しながら文法解説をする。漢文を読むことで、古代中国の文化を理解する。日本と中国との文化、現代社会と当時との相違について理解する。同字に、弘法大師空海と中国との関係、中国仏教および仏教漢文の特徴などについて、理解を深める。

授業の到達目標

漢文について、高校卒業レベルの能力を身に付ける。具体的には、以下の事項を修得することを目的とする。訓点・置き字・書き下し文・漢文の文法構造・再読文字・様々な否定の形・疑問文・反語・使役・受身・比較選択・願望・仮定・抑揚・限定・累加などのほか、漢文に特有な漢字の用法。

授業計画

【前期】
1．送りがな・返り点（テキスト第１日）
2．書き下し文（１）（テキスト第２日）
3．書き下し文（２）（テキスト第３日）
4．熟語の構造（テキスト第４日）
5．漢文の構造（テキスト第５日）
6．再読文字（１）（テキスト第７日）
7．再読文字（２）（テキスト第８日）
8．否定の形（１）（テキスト第 10 日）
9．否定の形（２）（テキスト第 11 日）
10．否定の形（３）（テキスト第 12 日）
11．否定の形（４）（テキスト第 13 日）
12．疑問・反語の形（１）（テキスト第 15 日）
13．疑問・反語の形（２）（テキスト第 16 日）
14．復習（１）（テキスト第１日～第８日）
15．復習（２）（テキスト第 10 日～第 16 日）

【後期】
1．疑問・反語の形（３）（テキスト第 17 日）
2．使役・受身の形（テキスト第 19 日）
3．比較選択・願望の形（テキスト第 20 日）
4．仮定・抑揚の形（テキスト第 21 日）
5．限定・累加の形（テキスト第 22 日）
6．文字の整理（１）（テキスト第 24 日）
7．文字の整理（２）（テキスト第 25 日）
8．文字の整理（３）（テキスト第 26 日
9．文字の整理（４）（テキスト第 27 日）
10．文字の整理（５）（テキスト第 28 日）
11．文字の整理（６）（テキスト第 29 日）
12．復習（３）（テキスト第 17 日～第 20 日）
13．復習（４）（テキスト第 21 日～第 24 日）
14．復習（５）（テキスト第 25 日～第 27 日）
15．復習（６）（テキスト第 28 日～第 29 日）

準備学習（予習・復習）・時間

毎回、テキスト２ページ分の説明を読み、問題を解き、採点し、解答の解説を読む。(60 分)

テキスト

佐藤雅一『発展 30 日完成（33）漢文高校初級用』（日栄社）　書店等で購入すること。

参考書・参考資料等

加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫　2010 年　など。

学生に対する評価

前期試験・後期試験のうち、高い得点を評点とする。60 点未満の場合は、宿題１枚を１点として加算し、60 点以上に達すれば、60 点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）訓点を機械的に扱える。
（B）基本的な文法に基づいて、訓点を扱える。
（A）訓点の付いた漢文を逐語訳することができる。
（S）訓点の付いた漢文を自然な口語訳にすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	サンスクリット語ⅠA／サンスクリット語A／サンスクリット語（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	徳重弘志
副題							

ナンバリング	M 1-07-010	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。
この授業は、受講生がサンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、インド古典に対する読解力を高めることを目的とする。

授業の到達目標

・サンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。
・サンスクリット語で記された古典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

授業計画

【前期】
1．イントロダクション(授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導)
2．文法（１）：文字と発音
3．文法（２）：名称詞の曲用（母音①）
4．文法（３）：名称詞の曲用（母音②）
5．文法（４）：名称詞の曲用（子音）
6．文法（５）：名称詞の曲用（比較法・代名詞）
7．文法（６）：名称詞の曲用（数詞）、不変化詞
8．文法（７）：動詞の活用（現在組織①）
9．文法（８）：動詞の活用（現在組織②）、連声法（Sandhi）
10．文法（９）：演習問題①（テキスト p. 34）
11．文法（10）：演習問題②（テキスト p. 38）
12．文法（11）：演習問題③（テキスト p. 40）準動詞
13．文法（12）：演習問題④（テキスト p. 45）名称詞造語法
14．文法（13）：演習問題⑤（テキスト p. 52）韻律
15．文法（14）：演習問題⑥（テキスト p. 64）、前期の講義内容の総括

【後期】
1．文法（15）：前期の講義内容の再確認（特に動詞の活用について）
2．文法（16）：演習問題⑦テキスト p. 73）、動詞の活用（アオリスト組織）
3．文法（17）：演習問題⑧（テキスト p. 75）、動詞の活用（完了組織）
4．文法（18）：演習問題⑨（テキスト pp. 81-82）、動詞の活用（未来組織）
5．読解（１）：Pañcatantra ①
6．読解（２）：Pañcatantra ②
7．読解（３）：Pañcatantra ③
8．読解（４）：Pañcatantra ④
9．読解（５）：Pañcatantra ⑤
10．読解（６）：Bhagavadgītā ①
11．読解（７）：Bhagavadgītā ②
12．読解（８）：Bhagavadgītā ③
13．読解（９）：Bhagavadgītā ④
14．読解（10）：Bhagavadgītā ⑤
15．後期の講義内容の総括

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（60 分）。
・事前学習として、指定した文章を現代日本語訳しておくこと（120 分）。

テキスト

吹田隆道、『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015 年。（書店で購入）

参考書・参考資料等

辻直四郎、『サンスクリット文法』、岩波書店、1974 年。

学生に対する評価

発表（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）文字の配列を理解し、辞書を引いて特定の単語の意味を調べることができる。
（B）基本的な文法事項を理解できている
（A）長文をある程度の精度で翻訳できる。
（S）長文を正確に翻訳できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。

その他

・前期の第２回目の授業までに、上記のテキストを購入すること。
・遅刻３回で欠席１回とみなす。
・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。

科目名	密教学基礎ゼミＡ１	学期	前期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副題							

ナンバリング	M 1-01-011	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	3,4,5

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。
密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。
受講生を３クラスに編成し、実施する。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。
②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。
③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画

1．大学で学問するために①－大学での学びとは－【合同】
2．大学で学問するために②－大学の授業での心構え－【合同】
3．大学で学問するために③－大学図書館を利用する－【合同】
4．密教を研究するために①－高野山の歴史１【櫻木】
5．密教を研究するために②－高野山の歴史２【櫻木】
6．密教を研究するために③－高野山の歴史３【櫻木】
7．密教を研究するために④－密教の修行１【佐藤】
8．密教を研究するために⑤－密教の修行２【佐藤】
9．密教を研究するために⑥－密教の修行３【佐藤】
10．密教を研究するために⑦－密教の仏像や仏画１【松長】
11．密教を研究するために⑧－密教の仏像や仏画２【松長】
12．密教を研究するために⑨－密教の仏像や仏画３【松長】
13．レポート・論文の書き方①－レポート・論文とは？－【合同】
14．レポート・論文の書き方②－レポート・論文を書くためのルール《基礎編》－【合同】
15．レポート・論文の書き方③－レポートを書いてみる－【合同】

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年）
②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年）
③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法藏館、1995 年）
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。
②受講者を３クラスに編成する。
③４回目から 12 回目までは各担当のクラスを３回毎にローテーションする。
④各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミＡ２	学期	後期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副題							

ナンバリング	M 1-01-012	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	3,4,5

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。
密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。
受講生を３クラスに編成し、実施する。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。
②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。
③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画

1．夏休みの成果の確認と後期の目標【合同】
2．大学で学問するために④－文献の読み方－【合同】
3．大学で学問するために⑤－文献を要約する－【合同】
4．密教を研究するために⑩－弘法大師とその時代１【櫻木】
5．密教を研究するために⑪－弘法大師とその時代２【櫻木】
6．密教を研究するために⑫－弘法大師とその時代３【櫻木】
7．密教を研究するために⑬－密教の事相１【佐藤】
8．密教を研究するために⑭－密教の事相２【佐藤】
9．密教を研究するために⑮－密教の事相３【佐藤】
10．密教を研究するために⑯－密教の美術１【松長】
11．密教を研究するために⑰－密教の美術２【松長】
12．密教を研究するために⑱－密教の美術３【松長】
13．レポート・論文の書き方④－レポート・論文を書くためのルール《中級編》－【合同】
14．レポート・論文の書き方⑤－レポート・論文を書くためのルール《中級編》－【合同】
15．レポート・論文の書き方⑥－レポートを書いてみる－【合同】

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年）
②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年）
③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法藏館、1995 年）
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。
②受講者を３クラスに編成する。
③４回目から１２回目までは各担当のクラスを３回毎にローテーションする。
④各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミＢ１	学期	前期	単位数	2	担当者	松 長 潤 慶
副　題							

ナンバリング	M 1-01-013	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	3,4,5

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。
密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。
受講生を３クラスに編成し、実施する。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。
②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。
③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画

1．大学で学問するために①－大学での学びとは－【合同】
2．大学で学問するために②－大学の授業での心構え－【合同】
3．大学で学問するために③－大学図書館を利用する－【合同】
4．密教を研究するために①－密教の仏像や仏画１【松長】
5．密教を研究するために②－密教の仏像や仏画２【松長】
6．密教を研究するために③－密教の仏像や仏画３【松長】
7．密教を研究するために④－高野山の歴史１【櫻木】
8．密教を研究するために⑤－高野山の歴史２【櫻木】
9．密教を研究するために⑥－高野山の歴史３【櫻木】
10．密教を研究するために⑦－密教の修行１【佐藤】
11．密教を研究するために⑧－密教の修行２【佐藤】
12．密教を研究するために⑨－密教の修行１【佐藤】
13．レポート・論文の書き方①－レポート・論文とは？－【合同】
14．レポート・論文の書き方②－レポート・論文を書くためのルール《基礎編》－【合同】
15．レポート・論文の書き方③－レポートを書いてみる－【合同】

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年）
②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年）
③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法藏館、1995 年）
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。
②受講者を３クラスに編成する。
③４回目から１２回目までは各担当のクラスを３回毎にローテーションする。
④各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミＢ２	学期	後期	単位数	2	担当者	松 長 潤 慶
副　題							

ナンバリング	M 1-01-014	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	3,4,5

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。
密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。
受講生を３クラスに編成し、実施する。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。
②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。
③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画

1．夏休みの成果の確認と後期の目標【合同】
2．大学で学問するために④－文献の読み方－【合同】
3．大学で学問するために⑤－文献を要約する－【合同】
4．密教を研究するために⑩－密教の美術１【松長】
5．密教を研究するために⑪－密教の美術２【松長】
6．密教を研究するために⑫－密教の美術３【松長】
7．密教を研究するために⑬－弘法大師とその時代１【櫻木】
8．密教を研究するために⑭－弘法大師とその時代２【櫻木】
9．密教を研究するために⑮－弘法大師とその時代３【櫻木】
10．密教を研究するために⑯－密教の事相１【佐藤】
11．密教を研究するために⑰－密教の事相２【佐藤】
12．密教を研究するために⑱－密教の事相３【佐藤】
13．レポート・論文の書き方④－レポート・論文を書くためのルール《中級編》－【合同】
14．レポート・論文の書き方⑤－レポート・論文を書くためのルール《中級編》－【合同】
15．レポート・論文の書き方⑥－レポートを書いてみる－【合同】

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年）
②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年）
③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法藏館、1995 年）
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。
②受講者を３クラスに編成する。
③４回目から１２回目までは各担当のクラスを３回毎にローテーションする。
④各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミＣ１	学期	前期	単位数	2	担当者	佐 藤 隆 彦
副　題							

ナンバリング	M 1-01-015	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	3,4,5

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。
密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。
受講生を３クラスに編成し、実施する。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。
②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。
③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画

1．大学で学問するために①－大学での学びとは－【合同】
2．大学で学問するために②－大学の授業での心構え－【合同】
3．大学で学問するために③－大学図書館を利用する－【合同】
4．密教を研究するために①－密教の修行１【佐藤】
5．密教を研究するために②－密教の修行２【佐藤】
6．密教を研究するために③－密教の修行３【佐藤】
7．密教を研究するために④－密教の仏像や仏画１【松長】
8．密教を研究するために⑤－密教の仏像や仏画２【松長】
9．密教を研究するために⑥－密教の仏像や仏画３【松長】
10．密教を研究するために⑦－高野山の歴史１【櫻木】
11．密教を研究するために⑧－高野山の歴史２【櫻木】
12．密教を研究するために⑨－高野山の歴史３【櫻木】
13．レポート・論文の書き方①－レポート・論文とは？－【合同】
14．レポート・論文の書き方②－レポート・論文を書くためのルール《基礎編》－【合同】
15．レポート・論文の書き方③－レポートを書いてみる－【合同】

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年）
②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年）
③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法藏館、1995 年）
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。
②受講者を３クラスに編成する。
③４回目から１２回目までは各担当のクラスを３回毎にローテーションする。
④各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

科目名	密教学基礎ゼミＣ２	学期	後期	単位数	2	担当者	佐 藤 隆 彦
副　題							

ナンバリング	M 1-01-016	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	3,4,5

授業の目的と概要

本授業は、大学での学び、すなわち「学問する」とはどういうことなのかを身につけるとともに、密教を研究するための基礎的な知識と視座を身につける入門講座である。
密教を研究するには、さまざまな視点と可能性があることを知り、密教をガクモンすることの意義と、それぞれが高野山大学で学ぶことの目的を見出すことを目指す。
受講生を３クラスに編成し、実施する。

授業の到達目標

①学問する意義を理解し、そのための基礎的なルールを身につける。
②密教を研究するためにはどのような視点があるのかを理解し、基礎的知識を修得する。
③①・②をふまえて高野山大学での４年間の目標を設定する。

授業計画

1．夏休みの成果の確認と後期の目標【合同】
2．大学で学問するために④－文献の読み方－【合同】
3．大学で学問するために⑤－文献を要約する－【合同】
4．密教を研究するために⑩－密教の事相１【佐藤】
5．密教を研究するために⑪－密教の事相２【佐藤】
6．密教を研究するために⑫－密教の事相３【佐藤】
7．密教を研究するために⑬－密教の美術１【松長】
8．密教を研究するために⑭－密教の美術２【松長】
9．密教を研究するために⑮－密教の美術３【松長】
10．密教を研究するために⑯－弘法大師とその時代１【櫻木】
11．密教を研究するために⑰－弘法大師とその時代２【櫻木】
12．密教を研究するために⑱－弘法大師とその時代３【櫻木】
13．レポート・論文の書き方④－レポート・論文を書くためのルール《中級編》－【合同】
14．レポート・論文の書き方⑤－レポート・論文を書くためのルール《中級編》－【合同】
15．レポート・論文の書き方⑥－レポートを書いてみる－【合同】

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業内容について、関連することがらを調べるとともに、キーワードなどをノートに整理しておくこと（90 分）

テキスト

全体としてのテキストは使用せず、担当者からそれぞれ指示をする。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教』（岩波新書〔新赤版〕179、岩波書店、1991 年）
②松長有慶『高野山』（岩波新書〔新赤版〕1508、岩波書店、2014 年）
③松長有慶編『密教を知るためのブックガイド』（法藏館、1995 年）
④その他、担当者から関係する分野の文献や資料などを適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教を研究するための基礎的な知識を修得する。
（B）密教を研究するための方法について、はば広い視野に立って理解する力を身につける。
（A）密教を研究する意義を理解し、さまざまな視点から密教に対する関心を深める。
（S）密教を研究する意義を理解し、高野山大学で何を学ぶのかについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①高野山大学での学びの基礎となる授業であるため、出席を重視する。３分の１以上、欠席すると評価の対象とならない。
②受講者を３クラスに編成する。
③４回目から１２回目までは各担当のクラスを３回毎にローテーションする。
④各回の授業テーマや担当者は一部変更することもある。

科目名	人間学基礎ゼミⅠA	学期	前期	単位数	2	担当者	森 本 一 彦
副　題							

ナンバリング	N 1-19-017	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

高校とは違う大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業の到達目標

大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。

授業計画

1．大学の学び方
2．ノートの取り方（1）授業内容を正確に理解する
3．ノートの取り方（2）キーワードを中心に整理する
4．配布資料の整理と使い方
5．予習・復習の必要性
6．本の読み方（1）全体像を理解する
7．本の読み方（2）内容を要約する
8．レポートの作成の仕方（1）論文の書式
9．レポートの作成の仕方（2）文章構成
10．レポートの作成の仕方（3）分かりやすい文章
11．資料の検索（1）図書館の利用
12．資料の検索（2）インターネットの利用
13．レポート作成の実践（1）論文を要約する
14．レポート作成の実践（2）意見文を書く
15．レポート作成の実践（3）課題にしがって文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配布プリントを読んで、理解する（30 分）。毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること（60 分）。

テキスト

プリントを配布する

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第２版』ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価

最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

その他

・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。
・授業に出席することは当然であるが、大学４年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。
・デスカッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	人間学基礎ゼミⅠB	学期	前期	単位数	2	担当者	山 脇 雅 夫
副　題							

ナンバリング	N 1-20-018	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

高校とは違う大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業の到達目標

大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。

授業計画

1．大学の学び方
2．ノートの取り方（1）授業内容を正確に理解する
3．ノートの取り方（2）キーワードを中心に整理する
4．配布資料の整理と使い方
5．予習・復習の必要性
6．本の読み方（1）全体像を理解する
7．本の読み方（2）内容を要約する
8．レポートの作成の仕方（1）論文の書式
9．レポートの作成の仕方（2）文章構成
10．レポートの作成の仕方（3）分かりやすい文章
11．資料の検索（1）図書館の利用
12．資料の検索（2）インターネットの利用
13．レポート作成の実践（1）論文を要約する
14．レポート作成の実践（2）意見文を書く
15．レポート作成の実践（3）課題に従って文章を書く

準備学習（予習・復習）・時間

シラバスに予告された内容を事前に検討し、学習目標を自覚しておく（予習）。学習内容を振り返り、定着を図るとともに、授業で行ったトレーニングを自分でも実行する（復習）。（計 90 分以上）

テキスト

プリントを配布する

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第２版』ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価

最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。
・授業に出席することは当然であるが、大学４年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。

科目名	人間学基礎ゼミⅡA	学期	後期	単位数	2	担当者	森 本 一 彦
副　題							

ナンバリング	N 1-19-019	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

人間学基礎ゼミⅠに続いて、大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業の到達目標

大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。

授業計画

1．発表するには
2．データの収集（1）データの種類を説明する
3．データの収集（2）具体的な収集方法を説明する
4．データの記録（1）メモ
5．データの記録（2）写真
6．データの記録（3）動画
7．データと思考の整理
8．レジュメの作成（1）レジュメの書式
9．レジュメの作成（2）分かりやすいレジュメ
10．パワーポイントの作成（1）パワーポイントの基礎
11．パワーポイントの作成（2）発表のためのパワーポイント
12．発表の実践（1）課題に対する発表
13．発表の実践（2）意見を発表する発表
14．討論（1）課題に関する討論
15．討論（2）他の報告に対する討論

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配布プリントを読んで、理解する（30 分）。毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること（60 分）。

テキスト

プリントを配布する

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第２版』ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価

最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

その他

・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。
・授業に出席することは当然であるが、大学４年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。
・デスカッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	人間学基礎ゼミⅡB	学期	後期	単位数	2	担当者	山 脇 雅 夫
副　題							

ナンバリング	N 1-20-020	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

人間学基礎ゼミⅠに続いて、大学での学び方を説明するとともに、実際にそれを体験することで習慣化する。

授業の到達目標

大学での学び方を理解し、授業を受けられるようになる。

授業計画

1．発表するには
2．データの収集（1）データの種類を説明する
3．データの収集（2）具体的な収集方法を説明する
4．データの記録（1）メモ
5．データの記録（2）写真
6．データの記録（3）動画
7．データと思考の整理
8．レジュメの作成（1）レジュメの書式
9．レジュメの作成（2）分かりやすいレジュメ
10．パワーポイントの作成（1）パワーポイントの基礎
11．パワーポイントの作成（2）発表のためのパワーポイント
12．発表の実践（1）課題に対する発表
13．発表の実践（2）意見を発表する発表
14．討論（1）課題に関する討論
15．討論（2）他の報告に対する討論

準備学習（予習・復習）・時間

シラバスに予告された内容を事前に検討し、学習目標を自覚しておく（予習）。学習内容を振り返り、定着を図るとともに、授業で行ったトレーニングを自分でも実行する（復習）。（計 90 分以上）

テキスト

プリントを配布する

参考書・参考資料等

田中共子編『よくわかる学びの技法第２版』ミネルヴァ書房、2009 年

学生に対する評価

最終レポート（50%）、授業内および授業外での課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明したことが理解できている。
（B）授業で説明したことが実際にできる。
（A）授業で説明したことを活かして、レポートが作成できる。
（S）授業外でも積極的に学ぶことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

・基礎ゼミは、人間学科の学生は必修科目であるので、必ず履修すること。
・授業に出席することは当然であるが、大学４年間の生活を有意義に過ごすために、積極的に取り組むこと。

科目名	常用経典／常用経典（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	宮田永明
副題							

ナンバリング	M 1-01-021	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1,3,5

授業の目的と概要

『理趣経』、『観音経』、『梵網経』を中心に、寺院日常の勤行･法要などに用いる諸経典の読誦法を習得し、順次『般若心経』や『立義分』など短い偈文などを暗誦できるように務める。『真言宗常用諸経要聚』等の経典に用いられている仏教用語の基礎的理解を助け、経典が描く仏教・密教的世界観が理解しやすくなるようなるべく簡単に用語の概説をおこなう。また、僧侶志望者の必要性を鑑み、四度加行に用いる『観音経』、『梵網経』『金胎礼懺』「三陀羅尼」『梵讃』に務める。

授業の到達目標

『理趣経』、『梵網経』、礼懺、三陀羅尼、般若心経、立義分、諸真言等が読誦できる様に務める。受戒・加行などへの参加者の必要性に伴い、必要となる諸経の認識と理解に努める。

授業計画

【前期】
1．経典や偈文の読誦法の解説と練習
（開経偈）（懺悔文）
2．経典や偈文の読誦法の解説と練習
（礼文）（般若心経）
3．経典や偈文の読誦法の解説と練習（理趣経）
4．経典や偈文の読誦法の解説と練習（理趣経）
5．経典や偈文の読誦法の解説と練習（梵網経）
6．経典や偈文の読誦法の解説と練習（梵網経）
7．経典や偈文の読誦法の解説と練習（金・胎礼懺）
8．経典や偈文の読誦法の解説と練習（金・胎礼懺）
9．経典や偈文の読誦法の解説と練習（観音経）
10．経典や偈文の読誦法の解説と練習（観音経）
11．経典や偈文の読誦法の解説と練習
（立義分）（九条錫杖）
12．経典や偈文の読誦法の解説と練習
（立義分）（九条錫杖）
13．経典や偈文の読誦法の解説と練習
（梵讃・三陀羅尼）（諸真言）
14．経典や偈文の読誦法の解説と練習
（梵讃・三陀羅尼）（諸真言）
15．試験と講評

【後期】
1．前期の復習と補足解説
（開経偈）（懺悔文）（礼文）
2．前期の復習と補足解説（理趣経）
3．前期の復習と補足解説（理趣経）
4．前期の復習と補足解説（金・胎礼懺）
5．前期の復習と補足解説（金・胎礼懺）
6．前期の復習と補足解説（観音経）
7．前期の復習と補足解説
（梵讃・三陀羅尼）（諸真言）
8．前期の復習と補足解説（梵網経）・外
9．前期の復習と補足解説（般若心経）・外
10．前期の復習と補足解説（般若心経）・外
11．前期の復習と補足解説（立義分）・外
12．前期の復習と補足解説（立義分）・外
13．『般若心経秘鍵』を読む
14．『般若心経秘鍵』を読む
15．試験と講評

準備学習（予習・復習）・時間

実技実習の習得を求める。復習の習熟が必要。(30 分程度)

テキスト

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を用いる。その他、資料を配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

実技（50%）・筆記試験（30%）、授業態度（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『理趣経』が滞りなく読める。
（B）『理趣経』、三陀羅尼が読め、梵讃が暗唱できる。
（A）常用経典のほぼ主要な経典が読め、概略の理解がある。
（S）常用経典のほぼ主要な経典が読め、特に諸経の理解に優れている。本人にとって以後の展望が見込める。

課題に対するフィードバックの方法

質問等はその都度対応する。テストの次回授業時フィードバックを行う。

その他

講義には、念珠と輪袈裟、中川善教編『真言宗常用諸経要聚』を持参すること。他の経本は授業を進める上で（ページの指示・訂正箇所の不一致など）時間のロスが多くなる。経典の不所持は、出席を認めない。受講拒否とみなす。IC レコーダー等の用意が有れば使用を許可する。なるべく持って来ることを勧める。伽藍の金堂で開増される「結縁灌頂」に入壇することを原則として義務付ける。これは法会の中でどの様に用いられているか、実際上知ってもらう為である。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり、高野山山内住職であって、元伽藍維那職で諸法会に携わった経験と、高野山大学受戒会の伝戒阿闍梨、及び高野山大学加行傳授大阿闍梨を務めた経験がある教員が真言宗僧侶として、常に用いる諸経を通じて、経典に対する宗教者としての受講者各人が、実際上の讀誦技術の向上と内容理解の重要性を認識出来るよう授業する。

科目名	声明／声明（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	辻　秀道
副題							

ナンバリング	M 1-01-022	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

日本音楽の基礎となった仏教音楽の「声明」。我々が法要などで用いる「南山進流」声明を基礎（楽理を含む）の導入部分から学ぶ。

授業の到達目標

法要の基本となる「理趣三昧法会」で使われる声明を研鑽する。

授業計画

【前期】
1．声明の楽譜、音階、唱え方（旋律型）の解説・テキスト『南山進流声明類聚・附伽陀』
2．三礼
3．四智梵語（1）
4．四智梵語（2）
5．大日讃（1）
6．大日讃（2）
7．不動讃
8．四智漢語（1）
9．四智漢語（2）
10．心略漢語（1）
11．心略漢語（2）
12．仏讃（1）
13．仏讃（2）
14．前期試験と講評
15．散華（初段目）（1）

【後期】
1．散華（初段目）（2）
2．散華（二段目）（1）
3．散華（二段目）（2）
4．散華（二段目）（3）
5．散華（三段目）（1）
6．散華（三段目）（2）
7．対揚（1）
8．対揚（2）
9．対揚（3）
10．唱礼（金剛界）（1）
11．唱礼（2）
12．唱礼（3）
13．唱礼（4）
14．後期試験と講評
15．唱礼（5）中曲（頭の部分のみ）

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだ唱え方に関して練習をしておくこと（90 分）

テキスト

宮野宥智編『南山進流声明類聚・附伽陀』を松本日進堂にて事前に購入する事。【必ず 1 講目授業より持参すること。】　（注、必ず同一内容の声明類聚で、できるだけ新しく購入した本を準備する事）

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介する。

学生に対する評価

前期試験（40%）、授業参加の積極性（20%）、後期試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）南山進流声明を、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（B）南山進流声明の楽譜や唱え方を概ね理解し、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（A）理趣三昧法会の声明を概ね理解し、一人で唱える事が出来る。
（S）南山進流声明の理論・唱え方を理解し、理趣三昧法会の声明を一人で唱える事が出来る。

課題に対するフィードバックの方法

筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。声明は毎週の積み重ねとなるので、できる限り欠席しない様にすること。

その他

筆記用具は鉛筆（シャープペンシル）等、後で修正出来る筆記用具を必ず持参すること。声明は毎週の積み重ねとなるので、できる限り欠席しない様にすること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校･尼僧學院･大学に於ける声明授業の授業経験。音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	法式／法式（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	内海周浩
副題							

ナンバリング	M 1-01-023	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

真言宗の僧侶として法式の基礎知識を理解する。

授業の到達目標

真言宗の僧侶として必要な道場荘厳・壇荘厳の基礎知識と意識を理解し、説明できるようになる。

授業計画

【前期】
1．講義内容の説明
2．道場荘厳の解説について（1）
事相と教相
3．道場荘厳の解説について（2）
荘厳の目的と心構え
4．道場荘厳の解説について（3）
道場荘厳の歴史
5．道場荘厳の解説について（4）
祀り方の実際
6．道場荘厳の解説について（5）
道場荘厳具の説明
7．道場荘厳の解説について（6）
道場荘厳具の説明
8．道場荘厳の解説について（7）
密壇荘厳具の説明
9．道場荘厳の解説について（8）
密壇荘厳具の説明
10．六種供養について（1）　供養の基本
11．六種供養について（2）　供養の内容
12．六種供養について（3）　供養の意義
13．六種供養について（4）　供養の意義
14．道場荘厳見学
15．試験と総括

【後期】
1．講義内容の説明
2．真言宗の本尊について
3．真言宗の八祖について
4．壇荘厳の解説について（1）
壇荘厳の意義と歴史
5．壇荘厳の解説について（2）
壇の形式と種類
6．壇荘厳の解説について（3）
大壇荘厳具の説明と意義
7．壇荘厳の解説について（4）
大壇荘厳具の説明と意義
8．壇荘厳の解説について（5）
大壇荘厳具の説明と意義
9．壇荘厳の解説について（6）
大壇荘厳具の説明と意義
10．壇荘厳の解説について（7）
大壇荘厳具の説明と意義
11．壇荘厳の解説について（8）
大壇荘厳具の説明と意義
12．壇荘厳の解説について（9）
大壇荘厳具の説明と意義
13．壇荘厳の解説について（10）　総括
14．壇荘厳見学
15．試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）

テキスト

前期：『真言宗の事作法』教務課にて購入のこと。
後期：授業時にプリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

大山公淳著『真言宗法儀解説＜新装版＞』東方出版、平成 24 年

学生に対する評価

定期試験（80%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語を覚えている。
（B）道場荘厳・壇荘厳に関する基本用語の理解が出来ている。
（A）道場荘厳・壇荘厳の様式について理解が出来ている。
（S）道場荘厳・壇荘厳の基礎を理解した上で、説明することが出来る。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、真言宗の法式について、講義や道場見学を通してその重要性を認識させる。

科目名	布教／布教A／布教（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	近藤堯寛
副題							

ナンバリング	M 1-01-024	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1,3

授業の目的と概要

本講義は布教初心者の科目である。布教の知識と方法を学び、空海名言に基づいた法話の作成方法を身につける。卒業後は人々に弘法大師や真言密教の教えを伝えられるようにする。特に寺院師弟は直ちに本堂や法事などで法話を行なえるように自信をつけさせることがこの授業の目的である。

授業の到達目標

布教原理の学習と実習を通して伝道の重要性を認識し、真言法話を語れるようになる。

授業計画

【前期】
1．布教の原理
2．世界の宗教
3．宗教と科学
4．釈尊成道と初転法輪
5．説法の方法
6．弘法大師胎動
7．入唐の準備
8．入唐の風景
9．師資相承
10．密教伝来
11．真言密教の宣布
12．供養と信仰
13．遍路・巡礼
14．原稿の書き方①
15．原稿の書き方②

【後期】
1．駐在布教の見学
2．提出レポートの感想
3．布教の心得と発声練習
4．三分法話（実習）
5．発表布教①
6．発表布教②
7．発表布教③
8．発表布教④
9．発表布教⑤と再発表
10．発表の所感
11．般若心経の法話①
12．般若心経の法話②
13．観音経の法話①
14．観音経の法話②
15．総括

準備学習（予習・復習）・時間

講義の『空海名言辞典』項目を正しく読めるように、かつ理解をしておくこと。法話に関する書籍を週一時間以上は読むこと。

テキスト

近藤堯寛著『空海名言辞典付・現代語訳』高野山出版社／配布プリント

参考書・参考資料等

授業中の質疑応答（20%）・文書レポート（30%）・発表布教（50%）で評価する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の基本用語が読み書きできて、その意味を語ることができる。
（B）資料や原稿を見ながら真言密教の法話ができる。
（A）空海名言をベースにした体験談や例話をまじえた法話ができる。
（S）指定された空海名言の法話を創作して、それを人々に語って共感させることができる。

課題に対するフィードバックの方法

発表者の内容について、学生からも感想を述べたり、一つの課題について数人の学生が教壇で語りあったり、三分間スピーチなどによって法話を人の前で語る体験をする。

その他

現代布教とは、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を利用することである。集めた資料は、推敲とヒラメキと直感によって個性的な内容になる。書き方と話し方にはコツがある。布教B（詠歌）と両方受講することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として寺院で日常的に語る法話について、布教原理の学習と実習を通して伝道の重要性を認識させる。布教の知識と方法を学び、実際に法話づくりをする科目である。

科目名	企画科目（詠歌）／布教Ｂ（詠歌）	学期	通年	単位数	2	担当者	辻　秀道 本間克佰 西山宝性
副　題							

ナンバリング	M 1-01-025	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

御詠歌の唱え方や理論や歴史を学びながら、その他の宗教音楽にもふれる。布教活動の実践の参考となるよう学外授業も交えながら楽しい御詠歌をめざす。

授業の到達目標

御詠歌を中心に宗教音楽を学び布教活動の実践に生かせる。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション・各種使用テキストと法具の説明・詠階説明
2．いろは歌／追弔和讃（1）
　詠歌、和讃の概略と歴史
3．いろは歌／追弔和讃（2）
4．詠歌理論／宗教音楽Ⅰ
5．生誕
6．入定和讃・竜華（1）
7．入定和讃・竜華（2）
8．個人発表
9．相互供養和讃。立行（1）
10．相互供養和讃。立行（2）
11．誕生和讃（1）
12．誕生和讃（2）
13．心経和讃
14．前期曲の総括復習
15．前期実技テスト

【後期】
1．相互供養和讃、所作全般（立行）
2．布教活動と実践
3．天地のまこと（1）
4．天地のまこと（2）
5．楽理／宗教音楽
6．光明（1）
7．光明（2）
8．個人発表
9．修行和讃Ⅱ
10．個人発表
11．楽理／宗教音楽
12．入唐求法和讃（1）
13．入唐求法和讃（2）
14．後期曲の復習（実技テストの確認の為）
15．実技テスト／レポート提出／講評

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだ曲に関して声を出して練習をしておくこと（60 分）

テキスト

オリエンテーション時に購入書・法具等の説明をする。

参考書・参考資料等

オリエンテーション時参考書を指示する。

学生に対する評価

前期実技発表（40%）、後期実技発表（40%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）他の人と一緒に唱える事が出来る。
（B）一人でお唱えだけ出来る。
（A）２～３曲を安定して唱え、所作も少し出来る。
（S）一人で数曲を安定して唱える事ができ、所作もできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

布教Ａと両方受講することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の住職である教員が、僧侶としての経験と、長年にわたる御詠歌の実務実績、指導実績を踏まえた講師により、御詠歌を通して布教の重要性を認識させる。高野山内寺院の住職である教員が、高等学校、尼僧学園等の指導実績を踏まえ宗教音楽について指導する。

科目名	漢字Ⅰ	学期	通年	単位数	2	担当者	野田　悟
副　題							

ナンバリング	M 1-06-026	授業方法	実技	実務経験の有無	無	関連 DP	2,3,4

授業の目的と概要

本講座は実践により、現在世界的にも特異な表意文字の重要性を理解することを思想の根底とする。古典の臨書を基本から学ぶことにより、書学において徹底的な法帖の形臨を土台に、背臨を経て文字結構の時代的特徴を認識し、自己批評や学生間での相互批評をもって最後は個々に作品課題の制作を行う。方法としては、手本を書いたり、添削をしたりせず、客観的な視点に立ち、受講生自身での発見からの実践を目的とした国内の他大学にはない中国の伝統的書道教育を根底にした指導を行う。授業はすべて繁体字（旧漢字）をもって理解する。また書道学・漢字学を通して、東洋を中心とした美術学・史学・文学・哲学及び仏教学（密教学をも含む）等他の学問分野に関連する意識を最重要視する。

授業の到達目標

1．「眼高手低、手高眼低」を書学原点として、各時代における古典臨書の基本的認識。2．漢字を扱う上での歴史的関連性の認識。3．最終的に作品創作をもって臨書で培った基礎を理解する。4．縁に囲まれた自然豊かな高野山において日本の書聖空海を実践でもって感じる意識を持つ。5．繁体字（旧漢字）の理解を持ち古代文献を扱う基礎とする。

授業計画

【前期】
1．ガイダンスによる書を学ぶ上での注意点及び漢字の歴史の概要
2．顔真卿「多寶塔碑」の形臨
　（２回目の受講生は「張猛龍碑」）①
3．顔真卿「多寶塔碑」の形臨（〃）②
4．顔真卿「多寶塔碑」の形臨（〃）③
5．褚遂良「雁塔聖教序」の形臨
　（２回目の受講生は「張玄墓誌」）①
6．褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（〃）②
7．褚遂良「雁塔聖教序」の形臨（〃）③
8．前半半紙臨書作品の提出。
9.二つの法帖を比較臨書（形臨及び背臨）
10．自分で法帖を１つに絞り、自身の考えた方法で創作に繋がる練習を行う。
11．背臨課題における自身の理解度を確認する。
12．写経創作①（歴史的写経の意義）
13．写経創作②（写経体や異体字の認識）
14．写経創作③（願文の書き方）
15．予備（作品提出までの再度確認及び反復練習）

【後期】
1．『嶧山刻石』の形臨（２回生以上は『礼器碑』）①
2．『嶧山刻石』の形臨（〃）②)
3．『嶧山刻石』の形臨（〃）③
4．鄧石如『白氏草堂記』
　（２回生以上は『礼器碑』以外を自分で選択）①
5．鄧石如『白氏草堂記』（〃）の形臨②
6．鄧石如『白氏草堂記』（〃）の形臨③
7．前半半紙臨書作品の提出。呉讓之『崔子玉座右銘』の形臨①
8．呉讓之『崔子玉座右銘』（〃）の形臨②
9．呉讓之『崔子玉座右銘』（〃）の形臨③
10．自分で法帖を１つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。①
11．自分で法帖を１つに絞り再度臨書（形臨及び背臨）する。②
12．半切の制作に至る独自の練習①
13．半切の制作に至る独自の練習②
14．半切の制作に至る独自の練習③
15．予備（作品提出までの再度確認及び反復練習）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の授業に備える。(120 分以上)

テキスト

・二玄社法書選（二玄社）：40 顔真卿『多寶塔碑』、34 褚遂良『雁塔聖教序』/56『鄧石如集』、58『呉熙載集』２回目の受講生……23『張猛龍碑』、26『墓誌銘集・下』/ 3『石門頌』、5『礼器碑』、8『曹全碑』、9『張遷碑』※写経用紙セット LA26-59（各書店にて購入）

参考書・参考資料等

・字書:『字源』、伏見冲敬編『書道字典』（角川書店）、『清人篆隷字典』（雄山閣）等・その他必要に応じてプリントを配布する。

学生に対する評価

基本的に提出作品による評価。(素点)

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）法帖の形臨ができる。
（B）学んだ法帖の背臨ができる。
（A）臨書を基にした高いレベルでの創作ができる。
（S）自身で研究した長落款（跋文）を含めた高いレベルでの創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・休み時間の間に毎回の課題作品を前に貼ってもらい、授業の前半部分でフイードバックを行う。・毎回の課題は作品（レポート）として再提出事前に返却し、すべて纏めて各自自身の向上を確認し提出する。

その他

・筆（太筆・細筆）、墨（原則として墨汁は許可しない）、半紙用毛氈、半紙、文鎮は個々に準備のこと（ガイダンス時に詳しく説明する）。また創作用の半切画宜紙の使用については、レベルに合わせて個々に指示をする。
・書道実技の講座として、毎回の課題が課され、授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。・休み時間のうちにすべての準備を済ませる。・授業の理解度や学生の努力度により、予定が変更される場合有り。

科目名	かなⅠ	学期	通年	単位数	2	担当者	塩野三恵子
副　題							

ナンバリング	M 1-06-027	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1,3

授業の目的と概要

【前期】日本独自の文字「かな」の成立の歴史を知り、その字母を覚える。かな文字の形や用筆・運筆を理解し正しく表現する技術を身につける。単体から連綿を学び、行書きから散らし書きへと発展させ作品に仕上げる。
【後期】かな古筆を臨書する意義と心得を理解する。かな１では高野山に伝来した「高野切」という古筆を中心に学ぶ。「高野切」の名の由来を知る。中身は『古今和歌集』を書いたものであり、その書風は仮名書道の最高峰として古来尊重される。日本書道史上もきわめて重要な作品であることを知り、書かれた料紙と体裁を学ぶ。「高野切第一種」「高野切第二種」「高野切第三種」３種類のそれぞれの書風を学び、特徴を理解し、読み取る力を養う。古筆の臨書をすることによりかなの基礎力を身につける。

授業の到達目標

【前期】「かな」成立の歴史を知り、ひらがな単体と変体仮名から二字連綿、三字連綿、行書きから俳句のちらし書きのかな創作ができるようになる。
【後期】古筆の臨書の意義・方法を理解し、くりかえし臨書することにより基礎力を高め確実な臨書ができるようになる。臨書を活かした敝書から散らし作品を制作することができるようになる。

授業計画

【前期】
1．講義目標・概要の解説・アンケート
2．かな成立の歴史を解説・かなの基本線の練習
3．「いろは歌」による単体練習・字母説明
4．「変体仮名」解説・実習・字母テスト
5．「いろは歌」単体、作品提出
6．連綿の解説・実習（二字連綿・三字連綿）
7．連綿の解説・実習（多字連綿）
8．行書きの実習１
9．行書きの実習２
10．行書きの実習３
11．ちらし書きの解説・実習１資料作り
12．ちらし書きの実習２
13．ちらし書き創作１
14．ちらし書き創作２
15．ちらし書き創作３、作品提出

【後期】
1．古筆臨書（高野切第１種）１（高野切解説）
2．古筆臨書（高野切第１種）２
3．古筆臨書（高野切第１種）３
4．古筆臨書（高野切第１種）４
5．古筆臨書（高野切第１種）５
6．古筆臨書（高野切第１種）６作品提出
7．古筆臨書（高野切第３種）１
8．古筆臨書（高野切第３種）２
9．古筆臨書（高野切第３種）３
10．古筆臨書（高野切第３種）４
11．古筆臨書（高野切第３種）５
12．古筆臨書（高野切第３種）６作品提出
13．古筆臨書（寸松庵色紙）散らしの解説および拡大臨書
14．「高野切第一種」・「高野切第三種」の資料から古今集を１つ選択し寸松庵色紙の散らしに書く。
15．まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる（120 分）
事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60 分)

テキスト

関正人ほか 14 名 「書Ⅰ」 教育図書株式会社　平成 28 年検定済 （「書Ⅰ　６教図　書Ⅰ　306」）書店で購入

参考書・参考資料等

「日本名筆選　1　高野切第１種」二玄社
「日本名筆選　5　高野切第３種」二玄社
二玄社の法帖・古筆全般・かな字典二玄社の法帖・古筆全般・かな字典

学生に対する評価

授業提出課題（70%）、授業への主体的な取り組み姿勢・態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）筆を正しく持ち、正しく運び、基本的な筆使いができる。
（B）かな創作、古筆の臨書ができる。
（A）かな創作、古筆の臨書が確実にできる。
（S）高いレベルでの創作、臨書が自分でできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。
提出課題は、添削し返却する。

その他

書道具一式・筆（かな小筆）、かな用墨、かな半紙、硯、毛氈、文鎮、創作用の半懐紙、高野切練習用臨書用紙は個々に前もって購入すること。・粘り強く実習に取り組むこと。小筆は筆先が痛んだら、その都度買い替えること。・授業以外の課題が毎週課される。・授業中スマホ使用禁止。90 分着席しておくことができるように集中力が必要。-20 分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻２回で欠席１回とする。・前期欠席が５回になった時点で成績は出ない。出席不可。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	企画科目（加行Ⅰ）／加行Ⅰ	学期	通年	単位数	1	担当者	密教学科主任
副　題							

ナンバリング	M 1-01-028	授業方法	実習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（前期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は前期加行（十八道／金剛界）とし、事後のレポートを作成する。

授業の到達目標

真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

授業計画

1．加行Ⅰは、以下の手順を経て評価する。加行申し込み：
　前期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2．前期加行①
3．前期加行②
4．前期加行③
5．前期加行④
6．前期加行⑤
7．前期加行⑥
8．前期加行⑦
9．前期加行⑧
10．前期加行⑨
11．前期加行⑩
12．前期加行⑪
13．前期加行⑫
14．前期加行⑬
15．前期加行結願後：所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。受講登録はこの時点で行うこと。

準備学習（予習・復習）・時間

加行での体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト

加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

学生に対する評価

加行結願（50%）、事後レポート：テーマ「前期加行を終えて」2,000 字程度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）前期加行の結願、および事後レポートの提出。
（B）上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
（A）上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
（S）上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時に講評を実施する。

その他

・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。
・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。
・結願していない者のレポート提出は認めない。
・事後レポートの未提出者の単位は認めない。
・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	企画科目（加行Ⅱ）／加行Ⅱ	学期	通年	単位数	1	担当者	密教学科主任
副　題							

ナンバリング	M 2-01-029	授業方法	実習	実務経験の有無	無	関連 DP	3

授業の目的と概要

真言宗僧侶になるために求められる加行（後期・約 50 日間）は、必ずしも万人に開かれた近代的な教育システムに合致するものではない。しかしその加行を通して、他所では体験することのできない知見と経験が得られるであろう。本科目は、その加行を通して得た知見や経験を、密教の学びに活かしていく能力の育成を目的とする。実習対象は後期加行（胎蔵／護摩）とし、事後のレポートを作成する。

授業の到達目標

真言宗僧侶として必要な知識と技能を習得するため修行を通して、宗教的感性を涵養するとともに、そのことを大学での学びと関連付けて考える力を身に付ける。

授業計画

1．加行申し込み：後期加行に申し込む。学外施設利用制度の利用者は不要。
2．後期加行①
3．後期加行②
4．後期加行③
5．後期加行④
6．後期加行⑤
7．後期加行⑥
8．後期加行⑦
9．後期加行⑧
10．後期加行⑨
11．後期加行⑩
12．後期加行⑪
13．後期加行⑫
14．後期加行⑬
15．後期加行成満後：掲示される所定の期日までに、事後レポートを作成して提出する。

準備学習（予習・復習）・時間

加行での体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト

加行監督者から指示する。

参考書・参考資料等

加行監督者から指示する。

学生に対する評価

加行成満（50%）、事後レポート：テーマ「後期加行を終えて」2,000 字程度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）後期加行の成満、および事後レポートの提出。
（B）上記基準に加え、加行後の変化について、自分の言葉で説明できる。
（A）上記基準に加え、加行後の変化について、客観的に説明できる。
（S）上記基準に加え、加行後の変化について、密教学/仏教学見地から説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポート返却時に講評を実施する。

その他

・加行そのものへの単位授与ではないので注意すること。
・受講登録は前期加行結願後、事後レポート提出時に行うこと。
・結願していない者のレポート提出は認めない。
・事後レポートの未提出者の単位は認めない。
・学外施設制度利用者は、事後レポートを後期加行の事後レポートと一緒に提出すること。

科目名	企画科目（ボランティア）／ボランティア	学期	通年	単位数	2	担当者	人間学科主任
副　題							

ナンバリング	N1-16-030	授業方法	実習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

大学から指定された実習先において、合計 40 時間以上のボランティア実習を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業の到達目標

ボランティア活動を通じて倫理観や社会貢献の精神、公共性や社会性の意識を身につける。実社会において行動できるようになる。

授業計画

1．ボランティアの意義
2．ボランティア実習①
3．ボランティア実習②
4．ボランティア実習③
5．ボランティア実習④
6．ボランティア実習⑤
7．ボランティア実習⑥
8．ボランティア実習⑦
9．ボランティア実習⑧
10．ボランティア実習⑨
11．ボランティア実習⑩
12．ボランティア実習⑪
13．ボランティア実習⑫
14．事後指導①意見発表
15．事後指導②ディスカッション

準備学習（予習・復習）・時間

ボランティア実習の体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

守本友美・河内昌彦・立石宏昭・岡本栄一『ボランティアのすすめ―基礎から実践まで（実践のすすめ）』ミネルヴァ書房、2005 年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（10%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）ボランティアについて理解している。
（B）ボランティア実習に積極的に参加できる。
（A）ボランティア実習の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもボランティアに積極的に参加できる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

実習先、実習期間等については、４月に告知する。
40 時間の実習を行う。

科目名	企画科目（巡礼・遍路）／巡礼・遍路	学期	通年	単位数	2	担当者	密教学科主任
副　題							

ナンバリング	M 1-20-031	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	5

授業の目的と概要

一定期間、日常を離れ、四国八十八ヶ所や西国三十三観音などの巡礼（一部でも可）することで、座学では得られない、体験を通した身心の覚醒を図ることを目的としている。実習時間は 40 時間とし、事前に実習計画書を作成して提出する。実習期間中は実習日誌を作成し、40 時間分の実習を完了したら実習レポートと作成して提出する。

授業の到達目標

巡礼や遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養するとともに、計画を立てて実行し、報告する能力を身につける。

授業計画

1．実習計画書の作成：実習時間は１日４時間～８時間、最大 40 時間まで。
2．実習計画書の提出：教務課窓口に（実習予定１週間前まで）
3．実習許可通知：教務課から連絡。
4．実習開始
5．巡礼・遍路の実習：実習期間中の実習日誌を作成する。
6．巡礼・遍路の実習：実習期間中の実習日誌を作成する。
7．巡礼・遍路の実習：実習期間中の実習日誌を作成する。
8．巡礼・遍路の実習：実習期間中の実習日誌を作成する。
9．巡礼・遍路の実習：実習期間中の実習日誌を作成する。
10．巡礼・遍路の実習：実習期間中の実習日誌を作成する。
11．巡礼・遍路の実習：実習期間中の実習日誌を作成する。
12．巡礼・遍路の実習：実習期間中の実習日誌を作成する。
13．実習終了
14．実習レポートの作成：40 時間分の実習日誌に基づいてレポートを作成。
15．実習日誌・レポートの提出：教務課窓口に提出。この時点で履修登録。

準備学習（予習・復習）・時間

・実習計画書作成のための学習（60 分）
・実習日誌作成（60 分）
・実習レポート作成による振り返り（60 分）

テキスト

・特に無し

参考書・参考資料等

・実習計画書にあわせて指導する。

学生に対する評価

実習計画書（30%）、実習日誌（30%）、実習レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）巡礼・遍路を自分で立てた計画に従って実施し、報告できる
（B）巡礼・遍路の体験以前と以後の違いを説明できる。
（A）巡礼・遍路の意味を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、巡礼・遍路の意義を学術的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

実習レポートの講評を個別に実施する。

その他

・実習は複数年度にわたってもよい。ただし実習を行う都度、１週間前までに実習計画書を提出すること。
・１日の実習は、４時間以上８時間以内とする（移動時間は適宜含めてよい）。
・移動手段は自由に設定してよい。健康状態や事情に応じた現実的な実習計画を立てること。
・大学主催の研修や旅行等への参加も巡礼・遍路の一環として認める。
・課外授業用の保険に加入すること。

科目名	心理学ⅠA／心の科学（別）1	学期	前期	単位数	2	担当者	戸 來 知 子
副　題							

ナンバリング	N 1-10-032	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達的視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画

1．オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2．実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3．感覚と知覚について学ぶ。＜感覚の仕組み＞
4．感覚と知覚について学ぶ。＜知覚の仕組み＞
5．記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の分類＞
6．記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7．記憶のメカニズムについて学ぶ。＜脳と記憶について＞
8．学習について学ぶ。＜古典的条件付け＞
9．学習について学ぶ。＜道具的条件付け・学習と認知＞
10．学習について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
11．言語と思考について学ぶ。＜言語の発達＞
12．言語と思考について学ぶ。＜概念カテゴリー＞
13．言語と思考について学ぶ。＜推論とイメージ思考＞
14．意識と認知システムについて学ぶ。
15．まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

梅本尭夫 , 大山正 , 岡本浩一 , 高橋雅延著『心理学第２版心のはたらきを知る』サイエンス社 ,2014 年

参考書・参考資料等

森津太子、森公美子編著『心理学概論』, 放送大学テキスト ,2018 年　斎藤　勇編, 『図説心理学入門』 誠信書房 ,2005 年　梅本尭夫 , 大山正著『心理学への招待　こころの科学を知る』サイエンス社 ,2015 年

学生に対する評価

レポート（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
（B）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを理解している。
（A）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを説明できる。
（S）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムとともに、脳生理学の理論をからも説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	心理学ⅡA／心の科学（別）２	学期	後期	単位数	2	担当者	戸 來 知 子
副　題							

ナンバリング	N 1-10-033	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

授業計画

1．オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2．動機づけと情動について学ぶ。＜動因とホメオスタシス＞
3．動機づけと情動について学ぶ。＜誘因動機づけ＞
4．動機づけと情動について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
5．性格理論を学ぶ。＜特性論と類型論＞
6．性格理論を学ぶ。＜アイゼンクの性格理論＞
7．性格理論を学ぶ。＜ビッグファイブ理論＞
8．人間の発達理論と課題について学ぶ。＜ピアジェの発達理論＞
9．人間の発達理論と課題について学ぶ。＜フロイトの心理性発達理論＞
10．人間の発達理論と課題について学ぶ。＜エリクソンのライフサイクル理論＞
11．対人関係の心理学を学ぶ。＜集団の機能＞
12．対人関係の心理学を学ぶ。＜意思決定＞
13．対人関係の心理学を学ぶ。＜社会的手抜き・集団規範＞
14．個人と社会の心理について学ぶ。
15．まとめ。疑問点の再確認等。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

梅本尭夫 , 大山正 , 岡本浩一 , 高橋雅延著『心理学第 2 版心のはたらきを知る』サイエンス社 ,2014 年

参考書・参考資料等

森津太子、森公美子編著『心理学概論』, 放送大学テキスト ,2018 年　斎藤　勇編,『図説心理学入門』　誠信書房 ,2005 年　梅本尭夫 , 大山正著『心理学への招待　こころの科学を知る』サイエンス社 ,2015 年

学生に対する評価

レポート（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をする。
（B）基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学（社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学）の領域を理解する。
（A）心理学の基礎理論か全般を説明できる。
（S）心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

科目名	社会学Ⅱ／社会学／社会保障Ａ（別）	学期	前期	単位数	2	担当者	森 本 一 彦
副　題							

ナンバリング	N 1-11-034	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

現代の社会問題を取り上げ、社会学によって説明をすることを通して、社会学的な視点を学ぶとともに、それを身に付ける。

授業の到達目標

現代の社会問題を社会学的な視点から検討することを通して、大学教育で必要とされる基礎的な考え方を修得する。

授業計画

1．現代社会の課題
2．人口問題①人口減少社会の課題
3．人口問題②家族の変化
4．経済と労働問題（１）日本の経済の現状
5．経済と労働問題（２）労働力不足
6．貧困と社会保障（１）格差社会
7．貧困と社会保障（２）社会保障
8．情報化社会（１）情報化社会の現状
9．情報化社会（２）情報化社会の課題
10．環境問題（１）多様な環境問題
11．環境問題（２）環境問題の解決策
12．国際問題とグローバル化（１）国際問題の現状
13．国際問題とグローバル化（２）グローバル化の課題
14．包摂と排除
15．現代社会をどう生きるか。

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明した社会問題の基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した社会問題を説明できる。
（A）授業で説明した社会問題を社会学的に説明できる。
（S）授業で説明した社会問題について解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・人間学科の 2019 年度入学生以降は、基礎科目として人間学科の学生は全員必修であるので、必ず履修すること。
・社会福祉主事任用資格の科目である。
・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題に興味を持ち、今何が起こっているのかを確認しておくこと。

科目名	社会福祉各論Ⅱ（地域福祉Ⅱ）／社会福祉論／地域福祉Ａ（別）	学期	前期	単位数	2	担当者	福 本 幹 雄
副　題							

ナンバリング	N 1-11-035	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2,3,4

授業の目的と概要

テキストを活用した講義を中心にしながら地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援等）について理解を深める。　地域福祉に関わる組織、団体および専門職の役割について学ぶ。地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携）の意義と方法の理解を深める。地域福祉の推進方法（福祉ニーズ、社会資源の活用、福祉サービスの評価等）の理解を深める。事例問題をグループワーク（演習）によって問題解決の方法をグループで検討する。その検討結果を口頭発表する。横断的に地域福祉を捉え理解を深めたい。実際の事例紹介と解説にパワーポイントを積極的に活用する予定である。

授業の到達目標

基礎的な地域福祉の概念と範囲や地域組織化（ネットワーキング）とその活動の理解を深め、地域住民の一員として自らが主体的に地域福祉活動に参加できるように学びを深める。さらに、今後の地域福祉の動向に対して理解を深めるのに役立てる。

授業計画

1．地域福祉の基本的な考え方 (福祉て何だ、地域福祉て何だ？）を学ぶ
2．地域福祉の源流と発展過程について（イギリス、アメリカ、北欧、日本）理解する
3．地域福祉の理念と概念（地域の組織化、共生、ボランテイア活動）を理解する
4．地域福祉とコミュニテイ（コミュニティ・ケアの定義）について学ぶ
5．コミュニティ・ケアの移入と地域福祉の展開について知る
6．地域福祉の推進主体と推進方法　①　（ニーズ・キャッチ、組織化、民生委員・児童委員他）　を知る
7．地域福祉の推進主体と推進方法　②　（社会福祉施設、社会福祉協議会、NPO、生協、企業他）　を学ぶ
8．地域福祉における地方自治体の役割（社会福祉計画、地域福祉計画、地域包括支援センター、他））
9．地域福祉における専門職の役割（１）（保健、医療等）について理解する
10．地域福祉における専門職の役割（２）（保育所、貧困と子ども、児童館、子どもの居場所、その他）を知る
11．地域における社会資源の活用・調整・改善・開発について理解する
12．地域での見守りについてグループワーク（演習）で事例検討を行う
13．多職種連携についてグループワーク（演習）で事例検討を行う
14．もう一つの福祉ネットワークキング（パワーポイントによる海外事例の紹介）
15．地域福祉における人的資源の育成、災害支援について理解を深める

準備学習（予習・復習）・時間

次の授業の準備として事前に調べておく(計 90 分以上)重要用語やテキストのページ指定を行う予定である。グループワークの場合は事前に提供した課題に対して独自で検討し、その結果を次の授業でグループワークで検討して解決方法を発表する。

テキスト

『新版よくわかる地域福祉』　上野谷加代子、松端克文、永田祐 編著
（ミネルヴァ書房）2019 年、
授業中に必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①社会福祉士シリーズ 9 『地域福祉の理論と方法』、弘文堂、2008 年、②新・社会福祉士養成講座 9 『地域福祉の理論と方法』、中央法規出版、2015 年③『社会福祉士のための基礎知識Ⅰ～Ⅱ』、中央法規出版、2004 年、④『福祉への道標』－教職のための社会福祉－、サンライズ出版、2006 年

学生に対する評価

レポート・筆記試験（50%）、発表（20%）、積極的な授業参加（30%）で評価する

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地域福祉に関するの基礎的な概念を理解している。
（B）地域福祉に関する基礎的な概念と基礎的な内容を理解している。
（A）地域福祉に関する基礎的な概念と内容及び枠組みを理解している。
（S）地域福祉に関する基礎的な概念および専門的な内容と枠組みを理解している。

課題に対するフィードバックの方法

感想文や小テストを実施した際には、次回の授業で解説を実施する予定である。

その他

事例問題を解決するためにグループワークや演習において積極的な意見参加をし、建設的な発言・発表をすることを期待する。

科目名	社会保障総論Ⅱ／社会保障論／社会保障Ｂ（別）	学期	前期	単位数	2	担当者	福 本 幹 雄
副　題							

ナンバリング	N 1-11-036	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2,3,4

授業の目的と概要

社会保障制度がさまざまな要因で生活困難となった人々の生活を維持する制度の概念や役割を理解する。制度には生活保護制度、年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、失業保険制度があり、これらの基本的な特色と相違について理解を深める。ライフサイクルから見た社会保障についても理解を、深める。実際に幾つかの事例紹介でグループワーク（演習）を行い、生活問題の解決に実践・活用が出来るよう知識や方法として社会保障の学びを深める。グループワークではその発表と解説にパワーポイントを積極的に活用する予定である。

授業の到達目標

我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、特に選別的・救貧的福祉から一般的福祉へ社会保障の動向を理解する。社会保障の意義、社会保障とは何かに関して学びを深めた上で、年金制度、公的扶助（生活保護、生活困窮）、医療保険、介護保険等の仕組みを理解することで、今後の社会保障制度の課題と動向を理解するのに役立てる。

授業計画

1．社会保障制度の基本的な考え方とその範囲を理解する
2．社会保障の概念と理念を理解する
3．社会保障制度の体系および、その費用と財源について学ぶ
4．公的扶助と低所得者対策について理解する
5．生活保護制度の仕組み（社会福祉事務所、生活保護施設等）を学ぶ
6．年金保険制度の沿革・概要とその仕組みについて理解する
7．年金保険制度の仕組み（国民年金、厚生年金、共済年金、老年年金、障害者年金等）を学ぶ
8．介護保険制度の全体像と成年後見制度の概要について理解する
9．介護認定と介護保険サービスと地域包括支援センターについて理解する
10．医療保険制度の沿革と概要について理解を深める
11．国民健康保険制度と後期高齢者医療制度について理解する
12．労働災害補償保険（労災保険）と雇用保険について学ぶ
13．介護保険制度をめぐる最近の動向について知る
14．欧米における社会保障の歴史的展開（国際的な視点で見た社会保障）について学ぶ
15．日本における社会保障の歴史的展開（国際的な視点で見た社会保障）について学ぶ

準備学習（予習・復習）・時間

事前に提供した事例課題を独自で検討し（計 90 分以上）、その結果を次の授業で演習あるいはグループワークで検討して解決方法を発表する。

テキスト

『社会保障（第２版）』埋橋孝文・大塩まゆみ 編著　ミネルヴァ書房、2018 年　　授業中に必要に応じて事例紹介等のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①新・社会福祉士養成講座 12『社会保障』第 5 版、中央法規出版 ,2005 年、
②『社会福祉士のための基礎知識Ⅰ～Ⅱ』、中央法規出版 ,2004 年
③『福祉への道標』－教職のための社会福祉－、サンライズ出版、2006 年、
④『社会福祉小六法 2019(平成３１年版)』、ミネルヴァ書房

学生に対する評価

レポート・筆記試験（60%）、発表（10%）、積極的授業参加（30%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会保障に関する基礎的な概念を理解している。
（B）社会保障に関する基礎的な概念と体系を理解している。
（A）社会保障に関する基礎的な概念と体系及び枠組みを理解している。
（S）社会保障に関する基礎的な概念及び専門的な体系及び枠組みを理解している。

課題に対するフィードバックの方法

感想文や小テストを実施した際には、次回の授業で解説を実施する

その他

事例問題に対するグループワークや演習には積極的に参加し、建設的な発言・発表をすることを期待する。

科目名	キャリアカウンセリングⅠ-1／キャリアデザインⅠ	学期	前期	単位数	2	担当者	高田綾子
副題							

ナンバリング	N 1-16-037	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	4

授業の目的と概要

①これまでの自分の目的意識、価値観、経験などを振り返りながら、将来のキャリアを見据え大学で学ぶことの意味を考え、現時点でできること、これから学習していくことは何かを、学生同士が議論しながら進める。
②主体性、コミュニケーション能力など、社会人になる前段階として必要な基本スキルを、体感ワークを通じて身につけていく。

授業の到達目標

大学生活と社会の接点、職業観を養うとともに、キャリア形成の基本となる自己表現や自己形成の考え方を習得する。

授業計画

1．キャリアとは何かを考える
2．大学生活を考える①（大学生と高校生の違い・役割）
3．大学生活を考える②（これまでの歩みを整理する）
4．大学生活を考える③（学びの意味を考え目標を立てる）
5．大学生活を考える④（ボランティア活動）
6．コミュニケーション力をつける①（基礎づくり①）
7．コミュニケーション力をつける②（基礎づくり②）
8．コミュニケーション力をつける③（傾聴））
9．コミュニケーション力をつける④（伝える）
10．コミュニケーション力をつける⑤（プレゼンテーション）
11．コミュニケーション力をつける⑥（アンガーマネジメント）
12．コミュニケーション力をつける⑦（アサーション）
13．コミュニケーション力をつける⑧（ホスピタリティ）
14．コミュニケーション力をつける⑨（チーム・ビルディング）
15．成果と課題を考える

準備学習（予習・復習）・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。（60 分）
・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。（60 分）

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①平木典子『アサーション・トレーニング―さわやかな〈自己表現〉のために』2009（金子書房）
②大山雅嗣『コミュニケーションスキルワークブック 15 講』2012（公益財団法人日本生産性本部）
③齊藤博・上本裕子『大学 1 年からのキャリアデザイン実践』2017（八千代出版）
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解している。
（B）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解し、その内容を説明できる。
（A）傾聴力、表現力、相互理解の基本を理解した上で、他人の意見を尊重して聞き、正しく理解し、自分の意見を分かりやすく表現できる。
（S）グループでの討論や議論において適切な手順・手段を用いて、グループの中での意見を自分なりにまとめ、分かりやすくメンバーに伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅠ-2）／キャリアデザインⅡ	学期	後期	単位数	2	担当者	高田綾子
副題							

ナンバリング	N 1-16-038	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	4

授業の目的と概要

①自分自身を見つめ、キャリアデザインのための自己理解を深める。
②アセスメントを活用しながら自分の興味関心、能力を認識するとともに、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。③グループワークを通して、人間関係形成・社会形成能力やコミュニケーション能力を高めるとともに課題対応能力や将来に向けたキャリアプランニング能力も身につける。

授業の到達目標

自己理解を深め､働くことの本質を理解し､就労への関心を高める。職業社会を理解する上で必要な基礎知識を習得する。

授業計画

1．自己理解とキャリアデザインについて考える
2．自分らしさについて考える①（自分らしさとは）
3．自分らしさについて考える②（性格）
4．自分らしさについて考える③（興味）
5．自分らしさについて考える④（価値観）
6．職業興味の探索①（自己理解・適性のワーク）
7．自分らしさについて考える⑤（自己概念）
8．キャリアデザインの理解
9．キャリアデザインに必要な考え方
10．キャリアデザインの意識
11．ワークキャリアとライフキャリア①
12．ワークキャリアとライフキャリア②
13．就労をイメージする
14．職業興味の探索②（自己理解・適性のグループワーク）
15．キャリアプランを作り実行する

準備学習（予習・復習）・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。（60 分）
・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。（60 分）

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①大山雅嗣『キャリアデザインワークブック 15 講』2013（公益財団法人日本生産性本部）
②川崎友嗣『大学生のためのキャリアデザイン　自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019（ミネルヴァ書房）
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解できる。。
（B）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。。
（A）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、文章で表現できる。
　　また、グループワークでわかりすく他者に説明することができる。
（S）キャリアデザインに必要な自己理解やスキル・能力を理解し、将来を展望しキャリアプランニングについて考えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目（自然科学）／教養講義（自然科学）	学期	後期	単位数	2	担当者	木地茂典
副題							

ナンバリング	N 1-20-039	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

自然科学という漠然といた講義内容であるが、それぞれの分野に分けて行っていく。学ぶひとつの目的に社会現象についての意思決定があげられるが社会に関係する自然科学の現象について様々な角度からの総合的な意見をもつことの重要性を取り上げ理解する。

授業の到達目標

物理的な現象・数学的な思考力を考えたとき、科学に関する社会問題に対し意思決定や科学の重要な発見を自分自身の中に発見し、人間の喜びをみつけられることが望まれる。自然科学の仕組みをこの講座を通して認識する。

授業計画

1．全てに対応できる知力について（序章）
2．教養的な物理（基礎）
3．教養的な科学（基礎）
4．教養的な数学（基礎）
5．物理・数学の融合性について（数学的観点から）
6．物理・数学の融合性について（物理的な観点から）
7．物理・数学の融合性を整理分析
8．科学的な実践問題
9．化学的な実践問題
10．地学的な実践問題
11．日常での科学的方法について情報を収集
12．日常での科学的方法について（データの分析）
13．科学の総括的な捉え方について（数学的理論）
14．科学の総括的な捉え方について (科学的理論)
15．総括まとめ（終章）

準備学習（予習・復習）・時間

自然科学とは、かなりの分野的に広いものである中でのこの講座は、事実を知っていくことを重視しいていく。その中で調べ学習の大切さに重点を置いている復習時間に 90 分以上を必要とする

テキスト

毎回随時テキストを配布していくが、その都度必要と考えれば提示していく

参考書・参考資料等

この一冊とは限らず参考資料を紹介する。ＳＰＩ問題を通して実践的な問題を提示する。

学生に対する評価

毎回実践問題を提示し解決度の積み重ねで評価がでる。思考方法を理解していくことが大きな評価に繋がる。
レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）思考方法を知る姿勢が感じられること。
（B）論理性に気がつきより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
（A）論理性に理解を示そうとして、授業を通して認識・理解を探究できること。
（S）論理的に理解ができていて、授業を通じて認識・理解できていること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内でフィードバックを行う

その他

科学の理論は、自然界の普遍的な真理を表すとともに、有る科学者の創造力による芸術作品と云えるものが数多く存在する。その一つ一つを少しでも理解の域に混入していく努力をする。今たくさんの科学の事象で想定外が起ってきているというが、そうではないといえる部分がたくさん存在してきている。そういうところを自分の考え方をもつことを大切にする重要性を解いていく。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校での教員としての経験を通して、自然科学一般について、数学も含めてなぜ？からあっそうなんですね。というところをわかりやすく涵養する。

科目名	企画科目（数的処理）／教養講義（数的処理）	学期	前期	単位数	2	担当者	木地茂典
副題							

ナンバリング	N 1-15-040	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

人間が生きていく上で知っておきたい概念のひとつに数学の考え方がある。それらを駆使したものである数的処理の基本は、小学校の算数の文章題にある。それらを基本からそして実践的になってくる論理思考を身につける。解くことは難しいことかもしれないが、その仕組みをみていく。

授業の到達目標

数的処理の感性づくり、数的処理といえば何よりも数学的判断により事がすすんだという実践感をもてることである。いろいろな志向性が感じられるようになる。

授業計画

1．全てに対応できる思考力の必要性について（序章）
2．教養的な思考力（基礎）～代数編（理論編）
3．教養的な思考力（基礎）～代数編（実践編）
4．教養的な思考力（基礎）～幾何編（理論編）
5．教養的な思考力（基礎）～幾何編（実践編）
6．教養的な思考力（基礎）～確率編
7．実践的な思考力編
8．日常的なものとの対比編（理論との対比
9．日常的なものとの対比編（実践理論のまとめ）
10．論理編（実践問題の読みとる力）
11．論理編（実践問題の解法力）
12．論理編（対処法）
13．総括まとめ（思考力編）
14．総括まとめ（実践力編）
15．総括まとめ（終章）

準備学習（予習・復習）・時間

実践公務員試験から数学的なセンスが問われる問題が多いが、コツコツと積み重ねる努力が必要であるので、復習に時間をかけること（90 分）

テキスト

随時授業内で提示配布していく。

参考書・参考資料等

展開していく中で、毎回参考資料は提示するが、その都度参考書は提示していく。

学生に対する評価

毎回実践問題を提示し解決度の積み重ねで評価がでる。思考方法を理解していくことが大きな評価に繋がる。
レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）すべて一般的に求める姿勢を感じられること
（B）論理性に気がつきより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
（A）論理性に理解を示そうとして、授業を通して認識・理解を探究できること。
（S）論理的に理解ができていて、授業を通じて認識・理解できていること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、質問形式の課題についてのフィードバックは行う。その方法は、授業中に指示を行うことにする

その他

数的推理から連想するものは、どういうものでしょうか？ＳＰＩ問題からよく聞く単語でもあるが、この機会に論理性を推理してもらいたいと考えている。基本的には、毎回問題提示する中で解けることで評価を決めていくが、一概にそうとは限らず理解度の評価になる。数学的な問題だが、単に解ければいいということではない。そこに注意してほしい。楽しさが常にある講座にしていくので、この講座では思考の表現力が必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校での教員としての経験を通して、より分かりやすい実践内容に工夫をして問題に対する意識を関心を植え付けるようにしていく。

科目名	現代の人権／教養講義（人権論）／人権と福祉（別）	学期	後期	単位数	2	担当者	竹 村 和 也
副　題							

ナンバリング	N 1-09-041	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,3

授業の目的と概要

授業はパワーポイントを利用し講義形式とする。現代社会においては憲法に規定された従来の伝統的な人権の枠組みでは捉えきれない新たな人権が重要となってきている。本講義は、憲法を中心に、憲法上の権利と権利の現代的展開に焦点を当てながら、法的な側面から現代社会を理解しようとする試みである。講義形式での授業ですが、授業の中で議論を試みる。

授業の到達目標

現代において特に論争の焦点となっている法的権利について、その法的背景なども視野に入れた上で理解すること、及び批判的思考ができること。

授業計画

1．イントロダクション
2．人権を守る仕組み（統治機構）①
3．人権を守る仕組み（統治機構）②
4．人権を守る仕組み（基本原理）①
5．人権を守る仕組み（基本原理）②
6．国際的人権保障（紛争と人権）
7．国際的人権保障（国際的な人権保障の枠組み）①
8．国際的人権保障（国際的な人権保障の枠組み）②
9．憲法総論（幸福追求権・自己決定権）
10．医療における自己決定権（治療選択の権利・死ぬ権利）
11．新たな医療技術とそれを用いる権利（子どもを産む権利）①
12．新たな医療技術とそれを用いる権利（子どもを産む権利）②
13．臓器移植と臓器の売買？
14．クローン技術規制法
15．人の選別と優生思想（選択的堕胎と受精卵診断）

準備学習（予習・復習）・時間

授業後に小レポートを出した場合には、レポートの提出（約 60 分）、毎回ではないが小テストを実施することもあるので、その場合にはテストの準備（60 分）

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

竹下賢･沼口智則･角田猛之･竹村和也『入門法学』（第 5 版）2018 年。他の参考文献は授業で指示する。

学生に対する評価

定期試験もしくは最終レポート（80%）授業中のミニッツ・ペーパーや持ち帰りの課題提出、授業への積極的な参加（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）それなりの努力が読み取れる場合
（B）内容を概ね理解したと思われる場合。
（A）授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている場合
（S）授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されていると共に批判的な検討が行われている場合

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

社会において現代の人権と関わる新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱うとともに、参加する学生諸君の関心にもなるべく、応えていこうと思うので、適宜変更の可能性がある。期末筆記試験の形式やレポート課題により若干異なる受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要である。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではない。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。

科目名	人間学概論Ⅰ／教養講義（社会科学）	学期	前期	単位数	2	担当者	森 本 一 彦
副　題							

ナンバリング	N 1-20-042	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

政治・経済の基本について講義をすることよって、大学の基礎を理解する。

授業の到達目標

社会科学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎を身につける。

授業計画

1．政治①政治原理と政治制度
2．政治②選挙制度
3．政治③政党・圧力団体
4．政治④行政
5．政治⑤地方自治
6．政治⑥国際連合・国際社会
7．法律①法律概論
8．法律②日本国憲法
9．法律③民法・刑法・その他
10．経済①需要・供給・市場
11．経済②国民所得・経済政策
12．経済③金融政策
13．経済④財政・租税
14．経済⑤貿易体制
15．経済⑥経済史

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高校で使用した現代社会や政治経済などの教科書・副教材があれば参考にすること。

学生に対する評価

授業内試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明した政治・経済の基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した政治・経済の事象を説明できる。
（A）授業で説明した政治・経済の事象を自分のことばで説明できる。
（S）授業で説明した政治・経済の問題について解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・人間学科の 2019 年度入学生以降の選択必修科目である。
・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、３、４回生も履修すること。
・高校の教科書などを見直すこと。・前回の確認をするので、復習をしておくこと。

科目名	人間学概論Ⅱ／教養講義（人文科学）	学期	後期	単位数	2	担当者	森 本 一 彦
副　題							

ナンバリング	N 1-20-043	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

歴史・地理・文学の基本について学ぶことによって、大学の基礎を理解する。

授業の到達目標

歴史・地理・文学の基本を身につけることで、大学の学びの基礎を身につける。

授業計画

1．日本史①原始～古代
2．日本史②中世
3．日本史③近世
4．日本史④近代
5．世界史①アジア史
6．世界史②西洋古代史
7．世界史③西洋中世史
8．世界史④西洋近代史
9．世界史⑤西洋現代史
10．地理①地形と気候
11．地理②農林水産業・鉱工業
12．地理③世界の国々と人間
13．文学日本・世界の文学作品
14．思想西洋・日本の思想
15．現代社会を生きるために

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高校で使用した日本史・世界史・地理・現代社会・文学史などの教科書・副教材があれば参考にすること。

学生に対する評価

授業内試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の基礎用語を知っている。
（B）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の事象を説明できる。
（A）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の自分のことばで説明できる。
（S）授業で説明した歴史・地理などの人文科学の問題について解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやミニッツペーパーを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・人間学科の 2019 年度入学生以降の選択必修科目である。
・公務員試験、教職試験、就職試験などの一般教養問題に対応するので、３、４回生も履修すること。・高校の教科書などを見直すこと。
・前回の確認をするので、復習をしておくこと。

科目名	英語Ⅱ	学期	通年	単位数	2	担当者	伊藤佳世子
副　題							

ナンバリング	G 2-07-044	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

基本的な英文法を再確認しながら訳せるようにする。あわせて LinkEnglish を使用してリスニングを演習する。またテキスト内容から多文化を理解する、

授業の到達目標

リーディングを中心に、語彙・文法の基礎を習得する。あわせて e-learning 教材でリスニング力も伸ばしていく。

授業計画

【前期】
1．予習、復習、授業の進め方、成績の出し方について説明する。
2．【文化と宗教】e-learning リスニング
3．【海外ニュース】e-learning リスニング
4．【生活と社会】e-learning リスニング
5．【ビジネス・金融】e-learning リスニング
6．中間テストと講評
7．【文化と宗教】e-learning リスニング
8．【海外ニュース】e-learning リスニング
9．【生活と社会】e-learning リスニング
10．【ビジネス・金融】e-learning リスニング
11．【環境】e-learning リスニング
12．【技術】e-learning リスニング
13．【文化と宗教】e-learning リスニング
14．前期まとめテストとリスニングガイダンス
15．総括とフィードバック

【後期】
1．【文化と宗教】e-learning リスニング
2．【海外ニュース】e-learning リスニング
3．【生活と社会】e-learning リスニング
4．【ビジネス・金融】e-learning リスニング
5．【環境】e-learning リスニング
6．中間テスト
7．【文化と宗教】e-learning リスニング
8．【海外ニュース】e-learning リスニング
9．【生活と社会】e-learning リスニング
10．【ビジネス・金融】e-learning リスニング
11．【環境】e-learning リスニング
12．【文化と宗教】e-learning リスニング
13．【生活と社会】e-learning リスニング
14．後期まとめテストとリスニングガイダンス
15．総括とフィードバック

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として担当箇所（ワン・パラグラフ）の英文を訳しておくこと（計 90 分以上）

テキスト

プリント教材を準備し、初回講義で配布する。

参考書・参考資料等

プリント教材を準備し、初回講義で配布する。

学生に対する評価

予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。毎回の小テスト（50%）、発表（30%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）英文の構造が理解できる。
（A）基本的な英文が聞き取れる。
（S）ある程度まとまった英文を読んで理解できる

課題に対するフィードバックの方法

リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他

必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキスト（配布したプリント）とノート、辞書を持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ 5 回まで。講義開始 30 分を超えて入室した場合は欠席とする。ICT（理解度把握システム）を使用した科目である。

科目名	英語Ⅱ（再履修）	学期	通年	単位数	2	担当者	伊藤佳世子
副　題							

ナンバリング	G 3-07-045	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要
基本的な英文法を学習し身につける、練習問題やロールプレイ（役割演技）を用いて理解を深める。

授業の到達目標
基本的な英文法を理解し、簡単な日常会話が運用できるようになる。

授業計画
【前期】
1．オリエンテーション（講義概要，評価説明）。
2．Lincenglish　reading Lesson 1
3．Lincenglish　プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 1　ロールプレイ
4．Lincenglish reading Lesson 2
5．Lincenglish　プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 2　ロールプレイ
6．Lincenglish reading Lesson 3
7．中間テストと解答と解説
8．Lincenglish reading Lesson 4
9．Lincenglish　プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 4　ロールプレイ
10．Lincenglish reading Lesson 5
11．Lincenglish　プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 5　ロールプレイ
12．Lincenglish reading Lesson 6
13．Lincenglish プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 6　ロールプレイ
14．前期まとめテストと解答と解説
15．前期フィードバック

【後期】
1．Lincenglish reading Lesson 7
2．Lincenglish プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 7　ロールプレイ
3．Lincenglish reading Lesson 8
4．Lincenglish プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 8　ロールプレイ
5．Lincenglish reading Lesson 9
6．Lincenglish プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 9　ロールプレイ
7．Lincenglish reading Lesson 10
8．Lincenglish　プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 10　ロールプレイ
9．Lincenglish reading Lesson11
10．Lincenglish プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 11　ロールプレイ
11．Lincenglish reading Lesson 12
12．Lincenglish プレプロンズⅡ
　Listening Lesson 12　ロールプレイ
13．shadowing とリスニングのフィードバック
14．後期まとめテストと解答と解説
15．年間の講義を通したフィードバック

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として担当箇所の英文（ワン・パラグラフ）を訳しておくこと（計 90 分以上）

テキスト
初回講義でプリントを配布する。

参考書・参考資料等
講義内で適宜プリントを配布する。

学生に対する評価
予習状況と授業態度、前期・後期試験を加味して行う。毎回の小テスト（60%）、プレゼンテーション（30%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基本的な語彙や英文法が理解できる。
（B）英文の構造が理解できる。
（A）短い会話のやり取りができる。
（S）英語での短いプレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法
リーディングについては担当箇所の発表内容を鑑みて講義中に指導する。

その他
必ず予習を行って授業に臨むこと。授業には、テキストとノート、辞書を持参すること。欠席は有効欠席を含めて前期と後期それぞれ５回まで。講義開始３０分を超えて入室した場合は欠席とする。ICT（理解度把握システム Lincenglish）を使用した科目である。

科目名	密教学概論Ⅰ／密教学概論／真言宗の教え（別）1	学期	前期	単位数	2	担当者	佐藤隆彦
副　題							

ナンバリング	M 2-01-046	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	3

授業の目的と概要
インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は９世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観する。

授業の到達目標
密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的理解を培う。

授業計画
1．講義内容の説明
2．真言密教の立場
3．東密と台密の違い
4．東密と台密の違い
5．教判論
6．顕密二教判
7．顕密に教判
8．十住心教判
9．十住心教判
10．六大体大
11．六大体大
12．四曼相大
13．三密用大
14．三密用大
15．総まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習としてテキストの該当ページを読んでおくこと（60 分）。事後学修として授業の内容を再整理するとともに
関連文献に目を通すこと（90 分）。

テキスト
高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

参考書・参考資料等
①松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店②勝又俊教著『密教入門』春秋社③金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫④佐和隆研編『密教辞典』法藏館⑤中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店他

学生に対する評価
試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教の基本的な用語を理解している。
（B）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を説明できる。
（A）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
（S）配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回授業内でフィードバックを行う。最後の授業において総まとめを行うとともにフィードバックを行う。

その他
講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートにとること。

科目名	密教学概論Ⅱ／真言宗の教え（別）2	学期	後期	単位数	2	担当者	佐藤隆彦
副　題							

ナンバリング	M 2-01-047	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要
インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は９世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教(真言密教)の思想的特徴を概観し、理解する。

授業の到達目標
密教の専門用語を習得し、密教思想の総合的に理解することができる。

授業計画
1．講講義内容の説明
2．仏身論
3．大日如来と釈尊との関係（応身）
4．大日如来と釈尊との関係（法身）
5．大日如来論（除闇編明）
6．大日如来論（能成衆務光無生滅）
7．五智について
8．五智と五仏
9．本地身と加持身
10．両部曼荼羅（金剛界曼荼羅）
11．両部曼荼羅（胎蔵曼荼羅）
12．両部曼荼羅（九会、十三大院等）
13．成仏論
14．成仏への階梯
15．即身成仏

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習としてテキストの該当ページを読んでおくこと（60 分）。事後学修として授業の内容を再整理するとともに　関連文献に目を通すこと（90 分）。

テキスト
高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

参考書・参考資料等
①松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店②勝又俊教著『密教入門』春秋社③金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫④佐和隆研編『密教辞典』法藏館⑤中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店

学生に対する評価
試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）密教の基本的な用語を理解している。
（B）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を説明できる。
（A）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
（S）配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回授業内でフィードバックを行う。最後の授業において総まとめを行うとともにフィードバックを行う。

その他
講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートにとること。

科目名	仏教学概論Ⅰ／仏教学概論	学期	前期	単位数	2	担当者	前谷　彰
副　題							

ナンバリング	M 2-02-048	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要
インド仏教思想。近代インド史上、最高の哲学者と称されたラーダークリシュナンの著作を通して、インド思想全般を理解する。

授業の到達目標
インド思想の中でも特に仏教思想を中心にして、ラーダークリシュナンの分析の仕方を身につける。

授業計画
1．オリエンテーション
2．序論（仏教とは何か）
3．初期仏教思想体
4．初期仏教の文献政
5．ブッダの生涯と個性治
6．時代の状況①（出家）
7．時代の状況②（成道）
8．ブッダとウパニシャッド
9．苦について①（苦の実体）
10．苦について②（苦の肯定）
11．変化の世界
12．個体的自我
13．ナーガセーナの自我論
14．縁起について
15．総括・試験・講評

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト
担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等
S. ラーダークリシュナン著　三枝充眞訳　『インド仏教思想史』

学生に対する評価
授業参加への積極性（30%）、学期末のレポート（70%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用して、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法
フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他
ノートを漏らさずとり、欠席しないこと。復習を欠かさない。

科目名	密教史概説Ⅰ／密教史概説	学期	前期	単位数	2	担当者	奥 山 直 司
副　題							

ナンバリング	M 2-01-049	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

インド密教がどのようにして形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点を映像資料なども参考にしながら学ぶ。

授業の到達目標

上座部仏教、一般大乗仏教に対する密教の特色を説明できる。
インド・チベット仏教における密教経典分類法を説明できる。
インド・チベット密教史の大まかな流れを理解し、説明できる。

授業計画

1．ガイダンスならびに授業概要説明
2．インド・チベット仏教における密教経典分類法
3．インド初期密教萌芽から形成へ
4．インド中期密教組織化の時代１：『大日経』の密教
5．インド中期密教組織化の時代２：『金剛頂経』の密教
6．インド後期密教新たな展開１：父タントラの密教
7．インド後期密教新たな展開２：母タントラ・不二タントラの密教
8．古代チベット王国と仏教の伝来
9．仏教国教化への道のり
10. 古代チベット王国の崩壊と仏教の復興
11. 諸宗派の形成１：アティーシャとカーダム派、サキャ派
12. 諸宗派の形成２：カギュ派、ニンマ派
13. 宗派の形成３：ゲルク派
14. ゲルク派の覇権
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考資料の次回の授業範囲を読んでおくこと（90 分）。
事後学修として、ノートを読み直し、必要事項を記憶すること（90 分）。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教の歴史』平楽寺書店、1969 年
②立川武蔵・頼富本宏編『インド密教』春秋社、1999 年
③立川武蔵・頼富本宏編『チベット密教』春秋社、2005 年

学生に対する評価

課題レポート（20%）、期末試験（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教、大乗仏教、密教、上座部仏教の関係が説明できる。
（B）インド・チベット仏教における密教経典分類法が説明できる。
（A）チベット仏教の四大宗派の特徴が説明できる。
（S）インド・チベット密教史の流れが概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻３回で１欠席と見なす。

科目名	密教史概説Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	櫻 木　　潤
副　題							

ナンバリング	M2-01-050	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

インドに起こった密教が、東アジア世界にどのように伝わり、受容されていくのかの過程について、歴史学の立場から、最新の研究成果をふまえて概観する。
弘法大師空海によって体系化された密教が、その後の日本仏教のなかで、どのように社会の求めに応え、根付いていくのかを中心的なテーマとする。

授業の到達目標

①インドに生まれた密教が、唐代の中国で隆盛し、弘法大師空海によって日本に伝えられた後、日本仏教の中でどのように根付き、展開を遂げるのかについて、その歴史的変遷を理解する。
②密教の歴史的展開を理解したうえで、これからの日本社会において密教がどのようにあるべきかについて、自分なりの考えを提示できるようになる。

授業計画

1．密教史を学ぶことの意義
2．中国への密教伝来
3．唐代の密教隆盛
4．空海以前の日本密教
5．最澄・空海による密教の請来
6．空海による真言密教の確立
7．天台宗の密教化
8．密教修法の隆盛と真言密教の分派
9．ユーラシア帝国・元とアジア諸国の密教
10. 覚鑁の改革と挫折
11. 密教と鎌倉仏教
12. 密教と戒律復興運動
13. 密教教学の発展
14. 江戸時代の戒律復興運動と密教
15. 近代社会と密教

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べておく（90 分）、事後学修として、授業内容についてノートに整理しておくこと（60 分）

テキスト

松長有慶『密教の歴史〈サーラ叢書 19〉』（平楽寺書店、2007 年。初版は 1969 年）

参考書・参考資料等

①立川武蔵・頼富本宏編『中国密教〈シリーズ密教３〉』（春秋社、2005 年。初版は 1999 年）
②立川武蔵・頼富本宏編『日本密教〈シリーズ密教４〉』（春秋社、2005 年。初版は 2000 年）
③佛教史学会編『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業で行う課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）東アジア世界への密教の伝来と受容のあゆみを理解する。
（B）東アジア世界における密教の変容について論理的に説明できる。
（A）密教が東アジア、特に日本仏教の歴史の中でどのような役割を担ってきたのかを論理的に説明できる。
（S）東アジアにおける密教のあゆみを理解し、これからの密教のあり様について展望することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回の授業テーマにおいては、中国密教や日本密教、真言宗にゆかりの深い寺院などを紹介する。受講生は、積極的にその地を訪ね、日本密教や真言宗の歴史について、さらに理解を深めることを望む。希望があれば、現地見学会を行う予定である。。

科目名	仏教史概説Ⅰ／仏教史概説／釈尊の生涯（別）	学期	後期	単位数	2	担当者	前 谷　　彰
副　題							

ナンバリング	M 3-02-051	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

仏教が興起する以前に存在したインドの思想体系の概説を行った上で、仏教がインドにおいてどのような歴史的変容を被りながら展開して行ったかについて理解する。

授業の到達目標

仏教がインドのいかなる思想を背景に誕生し、いかなる歴史的変容を被りながら展開して行ったかについての基本的知識を身につける。

授業計画

1．導入：仏教が興起する以前のインド
2．バラモン教の思想：ヴェーダの思想的特徴
3．ヴェーダの思想的特徴
4．古ウパニシャッドの思想①（ブラフマン）
5．古ウパニシャッドの思想②（梵我一如）
6．反ヴェーダ思想（六師外道）
7．ジャイナ教の思想
8．釈尊の誕生から成道までの歴史概観
9．初期仏教思想の特徴①（縁起）
10. 初期仏教思想の特徴②（慈悲）
11. 初期仏教思想の特徴③（中道の非我）
12. 大乗諸派の思想的特徴
13. 中国仏教の特徴
14. 大乗非仏説論
15. 初期仏教と大乗の思想的相違点

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト

担当者作成の『仏教概要』をコピーして配布する。

参考書・参考資料等

前谷彰（恵紹）著『ブッダのおしえ～真訳スッタ二パータ』講談社

学生に対する評価

期末試験（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている
（B）ヴェーダの基本的思想を理解し、ウパニシャッドにおける梵我一如の思想を理解していること。
（A）（B）の理解を踏まえ、初期仏教における「縁起」の思想を理解していること。
（S）（B）・（A）の理解に加え、初期仏教と大乗の思想の違いについて、自身の見解を明らかにし得る能力を有していること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	祖典講読ⅠA・B／真言宗典講読 1-1（別）	学期	前期	単位数	2	担当者	A松長潤慶 B土居夏樹
副　題	『即身成仏義』を読む１						

ナンバリング	M 2-01-052	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1，2

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

1．講義の進め方とテキストの紹介
2．成仏とは？－三劫成仏と即身成仏－
3．『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4．四声読み
5．『即身成仏義』を読む（1）発端問答
6．　〃　（2）二経一論八箇の証文①『金剛頂経』
7．　〃　（3）二経一論八箇の証文②『大日経』
8．　〃　（4）二経一論八箇の証文③『菩提心論』
9．　〃　（5）二頌八句① 即身の頌（前編）
10. 〃　（6）二頌八句② 即身の頌（後編）
11. 〃　（7）二頌八句③ 成仏の頌（前編）
12. 〃　（8）二頌八句④ 成仏の頌（後編）
13. 〃　（9）「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 六大の秘義（前編）
14. 〃　（10）「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 六大の秘義（後編）
15. 前期のまとめ―即身成仏思想の特徴

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60 分）。
・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60 分）。
・その他の学習については講義内で指示する（60 分）。

テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部（←書店で購入）

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社
②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社
③小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社
④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社　　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など（40%）、期末テスト（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）「発端問答」と「二頌八句」を暗誦できる。
（B）「発端問答」と「二頌八句」を暗誦でき、「二経一論八箇の証文」の内容を把握している。
（A）「発端問答」と「二頌八句」の暗誦、「二経一論八箇の証文」の内容把握に加えて、基本的な用語を把握している。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、即身成仏思想の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。
・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅡA・B／真言宗典講読1-2（別）	学期	後期	単位数	2	担当者	A松長潤慶 B土居夏樹
副　題	『即身成仏義』を読む2						
ナンバリング	M 2-01-053	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連DP	1,2

授業の目的と概要

『即身成仏義』についての概論と前期の復習をはじめに行い、前期で扱った範囲をカヴァーして、テクストの続きをさらに読みすすめる。『即身成仏義』を読了した後には、弘法大師空海の即身成仏思想の体系を再確認し、要点の把握に努める。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

1．概論と前期の復習
2．『即身成仏義』を読む（11）「六大能生」①
3．　〃　（12）「六大能生」②
4．　〃　（13）「六大の顕密／無碍自在の身」
5．　〃　（14）「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6．　〃　（15）「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7．　〃　（16）「三密加持速疾顕」① 法仏の三密と三密行
8．　〃　（17）「三密加持速疾顕」②『五秘密儀軌』
9．　〃　（18）「三密加持速疾顕」③ 加と持
10．　〃　（19）「重重帝網名即身」
11．　〃　（20）「法然具足薩般若」
12．　〃　（21）「心数心王過刹塵」
13．　〃　（22）「各具五智無際智」
14．　〃　（23）「円鏡力故実覚智」
15．後期のまとめ―即身成仏とは何か

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60分）。
・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60分）。
・その他の学習については講義内で指示する（60分）。

テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部（←書店で購入）

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社
②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社
③小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社
④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社　　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など（40%）、期末テスト（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
（B）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
（A）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解 している。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。
・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読ⅠA・B／真言宗典講読1（別）	学期	通年	単位数	4	担当者	A松長潤慶 B土居夏樹
副　題	『即身成仏義』を読む						
ナンバリング	M 2-01-054	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連DP	1,2

授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。授業では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

授業計画

【前期】
1．講義の進め方とテキストの紹介
2．成仏とは？－三劫成仏と即身成仏－
3．『即身義』の撰述時期と異本『即身義』
4．四声読み
5．『即身成仏義』を読む（1）発端問答
6．　〃　（2）二経一論八箇の証文①『金剛頂経』
7．　〃　（3）二経一論八箇の証文②『大日経』
8．　〃　（4）二経一論八箇の証文③『菩提心論』
9．　〃　（5）二頌八句① 即身の頌（前編）
10．　〃　（6）二頌八句② 即身の頌（後編）
11．　〃　（7）二頌八句③ 成仏の頌（前編）
12．　〃　（8）二頌八句④ 成仏の頌（後編）
13．　〃　（9）「六大無碍にして常に瑜伽なり」① 六大の秘義（前編）
14．　〃　（10）「六大無碍にして常に瑜伽なり」② 六大の秘義（後編）
15．前期のまとめ―即身成仏思想の特徴

【後期】
1．概論と前期の復習
2．『即身成仏義』を読む（11）「六大能生」①
3．　〃　（12）「六大能生」②
4．　〃　（13）「六大の顕密／無碍自在の身」
5．　〃　（14）「四種曼荼各不離」① 三種秘密身
6．　〃　（15）「四種曼荼各不離」② 四種曼荼羅・四種智印
7．　〃　（16）「三密加持速疾顕」① 法仏の三密と三密行
8．　〃　（17）「三密加持速疾顕」②『五秘密儀軌』
9．　〃　（18）「三密加持速疾顕」③ 加と持
10．　〃　（19）「重重帝網名即身」
11．　〃　（20）「法然具足薩般若」
12．　〃　（21）「心数心王過刹塵」
13．　〃　（22）「各具五智無際智」
14．　〃　（23）「円鏡力故実覚智」
15．後期のまとめ―即身成仏とは何か

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60分）。
・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句
・内容の確認を行うこと（60分）。
・その他の学習については講義内で指示する（60分）。

テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部（←書店で購入）

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社
②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社
③小田慈舟『十巻章講説』上巻、高野山出版社
④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社　　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業中の素読・発表など（40%）、期末テスト（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
（B）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
（A）『即身成仏義』の素読、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら諸概念の関連性を理解している。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の総評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習して授業に臨むこと。
・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに担当者研究室に取りに来ること。

科目名	人間学基礎ゼミⅢA	学期	前期	単位数	2	担当者	上 野 和 久
副　題							
ナンバリング	N 2-20-055	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連DP	1,2

授業の目的と概要

体験学習を通して、自分を表現することを学び、他者の自己表現に心を向けて寄り添うことを学び、お互いに表現し合い、受けとめ合い、交流し合うことで自己像と他者像がどのように変わってゆくのかについて学んでゆく。授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、楽しみながら学んでゆく。

授業の到達目標

人間について学ぶための基礎力をつける。

授業計画

1．オリエンテーション自己紹介と人間学について
2．心とは何か自分を何かの“もの”に例えて、・・・・話し合おう・・・我・汝
3．感覚と知覚・・・現実感覚とは
4．身体と感覚・・・・「身体の緊張：五感とストレスと言語」
5．人間の持つ言語の不思議
6．心の時間と現実の時間
7．心と身体は「感情・情動」によってむすばれる
8．「思い」と「言葉」・・・・・ワンウエイコミュニケーション.
9．学習（古典的条件づけ）
10．学習（オペラントの条件づけ）
11．記憶について
12．記憶と学習とトラウマ
13．仏教カウンセリングの基礎理論Ⅰ「空間・戒律・仏性」
14．仏教カウンセリングの基礎理論Ⅱ「静寂と正念（マインドフルネス）」
15．まとめ.

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる。各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次回に提出させる。(計 90 分以上)

テキスト

随時プリントにて配布

参考書・参考資料等

①『心理学第２版心のはたらきを知る』梅本堯夫、大山正、岡本浩一、高橋雅延共著
②『禅セラピー仏教から心理療法への道』デビットプレイジャー著コスモスライブラリー著
③『脳にみる心、心にみる脳：mind サイトによる新しいサイコセラピー』ダニエル・J・シーゲルス著清和書店
④『マインドフルネス入門講座』大谷彰著金剛出版

学生に対する評価

授業での発言、積極的行動、毎回の授業レポートによる評価（50%）試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）身体感覚とともに自分を知ることと人間学とのつながりが理解できている。
（B）言語と言語以外のコミュニケーションを通して自他を知ることの大切さが理解できている。
（A）人間学とは何かについて、自分の言葉と文字で表現することができる。
（S）人間学とは何かについて、自分の言葉と文字で表現し、他者に伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

その他

体験学習が主になりますので、積極的な参加を期待する。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ゲシュタルトセラピー 125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、人間の成長と傷つき、そこからの回復という人間の生きる力を学べる場としたい。

科目名	人間学基礎ゼミⅣA	学期	後期	単位数	2	担当者	上 野 和 久
副　題							
ナンバリング	N 2-20-056	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連DP	1,2

授業の目的と概要

体験学習を通して、感情を中心に、脳と身体感覚、行動（運動）について考察し、フェルトセンスを感じることを目的とした授業形態である。それは、書くこと、読むこと、歌うこと、身体を動かすことを通して身体感覚を育み、自他への思いやりの大切さが理解できるようなエクササイズを中心としたものである。

授業の到達目標

この世で生きる限り、私たちの脳と身体が一致することで、安心・安全感を持つことができる。そこには、感情と言う人間学の中心的概念がある。これは神経生理学から理解することができる。それはまた、私たちの大いなる時間と自然が育んできた生命そのものから生まれたものである。この授業は、感情を中心に身体・脳（思考）・行動に気づきを持ちながら、さまざまな体験学習を行う。その体験プロセスから、体感したこと、イメージしたことを形（文字･文章）にする学習をする。その体験過程を言語化する中で、そこに関連情報を集め収集し、集めた情報を吟味し、文章を書くことを学ぶ。

授業計画

1．授業の進め方について心とは
2．心身の「安全」と「絆」について（生理学的視点から）・・ポリベーガル理論概論
3．第１章　こころ①「我と汝」・自分の中の対話
4．こころ②自分と大自然と対話してみよう。
5．こころ③人生曲線とは。俯瞰する時間と記憶
6．こころ④家系図を描いてみよう：なぜ人間学科を選んだのか？
7．第２章　不安日本大震災からの学び・・・・・現代社会と宗教を考える
8．第３章　静謐と狂気言語と身体の自由な往復運動サウンドを作ろう。ミュージックセラピー・ダンスセラピー
9．第４章　死犯罪被害者支援を考える：被害者の文章を黙読と音読で読む
10．第５章　私を俯瞰する・・ゲシュタルト療法より擬人化ワーク
11．第６章　超越①他者を通して自分を知る
12．超越②他者を支援する
13．スピリチュアリティとは何か：人生の俯瞰的な視点について
14．「癒しの糸をたぐりよせるために」レポート作成の授業
15．まとめの質疑応答

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる。各授業終了後、ｆｅｅｄｂａｃｋ用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次回に提出させる。(計 90 分以上)

テキスト

随時プリント配布

参考書・参考資料等

①『この世とあの世の風通し加藤清は語る』加藤清上野圭一著春秋社②『心理臨床家のあなたへ』皆藤章著福村出版④『ポリベーガル理論入門』スティファン・W・ポージャス春秋③『脳にみる心、心にみる脳：mind サイトによる新しいサイコセラピー』ダニエル・J・シーゲルス著清和書店等

学生に対する評価

授業での発言、積極的行動、毎回の授業レポートによる評価（50%）レポート試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業での体験学習と各講義の重要語句との繋がりが最低限の文章化ができる。
（B）授業での体験学習について、各講義の重要語句との繋がりがある程度の文章化できる。
（A）授業での体験学習と今までの講義の知識とつなげることができ、それを文章化できること。
（S）授業での体験学習と講義の知識から新しい気づきが生まれ、それを文章化できること。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ＩＳＰトレーニング、ゲシュタルトセラピー 125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、人間の成長と傷つき、そこからの回復という人間の生きる力を学べる場とするとともに、人と人とのつながりという社会神経を培うことの重要な意味を体験学習から伝える。

科目名	キャリアカウンセリングⅡ-1／キャリアデザインⅢ	学期	前期	単位数	2	担当者	高田綾子
副題							

ナンバリング	N 2-16-057	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	4

授業の目的と概要

グループディスカッション等を通じて実践しながら社会人基礎力について考える。近年の働き方や生き方の変化に伴い提唱されている新たな社会人基礎力について学ぶことにより、より中長期的な視点に立った必要な能力について考える。

授業の到達目標

職場や地域社会で多様な人々と仕事・社会生活をしていくために社会人として必要な基礎的な力について、知識の習得だけにとどまらず、行動に繋げる。

授業計画

1．人生設計とキャリアデザインを考える
2．社会人の心構えと求められる能力を考える
3．社会人基礎力（前に踏み出す力①－主体性）
4．社会人基礎力（前に踏み出す力②－実行力）
5．社会人基礎力（前に踏み出す力③－働きかけ力）
6．社会人基礎力（考え抜く力①－課題発見力）
7．社会人基礎力（考え抜く力②－計画力）
8．社会人基礎力（考え抜く力③－創造力）
9．社会人基礎力（チームで働く力①－発信力）
10．社会人基礎力（チームで働く力②－傾聴力）
11．社会人基礎力（チームで働く力③－柔軟性）
12．社会人基礎力（チームで働く力④－状況把握力）
13．社会人基礎力（チームで働く力⑤－規律性）
14．社会人基礎力（チームで働く力⑥－ストレスコントロール力）
15．人生 100 年時代に求められる能力を考える

準備学習（予習・復習）・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分)
・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト

山崎紅「社会人基礎力講座」(日経ＢＰ社)「書店で購入」

参考書・参考資料等

①新井明・玄田有史「キャリア基礎講座テキスト」2019（日経ＢＰ社）
②井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門　第 2 版』2020（慶応義塾大学出版会）
③リンダ・グラットン・アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT-100 年時代の人生戦略』
2016（東洋経済新報社）　他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（40%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会人基礎力について理解している。
（B）社会人基礎力について理解でき、積極的な意見の発表、質問ができる。
（A）社会人基礎力について理解でき、テーマについてセルフワークができ、グループワークで議論できる。。
（S）社会人基礎力について理解でき、テーマについてプレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ISP トレーニング、ゲシュタル　実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。トセラピー 125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験値から、人間の成長と傷つき、そこからの回復という人間の生きる力を学べる場とするとともに、人と人とのつながりという社会神経を培うことの重要な意味を体験学習から伝える。

科目名	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞⅡ-2）／キャリアデザインⅣ	学期	後期	単位数	2	担当者	高田綾子
副題							

ナンバリング	N 2-16-058	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	4

授業の目的と概要

① 産業・業種・職業の定義を理解し、産業と職業の関係を考える。
② アセスメントツールを用いて自分の興味ある分野を考え自己理解を深める。
③ キャリア形成の多様性を考える。

授業の到達目標

産業（業種）・職種・企業についての理解を深めるとともに、現代社会における多様な働き方の現状を理解する。

授業計画

1．「社会人」と「働くこと」
2．産業と職業を理解する
3．職業との関わりを考える
4．産業とは何かを理解する
5．産業の多様性を知る
6．役割分担について考える
7．社会人インタビュー情報から学ぶ①（一般事務の仕事）
8．社会人インタビュー情報から学ぶ②（営業の仕事）
9．社会人インタビュー情報から学ぶ③（商社の仕事）
10．社会人インタビュー情報から学ぶ④（介護サービスの職業）
11．社会人インタビュー情報から学ぶ⑤（製造技術者の仕事）
12．キャリアパスについて考える
13．キャリア形成と自己理解の深化
14．多様なキャリア形成について考える
15．今後の社会と生き方を考える

準備学習（予習・復習）・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分)
・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①川崎友嗣『大学生のためのキャリアデザイン　自分を知る・社会を知る・未来を考える』2019（ミネルヴァ書房）　②岩松養亮・下村英雄『大学生のキャリアガイダンス論』2012（金子書房）
③北浦正行『実践キャリアデザイン論 30 講』2013（日本生産性本部）
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業への参加度・学習態度（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）職業や産業に関する基礎的事項を理解している。
（B）キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、内容を適切な文章で表現できる。
（A）キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考えることができる。
（S）キャリア形成に関する基礎的事項を理解した上で、自分自身のキャリアについて具体的に考え、プレゼンテーションができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	伝統文化実習（民俗調査）／人間学実習（社会調査）	学期	通年	単位数	2	担当者	森本一彦
副題	社会調査士Ｇ科目						

ナンバリング	N 2-10-059	授業方法	実習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,3

授業の目的と概要

高野山および周辺集落の地域について調査を実施する。まず地域調査の概要ついて説明するとともに、調査地域を実見し、地域の課題を知る。高野町役場などで既存資料を収集した上で、調査計画を立案する。行政や地域住民に対してインタビュー調査を実施する。受講生の報告をもとに、最終的に調査報告書を作成する。

授業の到達目標

地域調査法の基礎を習得するとともに、実社会を理解するために、受講生自らが調査計画を立て上で、地域調査を行い、報告書を作成する。

授業計画

【前期】
1．地域調査の概要
2．テーマを設定する（1）
3．テーマの設定する（2）
4．調査法の確認（1）質的調査法
5．調査法の確認（2）量的調査法
6．調査計画書の作成（1）
7．調査計画書の作成（2）
8．既存資料の収集（1）
9．既存資料の収集（2）
10．既存資料の収集（3）
11．既存資料の整理・分析
12．観察調査の実施（1）
13．観察調査の実施（2）
14．観察調査の実施（3）
15．観察調査の整理

【後期】
1．インタビュー調査の実施（1）
2．インタビュー調査の実施（2）
3．インタビュー調査の実施（3）
4．インタビュー調査のデータ整理・分析
5．中間報告（1）
6．追加調査の実施（1）
7．追加調査の実施（2）
8．追加調査の実施（3）
9．中間報告（2）
10．調査報告書の作成（1）
11．調査報告書の作成（2）
12．調査報告書の作成（3）
13．調査報告書の作成（4）
14．受講生の報告（1）
15．調査報告書の修正

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分)。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

上野和男他編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

報告書（50%）、授業中の発言やコミュニケーションカードなど積極的な授業態度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テーマを選び、調査計画を立てることができる。
（B）調査計画に基づいて、調査ができる。
（A）調査に基づき、報告書を作成できる。
（S）学んだことをもとに、自身で調査ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・積極的に授業を参加するとともに、授業外における課題の作成、調査が必要であることを了解した上で履修すること。・社会調査士Ｇ科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	企画科目（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論Ａ）／人間学専門講義（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ論Ａ）	学期	前期	単位数	2	担当者	上野和久
副題							

ナンバリング	N 2-10-060	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業の到達目標

カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

授業計画

1．オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2．カウンセリングの歴史的背景を知る
3．心理アセスメントについて
4．様々なカウンセリングを知る（クライエント中心療法）
5．様々なカウンセリングを知る（精神分析的心理療法）
6．様々なカウンセリングを知る（解決思考アプローチ）
7．様々なカウンセリングを知る（認知行動療法）
8．様々なカウンセリングを知る（その他）
9．子どもへのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
10．保護者へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
11．発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
12．被虐待へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
13．非行を行う人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
14．自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる（90 分)。
各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90 分)、次回に提出する。

テキスト

随時プリント配布

参考書・参考資料等

①『カウンセリングの実際問題』河合隼雄著　誠信書房，1970 年　②『カウンセリングの理論』國分康孝著　誠信書房 ,1980 年　③『カウンセリングの技法』國分康孝著　誠信書房 ,1979 年　④『カウンセリングとは何か』諸富祥彦著　誠信書房等 ,2010 年

学生に対する評価

課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション・実習等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）カウンセリングの技法（最低３つ以上）と基礎知識について説明できる。。
（S）カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクテーショナー、ＳＥプラクテーショナー、ＩＳＰトレーニング、ゲシュタルトセラピー 125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、ラボラトリートレーニングを中心に技術と知識を合わせ持った体験型授業を試みる。

科目名	企画科目（高野文化圏論）／人間学専門講義（高野文化圏論）	学期	前期	単位数	2	担当者	森本一彦
副題							

ナンバリング	N 3-11-061	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について生活文化を中心に検討することによって、身近な地域について理解する。

授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の生活文化について理解し、説明できるようになる。

授業計画

1．高野文化圏研究の意義
2．高野文化圏をめぐる環境（1）自然
3．高野文化圏をめぐる環境（2）歴史
4．景観の諸問題（1）景観権
5．景観の諸問題（2）歴史的景観
6．生業（1）農林業
7．生業（2）職人
8．生業（3）商業
9．交通・交易（1）高野街道
10．交通・交易（2）街道の変化
11．交通・交易（3）交易
12．社会生活（1）村
13．社会生活（2）近隣関係
14．社会生活（3）信仰集団
15．高野文化圏の生活文化の特徴

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012 年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業時の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）高野文化圏の生活文化について基本的事項を説明できる。
（B）授業内容を理解した上で、高野文化圏の生活文化について説明できる。
（A）高野文化圏の生活文化について自己の意見を述べることができる。
（S）高野文化圏の課題に対する対策を提案できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	企画科目（死生観A）／人間学専門講義（死生観A）	学期	後期	単位数	2	担当者	山脇雅夫
副題							

ナンバリング	N 3-03-062	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

日本人の死生観の変遷と、現代日本人の死生観について、映画や絵本を取り上げながら、理解を深める。ディスカッションの時間を可能な限り取り入れ、受講者が自身の死生観を見つめ直し、培う場としたい。

授業の到達目標

日本人の死生観についての理解を深めると同時に、受講者それぞれの死生観を見つめ直し、培う場とする。

授業計画

1．死生学と死生観
2．死生観の生成と涵養
3．死に向き合う（映画「赤ひげ」）
4．死までの生を生きる（映画「生きる」）
5．グループワーク、ディスカッション①（絵本『100 万回生きた猫』）
6．死からの生を生きる（宮沢賢治『銀河鉄道の夜』）
7．故人との関係性
8．日本人の死生観と他界観（『古事記』）
9．死者を送る（映画『おくりびと』）
10．この世とあの世を媒介するもの：お迎え
11．この世にいる死者：幽霊
12．新しい葬送の形：死者はどこにいるのか（歌「千の風になって」）
13．受け継がれていく生（映画「歩いても歩いても」）
14．「無宗教」という死生観
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・シラバスに予告された作品を事前に見ておく（予習）。講義内容を整理するとともに、関連書籍を研究する（復習）。（計 90 分以上）

テキスト

島薗進『日本人の死生観を読む　明治武士道から「おくりびと」へ』(朝日選書)

参考書・参考資料等

学生に対する評価

期末レポート（50%）、毎回の授業時に提出する課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本人の死生観について基本概念を理解し、自身の死生観をなんとなく説明できる。
（B）日本人の死生観とその変遷を配布資料に沿って理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
（A）日本人の死生観とその変遷を配布資料を含む複数の資料を見ながら他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
（S）日本人の死生観とその変遷を資料を見ずに他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、「日本人の死生観」に比較言及しながら自身の死生観を自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

映画は時間の関係で一部しか鑑賞できない。ぜひ、全編鑑賞することをすすめる。授業計画は予定であり、取り上げる映画等、一部変更する可能性がある。

科目名	企画科目（社会調査入門）／人間学専門講義（社会調査入門）	学期	前期	単位数	2	担当者	森本一彦
副題	社会調査士 A 科目						

ナンバリング	N 2-11-063	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

社会調査の基礎・概要について学ぶとともに、社会調査がなぜ必要であり、なぜ基礎的な技法を学ばなければならないのかを考える。

授業の到達目標

社会調査の基礎・概要を理解する。

授業計画

1．社会調査の目的と意義
2．社会調査の歴史
3．調査倫理
4．量的調査と質的調査
5．既存統計データ（1）
6．既存統計データ（2）
7．量的調査（1）質問紙調査の概要
8．量的調査（2）統計処理の方法
9．量的調査（3）質問紙調査の事例
10．量的調査（4）質問紙調査の事例
11．質的調査（1）質的調査の概要
12．質的調査（2）インタビュー調査の事例
13．質的調査（3）観察法の事例
14．質的調査（4）ドキュメント分析の事例
15．社会調査の可能性－実際の調査事例

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

プリントを配布する。

学生に対する評価

レポート（70%）、小レポートと授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会調査の基礎的な用語について説明ができる。
（B）社会調査の各方法について説明ができる。
（A）社会調査の設計ができる。
（S）社会調査を実施できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・社会調査を設計し、実際に予備調査を行った上で、レポートを作成することになるので、授業について十分に理解すること。
・社会調査士 A 科目に当たる。社会調査士資格については担当者に確認すること。

科目名	企画科目（社会調査方法論）／人間学専門講義（社会調査方法論）	学期	後期	単位数	2	担当者	森本一彦
副題	社会調査士 B 科目						

ナンバリング	N 2-11-064	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

社会調査による資料やデータの収集、整理していく具体的な方法について解説を行う。調査目的と調査方法、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法、アンケート用紙の作成、調査の実施方法、調査データの整理について説明を行う。

授業の到達目標

調査設計と実施方法に関する具体的な知識の習得

授業計画

1．調査目的
2．調査方法と調査方法の決め方
3．調査企画
4．調査の設計と仮説構成
5．全数調査と標本調査
6．無作為抽出
7．標本数と標本誤差
8．サンプリングの諸方法
9．質問文・調査票の作り方（1）
10．質問文・調査票の作り方（2）
11．調査票の配布・回収
12．エディティング、コーディング、データクリーニング
13．インタビューの仕方
14．フィールドノートの作成
15．具体的な調査計画を立てる

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

篠原清夫 / 清水強志 / 榎本環 / 大矢根淳編 ,2010,『社会調査の基礎知識』弘文堂 .
そのほかは授業のなかで適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内の課題（毎回のテスト）（70%）、発表（10%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識について覚えている。
（B）基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識について資料を使って説明できる。
（A）基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識を適切な資料を選び自分の言葉で説明できる。
（S）基本的な資料とデータの分析に関する知識を踏まえた上で、資料の分析ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	企画科目（情報リテラシー論）／人間学専門講義（情報リテラシー論）	学期	後期	単位数	2	担当者	森本一彦
副題	社会調査士Ｃ科目						
ナンバリング	N 2-13-065	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

この授業は、官庁統計、調査報告書などの統計資料を理解するために必要な基礎的知識の習得を目的とする。単純集計、度数分布、記述統計量、クロス集計などの記述統計データやグラフの正確な理解と、そうしたデータ分析を行なうための基礎的知識と技術を身につけていく。

授業の到達目標

基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識の習得

授業計画

1．ガイダンス：講義説明
2．統計資料の種類と特性
3．統計資料の収集と読み方
4．質的変数と量的変数
5．記述統計（1）単純集計
6．記述統計（2）度数分布、代表値、分散（1）
7．記述統計（3）度数分布、代表値、分散（2）
8．記述統計（4）平均、中央値、最頻値など
9．記述統計（5）分散・標準偏差など
10. クロス集計（1）
11. クロス集計（2）
12. 相関
13. 因果関係
14. 調査データを用いた統計と分析（1）
15. 調査データを用いた統計と分析（2）

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

篠原清夫 / 清水強志 / 榎本環 / 大矢根淳編 ,2010,『社会調査の基礎知識』弘文堂 .
そのほかは授業のなかで適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内の課題（毎回のテスト）（70%）、発表（10%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識について覚えている。
（B）基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識について資料を使って説明できる。
（A）基本的な資料とデータの分析に関する基礎知識を適切な資料を選び自分の言葉で説明できる。
（S）基本的な資料とデータの分析に関する知識を踏まえた上で、資料の分析ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	企画科目（地域産業論）／人間学専門講義（地域産業論）	学期	前期	単位数	2	担当者	鈴木裕範
副題							
ナンバリング	N 2-11-066	授業方法	講義	実務経験の有無		関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

あなたは、将来どのような地域に住みたいと思いますか。そして、そこで何をし何ができるのか。2040 年、日本の人口は現在より 2 千万人減少、人口構成や産業構造、仕事も激変、日本社会における格差社会の定着化は避けられない。経済は、グローバル化、IT 社会、AI 産業の拡大によって、多くの地域で地域経済は、厳しい環境に立たされるものと思われる。本授業では、地方衰退の主要な要因である地域経済を考えるうえで重要な地域産業の視点から、産業が果たす役割と産業構造、観光や再生エネルギー―などの新たな産業の創出、地方自治体と産業政策などをテーマに講義し、地方創生と持続可能な地域づくり・まちづくりにたいする理解を深めることとする。

授業の到達目標

地域経済が様々な課題に直面するいっぽう、持続的な発展を図る地域産業の取り組みが各地で生まれている。それら『地域産業』の諸相を学ぶことを通して、地域産業が地域経済にもたらす影響を理解するとともに、『地域』とはそもそも私たちにとってどういう場所、どういう存在なのかを発見・再認識することに努め、地方衰退が止まらない現状と地方創生の意味を知り、みずからの「地域人像」を考える。

授業計画

1．待ったなしの地方創生　地方の衰退と地域産業の衰退
2．地域と地域産業　日本における歴史的な展開と特徴
3．地域産業が創造する都市の価値　企業城下町か文化産業都市か
4．地域産業のプレゼンス　繊維産業と産地の動向
5．和歌山県の地場産業集積都市・海南市にみる生活関連用品産業（家庭日用品・漆器を中心に）
6．食品と関連産業業界の現在　大メーカーが作る「和食」の味？
7．地域産業　老舗にみる経済哲学と興亡　性
8．農村・農業危機のもとで展開される農村のまちづくりと挑戦ー田辺市上秋津ほか
9．６次産業化とブランド戦略　　日本一のウメの町と産業クラスターの形成
10. 長期低迷がつづく林業・製材業　環境と再生エネルギーで森は甦るか　熊野・吉野の挑戦え
11. 紀州和歌山から見える日本そして世界の漁業・水産業問題
12. 訪日外国人観光客４千万人と基盤整備　観光産業は地方を救うか　可能性と課題は何か
13. グローバル化する国際経済と地域産業　和歌山市の先端産業から考える
14.「聖地・高野山」のまちづくりの方向と産業戦略　フィールドワークから見えること
15. 地域産業の復権から構想する地方・地域の未来は？

準備学習（予習・復習）・時間

授業終了後に毎回授業のテーマに関わる小レポート（800 字程度＋キイワード）（計 90 分以上）を課すので、次回授業時に提出すること。レポートの提出がない場合は出席を認めない。

テキスト

授業担当者が各授業で配布する資料

参考書・参考資料等

『地域再生の経済学』（中公新書神野直彦著中央公論新社）
『平成経済衰退の本質』（金子勝著　岩波新書）
『観光亡国論』（アレックス・カー　清野由美　中公新書ラクレ）

学生に対する評価

レポート（70%）、発表（15%）、授業参加の積極性（15%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地域産業の特色と概要を覚えている。
（B）地域経済と地域産業の関係について説明できる。。
（A）地域産業の盛衰がもたらす地域への影響について具体的なモデルを説明できる。
（S）地域産業が生み出す経済的価値と文化的価値、そして企業と地域の関係について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。定期試験は知識の理解、習得を確認するために最終授業で実施する。

その他

授業は担当教員の研究を踏まえた資料にもとづき進行する。受講にあたっては、出身地や和歌山県の地域特性については予備知識を得て臨んでほしい。

科目名	企画科目(地域連携)／人間学専門講義(地域連携)／地域福祉Ｂ(別)	学期	前期	単位数	2	担当者	森本一彦
副題							
ナンバリング	N 2-11-067	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

高野山や周辺地域に関わりのある方をゲストスピーカーとして招き、話題提供をしていただき、その後質疑応答、ディスカッションを行うことによって、地域を理解する。

授業の到達目標

高野山大学が立地する地域に関する理解し、説明できる。

授業計画

1．地域社会から考える
2．地方行政－高野町の事例
3．高野山と産業（1）ごま豆腐
4．高野山と産業（2）織物
5．高野山と産業（3）橋本と高野山
6．高野山と産業（4）農業
7．高野山を支える（1）福祉
8．高野山を支える（2）経済
9．高野山を支える（3）地域ブランディング
10. 高野山を支える（4）移住者
11. 参拝と観光
12. 地域と教育
13. 高野町の町並み（建築）
14. 地方自治
15. 地域社会の課題

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

最終レポート（70%）、小レポートと授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地域社会に関する基本用語を説明できる。
（B）地域社会がどのような状況にあるかを説明できる。
（A）地域社会に対して自分の考えを提案できる。
（S）地域社会に対して実際に行動することができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・高野山周辺を中心として就職したいという強い希望を持ち、真面目に受講することが必要である。
・インターンシップを希望する者は、必ず受講すること。
・授業内容・日程・ゲストスピーカーなど詳細については、第 1 回目の授業に指示する。
・意見を発表してもらうので、授業を聞いて内容を理解する必要がある。

科目名	企画科目（発達心理学Ａ）／人間学専門講義（発達心理学Ａ）	学期	後期	単位数	2	担当者	上野和久
副題							
ナンバリング	N 2-10-068	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

生涯発達の視点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を理解する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考察する。

授業の到達目標

人間の発達的観点に基づいて総合的に人を理解でき、各発達段階での適切な援助方法を考えることができるようになる。

授業計画

1．発達心理学とは
2．遺伝と環境、及び、初期経験
3．言語の発達について
4．認知の発達について
5．発達段階と発達課題（総論）
6．乳児期の発達について
7．幼児期の発達について
8．児童期の発達について
9．思春期の発達について
10. 青年期の発達について
11. 成人期の発達について
12. 老年期の発達について
13. 発達障害とその支援①
14. 発達障害とその支援②
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる（90 分）。
各授業終了後、フィードバック用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し(90 分)、次回に提出する。

テキスト

随時、講師作成の資料を配布

参考書・参考資料等

関一夫・斎藤慈子（編）『ベーシック発達心理学』東京大学出版会 ,2018 年無　藤隆・田島信元・高橋恵子（著）『発達心理学入門』,2010 年

学生に対する評価

課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）人間の発達過程における重要語句を最低限の説明できる。
（B）人間の発達過程の概ねの理解とそれぞれの発達過程の課題や問題点を説明できる。
（A）人間の発達過程における課題や問題点への基本的な援助方法を説明できる。
（S）発達的観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考え、説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚(フェルトセンス)に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクテーショナー、SE プラクテーショナー、ISP トレーニング、ゲシュタルトセラピー 125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、発達心理学を心理学、大脳生理学、身体心理学等の新しい視点から人間の発達を取り扱い、新しい視点から発達心理学の学びの場を提供する。出生前からの心理的影響からの身体的影響（逆の影響も含め）、生育のなかでのトラウマなどさまざまなストレスの中で、レジリエンスを持った人間のすばらしさを伝える場としたい。

科目名	人間学特殊ゼミⅠA／人間学専門講義（悲嘆学A）	学期	前期	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題	悲嘆学						
ナンバリング	N 2-03-069	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1．悲嘆の定義・理論
2．悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3．犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4．犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5．虐めと虐待①（虐め体験について）
6．虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7．難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8．難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9．ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10．ホスピス・緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11．自死遺族支援①（遺族の心理）
12．自死遺族支援②（サポートグループについて）
13．災害時支援①（災害による喪失体験）
14．災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15．講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消されているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂 ,2010 年。
その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミⅡA／人間学専門講義（自殺学A）	学期	後期	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題	自殺学						
ナンバリング	N 2-02-070	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業の到達目標

自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

授業計画

1．日本における自殺の現状
2．世界における自殺の現状
3．自殺についての理論①精神分析的視点
4．自殺についての理論②認知論的視点
5．自殺についての理論③対人関係論的視点
6．自殺と精神障害
7．自殺と自傷
8．自殺対策①：危機介入
9．自殺対策②：予防的介入
10．自殺対策③：事後の対応
11．自殺とメディア
12．自殺とインターネット
13．自殺と文化
14．自殺と社会
15．講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消されているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自殺に関する基本的な知識を身につけている。
（B）自殺を志向する心理について理解している。
（A）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
（S）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	企画科目（キャリア研修）／キャリア研修	学期	後期	単位数	2	担当者	就 職 担 当
副　題							
ナンバリング	N 2-16-071	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

社会人として必要な力を身に付ける。
大学が指定する南大阪地域大学コンソーシアムなどのキャリア研修を受講し、担当大学から単位認定を受ける。

授業の到達目標

研修を体験することによって、職業意識を涵養する。

授業計画

1．事前指導
2．キャリア研修①
3．キャリア研修②
4．キャリア研修③
5．キャリア研修④
6．キャリア研修⑤
7．キャリア研修⑥
8．キャリア研修⑦
9．キャリア研修⑧
10．キャリア研修⑨
11．キャリア研修⑩
12．キャリア研修⑪
13．キャリア研修⑫
14．キャリア研修⑬
15．事後指導

準備学習（予習・復習）・時間

ボランティア実習の体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

村山昇・若田紗希『働き方の哲学 360 度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018 年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート（30%）、授業参加の積極性（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）キャリア形成について理解している。
（B）キャリア研修に積極的に参加できる。
（A）キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

・研修プログラム等については、7 月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。・プログラムによっては参加費が必要である。

科目名	祖典講読ⅢA／真言宗典講読２（別）１	学期	前期	単位数	2	担当者	佐 藤 隆 彦
副　題	『菩提心論』を読む						
ナンバリング	M 3-01-072	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

『菩提心論』は勝義、行願、三摩地の三種心を説く。このうち、三摩地段は古来不読段に触れる場合が少なくない。そこで今回は、『菩提心論』の三摩地段を理解する。『菩提心論』の講読を通して密教の構造を解明する端緒としたい。

授業の到達目標

『菩提心論』の講読を通して密教瞑想法の理解を深める。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『菩提心論』梗概（漢文の読み方声点）
3．『菩提心論』梗概（十巻章）
4．『菩提心論』梗概（論の作者と構成）
5．『菩提心論』「菩提心の概説」①
6．『菩提心論』「大悲行願心について」②（概要）
7．『菩提心論』「大悲行願心について」③（特質）
8．『菩提心論』「大智勝義心について」④（概要）
9．『菩提心論』「大智勝義心について」⑤（特質）
10．『菩提心論』「大智勝義心について」⑥（構造）
11．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑦（概要）
12．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑧（特質）
13．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑨（瞑想）
14．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑩（阿字観五相成身観）
15．三種心の総復習とレポート提出

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として『菩提心論』の中で該当する部分について目を通し読んでおくこと（90 分）。事後学修として講義内容を踏まえてノートを再整理すること。

テキスト

高野山大学編『十巻章』高野山出版

参考書・参考資料等

①吉祥真雄著『菩提心論講説』藤井佐兵衛②小田慈舟著『十巻章講説』高野山出版社③田中千秋著『田中千秋著作講話集』高野山出版社④生井智紹編『密教自心の探求『菩提心論』を読む』大法輪閣

学生に対する評価

授業参加への積極性（40%）レポート（60%）とし評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる
（B）原典の基本的な内容を理解できる
（A）原典にしたがって全体像を理解できる
（S）原典の内容を注釈書に沿って理解できる

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックをおこなう。

その他

毎回予習復習をしっかり行うこと。

科目名	祖典講読Ⅲ B	学期	前期	単位数	2	担当者	土 居 夏 樹
副　題	『弁顕密二教論』巻上を読む 1						
ナンバリング	M 3-01-073	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

弘法大師空海の『弁顕密二教論』では、法身説法という思想を中心に、密教の特徴が論じられている。この講義では、『弁顕密二教論』巻上を原典から読み進み、「密教とは何か」という問題を考えて行く。前期は特に、教相判釈・仏身論の基礎知識と、『釈摩訶衍論』による顕密教判を中心に進める。

授業の到達目標

弘法大師空海の著作に親しみつつ、教相判釈および仏身論の基礎知識を習得し、弘法大師の「密教」の基本的定義を理解する。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ① 教相判釈とは？
3．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ② 仏身論の基礎知識
4．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ③ 顕密対弁の変遷
5．『弁顕密二教論』巻上を読む（1）顕教と密教 ① 顕教とは？
6．　〃　（2）顕教と密教 ② 秘蔵金剛頂経の説
7．　〃　（3）顕教と密教 ③ 顕教への執着 / 造論の意義）
8．　〃　（4）顕教と密教 ④ 法身説法の有無
9．　〃　（5）伝匠の談不＆典拠の問答
10．　〃　（6）『釈論』による顕密教判 ①『釈摩訶衍論』について
11．　〃　（7）『釈論』による顕密教判 ② 五重問答（前編）
12．　〃　（8）『釈論』による顕密教判 ③ 五重問答（後編）
13．　〃　（9）『釈論』による顕密教判 ④ 果海問答 / 因海問答
14．　〃　（10）『釈論』による顕密教判 ⑤ 不二摩訶衍仏・円円海徳諸仏
15．前期のまとめ―密教と顕教―

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60 分）。
・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60 分）。
・その他の学習については講義内で指示する（60 分）。

テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部（←書店で購入）

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社
②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社
③小田慈舟『十巻章講説』下巻、高野山出版社
④宮坂宥勝監修『空海コレクション』Ⅰ、ちくま学芸文庫
※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業内での素読（20%）、授業への参加度（20%）、期末レポート（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『弁顕密二教論』の素読ができる。
（B）「仏身論」についての基礎的な説明ができる。
（A）『弁顕密二教論』の引用経論とその特徴について説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、『弁顕密二教論』における「密教」定義の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習をすること。
・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。

科目名	祖典講読Ⅳ A／真言宗典講読 2（別）2	学期	後期	単位数	2	担当者	佐 藤 隆 彦
副　題	『吽字義』を読む						
ナンバリング	M 3-01-074	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

『吽字義』は『即身義』『声字義』とあわせて三部書といわれる。ところが、内容的には密教の実践法とも密接なかかわりが想定される。そこで、『吽字義』と密教実践について着目し、密教教理と密教実践との接点を『吽字義』に探り、多角的総合的に理解をする。

授業の到達目標

『吽字義』を総合的に理解することができる。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『吽字義』の成立背景
3．『吽字義』の綱領
4．『吽字義』の講読（漢文の読み方四声点等）
5．『吽字義』の講読（初日から三日）
6．『吽字義』の講読（四日から六日）
7．『吽字義』の講読（七日から八日）
8．『吽字義』の講読（九日から十日）
9．『吽字義』と『阿字観用心口訣』（略観）
10．『吽字義』と『阿字観用心口訣』（広観）
11．『吽字義』と『秘蔵記』（本不生）
12．『吽字義』と『秘蔵記』（字相と字義）
13．『吽字義』と字輪観（字輪観の概要）
14．『吽字義』と字輪観（字輪観の深意）
15．総復習とレポート提出

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として授業範囲のテキストを読んでおくこと（60 分）。事後学修として、講義の内容を踏まえてノートを整理しておくこと（90 分）。

テキスト

『十巻章』高野山大学出版

参考書・参考資料等

小田慈舟著『十巻章講説』高野山出版社など

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）・試験（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる
（B）原典の基本的な内容を理解できる
（A）原典にしたがって全体像を理解できる
（S）原典の内容を注釈書に沿って理解できる

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でフィードバックを行う。

その他

予習復習に努めること。

科目名	祖典講読Ⅳ B	学期	後期	単位数	2	担当者	土 居 夏 樹
副　題	『弁顕密二教論』巻上を読む 2						
ナンバリング	M 3-01-075	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

前期に引き続き、『弁顕密二教論』巻上を読み進める。この講義では、『弁顕密二教論』巻上に引用された諸宗のテキストおよび大師の解釈、さらにはそれが諸宗の教学本来の立場ではどのように論じられるものであるのか、という点を踏まえつつ、「密教とは何か」という問題を考えて行く。

授業の到達目標

弘法大師空海の著作に親しみつつ、大師当時の諸宗の教学に関する基礎知識を習得し、大師の定義する密教の特徴を理解する。

授業計画

1．前期のまとめと概論（講義の進め方等）
2．『弁顕密二教論』　巻上を読む（11）華厳宗の果分不説 ① 因分可説・果分不可説
3．　〃　（12）華厳宗の果分不説 ② 華厳教学における法蔵解釈
4．　〃　（13）天台宗の果分不説 ① 三諦と随情説・随情智説・随智説
5．　〃　（14）天台宗の果分不説 ② 顕教の宗極③『法華経』教主と「或者」
7．　〃　（16）法相宗の果分不説 ① 四重二諦と三能変
8．　〃　（17）法相宗の果分不説 ② 法相教学における法身説法極
9．　〃　（18）三論宗の果分不説 ① 八不と無生法忍
10．　〃　（19）三論宗の果分不説 ②『般若灯論釈』の仏身論
11．　〃　（20）三論宗の果分不説 ③ 三論教学の法身説法
12．　〃　（21）二重二諦と密号名字
13．　〃　（22）五種言説と十種心量忍
14．　〃　（23）『菩提心論』の顕密対弁
15．後期のまとめ―密教とは何か―

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60 分）。
・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60 分）。
・その他の学習については講義内で指示する（60 分）。

テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部（←書店で購入）

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社
②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社
③小田慈舟『十巻章講説』下巻、高野山出版社
④宮坂宥勝監修『空海コレクション』Ⅰ、ちくま学芸文庫
※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業内での素読（20%）、授業への参加度（20%）、期末レポート（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『弁顕密二教論』の素読ができる。
（B）四家大乗（華厳宗・天台宗・法相宗・三論宗）各宗の基礎的な教義や歴史を説明できる。
（A）四家大乗（華厳宗・天台宗・法相宗・三論宗）批判の問題点を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、『弁顕密二教論』における「密教」定義の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習をすること。
・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに土居研究室に取りに来ること。

科目名	密教学講読演習 A	学期	後期	単位数	2	担当者	松 長 潤 慶
副　題	密教図像に関する体系的学習						
ナンバリング	M 3-01-076	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乗仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマーラー』や『ニシュパンナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める。

授業の到達目標

密教尊像の基本的な知識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．漢訳資料の基本的な扱い方
3．漢文資料の基本的な講読練習　（般若心経前半）
4．漢文資料の基本的な講読練習　（般若心経後半）
5．尊格表現方法の基本知識　（仏の種類）
6．尊格表現方法の基本知識　（仏の展開）
7．尊格表現方法の基本知識　（曼荼羅）
8．尊格表現方法の基本知識　（曼荼羅の展開）
9．漢訳図像資料講読　（図像鈔）
10．漢訳図像資料講読　（図像鈔）
11．密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12．図像資料講読演習　（経典の講読）
13．図像資料講読演習　（経典の購読）
14．図像資料講読演習　（経典の購読）
15．レポート試験・講評

準備学習（予習・復習）・時間

準備学習は必要ないが、復習を必ず実施すること。週 1 時間。

テキスト

大正新脩大蔵経図像部

参考書・参考資料等

松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995 年頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994 年佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962 年

学生に対する評価

発表及び提出物（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢訳資料を扱える
（B）密教尊像に関する知識を得る
（A）密教図像に関する資料を扱える
（S）密教図像成立を体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断する。レポート（60%）、授業内演習（30%）、ノート作成（10%）

科目名	密教学講読演習Ｂ／観法の理論と実習（別）1	学期	前期	単位数	2	担当者	T. ドライトライン
副　題	数息観・月輪観・阿字観						
ナンバリング	M 3-01-077	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要

密教に伝わる瞑想の初級編。密教の代表的な観法の月輪観の理論を解説するとともに修法をおこないながら、秘密儀軌のなかの月輪観の典拠の一つである『無畏三蔵禅要』を理解する。阿字観の基本を『阿字観用心口決』から学ぶ。数息観などの実習もおこなう。理論だけでなく阿字観などの修法を授業に取り入れる。

授業の到達目標

密教観法について、説明できるようになる。

授業計画

1．顕教と密教における瞑想：目的と種類
2．数息観の理論と実習
3．阿息観の理論と実習
4．月輪観の理論
5．『無畏三蔵禅要』1（内容と成立について）
6．『無畏三蔵禅要』2（授戒作法について）
7．『無畏三蔵禅要』3（陀羅尼について）
8．『無畏三蔵禅要』4（月輪観について）と月輪観の実習
9．『無畏三蔵禅要』5（月輪の特徴について）と月輪観の実習
10．『無畏三蔵禅要』6（五心と経行法について）審と月輪観の実習
11．『阿字観用心口決』1（内容と成立について）
12．『阿字観用心口決』2（阿字観の次第について）
13．『阿字観用心口決』3（阿字観の意義について）
14．『阿字観用心口決』4（広観と歛観について）と阿字観の実習
15．『阿字観用心口決』5（本不生について）と阿字観の実習

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』のコピーを配布

参考書・参考資料等

北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）瞑想の基本概念について説明できる。
（B）月輪観と阿字観の実践法を理解し説明できる。
（A）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明できる。
（S）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明できる、『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』の要点を説明でき、密教観法の思想的背景について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。瞑想の実践を毎回行うので、僧侶でない受講者は座りやすい服装で受講すること。僧侶の受講者は黒衣に如法依で受講する。その他のことは講師と相談すること。

科目名	密教学講読演習Ｃ／観法の理論と実習（別）2	学期	後期	単位数	2	担当者	T. ドライトライン
副　題	阿字観とその意義						
ナンバリング	M 3-01-078	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要

密教瞑想の中級編。前期の数息観・月輪観・阿字観の修法と理論を踏まえて、さらに深く阿字観について学んでいくため、頼瑜の『阿字秘釈』、覚鑁の『阿字観』などをはじめとして、阿字観に関する平安末期や中世の短編著作を講読し理解する。理論だけでなく阿字観の修法を前期に続けておこなう。

授業の到達目標

密教観法について、修法し説明できるようになる。

授業計画

1．数息観・月輪観・阿字観について
2．『大日経』と阿字
3．『大日経疏』と阿字
4．『阿字秘釈』と阿字観の修法
5．『阿字秘釈』と『大日経疏』
6．『阿字秘釈』と『心地観経』
7．覚鑁の阿字観
8．覚鑁の『阿字観頌』と『月輪観頌』を読む
9．覚鑁の『阿字観』の各テキストを読む
10．覚鑁の『阿字月輪観』を読む
11．覚鑁の『心月輪秘釈』を読む
12．覚鑁の『真言浄菩提心私記』を読む
13．成尊の『観心月輪記』を読む
14．明恵の『阿字観』を読む
15．阿字観の世界について

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

『阿字秘釈』の刊本のコピーを配布

参考書・参考資料等

北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）月輪観と阿字観の実践法を理解し説明できる。
（B）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の要点を解説できる。
（A）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の内容を詳しく説明できる。
（S）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の内容を詳しく説明でき、密教観法の思想的背景について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。瞑想の実践を毎回行うので、僧侶でない受講者は座りやすい服装で受講すること。僧侶の受講者は黒衣に如法依で受講する。その他のことは講師と相談すること。

科目名	仏教学講読演習Ａ	学期	後期	単位数	2	担当者	前谷　彰
副　題	スッタニパータ						
ナンバリング	M 3-02-079	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

『スッタニパータ』の講読を通して、ブッダの肉声に迫り、仏教思想の根幹を理解する。

授業の到達目標

仏教思想の基本を、仏教における最古の経典と目されている『スッタニパータ』の講読を通して理解できるようになる。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『スッタニパータ』という経典について解説する。
3．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。①（蛇の経）
4．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。②（犀の一角の経）
5．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。③（いやしい人の経）
6．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。④（慈しみの経）
7．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑤（慈しみの経）
8．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読･解説する。⑥（なまぐさの経）
9．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑦（戒めの経）
10．『スッタニパータ』コラム１を読んで解説する。（コラム・自灯明）
11．『スッタニパータ』コラム２を読んで解説する。（慈悲）
12．『スッタニパータ』コラム３を読んで解説する。（中道）
13．『スッタニパータ』コラム４を読んで解説する。（非我）
14．『スッタニパータ』コラム５を読んで解説する。（縁起）
15．総まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修としてテキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。（60 分）
事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ』（講談社）

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と､授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	仏教学講読演習Ｂ	学期	前期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副　題	歴史学から仏教を研究する手法						
ナンバリング	M 3-02-080	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

歴史学は、史料にもとづいて歴史的事実を解明する学問であり、そのために史料が読解できることは不可欠なスキルとなる。
本授業では、奈良時代研究の基本史料である『続日本紀』や、空海請来以前の日本密教を考える上で重要な寺院史料である『西大寺資財流記帳』の輪読を通して、歴史学の研究手法と史料の読み方を修得する。

授業の到達目標

奈良時代の歴史書や寺院の資財帳の講読を通じて、歴史学の研究手法を身につけ、史料が読解できるようになる。

授業計画

1．歴史学の研究手法
2．歴史学研究における史料とその読解
3．奈良時代の社会と仏教－『続日本紀』･『西大寺資財流記帳』を読む前に－
4．『続日本紀』とはどのような史料か？－歴史資料としての歴史書－
5．『続日本紀』「称徳紀」を読む（1）（担当箇所についての発表）
6．『続日本紀』「称徳紀」を読む（2）（担当箇所についての発表）
7．『続日本紀』「称徳紀」を読む（3）（担当箇所についての発表）
8．『続日本紀』「称徳紀」を読む（4）（担当箇所についての発表）
9．『続日本紀』「称徳紀」を読む（5）（担当箇所についての発表）
10．『西大寺資財流記帳』とはどのような史料か？－歴史資料としての仏教史料－
11．『西大寺資財流記帳』を読む（1）（担当箇所についての発表）
12．『西大寺資財流記帳』を読む（2）（担当箇所についての発表）
13．『西大寺資財流記帳』を読む（3）（担当箇所についての発表）
14．『西大寺資財流記帳』を読む（4）（担当箇所についての発表）
15．『西大寺資財流記帳』を読む（5）（担当箇所についての発表）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、次回の授業範囲について辞書等で語句を調べておくこと（90 分）、事後学修として、授業範囲について、ノートに現代語訳をすること（60 分）。

テキスト

テキストとして、黒板勝美編『新訂増補国史大系続日本紀』（吉川弘文館、1981 年）・竹内理三編『寧楽遺文中巻』（東京堂出版、1977 年）を用いるが、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等

①小山田和夫『入門史料を読む古代・中世』（吉川弘文館、1995 年）
②吉川真司『天皇の歴史２聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018 年）
③勝浦令子『ミネルヴァ日本評伝選孝謙・称徳天皇』（ミネルヴァ書房、2014 年）
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

輪読担当部分の発表（50%）・予習・復習などの授業への参加度（50%）によって評価する。
全授業の３分の２以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）歴史学の研究における史料読解の重要性を理解する。
（B）歴史学の研究手法と史料としての歴史書や仏教史料の読み方について理解する。
（A）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を読むことができる。
（S）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を解釈することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。
本授業は、受講者それぞれに担当箇所を割り当て、発表により史料を読み進めていく科目である。担当者の発表後には積極的に討論に参加すること。

科目名	真言密教講読演習B	学期	前期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	次第のルーツを探る						

ナンバリング	M 3-01-081	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要

十八道次第のもととなる『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁麼儀軌』、『阿閦法等軌』、『准胝儀軌』、等を比較研究しながら、十八道次第を理解する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

秘密儀軌と十八道次第を理解する。

授業計画

1．秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘厳について）
5．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（荘厳道場法について）
9．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勧請法について）
10．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、出堂のあとについて）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

浄厳の木版『秘密儀軌』からコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。。
（A）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	真言密教講読演習C	学期	後期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	次第のルーツを探る						

ナンバリング	M 3-01-082	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要

一尊法に関する漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界と胎蔵界次第の理解を深める。胎蔵次第・金剛界次第と関連する秘密儀軌の内容について考察する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

秘密儀軌と金剛界次第・胎蔵界次第を理解する。

授業計画

1．『大日経』系の儀軌を読む①（三三昧耶）
2．『大日経』系の儀軌を読む②（『七支念誦法』を読む）
3．『大日経』系の儀軌を読む③（『聖観自在儀軌』を読む）
4．『大日経』系の儀軌を読む④（『立印儀軌』を読む）
5．『金剛頂経』系の儀軌を読む①（『蓮華部心軌』前半を読む）
6．『金剛頂経』系の儀軌を読む②（『蓮華部心軌』後半を読む）
7．『金剛頂経』系の儀軌を読む③（五相成身について）
8．『金剛頂経』系の儀軌を読む④（『如意輪瑜伽』前半を読む）
9．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤（『如意輪瑜伽』後半を読む）
10．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥（『文殊菩薩供養法』前半を読む）
11．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦（『文殊菩薩供養法』後半を読む）
12．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧（『五秘密儀軌』前半を読む）
13．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨（『五秘密儀軌』後半を読む）
14．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩（『虚空蔵法』を読む）
15．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑪（『虚空蔵求聞持法』を読む、まとめ）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

浄厳の木版『秘密儀軌』からコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の漢文の重要なところを読み、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	真言密教講読演習D	学期	前期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	金剛界の和会次第						

ナンバリング	M 3-01-083	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要

中院流の一流伝授の最初に学習するのは両界の伝授次第である。金剛界の伝授次第は淳祐の『金剛界念誦次第石山中院』（石山二巻次第）という中院流の本次第とそれを修法しやすくした宥快の『金剛界念誦頸次第中院』（宥快和会次第）である。この授業では、石山二巻次第を参考しながら宥快和会次第の伝授を受け、四度加行の『金剛界念誦次第』（大門寺次第）と比較して、真言密教における深い意味を理解する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解する。

授業計画

1．金剛界次第の種類と概略
2．金剛界伝授次第①（普供養まで）
3．金剛界伝授次第②（四無量心観から成菩提心まで）
4．金剛界伝授次第③（五相成身観）
5．金剛界伝授次第④（五相成身観から見智身まで）
6．金剛界伝授次第⑤（道場観）
7．金剛界伝授次第⑥（道場観から振鈴まで）
8．金剛界伝授次第⑦（「以上成身会了」・羯磨会）
9．金剛界伝授次第⑧（三昧耶会）
10．金剛界伝授次第⑨（大供養会）
11．金剛界伝授次第⑩（大供養会・四印会・一印会）
12．金剛界伝授次第⑪（入我我入・本尊加持）
13．金剛界伝授次第⑫（正念誦）
14．金剛界伝授次第⑬（字輪観）
15．金剛界伝授次第⑭（散念誦・後供養・撥遣）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

高岡隆心編『金剛界念誦次第石山中院』と『金剛界念誦頸次第中院』

参考書・参考資料等

『中院流聖教』３・４、『真言宗全書』24、『中院流四度宥快口傳』、『中院流四度長淳口訣』、『中院流四度宥勢口説』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、大山公淳『中院流の研究』他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）中院流の各種の金剛界次第の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。授業は伝授形式なので、受講者は黒衣に如法依で受講する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	真言密教講読演習E	学期	後期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	胎蔵界の和会次第						

ナンバリング	M 3-01-084	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要

中院流の一流伝授の最初に学習するのは両界の伝授次第である。胎蔵界の伝授次第は淳祐の『胎蔵界念誦次第石山中院』（石山次第）という中院流の本次第とそれを修法しやすくした宥快の『胎蔵界念誦頸次第中院』（宥快和会次第）である。この授業では、石山二巻次第を参考しながら宥快和会次第の伝授を受け、四度加行の『胎蔵界念誦次第』（大門寺次第）と比較して、真言密教における深い意味を理解する。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

中院流の胎蔵界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1．胎蔵界次第の種類と概略
2．胎蔵界伝授次第①（九方便、虚空蔵転明妃まで）
3．胎蔵界伝授次第②（観九重月輪から悲生眼印まで）
4．胎蔵界伝授次第③（大布字観から百光遍照まで）
5．胎蔵界伝授次第④（如来身会）
6．胎蔵界伝授次第⑤（作壇と道場観）
7．胎蔵界伝授次第⑥（道場観から結界まで）
8．胎蔵界伝授次第⑦（遍智院・観音院・金剛手院）
9．胎蔵界伝授次第⑧（持明院・文殊院・除蓋障院）
10．胎蔵界伝授次第⑨（地蔵院・虚空蔵院・釈迦院）
11．胎蔵界伝授次第⑩（最外院）
12．胎蔵界伝授次第⑪（最外院）
13．胎蔵界伝授次第⑫（最外院）
14．胎蔵界伝授次第⑬（入我我入・本尊加持・正念誦・字輪観）
15．胎蔵界伝授次第⑭（散念誦・後供養・撥遣）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

高岡隆心編『胎蔵界念誦次第石山中院』と『胎蔵界念誦頸次第中院』

参考書・参考資料等

『中院流聖教』３・５、『真言宗全書』25、『中院流四度宥快口傳』、『中院流四度長淳口訣』、『中院流四度宥勢口説』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、大山公淳『中院流の研究』、他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中院流の各種の胎蔵界次第の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）中院流の各種の胎蔵界次第の漢文を読み上げ、意味を解説できる。。
（A）中院流の各種の胎蔵界次第の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）中院流の各種の胎蔵界次第の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。授業は伝授形式なので、受講者は黒衣に如法依で受講する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	密教学特殊講義Ａ	学期	後期	単位数	2	担当者	奥 山 直 司
副　題	インド・チベット密教の図像資料の研究						

ナンバリング	M 3-01-085	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

チベット探検で知られる河口慧海が持ち帰った図像資料などに基づいて、インド・チベット仏教美術の主題と表現形式を学び、さらに『三百尊図像集』などを用いて、図像の解読の練習をする。あわせて図像資料に基づいて、インド・チベット仏教史の流れについて基礎的な知識を修得する。

授業の到達目標

インド・チベットの仏教図像に関する基礎的な知識と研究方法を身につけると共に、図像資料に基づいてインド・チベット仏教史の流れを概括的に把握できるようになる。

授業計画

1．ガイダンス：チベットのタンカをどう見るか
2．インド・チベット仏教美術の主題と表現形式
3．河口慧海の事績
4．河口コレクションの概要
5．河口コレクションによるチベット美術の主題と表現形式（1）タンカ
6．河口コレクションによるチベット美術の主題と表現形式（2）木版画
7．河口コレクションによるチベット美術の主題と表現形式（3）金銅仏・ツァツァ
8．梵文写本およびチベット語経典とそのミニアチュール
9．チベットの仏伝美術
10.『三百尊図像集』の概要
11.『三百尊図像集』を用いたインド・チベット仏教史の概説（1）祖師
12.『三百尊図像集』を用いたインド・チベット仏教史の概説（2）如来
13.『三百尊図像集』を用いたインド・チベット仏教史の概説（3）守護尊
14.『三百尊図像集』を用いたインド・チベット仏教史の概説（4）護法尊
15. まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、図書館で図版等を確認しておくこと（90 分）。
事後学修として、取り上げられた図像をよく見て記憶すること（90 分）。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

奥山直司他『釈尊絵伝』学習研究社、1996 年

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加状況（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）インド・チベット密教図像に関心を持つ。
（B）チベット仏教の尊格分類法を説明できる。
（A）インド・チベット密教の図像を分析的に説明できる。
（S）インド・チベット密教の図像を見て、その場で尊格名を言い当てることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻３回で１欠席と見なす。

科目名	密教学特殊講義Ｉ	学期	前期	単位数	2	担当者	川 﨑 一 洋
副　題	『大日経』を読む						

ナンバリング	M 3-01-086	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

真言密教において『金剛頂経』とともに「両部の大経」として重要視される『大日経』の漢訳テキストを読みながら、その内容を学習する。前年度の「住心品」に続き、本年度は「具縁品」を講読し、胎蔵曼荼羅や灌頂作法について理解を深める。漢訳の『大日経』を読む場合の基本的注釈書である『大日経疏』を参照しながらテキストを読み進めるが、必要に応じて、チベット語訳の『大日経』やブッダグヒヤの注釈などを参考にする（講師が和訳にて紹介）。

授業の到達目標

漢文読解力と密教経典や注釈書等に対する知識を培う。

授業計画

1．インド密教史通観
2．『大日経』とはどのような経典か①（密教史における『大日経』の位置づけ）
3．『大日経』とはどのような経典か②（テキストと注釈書の書誌的紹介）
4．『大日経』とはどのような経典か③（『大日経』の全体を概観する）
5．「具縁品」を読む①（阿闍梨と弟子の条件）
6．「具縁品」を読む②（作壇作法）
7．「具縁品」を読む③（三昧耶戒作法）
8．「具縁品」を読む④（曼荼羅の墨打ち）
9．胎蔵曼荼羅解説
10.「具縁品」を読む⑤（曼荼羅諸尊の配置）
11.「具縁品」を読む⑥（曼荼羅の通則）
12.「具縁品」を読む⑦（真言の実相）
13.「具縁品」を読む⑧（曼荼羅の供養）
14.「具縁品」を読む⑨（灌頂作法）
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60 分)
講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(120 分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

福田亮成『新国訳大蔵経・密教部１大日経』（大蔵出版）
頼富本宏『「大日経」入門・慈悲のマンダラ世界』（大法輪閣）
高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社）　など

学生に対する評価

試験（40%）、発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
（B）『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
（A）『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）『大日経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。
試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。
事相に関する内容を取り扱うため、伝法灌頂を受けていない受講者は、春と秋に高野山の金堂で開壇される結縁灌頂を受けることが望ましい。

科目名	密教学特殊講義Ｊ	学期	後期	単位数	2	担当者	川 﨑 一 洋
副　題	『金剛頂経』としての『理趣経』を読む						

ナンバリング	M 3-01-087	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

『初会の金剛頂経』（『真実摂経』）と、真言宗の常用経典である『理趣経』は、序分がほぼ同内容であり、金剛界曼荼羅の十六大菩薩は、『理趣経』の八大菩薩を２倍にして成立したことが知られている。この講義では、『理趣経』（不空訳『般若理趣経』）を『初会の金剛頂経』の内容と比較しながら読み、『金剛頂経』系密教の理解を深める。漢訳のテキストを中心に講読するが、必要に応じて、サンスクリット原典やチベット語訳、注釈書などを参考にする（講師が和訳にて紹介）。また、『理趣経』の曼荼羅についても解説する。

授業の到達目標

漢文読解力と密教経典や註釈書等に対する知識を培う。

授業計画

1．インド密教史通観
2．『理趣経』とはどのような経典か①（『金剛頂経』系密教における『理趣経』の位置）
3．『理趣経』とはどのような経典か②（テキストと注釈書の書誌的紹介）
4．『初会の金剛頂経』概説
5．金剛界曼荼羅概説
6．十六大菩薩の特徴
7．『理趣経』を読む①（序分）
8．『理趣経』を読む②（初段・十七清浄句以下）
9．『理趣経』を読む③（第二段、第三段）
10.『理趣経』を読む④（第四段～第六段）
11.『理趣経』を読む⑤（第七段～第十段）
12.『理趣経』を読む⑥（第十一段～第十五段）
13.『理趣経』を読む⑦（第十六段～百字偈）
14. 金剛薩埵儀軌類を読む
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60 分)
講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(120 分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

松長有慶他『新国訳大蔵経・密教部４金剛頂経・理趣経他』（大蔵出版）
頼富本宏『「金剛頂経」入門・即身成仏への道』（大法輪閣）
松長有慶『理趣経講讃』（大法輪閣）
高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社）　など

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
（B）『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
（A）『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
（S）『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。
試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。
事相に関する内容を取り扱うため、伝法灌頂を受けていない受講者は、春と秋に高野山の金堂で開壇される結縁灌頂を受けることが望ましい。

科目名	仏教学特殊講義Ａ	学期	前期	単位数	2	担当者	前 谷　　彰
副　題	宗教体験と言葉						

ナンバリング	M 3-02-088	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

仏教では「言葉」をどう捉えているかについて考察する。

授業の到達目標

仏教において「言葉」は有効か否かをブッダとその対告衆との関係性について説明できるようになる。

授業計画

1．オリエンテーション
2．仏教における言葉と沈黙（梶山雄一の見解）
3．シャーキャ・ムニの沈黙①（ことば）
4．シャーキャ・ムニの沈黙②（仏とことば）
5．アーガマにおける哲学的発展①（『ディーガ・ニカーヤ』）
6．アーガマにおける哲学的発展②（『サンユッタ・ニカーヤ』）
7．説一切有部の形而上学①（『マッジマ・ニカーヤ』）
8．説一切有部の形而上学②（『アングッタラ・ニカーヤ』と『倶舎論』）
9．不二の思想①（何が不二か？）
10. 不二の思想②（何が不二か？）
11. 不二の思想③（空海の不二思想）
12. 中観思想と言葉①（ナガールジュナ）
13. 中観思想と言葉②（『中論』）
14. アポーハについて
15. 総まとめとレポート提出

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト

『宗教体験と言葉』南山宗教文化研究所編　　担当者がコピーしてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が紹介する。

学生に対する評価

学期末のレポート（80%）と出席率（20%）よって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）講義で指示する課題をこなすこと。
（A）仏教要語に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っていること。
（S）講義を通して、学術論文の書き方を習得すること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	仏教学特殊講義Ｂ	学期	後期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副　題	仏教関係法令からみた平安時代初期の仏教						
ナンバリング	Ｍ 3-02-089	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

最澄・空海らによってもたらされた新たな仏教の潮流は、「日本仏教」の礎と位置づけられている。
本講義では、彼らが活躍した時代の仏教をめぐる動向を、『類聚三代格』に収められる平安時代初期の仏教関係法令から検討する。

授業の到達目標

『類聚三代格』に収められる仏教関係法令を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、「日本仏教」成立期の仏教のあり様を理解することができる。

授業計画

1．『類聚三代格』とはどのような史料か？
2．『類聚三代格』の仏教関係法令
3．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む①－桓武朝の仏教－
4．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む②－桓武朝の仏教－
5．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む③－嵯峨朝の仏教－
6．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む④－嵯峨朝の仏教－
7．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑤－嵯峨朝の仏教－
8．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑥－淳和朝の仏教－
9．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑦－淳和朝の仏教－
10．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑧－淳和朝の仏教－
11．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑨－仁明朝の仏教－
12．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑩－仁明朝の仏教－
13．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑪－文徳朝の仏教－
14．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑫－文徳朝の仏教－
15．『類聚三代格』の仏教関係法令からみた平安時代初期の仏教

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、次回授業で取り上げる法令について辞書等で用語・語句を調べておく（90 分）、事後学修として、授業で取り上げた法令について、参考文献等を読むことでその社会的背景について理解しておく（60 分）。

テキスト

テキストとして、『新訂増補国史大系　類聚三代格　前篇』（吉川弘文館、1972 年。初版は 1936 年）を用いる予定であるが、授業で取り上げる法令については、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等

①吉川真司『天皇の歴史２聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018 年）。
②堀裕「平安新仏教と東アジア」（『岩波講座日本歴史　第４巻　古代４』（岩波書店、2015 年）。
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（50%）・授業への参加度（50%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢文史料である法制史料を読み下し、内容について説明することができる。
（B）法制史料を読み解き、その法令の歴史的意義について説明することができる。
（A）『六国史』など関係する史料をも収集し、それらを比較検討することによって、その法令の歴史的意義を説明することができる。
（S）法令の社会的背景をふまえて、その歴史的意義を考察するとともに、先行研究にもとづいて、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

卒業論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。
本講義では、受講生に毎回任意に漢文史料である法令を読み下してもらう。毎回の事前学修を丁寧に行うことによって授業に臨み、積極的に討論に参加すること。

科目名	仏教学特殊講義Ｆ	学期	前期	単位数	2	担当者	和田圭子
副　題	尊像の信仰の歴史と形像の変化について　1						
ナンバリング	Ｍ 3-02-090	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。講義では、密教に関係の深い尊像や曼荼羅に登場する主要な尊格について、その信仰の歴史や形像を学ぶことにより、各尊像に対する基本的な知識を習得する。さらに毎回、仏画・仏像等、現存する尊像の画像資料をスライドによって視覚的に確認することにより、各尊像についての美術史的な理解も深める。
また本講義では、国宝・重要文化財を多数所蔵する高野山霊宝館において、講義内容をより深く理解するために４回程度の実地見学を実施する。実際に仏像・仏画等を拝観することで、尊像の詳細を確認することができ、像容を理解する上で大変重要である。実地見学では仏像や仏画の基礎的な見方についても学習する。

授業の到達目標

・仏尊の種類や信仰の歴史について学び、各尊像の基礎的な知識を習得できるようになる。
・尊像の形像について学び、各尊像の姿、形の特徴について説明できるようになる。
・仏像・仏画などを実地に見学しその見方を学ぶことによって、見学しながら説明することができるようになる。

授業計画

1．ガイダンスならびに仏教美術の基礎知識について
2．尊像の信仰の歴史と形像①　（如来１）：釈迦如来
3．高野山霊宝館での実地見学１：春期企画展前期（展覧会詳細未定）
4．尊像の信仰の歴史と形像②　（如来２）：大日如来
5．尊像の信仰の歴史と形像③　（如来３）：阿弥陀如来・薬師如来
6．尊像の信仰の歴史と形像④　（如来４・菩薩１）：弥勒仏・弥勒菩薩
7．高野山霊宝館での実地見学２：春期企画展後期（展覧会詳細未定）
8．尊像の信仰の歴史と形像⑤　（菩薩２）：十一面観音・千手観音
9．尊像の信仰の歴史と形像⑥　（菩薩３）：不空羂索観音・如意輪観音
10．尊像の信仰の歴史と形像⑦　（菩薩４）：文殊菩薩・普賢菩薩
11．高野山霊宝館での実地見学３：　常設展示　仏像他
12．尊像の信仰の歴史と形像①　（菩薩５）：地蔵菩薩・虚空蔵菩薩
13．尊像の信仰の歴史と形像①　（菩薩６）：妙見菩薩等
14．高野山霊宝館での実地見学４：大宝蔵展（展覧会詳細未定）
15．レポート講評とまとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、「仏教美術の基礎知識」資料の専門用語等を確認しておくこと（30 分）
・事後学習として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認する（90 分）
・実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめる（60 分）

テキスト

講義内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を毎回配付する。

参考書・参考資料等

①至文堂編『日本の美術』ぎょうせい
②関根俊一編『仏尊の事典』学習研究社
③『日本美術全集』講談社等の美術全集

学生に対する評価

講義および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教美術に関する基礎的な知識がある。
（B）各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。
（A）各尊像の基本的な姿や形について、その特徴について説明できる。
（S）各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

・提出されたレポートは、添削してひとりひとりに対し講評を行う。
・質問については、原則として毎回講義内でフィードバックを行う。

その他

・高野山霊宝館での実地見学を行う科目である。

科目名	仏教学特殊講義Ｇ	学期	後期	単位数	2	担当者	和田圭子
副　題	尊像の信仰の歴史と形像の変化について　2						
ナンバリング	Ｍ 3-02-091	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。講義では、密教に関係の深い尊像や曼荼羅に登場する主要な尊格について、その信仰の歴史や形像を学ぶことにより、各尊像に対する基本的な知識を習得する。さらに毎回、仏画・仏像等、現存する尊像の画像資料をスライドによって視覚的に確認することにより、各尊像についての美術史的な理解も深める。
また本講義では、国宝・重要文化財を多数所蔵する高野山霊宝館において、講義内容をより深く理解するために４回程度の実地見学を実施する。実際に仏像・仏画等を拝観することで、尊像の詳細を確認することができ、像容を理解する上で大変重要である。実地見学では仏像や仏画の基礎的な見方についても学習する。

授業の到達目標

・仏尊の種類や信仰の歴史について学び、各尊像の基礎的な知識を習得できるようになる。
・尊像の形像について学び、各尊像の姿、形の特徴について説明できるようになる。
・仏像・仏画などを実地に見学しその見方を学ぶことによって、見学しながら説明することができるようになる。

授業計画

1．ガイダンスならびに仏教美術の基礎知識について
2．尊像の信仰の歴史と形像①　（明王１）　：　不動明王
3．高野山霊宝館での実地見学１：　秋期企画展前期（展覧会詳細未定）
4．尊像の信仰の歴史と形像①　（明王２）　：　愛染明王
5．尊像の信仰の歴史と形像①　（明王３）　：　孔雀明王
6．尊像の信仰の歴史と形像①　（天部１）　：　梵天・帝釈天
7．高野山霊宝館での実地見学２：　秋期企画展後期（展覧会詳細未定）
8．尊像の信仰の歴史と形像①　（天部２）　：　吉祥天・弁才天
9．尊像の信仰の歴史と形像①　（天部３）　：　四天王
10．尊像の信仰の歴史と形像①　（天部４）　：　十二天
11．高野山霊宝館での実地見学３：　常設展示　仏像他
12．尊像の信仰の歴史と形像①　（天部５）　：　十二神将
13．尊像の信仰の歴史と形像①　（天部６）　：　八部衆等
14．高野山霊宝館での実地見学４：　春期平常展（展覧会詳細未定）
15．レポート講評とまとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、「仏教美術の基礎知識」資料の専門用語等を確認しておくこと（30 分）
・事後学習として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認する（90 分）
・実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめる（60 分）

テキスト

講義内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を毎回配付する。

参考書・参考資料等

①水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』
②至文堂編『日本の美術』ぎょうせい
③『日本美術全集』講談社等美術全集

学生に対する評価

講義および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教美術に関する基礎的な知識がある。
（B）各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。
（A）各尊像の基本的な姿や形について、その特徴について説明できる。
（S）各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

・提出されたレポートは、添削してひとりひとりに対し講評を行う。
・質問については、原則として毎回講義内でフィードバックを行う。

その他

・仏教学特殊講義Ｆ（前期）の履修・聴講が望ましい。
・高野山霊宝館での実地見学を行う科目である。

科目名	仏教学特殊講義Ｈ	学期	前期	単位数	2	担当者	川﨑一洋
副　題	死後の世界を考える						
ナンバリング	Ｍ 3-02-092	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,3,4,5

授業の目的と概要

日本人の死生観には、仏教が大きな影響を与えている。この講義では、仏教の文献を資料としながら、インド、中国、日本の人々がそれぞれ考えた死後の世界について紹介し、日本人の死生観の淵源を辿る。また、死者儀礼についても考察し、葬儀や年忌法要などのあり方や問題点について理解を深める。

授業の到達目標

仏教が伝える死後の世界について考察し、日本人の死生観について理解を深める。

授業計画

1．現代日本人の死生観
2．西洋人の臨死体験
3．東洋人の臨死体験
4．閻魔さまとはどんな人か
5．地獄とはどんなところか
6．極楽とはどんなところか
7．輪廻転生説のゆくえ
8．釈尊の死生観
9．中国で成立した『盂蘭盆経』
10．古代日本人の死生観
11．弘法大師・空海の死生観
12．葬儀の意味
13．戒名とは何か
14．七七年忌法要をおこなうのか
15．試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、講義のテーマに関連する書籍やウェブサイトに目を通し、疑問点や問題点をまとめておくこと。（60 分）
講義内容をノートにまとめ、講義で紹介された書籍や論文などに目を通しておくこと。（120 分）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

添田隆昭『大師はいまだおわしますか』（高野山出版社）
梶山雄一『「さとり」と「廻向」』（人文書院）
梶山雄一『輪廻の思想』（人文書院）　など

学生に対する評価

試験（40%）、質問・発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教が伝える死後の世界、死生観について、基本的な事柄を説明することができる。
（B）インド、中国、日本、それぞれにおいて考えられた死後の世界について説明できる。
（A）日本の仏教が伝える死後の世界について、インド、中国、日本の伝統的な死生観を参照しながら説明できる。
（S）日本人の死生観について理解し、現代社会におけるその問題点について意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。
試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

真言宗の僧侶であり、日ごろから檀信徒に接し、実際に葬儀や年忌法要に携わっている教員が、体験や実状を踏まえながら問題を提起し、日本人の死生観や死者儀礼について理解を深める。

科目名	真言密教特殊講義A／密教儀礼の理論と実習（別）1	学期	前期	単位数	2	担当者	中西雄泰
副題	日用小作法の伝授 1						
ナンバリング	M 3-01-093	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3

授業の目的と概要
高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標
高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画
1．授業の概要説明
2．中院流の成り立ちについて（1）
3．中院流の成り立ちについて（2）
4．中院流の成り立ちについて（3）
5．別行次第（理趣法）伝授説明（1）
6．別行次第（理趣法）伝授説明（2）
7．別行次第（理趣法）伝授説明（3）
8．別行次第（理趣法）伝授説明（4）
9．別行次第（理趣法）伝授説明（5）
10．開眼作法等日用小作法伝授説明（1）
11．開眼作法等日用小作法伝授説明（2）
12．開眼作法等日用小作法伝授説明（3）
13．開眼作法等日用小作法伝授説明（4）
14．開眼作法等日用小作法伝授説明（5）
15．開眼作法等日用小作法伝授説明（6）

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90 分）

テキスト
①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等
必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価
授業態度（100%）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）出席60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
（B）出席80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
（A）出席90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
（S）出席100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法
質問は受けつけない。

その他
・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）
高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義B／密教儀礼の理論と実習（別）2	学期	後期	単位数	2	担当者	中西雄泰
副題	日用小作法の伝授 2						
ナンバリング	M 3-01-094	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3

授業の目的と概要
高野山真言宗の教師（住職）として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法の伝授を受け理解する。

授業の到達目標
高野山真言宗の教師（住職）として必要な作法を修得する。

授業計画
1．真言宗の葬儀について（1）
2．真言宗の葬儀について（2）
3．引導作法伝授説明（1）
4．引導作法伝授説明（2）
5　引導作法伝授説明（3）
6．引導作法伝授説明（4）
7　引導作法伝授説明（5）
8．無常導師作法伝授説明（1）
9．無常導師作法伝授説明（2）
10．無常導師作法伝授説明（3）
11．無常導師作法伝授説明（4）
12．日用作法伝授説明（1）
13．日用作法伝授説明（2）
14．日用作法伝授説明（3）
15．日用作法伝授説明（4）

準備学習（予習・復習）・時間
事後学修として授業で学んだことに関して復習をしておくこと（90 分）

テキスト
①中川善教師編『理趣経法』②岩原諦信師編『真言宗壇用経典』入手方法は授業で説明する。

参考書・参考資料等
必要に応じてコピーを配布

学生に対する評価
授業態度（100%）伝授の為試験は行わない。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）出席60%以上で基本的な次第、小作法を理解している。
（B）出席80%以上で基本的な次第、小作法を十分理解している。
（A）出席90%以上で中院流次第における詳細を理解し、必要な作法を修得している。
（S）出席100%以上で教師（住職）としての作法の実践が十分にできるレベルに到達している。

課題に対するフィードバックの方法
質問は受けつけない。

その他
・受講者は伝法灌頂受了者に限る。・衣体は黒衣、如法衣着用。改良服、作務服は不可。・前期・後期を通して受講すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）
高野山真言宗の僧侶であり高野山内寺院の住職である教員が、僧侶として必要な別行次第、引導作法等の日用小作法について重要性を認識させる。

科目名	真言密教特殊講義C	学期	前期	単位数	2	担当者	土居夏樹
副題	密教における死生観						
ナンバリング	M 3-01-095	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,5

授業の目的と概要
生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標
仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画
1．概論 (講義の進め方等)
2．凡夫の生死 ① 苦としての生死
3．　〃　② 五蘊と無我
4　〃　③ 縁起としての生死
5．　〃　④ 輪廻の世界
6．仏陀観の変遷 ① 釈尊の生涯
7．　〃　② 変容する釈尊
8．　〃　③ 神変とマンダラ
9．この身のままで仏と成る ① 六大と人間
10．　〃　② 真理の表現
11．　〃　③ 心とマンダラ
12．生死の意味 ① 因不可得
13．　〃　② 縁起生から本不生へ
14．　〃　③「真に帰す」
15．まとめ －〈私〉という存在－

準備学習（予習・復習）・時間
・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく（60 分）
・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる（120 分）

テキスト
・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等
①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫
②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア
③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア
※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価
授業内での発表（50%）、定期試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）基礎的な仏教用語を習得している。
（B）仏陀観の変遷について説明ができる。
（A）大乗仏教から密教への展開を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、弘法大師の死生観の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他
・授業中に基礎的な用語についての質問をするので、必ず予習をして臨むこと。

科目名	真言密教特殊講義D	学期	前期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副題	一尊法次第						
ナンバリング	M 3-01-096	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要
三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべての伝授を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標
中院流の諸尊法次第とその注釈書を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画
1．中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2．別尊次第について
3．「金輪」
4．「佛眼」
5．「薬師」
6．「阿弥陀」
7．「釈迦」
8．「尊勝」
9．「聖観音」
10．「千手」
11．「十一面」
12．「馬頭」
13．「準胝」
14．「如意輪」
15．「白衣」

準備学習（予習・復習）・時間
事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト
高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等
『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価
レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）次第の漢文を読むことができ、用語を説明できる。
（B）次第の漢文を読むことができ、意味を解説できる。
（A）次第の漢文を読むことができ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）次第の漢文を読むことができ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他
已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。内容は後期に続くため、「真言密教特殊講義Ｅ」を続けて受講することを推薦する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	真言密教特殊講義E	学期	後期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	一尊法次第						

ナンバリング	M 3-01-097	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべての伝授を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

中院流の諸尊法次第とその注釈書を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1．「弥勒」
2．「五字文殊」
3．「八字文殊」
4．「延命」
5．「地蔵」
6．「愛染」
7．「不動」
8．「降三世」「軍荼利」
9．「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10．「法華」
11．「舎利」
12．「光明真言」
13．「毘沙門」
14．「炎魔天」「水天」
15．「聖天」「訶利帝」

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）次第の漢文を読むことができ、用語を説明できる。
（B）次第の漢文を読むことができ、意味を解説できる。
（A）次第の漢文を読むことができ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）次第の漢文を読むことができ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。後期から受講できるが、前期の「真言密教特殊講義D」から続く内容のため、前期からの受講を推薦する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	真言密教特殊講義J	学期	後期	単位数	2	担当者	土 居 夏 樹
副　題	『宗義決択集』の研究						

ナンバリング	M 3-01-098	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3

授業の目的と概要

高野山上に今日も続く宝門・壽門という 2 大学派の内、宝門の論義書である『宗義決択集』を取り上げ、それぞれの内容を通して高野山独自の学派である宝壽二門の教理を踏まえつつ、弘法大師の思想がどのように理解されてきたのかについて考察する。個々の論義を選び、書き下し文・語注・現代語訳とそれを踏まえた発表資料を作成し、発表する。

授業の到達目標

高野山上における教学史を通して、弘法大師の思想が後世どのように問題となり、どのように解釈されてきたのかについて理解するとともに、その問題点を説明できる力を身につける。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．高野山の教学史 ① 覚海と高野四哲・八傑
3．高野山の教学史 ② 宥快と長覚
4．高野山の教学史 ③『宗義決択集』とは？
5．一乗経劫：即身成仏は“密教”だけの教えか？①即身成仏をめぐる問題
6．　〃　②華天二宗の成仏論
7．　〃　③即事而真
8．六大四曼互能生：六大所生・四曼能生はあり得るか？①六大と四曼
9．　〃　②壽門の場合
10．　〃　③『大日経』の教主
11．理法身説法：真理そのものは説法するのか？①理法身と智法身
12．　〃　②真理は一か多か？
13．　〃　③『大日経』教主再論
14．まとめ ① 論義と中院流
15．まとめ ② 宝門と壽門

準備学習（予習・復習）・時間

・事前に取り上げる論義を選び、発表資料を作成する（120 分）
・各発表の内容に関する質問を考えるとともに、自分自身の考えも構築する（60 分）

テキスト

・『宗義決択集』、『真言宗全書』巻 19、続真言主全書刊行会※授業中にコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・小田慈舟訳『宗義決択集』、『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社
※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内での発表（50%）、定期試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）論義本文の書き下し文・語注・現代語訳を作成できる。
（B）該当論義に引用されている典拠を正確に指摘できる。
（A）論義の内容を把握している。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、自分の考えを論理的に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・取り上げる論義やテキストについては、受講生と話し合い、希望等によって変更する場合もある。
・担当者を決めて、該当論義についてのグループ発表を行う。
・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。
・必ず質問をすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。

科目名	真言密教特殊講義K	学期	後期	単位数	2	担当者	川 﨑 一 洋
副　題	四国遍路の歴史						

ナンバリング	M 3-01-099	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,3,4,5

授業の目的と概要

この講義では、弘法大師・空海によって開かれたといわれる四国八十八ヶ所霊場を巡る四国遍路の歴史や、四国の各地に残る弘法大師の伝説を、江戸時代に出版された各種の霊場記などを読みながら学び、宗教と巡礼の関係を探る。また、四国遍路を実践するための、作法や計画の立て方などを学ぶ。

授業の到達目標

四国遍路の歴史や、四国八十八ヶ所の霊場の縁起などについて説明できるようになる。
四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解できる。
四国遍路の作法や計画の立て方を学び、それらを四国遍路の実践に活用できる。

授業計画

1．四国遍路とは何か
2．四国遍路の起源
3．補陀落信仰と四国霊場
4．熊野信仰と四国霊場
5．四国八十八ヶ所霊場の成立過程①（古代・中世）
6．四国八十八ヶ所霊場の成立過程②（近世）
7．四国霊場の確立①（澄禅の日記を読む）
8．四国霊場の確立②（真念の業績・案内書の刊行）
9．四国霊場の確立③（真念の業績・標石や辺路屋の建立）
10．近代（明治から戦後）の四国遍路
11．四国遍路の習俗
12．四国に残る弘法大師の霊跡
13．国霊場巡拝の作法
14．現代の四国遍路と、実践へのアプローチ
15．試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。（30 分）
講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。（60 分）

テキスト

頼富本宏『四国遍路とはなにか』（角川選書）

参考書・参考資料等

浅井証善『はじめての「四国遍路 88 ヶ所めぐり」入門』（セルバ出版）
四国遍路と世界の巡礼研究会編『四国遍路と世界の巡礼』（法蔵館）
川﨑一洋『弘法大師空海と出会う』（岩波新書）　など

学生に対する評価

試験（40%）、発表・質問（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
（B）四国遍路に関する基本用語を説明できる。
（A）四国遍路（八十八ヶ所巡礼）の成立過程を、古代から現代まで、時代の順に沿って説明できる。
（S）四国霊場の成立過程と現状を把握し、宗教における巡礼の意義を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。
試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めする。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。

科目名	密教学演習A	学期	通年	単位数	4	担当者	野 田　　悟
副　題	卒業制作と論文指導						

ナンバリング	M 3-19-100	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

長安へ留学した空海が、中国式仏教ではなくインド仏教を学ぼうと考えたのは、それが原点だからである。書においても、空海が中国最古の書体、篆書を学び、正鋒と呼ばれる筆法を日本に伝えた事を念頭に、当時読んだとされる中国書論を輪読し、書の各分野における本質を分析したい。授業の方法として、随時受講者の研究進度状況をうかがう。

授業の到達目標

唐代の中国書論の重要性を理解し、読解を通じて議論し合い、書学における論文執筆のための研究ノウハウの習得。卒業制作の指導。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス並びに漢字学思想
2．書論を学ぶ上での辞書の紹介
3．中国の書論について①（漢～北魏）
4．中国の書論について②（唐以降）
5．孫過庭『書譜』①（孫過庭とその周辺）
6．孫過庭『書譜』②
（王羲之を典型とする四賢の優劣論）
7．孫過庭『書譜』③（書の本質と価値）
8．孫過庭『書譜』④〔南北朝以来の書論〕
9．孫過庭『書譜』⑤
（執使用転の説および王書の価値）
10．孫過庭『書譜』⑥（書表現の基盤と段階）
11．孫過庭『書譜』⑦
（書の妙境と俗眼への批判）
12．孫過庭『書譜』⑧（書譜述作の趣意）
13．孫過庭『書譜』⑨
（書譜に見える文字の構え）
14．孫過庭『書譜』⑩（書譜の節筆と折畧）
15．予備

【後期】
1．卒業論文の中間報告
2．日中の書論比較
3．空海の書論と作品①〔空海前史と玄昉〕
4．空海の書論と作品②（日本の般若心経）
5．空海の書論と作品③〔王羲之と李北海〕
6．空海の書論と作品④
（嵯峨天皇への上表文〔前半〕）
7．空海の書論と作品⑤
（嵯峨天皇への上表文〔後半〕）
8．空海の書論と作品⑥
（書に関わる空海書簡）
9．空海の書論と作品⑦（空海書論の構成）
10．空海の書論と作品⑧（空海の起筆、收筆）
11．空海の書論と作品⑨
（作品論『風信帖』の内容と書風）
12．空海の書論と作品⑩
（作品論『灌頂記』の成立）
13．空海の書論と作品⑪
（『篆隷万象名義』の価値）
14．空海の書論と作品⑫
（『篆隷万象名義』と『説文』の関連分析）
15．予備

準備学習（予習・復習）・時間

・毎時臨書または創作の作品を提出（120 分）・論文の進捗状況発表の為の準備（120 分）

テキスト

『精萃図説書法論』（西東書房）、『中国書画全書』（上海書画出版社）、（宋）陳思『書苑菁華』（北京図書館出版社）、『歴代書法論文選』（上海書画出版社）等からコピーを配布する。

参考書・参考資料等

『書譜序注疏』（上海古籍出版社）、中国書法ガイド 38『書譜』（二玄社）、『中国書論大系』〔第二巻、第三巻〕（二玄社）

学生に対する評価

・それぞれの発表及びレポート（50%）＋作品提出（50%）での評価。・それぞれの発表を 10 点満点とする。・上記は、前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）書論の原文を自分自身の解釈で発表できる。書道臨書ができる。
（B）自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。
（A）研究執筆において、目新しい独自の観点を見出すことができる。書道創作ができる。
（S）高いレベルでのレポートまたは論文執筆ができる。高いレベルでの書道創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に関して毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・書学または中国美術学に関する論文を希望する受講生が望ましく、「書道史」、「中国文化講読演習」を受講していることが相応しい。・随時、書道作品に関する課題を課し、授業の中でその進行状況を確認する。・人数や能力よっては相談により、テキスト等を変更する場合もある。

科目名	密教学演習Ｂ	学期	通年	単位数	4	担当者	奥 山 直 司
副　題	釈雲照書簡の研究						

ナンバリング	Ｍ 4-19-101	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	2,5

授業の目的と概要

釈雲照（1854―1923）は日本近代の代表的な真言僧の１人である。雲照は律師として知られ、目白僧園、十善会を主宰するなどして、日本仏教の復興・改革運動の一翼を担った。その弟子にセイロン（現スリランカ）に留学した釈興然、目白僧園を継いだ釈慶淳などがいる。本授業は、雲照の思想と行動を、彼の書簡を通して探ってゆく。当番制発表形式を取るので、十分な予習が必要である。同時に本授業では卒業論文作成の指導を受ける。研究テーマの選び方、資料・先行研究の探し方に始まり、テーマを煮詰め、文章を書き、論文としてまとめるまでを一貫して学ぶ。

授業の到達目標

明治・大正期の文語を読解し、内容をまとめ、当時の社会や仏教界の動きと連動させて解釈できるようになる

授業計画

【前期】
1．ガイダンス
2．研究テーマの選び方
3．資料の探し方
4．釈雲照の生涯：明治維新前
5．釈雲照の生涯：明治維新後
6．釈雲照の書簡を読む（1）：
　仏陀伽耶買収云々及び渡天計画云々を報ずるの状
7．釈雲照の書簡を読む（2）：
　仏陀伽耶買収の件をアーノルド氏に依頼すべきを報ずるの状（上）
8．釈雲照の書簡を読む（3）：
　仏陀伽耶買収の件をアーノルド氏に依頼すべきを報ずるの状（下）
9．釈雲照の書簡を読む（4）：
　仏陀伽耶復興につき、打合せの状
10．釈雲照の書簡を読む（5）：
　仏陀伽耶買収云々の状
11．釈雲照の書簡を読む（6）：
　仏陀伽耶買収、世界宗教統一等打合せの状（上）
12．釈雲照の書簡を読む（7）：
　仏陀伽耶買収、世界宗教統一等打合せの状（中）
13．釈雲照の書簡を読む（8）：
　仏陀伽耶買収、世界宗教統一等打合せの状（下）
14．釈雲照の書簡を読む（9）：
　仏跡回復、アーノルド来朝等の模様を報じたるの状（上）
15．前期のまとめと総括

【後期】
1．ガイダンス
2．研究テーマを深める
3．論理的文章を綴る
4．各自研究課題の発表
5．釈雲照の書簡を読む（1）：
　仏跡回復、アーノルド来朝等の模様を報じたるの状（下）
6．釈雲照の書簡を読む（2）：
　仏陀伽耶買収、会長云々につき意見を述べられたる状（上）
7．釈雲照の書簡を読む（3）：
　仏陀伽耶買収、会長云々につき意見を述べられたる状（中）
8．釈雲照の書簡を読む（4）：
　仏陀伽耶買収、会長云々につき意見を述べられたる状（下）
9．釈雲照の書簡を読む（5）：
　留学中の弟子に与へて、律の在意を教へ、併せて仏跡復興の件を申し送りたるの状（上））
10．釈雲照の書簡を読む（6）：
　留学中の弟子に与へて、律の在意を教へ、併せて仏跡復興の件を申し送りたるの状（下））
11．釈雲照の書簡を読む（7）：
　仏陀伽耶買収費を送るに併せて、その注意を促されたる状
12．釈雲照の書簡を読む（8）：
　知人の遷化を報ずるに併せて人生の無常をさとし云々の状
13．釈雲照の書簡を読む（9）：
　仏陀伽耶買収の失策を報じて前後策を問ふの状
14．釈雲照の書簡を読む（10）：
　那須僧園の開設を告げ帰朝を促す状
15．後期のまとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、次回の授業の範囲内で配布資料を読んでおくこと（90 分）。
事後学修として、授業のノートをチェックし、資料の読み方を確認すること（90 分）。

テキスト

草繋全宣『釈雲照』全３巻、徳教会、1916 年

参考書・参考資料等

常光浩然『明治の仏教者』（上）（下）、春秋社、1968 年

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、発表内容（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学術論文を正確に読み解くことができる。
（B）一次資料を正確に読み解くことができる。
（A）一次資料と学術論文に基づいて、問題の所在を明確にすることができる。
（S）一次資料と学術論文に基づいて、学術的な問題を論ずることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻３回で１欠席に換算する。積極的な授業参加を期待する。

科目名	密教学演習Ｃ	学期	通年	単位数	4	担当者	前 谷　　彰
副　題	仏教基礎と論文の書き方						

ナンバリング	Ｍ 3-19-102	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

前期は仏教要語の基礎知識を身につけ、後期は学術論文の書き方や論文の表現力を身につける。

授業の到達目標

仏教の基礎知識を身につける。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション
2．仏教要語の原典による解説。①
3．仏教要語の原典による解説。②
4．仏教要語の原典による解説。③
5．仏教要語の原典による解説。④
6．仏教要語の原典による解説。⑤
7．仏教要語の原典による解説。⑥
8．仏教要語の原典による解説。⑦
9．仏教要語の原典による解説。⑧
10．仏教要語の原典による解説。⑨
11．仏教要語の原典による解説。⑩
12．仏教要語の原典による解説。⑪
13．仏教要語の原典による解説。⑫
14．仏教要語の原典による解説。⑬
15．仏教要語の原典による解説。⑭

【後期】
1．論文指導①
2．論文指導②
3．論文指導③
4．論文指導④
5．論文指導⑤
6．論文指導⑥
7．論文指導⑦
8．論文指導⑧
9．論文指導⑨
10．論文指導⑩
11．論文指導⑪
12．論文指導⑫
13．論文指導⑬
14．論文指導⑭
15．論文指導⑮

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修としてテキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。（60 分）
事後学修として授業で学んだことを復習する（120 分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が紹介する。

学生に対する評価

学期末のレポート（100%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）講義で指示する課題をこなすこと。
（A）仏教要語に関して、新たな疑問点や問題点を指摘する能力を持っていること。
（S）講義を通して、学術論文の書き方を習得すること。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	密教学演習Ｄ	学期	通年	単位数	4	担当者	櫻 木　　潤
副　題	歴史学から密教を研究する						

ナンバリング	Ｍ 3-19-103	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

密教学科の学生の中で、主として歴史学を学びたい者を対象に演習を行う。歴史学的な研究手法を指導しながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文の作成を目指す。
３年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、４年次生は卒業論文の作成を行う。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションをはかってほしい。

授業の到達目標

歴史学的な視点をテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、歴史学の手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

授業計画

【前期】
1．演習の内容・方針の説明、
　自己紹介
2．研究課題への構想（各自の発表）
3．研究論文の読み方（講義）
4．歴史学の研究手法①（講義）
5．歴史学の研究手法②（講義）
6．先行研究の要約①（発表）
7．先行研究の要約②（発表）
8．先行研究の要約③（発表）
9．先行研究の要約④（発表）
10．先行研究の要約⑤（発表）
11．先行研究の要約⑥（発表）
12．先行研究の要約⑦（発表）
13．先行研究の要約⑧（発表）
14．先行研究の要約⑨（発表）
15．参考文献表の作成について（講義）

【後期】
1．夏休みの成果の確認
2．卒業論文の構成について（講義）
3．研究テーマに関する史料の考察①（発表）
4．研究テーマに関する史料の考察②（発表）
5．研究テーマに関する史料の考察③（発表）
6．研究テーマに関する史料の考察④（発表）
7．研究テーマに関する史料の考察⑤（発表）
8．各自の研究発表と討議①
9．各自の研究発表と討議②
10．各自の研究発表と討議③
11．各自の研究発表と討議④
12．各自の研究発表と討議⑤
13．各自の研究発表と討議⑥
14．研究課題の模索／
　卒業論文作成の助言と指導①
15．研究課題の模索／
　卒業論文作成の助言と指導②

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、毎回の報告者のテーマに関する文献等を読んでおくこと（60 分）、事後学修として、報告者の関心　テーマが自分の関心テーマとどのように関連し、その視点や手法を取り入れることができるかどうかについて検討すること（90 分）。

テキスト

受講生全体へのテキストは用いず、各自の研究課題に応じてテキストを指定する。

参考書・参考資料等

各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

①授業への参加度（40%）・発表内容（40%）・レポート（20%）によって評価する。
②全授業の３分の２以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）歴史学の研究手法を理解する。
（B）研究論文の内容を批判的に把握することができる。
（A）関係史料の語るところを正確に読み解くことができる。
（S）研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、自分なりの見解を論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

①卒業論文の作成に向けて、仏教学講読演習Ｂ・仏教学特殊講義Ｂを必ず履修すること。
②各自が意欲的に研究課題に向き合うこと。発表ではじっくりと時間をかけて下調べを行い、詳しいレジュメを作成すること。
③高野山内をはじめとするフィールドワークや資料調査などの現地踏査にも積極的に参加してほしい。

科目名	密教学演習Ｅ	学期	通年	単位数	4	担当者	土 居 夏 樹
副　題	高野山教学の研究						

ナンバリング	Ｍ 3-19-104	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

弘法大師空海がもたらした真言密教は、後世さまざまな展開を見せた。その一つに、祖典をどのように理解するのか、という教学上の問題がある。本演習で取り上げる『即身義聞書附録』は、法性や道範といった高野山教学史上重要な学僧が行った『即身成仏義』に関する問答である。この演習では、『即身義聞書附録』で論じられる問答を一つひとつ確認し、鎌倉初期の高野山上では『即身成仏義』のどのような点が問題になっていたのか、そしてそれに対する解答はどのようなものであったのかについて、考察する。なお、受講生には担当を決め、書き下し・語注などを課す。

授業の到達目標

高野山の教学研究史に触れることで、弘法大師の思想が後世どのように解釈されているのかを理解し、事相と教相との関係を意識的に捉えることができるようになる。

授業計画

【前期】
1．概要（前期の進め方等）
2．高野山の教学　① 大師以後の教学史
3．　〃　　② 覚海と法性・道範
4．　〃　　③『即身義聞書附録』について
5．『即身義聞書附録』を読む①
　問不改迷情所見凡身可云即身成仏耶
6．　〃　　②
　問後十六生成正覚文所云正覚指金剛拳位歟
7．　〃　　③
　問而成身秘密文大師何釈給耶
8．　〃　　④
　問現世得成無上覚文心王心数成仏中可云何耶
9．　〃　　⑤
　問一切真言行者悉可即身成仏乎状
10．　〃　　⑥
　問六大無碍常瑜伽等二行即身成仏四字配釈如何
11．　〃　　⑦
　問六大四曼可云有互為能生所生之義耶）
12．　〃　　⑧
　問自宗意第六識大可云有色形耶
13．　〃　　⑨
　問一大処余五大渉入相応矣
14．　〃　　⑩
　問自性法身可有生住異滅之相乎
15．卒業論文指導①

【後期】
1．概要（後期の進め方）
2．『即身義聞書附録』を読む⑪
　問諸法与法相等頌中以菩薩声聞配釈化身有何故乎
3．　〃　　⑫
　問彩絵大曼捏鋳焉磨可云在法界宮中乎
4．　〃　　⑬
　問三密中随一修行者可成仏乎
5．　〃　　⑭
　問衆生三密亦復如是文説何事乎
6．　〃　　⑮
　問頓集一大阿僧祇劫文三劫中可云初劫乎
7．　〃　　⑯
　問阿頼耶識中種金剛種子文凡識中以何識種之耶
8．　〃　　⑰
　問能証毘盧遮那三身果位文所云果者可云対因之果可
9．　〃　　⑱
　問心数者多一識文歟秘蔵記第十一々識心同異如何
10．　〃　　⑲
　問一切智々者有顕密分別見其義如何
11．卒業論文指導②
12．卒業論文指導③
13．卒業論文指導④
14．卒業論文指導⑤
15．卒業論文指導⑥

準備学習（予習・復習）・時間

・事前に担当者箇所の翻刻・書き下し・語注・現代語訳を作成する（120 分）
・演習中に問題となったポイントを整理し、後日発表する（60 分）

テキスト

『即身義聞書附録（首竹）、『カルフォルニア大学所蔵栂尾コレクション顕密典籍文書集成』教相篇５、平河出版社。
※コピーを配布する。

参考書・参考資料等

・『密教大辞典』、『仏教語大辞典』、『岩波仏教辞典』など。
　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

担当箇所の発表（50%）、授業内での質疑応答（30%）、期末レポート発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストの書き下し・語釈・現代語訳ができる。
（B）テキストの内容を大意で理解できる。
（A）テキストの論義の内容を正確に理解できる。
（S）テキストの内容を正確に理解し、その内容についての自分の考えを論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他

・担当者を決めて、該当箇所についての書き下し・語注を発表してもらう。
・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。
・質問は必ずすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。
・受講生の関心に応じて、テキストを変更する場合がある。

科目名	密教学演習Ｆ	学期	通年	単位数	4	担当者	松 長 潤 慶
副　題	密教図像資料の研究						
ナンバリング	Ｍ 3-19-105	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

仏教では大乗仏教の拡がりに相応して多種多様な尊格が登場する。大乗仏教の延長線上に位置する密教では、大乗仏教で生み出された尊格のみならず、密教独自の尊格を生み出し、密教の世界観を顕わす曼荼羅に配置した。これらの密教尊格の成立と発展に関して考察を加え検討する。

授業の到達目標

仏教・密教尊格の整理と典拠となる文献について学び理解する。

授業計画

【前期】
1．授業の進め方
2．仏教尊格の基礎知識　（仏の基本知識）
3．仏教尊格の基礎知識　（仏の展開）
4．密教尊格の基礎知識　（密教仏の基本知識）
5．密教尊格の基礎知識　（密教仏の展開）
6．曼荼羅の基礎知識　（曼荼羅の基本知識）
7．曼荼羅の基礎知識　（曼荼羅の種類）
8．曼荼羅の基礎知識　（曼荼羅の展開）
9．図像資料の講読　（明王図像資料）
10．図像資料の講読　（明王図像資料）
11．図像資料の講読　（明王図像資料）
12．図像資料の講読　（明王図像資料）
13．図像資料の講読　（明王図像資料）
14．図像資料の講読　（明王図像資料）
15．研究課題の設定

【前期】
1．研究内容の中間報告①
2．研究内容の中間報告②
3．研究内容の中間報告③
4．研究内容の中間報告④
5．研究内容の中間報告⑤
6．各研究テーマの演習発表①
7．各研究テーマの演習発表②
8．各研究テーマの演習発表③
9．各研究テーマの演習発表④
10．各研究テーマの演習発表⑤
11．各研究テーマの演習発表⑥
12．各研究テーマの演習発表⑦
13．各研究テーマの演習発表⑧
14．総括

準備学習（予習・復習）・時間

図像資料の購読演習をするので授業に備えて事前に予習が必要となる。週約３時間。

テキスト

授業で随時配布する

参考書・参考資料等

①『大正新脩大蔵経』「密教部、図像部」、②『TheIndianBuddhistIconography』

学生に対する評価

発表及び提出物（100％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原文を自分自身の解釈で発表できる。
（B）自分自身の研究課題を提示し、先人研究者のそれぞれの見解の違いを細かく分析することができる。
（A）研究において、目新しい独自の観点を見出すことができる。
（S）新知見を用いて論理的に考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

個別に指導する。

その他

・それぞれの発表及び提出物で評価。
・それぞれの発表を 10 点満点とする。
・授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。
・上記は前期・後期でそれぞれ計算し、最終的にその平均点の成績となる。

科目名	密教学演習Ｇ	学期	通年	単位数	4	担当者	T. ドライトライン
副　題	『行法肝葉鈔』を読む						
ナンバリング	Ｍ 3-19-106	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,5

授業の目的と概要

道範（1184 ～ 1252）撰の『行法肝葉鈔』（三巻）の上巻の冒頭に道場荘厳のことを述べ、次に上中両巻にわたって別行次第による一座行法の印明と作法を丁寧に説き、下巻に護摩の次第を注釈する。古くから『行法肝葉鈔』は真言宗の諸師に依用されている貴重な口決書である。『行法肝葉鈔』を読むことによって事相に関する知識と理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

漢文読解力、真言密教の行法への知識、事相の理解を深める。

授業計画

【前期】
1．『行法肝葉鈔』について
2．『行法肝葉鈔』上を読む１（壇場荘厳）
3．『行法肝葉鈔』上を読む２（参道場事から普礼まで）
4．『行法肝葉鈔』上を読む３（塗香・浄三業三部被甲）
5．『行法肝葉鈔』上を読む４（加持香水と加持供物）
6．『行法肝葉鈔』上を読む５（五悔）
7．『行法肝葉鈔』上を読む６（四無量心）
8．『行法肝葉鈔』上を読む７（道場観）
9．『行法肝葉鈔』上を読む８（大虚空蔵と小金剛輪）
10．『行法肝葉鈔』上を読む９（閼伽と華座）
11．『行法肝葉鈔』上を読む 10（振鈴）
12．『行法肝葉鈔』中を読む１（五供養）
13．『行法肝葉鈔』中を読む２（讃から礼仏）
14．『行法肝葉鈔』中を読む３（入我我入）
15．『行法肝葉鈔』中を読む４（本尊加持）

【後期】
1．『行法肝葉鈔』中を読む５（正念誦前半）
2．『行法肝葉鈔』中を読む６（正念誦後半）
3．『行法肝葉鈔』中を読む７（四種念誦）
4．『行法肝葉鈔』中を読む８（字輪観前半）
5．『行法肝葉鈔』中を読む９（字輪観後半）
6．『行法肝葉鈔』中を読む 10（散念誦）
7．『行法肝葉鈔』中を読む 11
（後供養・廻向・解界・撥遣など）
8．『行法肝葉鈔』中を読む１２（一座行法）
9．『行法肝葉鈔』下を読む１（入護摩）
10．『行法肝葉鈔』下を読む２（火天段）
11．『行法肝葉鈔』下を読む３（供物）
12．『行法肝葉鈔』下を読む４（部主段）
13．『行法肝葉鈔』下を読む５（本尊段）
14．『行法肝葉鈔』下を読む６（諸尊段）
15．『行法肝葉鈔』下を読む７（世天段）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

『真言宗全書』23 のテキストと江戸期の木版本のコピーを配布

参考書・参考資料等

『秘蔵記』、『真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』など

学生に対する評価

レポート（50％）、発表（20％）、授業参加の積極性（30％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『行法肝葉鈔』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）『行法肝葉鈔』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）『行法肝葉鈔』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）『行法肝葉鈔』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。受講者は伝法灌頂入壇者（已灌頂者）のみとする。

科目名	密教学演習Ｈ（再履修）	学期	通年	単位数	4	担当者	南　　昌 宏
副　題	中国仏教に関連する文献を読む						
ナンバリング	Ｍ 3-19-107	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

４年次生のみを対象とする再履修クラス。中国仏教に関連する文献を精読することで、論文の文体を読むことに慣れる。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典を読むことに習熟し、中国仏教の展開について、基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。専門的な著作を読むことで、論文執筆時に必要な形式をおぼえる。同時に、先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。毎回、授業に関係がある事項についてレポートをまとめ、提出する。

授業の到達目標

○仏教の専門書を音読できる。　○仏教の専門書の内容を理解できる。　○仏教の専門書を批判的に読むことができる。　○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。　○自分の考えを論理的に表現できる。

授業計画

【前期】
1．『心把捉の展開』目次を読む
2．『心把捉の展開』序論第１節第１項を読む
3．『心把捉の展開』序論第１節第２項を読む
4．『心把捉の展開』序論第１節第３項を読む
5．『心把捉の展開』序論第２節第１項を読む
6．『心把捉の展開』序論第２節第２項を読む
7．『心把捉の展開』序論第２節第３項を読む
8．『心把捉の展開』序論第２節第４項を読む
9．『心把捉の展開』序論第２節第５項を読む
10．『心把捉の展開』本論第１章序を読む）
11．『心把捉の展開』本論第１章第１節を読む
12．『心把捉の展開』本論第１章第２節を読む
13．『心把捉の展開』本論第１章第３節第１項を読む
14．『心把捉の展開』本論第１章第３節第２項を読む
15．『心把捉の展開』本論第１章第３節第３項を読む

【後期】
1．『心把捉の展開』本論第２章第１節第１項を読む
2．『心把捉の展開』本論第２章第１節第２項を読む
3．『心把捉の展開』本論第２章第１節第３項を読む
4．『心把捉の展開』本論第２章第２節第１項を読む
5．『心把捉の展開』本論第２章第２節第２項を読む
6．『心把捉の展開』本論第２章第２節第３項を読む
7．『心把捉の展開』本論第２章第３節第１項を読む
8．『心把捉の展開』本論第２章第３節第２項を読む
9．『心把捉の展開』本論第２章第３節第３項を読む
10．『心把捉の展開』本論第２章第４節第１項を読む
11．『心把捉の展開』本論第２章第４節第２項を読む
12．『心把捉の展開』本論第２章第４節第３項を読む
13．『心把捉の展開』本論第２章第４節第４項を読む
14．『心把捉の展開』本論第２章第５節を読む
15．『心把捉の展開』本論第３章第１節第１項を読む

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30 分）、難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60 分）。
事後学修としてレポートをまとめること（90 分）。

テキスト

玉城康四郎『心把捉の展開』のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994 年改訂
諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000 年修訂増補
『密教大辞典』法蔵館　昭和７年初版
水野弘元『仏教の基礎知識』2009 年新版　など

学生に対する評価

小レポート（50％）、発表（50％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
（S）自分の考えを論理的に記述することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○小レポートについては、添削し、次の講義で返却をする。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習Ｋ／人間学演習ＩＦ	学期	通年	単位数	4	担当者	浜 畑 圭 吾
副　題	日本文学研究法						
ナンバリング	ＭＮ 3-19-108	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	密 4, 人 2

授業の目的と概要

主として日本文学を学び、卒業論文として扱う者を対象に演習を行う。日本文学の研究手法を学びながら、受講生が各自の研究課題を定めて、卒業論文の作成を目指す。３年次生は、そのための基礎的なスキルを習得し、４年次生は卒業論文の作成を行う。授業は各自の調査・研究発表が中心となる。各自が調査成果を報告するとともに、受講生同士で積極的に質疑応答を行うなど、活発にコミュニケーションをはかってほしい。

授業の到達目標

日本文学的な視点をテーマとする卒業論文を作成するために、各自の研究課題を見出し、日本文学の研究手法によって考察し、論文を作成する力を養う。

授業計画

【前期】
1．演習の内容・方針の説明、自己紹介
2．日本文学研究の範囲
3．伝記と年譜
4．本文研究とは何か
5．文学作品の論じ方
6．登場人物の論じ方
7．表現の研究
8．文学研究の周辺
9．注釈とは何か
10．日本文学と思想
11．影響史研究の方法
12．実地研究
13．学際的研究
14．論文を書くために
15．論文の文体

【後期】
1．夏休みの成果の確認
2．卒業論文の構成について（講義）
3．研究テーマに関する作品の読解①（発表）
4．研究テーマに関する作品の読解②（発表）
5．研究テーマに関する作品の読解③（発表）
6．研究テーマに関する作品の読解④（発表）
7．研究テーマに関する作品の読解⑤（発表）
8．各自の研究発表と討議①
9．各自の研究発表と討議②
10．各自の研究発表と討議③
11．各自の研究発表と討議④
12．各自の研究発表と討議⑤
13．各自の研究発表と討議⑥
14．研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導①
15．研究課題の模索／卒業論文作成の助言と指導②

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回のテキストの該当ページを読み（60 分）、事後学修として、その内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

島内祐子『国文学研究法』（NHK 出版）（書店で購入）

参考書・参考資料等

池田亀鑑『古典学入門』（岩波書店）そのほか、各自の研究課題にしたがって、随時紹介する。

学生に対する評価

授業への参加度（40％）・発表内容（60％）によって評価する。全授業の５分の１以上欠席した場合は評価しない。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本文学の研究手法を理解している。
（B）研究論文の内容を批判的に把握することができる。
（A）作品の新しい読みを提示することができる。
（S）研究の現状と問題点を把握して研究テーマを選定し、自分なりの見解を論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーに対しては、次回冒頭に答える。

その他

①日本文学の基礎的知識を必要とするため、日本文学概論Ⅰ、Ⅱを履修した者を対象とする。
②課題や各自の発表への取り組みはもとより、質疑応答などにも積極的な姿勢を望む。

科目名	英語Ⅲ	学期	通年	単位数	2	担当者	亀 位 卓 阿
副　題							

ナンバリング	N 3-07-109	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

【前期】受講生がこれまでに身につけた知識としての英語を「実用英語」に「活性化」する。具体的には、基礎的な短い英文の質問に対して応答が口をついて出てくる練習をする。
【後期】高野山を訪れた外国人旅行者との英語を通じてコミュニケーションをとりたくなる気持ちづくりを目指す。

授業の到達目標

【前期】外国人旅行者と接する状況で簡単な会話ができるようになる。
【後期】外国語旅行者と情報をやり取りする際に使える英語を身につける。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス
2．自己紹介（1）
3．自己紹介（2）
4．自分の出身地について話す（1）
5．自分の出身地について話す（2）
6．学生生活について話す（1）
7．学生生活について話す（2）
8．プレゼンテイション（1）
9．高野山について（1）
10．高野山について（2）
11．高野山大学での勉強（1）
12．高野山大学での勉強（2）
13．ロールプレイで練習しよう（1）
14．プレゼンテイション（2）
15．まとめのフリートーキング

【後期】
1．ガイダンス
2．聞き返すときの表現
3．頼みごとをするときの表現
4．相手の意見を聞くときの表現
5．自分の意見を言うときの表現
6．～を英語ではどう言いますか？
7．高野山はいかがですか。どこが？何が？
8．どちらからお越しですか？
9．各国・地域名を英語で言えるようにしたい。
10．道を尋ねられたとき
11．これまで日本のどこへ行きましたか？
12．これからどこへ行かれますか？
13．宿坊での会話（1）
14．宿坊での会話（2）
15．まとめのフリートーキング

準備学習（予習・復習）・時間

今まで習った英単語・英文法をおさらいしておく。常に英語で表現したらどうなるのだろうかと想定してみる。（計 90 分以上）

テキスト

英文檀信徒必携・英文高野山パンフレットなど授業中にコピーを配付する。

参考書・参考資料等

受講生各自が中学高校で使った英語の教科書他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（20%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）英語で自己紹介ができる。
（B）英語で高野山の紹介ができる。
（A）簡単な英会話ができる。
（S）英会話の中で新情報・新知識が得られる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は授業時、または期間中にフィードバックする。

その他

簡単なプレゼンテーションが出来るようになることを目指す。

科目名	人間学演習ⅠA／人間学演習ⅡA	学期	通年	単位数	4	担当者	森 本 一 彦
副　題	卒業論文						

ナンバリング	N 3-19-110	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

卒業論文の作成を通して、企画力や表現力を身につける。
卒業論文作成に向けた準備を行う。他受講生の報告についてのディスカッションも行う。

授業の到達目標

卒業論文の作成を通して、企画力や表現力を身につける。

授業計画

【前期】
1．卒業論文までの工程
2．論題の設定・確認（1）
3．論題の設定・確認（2）
4．目次の作成 . 確認（1）
5．目次の作成・確認（2）
6．データの整理・確認（1）
7．データの整理・確認（2）
8．中間報告（1）
9．中間報告（2）
10．中間報告（3）
11．要旨・構成の検討（1）
12．要旨・構成の検討（2）
13．データの検討（1）
14．データの検討（2）
15．草稿の検討（1）

【後期】
1．中間報告（4）
2．中間報告（5）
3．中間報告（6）
4．要旨・構成の検討（3）
5．要旨・構成の検討（4）
6．草稿の検討（2）
7．草稿の検討（3）
8．草稿の検討（4）
9．最終報告（1）
10．最終報告（2）
11．最終報告（3）
12．口頭試問の検討（1）
13．口頭試問の検討（2）
14．口頭試問の検討（3）
15．卒業論文の成果と課題

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業内容を整理するとともに、実際のレポートを作成すること（90 分）。

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方第２版』ミネルヴァ書房、2013 年

学生に対する評価

レポート・課題（50%）、発表など授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）卒業論文の作成方法が理解できている。
（B）卒業論文の計画を立案し、他の人に説明できる。
（A）作成方法に従って卒業論文を作成することができる。
（S）論理的で説得力のある卒業論文を作成することができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に不明な点について指導をするとともに、課題について添削を行う。

その他

・３、４回生合同授業のために、学年により進度の違いが生じるが、できるだけ同じペースで授業を進める。
・３、４回生合同授業のために、単位が不認定の場合には留年になるので気を付けること。
・デスカッションやプレゼンテーションを行う。

科目名	人間学演習ⅠB／人間学演習ⅡB	学期	通年	単位数	4	担当者	上 野 和 久
副　題	卒業論文						

ナンバリング	N 3-19-111	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

人間学科での学習したことと関連する事柄の中で興味のあるテーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方などを修得する。各学期末には研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。

授業の到達目標

研究対象を絞って研究主題を深め，時に遭遇する内容上あるいは書き方の上での疑問を解決しながら，最終的に優れた卒業論文を作成できるようになることをめざす。

授業計画

【前期】
1．卒業論文までの工程
2．論題の設定・確認（1）
3．論題の設定・確認（2）
4．目次の作成・確認（1）
5．目次の作成・確認（2）
6．データの整理・確認（1）
7．データの整理・確認（2）
8．中間報告（1）
9．中間報告（2）
10．中間報告（3）
11．要旨・構成の検討（1）
12．+・構成の検討（2）
13．データの検討（1）
14．データの検討（2）
15．草稿の検討（1）

【後期】
1．中間報告（4）
2．中間報告（5）
3．中間報告（6）
4．要旨・構成の検討（3）
5．要旨・構成の検討（4）
6．草稿の検討（2）
7．草稿の検討（3）
8．草稿の検討（4）
9．最終報告（1）
10．最終報告（2）
11．最終報告（3）
12．口頭試問の検討（1）
13．口頭試問の検討（2）
14．口頭試問の検討（3）
15．卒業論文の成果と課題

準備学習（予習・復習）・時間

各自卒業論文の作成を進めるための作業を行う。（計 90 分以上）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方第２版』ミネルヴァ書房、2013 年

学生に対する評価

レポート・課題（50%）、発表など授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）卒業論文の作成方法が最低限の理解できている。
（B）卒業論文の作成に関して内容のある程度の吟味が出来てきてる。
（A）卒業論文の内容の吟味ができ、作成途中で発表とディスカッションが出来ている。
（S）論理的で説得力のある卒業論文を作成することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

全体指導と、個別指導を組み合わせて、授業を行う。全体指導では、一定期間の論文作成作業による作成内容の発表を行い、グループでのディスカッションを行い、直面した問題点などを話し合う。

科目名	人間学特殊ゼミⅠB（日本文化）	学期	前期	単位数	2	担当者	松 本 貴 子
副　題	日本事情について、講読と理解						

ナンバリング	N 3-20-112	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

多角的に文化を研究するために必要な方法を身につける。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

授業の到達目標

多角的に日本事情を学ぶ事を通して日本語能力を向上し、思考力を深め、物事を考察する能力を身につける。

授業計画

1．ガイダンス / 模擬授業　Unit 1 日本ってどんな国？ Section 1
2．Unit 1 日本ってどんな国？ Section 2　発表
3．Unit 2 都市の暮らし・地方の暮らし Section 1
4．Unit 2 都市の暮らし・地方の暮らし Section 2　発表
5．Unit 3 日本の旅を楽しもう Section 1
6．Unit 3 日本の旅を楽しもう Section 2　発表
7．中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」①日本の文化 6.7.8
8．中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」②日本人の行動様式 9.10
9．中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」③本語の世界 36　日本人の行動様式 38
10．中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」④
言語とコミュニケーション 39　異文化理解 40
11．JLPT 読解模試実施 / FB
12．JLPT 読解模試 / FB・総括
13．Unit 5 季節を楽しむ年中行事　発表
14．Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Section 1
15．Unit 6 知っておきたい日本の歴史 Section 2　発表

準備学習（予習・復習）・時間

事前に渡された資料は翌週までに読み、大まかに理解してくること。
「発表」がある授業の時は、指定された事柄について、十分に調べてくること。（計 90 分以上）

テキスト

『クローズアップ日本事情 15』TheJapanTimes（書店で購入）

参考書・参考資料等

中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」

学生に対する評価

レポート及び発表（60%）発表（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）資料を読むための日本語力がある。
（B）文化理解、研究のための方法を理解している。
（A）日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
（S）日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出、発表されたレポートは添削、講評する。
試験実施の後、フィードバックを行う。

その他

資料を読むだけではなく、自分のこととして考察し、意見を発信することも目指す。
折りに触れ、グループ討論、発表を行い自らの意見を表明する機会を作る。

科目名	人間学特殊ゼミⅡB（日本社会）	学期	後期	単位数	2	担当者	松本貴子
副題	日本事情について、講読と理解						

ナンバリング	N 3-20-113	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

多角的に文化を研究するために必要な方法を学ぶ。日本文化についての捉え方を参考に、それぞれの学生が自国の文化についても言及できることを目指す。

授業の到達目標

多角的に日本事情を学ぶ事を通して思考力を深め、物事を考察する能力を高める。

授業計画

1．Unit 8 現代文化とポップカルチャー　Section 1　発表
2．Unit 9 スポーツの楽しみ方 Section 1　発表
3．Unit 13 産業構造と経済　Section 1
4．Unit 13 産業構造と経済　Section 2　発表
5．中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」①環境と人間 42　IT と情報社会 43
6．中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」②子どもと教育 44,45
7．中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」③報道とマスコミ 46,47
8．中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」④科学と技術　48,49
9．JLPT 読解模試実施 / FB
10．読解模試 / FB・総括
11．Unit 12 教育と子供たち　Section 1
12．Unit 12 教育と子供たち　Section 2
13．Unit 12 について、討論
14．Unit 14 政治と憲法 Section 1
15．Unit 14 政治と憲法 Section 2　発表

準備学習（予習・復習）・時間

事前に渡された資料は翌週までに読み、大まかに理解してくること。(60 分)
「発表」がある授業の時は、指定された事柄について、十分に調べてくること。(90 分)

テキスト

『クローズアップ日本事情 15』TheJapanTimes（書店で購入）

参考書・参考資料等

中上級学習者のための「日本語読解ワークブック」他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）資料を読むための日本語力がある。
（B）文化理解、研究のための方法を理解している。
（A）日本文化について研究し、一定の解釈をすることができる。
（S）日本文化について研究し、独自の見解を提示することができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出、発表されたレポートは添削、講評する。
試験実施の後、フィードバックを行う。

その他

資料を読むだけではなく、発信することも目指す。
折りに触れ、自らの意見は発表する。

科目名	キャリアカウンセリングⅢ -1	学期	前期	単位数	2	担当者	高田綾子
副題							

ナンバリング	N 3-16-114	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	4

授業の目的と概要

① 労働法を理解し、グループワークを通じて望ましい労働環境について考える。
② 志望する業界や職種の研究と自己分析を通じて就職に対する意識を高める。社会に対する視野を広げ、就職活動の進め方や必要なスキルを身につける。
③ 演習、フィードバック等のアクティブラーニングにより、社会人基礎力を理解し、必要性を知る。

授業の到達目標

労働法や働き方改革が必要とされる労働者を取り巻く問題を理解し、望ましい職場環境のあり方を主体的に考えていくために必要なスキルを習得する。大学卒業時点での「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。

授業計画

1．労働市場について知る
2．多様な働き方を考える
3．労働関係の法律・制度①（契約と労働条件）
4．労働関係の法律・制度②（福利厚生と社会保険）
5．労働関係の法律・制度③（健康に働く）
6．労働関係の法律・制度④（働きつづけやすさとは）
7．ワークライフバランス
8．メンタルヘルスとストレスマネジメント
9．職業生活における様々な問題を考える
10．社会の変化とライフプラン
11．インターンシップを考える①（必要性、目標）
12．インターンシップを考える②（ビジネスマナーとは何か）
13．インターンシップを考える③（ビジネスにおけるコミュニケーション法）
14．インターンシップを考える④（非対面的なコミュニケーションのあり方）
15．インターンシップを考える⑤（人間関係のあり方）

準備学習（予習・復習）・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分)
・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①『ポケット労働法 2018』2018（東京都産業労働局）
②『働くときのＡ・Ｂ・Ｃ』2016(全国労働基準関係団体連合会）長谷川文代・飯塚純一・小松由美
③『ワークで学ぶインターンシップリテラシー：新編』2016（モリモト印刷）
他は授業中で紹介する。

学生に対する評価

レポート（40%）、発表（30%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストの内容及び社会人基礎力についての基礎的事項を理解している。
（B）テキストの内容及び社会人基礎力を理解している。
（A）テキストの内容を理解し、社会人基礎力に必要な能力を説明できている。
（S）テキストの内容を理解し、社会人基礎力を理解した上、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。
他のキャリア科目を履修することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	総合科目（インターンシップ）	学期	通年	単位数	2	担当者	就職担当
副題							

ナンバリング	N 3-16-115	授業方法	実習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

大学が指定する高野町役場やわかやまインターンシップ、堺・南大阪インターンシップなどに参加して職業体験を行う。実習の前後に事前授業・事後授業を行う。実習期間中は実習日誌を作成し、事後授業の後レポートを提出する。

授業の到達目標

インターンシップを体験することによって、職業意識を涵養し、各自のキャリア設計を具体化する。

授業計画

1．事前指導
2．職業体験①
3．職業体験②
4．職業体験③
5．職業体験④
6．職業体験⑤
7．職業体験⑥
8．職業体験⑦
9．職業体験⑧
10．職業体験⑨
11．職業体験⑩
12．職業体験⑪
13．職業体験⑫
14．職業体験⑬
15．事後指導

準備学習（予習・復習）・時間

ボランティア実習の体験を整理し、文章化する（30 分）

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

村山昇･若田紗希『働き方の哲学 360 度の視点で仕事を考える』ディスカヴァー･トゥエンティワン、2018 年その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポート（30%）、授業参加の積極性（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）キャリア形成について理解している。
（B）キャリア研修に積極的に参加できる。
（A）キャリア研修の体験からその意義を客観的に説明できる。
（S）授業外でもキャリア形成に積極的に取り組むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

実習日誌やレポートについて確認し、指導する。それ以外でも必要に応じて対応する。

その他

・インターンシップについては、5 月、6 月頃に募集があり、それぞれのプログラムごとに審査がある。採択者のみ履修可能。
・インターンシップは企業に受入れを依頼するので､最低限のビジネスマナーを心得ておく必要がある。
・関連授業として、キャリアカウンセリングⅢ - 1、キャリアカウンセリングⅢ - 2 を同時に受講すること。

科目名	総合科目（チベット仏教入門ＩＢ）	学期	前期	単位数	2	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ
副題	仏教の基礎を学ぶ						

ナンバリング	G 1-02-116	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

チベット仏教に関する基礎知識を修得する。

授業計画

1．ガイダンス
2．三帰依
3．三帰依（続）
4．六加行法
5．六加行法（続）
6．十不善と十善
7．十不善と十善（続）
8．釈尊の四大事 1、2
9．釈尊の四大事 3，4
10．釈尊の十二相 1、2
11．釈尊の十二相 3、4
12．釈尊の十二相 5、6
13．釈尊の十二相 7，8
14．釈尊の十二相 9、10
15．釈尊の十二相 11、12

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90 分)。
事後学修として習ったことを暗記する（90 分)。

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	総合科目（チベット仏教入門ⅡＢ）	学期	後期	単位数	2	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ
副　題	仏教の基礎を学ぶ						
ナンバリング	Ｇ 1-02-117	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

チベット仏教に関する基礎知識を修得する。

授業計画

1．ガイダンス
2．三帰依
3．六加行法
4．十不善と十善
5．四諦
6．四諦（続）
7．八正道
8．十二因縁
9．十二因縁（続）
10．生死輪
11．生死輪（続）
12．六波羅蜜
13．六波羅蜜（続）
14．空
15．まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90 分）。
事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90 分）。

テキスト

教室で指示する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、習熟度（40%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	総合科目（古文書学）	学期	後期	単位数	2	担当者	坂 口 太 郎
副　題							
ナンバリング	Ｇ 3-12-118	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

古代・中世の古文書を学問的に扱う上では、単に文字情報を解読するだけではなく、文書様式や形態的情報、さらには文書の作成・伝達過程に関わる機能的情報を理解しておかねばならない。本講義では、近年の古文書学の成果に目を配りつつ、古文書学を理解する基礎を養う。さらに、古文書の原本などを熟覧し、これを扱う経験を身につける。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

日本古文書学に関して、様式論・形態論・機能論・伝来論等から理解する能力を身につける。
古代・中世文書について、朝廷・公家・武家・寺社などの諸権力の実態を踏まえた上で、解説できるようになる。
古文書をめぐる慣習や作法について、解説できるようになる。

授業計画

1．古文書学の発達と「古文書」の定義
2．古文書の形状・料紙・種類
3．古文書の保管と紙背文書
4．古文書の宛先と伝存場所
5．古文書の書式と書札礼
6．公式様文書①（符・移）
7．公式様文書②（牒・解）
8．公家様文書①（宣旨・官宣旨）
9．公家様文書②（院宣・綸旨）
10．武家様文書①（下文）
11．武家様文書②（下知状）
12．武家様文書③（御教書）
13．武家様文書④（軍忠状）
14．起請文の世界
15．古文書に触れる

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストの該当ページやプリントを毎回読み、古文書学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと（90 分）

テキスト

日本歴史学会編『演習古文書選 様式編』（吉川弘文館、1976 年）
※書店で購入。また、別にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997 年）
②田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993 年）第１部「日本の古文書」
③日本歴史学会編『概説古文書学古代・中世編』（吉川弘文館、1983 年）
④青木和夫ほか編『文献史料を読む－古代から近代－』（朝日新聞社、2000 年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）古文書の様式や学史について基礎的な知識を習得している。
（B）古文書の様式や、授受をめぐる当事者主義などの中世的原理について説明できる。
（A）古文書について、様式のみならず、形態と機能の面を含めて説明できる。
（S）古代・中世の古文書をめぐる、公家・武家・寺社などの政治的・社会的関係について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の訓読や解釈について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い（単なるくずし字の解読練習に終始する科目ではない）。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。
本講義を履修することが可能であるのは、前年度までに「企画科目（古文書解読）」および「企画科目（歴史学）」の２講義を受講し、それぞれの単位を修得した学生･院生のみである。これ以外は許可しないので、登録にあたっては注意すること。

科目名	総合科目（書誌学）	学期	前期	単位数	2	担当者	坂 口 太 郎
副　題							
ナンバリング	Ｇ 3-12-119	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

本講義では、古典籍の伝来過程、巻子装・折本装などの諸形態を学ぶとともに、著名な蒐書家とその蔵書、古典籍の収蔵機関とその調査方法についての専門的知識を習得する。また、文献学に必要な本文批判の技法についても学び、研究に取り組む上での能力を高める。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

古典籍を調査・研究する上での学問的素地をつちかう。
古典籍の原本・写本を調査する上での基礎的能力を習得できるようになる。
近世・近現代の古典籍の流伝について、解説できる能力を習得できるようになる。

授業計画

1．書誌学と古典籍
2．古典籍の諸形態
3．古典籍の保存と伝来の原因
4．古典籍と紙・筆
5．近世の蒐書家たち①（江戸幕府・御三家・前田家）
6．近世の蒐書家たち②（儒学者・国学者）
7．近現代における古典籍①（図書館・複製事業）
8．近現代における古典籍②（近代のコレクター）
9．古典籍の取り扱い方
10．高野山霊宝館の見学
11．巻子装と冊子装
12．古典籍の書き方と種類
13．文献学と本文批判①（『愚管抄』を例として）
14．文献学と本文批判②（『神皇正統記』を例として）
15．高野山西南院の聖教調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書の該当ページやプリントを毎回読み、書誌学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分）
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①橋本不美男『原典をめざして』（笠間書院、1974 年）
②川瀬一馬『日本における書籍蒐蔵の歴史』（べりかん社、1999 年）
③藤本孝一『日本の美術古写本の姿』（至文堂、2002 年）
④藤本孝一『日本の美術文書・写本の作り方』（至文堂、2008 年）
⑤藤本孝一『本を千年伝える』（朝日新聞出版、2012 年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）古典籍について基礎的な知識を習得している。
（B）古典籍の諸形態について理解し、系統的に説明できる。
（A）古典籍の諸形態について系統的な説明ができるとともに、近世・近代の蒐書史についても知識を習得している。
（S）古典籍・蒐書史について幅広い専門的知識を持ち、原本調査や文献研究に必要な見識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、書誌学の専門用語などについて随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。また、レポートについては、採点後に講評する。

その他

本講義は、書誌学や文献学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。
本講義を履修することが可能であるのは、前年度までに「企画科目（古文書解読）」「企画科目（歴史学）」「総合科目（古文書学）」「日本文化特殊講義」のいずれかを受講し、単位を修得した学生・院生のみである。これ以外は許可しないので、登録にあたっては注意すること。

科目名	企画科目（仏画）／仏教芸術（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	有 松 孝 雄
副　題							
ナンバリング	Ｍ 1-02-120	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

墨をすり筆をとって線を引き、仏の姿を描く。制作と併行して、描かれる尊像の儀軌・背景を学ぶ。多様な尊像を知ることで、仏教で展開される宇宙観についての理解を深める。

授業の到達目標

筆をとり図像を描くという身体による経験を通して、広く美術・宗教への理解を深めることができる。

授業計画

【前期】
1．授業の概要についての説明　(授業の進め方、道具の使い方、資料の読み方等を解説)
2．基礎１　手の形、顔の線の練習（１）
3．基礎２　手の形、顔の線の練習（２）
4．基礎３　直線・円を描く
5．基礎４　仏・菩薩の全体を描く（１）
6．基礎５　仏・菩薩の全体を描く（２）
7．基礎６　仏・菩薩の全体を描く（３）
8．基礎７　仏・菩薩の全体を描く（４）
9．基礎８　仏・菩薩の全体を描く（５）
10．作品制作　白描の作品を描く（１）
11．作品制作　白描の作品を描く（２）
12．作品制作　紺地金泥の作品を描く（１）
13．作品制作　紺地金泥の作品を描く（２）
14．高野山霊宝館の見学
15．総括　（仏画・彩色画の実例作品の紹介　ビデオ上映）

【後期】
1．表現法　淡彩色・ぼかし（１）(蓮)
2．表現法　淡彩色・ぼかし（２）(蓮)
3．表現法　淡彩色・ぼかし（３）(天女)
4．表現法　淡彩色・ぼかし（４）(天女)
5．表現法　淡彩色・ぼかし（５）(天女)
6．表現法　淡彩色・ぼかし（６）(不動明王)
7．表現法　淡彩色・ぼかし（７）(不動明王)
8．表現法　淡彩色・ぼかし（８）(不動明王)
9．表現法　淡彩色・ぼかし（９）(不動明王)
10．表現法　繧繝彩色（１）(蓮弁)
11．表現法　繧繝彩色（２）(蓮弁)
12．表現法　繧繝彩色（３）(蓮弁)
13．作品制作　彩色仏画（１）(弘法大師)
14．作品制作　彩色仏画（２）(弘法大師)
15．総括　（国宝仏画・絵画の鑑賞　ビデオ上映）

準備学習（予習・復習）・時間

毎回配布する資料を読み、次の実習に活かすことができるようにする。(60 分)

テキスト

書写手本及び関係資料はコピーを配布する。
以下の教材は担当者が用意する：
用紙、彩色筆、念紙、金泥、筆洗、雑巾、日本画絵具。

参考書・参考資料等

・有賀祥隆「仏画の鑑賞基礎知識」、至文堂、１９９１年（抜粋資料を毎回配布する）
・土方三洋「アリスベイリー入門」、星雲社、２００６年（抜粋資料を毎回配布する）

学生に対する評価

書写作品・毎回の授業時に制作する課題（70%）授業参加への積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏画の基本事項を理解している。
（B）仏画の基本事項が理解された上でその描写ができる。
（A）仏教や仏画に関することがよく理解され、作品に表現することができる。
（S）資料を広く読み解くことができ、尊像の理解と表現が優れている。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートには所感を添えて返却する。

その他

授業で必要な用具・資材は担当者が支給（貸与）する。
受講生は年間を通して使用する面相筆１本を購入、墨・硯は各自が用意する。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

仏画の制作・修復に長年携わっている教員が、その経験を活かして指導する。
受講生の経験に応じて個別に指導する。

科目名	企画科目（寺院経営講座）／寺院と法律（別）	学期	前期	単位数	2	担当者	加賀　博
副　題							

ナンバリング	M 1-03-121	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	2.3.5

授業の目的と概要

現在の寺院の経営課題の分析方法を学び、解決方法として期待される寺院の経営理念設計および経営戦略の具体的立案方法と寺院経営マネジメントの方法を講義とグループワーク方式で実践的に学ぶ。

授業の到達目標

寺院の経営の方法について学び、自ら関係する寺院を発展させることができるようになる。

授業計画

1．21 世紀寺院のかかえる問題と課題
2．今日まで日本及び日本人を支えてきた寺院の役割
3．21 世紀寺院の重要性と再生復活テーマ
4．寺院組織管理重要ポイント
5．宗教法人の経営（会計）管理
6．宗教法人の税務管理
7．僧侶キャリアデザイン
8．僧侶プレゼンテーション基本スキル
9．僧侶ホスピタリティコミュニケーション基本スキル
10．僧侶ホスピタリティコミュニケーションイメージと円滑に進めるための原則
11．僧侶ホスピタリティリスニングと僧侶ホスピタリティトーク
12．第一印象の笑顔が与える大切さと方法、自己紹介の大切さと方法
13．僧侶ホスピタリティリスニングの大切さと方法、僧侶ホスピタリティトーキングの大切さと方法
14．僧侶としてのストレスケアアドバイス基本スキル
15．寺院、僧侶のリスクマネジメント（パワハラ、セクハラ、トラブル、SNS 書き込み対策など）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（60 分）、事後学修として授業で学んだ課題に関して練習しておくこと。(60 分）毎回の授業でした課題についてテーマやキーワードについて覚えなおす。(60 分）

テキスト

加賀博『日本及び日本人のセイフティネット未来社会を変える寺院基本経営学』、㈱カナリアコミュニケーションズ、2017 年 5 月（Amazon、または授業内で購入）

参考書・参考資料等

加賀博『日本及び日本人のセイフティネット未来社会を変える寺院基本経営学』、㈱カナリアコミュニケーションズ、2017 年 5 月

学生に対する評価

授業態度・自己チェックレポート（毎回提出）（40%）期末試験（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら説明出来る。
（B）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら自らの寺院経営について内容を表現出来る。
（A）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ながら具体的計画を作成し説明出来る。
（S）寺院経営学（教科書）の重要ポイントを教科書を見ずに自ら寺院経営について具体的計画を作成しPR出来る。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。また、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

将来寺院を継承したり、就業したりするためのモチベーションを高め、21 世紀寺院に求められる社会的役割を自覚し、積極的に将来ビジョンを考え、学生相互に刺激し合い啓発させ、遠隔授業を活用することにより、学生個別対応を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

企業経営のコンサルトとして 30 年の実績を持ち約 800 社の経営指導の実績があり、また仏教寺院の経営参与として、経営指導にあたっている。
実績をベースに寺院が抱えている問題点、課題点を明確にし、将来の寺院の使命、役割を具体的に果たせるよう学生に十分問題意識と解決方法を教授する。

科目名	企画科目（ｷｬﾘｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ Ⅲ -2）	学期	後期	単位数	2	担当者	高田綾子
副　題							

ナンバリング	N 3-16-122	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	4

授業の目的と概要

①自己分析を進めるとともに、多様なキャリア形成の可能性を知る。社会を多角的に見る視点を身につける。
②演習、フィードバック等のアクティブラーニングにより、社会人基礎力を理解し、必要性を知る。

授業の到達目標

自己の能力を確認し、社会人基礎力を養成する。大学卒業後の「就職」をゴールではなく、職業人生のスタートと理解し、生涯にわたるキャリア形成に必要な意欲・態度を身につける。

授業計画

1．インターンシップの経験を整理する
2．キャリア選択における基準を考える
3．職業人の行動特性を考える
4．キャリア形成に必要な能力を考える
5．キャリア形成のための基本情報を考える
6．キャリアプランを意識した自己分析を行う①（興味）
7．キャリアプランを意識した自己分析を行う②（価値観）
8．キャリアプランを意識した自己分析を行う③（能力）
9．社会人基礎力について考える①（環境と社会性）
10．社会人基礎力について考える②（学びを生かす）
11．社会人基礎力を体験する①（論理的レポートの作成）
12．社会人基礎力を体験する②（プレゼンテーションの基礎知識）
13．社会人基礎力を体験する③（プレゼンテーションの実践）
14．社会人基礎力を体験する④（グループディスカッションの基礎知識）
15．社会人基礎力を体験する⑤（グループディスカッションの実践）

準備学習（予習・復習）・時間

・講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する。(60 分)
・毎回の演習を振り返り、今後、どのように実践する必要があるかを確認する。(60 分)

テキスト

教員作成の資料

参考書・参考資料等

①中野美香『大学生からのプレゼンテーション入門 』2012（ナカニシヤ出版）
②中野美香『大学生からのグループ・ディスカッション入門 』2018（ナカニシヤ出版）
他は授業中に紹介する

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（40%）、授業への参加度・学習態度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会人に必要な能力を理解している。
（B）社会人に必要な能力を理解し、書類作成・演習について基本動作ができる。
（A）社会人に必要な能力を説明でき、書類作成・演習について基本動作がスムーズにできる。
（S）社会人に必要な能力を身に着け、書類作成・演習についてアピール性の高い基本動作ができる上に、日々の行動で実践できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実践中心の授業ですので、課題、演習には積極的に取り組むこと。
受ける授業でなく、自らが行動する授業を心掛けること。
各授業は連続性があるので欠席しないようにすること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

社会保険労務士及びキャリアコンサルタントとして、企業の人事労務管理に関する実務経験を有する教員が、その経験を活かして、ワークルール及びキャリア形成に必要な知識を指導する。

科目名	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	学期	通年	単位数	2	担当者	廣田恵美子
副　題							

ナンバリング	G 1-20-123	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

レポートや卒業論文に必要な日本語能力を養成する。
テキストに沿い、「話す・聞く・読む・書く」の四技能を統合的に学習する。
日本の文化的要素も適宜学習する。
必要に応じて小テストを行う。

授業の到達目標

レポートや卒業論文を書く際に必要な参考文献などを読み解くことができる。
レポートを作成するに不足ない語彙・文法力を身に着け、文法・語彙等に間違いのないレポート作成ができるようになる。
アカデミックなレベルでのディスカションができるようになる。

授業計画

【前期】
1．自己紹介、授業の進め方
2．テーマ－制服－　聴解・ディスカッション・語彙
3．テーマ－制服－　読解
4．テーマ－算数－　文法（～に至る他）
5．テーマ－算数－　文法（点他）
6．テーマ－算数－
　文法のまとめ問題・聴解・ディスカッション・語彙
7．テーマ－算数－　読解
8．テーマ－遊びと運動－
　文法（「～に対して / ～にとって」の整理他）
9．テーマ－遊びと運動－　文法（接続詞の整理他）
10．テーマ－遊びと運動－
　文法のまとめ問題・聴解・ディスカッション・語彙
11．テーマ－遊びと運動－　読解
12．テーマ－お金－　文法（当たり他）
13．テーマ－お金－　文法（「～と、～」の整理）
14．前期の総復習
15．前期の総復習のディスカッション

【後期】
1．テーマ－お金 -
　文法のまとめ問題・聴解・ディスカッション・語彙
2．テーマ－お金－　読解
3．テーマ－水－　文法（～に関する他）
4．テーマ－水－　文法（～以上に他）
5．テーマ－水－
　文法のまとめ問題・聴解・ディスカッション・語彙
6．テーマ－水－　読解
7．テーマ－遺伝－　文法（～例えられて他）
8．テーマ－遺伝－
　文法（～得ない他）・文法まとめ問題・聴解
9．テーマ－遺伝－　語彙・ディスカッション・読解
10．テーマ－マンガ・アニメ・本－　文法（～ぼくて他）
11．テーマ－マンガ・アニメ・本－　文法（副詞の整理他）
12．テーマ－マンガ・アニメ・本－　文法のまとめ問題・聴解・ディスカッション・語彙
13．テーマ－マンガ・アニメ・本－　読解
14．前期の総復習
15．前期の総復習のディスカション

準備学習（予習・復習）・時間

事前に該当課の未習語彙を必ず調べておくこと。
毎授業後、当日学習した項目、次週学習する語彙についての課題を課すので、課された課題には積極的に取り組むこと。
授業で習った文法・語彙を本授業外でのディスカションやレポート作成に積極的も使用すること。(計 90 分以上)

テキスト

教師の指示に従うこと。

参考書・参考資料等

①グループ・ジャイマン編著『日本語文型辞典』(1998)（ベトナム語版、英語版、タイ語版、韓国語版、中国語版有り）②友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』(2010) ③大阪ＹＭＣＡ専門学校岡本牧子他『くらべてわかる日本語表現文型辞典』(2008)

学生に対する評価

期末試験（50%）、課題の提出（25%）小テスト（15%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習した語彙、文法を限定的ではあるが理解することができる。
（B）学習した語彙、文法をほぼ理解することができる。
（A）学習した語彙、文法を使用することができる。
（S）学習した語彙、文法を使用し、自身の言葉としてアウトプットすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は添削し、次回授業時に返却する。

その他

受講者の日本語能力が本授業を理解するに過不足がある場合、十分な学習効果が得られなため、初学者はプレイスメントテストにより受講が認められた者のみ受講可とする。学習テーマに沿ったディスカションを実施する、母国での事例や自身の考え積極的に言葉にし、ディスカションに参加すること。欠席の際は必ず事前に連絡すること。全講義の 1/3 を超えて欠席した者には単位を与えない。3 回の遅刻を 1 回の欠席と見なす。

科目名	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	学期	通年	単位数	2	担当者	松本貴子
副　題							

ナンバリング	G 1-20-124	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

日本語の使用目的に合わせて使い分けができるように問題演習を行い、アカデミック・ライティングに必要な日本語能力の獲得を目指す。
獲得した論理的記述能力を使用し、明確に自分の意見を読み手に伝える方法を身につける。

授業の到達目標

日本語の記述に関する決まりを学習し、身につける。短い文章から始め、徐々に長い文章を書けるように実践し、最終的には 1000 字～ 1400 字のアカデミック・スピーキングの文章を書き、発表できるようになる。
卒業論文の執筆を視野に入れ、それに耐え得る文章構成能力を身に付ける。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス / 自己紹介文を書来、発表。
2．日本語の表記法（1）句読点
3．日本語の表記法（2）記号
4．文体①（文章の種類と文体）
5．文体②（書き言葉の文体 / 普通体）
6．モードチェンジ（小論文を書くときの注意）
7．正しい構造の文①（主語述語）
8．正しい構造の文②（修飾語 / 文末）
9．文のつながり（指示語 / 接続語）
10．小論文によく使われる表現（文末表現）
11．段落（段落と中心文）
12．要約文を書く
13．複数の段落を持つ文の要約
14．アカデミック・ライティングの基礎（一貫性・結束性を意識して書く）
15．復習テスト / FB

【後期】
1．前期復習 / 意見文を書く（タイプ 1）
2．意見文を書く（タイプ 1）
3．意見文を書く（タイプ 2）
4．意見文を書く（タイプ 3）
5．記述文①（400 字～ 500 字）
6．記述文②（400 字～ 500 字）発表
7．アカデミック・スピーキング①（5 分で伝える）
8．アカデミック・スピーキング②（5 分で伝える）
9．アカデミック・スピーキング③（5 分で伝える））
10．発表
　（作成したスピーチ文をクラスで発表する）
11．引用文①　（ 引用文について学ぶ。）
12．引用文②
　（ 実際の記事、文章を使い引用文を完成させる。）
13．引用文③　（ 発表 ）
14．総括①　（1 年を振り返り、各自作文を書く。）
15．総括②　発表

準備学習（予習・復習）・時間

前期はテキストの下読みをしてくること。（6 0 分）
後期は実際に文を書くことが増えるので、必ず宿題とされた文章は書いてくること。(60 分)

テキスト

『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク　（書店で購入）

参考書・参考資料等

『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版他、

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（30%）、小テスト（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習した内容を最低限理解できている。
（B）学習した内容をある程度使いこなしている。
（A）学習した内容に基づいて、ほぼ正しく記述できている。
（S）学習した内容を応用・発展させ、自分の言葉として記述できている。

課題に対するフィードバックの方法

テキストに関する課題は授業中にフィードバックする。
小論文の課題は翌週までに添削、返却、とする。

その他

受実践では学生が作成した文章の発表を通して、他者に伝える力をつけたいと考えている。

科目名	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	学期	通年	単位数	2	担当者	廣田恵美子
副　題							

ナンバリング	Ｇ 1-20-125	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

大学生活に必要な日本語の四技能の習得。
テキストに沿い「話す・聞く・読む・書く」の四技能を統合的に学習する。
日本の文化的要素についても適宜学習する。

授業の到達目標

大学の講義を無理なく聞き取ることができるようになる。
大学生活におけるさまざまな場面に適した会話をすることができる。
レポートの執筆及び専門分野の文献を読むにあたっての語彙・文法が理解できる。

授業計画

【前期】
1．自己紹介、授業の進め方
2．テーマ－あいづち－ 文法
3．テーマ－あいづち－　文法・文法まとめ問題
4．テーマ－あいづち－　聴解・語彙・読解
5．テーマ－男の仕事・女の仕事－　文法
6．テーマ－男の仕事・女の仕事－
　文法・文法まとめ問題
7．テーマ－男の仕事・女の仕事－　聴解・語彙・読解
8．10. テーマ－ことばの使い方－　聴解・語彙・読解
9．テーマ　－ことばの使い方－　文法・文法まとめ問題
10. テーマ－遊ことばの使い方－　聴解・語彙・読解
11. テーマ－音楽と音の効果－　文法（カタカナ語他）
12. テーマ－音楽と音の効果－　文法（名詞修飾）
13. テーマ－音楽と音の効果－　文法（動詞の省略）
14. 前期の総復習
15. 前期の総復習の会話練習

【後期】
1．テーマ－音楽と音の効果－　聴解・語彙・読解
2．テーマ－いい数字・悪い数字－
　文法（*V*ルこと/*N*ほど～は、　ない・いない他）
3．テーマ－いい数字・悪い数字－　文法（疑問語・疑問文）
4．テーマ－いい数字・悪い数字－
　文法まとめ問題・聴解・語彙
5．テーマ－いい数字・悪い数字－　聴解
6．テーマ－「面白い」日本－
　文法（文の中の「こ・そ」他）
7．テーマ－「面白い」日本－
　文法（疑問語＋Ｎであろうと）
8．テーマ－「面白い」日本－
　文法（*V*ている）・文法まとめ問題・聴解
9．テーマ－「面白い」日本－　語彙・読解
10. テーマ－くしゃみ－　文法（複合動詞他）
11. テーマ－くしゃみ－　文法（擬音語・擬態語他）
12. テーマ－くしゃみ－　文法のまとめ問題・聴解
13. テーマ－くしゃみ－　語彙・読解
14. 後期の総復習
15. 後期の総復習の会話練習

準備学習（予習・復習）・時間

事前に該当課の未習語彙を必ず調べておくこと。
毎授業後、当日学習した項目・次週学習する語彙・漢字等についての課題を課すので、課された課題には積極的に取り組むこと。
授業で習った文法・語彙などを大学生活で積極的に使用すること。（計 90 分以上）

テキスト

教師の指示に従うこと。

参考書・参考資料等

①グループ・ジャイマン編著『日本語文型辞典』(1998)（ベトナム語版、英語版、タイ語版、韓国語版、中国語版有り）②友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』(2010) ③大阪ＹＭＣＡ専門学校岡本牧子他『くらべてわかる日本語表現文型辞典』(2008)

学生に対する評価

期末試験（50%）、課題の提出（25%）小テスト（15%）、授業参加の積極性（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）学習した語彙、文法を限定的ではあるが理解することができる。
（Ｂ）学習した語彙、文法をほぼ理解することができる。。
（Ａ）学習した語彙、文法を使用することができる。
（Ｓ）学習した語彙、文法を使用し、自身の言葉としてアウトプットすることができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は添削し、次回授業時に返却する。

その他

受講者の日本語能力が本講義を理解するに過不足がある場合、十分な学習効果が得られなため、初学者はプレイスメントテストにより受講が認められた者のみ受講可とする。
日本語に関する質問であれば、授業外のことでも受け付ける。欠席の際は必ず事前に連絡すること。
全講義の 1/3 を超えて欠席した者には単位を与えない。3 回の遅刻を 1 回の欠席と見なす。

科目名	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	学期	通年	単位数	2	担当者	松 本 貴 子
副　題							

ナンバリング	Ｇ 1-20-126	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

現代日本社会の現状を反映した文章を読むことで、様々な問題に対して、理解し考察する機会とする。
同時に「読む、聞く、話す」を学びながら、大学生活を送るのに支障のない運用能力を身につける。
語彙、文法、聴解の日本語能力試験 N3 レベルの復習をし、N2 レベルの日本語能力を習得し、応用できる事を目指す。

授業の到達目標

大学生活、さらに日本社会に出た時に必要な日本語能力を総合的に身につける。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス／『時代を読み解く』を使用し、模擬授業
2．『時代を読み解く』Ⅰ　生活　1．遠距離結婚 p.8 ~ p.14
3．『時代を読み解く』Ⅰ　生活
　2．「輝く女性」とは何なのか－
　「女性活躍の現場」P.15~23
4．『時代を読み解く』Ⅰ　生活　3．父親の育児参加 P.24~31
5．『時代を読み解く』Ⅰ　生活
　4．社内結婚、企業が後押し　P.32~39
6．『時代を読み解く』Ⅰ　生活
　5．働き方－変わる・変える　P.40~48
7．文法、語彙、聴解　N3,N2, 練習問題　① JLPT 直前対策
8．文法、語彙、聴解　N3,N2, 練習問題　② JLPT 直前対策
9．文法、語彙、聴解　N3,N2, 練習問題　③ JLPT 直前対策
10. 文法、語彙、聴解　N3,N2, 練習問題　④ JLPT 直前対策
11. JLPT 模試実施
12. 模試　FB / 総括
13. 『時代を読み解く』Ⅳ 企業と労働
　14. 日本型雇用システム（１）P.128~135
14. 『時代を読み解く』Ⅳ 企業と労働
　15. 日本型雇用システム（２）p.136~141
15. 『時代を読み解く』Ⅳ 企業と労働
16. 日本的性別分業と M 字型雇用カーブ　P.142~148

【後期】
1．『時代を読み解く』Ⅴ 科学技術と人間
　19. インターネットの隆盛　P.168~174
2．『時代を読み解く』Ⅴ 科学技術と人間
　20. ロボットの活用　P.175~182
3．『時代を読み解く』Ⅴ 科学技術と人間
　21.AI は人間の仕事を奪ってしまうのか　P.183~193
4．『時代を読み解く』Ⅴ 科学技術と人間
　22.「ビッグデータ社会」P.194~204
5．文法、語彙、聴解　N3,N2, 練習問題　① JLPT 直前対策
6．文法、語彙、聴解　N3,N2, 練習問題　② JLPT 直前対策
7．文法、語彙、聴解　N3,N2, 練習問題　③ JLPT 直前対策
8．文法、語彙、聴解　N3,N2, 練習問題　④ JLPT 直前対策
9．JLPT 模試実施
10. 模試　FB / 総括
11. 『時代を読み解く』Ⅵ　環境と人間
　24. タバコのもたらすもの　P.216~225
12. 『時代を読み解く』Ⅵ　環境と人間
　25. 検証の壁 、挑み続ける科学者－地球温暖化問題－
　P.226~235）
13. 試験 / FB
14. 試験結果に基づき、復習、振り返り
15. １年を振り返り、印象深い記事について各自意見発表

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、次回資料を配布するので、「ふりがな抜きで音読」「簡単な内容把握」をしてくること。(60 分)
『新完全マスター N3 文法』『新完全マスターN3 語彙』は毎回確認小テストをするので、指定箇所を学習しておくこと。(60 分)

テキスト

『新完全マスター N2 語彙』スリーエーネットワーク（書店で購入）

参考書・参考資料等

『留学生のための 時代を読み解く上級日本語』宮原 彬　スリーエーネットワーク。
『新完全マスター N3 文法』『新完全マスター N3 語彙』『新完全マスター N3 聴解』『新完全マスター N2 文法』
『新完全マスター N2 聴解』スリーエーネットワーク。

学生に対する評価

期末試験（40%）、小テスト（40%）、発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）学習した文型や表現を理解できている。
（Ｂ）学習した文型や表現を正確に使用できている。
（Ａ）学習した文型や表現を応用できている。
（Ｓ）学習した文型や表現を応用し、自分の言葉としてアウトプットできている。

課題に対するフィードバックの方法

語彙、文法の小テストを実施した際には、その場で採点、確認を行い復習すべき点を確認する。課題を出した際には、必ず授業内で講評し、活発な議論に結びつけたい。

その他

日本語のレベルを上げたい全ての学生は受講してほしい。JLPT の準備をしつつ、基本的な日本語能力が身につくよう、読解、聴解、発表などを随時企画している。

科目名	サンスクリット語Ⅱ／サンスクリット語上級	学期	通年	単位数	2	担当者	前 谷　　彰
副　題							

ナンバリング	Ｍ 2-07-127	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

サンスクリット語における音論を中心にして、サンスクリット語という古典言語のダイナミズムに触れ、ことばの本質的な世界の楽しさを味わい、様々な言語に対する豊かな感性を身につける。

授業の到達目標

サンスクリット語の短文読解能力を身につける。

授業計画

【前期】
1．導入：サンスクリット語とは？
2．サンスクリット語の基礎知識がどれくらいあるかを調べる。
　（グナ・ヴリッディ法則）
3．サンスクリット語の基礎知識がどれくらいあるかを調べる。
　（サンディ法則）
4．サンスクリット語の基礎知識がどれくらいあるかを調べる。
　（語根類推）
5．短文読解訓練（担当者作成）
6．短文読解訓練（担当者作成）。
7．学生との話し合いによって、読む原典を決める。
8．原典読解
9．原典読解
10. 原典読解
11. 原典読解
12. 原典読解
13. 原典読解
14. 学生との話し合いによって、読む原典を変える。
15. 前期試験と講評

【後期】
1．原典読解
2．原典読解
3．原典読解
4．原典読解
5．原典読解
6．草原典読解
7．原典読解
8．原典読解
9．原典読解
10. 原典読解
11. 原典読解
12. 原典読解
13. 原典読解
14. 総まとめ
15. 後期試験・講評

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修としてテキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(60 分)
事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト

①担当者作成『サンスクリット語サブグラマー』
②辻直四郎『サンスクリット文法』(絶版のため、担当者がコピーして配布する。)

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が指示する。

学生に対する評価

課題に対する予習・復習（30%）、期末試験２回（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（Ｂ）Guza・V3ddhi法則に基づく語根類推能力を身に着ける。
（Ａ）（Ｂ）の能力に加え、Sandhi法則を理解し、複合語を分ける能力を身に着ける。
（Ｓ）（Ｂ）（Ａ）の基礎知識をもとに、短文読解能力を持つこと。

課題に対するフィードバックの方法

フィ―ドバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	チベット語／チベット語（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ
副　題	チベット語初級						

ナンバリング	Ｇ 2-07-128	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

チベット仏教の最高学位（ゲシェー・ハランパ）を持つチベット語から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

授業の到達目標

【前期】文字（ウチェン）と発音、あいさつを習得し、チベット語会話の基礎的学習を行う。
【後期】文字（ウメー）を修得し、チベット語会話の応用的学習を行う。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション、チベット語の簡単なあいさつ
2．文字（ウチェン）と発音（１)、簡単なあいさつ（続き）
3．文字と発音（２)、少し複雑なあいさつ
4．文字と発音（３)、１から 20 まで
5．「私は日本人です」
6．「あなたはチベット人ですか」
7．「私たちは先生ではありません」
8．「彼はよい犬を一匹飼っています」
9．「彼女は多分今授業中でしょう」
10. 「私は遊びに行きます」
11. 「このカメラはあそこの女の子のものです」
12. 「あなたはお食事を召し上がりますか」
13. 「あの新しい家の屋根」
14. 「私はチベットのチャンも好きです」
15. 復習

【後期】
1．オリエンテーション
2．文字（ウメー）の練習
3．文字の練習（続き）
4．文字を完全に修得する
5．「これは何ですか」
6．「あなたはいついらっしゃるでしょうか」
7．「あなたはどこの方ですか」
8．「この本はだれが書きましたか」
9．「私は見ます」「彼には見えています」
10. 数の数え方
11. 応用的会話練習（１)
12. 応用的会話練習（２)
13. 応用的会話練習（３)
14. 応用的会話練習（４)
15. 応用的会話練習（５)

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180 分）

テキスト

ロサン・トンデン著、石濱裕美子、ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）その他。

参考書・参考資料等

松本栄一・奥山直司『チベット［マンダラの国］』(小学館）※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）チベット文字（ウチェン）が一応読み書きできる。
（Ｂ）チベット語の簡単な挨拶ができる。
（Ａ）チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
（Ｓ）チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよどみなくできる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

科目名	中国語Ⅰ	学期	通年	単位数	2	担当者	土生川正賢
副　題							

ナンバリング	G1-07-129	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

訪日外国人数は遂に 3000 万人を超え、2018 年国別ランキングでは 1 位中国・3 位台湾・4 位香港と中国語圏が圧倒的多数を占めている。今や中国語は本格的に世界言語となりつつあり、日本国内でもあちこちから中国語が聞こえてくる現実がある。また近年、大陸で断絶していた密教を復興させようという機運の高まりと共に、中国語圏から高野山に学びに来るという傾向も強まっている。古典的な「漢文」という教養の側面だけではなく、現代社会で実学として「使える語学」を修得するため、実践的授業を行う。それと共に、日中関係など国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題についても随時考えてゆきたい。

授業の到達目標

「学問のための学問」ではなく、実社会で使える語学の習得を目指す。「聞く」「話す」に重点を置き、常用文の暗誦等、実際に使える中国語の習得を目標とする。そのためには正確な発音の習得は欠かせない。日常的な挨拶文から自己紹介、更には自分の日常について中国語で話せる程度の語学力の確立を目指す。そうした中で、外国語学習を通して自国の文化をより深く理解し、多角的な視野を有する学生を育成したい。

授業計画

【前期】
1．年間授業計画説明。中国に関する一般常識に関するアンケート。中国語の特性について。
2．中国語の声調記号である「四声」と、発音記号である「ピンイン」について。母音の発音練習。
3．「四声」と「ピンイン」について。子音の発音練習。
4．中国特有の漢字である「簡体字」の基礎学習。
5．電子辞書を含む中国語辞書の紹介と使い方。
6．テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第１～４課）
7．テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第１～４課）
8．テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第１～４課）
9．テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第１～４課）
10．テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第１～４課）
11テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第１～４課）
12．テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第１～４課）
13．テキストに従って挨拶や基本文型の学習（第１～４課）
14．前期試験に関する説明。前期の授業に関するアンケート調査。
15．前期試験（筆記）。講評

【後期】
1．前期試験の反省と間違った箇所の復習等。後期の授業計画説明。
2．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
3．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
4．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
5．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
6．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
7．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
8．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
9．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
10．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
11．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
12．テキストを中心とした授業。（第５～８課）
13．テキストを中心とした授業。（第５～８課）　テキストを学び終えた場合は中国に関するビデオ鑑賞等。
14．後期試験に関する説明。アンケート調査。
15．後期試験（筆記）。講評

準備学習（予習・復習）・時間

教室で学習した内容について、教科書に付属する CD を利用し、毎回最低 40-60 分程度の復習をすることを推奨する。
特に発音については CD を繰り返し聞き、自分でも発音することで、正しい発音を習得して頂きたい。

テキスト

喜多山幸子・鄒幸枝 『はじめまして！中国語』 白水社

参考書・参考資料等

辞書（小学館『中日辞典』等）。電子辞書や参考書籍は、授業中に随時紹介する。
NHK のラジオ中国語講座、テレビ中国語講座等の番組視聴を推奨する。

学生に対する評価

①試験（60%）　②受講姿勢（20%）　③既習項目の習熟度（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中国語の四声とピンインを見て正しい発音ができる。簡体字を理解している。
（B）挨拶語や基礎的な構文を理解した上で正しい発音ができる。基本的な文法を理解している。
（A）基礎的な文法を理解した上で、自己紹介や自分の一日などについて中国語で話せる。
教科書程度の内容について、聞いて受け答えできる会話力がある。
（S）中国人留学生らとの意思疎通が一定程度できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

その他

聞けぬ話せぬ語学では実社会では役に立たない。簡単な挨拶文から始めるので、学生諸君には積極的に取り組む姿勢を要求したい。訪日中国人の増加に伴い、日本国内で中国語を話す機会は間違いなく増えている。外国語を最初から完璧に使いこなせる人はいない。間違えながら覚えるのが外国語学習であるから、中国人を見かけたら積極的に話しかけるくらいの姿勢で臨んでもらいたい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

文部省派遣の国費留学生として中国の大学院（国立中山大学）を卒業し、その間同時に中国の大学の教壇にも立った。実務経験としては、国内外で数々の通訳に従事。現地政府との折衝に携わった経験。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などでの密教の布教。中国はじめ各国の駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。更には日本国内での中国系留学僧らに対する中国語での伝授経験などがある。それらをいかし、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	中国語Ⅱ	学期	通年	単位数	2	担当者	土生川正賢
副　題							

ナンバリング	G1-07-130	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

「聞く」「話す」に重点を置き、受講生の語学力にあわせた個別指導を丁寧に行う。
今や中国語は本格的に世界言語となりつつあり、日本国内でもあちこちから中国語が聞こえてくる現実がある。また近年、大陸で断絶していた密教を復興させようという機運の高まりと共に、中国語圏から高野山に学びに来るという傾向も強まっている。教養としての古典的中国語はさて置き、現代社会のニーズに応え得る実学として「使える語学」の修得を目指し、実践的授業を行う。それと共に、年間を通して、国際社会における中国の立場を検証し、現代中国の抱える諸問題や時事問題にも言及するので、共に考えてもらいたい。

授業の到達目標

多角的な視野をもち、中国語を使って仕事のできる人材の育成。我が国の歴史・文化・伝統・政治的立場等を中国語で常々と主張できる国際人の養成。中国語作文発表や会話力強化等、実際に使える中国語の習得をめざす。ヒアリング能力向上のため、常用文の暗誦を義務付け、段階的に応用力を磨く。学生個々が中国語で自己の意思表現ができるようにつとめたい。各人がレベルアップを実感できるよう、可能な限り中国語を用いて授業をすすめたい。

授業計画

【前期】
1．年間授業計画説明。初級クラスで学んだ語学力のチェック。
2．初級クラスの基礎復習。辞書・参考文献の紹介。
3．文法の基礎因め（未習のテキスト単元の学習）
4．文法の基礎因め（未習のテキスト単元の学習）
5．文法の基礎因め（未習のテキスト単元の学習）
6．文法の基礎因め（未習のテキスト単元の学習）
7．文法の基礎因め（未習のテキスト単元の学習）
8．文法の基礎因め（未習のテキスト単元の学習）
9．文法の基礎因め（未習のテキスト単元の学習）
10．受講生の語学力に適した教材を配布。
11．受講生の語学力に適した教材を配布。
12．受講生の語学力に適した教材を配布。
13．受講生の語学力に適した教材を配布。
14．前期試験に関する説明。前期の授業に関するアンケート調査。
15．前期試験（面接）。

【後期】
1．前期試験の総復習。後期の授業計画説明。
2．前期既習単元と基礎文法の総復習。
3．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
4．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
5．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。。
6．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。。
7．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
8．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
9．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
10．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
11．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
12．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
13．受講生の語学力に適した教材を配布。
　毎回一人ずつ学生による発表及びそれに対する中国語での質疑応答。
14．後期試験に関する説明。アンケート調査。
15．後期試験（面接）。

準備学習（予習・復習）・時間

教室で学習した内容について、教科書に付属する CD を利用し、毎回最低 40-60 分程度の復習をすることを推奨する。
後期授業での学生による発表は、作文を入念に準備することが求められる。

テキスト

初級クラスで用いた教科書の未修単元今年度は喜多山幸子・鄒幸枝 『はじめまして！中国語』 白水社

参考書・参考資料等

上記テキスト修了後は、その都度必要な教材・資料を配布。辞書は毎回必携（電子辞書可）。電子辞書や参考書籍は随時紹介。

学生に対する評価

筆記試験と中国語による個別面接試験（70%）、授業中の発表やリポート等（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎的な文法を理解し、自己紹介や簡単な日常会話ができる。
（B）基礎的な文法を理解し、正しい発音で教科書程度の内容について会話ができる。
（A）新聞講読に必要な最低限の語彙力と日常会話能力、「聴・話・読・写」の総合的な力がある。
（S）中国人留学生らとの意思疎通が相当程度できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問については、毎回の授業中に必ず複数回のフィードバックを行う。

その他

諸君の先輩の中には北京大・復旦大・中山大など中国の一流の大学院に国費留学し、学位取得した者も複数いる。井の中の蛙で終わらず、世界に目を向けてもらいたい。文系学科の中で語学の実用性は非常に高いものであると考える。換言すれば、外国語がひとつ流暢に話せるだけで、世界は大きく広がり、職業の選択肢も広がる。多様な価値観を身につけることも語学習得のプラスアルファの側面である。学生諸君には積極的な授業参加を求めたい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

文部省派遣の国費留学生として中国の大学院（国立中山大学）を卒業し、その間同時に中国の大学の教壇にも立った。実務経験としては、国内外で数々の通訳に従事。現地政府との折衝に携わった経験。台湾・マレーシア・シンガポール・中国などでの密教の布教。中国はじめ各国の駐日大使ら要人を高野山にお迎えした経験。更には日本国内での中国系留学僧らに対する中国語での伝授経験などがある。それらをいかし、実際に中国人と接する上で注意せねばならない点や、通訳としての意得なども話したい。

科目名	企画科目（声明上級）／声明上級／声明上級（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	辻　秀道
副　題							

ナンバリング	G2-01-131	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

１．初級の続きとして､初級で学べなかった種々の南山進流声明及び法要を研鑽して声明の視野を広める。２．導師作法で必要な、「理趣法」の表白・神分を研鑽する。３､四座講式の基本的な読み方を研鑽する。４．種々の表白・神文の基礎となる御影供と大般若の表白・神文を研鑽する。

授業の到達目標

常楽会法則に使われる声明及び基本となる表白・神分を修得する。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション（テキスト解説）
2．総礼（伽陀）（1）
3．総礼（伽陀）（2）
4．誕生会祭文Ⅰ
5．誕生会祭文Ⅱ
6．誕生会祭文Ⅲ
7．理趣経（中曲）後半（1）
8．理趣経（中曲）後半（2）
9．云何唄（1）
10．云何唄（2）
11．出家唄
12．伽陀（1）
13．伽陀（2）
14．前期試験と講評
15．伽陀（3）

【後期】
1．御影供祭文（1）
2．御影供祭文（2）
3．御影供祭文（3）
4．講式の読み方（初重）
5．講式の読み方（二重）
6．講式の読み方（三重）
7．御影供表白・神分（1）
8．御影供表白・神分（2）
9．御影供表白・神分（3）
10．大般若表白・神分（1）
11．大般若表白・神分（2）
12．大般若表白・神分（3）
13．理趣法表白・神分（1）
14．後期試験と講評
15．理趣法表白・神分（3）

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだ唱え方に関して練習をしておくこと（90 分）

テキスト

・「祭文集」－高野山出版社発行＝各自高野山出版社で購入すること。（オリエンテーションで説明）
・「理趣法」講義中に伝達する・御影供／大般若表白、神分（オリエンテーションで説明）・講式テキスト
（オリエンテーションで説明）

参考書・参考資料等

宮野宥智編「南山進流声明類聚」

学生に対する評価

前期末テスト（40%）後期末テスト（40%）授業参加の積極性（20%）。試験は実技試験。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）南山進流声明上級として、理解は十分ではないが、複数の人と一緒に唱える事が出来る。
（B）南山進流各種声明を概ね理解し、複数の人と合わせて唱える事が出来る。
（A）南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、一人で唱える事が出来る。
（S）南山進流声明上級として理論・唱え方を理解し、声明上級としての学力を有する。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講資格を下記の通り設ける　1．本学「声明」初級を習得した者　2．高野山専修学院及び尼僧学院を終了した者　3．高野山高等学校宗教科を終了した者　4．その他同等以上の研鑽を終了した者

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山塔頭寺院住職としての経験。長年に渡る高等学校・尼僧學院・大学に於ける声明授業の授業経験。 音楽や多くの仏教音楽等の教育指導経験をふまえ、声明の音楽理論や曲の構成を解説しながら指導する。

科目名	梵字悉曇Ａ／梵字悉曇（別）	学期	通年	単位数	2	担当者	齋藤天譽
副　題							

ナンバリング	G1-01-132	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

摩多・体文・切継など、梵字を書きながら学ぶ。

授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画

【前期】
1．年間授業計画の説明
2．梵字・悉曇の伝来と歴史
3．テキストを読みながら説明
4．テキストを読みながら説明
5．筆を使って実習通摩多 12 文字
6．筆を使って実習通摩多 12 文字
7．筆を使って実習通摩多 12 文字
8．別摩多４文字他
9．別摩多５文字他
10．（ka）（kha）（ga）の３文字
11．（gha）（ña）の２文字
12．（ca）（cha）の２文字
13．（ja）（jha）（ña）の３文字
14．（ta）（tha）（da）の３文字
15．（dha）（na）の２文字

【後期】
1．筆を使って実習（ta）（tha）の２文字
2．〃　（da）（dha）の２文字
3．〃　（na）（pa）の２文字
4．〃　（pha）（ba）の２文字
5．〃　（bha）（ma）の２文字
6．〃　（ya）（ra）（la）の３文字
7．〃　（va）（śa）（ṣa）の３文字
8．〃　（sa）（ha）の２文字
9．〃　重字の２文字
10．塔婆の書き方
11．刷毛書体について
12．三尊仏について
13．光明真言①
14．光明真言②
15．諸真言について

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）
授業で学んだ文字を練習しておくこと（90 分）

テキスト

児玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房「小堀南岳堂」で購入

参考書・参考資料等

中川善教編『真言宗常用諸経要聚』

学生に対する評価

授業参加の積極性（20%）、作品提出（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）習った「梵字」を書くことが出来る。
（B）「梵字」に慣れて、上達が見られる。
（A）きれいな梵字を書くことが出来る。
（S）「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山内寺院の住職である教員が、真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、習字を通して、その上達を指導する。

科目名	体育実技	学期	通年	単位数	2	担当者	今井邦夫
副題							

ナンバリング	G 1-17-133	授業方法	実技	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

【前期】バレーボールを楽しみながら仲間作りと基本的技術の習得を目指す。
【後期】フットサルを楽しみながら仲間作りと基本的技術の習得を目指す。

授業の到達目標

様々なスポーツを通して基本技能を学習すると同時に仲間とのコミュニケーション能力を高め、生涯スポーツに活かしていく。

授業計画

【前期】
1．指導概要についての説明
2．バレーボールのルール、基本動作の徹底
3．個人的技能の習得（1）
4．個人的技能の習得（2）
5．試験（ラリー）
6．個人的技能の習得（1）
7．個人的技能の習得（2）
8．個人的技能の習得（3）
9．試験（アタック）
10．集団的技能の習得（1）（連携プレー）
11．集団的技能の習得（2）（連携プレー）
12．集団的技能の習得（3）（連携プレー）
13．集団的技能の習得（4）（連携プレー）
14．集団的技能の習得（5）（連携プレー）
15．試験（連携プレー）

【後期】
1．フットサルのルールとボール慣れ
2．チーム作り・個人的技能の習得
3．ゲーム、技術の向上（1）
4．ゲーム、技術の向上（2）
5．ゲーム、技術の向上（3）
6．ゲーム、技術の向上（4）
7．ゲーム、技術の向上（5）
8．ゲーム、技術の向上（6）
9．ゲーム、技術の向上（7）
10．ゲーム、技術の向上（8）
11．ゲーム、技術の向上（9）
12．ゲーム、技術の向上（10）
13．ゲーム、技術の向上（11）
14．ゲーム、技術の向上（12）
15．ゲーム、技術の向上（13）

準備学習（予習・復習）・時間

2020 年東京オリンピックに関心を持ち、視聴や観戦を積極的に行う。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

実技試験（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）ルールを理解し、意欲的に参加している。
（B）基本的な技術を身に付け、ルールを理解している。
（A）ルールを理解し、仲間と協力し合いながら連携プレーが出来る。
（S）ルールを理解し、技術・リーダーシップを発揮してゲームの雰囲気・質を高められる。

課題に対するフィードバックの方法

振り返りを行い、仲間で技術を確認しながら上達を目指す。

その他

運動の行える服装、及び室内用シューズを持参する。例として、綿及びジーンズ等のパンツ、Ｙシャツなどのボタン付きの上着、靴下のみで履くものを持参していない、それ以外にも運動に適さない服装での参加は、安全上の理由により受講不可とする。

科目名	情報処理	学期	通年	単位数	2	担当者	木地茂典
副題							

ナンバリング	G 1-13-134	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

情報処理という中でこれから必要とされるデータ処理を進めていく。
【前期】基本的なことを通してデータ処理から分析ができるような内容にしていく。それには、数学的論理思考が必要になってくる。
【後期】前期を踏まえて、データ内容から分析まで表現できるものとしてプレゼンテーションし、情報の一般知識を活用してひとつの処理結果を制作していく。

授業の到達目標

情報ネットワーク社会の中で情報を利用する上での重要な基礎技術をデータ分析を通してそれを習得することを目標とする。【前期】数学的論理を踏まえ基本的な office 機能の利用をもってプレゼンテーション化する。【後期】実践的に表現していく中で、情報理論の体系化を修得をし、分析力身につける。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス（序章）
2．Office 機能の確認
3．Word で文書作成（1 枚の文書作成）
4．Word で文書作成（表を挿入しながらの文書作成）
5．Excel での文書・表作成（基本的な機能操作―関数）
6．Excel での文書・表作成（機能を使いながらの実践表作成）
7．情報伝達について（スライドを用いながらの伝達）
8．情報伝達の理論）
9．暗号化と情報管理
10．データベースの理解と活用
11．オペレーティングシステムの理解
12．サーバとネットワークの構造（基本編）
13．サーバとネットワークの構造（実践編）
14．プレゼンテーション
15．総括機能の活用

【後期】
1．問題解決手法―般について
2．問題の表し方と解決策について
3．データの分析から評価・解決手順
4．プログラム言語と論理について
5．構造プログラムの設計方法論
6．構造プログラムの設計実践編
7．分析論（基本データ分析方法）
8．分析論（データの解析的な活用法）
9．情報活用論
10．情報活用による実践論
11．情報メディアについて
12．情報デザインについて
13．表現メディアの編集と表現について
14．情報メディア
15．総括メディアのプレゼンテーション

準備学習（予習・復習）・時間

PC での実践に向ける体験的な知識を必要とするので、復習の学習時間が必要である。(90 分)

テキスト

必要に応じて文献を提示していく。素材データを共有する。

参考書・参考資料等

毎回参考資料を提示していく。数学的論理・解決が必要でもあり随時提示していく。

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）情報機能を興味深く研究する姿勢が感じられること。
（B）情報機能が理解をしていてより一層調査研究し求める姿勢が感じられること。
（A）情報機能が技術的に把握していて、授業を通して認識・理解を探究できること。
（S）情報機能が技術的にできていて、授業を通じて認識・理解できていること。

課題に対するフィードバックの方法

課題を必要としていく。PC を使いこなせることがこの講座の必要性である。フィードバックに対することは毎回提示していく。

その他

情報処理の講座を通して今後の社会に出た時の活用も含めてこれからＡＩがより一層の変化・進化していく中でそれをうまく自分のものになるように技術もちろんだが、利用方法を見つける工夫を考える必要がある。情報機能の技術を年間通してどれだけ進歩させるかをひとつの評価になり、技術ではなくそれを用いた表現力を身につけることを目標にし、それを生かしてどのように作り上げるかを考えること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校教員としての経験を元に、社会に出た時の必要性を十分認識させていき、その活用が有意義に感じられるものにしてく。

科目名	企画科目（華道）／伝統文化（華道）	学期	通年	単位数	2	担当者	五味和樹
副題							

ナンバリング	G 1-20-135	授業方法	実技	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

【前期】仏様にお花をお供えしたのが始まりとされる日本の華道の歴史を現代まで解説すると共に、華道の基本の解説と実技の実習を行なう。
【後期】高野山の伝統行事が行なわれる会場を荘厳する真華の解説と真華の実技実習。

授業の到達目標

【前期】日本の伝統文化である華道の歴史の理解と基本的実技の修得。
【後期】高野山の伝統行事（年中行事）に生けられる伝統華・荘厳真華の理解

授業計画

【前期】
1．ガイダンス
2．華道高野山についての解説
3．供華様式から投入花の解説
4．投入花から現代花の解説
5．盛花の解説
6．盛花の実技実習
7．盛花の変化態の解説と実習
8．投入花の解説と実習
9．投入花の変化態の解説と実習
10．格花の解説と実習
11．格花の変化態の解説と実習
12．自由花の解説と実習
13．自由花のテーマのもとめ方と実習
14．自由花のテーマを決めた実習
15．格花寸胴での実習

【後期】
1．真華の解説
2．五段華の解説（内談義五段華）
3．五段華の解説（勧学会五段華）
4．真華実習（1）（基礎）
5．真華実習（2）（変化態）
6．二つ真の解説
7．仏生会の華の解説
8．白羽の矢竹の解説
9．小品真華の解説と実習
10．法印転衣式の華の解説
11．合真の解説
12．元三の花の解説
13．万年青の解説と実技
14．真華・格花の三態九姿の解説
15．水仙の葉組

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の実習内容を振り返り、他の学生の作品も鑑賞し、自分の作品との相違や今後参考にしたいと思う点を確認し、今回の作品を手直しする。(60 分)

テキスト

華道高野山教本

参考書・参考資料等

特に無し

学生に対する評価

実技定期試験（60%）、小試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）盛花・自由花・格花の基本を理解し、生けられる。
（B）作品に創意・工夫が見られる。
（A）高野山の伝統華である真華を理解し、生けられる
（S）すべての花態を理解し、特に技術的に優れている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

実技実習時に花材費 800 円～ 1,000 円必要である。

科目名	伝統文化実習（茶道）／伝統文化（茶道）	学期	通年	単位数	2	担当者	岡本文音
副題							

ナンバリング	N 1-20-136	授業方法	実技	実務経験の有無	無	関連 DP	4

授業の目的と概要

日本の伝統的な文化のひとつである茶の湯（茶道）の理解を深めるために、初風炉・開炉・初釜などの茶会を経験し、また実際に基本的な所作や初歩の点前（盆略点前）を修得する。くわえて茶の湯（茶道）の歴史・文化ついて知る。そのうえで受講生自らが茶会を企画し実践し、亭主側と客側の体験をし、それらをとおして、茶の湯（茶道）の精神や美意識について考える。

授業の到達目標

茶の湯（茶道）における、礼の仕方･歩き方、茶のいただき方などの基本的な所作、および初歩の点前（盆略点前）ができるようになる。
茶の湯（茶道）の歴史・文化について学び、思想や美意識について考察できるようになる。

授業計画

【前期】
1．講義　茶道概説　茶事（茶会）のながれ
2．実習　客の所作と心得 1
　　お茶のいただき方（薄茶）
3．実習　客の所作と心得 2　席入りの仕方
4．講義　茶の湯の文化 1　茶道史　茶の湯以前
5．実習　盆略点前 1　割稽古
6．実習　盆略点前 2　割稽古
7．講義　茶の湯の文化 2　茶道史　草創期の茶の湯
8．実習　盆略点前 3　割稽古
9．実習　盆略点前 4　割稽古
10．講義　茶の湯の文化 3　茶道具について
11．実習　盆略点前 5　通し稽古
12．実習　盆略点前 6　通し稽古
13．講義　茶の湯の文化 4
　　茶書講読『南方録』「覚書」の巻から
14．実習　盆略点前 6　通し稽古
15．実習　茶会体験　風炉の茶会（夏茶事）

【後期】
1．講義　茶の湯の文化 5
　　茶書講読『南方録』「滅後」の巻から
2．実習　盆略点前の復習 1　割稽古
3．実習　盆略点前の復習 2　通し稽古
4．実習　盆略点前の復習 3　通し稽古
5．講義　茶の湯の文化 6
　　茶書講読『南方録』「墨引」の巻から
6．実習　客の所作と心得 3
　　お茶のいただき方（濃茶）
7．実習　茶会体験　炉開きの茶会
8．講義　茶の湯の文化 7　茶道史　近代茶道
9．実習　茶杓削り
10．実習　茶会の企画と実践 1
11．実習　茶会の企画と実践 2
12．実習　茶会の企画と実践 3
13．講義　茶の湯の文化 8　茶書講読『心の文』
14．実習　茶会体験　新年の茶会（初釜）
15．実習　七事式

準備学習（予習・復習）・時間

実技実習では、毎回の実技内容を振り返り、繰り返し復習し、実技内容を身につける。(60 分)
体験実習では、体験成果を整理し、レポートにまとめる。(60 分)
講義では、事後学修として授業で学んだ資料およびテキストを再読し、内容の要点をノートに整理する。(90 分)

テキスト

学校茶道編集委員会編　『学校茶道（初級編）』　財団法人茶道文化振興財団発行　平成 15 年出版
授業時に一括購入

参考書・参考資料等

①谷端昭夫著『よくわかる茶道の歴史』淡交社 2007 年
②谷晃著『わかりやすい茶の湯の文化』淡交社 2005 年

学生に対する評価

授業時に随時課す提出物（30%）茶会の企画と実践（35%）期末試験（35%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な客の所作と盆略点前がひと通りできる
（B）基本的な茶の湯の歴史・文化についての理解がある
（A）客の所作と盆略点前を修得している
（S）茶の湯の歴史・文化をふまえて、茶会の企画・実践ができる

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

茶室（8 畳）に入れる人数に限りがあるため、定員は 16 名とし、受講生が多い場合は面談によって選考する。
実習の費用（茶・菓子・炭）として、前期・後期、それぞれ 3,500 円必要である。

科目名	企画科目（舞踊）／宗教芸能（舞踊）	学期	通年	単位数	2	担当者	高祖彩恵子 辻　佐智子
副　題							

ナンバリング	G 1-20-137	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

宗教舞踊の基本的な身体の動かし方・理念・法具の扱い方・教典の譜の見方等基本を学ぶ。御詠歌の歌詞の意味、舞踊で表現されている意味を学び、心の表現の仕方について学ぶ。

授業の到達目標

宗教舞踊の基礎を身につけ、練習を積み重ねることにより、心技体を磨く。

授業計画

【前期】
1．宗教舞踊を見てみる。本的理念・法具（持ち物）の扱い方の解説。
2．「地蔵菩薩」により身体の動かし方の基本を学ぶ。
3．「地蔵菩薩」実習（1）
4．「地蔵菩薩」実習（2）
5．「地蔵菩薩」実習（3）
6．「地蔵菩薩」実習（4）・歌詞の解説と仕上げ
7．「御法号和讃」実習（1）教典の譜の見方の説明
8．「御法号和讃」実習（2）
9．「御法号和讃」実習（3）
10．「御法号和讃」実習（4）
11．「御法号和讃」実習（5）
12．「御法号和讃」実習（6）
13．「御法号和讃」前期試験に向けた実技試験の実技の復習するべき注意点の説明
14．「御法号和讃」の仕上げ
15．16. 前期実技試験と講評

【後期】
1．「楊柳」実習（1）
2．「楊柳」実習（2）
3．「楊柳」実習（3）
4．「楊柳」実習（4）
5．「楊柳」実習（5）・歌詞の説明
6．「楊柳」実習（6）
7．「楊柳」実習（7）
8．「楊柳」実習（8）
9．「楊柳」実習（9）仕上げ
10．「御法号和讃」復習（1）
11．「御法号和讃」復習（2）
12．「御法号和讃」復習（3）
13．「御法号和讃」復習の仕上げ
14．登壇の仕方
15．後期実技試験と講評・1年間の総括

準備学習（予習・復習）・時間

事後学習として授業で学んだ実技の注意点を中心に練習をしておくこと（60分）

テキスト

高野山宗教舞踊会師範会監修教典（1曲ずつの教典）を大師教会で購入

参考書・参考資料等

高野山金剛流宗教舞踊基本教典　　・『はじめての「高野山宗教舞踊」入門』セルバ出版

学生に対する評価

授業中の技術の習熟度（30%）・努力度（30%）・実技試験（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本動作（合掌の形・立座の仕方・法具の扱い方）ができる。
（B）御詠歌に合わせてみんなと一緒に舞う事ができる。
（A）御詠歌に合わせて一人で舞う事が出来る。
（S）歌詞を理解し、心を表現しながら一人で舞う事ができる。

課題に対するフィードバックの方法

前後期の試験の講評を行い注意・復習すべき点を指導する。

その他

単位取得者は希望により『高野山金剛流宗教舞踊会』の〔入門〕と〔初伝〕が取得できる。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山宗教舞踊会大師範で有り、教室・司部弟子指導の経験、本山宗教舞踊研究部員・巡回布教派遣講師の経験を持つ教員が、初心者に体の使い方のわかりやすい指導と曲の深い理解・実際の舞踊登壇への完成を指導する。

科目名	企画科目（歴史学）／歴史学	学期	前期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副　題							

ナンバリング	G 2-12-138	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

本講義の目的は二つからなる。前半では、中世前期の高野山をめぐる諸問題について学び、町石の造立をめぐる歴史、高野山と公武権力との関係について理解を深める。後半では、近世における歴史学の発達について学び、『大日本史』の編纂過程を通して、史料批判の発達、史料採訪の意義について考える。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

中世前期の高野山について、政治史との関係を踏まえて説明できる能力を身につける。
歴史学における史料の重要性について説明できる能力を身につける。
研究史の重要性について、理解できるようになる。

授業計画

1．高野山町石をめぐる歴史と文化①－卒塔婆造立の功徳と弘法大師信仰－
2．高野山町石をめぐる歴史と文化②－高野山と安達泰盛－
3．高野山町石道を歩く
4．北条政子と高野山①－源氏三代と高野山－
5．北条政子と高野山②－金剛三昧院の造立をめぐって－
6．高野山霊宝館の見学
7．後醍醐天皇と高野山①－後醍醐天皇・護良親王の討幕活動と高野山－
8．後醍醐天皇と高野山②－建武政権期の後醍醐天皇と高野山－
9．後醍醐天皇と高野山③－南北朝内乱と高野山－
10．近世史学の黎明
11．『大日本史』の史学史的意義
12．佐々宗淳による金剛寺文書・観心寺文書調査
13．佐々宗淳による高野山文書調査①－『大日本史編纂記録』を通して－
14．佐々宗淳による高野山文書調査②－『南行雑録』の価値－
15．高野山西南院の調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史や史学史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分）
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①上横手雅敬『鎌倉時代』（吉川弘文館、1994年）
②山陰加春夫『中世の高野山を歩く』（吉川弘文館、2014年）
③久保田収『近世史学史論考』（皇學館大学出版部、1968年）
④但野正弘『新版佐々介三郎宗淳』（錦正社、1988年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）中世前期の高野山や近世史学史に関する基礎的事項を理解している。
（B）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて説明できる。
（A）高野山と公武権力の関係、歴史学における史料批判の意義、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容を踏まえて、具体的かつ論理的に論じることができる。
（S）高野山と公武権力の関係、古文書調査・史料採訪の意義について、講義の内容のみならず、参考文献の読解や自己の調査を踏まえて、新たな問題提起ができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点後に講評する。

その他

講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。
また、参考書や講義で紹介する論著を読み、歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。

科目名	企画科目（古文書解読A）／古文書解読A	学期	後期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副　題							

ナンバリング	G 2-12-139	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

この授業では、中世の古文書を教材として、「変体漢文」やくずし字を理解する基礎を養う。本年度は、とくに中世天皇の自筆文書、公家様文書・武家様文書を通して、政治史的な背景も押さえつつ、古文書に関する学識を高めることを目指す。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

中世の古文書に関する読解能力を身につける。
古文書を通して、中世の天皇を取り巻く政治状況を説明できる学識を身につける。
古文書を通して、中世国家における公家・武家の権力について説明できる学識を身につける。

授業計画

1．古文書序説（古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など）
2．中世の天皇文書を読む①－後鳥羽上皇筆手印置文の前半部－
3．中世の天皇文書を読む②－後鳥羽上皇筆手印置文の後半部－
4．中世の天皇文書を読む③－後鳥羽上皇筆手印置文の時代背景－
5．高野山霊宝館の見学
6．中世の天皇文書を読む④－後伏見上皇筆願文案の前半部－
7．中世の天皇文書を読む⑤－後伏見上皇筆願文案の後半部－
8．中世の天皇文書を読む⑥－後伏見上皇筆願文案の時代背景－
9．高野山大学図書館における調査
10．中世の奉書と直状
11．中世の公家様文書を読む①－院宣－
12．中世の公家様文書を読む②－綸旨－
13．中世の武家様文書を読む①－関東御教書－
14．中世の武家様文書を読む②－関東下知状－
15．高野山西南院における調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（90分）
講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと（90分）

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993年）
※書店で購入。また、古文書の図版プリントを配布する。

参考書・参考資料等

①佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997年）
②石井進『中世の古文書を読み解く』（東京大学出版会、1990年）
③田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993年）第1部「日本の古文書」
④青木和夫ほか編『文献史料を読む－古代から近代－』（朝日新聞社、2000年）

学生に対する評価

授業中の参加態度（予習および発言、50%）、期末試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎的なくずし字を解読できる。
（B）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
（A）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
（S）古文書の読解能力を習得するとともに、古文書の形態や、中世文書に関する専門的な知識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

毎回、宿題としてプリントを配付するので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。
『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。（例年、類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意）。

科目名	宗教学Ⅰ／世界の宗教（別）1	学期	前期	単位数	2	担当者	奥山直司
副　題							

ナンバリング	G 2-03-140	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	4,5

授業の目的と概要

宗教学の歴史と基礎的な理論を学ぶことによって、現代社会のさまざまな現象を宗教の観点から理解する姿勢を身につける。当番がレジュメを用意し、テキストを一緒に読む形で授業を進める。

授業の到達目標

19世紀後半に生まれた宗教学の代表的な理論を説明できるようになる。
現代における社会現象・文化現象を宗教の観点から解釈、分析できるようになる。

授業計画

1．ガイダンスの後、テキスト第1章「宗教学の立場と分野」を読む
2．テキスト第1章「宗教学の立場と分野」を読む（続）
3．テキスト第2章「宗教の原初形態」を読む
4．テキスト第3章「科学・呪術・宗教」を読む
5．テキスト第4章「宗教の諸類型」を読む
6．テキスト第5章「宗教の構成要素」を読む
7．テキスト第6章「宗教的実在観」を読む
8．テキスト第7章「宗教的人間観」を読む
9．テキスト第8章「宗教的世界観」を読む
10．討論「宗教とは何か、宗教はどうあるべきか」
11．テキスト第9章「宗教儀礼」を読む
12．テキスト第10章「教団と社会」を読む
13．テキスト第11章「宗教体験と人格」を読む
14．テキスト第12章「宗教の機能」を読む
15．まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストの次回の授業範囲を読んでおくこと（90分）。
事後学修として、テキストとノートを読み直し、復習しておくこと（90分）。

テキスト

脇本平也『宗教学入門』講談社、1997年

参考書・参考資料等

ジョージ・フレイザー『図説　金枝篇』（上）（下）、講談社、2011年

学生に対する評価

発表（50%）、期末レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）テキストを要約し、批判的に検討することができる。
（A）宗教学の代表的理論を説明することができる。
（S）社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席と見なす。

科目名	宗教学Ⅱ／世界の宗教（別）2	学期	後期	単位数	2	担当者	奥 山 直 司
副　題							

ナンバリング	G 2-03-141	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	4,5

授業の目的と概要

諸宗教の聖典と宗教学の名著（いずれも教員が抄出本を用意する）を読むことを通して、様々な宗教のあり方をより深く学んでゆく。映画等を資料にして、宗教現象を立体的に理解できるようにする。

授業の到達目標

各種の宗教思想について基礎的な知識を身につけることを通して、様々な宗教に関心と理解を持つことができる。

授業計画

1．ガイダンス、仏典を読む（1）初期経典『スッタニパータ』
2．仏典を読む（2）初期経典『ダンマパダ』ほか
3．仏典を読む（3）大乗経典『般若心経』ほか
4．仏典を読む（4）大乗経典『法華経』ほか
5．仏典を読む（5）密教経典
6．聖書を読む（2）旧約聖書
7．聖書を読む（2）新約聖書
8．イスラーム教の基礎知識
9．コーランを読む
10．宗教学の名著を読む（1）フレイザー『金枝篇』
11．宗教学の名著を読む（2）フレイザー『金枝篇』（続）
12．宗教学の名著を読む（3）デュルケム『宗教生活の原初形態』
13．宗教学の名著を読む（4）ジェイムズ『宗教的経験の諸相』
14．宗教学の名著を読む（5）南方熊楠書簡
15．まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと（90 分）。
事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90 分）。

テキスト

授業中にコピーを適宜配布する。

参考書・参考資料等

島薗進『宗教学の名著 30』筑摩書房、2008 年

学生に対する評価

期末レポート（80%）、授業中の発言、発表（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に読み解くことができる。
（B）諸宗教の代表的教説を説明することができる。
（A）諸宗教を比較しながら、それぞれの特徴を説明できる。
（S）宗教とその文化に関心を持ち、その角度から社会・文化現象を分析できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席と見なす。

科目名	宗教思想史ⅠA	学期	前期	単位数	2	担当者	奥 山 直 司
副　題							

ナンバリング	G 1-03-142	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

インドは東洋における思想・宗教の一大発現地である。この授業ではまず人類の未来へのインド思想の貢献について考えた後、インドの宗教思想史の諸様相について学習する。

授業の到達目標

仏教を含むインドの宗教思想について、その歴史と特徴に関する基礎的な知識を養うと共に、現代社会に求められている非暴力の思想について関心を深め、実生活に活かせるようになる。

授業計画

1．インドが発する人類の思想的課題－ M.K. ガンディーの思想を手懸かりに
2．インドの歴史地理、インダス文明
3．ヴェーダ
4．ウパニシャッド
5．自由思想家たちとブッダの出現
6．ブッダの生涯とその教え
7．仏教の発展：大乗仏教と密教
8．叙事詩①：『ラーマーヤナ』
9．叙事詩②：『マハーバーラタ』
10．ヒンドゥー教の発展
11．正統バラモン教哲学
12．ヒンドゥー教とイスラーム教
13．インドと日本
14．タゴール、アンベードカルの思想
15．ガンディー再び

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと（90 分）。
事後学修として、ノートを読み、必要事項を記憶すること（90 分）。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

山下博司『ヒンドゥー教　インドという謎』講談社、2004 年。
授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

期末レポート（80%）、授業中の発言等（20%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）インドの歴史地図を大まかに描くことができる。
（B）インド宗教思想史の大まかな流れを説明できる。
（A）インドの宗教思想の特徴を他の地域のそれとの比較において論述できる。
（S）インド宗教思想史に関して独自の知見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻 3 回で 1 欠席と見なす。

科目名	宗教思想史ⅡA	学期	前期	単位数	2	担当者	櫻 木　　潤
副　題							

ナンバリング	G 1-03-143	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

宗教は、時代や社会のメンタリティを映し出す鏡である。
本授業では、古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、歴史学の立場からその変遷を概観し、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、日本人の精神性のルーツを探求する。

授業の到達目標

①日本人のメンタリティの変化をたどることによって、それぞれの時代のムードを感じとることができる。
②現在の日本人の心のあり様と、これからの日本人にとって宗教とはどうあるべきかについて、自分なりの考えを提示することができる。

授業計画

1．宗教のはじまりをさぐる－人類はいつ「心」を持つようになったのか－
2．日本人の基層信仰－自然崇拝と八百万の神々－
3．仏教の伝来と受容－僧尼令にみる国家と仏教－
4．大仏造立と神仏習合－民衆への仏教のひろがり－
5．「平安仏教」の成立－「日本仏教」の成立－
6．来世への希求－末法の到来－
7．現世をどう生きるか－憂世の克服－
8．東山文化の世界－わび・さびの世界－
9．日本的伝統の源流－総合と啓蒙の時代－
10．浮世へのまなざし－儒学による社会秩序の構築－
11．日本古典への回帰－“復古”への潮流－
12．世直しの気運－民衆宗教の勃興－
13．廃仏毀釈と文化財保護－精神文化の喪失－
14．「総力戦体制」時代の宗教界－「国家神道」体制の宗教－
15．これからの日本人と宗教

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べておく（90 分）、事後学修として、授業内容についてノートに整理しておくこと（60 分）

テキスト

テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

参考書・参考資料等

①家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007 年。初版 1982 年）
②田尻祐一郎『江戸の思想史人物・方法・連環』（中公新書 2097、2011 年）
③村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010 年。初版 1970 年）。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本人のメンタリティの歴史的変遷について説明することができる。
（B）日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。
（A）日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の宗教に関する諸課題について論理的に述べることができる。
（S）日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの日本人にとって、宗教がどうあるべきかを論理的に述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

仏像や絵画などの美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物である。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけること。講義でも、博物館・美術館などの展覧会について紹介する。

科目名	宗教史Ⅰ／宗教の歴史（別）1	学期	前期	単位数	2	担当者	土 居 夏 樹
副　題							

ナンバリング	G 2-03-144	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	4,5

授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、原始・古代における宗教の発生から、ギリシャ・ローマの宗教の歴史を踏まえつつ、キリスト教へとつながる宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標

人類における宗教的営みの中で、古代の宗教やユダヤ教、キリスト教が歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．宗教の起源
3．古代諸文明の宗教①－メソポタミアの宗教－
4．古代諸文明の宗教②－古代エジプトの宗教－
5．ギリシャ・ローマの神話
6．ユダヤ教の歴史①－天地創造からエジプト脱出－
7．ユダヤ教の歴史②－王国の成立－
8．ユダヤ教の歴史③－バビロン虜囚－
9．キリスト教の歴史①－イエス・キリストの生涯－
10．キリスト教の歴史②－使徒たちの活動－
11．キリスト教の歴史③－ローマ帝国とキリスト教－
12．キリスト教の歴史④－東方教会・西方教会－
13．キリスト教の歴史⑤－十字軍・魔女裁判－
14．キリスト教の歴史⑥－宗教改革－
15．講義のまとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる（60 分）

テキスト

※プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房）
・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー 21）※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（50%）、授業時に課す小レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）宗教の歴史について大まかに理解している。
（B）各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
（A）各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。

科目名	宗教史Ⅱ／宗教の歴史（別）2	学期	後期	単位数	2	担当者	土 居 夏 樹
副　題							

ナンバリング	G 2-03-145	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	4,5

授業の目的と概要

宗教は人類の営みの中で発生した文化的現象である。その歴史をたどることは、すなわち人類の営みをひもとくことにほかならない。さらに仏教史や密教史以外の宗教史を知ることで、仏教や密教の有する歴史的意義がより明確になろう。この講義では、イスラム教の歴史、東アジアの宗教、さらには現代社会における新宗教の歴史を踏まえつつ、今日に続く宗教の歴史を概観する。

授業の到達目標

人類における宗教的営みの中で、イスラム教や東アジアの諸宗教、現代社会における新宗教が、歴史的にどのように位置付くのかについて理解する。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．イスラム教の歴史①－ムハンマドの生涯－
3．イスラム教の歴史②－イスラム国家の誕生－
4．イスラム教の歴史③－イスラム各派の発生－
5．イスラム教の歴史④－復興主義と原理主義－
6．東アジアの宗教①－儒教の誕生－
7．東アジアの宗教②－儒教の展開－
8．東アジアの宗教③－道教の成立－
9．東アジアの宗教④－道教の神々－
10．東アジアの宗教⑤－神道の世界－
11．東アジアの宗教⑥－神道の変遷－
12．現代社会と宗教①－世界の新宗教－
13．現代社会と宗教②－日本の新宗教－
14．現代社会と宗教③－スピリチュアリズムと現代社会－
15．講義のまとめ定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

・事前に該当する宗教の歴史について調べてくる（60 分）

テキスト

※プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『世界宗教史』Ⅰ～Ⅲ（ミルチア・エリアーデ著、筑摩書房）
・『図解世界五大宗教全史』（中村圭志、ディスカヴァー 21）※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（50%）、授業時に課す小レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）宗教の歴史について大まかに理解している。
（B）各宗教の歴史的展開について大まかに理解している。
（A）各宗教の歴史的展開について大まかに説明ができる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、自説を展開できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でレポートへの講評を実施する。

その他

※取り扱う内容は受講生と相談の上、変更することがある。

科目名	哲学方法論	学期	前期	単位数	2	担当者	山 脇 雅 夫
副　題							

ナンバリング	G 2-08-146	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

哲学の原点をギリシャに探り、いくつかの基本テーマを学びます。

授業の到達目標

合理的思考法を学ぶ

授業計画

1．哲学の語源的意味
2．ソクラテスとギリシャ世界
3．ソクラテス裁判
4．無知の知について
5．ギリシャの四元徳
6．知と徳
7．魂の世話としての哲学
8．プラトンとイデア論
9．場の記述としてのイデア論
10．アリストテレスの論理学
11．アリストテレスの存在論
12．アリストテレスの倫理学
13．新プラトンの「一者」の思想
14．キリスト教の哲学
15．否定神学と哲学

準備学習（予習・復習）・時間

テキストを事前に通読した後、それぞれの授業関係部分を読み直しておく（予習）。授業で検討したプラトン・アリストテレスの書物を自分で研究する（復習）。（計 90 分以上）

テキスト

田中美知太郎『ソクラテス』(岩波新書)

参考書・参考資料等

学生に対する評価

期末テスト（65%）、小テスト（20%）、授業参加への積極性（15%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義の内容を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法

テストにコメントを付し、返却する。

その他

提供された資料を読み解くことで、論理的思考力を高めること。

科目名	宗教学方法論	学期	後期	単位数	2	担当者	森 本 一 彦
副　題							

ナンバリング	M 2-03-147	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について信仰生活を中心に検討することを通して宗教学の方法を理解する。

授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗宗教を中心として、宗教学の方法を理解する。

授業計画

1．高野文化圏の信仰生活について
2．年中行事（1）暦
3．年中行事（2）正月を中心として
4．年中行事（3）盆行事を中心として
5．年中行事（4）双分性
6．社寺の行事（1）寺院の行事
7．社寺の行事（2）神社の行事
8．社寺の行事（3）神仏習合
9．人の一生（1）出産・成長
10．人の一生（2）結婚
11．人の一生（3）葬送
12．高野山をめぐる信仰（1）修正会
13．高野山をめぐる信仰（2）盂蘭盆会
14．高野山をめぐる信仰（3）弘法大師信仰
15．高野文化圏の信仰生活の特徴

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

プリントを配付する。

参考書・参考資料等

高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012.3 その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）民俗宗教の基本用語を説明できる。
（B）民俗宗教の事象を説明できる。
（A）民俗宗教の理論を自分の言葉で説明できる。
（S）現実の現象を民俗宗教の理論を使いながら説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起こっているのかを確認しておくこと。・教職に関する授業であるので、教壇に立つことを意識しながら聞くこと。
・授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	国語学Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	上 田 恭 寿
副　題							

ナンバリング	G 2-05-148	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらう。

授業の到達目標

言語としての日本語について基本的な理解を深める。

授業計画

1．言語と人間二重分節性、言語の機能（1）
2．言語と人間二重分節性、言語の機能（2）
3．日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（1）
4．日本語の音声・音韻音声と音韻、単音の分類、母音（2）
5．日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（1）
6．日本語の音声・音韻音声器官、子音の基本事項（2）
7．日本語の音声・音韻清濁、拗音（1）
8．日本語の音声・音韻清濁、拗音（2）
9．日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（1）
10．日本語の音声・音韻拍と音節、特殊拍、アクセントとその役割（2）
11．日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（1）
12．日本語の文字表記日本語の表記の特色、漢字の将来（2）
13．日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（1）
14．日本語の文字表記漢字の構造と用法（六書）、音と訓、国字・国訓（2）
15．日本語の文字表記平仮名・片仮名、ローマ字

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業で行った日本語学における要点の整理を行い、キーワードを覚える（30 分）。

テキスト

藤田保幸『緑の日本語学教本』和泉書店、2010 年書店で購入

参考書・参考資料等

ジョージ・ユール『現代言語学 20 章－言葉の科学』、大修館書店、2000

学生に対する評価

都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
（B）言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
（A）言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
（S）課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の終わりに質問と意見を提出、次回の授業のはじめにコメントともにフィードバック。都度の課題に対して解を提示、不明点を説明。

その他

授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国語学Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	上田恭寿
副題							

ナンバリング	G 2-05-149	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

テキストに使う、藤田（2010）に沿って、日本語についての基礎的な講義を行う。授業は、原則的に講義形式とするが、できる限り、都度の小課題等、受講者に積極的に参加してもらうようにする。

授業の到達目標

言語としての日本語について基本的な理解を深める。

授業計画

1．日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（1）
2．日本語の語彙語彙の概念、語彙量、理解語彙等、語彙調査（2）
3．日本語の語彙語種（和語・漢語・外来語）（1）
4．日本語の語彙語種（和語・漢語・外来語）（2）
5．日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（1）
6．日本語の語彙語彙と位相（位相とは、女性語、隠語）（2）
7．日本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（1）
8．日本語の文法学校文法とその限界、文法と言語生活（2）
9．日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（1）
10．日本語の文法現代の文法の考え方、隣接分野としての語用論（2）
11．日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言周圏論（1）
12．日本語の方言方言とは、東西差、方言区画、方言周圏論（2）
13．日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（1）
14．日本語の位置世界の中の日本語の位置、日本語の特質（2）
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業での日本語学の要点を整理し、キーワードを覚える（30 分）。

テキスト

藤田保幸『緑の日本語学教本』和泉書店、2010 年書店で購入

参考書・参考資料等

ジョージ・ユール『現代言語学 20 章－言葉の科学』、大修館書店、2000

学生に対する評価

都度の課題（30%）、ディスカッションへの参加度（10%）、および期末の試験（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）言語としての日本語に関して自身で課題を設定して考察する。
（B）言語としての日本語の知識を用いて日常観察される日本語の言語現象を説明する。
（A）言語としての日本語の基本的な理解を達成している。
（S）課題の考察に必要な専門知識を自主的に専門書を通して把握する。

課題に対するフィードバックの方法

都度の課題に対して解を提示、コメントとともにフィードバック。期末の試験に対して、解とコメントをフィードバック。

その他

授業の進行の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国文法Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副題							

ナンバリング	G 2-04-150	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

文語文法（古典文法）の知識を習得し、古典作品を読解できるようにする。前期はおもに用言、つまり述語になる動詞・形容詞・形容動詞の活用とその種類を中心にそれぞれの品詞の特質を考える。

授業の到達目標

古文を正しく解釈できるように、古典（文語）文法の正しい知識を得る。

授業計画

1．古典文法は何のために学ぶのか
2．文語文法と口語文法のちがい
3．文節とはなにか
4．動詞とはどのような品詞か自動詞と他動詞
5．動詞の活用（1）四段活用
6．動詞の活用（2）上一段活用と上二段活用
7．動詞の活用（3）下一段活用と下二段活用
8．動詞の活用（4）変格活用ナ変とラ変
9．動詞の活用（5）変格活用サ変とカ変
10．形容詞とはどのような品詞か
11．形容詞のク活用とシク活用
12．形容動詞とはどのような品詞か
13．ナリ活用とタリ活用
14．用言の総合問題
15．まとめ―古典文法を学ぶ意味―

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（60 分）、事後学修として、その内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

教員が作成した教材を配布する。

参考書・参考資料等

①高校で使用した「古典文法」の本（どこの出版社のものでも可）②古語辞書（電子辞書でも可）

学生に対する評価

①定期試験（50%）②小テスト（25%）③講義への取り組み（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）文法を学ぶ意義について理解し、用言の活用について理解している。
（B）動詞の活用の種類についての基礎的知識を習得している。
（A）（B）（C）に加えて形容詞についての基礎的知識を習得している。
（S）（A）（B）（C）に加えて、形容動詞についての基礎的知識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義後に質問を受け付け、複数回の小テストでは解説を施す。

その他

受講者についてはとくに限定しないが、国語の教育免許状を取得しようとする学生は必ず受講すること。

科目名	国文法Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副題							

ナンバリング	G 2-04-151	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

古典（漢文もふくめて）を正しく解釈するためには、古典文法の正しい知識は必須条件である。とくに助動詞の知識は大切である。接続・活用形などの正しい理解を得て、古典作品を読解できるようにする。途中で理解度を確かめる意味で小テストを 3 回、また敬語の基礎も 1 回の小テストを実施する。

授業の到達目標

助動詞の正しい知識と敬語の基礎、とりわけ敬意の対象を理解する。

授業計画

1．助動詞とはどのようなものか
2．受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」「らる」、打消「ず」、打消推量の助動詞「じ」
3．使役・尊敬の助動詞「す」「さす」「しむ」、願望の助動詞「まほし」
4．推量の助動詞（1）「む」「けむ」「らむ」
5．推量の助動詞（2）「らし」「めり」、反実仮想「まし」
6．推量の助動詞（3）「べし」
7．完了の助動詞（1）「つ」「ぬ」
8．完了の助動詞（2）「たり」「り」
9．過去の助動詞「き」「けり」、願望の助動詞「たし」
10．伝聞・推定の助動詞「なり」
11．断定の助動詞「なり」「たり」、比況の助動詞「ごとし」
12．敬語の基礎尊敬語・謙譲語・丁寧語とはどのようなものか
13．敬意の主体と対象
14．「給ふ」「奉る」「聞こゆ」の識別
15．敬語の課題

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

教員が作成した教材を配布する。

参考書・参考資料等

①高校で使用した「古典文法」の本（どこの出版社のものでも可）②古語辞書（電子辞書でも可）

学生に対する評価

①定期試験（50%）②小テスト（25%）③講義への取り組み（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）助動詞の基礎について理解している。
（B）推量の助動詞の基礎的知識を習得している。
（A）（B）（C）に加えて、時制にかかわる助動詞の基礎的知識を習得している。
（S）（A）（B）（C）に加えて敬語の基礎的知識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の後に質問を受け付け、複数回の小テストでは解説を施す。

その他

受講生についてはとくに限定しないが、国語の教育免許状を取得しようとする学生は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	下西　忠
副題							

ナンバリング	M 2-04-152	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

上代（奈良時代）から中古（平安時代）、さらに中世（鎌倉時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識だけではなく、可能な限り作品の一部でもとりあげてその作品を鑑賞したい。作品の成立背景なども注意しながらその作品の文芸的価値を考えてみたい。

授業の到達目標

日本の文学のなかで、古代から中世までの文学の歴史を学ぶとともに、その時代の日本文学の特質を理解する。

授業計画

1．この講義の目的・目標について
2．上代文学の概観、古事記と日本書紀
3．万葉集について
4．中古文学の概観、勅撰集について、古今集について
5．竹取物語、伊勢物語など
6．枕草子、源氏物語前後
7．日記文学について土佐日記・蜻蛉日記など
8．説話文学日本霊異記・今昔物語集など
9．歴史物語、中世文学の概観
10．新古今集とそれ以後の和歌集
11．連歌の発生とその展開
12．日記・紀行・能狂言について
13．随筆文学について
14．軍記物語について平家物語など
15．説話文学について

準備学習（予習・復習）・時間

作品が成立した時代の予備知識を得ること（40 分）、作品の成立や作者のことを様な情報で得ておくこと。

テキスト

教員が作成した教材を配布する。

参考書・参考資料等

1、日本文学全史（至文堂）2、日本古典文学史（双文社）

学生に対する評価

テスト（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本文学史の基礎的な知識だけしか理解していないもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）下記①②③について触れているもののやや不十分な点があるもの。
（S）①日本文学史の基礎的な知識と②作品成立の背景、さらに③作品の鑑賞にまで言及しているもの

課題に対するフィードバックの方法

テスト、レポートの返却、講評は次回に行う。

その他

とくに受講生の制限はしないが、国語の教育免許状を取得したい者は必ず受講すること。

科目名	日本文学史概説Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	下西　忠
副　題							

ナンバリング	G 2-04-153	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要
中世後期文学（室町時代）と近代文学（明治時代）までの日本文学史を概説する。文学史の知識だけではなく、可能な限り作品の一部でもとりあげてその作品を鑑賞したい。作品の成立背景なども注意しながらその作品の文芸的価値を考えてみたい。

授業の到達目標
日本の文学のなかで、中世後期文学（室町時代）ら明治時代まで文学の歴史を学ぶとともに、その時代の日本文学の特質を理解する。

授業計画
1．勅撰集の終焉とその時代の和歌
2．御伽草子の世界
3．近世（江戸時代）文学の概観、江戸時代の和歌
4．貞門俳諧と談林俳諧
5．芭蕉の世界
6．与謝蕪村・小林一茶、狂歌と川柳
7．仮名草子、浮世草子など
8．近松門左衛門の世界
9．読本（上田秋成の世界）、洒落本・人情本など
10．明治初期の文学と文学改良運動
11．浪漫古典主義文学
12．自然主義文学の位置づけと前期自然主義文学
13．後期自然主義文学
14．与謝野晶子の世界
15．総括文学史の意義

準備学習（予習・復習）・時間
作品が成立した時代の予備知識を得ること（40 分）、作品の成立や作者のことを様な情報で得ておくこと。

テキスト
教員が作成した教材を配布する。

参考書・参考資料等
1、日本文学入門（小峰書店）2、日本文学全史（至文堂）

学生に対する評価
テスト（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）日本文学史の基礎的な知識だけしか理解していないもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）下記①②③について触れているもののやや不十分な点があるもの。
（S）①日本文学史の基礎的な知識と②作品成立の背景、さらに③作品の鑑賞にまで言及しているもの

課題に対するフィードバックの方法
テスト、レポートの返却、講評は次回に行う。

その他
前期と同様、受講生についての制限はないが、国語の教育免許状を取得したい者は必ず受講すること。

科目名	日本文学Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副　題							

ナンバリング	G 1-04-154	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要
日本文学とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を理解する。主に上代・中古文学を取り上げる。

授業の到達目標
日本文学（上代・中古文学）の生成基盤と特徴を理解する。

授業計画
1．ガイダンス
2．文学のかたち
3．文学と思想
4．文学と四季
5．文学と地理
6．万葉集の世界
7．王朝和歌の世界
8．紀貫之
9．清少納言と紫式部
10．源氏物語の誕生
11．「あはれ」と「をかし」
12．日記文学の誕生
13．後宮記録と女房たち
14．平安後期物語の世界
15．歴史物語と説話集

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト
教員が用意する。

参考書・参考資料等
数研出版『クリアカラー国語便覧』、學燈社『古典文学基礎知識必携』

学生に対する評価
毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）上代・中古文学の作品を覚えている。
（B）他文献を参考にしながら上代・中古文学の特徴を述べることができる。
（A）上代・中古文学の生成基盤と特徴を理解している。
（S）上代・中古文学への理解から、日本文学の魅力について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回のリアクションペーパーに、次回講義の冒頭で答え、学びの連続性を確保する。

その他
私語厳禁。講義時の疑問等についてはリアクションペーパーを活用して欲しい。3 分の 1（5 回）以上欠席した場合、評価しない。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副　題							

ナンバリング	G 1-04-155	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要
日本文学とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴について理解する。主に中世・近世文学を取り上げる。

授業の到達目標
日本文学（中世・近世文学）の生成基盤と特徴を理解することができる。

授業計画
1．中世の歌壇と歌論
2．中世和歌の世界
3．「幽玄」
4．史論と歴史物語
5．軍記物語と説話
6．「無常」
7．兼好と頓阿
8．文学の継承
9．中世の芸能
10．キリシタン文学と宣教師
11．町人の文学
12．江戸の詩歌
13．松尾芭蕉
14．近世の芸能
15．国学

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト
教員が用意する。

参考書・参考資料等
数研出版『クリアカラー国語便覧』

学生に対する評価
毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）中世・近世文学の作品を覚えている。
（B）他文献を参考にしながら中世・近世文学の特徴を述べることができる。
（A）中世・近世文学の生成基盤と特徴を理解している。
（S）中世・近世文学への理解から、日本文学の魅力について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回のリアクションペーパーに、次回講義冒頭で答え、学びの連続性を確保する。

その他
私語厳禁。講義時の疑問等についてはリアクションペーパーを活用して欲しい。3 分の 1（5 回）以上欠席した場合、評価しない。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学概論Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副　題							

ナンバリング	G 3-04-156	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要
前近代日本文学の中心は和歌であった。唐歌（漢詩）に対しての大和歌である和歌は、三十一音の中に様々な世界が凝縮されている。そうした和歌文学のアンソロジーとでも言うべき『百人一首』は、カルタなどでも親しまれており、「和歌とはどのようなものか」ということを学ぶにはふさわしい題材である。講義では『百人一首』を数種ずつとりあげ、その表現や技法、詠作時の状況などを検討し、日本文学における韻文の世界を理解する。

授業の到達目標
『百人一首』を通して日本文学を知り、特に韻文の特徴を説明できるようになる。

授業計画
1．ガイダンス
2．『百人一首』の世界－編纂の経緯－
3．1「秋の田の」～ 8「わが庵は」
4．9「花の色は」～ 16「立ち別れ」
5．17「ちはやぶる」～ 24「このたびは」
6．25「名にし負はば」～ 32「山川に」
7．33「ひさかたの」～ 40「忍ぶれど」
8．41「恋すてふ」～ 48「風をいたみ」
9．49「御垣守」～ 56「あらざらむ」
10．57「めぐり逢ひて」～ 64「朝ぼらけ」
11．65「恨みわび」～ 72「音に聞く」
12．73「高砂の」～ 80「ながからむ」
13．81「ほととぎす」～ 88「難波江の」
14．89「玉の緒よ」～ 96「花さそふ」
15．97「来ぬ人を」～ 100「ももしきや」

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として次回の和歌について調べ（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト
教員が用意する。

参考書・参考資料等
ビギナーズ・クラシック日本の古典『百人一首』（角川ソフィア文庫）

学生に対する評価
毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）『百人一首』のそれぞれの和歌について理解している。
（B）『百人一首』のそれぞれの和歌について理解し、配列についても論じることができる。
（A）『百人一首』の成立について、論じることができる。
（S）『百人一首』を通して韻文について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回のリアクションペーパーに、次回講義冒頭で答え、学びの連続性を確保する。

その他
私語厳禁。講義時の疑問等についてはリアクションペーパーを活用して欲しい。3 分の 1（5 回）以上欠席した場合、評価しない。積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文学概論Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	浜 畑 圭 吾
副　題							

ナンバリング	G 3-04-157	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

兼好法師作『徒然草』は中世を代表する散文であるが､近世､これを模した作品が多く作られた。同じ随筆とされる『枕草子』や『方丈記』とは対照的である。後世､散文の型のひとつともなった『徒然草』の魅力を探り、日本文学の散文の特徴について理解する。

授業の到達目標

『徒然草』を通して日本文学の、特に散文の特徴を説明できるようになる。

授業計画

1．ガイダンス―講義の進め方､『徒然草』概論―
2．序段～第１段
3．第２段～第６段
4．第７段～第９段
5．第 10 段～第 12 段
6．第 13 段～第 15 段
7．第 16 段～ 18 段
8．第 19 段
9．第 20 段～第 23 段
10．第 24 段～第 26 段
11．第 27 段～第 30 段
12．第 31 段～第 36 段
13．第 37 段～第 40 段
14．第 41 段～第 43 段
15．第 44 段～第 46 段

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲について調べ（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

三木紀人『徒然草』（講談社学術文庫）

学生に対する評価

毎回のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『徒然草』の各話を理解している。
（B）『徒然草』の各話について理解し、その特徴を論じることができる。
（A）『徒然草』の魅力を理解し、後世への影響を論じることができる。
（S）『徒然草』の魅力を理解し、日本文学の散文の特徴について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーに、次回講義冒頭で答え、学びの連続性を確保する。

その他

私語厳禁｡わからならないことがあればリアクションペーパーを活用して欲しい｡３分の１（５回）以上欠席した場合、評価しない。積極的な姿勢を望む。

科目名	漢文学概論Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	南　　昌 宏
副　題							

ナンバリング	G 2-04-158	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

志怪・伝奇小説の流れを汲む『聊斎志異』を読む。和訳を参照しながら、句読点の付いた漢文を訓読する練習をする。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。登場人物の行動・心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

授業の到達目標

漢文で書かれた散文作品を読み、国語教員としての能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢文の文体・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用方法・説明する力など。

授業計画

1．ガイダンス
2．龍（１）「北直界有」以下を読む
3．龍（２）「房生与友人」以下を読む
4．龍（３）「章丘小相公荘」以下を読む
5．龍（４）「袁宣四言」以下を読む
6．林四娘（１）「青州道」以下を読む
7．林四娘（２）「公評詰之」以下を読む
8．林四娘（３）「再強之」以下を読む
9．林四娘（４）「家人竊聴之」以下を読む
10．林四娘（５）「意緒風流」以下を読む
11．林四娘（６）「索筆搆成」以下を読む
12．江中（全）を読む
13．魯公女（１）「招遠張于旦」以下を読む
14．魯公女（２）「今近在咫尺」以下を読む
15．魯公女（３）「如誠心愛妾」以下を読む

準備学習（予習・復習）・時間

テキストの該当箇所を訓読できるように予習する（60 分）。
文章の背景にある歴史や文化について調べる（30 分）。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価

毎回、小テストを実施する。小テストの点数を 100 点満点に換算したものと、期末試験とで、得点の高い方を評点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢文法に基づいて、文章の分析ができる。
（B）漢文法に基づいて、返り点を付けることができる。
（A）漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
（S）漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○小テストについては、次の講義で解説をする。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。
小テストは、回数を経るごとに配点比率を高くする。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	漢文学概論Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	南　　昌 宏
副　題							

ナンバリング	G 2-04-159	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

『唐詩選』を読み、近体詩の特徴を知る。注釈を読むことにより、訓読・読解・鑑賞の訓練をする。旧漢字の読み書きに慣れる。漢文法に習熟する。漢文の文体を理解する。作者の行動や心情を理解する。あわせて、中国古典に関する様々な知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。

授業の到達目標

漢詩を読み、国語教員としての能力を身に付けることを目標とする。具体的には以下のとおり。漢字の読み書き・漢文法・漢詩の特徴・内容の理解・漢文学の基礎知識・自習用具の使用方法・説明する力など。

授業計画

1．漢詩の基本
2．「寄綦毋三」（１）「新加大邑綬仍黄」を読む
3．「寄綦毋三」（２）「近与単車去洛陽」を読む
4．「寄綦毋三」（３）「顧眄一過丞相府」を読む
5．「寄綦毋三」（４）「風流三接令公香」を読む
6．「寄綦毋三」（５）「南川粳稲花侵県」を読む
7．「寄綦毋三」（６）「西嶺雲霞色満堂」を読む
8．「寄綦毋三」（７）「共道進賢蒙上賞」を読む
9．「寄綦毋三」（８）「看君幾歳作臺郎」を読む
10．「送李回」（１）「知君官属大司農」を読む
11．「送李回」（２）「詔幸驪山職事雄」を読む
12．「送李回」（３）「歳発金銭供御府」を読む
13．「送李回」（４）「昼看仙液注離宮」を読む
14．「送李回」（５）「千巌曙雪旌門上、十月寒花輦路中」を読む
15．「送李回」（６）「不睹声明与文物，自傷流滞去関東」を読む

準備学習（予習・復習）・時間

テキストの該当箇所を訓読できるように予習する（60 分）。
文章の背景にある歴史や文化について調べる（30 分）。

テキスト

コピーを配布する。

参考書・参考資料等

携帯用の漢和辞典として『新字源』（角川書店）、あるいは『漢語林』（大修館書店）を使用するのが望ましい。その他、『大漢和辞典』など。

学生に対する評価

毎回、小テストを実施する。小テストの点数を 100 点満点に換算したものと、期末試験とで、得点の高い方を評点とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢詩の規範を理解し、漢文法に基づいて、文章を分析することができる。
（B）漢文法に基づいて、適切な訓点を付けることができる。
（A）漢文を逐語訳することができる。
（S）漢語の微妙な語気を感じ取ることができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○小テストについては、次の講義で解説をする。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。
小テストは、回数を経るごとに配点比率を高くする。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	国語学講義Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	上 田 恭 寿
副　題							

ナンバリング	G 3-04-160	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

これまでの物語構造の研究を踏まえて世界構造としての物語構造を設定し、それに基づいて語りとしての小説テクスト生成機構を導き出す。そして、その機構に沿って物語（小説）テクストを分類、また、いくつかの作品を分析、そこから日本語小説テクストに見られる特性を抽出する。

授業の到達目標

従来提示されている物語構造を批判的に検証、主体的に物語構造を構築、そして、構築された物語構造の見地から、小説テクストの分析を実践できる論理性を身に着ける。

授業計画

1．物語テクストと日常会話テクスト
2．これまでの物語構造モデル研究
3．複数の世界構造としての小説構造
4．志賀直哉、『小僧の神様』／芥川龍之介、『羅生門』の構造分析
5．村上春樹、『風の歌を聴け』／ドラマ『古畑任三郎』の構造分析
6．『和泉式部日記』の構造と物語性
7．語りとしての物語（小説）テクストの生成機構
8．物語（小説）テクストの分類（１）
9．物語（小説）テクストの分類（２）
10．藤沢周平作品テクストに見られる日本語小説の特性
11．北原亞以子作品テクストに見られる日本語小説の特性
12．宮部みゆき作品テクストに見られる日本語小説の特性
13．連接構文とは
14．日本語小説における時制
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業で行った物語構造やテクスト分析の要点を整理し、キーワードを覚える（30 分）。

テキスト

なし。都度、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

ジェラルド・プリンス『物語論辞典』、松柏社、1991　石原千秋他『読むための理論』、世織書房、1991　山岡實『「語り」の記号論』、2001

学生に対する評価

期中でのテクスト分析課題（40%）、および、期末のレポート（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）従来の語り論の理解。
（B）小説における世界構造と世界構造に立った小説テクストの産出機構の理解。
（A）小説テクストの産出機構を用いた小説作品のテクスト分析。
（S）日本語小説テクストの特性の抽出。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後に質問や意見を提出してもらい、次の授業のはじめにそれに対するコメントをフィードバックする。テクスト分析課題とレポートについてコメントをつけて返却する。

その他

授業の都合により、一部の変更があり得る。

科目名	国語学講義Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	上田恭寿
副題							

ナンバリング	G 3-04-161	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

日本語の物語（小説）テクストに見られる特質と日本語や他の文学ジャンル、建築や絵画等、日本文化に見られる特質との共通点を抽出、そこから日本語の小説、日本文化の特質について考察する。

授業の到達目標

日本語小説テクストの特質、およびその背景としての日本文化について理解を深める。

授業計画

1．日本語の物語（小説）テクストの特質
2．日本語の特質
3．日本文学の他のジャンルに見られる特質
4．日本の建築、庭園、都市つくりに見られる特質
5．日本の身体表現、音楽、絵画に見られる文化的特質
6．「共通感覚」（中村雄二郎）
7．俳句における共通感覚の表現
8．藤沢周平作品における共通感覚の表現
9．『雪国』のテクストと「純粋経験」（西田幾多郎）
10.「こと」と「もの」と「ことば」
11. 日本文化における部分志向性と空間認識様式
12. 声の文化と文字の文化
13. 日本文学、日本文化における声の文化の特質
14. 明治期以後の日本語の言文一致体
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

毎回の授業で行った日本文化についての要点の整理及びキーワードについて覚える（30 分）。

テキスト

なし。都度、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

加藤周一『日本文化における時間と空間』、岩波書店、2007　木村敏『時間と自己』、中公新書、2004　オング『声の文化と文字の文化』、藤原書店、1991

学生に対する評価

期中でのテクスト制作の課題（40%）、および、期末のレポート（60%）による。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本文化についてのこれまでの議論の理解と批判。
（B）俳句制作を通した日本語と英語の文芸の対照。
（A）日本文化の特質の抽出。
（S）日本文化の特質の背景の考察。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の最後に質問や意見を提出してもら､次の授業のはじめにコメントとともにフィードバック。テクスト制作の課題期末のレポートにコメントをつけて返却。

その他

授業の進行の都合により一部の変更があり得る。

科目名	日本文化特殊講義Ａ	学期	後期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副題	『和泉式部日記』を読む						

ナンバリング	G 3-04-162	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

平安時代に成立した女流日記文学『和泉式部日記』を読む。紫式部によって歌人として評価された和泉式部は多くの秀歌を残しているが、藤原道長からは恋多きその姿勢を「浮かれ女」(『和泉式部集』)と評価されている。恋人為尊親王の死後、その弟敦道親王から和泉式部へ便りが届くところから始まる同書は、そうした彼女の恋の物語である。しかし一方で「暗きより暗き道にぞ入りぬべき遥かに照らせ山の端の月」と、法華経に基づいて自身の煩悩を見つめる歌も残したとされ、奔放なだけの女性ではなかった。同書の読解を通して、和泉式部の人物像、和泉式部の和歌の特徴、そして平安時代の古典常識などを学ぶ。

授業の到達目標

和泉式部の人物像を理解し、同書の内容、式部の和歌の特徴、平安時代の古典常識などを説明することが出来る。

授業計画

1．ガイダンス―和泉式部の人物像―
2．『和泉式部日記』読解①―第 1 段～第 2 段―
3．『和泉式部日記』読解②―第 3 段～第 5 段―
4．『和泉式部日記』読解③―第 6 段～第 10 段―
5．『和泉式部日記』読解④―第 11 段～第 14 段―
6．『和泉式部日記』読解⑤―第 15 段～第 16 段―
7．『和泉式部日記』読解⑥―第 17 段～第 18 段―
8．『和泉式部日記』読解⑦―第 19 段～第 21 段―
9．『和泉式部日記』読解⑧―第 22 段～第 25 段―
10.『和泉式部日記』読解⑨―第 26 段～第 27 段―
11.『和泉式部日記』読解⑩―第 28 段～第 30 段―
12.『和泉式部日記』読解⑪―第 31 段～第 32 段―
13.『和泉式部日記』読解⑫―第 33 段～第 34 段―
14.『和泉式部日記』読解⑬―第 35 段―
15.『和泉式部日記』の時代

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

川村裕子編『ビギナーズ・クラシック日本の古典　和泉式部日記』、角川ソフィア文庫、角川書店、2007 年（書店で購入）

参考書・参考資料等

田中登他編『平安文学研究ハンドブック』、和泉書院、2004 年

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパーと受講態度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『和泉式部日記』の内容を理解している。
（B）物語における和歌の機能について理解している。
（A）『和泉式部日記』の諸問題について、意見を述べることができる。
（S）『和泉式部日記』の諸問題について、新見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーに、次回講義冒頭で答え、学びの連続性を確保する。

その他

大学院開講科目「仏教学講読」と合同科目。国語の教員免許取得を目指す学生は受講することが望ましい。講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	日本文化特殊講義Ｂ	学期	前期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副題	『感身学正記』を読む						

ナンバリング	G 3-12-163	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

本講義では、鎌倉時代後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』下巻を読解する。これを通して、同時期の叡尊の宗教活動のみならず、叡尊と公武両政権との関係について学ぶ。とくに、割り当てられた担当箇所について、関係する史料・論文などを調査し、資料を作成することで研究能力を練磨する。さらに、討論を通して、文献の理解度や論理的な思考力を高める。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

鎌倉後期の叡尊の宗教活動を、政治史との関係から理解できるようになる。
鎌倉後期の院・天皇、北条氏得宗の宗教政策を通して、鎌倉後期の時代相を考える視座をつちかう。
仏教史料の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

1．『感身学正記』の概要、講義の進め方、当番の割り振り、文献探索の方法
2．『感身学正記』を読む（1）（文永 8 年条の前半）
3．『感身学正記』を読む（2）（文永 8 年条の後半）
4．『感身学正記』を読む（3）（文永 9 年条）
5．『感身学正記』を読む（4）（文永 10 年条・文永 11 年条）
6．『感身学正記』を読む（5）（文永 12 年条の前部）
7．高野山霊宝館の見学
8．『感身学正記』を読む（6）（文永 12 年条の中部）
9．『感身学正記』を読む（7）（文永 12 年条の後部）
10.『感身学正記』を読む（8）（建治元年条）
11.『感身学正記』を読む（9）（建治 2 年条の前半）
12.『感身学正記』を読む（10）（建治 2 年条の後半）
13.『感身学正記』を読む（11）（建治 3 年条の前半）
14.『感身学正記』を読む（12）（建治 3 年条の後半）
15. 高野山西南院の調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した資料を作成できるように努力すること（150 分）
報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（30 分）

テキスト

①『感身学正記』本文のプリント
※第 1 回の講義で配布する。
②細川涼一『感身学正記』第 2 巻（平凡社東洋文庫、2020 年）
※書店で購入。必ず購入して講義に持参すること。
③受講生が作製する報告資料
※成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること。

参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』(吉川弘文館、1959 年)
②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誡聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全 4 冊（西大寺、1990 年）
③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』(奈良国立博物館、2001 年)
④松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』(吉川弘文館、2004 年)

学生に対する評価

レポート（50%）、講義中での報告（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
（B）『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
（A）『感身学正記』と叡尊の生涯について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
（S）『感身学正記』および叡尊の生涯について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点後に講評する。

その他

本講義の内容は多岐にわたる上、大学院生も履修するので、水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。受講生全員に報告義務を課すので、参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。
受講者は、企画科目の「歴史学」や「古文書解読」などを履修していなければ､講義内容の理解や資料作成がおぼつかないので、同科目を前年度までに履修しておくことが望ましい。

科目名	日本文化特殊講義Ｃ	学期	後期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副題	鎌倉後期の王権と真言密教						

ナンバリング	G 3-12-164	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

本講義では、鎌倉後期の王権と真言密教の関係について、政治史と仏教史の両面から学び、天皇制の宗教的側面を捉える視座を構築する。とくに、90 年代以降の研究成果を継承しつつ、後宇多院・後醍醐天皇について新たな研究を行なった担当者の研究姿勢を通して、実証的な研究手法を会得する。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

鎌倉後期の真言密教史を、政治史との関係から理解できるようになる。
中世における院・天皇の宗教的側面を通して、天皇制の歴史的展開を考える視座をつちかう。
密教聖教の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

1．網野善彦「異形の王権」をめぐって（1）－その史学史的背景－
2．網野善彦「異形の王権」をめぐって（2）－その影響と問題点－
3．鎌倉後期の政局（1）－両統分立と鎌倉幕府－
4．鎌倉後期の政局（2）－両統の対立と「一代の主」－
5．鎌倉後期の政局（3）－後醍醐天皇の登場と鎌倉幕府滅亡－
6．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（1）－後宇多院の宗教構想と性円法親王－
7．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（2）－大覚寺門跡の発展と性円法親王－
8．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（3）－後醍醐天皇と大覚寺門跡－
9．後醍醐天皇の寺社重宝蒐集（1）－討幕計画と重宝蒐集－
10. 後醍醐天皇の寺社重宝蒐集（2）－重宝蒐集と権門寺院－
11. 後醍醐天皇の如意宝珠造作（1）－文観の登場－
12. 後醍醐天皇の如意宝珠造作（2）－金輪聖王と如意宝珠－
13. 鎌倉後期宮廷の密教儀礼と王家重宝（1）－清浄光寺に伝わる後醍醐天皇像の意味－
14. 鎌倉後期宮廷の密教儀礼と王家重宝（2）－後醍醐天皇と即位灌頂－
15. 高野山大学図書館における貴重書（密教聖教）の閲覧

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分）
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①網野善彦「異形の王権」(『網野善彦著作集』6、岩波書店、2007 年)
②『網野善彦著作集』5　蒙古襲来 (岩波書店、2008 年)
③村井章介編『日本の時代史』10 南北朝の動乱 (吉川弘文館、2003 年)
④阿部泰郎「宝珠と王権」(『岩波講座東洋思想』16 日本思想 2、岩波書店、1989 年)

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパーと受講態度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）鎌倉後期の王権と真言密教に関する基礎的事項を理解している。
（B）鎌倉後期の王権と真言密教について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
（A）鎌倉後期の王権と真言密教について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
（S）『本講義の内容を踏まえて、中世の真言密教について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点後に講評する。

その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。登録にあたっては十分に注意すること。
受講者は、企画科目の「歴史学」などを履修していなければ、講義内容の理解がおぼつかないので、同科目を前年度までに履修しておくことが望ましい。

科目名	中国文化講読演習Ａ	学期	後期	単位数	2	担当者	野田　悟
副　題	漢字学の原点『説文解字』を読む						

ナンバリング	Ｇ 3-20-165	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

〔漢〕許慎『説文解字』は文字を系統的に分析し、字源の考察をした最古の文字学の専門書である。特に許慎『説文解字』とその背景、またその部首の基礎的知識の修得。『説文解字』を講読することにより、中国哲学を理解するきっかけにし、空海『篆隷万象名義』や顧野王『玉篇』の漢字思想に辿りつくことを目的とする。・『説文解字』以前の古代文字と触れることにより、許慎の間違いを指摘する。

授業の到達目標

１、『説文解字』を学ぶことにより古代文字の基礎知識を修得し、その内容（漢文）の講読力を向上させる。２、東洋文化の根幹である漢字に興味を持ち、中国文化へ目を向ける第一歩とすることを到達目標とする。３、説文の研究において、異体字及び漢字の正・通・俗を理解する。４、表意文字としての漢字理解を通して、密教研究につなげることを到達目標とする。

授業計画

1．表意文字と表音文字及び漢字の特徴
2．『説文解字』の背景とその関連書①〔許慎の人物像を探る〕
3．『説文解字』の背景とその関連書②（二徐本や『段注』との比較により、原本を探る）
4．部首と重文について
5．「六書」について①（象形・指事・会意）
6．「六書」について②〔形声・転注・仮借〕
7．説文部首第一巻の部目を読む①（一～示）
8．説文部首第一巻の部目を読む②（三～玉）
9．説文部首第一巻の部目を読む③（珏～士）
10．説文部首第一巻の部目を読む④（丨～艸）
11．説文部首第一巻の部目を読む⑤（蓐～茻）
12．説文部首第二巻の部目を読む①（小～半）
13．説文部首第二巻の部目を読む②（牛～口）
14．説文部首第二巻の部目を読む③（凵～走）
15．先行研究の問題点を列挙し、甲骨文・金文とを比較する。

準備学習（予習・復習）・時間

担当する部目文字について調べて纏め、発表の準備をする。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。（120 分）

テキスト

・〔漢〕許慎『説文解字』中華書局、中国書店または江蘇古籍出版社（個々に東方書店にて購入）http://www.toho-shoten.co.jp/

参考書・参考資料等

・『字通』（平凡社）・『説文新義』（平凡社）・『漢字学』（東海大学出版会）・『訓読説文解字注』（東海大学出版会）・『王福庵説文部首目』（西泠印社）・その他必要に応じてプリントを配る。

学生に対する評価

・基本的に期末テスト（60%）＋それぞれの発表及び提出物（40%）での評価をする。（素点）・毎回の発表を 10 点満点で計算する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）それぞれの漢字を『説文解字』により、自発的に調べ上げることができる。
（Ｂ）それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、原文の内容を理解する。
（Ａ）それぞれの『説文解字』における漢字を文献等で調査し、自分の研究と先人の見識の違いを発表できる。
（Ｓ）毛筆にて、課題の小篆作品を高いレベルで作り上げることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・指定された時間に、教壇にて発表する。講義１５回目に定期試験の総評を行い、過去に問題のあった箇所を再度討論する。

その他

・「六書」及び本文の内容に入ったら、毎回個々に課題が課され、次週に発表をして頂く形式をとる。・受講者の人数等により、進度が大きく変わることが予想される。・『新字源』（角川書店）、『新撰漢和辞典』（小学館）、『全訳漢辞海』（三省堂）、『漢字源』（学研）、『漢語林』、『漢語新辞典』（大修館）のうち、どれか一冊を必ず持参すること。版は問わないが、できるだけ新しいものがよい。（電子辞典を持してもかまわないが、必ず紙媒体の辞典も持参すること）。※全体的な能力や達成度を見て、変更あり。

科目名	中国文化特殊講義	学期	前期	単位数	2	担当者	野田　悟
副　題							

ナンバリング	Ｇ 3-06-166	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

１、王羲之書法と空海書道の形臨と背臨を通じての比較研究。２、王羲之または空海の書簡風な作品を創作する。３、書道実技を通して、文房四宝の歴史的重要性を理解する。４、書道実技を通して、王羲之・空海の書が、歴史的に学ばれてきたかを考察する。

授業の到達目標

１、書道実技による中国古代思想の理解２、臨摹による空海の入唐時の王羲之書法の受容３、王羲之書法を学び、創作を通しての空海書道の展開を体現

授業計画

1．臨摹：「集字聖教序」①
2．臨摹：「集字聖教序」②
3．臨摹：「集字聖教序」③
4．臨摹：「集字聖教序」④
5．臨摹：「集字聖教序」⑤
6．臨摹：「聾瞽指歸」①
7．臨摹：「聾瞽指歸」②
8．臨摹：「聾瞽指歸」③
9．臨摹：「聾瞽指歸」④
10．臨摹：「聾瞽指歸」⑤
11．「集字聖教序」と「聾瞽指歸」の比較研究
12．「聾瞽指歸」の背臨
13．「聾瞽指歸」書風にて創作①〔書風の分析〕
14．「聾瞽指歸」書風にて創作②（章法の分析）
15．「聾瞽指歸」書風にて創作③〔長落款の分析〕

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、それまで学んだことを踏まえて反復練習し、次の授業に備える。（120 分以上）

テキスト

・中国法書選：16 東晋王羲之「集字聖教序」、39 唐李邕「李氏訓碑」二玄社。＊書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『もっと知りたい書聖王羲之の世界』東京美術・『空海』中央公論社、『光明皇后空海最澄集』二玄社、弘法大師書跡大成「空海の書」第一巻。その他必要な場合プリントを配布する。

学生に対する評価

・基本的に数度提出された作品による評価（素点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）臨摹作品ができる。
（Ｂ）臨摹を基盤とした創作作品を創作できる。
（Ａ）臨摹を基盤としたより高い創作作品創作できる。
（Ｓ）長落款を含めた、レベルの高い創作作品ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に関しては毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・漢字Ⅰ、Ⅱ双方の受講修了者に限る。・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。（授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。）・再度受講される方は、相談の上、別の課題を課し指導する。・レベルの高い受講生は、個々に別の要求をする。・創作作品は、２月の学外書道展に出品する。（表装の費用は個人で負担）※全体的な能力や達成度を見て、変更あり。

科目名	日本国憲法	学期	後期	単位数	2	担当者	竹村和也
副　題							

ナンバリング	Ｇ 1-09-167	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

憲法は国の基本的なあり方を定めた法であり、また守るべき理念や価値を定めた法です。本講義では憲法の中の人権規定とそれに関連するほかの法分野について、特に現代社会において問題となっている権利に焦点を当てます。特に、裁判員制度の導入とともに刑事裁判に社会の関心が集まり、またこの数年冤罪問題がクローズアップされているために、捜査・裁判における人権である身体的自由権に焦点を当てる予定です。さらに、財産権との関係で経済的自由権、家族関係における法との関係で平等権も取り扱う予定。

授業の到達目標

憲法の基本的な枠組みと幾つかの権利に関して基本的な理解を得ること、及び批判的な思考ができること。

授業計画

1．イントロダクション（法の体系と憲法の特質及び財産権）
2．財産権と私法①（物権）
3．財産権と私法②（契約）
4．財産権と私法③（消費者契約）
5．財産権と私法④（不法行為）
6．平等権と家族①（家族法）
7．平等権と家族②（家族法）
8．刑事司法の過程と身体的自由権（捜査と憲法上の被疑者の権利）①
9．刑事司法の過程と身体的自由権（捜査と憲法上の被疑者の権利）②
10．刑事司法の過程と身体的自由権（裁判と憲法上の被告人の権利）①
11．刑事司法の過程と身体的自由権（裁判と憲法上の被告人の権利）②
12．国民の司法参加①（陪審制度・参審制度）
13．国民の司法参加②（裁判員制度）
14．犯罪被害者の権利と立憲主義
15．中間評価

準備学習（予習・復習）・時間

授業時に配布する印刷物（テキスト）を熟読すること（所要予定時間は 30 分）

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

竹下賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也『入門法学』（第５版）2018 年。他の参考文献は授業で指示する。

学生に対する評価

定期試験により（80%）授業中のミニッツ・ペーパーや小テスト、授業への積極的な参加により（20%）（昨年度は、学期途中で前半の試験、学期末に後半の試験と、２度の試験を実施している。）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）それなりの努力が読み取れる答案
（Ｂ）内容を概ね理解したと思われる答案
（Ａ）授業で扱ったテーマについて十分な論述がされている、または十分な理解が示されている答案
（Ｓ）授業で扱ったテーマについて十分な論述がなされ、かつ十分な理解が示されているとともに、批判的な検討が行われている場合

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

社会的に注目される新たな法的問題が発生すれば、それを優先的に扱うし、進度により適宜変更の可能性はあるので、あくまで目安。受講者は（あるいは大学生はそもそも）新聞や毎日のニュースに関心を持つことが必要です。授業参加は単位取得の必要条件であり、十分条件ではない。授業に真剣に参加していない学生には別途個別に課題を課す場合がある。

科目名	漢字Ⅱ	学期	通年	単位数	2	担当者	木本滋久
副　題							

ナンバリング	Ｇ 2-06-168	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	2

授業の目的と概要

臨書中心の実技の授業であり、楷書体、行書体、草書体などの書体の表現方法を修得する。臨書作品を授業中に添削し、参考に指導者が目の前で書いて指導する。授業中に筆を執って書くだけでは絶対に上達はしない。自宅でも筆を持つよう心がけて欲しい。個人指導を中心に据えて授業を進める。

授業の到達目標

【前期】前期は書体を楷書体、行書体に限定し、その中から一つの法帖を自分で選択し、実習する。その法帖の形、線の特徴をつかみ、実際に上手に表現できるように努める。
【後期】上記２書体に草書体を加えた書体から法帖を一冊選び、その法帖の形、線などの特徴が、実際に表現できるように努める。

授業計画

【前期】
1．授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2．法帖の臨書
3．法帖の臨書
4．法帖の臨書
5．法帖の臨書
6．法帖の臨書
7．法帖の臨書
8．今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9．法帖の臨書
10．法帖の臨書
11．法帖の臨書
12．法帖の臨書
13．法帖の臨書
14．法帖の臨書
15．後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

【後期】
1．授業の方針、法帖の選び方、どんな授業を展開していくのかを説明した後、各自が法帖を選ぶ。
2．法帖の臨書
3．法帖の臨書
4．法帖の臨書
5．法帖の臨書
6．実法帖の臨書
7．法帖の臨書
8．今まで実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。
9．法帖の臨書
10．法帖の臨書
11．法帖の臨書
12．法帖の臨書
13．講法帖の臨書
14．法帖の臨書
15．後半実習してきた分を提出。書体によって提出枚数が異なる。

準備学習（予習・復習）・時間

自分が選んだ法帖の特徴や筆者について基礎的な知識を予習すること。（計 90 分以上）

テキスト

各自が二玄社あるいは別の法帖から１冊選ぶ。

参考書・参考資料等

二玄社の法帖類

学生に対する評価

２回のレポート（50%）、授業態度（50%）などで評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）臨書している法帖の形と基本的な筆使いが一応できているか
（Ｂ）線がしっかり書けていて半紙にうまくまとまっているか
（Ａ）形や余白につりあいがとれ、生き生きした臨書ができているか
（Ｓ）形というに及ばず、臨書作品に味わいがあるかどうか

課題に対するフィードバックの方法

個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

書道家である教員の指導により、臨書の実技を行う授業である。法帖の見方、法帖の特徴をわかりやすく説明し、指導者が添削しながら上達させることを目的とする。

科目名	かなⅡ	学期	通年	単位数	2	担当者	塩野三恵子
副　題							

ナンバリング	G 2-06-169	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	2

授業の目的と概要

【前期】かな Ⅰ およびそれと同程度のかな経験者を対象に、かなの技術・知識のより上達をめざす。ちらし書きの名品としての古筆「三色紙」を鑑賞し臨書する。
【後期】「三色紙」の中から選択した古筆を繰り返し臨書し、ちらし法を研究し理解する。 さらに古筆をもとに臨書から散書へと発展させ、作品に仕上げる。
かな Ⅰ で取り上げた「高野切第一種」「高野切第二種」「高野切第三種」かな Ⅱ での「三色紙」以外にもさまざまな古筆があることを理解し臨書できるようになる。

授業の到達目標

【前期】かな Ⅰ の基本の上に「三色紙」の書風を理解し用筆や運筆の技術を身につける。
【後期】各自が選んだ古筆を臨書することにより古筆の書風について理解を深め、繰り返し書くことで、各文字の形や用筆運筆法を身に着けていく。連綿の特質を読み取りながら、全体としての散らし書きも理解し表現していく。運筆法・紙面へのおさめ方、空間処理を理解し、自己表現の作品制作力を身につける。

授業計画

【前期】
1．講義目標、概要の解説、用具用材などの説明を聞く。
2．三色紙の解説を聞く。（由来・料紙と体裁・書風・構成）
3．「寸松庵色紙」単体文字、連綿を理解し書く。
4．「寸松庵色紙」1　課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
5．「寸松庵色紙」2　課題短歌の解説及び料紙解説を聞き、内容を理解し臨書する。
6．「寸松庵色紙」3　課題短歌の解説、古筆名由来解説を聞き、内容を理解し臨書する。
7．「寸松庵色紙」4　課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
8．「寸松庵色紙」5　課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
9．「寸松庵色紙」6　これまでの課題提出する。
10.「継色紙」単体文字、連綿の解説を聞き、内容を理解し書く。書
11.「継色紙」1　課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
12.「継色紙」2　課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
13.「継色紙」3　課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
14.「継色紙」4「継色紙」の課題提出
15.「升色紙」1　課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。

【後期】
1．「升色紙」2　課題短歌の文字の解説を聞き、内容を理解し臨書する。
2．「三色紙」の中から各自の古筆を決定し、臨書する。
3．選んだ古筆を臨書する。1・2枚目
4．選んだ古筆を臨書する。3・4枚目
5．選んだ古筆を臨書する。5・6枚目
6．選んだ古筆を臨書する。7・8枚目
7．選んだ古筆を臨書する。9・10枚目
8．選んだ古筆を臨書する。11・12枚目
9．選んだ古筆を臨書する。13・14枚目
10.選んだ古筆を臨書する。15・16枚目
11.課題を提出する。講評する。
12.選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。1枚目
13.選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。2枚目
14.選んだ「三色紙」以外の古筆を臨書する。3枚目
15.1年間のまとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる（120 分）
事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60 分)

テキスト

「日本名筆選 12　寸松庵色紙」 二玄社
「日本名筆選 13　継色紙」 二玄社

参考書・参考資料等

「かな古典の学び方 2　寸松庵色紙・継色紙」二玄社
編者 日比野実 「墨ニュークラッシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社 2010 年発行

学生に対する評価

授業提出課題（70%）
授業への主体的な取り組み姿勢（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な筆使いと形が表現できる。
（B）「ちらし書き」の行の流れがうまく表現できる。
（A）基本的な筆法で、墨の扱いを思実に表現するとともに、「ちらし書き」行の流れも確実に臨書できる。
（S）古筆をもとに自分で高いレベルの「ちらし書き」の制作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。
提出課題は、添削し返却する。

その他

・かな Ⅰ を履修済であること。変体仮名が理解できていること。・書道具一式、古筆臨書用紙は各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）
・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。・遅刻 2 回で欠席 1 回とする。・前期欠席が 5 回になった時点で成績は出ない。・授業中のスマホ使用禁止。・優秀な提出作品は 2 月の高野山大学学外書道展に出品する可能性がある。その場合、表装代は各自の負担とする。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな臨書作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	篆刻	学期	通年	単位数	2	担当者	野 田　悟
副　題							

ナンバリング	G 2-06-170	授業方法	実技	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

・「印従書出」、「印外出印」の篆刻理論を出発点に東洋史における印章の重要性を認識する。・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。前半は書の線条の追及として漢字 Ⅰ で学んだ小篆を復習する。・国内の他大学にはない中国伝統的書学教育を前提とした篆刻指導を行う。・篆刻を学ぶ上で碑学の基本を体現する。

授業の到達目標

1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識及び古代文献に捺印されている印文の解読に興味を持つ。 2、東洋文化における印章の歴史的重要性及び毛筆との関連性の理解。 3、各時代に沿った印章の違いの理解をもっての刻印技術の修得。

授業計画

【前期】
1．ガイダンス印材・工具等の説明、紹介並びに古代印章史の概論
2．古代印章の起源と歴代璽印の変遷
3．毛筆にて篆書の練習①（鄧石如「白氏草堂記」の前半部分）
4．毛筆にて篆書の練習②（鄧石如「白氏草堂記」の続きの部分～終わりまで）
5．毛筆にて篆書の練習③（韓登安の鐵線篆と摹印篆）。
6．刀法と側款の練習①（横・竪・鈎・撇）
7．刀法と側款の練習②（短撇・捺・側・長鈎）
8．刀法と側款の練習③（自身の名前と漢詩を刻す）
9．奏刀の練習①（沖刀・切刀・舞刀の使い分け）
10.奏刀の練習②（各轉折と起筆・收筆）
11.雙鈎填墨による陰陽。理論：印章の誕生から時代別の印文の流れ並びに印式の各名称（殷代から漢代まで）
12.漢印摹刻①〔自身で選択したもの）
13.漢印摹刻②（①以外で自身で選択したもの）
14.漢印創作における印稿練習
15.漢印創作

【後期】
1．前期の復習並びに璽印から篆刻への変遷理論
2．秦印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
3．秦印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
4．秦印創作の為の印稿の練習（自分で印文を考える）
5．秦印創作
6．将軍印①（自分で選択したものを刻す）
7．将軍印②（①以外で自分で選択したものを刻す）
8．将軍印創作の為の印稿練習（自分で印文を考える）
9．将軍印創作
10.肖形印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
11.肖形印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
12.仏像印摹刻①（來楚生作品の中から自分で選択したものを刻す）
13.仏像印摹刻②（來楚生作品の中から①以外で自分で選択したものを刻す）
14.仏像印創作
15.作品合評、予備

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180 分以上）・夏休みの課題として漢印の創作作品を補刀まで済ませ、後期の最初の授業で提出する。

テキスト

・書道講座第 6 巻篆刻（二玄社刊）＊書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宮博物院蔵古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館蔵印選』（上海書画出版社）・蓑毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『書の基本資料 14・篆刻』（中教出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じてプリントを配布。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基自分で摹刻ができる。
（B）各奏刀法を理解し、自分で創作できる。
（A）「尚古思想」を基盤とした高いレベルでの創作ができる。
（S）「尚古思想」を基盤とした高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、長邊款が刻せる。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

その他

・漢字 Ⅰ 履修修了者に限る。・用具、用材は、大阪の書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）
・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1 度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。
・2 度目の受講者は、明清以降の流派印もしくは秦代以前の古璽印等を相談に応じて個別に指導する。
・理解度・達成度により、授業を変更する場合あり。

科目名	篆刻Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	野 田　悟
副　題							

ナンバリング	G 3-06-171	授業方法	実技	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

・「印従書出」、「印外出印」の篆刻理論を出発点に東洋史における印章の重要性を認識する。・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を中心に実践、理論の双方より学ぶ。 前半は書の線条の追及として漢字 Ⅰ で学んだ小篆を復習する。・国内の他大学にはない中国伝統的書学教育を前提とした篆刻指導を行う。・篆刻を学ぶ上で碑学の基本を体現する。

授業の到達目標

1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識及び古代文献に捺印されている印文の解読に興味を持つ。 2、東洋文化における印章の歴史的重要性及び毛筆との関連性の理解。3、各時代に沿った印章の違いの理解をもっての刻印技術の修得

授業計画

1．ガイダンス印材・工具等の説明、紹介並びに古代印章史の概論
2．古代印章の起源と歴代璽印の変遷
3．毛筆にて篆書の練習①（鄧石如「白氏草堂記」の前半部分）
4．毛筆にて篆書の練習②（鄧石如「白氏草堂記」の続きの部分～終わりまで）
5．毛筆にて篆書の練習③（韓登安の鐵線篆と摹印篆）
6．刀法と側款の練習①（横・竪・鈎・撇）
7．刀法と側款の練習②（短撇・捺・側・長鈎）
8．刀法と側款の練習③（自身の名前と漢詩を刻す）
9．奏刀の練習①（沖刀・切刀・舞刀の使い分け）
10.奏刀の練習②（各轉折と起筆・收筆）
11.雙鈎填墨による陰陽の理解。理論：印章の誕生から時代別の印文の流れ並びに印式の各名称（殷代から漢代まで）
12.漢印摹刻①〔自身で選択したもの）
13.漢印摹刻②（①以外で自身で選択したもの）
14.漢印創作における印稿練習
15.　〃

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180 分以上）

テキスト

・書道講座第 6 巻篆刻（二玄社刊）＊書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宮博物院蔵古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館蔵印選』（上海書画出版社）・蓑毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『書の基本資料 14・篆刻』（中教出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じてプリントを配布。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基自分で摹刻ができる。
（B）各奏刀法を理解し、自分で創作できる。
（A）「尚古思想」を基盤とした高いレベルでの創作ができる。
（S）「尚古思想」を基盤とした高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、長邊款が刻せる。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

その他

・漢字 Ⅰ 履修修了者に限る。・用具、用材は、大阪の書道用品店にて各自で購入のこと。（最初の授業で説明する。）・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1 度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。・2 度目の受講者は、明清以降の流派印もしくは秦代以前の古璽印等を相談に応じて個別に指導する。・理解度・達成度により、授業を変更する場合あり。

科目名	篆刻Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	野 田　悟
副　題							

ナンバリング	G 3-06-172	授業方法	実技	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

・篆刻の基礎と言われる漢代前後の印章の摸刻を基盤に、秦印や三国時代の将軍印を摹刻し、その印風創作による実践、理論の双方より学ぶ。・肖形印ほか仏像印を刻すことにより、篆刻における線条を理解し「書画同源」の原点を探る。・国内の他大学にはない中国伝統的印学方法を根底とした学びを提供し、向上を図る。・2 回目の受講生は更にレベルの高い古璽印または明清以降の流派印を相談の上、別課題にて学ぶ。

授業の到達目標

1、古代文字（小篆および摹印篆）の基本的認識。 2、東洋文化における印章の重要性及び関連性の理解。 3、各時代に沿った印章の違いの理解をもっての刻印技術の修得。 4、肖形印を刻すことにより篆刻の楽しみを再確認する。

授業計画

1．前期の復習と双稿填墨・印稿の練習
2．秦印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
3．秦印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
4．秦印創作の為の印稿の練習（自分で印文を考える）
5．秦印創作
6．将軍印①（自分で選択したものを刻す）
7．将軍印②（①以外で自分で選択したものを刻す）
8．将軍印創作の為の印稿練習（自分で印文を考える）
9．将軍印創作
10.肖形印摹刻①（自分で選択したものを刻す）
11.肖形印摹刻②（①以外で自分で選択したものを刻す）
12.仏像印摹刻①（來楚生作品の中から自分で選択したものを刻す）
13.仏像印摹刻②（來楚生作品の中から①以外で自分で選択したものを刻す）
14.仏像印創作
15.作品合評、予備

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180 分以上）

テキスト

・書道講座第 6 巻篆刻（二玄社刊）＊書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『説文解字』（中華書局）・『印学史』（西泠印社）・『故宮博物院蔵古璽印選』（文物出版社）・『上海博物館蔵印選』（上海書画出版社）・蓑毛政雄編『必携篆書印譜字典』（柏美術出版）・『書の基本資料 14・篆刻』（中教出版）・『図解篆刻入門』（木耳社）・その他必要に応じてプリントを配布。

学生に対する評価

・基本的に提出作品による評価。（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自分で摹刻ができる。
（B）摹刻を基に自分で創作できる。
（A）「陰陽思想」、「尚古思想」を原点とした高いレベルでの創作ができる。
（S）「陰陽思想」、「尚古思想」を原点とした高いレベルでの創作ができ、色々な書体で、邊款が刻せる。

課題に対するフィードバックの方法

・事前学修として、それまで学んだことを踏まえて作品を作ってくる（180 分以上）・毎回の課題を相互批評し合い、不足部分の補刀をもって完成に近づける。

その他

・篆刻 Ⅰ を履修した者に限る。・進度により授業の順番を入れ替えたり、省略する場合あり。・実技の授業なので、毎回課題が課される。・1 度欠席したら、学生自身かなりの損失を被るのでその辺を心得て臨むこと。・2 度目の受講者は、秦代以前の古璽や明清以降の流派印、そのほか肖形印等を更に高いレベルで個別に指導する。・2 月に学外書道展に作品出品を課す。（表装の費用は自己負担）

科目名	条幅制作Ａ（漢字）	学期	通年	単位数	2	担当者	木 本 滋 久
副　題							

ナンバリング	Ｇ 3-06-173	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	2

授業の目的と概要

【前期】○半切に漢字４～14 文字の言葉を楷書体、行書体で創作する。(散書も可)○半切(正方形)に漢詩、漢語を篆書体、隷書体、又は行書体で創作する。(散書も可) ○半切に漢字・仮名まじり文を創作する。課題は授業前に提示。。
【後期】２尺×８尺（52cm ×約 228cm）の画仙紙に自分で詩や文章を選び創作する漢詩を選んだ人は、まず字書ですべての文字を調べ一覧表を作成する。それを参考にして字のくづし方を覚える。漢字仮名まじり文を書こうとする人は、全体の構成や空間のとり方など工夫し、漢字と仮名の調和も考えて製作をすすめる。

授業の到達目標

臨書でつちかった基礎の上に立って、個性豊かでフレッシュな作品を創作する。

授業計画

【前期】
1．この授業の内容、授業の進め方、必要な書道用材の説明
2．半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。①
3．半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。②
4．半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。③
5．半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。④
6．半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。⑤
7．半切の大きさで、課題を楷書行書体で創作する。⑥
8．提出後、全体で互評会を実施する
9．①篆書体、隷書体、行書体で課題を半切（正方形）で創作
10．②漢字仮名まじり文の創作
11．上記①、②のどちらかひとつを選び実習する。
12．同上
13．同上
14．同上
15．同上

【後期】
1．２尺×８尺（たて 228cm ×よこ 52cm）の紙面に、作品を制作
2．同上　※書体、題材も自由
3．同上　※個性と創作意欲にあふれた作品を制作する。
4．同上　※題材、書体は途中変更も可能
5．同上　※試行錯誤をくりかえしながら少しずつ作品が向上させる。
6．同上　※早く仕上がった人は、小品を制作する。(書体・題材を変えたり)（漢字仮名まじり文でも可）
7．同上
8．同上
9．同上
10．同上
11．同上
12．同上
13．同上
14．同上
15．押印して提出後、互評会を実施する。

準備学習（予習・復習）・時間

制作の構想をしっかりと考え、書体形式を決めて繰り返し練習し、どこをどう工夫すれば良いかを考えること。(計 90 分以上)

テキスト

テキストはない。中国や日本の優れた作品を参考にし、教員のアドバイスを受けて創作する。

参考書・参考資料等

字書や二玄社の法帖類、各展覧会の作品集など。

学生に対する評価

提出作品（50%）、授業の取組（50%）を総合的に評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）規定の大きさにそれぞれの書体で誤字なく書けている。
（B）文字の大小や墨の潤滑に工夫している。
（A）作品に一貫性があり筆力が充実している。
（S）自目分なりに工夫を加え、練度の高い作品に仕上がっている。

課題に対するフィードバックの方法

個人指導を中心に据えて授業を進めるため添削時にフィードバックする。

その他

２尺×８尺の作品は評価の後、２月の高野山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は各自の負担とする。各自で事前に『字書』を購入しておくこと画仙紙は事前に大阪の書道用品店で買っておくこと。この授業は高野山書道師範を取得を希望する者、書道で卒業論文を書こうとする学生は必修です。かなり習熟した技能を持っていることが要求されます。書き込むより他に道はないと思い、時間外でもしっかり取り組んで欲しい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

書道家である教員の指導により、作品の制作を行う授業である。学生が書いた作品をもとに教員が言葉による指導だけでなく、実例を示し、添削しながら具体的にわかりやすく指導を加える。

科目名	条幅制作Ｂ（かな）	学期	通年	単位数	2	担当者	塩野三恵子
副　題							

ナンバリング	Ｇ 2-06-174	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	2

授業の目的と概要

【前期】かなⅠ・Ⅱで履修済のかなの基礎で学習した項目を発展させ、かな条幅にあった用具・用材について理解し、運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込み、半切作品に仕上げる。
【後期】２×６尺以上のかな画仙紙に自分で歌や文章を選び制作する。選んだ題材の資料（集字）を作成する。制作過程においては、条幅かなの筆法を理解し実際に運筆する。運筆に際しては、自分の呼吸と腕の動きが一体となるまで書き込む。また全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆を実践し、作品に仕上げる。

授業の到達目標

【前期】古来より机上作品であった「かな」を条幅作品として表現できるようになる。
【後期】かな条幅の運筆を理解し画仙紙に全体の構成・空間のとり方・行間の響きあい・行頭・行脚の位置・字間にも留意するとともに墨の扱いにも意識を向け、常に抑揚をきかせた運筆で書くことができるようになる。

授業計画

【前期】
1．条幅「かな」の内容解説・授業の進め方・必要な用具用材等の説明を聞く。
2．条幅の基本用筆１（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を書く。）
3．条幅の基本用筆２（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を自然に書く。）
4．条幅の基本用筆３（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、いろは単体を確実に書く。）
5．条幅の基本用筆４（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、２字連綿を書く。）
6．条幅の基本用筆５（かな条幅筆の持ち方・運び方を理解し、２字・３字連綿を自然に書く。）
7．集字し資料を作り半切１/２の画仙紙に俳句を書く。
8．半切１/２の画仙紙に俳句の構成に留意し自然に書く。
9．半切１/２に俳句を書き仕上げる。
10．半切以上に制作１（題材を決定し、集字し資料を作成する。）
11．半切以上に制作２（資料にそって、書く。）
12．半切以上に制作３（資料に沿って自然に書く。）
13．半切以上に制作４（資料に沿って書き込み、構成も考えていく。）
14．半切以上に制作５（資料を基に、構成に留意し、作品を仕上げ提出する。）
15．提出作品の講評をする。

【後期】
1．２×６尺（55 × 175cm）の練習用紙に制作１（テーマ・内容を決定、集字する。）
2．２×６尺の練習用紙に制作２（題材・デッサンを考える。）
3．２×６尺の練習用紙に制作３（士台とする古典を臨書しつつ、構成も考えていく。）
4．２×６尺の練習用紙に制作４（自然に運筆ができるようになるまで書き込む。）
5．２×６尺の練習用紙に制作５（確実に運筆し、墨色、墨量の変化を整えていく。）
6．２×６尺の練習用紙に制作６（各自のテーマを設け書く。）
7．２×６尺の練習用紙に制作７（各自のテーマに沿って書き込む。）
8．２×６尺の清書用紙に制作１（清書用紙の扱いに慣れる。）
9．２×６尺の清書用紙に制作し、互評会をする。
10．２×６尺の清書用紙に制作２（互評会を受けて修正し、各自のテーマに沿った作品を制作する。）
11．２×６尺の清書用紙に制作３（より一層の内容のある作品になるように書き込む。）
12．２×６尺の清書用紙に制作４作品提出
13．２×６尺の清書用紙に制作５提出作品の講評をする。
14．形式を変えて条幅作品を書く。
15．１年間のまとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として次回の授業の作品を書いてくる（120 分）事後学習として授業内容を復習し作品を書きこむ。(60 分)

テキスト

編者　日比野実 「墨ニュークラッシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社 2010 年発行

参考書・参考資料等

編者　日比野実 「墨ニュークラッシック・シリーズ日比野五鳳」芸術新聞社 2010 年発行 字書や二玄社の法帖類、芸術新聞社の書道関連本、各展覧会の作品集など

学生に対する評価

授業提出課題（70%）授業への主体的な取り組み姿勢（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）かな条幅の基本的用筆ができる。
（B）規定の大きさに効果的に表現することができる。
（A）全体構成、空間のとり方、文字の大小・墨の扱いに留意し制作することができる。
（S）自分で高いレベルでのかな条幅作品を制作することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見は、毎回の授業内でフィードバックを行う。提出課題は、添削し返却する。

その他

・かなⅠ、かなⅡを履修済みであること。変体仮名が理解できていること。・後期２×６尺以上の作品は評価の後、２月の高野山大学学外書道展に出品していただきます。表装代は各自の負担とする。
・条幅筆・画仙紙は事前に書道用品店で買っておくこと。・普段から展覧会などに行き、様々な、かな条幅作品を鑑賞すること。
・20 分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻２回で欠席１回とする。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校教員として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、かな条幅作品の制作における、筆や墨の扱いを実習を通し教え、作品制作の仕方を指導する。かな独自の筆法、運筆に至る呼吸、抑揚の取り方、構成、空間処理等について多岐にわたり指導する。

科目名	書道史（中国）／書道史	学期	通年	単位数	4	担当者	野 田　悟
副　題							

ナンバリング	Ｇ 2-12-175	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

【前期】アジア文化の根幹は漢字であることを念頭に、BC2000 年前の刻符を文字の起源とし、それがどういう経緯を経て発展して行ったかを中国の書道史を時代的に学びながら解明する。またそれが今日の我々の生活における影響を与えたかもあわせて考えてみたい。ビデオ・資料も積極的に活用し、単なる知識として理解するだけではなく、視覚的又実用的にも書道史をとらえるように促したい。その他、日中の中国書道史のとらえ方の違いなども考察する。
【後期】日本の奈良時代の書道史に大きな影響を与えた、唐代の書道概観を詳細に述べ、宋・明・清代への多彩な書風及び理論が発展していく様を多く取り入れ解説する。また書は、文学、哲学をしてその他の芸術をはじめ諸々の文化的事柄とも絡めて眺めていく。

授業の到達目標

【前期】中国文化に興味を持ち、文字の起源から芸術としての書の確立までの歴史の流れを理解し、説明できることを到達目標とする。
【後期】中国文化に興味を持ち、時代別書風の変化をはじめとする書道理論の形成・発展を理解し、説明できる。また問題点を積極的に列挙できることを到達目標とする。

授業計画

【前期】
1．ガイダンスと漢字の歴史
2．漢字の起源漢字の創生六義く。
3．先秦甲骨文・金文・石鼓文
4．秦秦代書道概観篆書の制定
5．秦の刻石権量詔版瓦当磚
6．漢漢代書道概観隷書の盛期古隷と八分
7．代表的漢碑と章草紙の発明と発展『説文解字』
8．三国三国時代書道概観
9．六朝六朝時代書道概観南朝の刻帖と能書家
10．王羲之と王献之
11．北朝の書道概観六朝楷書北朝能書家と代表碑刻
12．隋隋代書道概観と代表的碑刻
13．唐初唐の書道概観
14．初唐の四大家とその代表的作品
15．太宗皇帝と初唐の四大家

【後期】
1．中唐の書道
2．顔真卿の書並びに孫過庭『書譜』と張懐瓘『書義』、『書断』の書論比較
3．晩唐晩唐の書道
4．五代五代の書道概観
5．宋宋の書道概観
6．北宋の四大家
7．金石学の芽生え淳化閣帖と集帖
8．南宋の能書家
9．元代の書道概観（趙孟頫と吾丘衍）
10．明代の書道概観
11．明代古典派
12．明末清初のロマン派長条幅のはじまり
13．清代の書道概観
14．清代金石学の隆盛と碑学の勃興（鄧石如と呉讓之ほか）
15．清代以降現代までの書の発展

準備学習（予習・復習）・時間

講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する。（６０分）

テキスト

『〔決定版〕中国書道史』角井博監修芸術新聞社定価 2800 円　＊書店にて購入。

参考書・参考資料等

・『中国美術全集』（書法篆刻編）中国美術全集編輯委員会・『書道全集』平凡社・『中国書法史』江蘇教育出版社・『墨スペシャル９図説中国書道史』芸術新聞社その他、必要に応じてプリント配布。

学生に対する評価

・基本的に各学期末の試験による評価。（素点）・欠席各－３点、遅刻・早退－１点として計算する。・素点から欠席及び遅刻・早退の点数を引いて成績を出す。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）書道用語を理解できる。
（B）書道史に関する時代変遷を自分で発言できる。
（A）自分で調査した書道史に関する研究を発表できる。
（S）自分で調査した書道史に関する研究を先人研究者との比較してその違いを発表できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業の導入部分で前回の復習として、個々に指名し問題を答えてもらう。

その他

・書道実技との関連性から漢字Ⅰ履修を前提とする。・２０分以上の遅刻は欠席とみなす。また欠席や遅刻は学生自身かなりの損失を被り、また他の学生の迷惑になるので心得て望むこと。・再試験はしない。

科目名	生涯学習概論	学期	前期	単位数	2	担当者	櫻 木　潤
副　題							

ナンバリング	Ｇ 1-18-176	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

生涯学習とはなにかを理解し、その理論と社会におけるしくみや方法、生涯学習社会におけるネットワーク構築の必要性をさまざまな実践例を紹介することを通じて、生涯学習の指導者としての役割や、今後の課題について探求する。

授業の到達目標

生涯学習や社会教育の意義を理解し、その制度やしくみ、内容や方法を学ぶことを通じて、今後さらに進展する「生涯学習の時代」に対応できるための基礎的な能力を身につける。

授業計画

1．ガイダンス／生涯学習とはなにか？
2．生涯学習論の導入と展開
3．生涯学習と日本の行政
4．生涯各期の学習課題
5．生涯学習と家庭・学校・地域社会
6．社会教育制度と生涯学習
7．学校教育と生涯学習
8．博物館と生涯学習
9．図書館と生涯学習
10．生涯学習の形態と方法
11．生涯学習を支援する指導者の役割
12．地域づくりと生涯学習
13．グローバル化する社会と生涯学習
14．これからの生涯学習の動向と課題
15．「生涯学習の時代」を生きる

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、次回の授業内容についてテキストを熟読し、課題を見出しておくこと（90 分）、事後学修として、授業内容についてノートに整理しておくこと（60 分）。

テキスト

田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜『テキスト生涯学習－学びがつむぐ新しい社会－［新訂版］』（学文社、2018 年。初版 2008 年）。
その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①大堀哲編著『司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論』（樹村房、2010 年）
②関口礼子・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫・神部純一・柳田雅明『新しい時代の生涯学習〔第３版〕』（有斐閣、2018 年）その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（40%）、毎回の授業時に行う課題（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）生涯学習の理論と実践について、基礎的な知識を身につける。
（B）生涯学習の理論と実践についての基礎的な知識を身につけ、問題点を指摘することができる。
（A）生涯学習の理論と実践についての知識を身につけ、これからの取り組みを提案することができる。
（S）これからの生涯学習のあり方について提案することができ、実際に生涯学習活動に参加している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。授業で紹介する実践例以外にも、新聞などを通じて生涯学習に関する各地の取り組みについて関心を持つことを心がけること。

科目名	博物館概論	学期	前期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副題							

ナンバリング	G 1-18-177	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

本授業では、博物館学や関係法規の意義について学習するとともに、学芸員の担う職務と博物館の社会的責務について理解を深める。また、明治以降の博物館論の果たした社会的機能について学ぶとともに、博物館とナショナリズムとの関係についても考える。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

国内外の博物館の歴史を振り返りつつ、博物館に関する基礎的知識を習得する。
博物館を取り巻く厳しい社会状況について理解を深める。
博物館学芸員を目指す上での学問的見識を養う。

授業計画

1．博物館の定義
2．博物館学の意義
3．博物館の目的をめぐる議論
4．博物館の主要機能
5．博物館の分類
6．高野山霊宝館の見学
7．博物館の施設・設備
8．博物館の諸制度と法的枠組み
9．博物館を支える人材
10．欧米と日本の学芸員
11．厳しい博物館財政
12．博物館と外部資金調達
13．博物館と政治
14．イデオロギー装置としての博物館
15．戦前期の「国史館」

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書の該当ページやプリントを毎回読み、博物館学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分）
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①大堀哲・水嶋英治『博物館学 I 博物館概論・博物館資料論』（学文社、2012 年）
②浜田弘明編『シリーズ現代博物館学 1 博物館の理論と教育』（朝倉書店、2014 年）
③金子淳『博物館の政治学』（青弓社、2001 年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）博物館の歴史について、基礎的な説明ができる。
（B）博物館の歴史と社会的責務について具体的に説明できる。
（A）博物館の歴史とその社会的責務、日本近代の政治状況が博物館に与えた影響について説明できる。
（S）講義内容と自己の調査に基づいて、博物館の歴史的沿革・意義について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義の提出課題については、後日に講評する。

その他

博物館学芸員への道は非常に険しく、高度な学識が要求される。学芸員資格は、他の資格とは異なり、就職にまったく結びつかないので、学芸員科目の履修を考える学生は、よく熟慮・検討すること。本講義は、真剣に学芸員資格の取得を目指す学生のみ受講してほしい。また、受講者は、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。
講義中の私語や、スマートホンの使用は慎むこと（これを守らない学生には厳烈な注意を与える）。

科目名	博物館経営論	学期	後期	単位数	2	担当者	内藤　栄
副題							

ナンバリング	G 2-18-178	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

博物館経営（ミュージアムマネージメント）について学ぶ。経営が経営者だけの問題ではなく、博物館に携わる者すべてが問題意識を持つ性格であることを学び、さらに経営が博物館の未来構想に大きく関わることを学習する。

授業の到達目標

①国立（独立行政法人）、公立（指定管理者制度）、私立博物館のそれぞれの特徴と問題点、②公立博物館の登録、③博物館の職員、④コレクション形成の方法、⑤博物館活動の目標設定と評価、⑥普及と情報、⑦日本の博物館の特異性　以上にあげた①～⑦について学び、説明できるようになる。

授業計画

1．博物館の経営概説（ミュージアムマネジメントとは）
2．博物館の経営概説（行財政と財務）
3．博物館の普及と情報（利用者との関係）
4．博物館の登録
5．国立の博物館の特徴と問題
6．公立の博物館の特徴と問題
7．私立の博物館の特徴と問題
8．博物館の職員（組織と職員）
9．コレクションの形成
10．博物館活動の目標設定と評価（使命と計画と評価）
11．博物館活動の目標設定と評価（倫理規程と行動規範）
12．博物館活動の目標設定と評価（危機管理）
13．日本の博物館の特異性（他博物館や他機関との連携・協力等）
14．博物館見学（地域社会との連携を現場で学ぶ）
15．博物館見学（市民参画の現場を実際に体得する）

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだ内容に関して専門用語の意味を理解しておくこと。(90 分)　見学実習においては、見学成果を整理し、ノートにまとめておくこと。(30 分)

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

適時授業内で紹介する。

学生に対する評価

レポートもしくは試験（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）博物館の特徴と問題点を説明できる。
（B）博物館の特徴と問題点及びコレクション形成の方法を説明できる。
（A）日本の博物館の特徴と問題点及びコレクション形成の方法を説明できる。
（S）日本の博物館の特徴と問題点及びコレクション形成の方法とそこではたらく職員のあるべき姿を論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

展覧会の見学を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

奈良国立博物館で長年研究員として勤務している教員が、博物館の特徴や問題点について解説する。

科目名	博物館資料論	学期	前期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副題							

ナンバリング	G 2-18-179	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

博物館が所蔵する資料は、博物館の根幹をなす存在である。本授業では、博物館資料の収集、整理・保管に関する知識・技術の修得と、調査研究の意義と内容についての理解を深めることを目的とする。

授業の到達目標

博物館資料の多様性を学び、「二次資料（レプリカ）」などの意義について理解する。
博物館におけるコレクションの形成とその利用、発信方法について学ぶ。
学芸員による博物館資料の調査・研究の重要性、古文書・古典籍などの資料的価値について考える。

授業計画

1．博物館資料とは何か（意義と内容）
2．博物館資料の種類
3．博物館資料の収集
4．博物館資料化のプロセス
5．博物館資料の収集と整理
6．学芸員の調査・研究とその発信方法（収集理念と方法）
7．博物館資料としての古文書展示―大津市歴史博物館の取り組み―
8．博物館資料としての古文書・古記録展示―京都文化博物館の取り組み―
9．博物館資料としての古写真
10．博高野山霊宝館の見学
11．共同調査研究と公開
12．歴史展示の難しさ
13．博物館資料の教育的活用と情報的活用
14．博物館資料の今後と課題
15．高野山西南院の調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書の該当ページやプリントを毎回読み、博物館学に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分）
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①大堀哲・水嶋英治『博物館学 I 博物館概論・博物館資料論』（学文社、2012 年）
②高橋大樹「地域博物館における古文書展示」（『大津市歴史博物館研究紀要』20、2014 年）
③長村祥知「博物館における古文書・古記録の展示と教育」（『人間教育学研究』3、2015 年）
④八木滋「「歴史展示」に関するノート」（『大阪歴史博物館研究紀要』15、2017 年）

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）博物館資料について、基礎的な説明ができる
（B）博物館資料について、実例に即した具体的な説明ができる。
（A）博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について説明できる。
（S）博物館資料と展示の関係性、博物館展示を取り巻く現況について、講義内容のみならず自己の調査に基づいて、論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

講義の提出課題については、後日に講評する。

その他

博物館学芸員への道は非常に険しく、高度な学識が要求される。学芸員資格は、他の資格とは異なり、就職にまったく結びつかないので、学芸員科目の履修を考える学生は、よく熟慮・検討すること。本講義は、真剣に学芸員資格の取得を目指す学生のみ受講してほしい。
本講義を履修することが可能であるのは、前年度までに「博物館概論」を受講し、単位を修得した学生のみである。これ以外は許可しないので、登録にあたっては注意すること。

科目名	博物館資料保存論	学期	後期	単位数	2	担当者	那須真裕美
副題							

ナンバリング	G 2-18-180	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

博物館において適切で安全な資料保存・活用を行うために必要な基本的知識を、歴史的・科学的・技術的な側面から、講義を通じて多角的に学習する。資料保存の重要性を確認し、環境や材質、構造上の問題などの資料を取り巻く状況を客観的に把握することで、資料を観察する目と現状判断する能力を養う。

授業の到達目標

博物館資料について保存の意義と基本理念を理解し、各種資料の材質や構造上の特性、劣化要因などをふまえて、適切な展示・保存環境を実現・維持するための基本的な知識を身につけ、活用することができる。

授業計画

1．「保存」とは何か
2．文化財保護の展開
3．博物館資料の材質と取り扱い (1) 彫刻・絵画・工芸・歴史資料などの基本的構造、および材質の特性
4．博物館資料の材質と取り扱い (2) 梱包・移動・展示に関する注意点
5．資料の劣化と保存 (1) 温湿度・光・空調
6．資料の劣化と保存 (2) 空気汚染
7．資料の劣化と保存 (3) 生物被害
8．資料の劣化と保存 (4) 自然災害と人為災害
9．資料の劣化と保存 (5) 保全と管理
10．「包括的な保存」のために（中間まとめ）
11．博物館資料の科学的調査と技術
12．修復保存の基本と実際 (1) 彫刻作例
13．修復保存の基本と実際 (2) 装潢作例
14．修復保存の基本と実際 (3) 考古資料・紙資料
15．博物館資料・地域資源の保存と活用（全体の考察）

準備学習（予習・復習）・時間

授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する（60 分）

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 IV　博物館資料保存論・博物館実習論』（学文社、2013 年）
青木豊編『人文系博物館資料保存論』（雄山閣、2013 年）
他は授業中に紹介する

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業時に行なう課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）博物館資料保存の意義を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける
（B）博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
（A）博物館資料保存の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
（S）これからの博物館資料保存のあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。
近年は、保存・修復をテーマにした特別展や書籍、雑誌特集などから現場・現況を見聞きする機会が格段に増えた。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。

科目名	博物館展示論	学期	後期	単位数	2	担当者	山口隆介
副題							

ナンバリング	G 2-18-181	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

博物館展示の理念と歴史、展示の諸形態を学び、展示の理論と方法に関する基本的な知識や技術を習得し、博物館における展示の果たす役割とその意義を理解する。

授業の到達目標

博物館における展示の歴史と意義を理解するとともに、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

授業計画

1．ガイダンス
2．博物館展示の目的と役割
3．博物館展示の歴史
4．見学演習　近畿一円の美術館・博物館に出かけ、広く美術作品を見て学ぶ
5．見学演習
6．展示のプロセス企画書・出陳交渉・梱包と輸送・会場造作・展示作業
7．展示空間の構成Ⅰ　章立て・動線・サイン
8．展示空間の構成Ⅱ　照明・音響・展示環境・温湿度
9．見学演習
10．見学演習
11．展示の技法Ⅰ　展示ケース・展示台・演示具
12．展示の技法Ⅱ　パネル・題箋・カタログと各種印刷物の作成
13．展示の技法Ⅲ　音声ガイド・多言語表記・ボランティア
14．見学演習
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

普段から美術館や博物館に関心を持ち、図書やホームページを通して予備知識を持つこと。（計 90 分以上）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布する。

学生に対する評価

レポート 60%、授業への取り組み 40%。この授業では近隣の美術館･博物館を見学する演習を実施し、見学への参加とレポートの提出を課す。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）展示に関する基本的な知識や技術の習得が不十分である
（B）文展示に関する基本的な知識や技術を習得する
（A）展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができる
（S）展示に関する基本的な知識や技術を習得したうえで、展示プランを立てることができ、その意図を他者に伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については授業後にワークシートに記入してもらい、次回の授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

奈良国立博物館で研究員として勤務している教員が、博物館学芸員にとって必要な展示に関する基本的な知識や技術を習得する。

科目名	博物館情報・メディア論	学期	前期	単位数	2	担当者	那須真裕美
副題							

ナンバリング	G 2-18-182	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

博物館で扱う情報・メディアの意義と理論、およびその運用の現状や課題について確認し、現代の ICT 社会における情報の取り扱いに必要な基礎的知識を講義を通じて習得した上で、博物館情報・メディアがもたらす可能性について考察する。

授業の到達目標

博物館における情報の意義と活用方法や課題についての理解を深めることで、情報資源の有効な利用に関する能力を身につけ、活用することができる。

授業計画

1．博物館における情報とメディア
2．メディアとは何か
3．ICT 社会の中の博物館
4．博物館における情報資源の意義と活用 (1) 博物館資料のドキュメンテーションとデータベース化
5．博物館における情報資源の意義と活用 (2) デジタル・アーカイブスの現状と課題
6．博物館における情報資源の意義と活用 (3) 博物館活動（調査研究・展示・教育）の記録化
7．博物館における情報資源の意義と活用 (4) 情報端末と視聴覚機器を用いた情報資源の活用
8．博物館が持つ「情報」とは何か（中間まとめ）
9．博物館情報の活用事例（情報・メディア論を踏まえた考察・発表）
10．各種メディアを活用した博物館展示の可能性
11．各種メディアを活用した博物館教育の可能性
12．各種メディアを用いた情報発信
13．博物館と知的財産 (1) 知的財産権の基礎と権利処理
14．博物館と知的財産 (2) 個人情報・肖像権・パブリシティ権の管理・運用と情報倫理
15．博物館情報・メディア論への期待と展望（全体の考察）

準備学習（予習・復習）・時間

授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する（60 分）

テキスト

プリント資料を配布する

参考書・参考資料等

大堀哲・水嶋英治編著『博物館学 III　博物館情報・メディア論・博物館経営論』（学文社、2012 年）
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』（ぎょうせい、2013 年）
他は授業中に紹介する

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業時に行なう課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）博物館情報・メディアの意義を理解し、基礎的知識を身につける
（B）博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、その課題点を指摘することができる
（A）博物館情報・メディアに関する基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる
（S）これからの博物館情報・メディアのあり方について、実例をもとに考察し、論じることができる

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行なう

その他

博物館学芸員資格を取得するための必修科目のため、資格取得を目指している者は必ず受講すること。
各種報道やインターネット記事（SNS やブログなど）にも考察する素材があふれている。普段から関心や問題意識をもって情報収集を心掛けることも、よい学習になる。

科目名	博物館教育論	学期	後期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副題							

ナンバリング	G 2-18-183	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

博物館における学びとその特性を理解し、そのための理論と実践についてさまざまな実践例を紹介することを通じて、地域の結節点としてこれからの博物館が担う教育的な役割とその発信方法について探求する。

授業の到達目標

学びの場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論や方法、特性を学ぶことを通じて、地域の結節点としての役割を担うための博物館教育とその発信の方法についての基礎的な能力を身につける。

授業計画

1．ガイダンス／博物館教育とはなにか？
2．博物館における学び
3．博物館教育のあゆみ
4．博物館教育を実践するための理論
5．生涯学習と博物館教育
6．博物館教育の方法①～見ること・聞くことからの学び～
7．博物館教育の方法②～体感することからの学び～
8．学校教育と博物館
9．地域社会と博物館教育
10．博物館教育の実践①～展示解説をしてみよう～
11．博物館教育の実践②～展示解説をしてみよう～
12．博物館教育の実践③～展示解説をしてみよう～
13．地域の人材を育てる場としての博物館
14．グローバル化する社会と博物館教育
15．これからの博物館教育とは？

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、次回の授業内容についてテキストを熟読し、課題を見出しておくこと（90 分）、事後学修として、授業内容についてノートに整理しておくこと（60 分）。

テキスト

黒沢浩編著『博物館教育論』（講談社、2017 年）その他、授業テーマによってプリントを配布する。

参考書・参考資料等

柿崎博孝・宇野慶『博物館教育論』（玉川大学出版部、2016 年）。
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（30%）、発表（30%）、毎回の授業時に行う課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育の場としての博物館の意義と理念を理解し、その理論と方法の基礎的知識を身につける。
（B）博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、その問題点を指摘することができる。
（A）博物館教育の理論と方法の基礎的知識を身につけ、これからの取り組み方を提案することができる。
（S）これからの博物館教育のあり方について、自身の体験から実例をもとに論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

本講義は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格取得を目指している者は必ず受講すること。各地の博物館や美術館などを実際に訪れ、それぞれの博物館が行っている取り組みについて体験することを心がけること。

科目名	教育原論	学期	後期	単位数	2	担当者	山脇雅夫
副題							

ナンバリング	G 1-17-184	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

1、教育の基本的概念、2、教育思想の歴史、3、教育の営みの歴史を学び、教育の本質に関する理解を深める。

授業の到達目標

教員として教育にかかわっていくための基礎となる知識を身につける。

授業計画

1．教育の基本的意味
2．人間特有の現象としての教育
3．学ぶことと教えること
4．こころとからだを育てる
5．道徳性の発達
6．教育思想の原点１（ソクラテス）
7．教育思想の原点２（プラトン）
8．近代の教育思想１（ロック）
9．近代の教育思想２（ルソー）
10．現代の教育思想（デューイ）
11．家庭・地域・学校
12．近代学校の性格
13．日本における学校の歴史
14．子どもの権利と教育への権利
15．現代教育の課題定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

シラバスに予告されている講義内容に該当する教科書部分を研究しておく（予習）。講義内容を振り返る（復習）。（計 90 分以上）

テキスト

田嶋一著『やさしい教育原理』有斐閣

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義の内容を理解できる
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

科目名	教職入門	学期	前期	単位数	2	担当者	嶋田　博
副題							
ナンバリング	G 1-17-185	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

平成 18 年に教育基本法が改正されて教育の目的･目標が明確化し､我が国の学校教育はさらに大きな発展を遂げてきた。その推進力は、使命を深く自覚し、研鑽に努めて教育実践を創造した教職員である。しかし、今、知識基盤社会化やグローバル化・情報化・少子高齢化等の社会の激しい変動を背景に、子供たちの潜在的資質と無限の可能性を伸ばす新しい教育の在り方･学校の在り方が求められている。本授業においては、現代社会の学校教育への期待の高まりを踏まえ、チームとしての学校が子供たちの学びの後押しができるよう、教職の意義と役割、求められる教員の資質･能力、職務内容等を理解するとともに、教職への意欲を高め、自己の進路適性を吟味･判断し、自己実現に向けた進路の選択・決定ができるよう、自己のキャリアプランについて考える。

授業の到達目標

①公教育の目的と教職の意義、教員の役割と在り方、求められる資質・能力を理解する。②教員の職務の全体像、教員研修の意義と法的位置づけ、専門職の職責と生涯にわたり学び続ける必要性を理解する。③教員の服務義務と身分保証、自己理解と進路適性、教職の職業的特徴を理解する。④複雑・多様化する課題への専門家との連携・分担の必要性、「チームとしての学校」の取組の重要性を理解する。

授業計画

1．学修ガイダンス、学校教育の現状と課題、児童生徒の学習指導・生徒指導等の実態について説明する。
2．公教育の目的、教職の意義と職業的特徴、教員免許状、研修と学び続ける教員像について説明する。
3．教員の役割・在り方、教職の魅力と厳しさ、求められる資質・能力、キャリアプランについて説明する。
4．教職観の変遷と教員の存在意義、専門職の使命と職責、期待される教員像について説明する。
5．関連法令を通して学校の種類・目的・目標、教職員配置と組織・職務、社会的使命について説明する。
6．教員の全ての職務内容と校務分掌、校務分掌の改善・充実と「チームとしての学校」について説明する。
7．学級担任の役割と配慮事項、学級づくりと学級経営の留意点、保護者との連携等について説明する。
8．確かな学力の形成に向けた組織的な取組、特別支援・個に応じた指導の創意工夫等について説明する。
9．生徒指導の現状と課題、意義・目的、人権・体罰、推進の PDCA サイクルとチームづくりについて説明する。
10．いじめ・不登校の現状と課題、指導の在り方・支援の視点、学校・保護者・諸機関との連携について説明する。
11．キャリア教育推進と学校改善、汎用的能力の形成と教育課程の見直し、地域社会等との連携について説明する。
12．研修の義務と資質向上、法定研修と職務・課題別・専門・教養研修、教員への役割期待等について説明する。
13．教員の職務と根本規準、職務上の義務と身分上の義務、特例法、分限と懲戒等について説明する。
14．学校の危機管理とリスクマネジメント、学校運営協議会制度、自己を生かすチームづくりについて説明する。
15．個性を生かし生涯学び続ける進路選択、自己決定・自己責任、教職実践力について説明する。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。(60 分)
②教職関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60 分)
③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60 分)

テキスト

『新しい教職基礎論』2019.3 発行（伊藤一雄他著サンライズ出版）

参考書・参考資料等

・『中央教育審議会答申　全文と読み解き解説』平成 28 年版（大杉昭英解説　明治図書出版）
・他の参考資料等は、授業中に紹介、配布する。

学生に対する評価

定期試験（60%）、振り返り小テスト（20%）、レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
（B）教員の職務や服務内容、期待される教員の在り方について、テキストを見ながら説明できる。
（A）複雑・多様化する学校教育の課題や子どもの指導・支援には、教員の「教職実践力」が重要であることを、テキスト等を見ながら自分の言葉で説明できる。
（S）学校教育改善の観点から、「チームとしての学校」づくりとカリキュラムマネジメント推進、求められる教員の学びの質について、テキスト等を見ずに自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は、次の授業で解説を行う。

その他

・公教育に携わる教職員には法令順守が求められているので、学校教育並びに教職員の人事に係る法令について十分な学習に努めて欲しい。
・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等については、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

公立学校教員及び管理職、教育行政での勤務経験のある教員が、管理職の職務（学校経営・運営、教職員、児童・生徒、学校保健、学校財務運営等）の校務、教育行政（学校、人事、研修、教員採用試験等）の業務、地域社会と連携したフィールドワーク等で身に付けた人権教育のスキルやノウハウ等の経験を活かして、実践的な立場からの講義や情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	教育社会学	学期	後期	単位数	2	担当者	森本一彦
副題							
ナンバリング	G 1-17-186	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

学校をめぐる諸問題について説明し、どのような問題があるのかを検討する。授業を通して、社会学的な視点を養う。

授業の到達目標

教育の中心に置かれてきた学校を社会学的な視点から理解し、どのような課題があるのかを説明できるようになる。

授業計画

1．教育社会学とはどのような学問かについて説明する。
2．学校をめぐる状況の変化（1）子どもの生活の変化について説明する。
3．学校をめぐる状況の変化（2）少年犯罪・児童虐待について説明する。
4．学校をめぐる状況の変化（3）いじめ、校内暴力について説明する。
5．学校をめぐる状況の変化（4）不登校について説明する。
6．学校をめぐる状況の変化（5）学歴社会、格差社会、子供の貧困について説明する。
7．学校をめぐる状況の変化（6）少子化・未婚化・晩婚化について説明する。
8．社会の変化と学習指導要領の改訂について説明する。
9．教育基本法改正問題について説明する。
10．諸外国の教育事情・教育改革の動向を説明する。
11．地域と学校の連携と協働について説明する。
12．開かれた学校づくりについて説明する。
13．学校安全の必要性について説明する。
14．生活安全、交通安全、災害安全における課題について説明する。
15．持続可能な社会における教育について説明する。定期試験は実施しない。

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分)。

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

授業中に資料を配布する。

学生に対する評価

レポート（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育社会学の基本用語が説明できる。
（B）教育の問題について説明できる。
（A）講義内容を理解し、社会学的に説明できる。
（S）現在の学校教育の問題について自分の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

真剣に教師を目指す者のみ受講すること。
・教育問題についてテーマを設定し、デスカッションする。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校で教師として指導した経験がある教員が、学校や生徒の実態を講義する。

科目名	特別支援教育	学期	通年	単位数	1	担当者	伊藤一雄
副題							
ナンバリング	G 2-17-187	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

1、特別支援教育に関するこれまでの歴史や日本社会の法的支援の現状を理解できる。
2、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒（障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒も含む）の現状を理解し、その教育の在り方を修得する。
3、特別支援教育の実態を学ぶため、個人情報に留意して映像情報を活用する。

授業の到達目標

1、特別支援教育の在り方を理解し支援できるための基礎力を身に付ける。
2、特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒（障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒も含む）の教育及び発達上の課題を理解できるようになる。

授業計画

1．特別支援教育とはどのような教育なのか理解を深める。
2．特別支援教育の歴史を概括し、改訂された教員免許法、法的支援の現状について理解する。
3．視覚障害及び聴覚障害の幼児､児童､生徒(以下生徒等と略す)の教育内容と方法の概略を把握する。
4．知的障害、肢体不自由、病弱の生徒等の教育内容について概説し理解を深める。
5．特別支援学校と特別支援学級、及び通級による教育課程上の指導も含めた違いを理解する。
6．障害はないが特別の教育的ニーズを必要とする生徒等の支援の在り方について考察する。
7．特別支援教育コーディネーターの職務と職員も含めた「チームとしての学校」の役割について解説する。
8．特別支援教育のインクルーシブな支援を進める方法を、先進的取組を行っている事例を参考にして学習する。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習：講義時に配布する資料を読み疑問点を整理しておくこと。
事後学習：毎回当日の講義内容に関する課題を出すのでまとめて次回講義時に提出する。(計 90 分以上)

テキスト

伊藤一雄編著「新しい教職基礎論」サンライズ出版 2018、「特別支援学校学習指導要領本体」海文堂出版 2018

参考書・参考資料等

佐藤史人、伊藤一雄編著「新時代のキャリア教育と職業指導」法律文化社

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができる。。
（B）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）の理解ができ関心が深まる。
（A）特別な支援を必要とす生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等も含む）に関心を持ち、積極的に理解を深めようとする意欲がある。
（S）特別な支援を必要とする生徒等（障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等）の支援に関心もち理解を深め、積極的に支援に参加しようとする意欲が深まる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題は添削し次回の講義時に返却し、理解力を高めさせる。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

授業 6 及び 7 において、障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒等のキャリア教育・進路指導について担当者の高校での体験を取入れ、具体的な事例を入れて法的な支援も含めて講義する。

科目名	教育心理学	学期	後期	単位数	2	担当者	戸來知子
副題							
ナンバリング	G 2-17-188	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

学校現場における生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得すると共に、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。学習をより効果的に習得できるように、言語の発達、記憶のメカニズム、学習のプロセスについて学ぶ。さらに学習の評価についても学ぶ。生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について学ぶ。特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

授業の到達目標

・学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。・人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。・学習と評価の問題について理解を深める。・発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

授業計画

1．オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育心理学とは何かについて概観する。
2．発達過程と教育の関連について。現代の子どもの心理学的特性を理解する。
3．様々なライフサイクル論の紹介。エリクソンのライフサイクル論・乳児期から遊戯期について学ぶ。
4．エリクソンのライフサイクル論・児童期・青年期の課題と特徴および学習との関連性を知る。
5．エリクソンのライフサイクル論・人生の後半と若い世代への関わりあいについて学習する。
6．学習のメカニズムについて学ぶ。動機づけ、記憶のメカニズム等。
7．学習効果と自尊感情の関連性について理解する。「無気力」について学習する。
8．知的能力の発達について学ぶ（表象的思考の発達と創造性の発達。）
9．学習指導の心理学的理論を紹介する。プログラム学習と協同学習について学ぶ。
10．学習意欲と教育評価について学ぶ。
11．発達障害（LD、ADHG など）について理解する。発達障害 (LD、ADHG など）について理解する。
12．生徒の問題行動とその対応法について考察する（いじめ、不登校、引きこもり等)。
13．生徒の不適応とストレス対処法について学ぶ。スクールカウンセラーの役割について考える。
14．特別な支援を必要とする生徒について理解を深める（事例を通して学習する)。
15．自己指導能力を発達させる方法を学ぶ。これまでの学習の総括を行う。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

授業の前に必ず教科書の該当箇所を読んでおくこと。配布している問題集形式のプリントを解答しておくこと。(90 分）授業後は､､専門用語を中心として自分で学習内容をノートにまとめ、問題集形式のプリントを再確認しておくこと。(90 分)

テキスト

桜井茂男編、『教育心理学』、図書文化。

参考書・参考資料等

伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編、『子ども・若者政策のフロンティア』、晃洋書房

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）、出席状況およびディベート等の状況（25%）、学期末試験（55%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習のメカニズムを理解している。
（B）様々な学習方法を説明できる。
（A）自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
（S）様々な学習評価を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

その他

毎回出席を取る。テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらう。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

7 年間の中学校社会科教諭の経験を活かし、生徒がやる気を持てるような指導や学級の雰囲気作りを、理論を学ぶと同時に実践的な事例を伝える授業にする。

科目名	教育課程論	学期	後期	単位数	2	担当者	嶋田　博
副　題							
ナンバリング	G 1-17-189	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

教育課程は学校教育の目的・目標の達成に向け、教育内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。公の性質を有する学校は、教育水準の維持と統一性のため必要な限度で定められた基準（学習指導要領）に従い、教育課程を編成・実施しなければならない。今、予測困難な社会にあって持続可能な社会の担い手として、子供たちに新しい資質・能力を身につけ「生きる力」を育むことが求められている。本授業においては「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、「学びの地図」としての学習指導要領を基準として編成される教育課程について、その意義や社会的役割・機能、編成原理及び方法等を理解するとともに、学校教育の改善・充実を図るカリキュラム・マネジメントの意義と重要性について理解する。

授業の到達目標

①教育課程の意義・役割・機能、編成目的・原理、社会的役割、学習指導要領等の性格・位置付け・変遷を理解する。②教科等横断的な教育内容の選択・配列について理解する。③子供や学校・地域の実態及び複数学年にわたる取り組み等の指導計画の必要性を理解する。④カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解する。⑤教育課程の評価と方法について理解する。

授業計画

1．学修ガイダンス、PISA 等の各種調査と教育課程の今日的課題、学校現場の諸課題について説明する。
2．教育課程の意義・役割・機能、カリキュラム論の変遷、教育課程の類型について説明する。
3．我が国の教育課程改訂の歴史と社会的背景・内容、教職論について説明する。（明治～戦前）
4．我が国の教育課程改訂の歴史と社会的背景・内容、教員養成について説明する。（戦後～現在）
5．学校教育関連法令と教育課程、学習指導要領の性格及び位置付け、社会的役割等について説明する。
6．中教審答申（平成 28 年）が示す教育改革の構造、「社会に開かれた教育課程」について説明する。
7．「学びの地図」としての学習指導要領改訂の背景と方向性・特徴、6 つの改善事項について説明する。
8．カリキュラム・マネジメントの意義・重要性、三つの側面、「チームとしての学校」について説明する。
9．カリキュラム・マネジメントの PDCA サイクルと「主体的・対話的で深い学びの」実現について説明する。
10．「主体的・対話的で深い学び」とアクティブラーニングとの関連、三つの授業改善の視点について説明する。
11．アクティブラーニングを導入した教科等の学習過程、言語活動・情報教育、体験活動等について説明する。
12．教科等横断的な枠組み・内容の選択・配列、育成される学習基盤・課題対応の資質・能力について説明する。
13．教育課程の編成と指導計画作成上の留意事項、子供の学習評価の在り方・充実等について説明する。
14．学習指導・生徒指導、進路指導、特別支援教育等、子どもの発達支援の方法と留意点について説明する。
15．チェックリストを活用した教育課程の学校評価、その活用と改善について説明する。　　定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

①毎回の授業で講義内容と各種資料を配布するので、要点をノートに整理する。。(60 分)
②教育課程関連法令や各種調査資料、通知・通達等を配布するので、事前・事後の学習で熟読する。(60 分)
③授業で行う振り返り小テストや小レポートの提出に向けて、要点整理と課題研究をする。(60 分)

テキスト

『教育課程論のフロンティア』2019.3 改訂版（大津実他著晃陽書房）

参考書・参考資料等

・『中学校学習指導要領解説　総則編』『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省）
・他の参考資料等は、授業中に紹介、配布する。

学生に対する評価

定期試験（60%）、振り返り小テスト（20%）、小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育課程の関連用語や学校教育に関連する法令を覚えている。
（B）教育課程の意義・機能、編成の基本原理、学習指導要領の特徴について、テキストを見ながら説明できる。。
（A）カリキュラム・マネジメントと教育課程のPDCAサイクル、主体的・対話的で深い学びとアクティブラーニングについて、テキスト等を見ながら自分の言葉で説明できる。。
（S）現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容の指導計画の作成、実施上の留意点、教育課程の評価について、テキスト等を見ずに自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
・振り返り小テスト及び小テストを実施した場合は、次の授業で解説を行う。

その他

・教育基本法等の学校教育関連法令については、十分な学習に努めて欲しい。
・学校教育や教育行政、子供に係る事故・調査報告、各種報道等については、意欲・関心を持って「マイ資料集」を作成し収集・保管に努めて欲しい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

公立学校教員及び管理職、教育行政等の勤務経験のある教員が、学校現場での学習指導・生徒指導等の教育実践や学校経営、教育行政の所管する教育課程等に係る資料の編成や教職員研修、教員採用試験担当等の経験を活かして、実践的な立場からの講義と情報提供に努め授業の展開を図る。

科目名	道徳教育の研究／道徳教育指導論	学期	前期	単位数	2	担当者	戸來知子
副　題							
ナンバリング	G 2-17-190	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

1、道徳の意義と本質、2、学校教育における道徳教育、3、道徳科指導法を学びます。

授業の到達目標

道徳教育における実践的指導力を身につけることを目標とする。そのために、道徳の意義や原理を理解する。また、学校教育全体における道徳教育の意義と、その中核となる道徳科目標、内容を理解する。

授業計画

1．道徳とは何か１、その本質について学ぶ。。
2．道徳とは何か２、主要な道徳理論を学ぶ。
3．道徳教育の歴史を解説する（西洋）。
4．道徳教育の歴史を解説する（東洋）。
5．現代社会における道徳とは何か理解する。
6．学習指導要領における道徳教育の目標を知る１
7．学習指導要領における道徳教育の目標を知る２
8．子どもの道徳性の発達について学ぶ。
9．道徳科指導法について説明する。
10．道徳科の教材と授業計画について解説する。
11．道徳科指導案作成を行う。
12．学生による模擬授業を行う。
13．学生による模擬授業を行う。
14．模擬授業の振り返りと授業改善の方法を検討する。
15．道徳科の学数評価を解説する。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

授業で用いる資料を読む。道徳教育の読み物資料等について、生徒に伝えたいこと、自分の考えをまとめておく。(90 分)
配布資料を読み直し、ノートに整理してまとめる。指定した参考文献を読んでおく。(90 分)

テキスト

小学校学習指導要領（文部科学省）中学校学習指導要領（文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）道徳的徳目を六つ以上言える。
（B）集団や社会生活において重視される道徳的価値を説明できる。
（A）生命や自然、崇高なものを敬う気持ちの大切さを理解している。
（S）国際理解と道徳の関連性を理解し、生徒に指導する方法を身につけている。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや授業の指導案を添削して返却する。

その他

テーマに沿った話し合い等を行う。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

7 年間中学校社会科教諭として勤め、学級担任として道徳の授業をした経験を活用し、現在も実際に使われている道徳教材を積極的に活用して、アクティブラーニングの授業となるように授業を行う。

科目名	特別教育活動指導／総合的な学習の時間・特別活動	学期	前期	単位数	2	担当者	戸來知子
副　題							
ナンバリング	G 2-17-191	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

学習指導要領において特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。授業では、学校生活（ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事）において学習指導要領の内容について具体的に事例を挙げながら学ぶ。総合的な学習の時間についても、探求的な見方考え方を働かせることを、横断的・総合的な学習の課題を通して学ぶ。指導案作成や教材研究、模擬授業を通して、教師になった時の実践力を身につける。さらに、教育活動の基礎にある人間の成長発達の理論や教育学の理論も学ぶ。

授業の到達目標

・特別活動の意義、目標について理解する。・学習指導要領の内容を理解し、特別活動を構成している教育活動の指導方法を学ぶ。・総合的な学習の時間の意義を理解し、指導案を作成し模擬授業を行う。・人間の成長・発達の理論や教育学の代表的な基礎理論を理解する。

授業計画

1．オリエンテーション。授業計画の説明。特別活動の意義と役割について学ぶ。
2．学習指導要領から「特別活動」の意義や内容について学ぶ。「隠れたカリキュラム」について学ぶ。
3．ホームルーム活動について学ぶ。役割の取得と人間関係構築について考える。
4．ホームルーム活動の指導案の作成。（公共の精神や生き方・在り方を考える。）
5．ホームルーム活動の模擬授業。
6．学校行事の意義や内容について学ぶ。
7．学校行事の具体的実践研究とプレゼンテーション。
8．生徒会活動とクラブ活動の意義を学ぶ。具体的実践例とプレゼンテーション。
9．総合的な学習の時間について学ぶ。（目的・経緯、課題など）
10．総合的な学習の時間の指導案作成と教材研究。（食育・国際理解・ボランティア等）
11．総合的な学習の時間の模擬授業。
12．J. デューイの教育についての理論を学習する。。
13．人間の成長・発達の理論と青年期の課題について学ぶ。
14．特別活動から見た学校の現状と課題を考える。特別活動の評価についてディスカッションを行う。
15．これまでの学習を振り返り、特別活動のまとめと今後の課題を整理する。定期試験は実施しない。

準備学習（予習・復習）・時間

配布する授業の資料を読む。(40 分)
学習指導案や授業計画、模擬授業の準備を進めていく。(50 分)
授業後は、配布プリントや資料から、要点をノートに整理してまとめる。(60 分)
授業で行われた指導案作成などを見直す。(30 分)

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』の特別活動編。(配布する。)

参考書・参考資料等

田中耕治編著、『よくわかる授業論』、ミネルヴァ書房

学生に対する評価

小レポートの提出 (10%)、指導案の提出 (15%)、模擬授業・プレゼンテーション (20%)、学期末レポート (55%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）特別活動の目標と意義が言える。
（B）総合的な学習の目的と経緯を説明できる。
（A）ホームルーム活動や学校行事の意義を説明できる。
（S）デューイの教育理論に沿って体験学習の教育的意義を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや学習指導案等は添削して返却する。

その他

毎回出席を取る。体験学習のプレゼンテーションをしてもらう。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

7 年間の中学校社会科教諭の経験を活かして、具体的な学級運営の事例などを紹介しながら、学校生活で特別活動の果たす役割を実践的に伝え、学生さんに考えてもらう授業を行う。

科目名	教育方法論	学期	前期	単位数	2	担当者	伊藤博美
副　題							
ナンバリング	G 2-17-192	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

「教育」は人間に生涯つきまとう営みと考えられる。その方法･技術を教育思想から理論的に検討し、自らの成長や周囲の人の成長を援助する力を育成する契機とする。事例から理論の理解を深め、実践への一歩とする。

授業の到達目標

この授業では、教育の方法・技術を背景となる思想から理解し、最終的には学校教育に留まらず人間形成・人材育成の観点からも検討できるようにすること、また指導案の素案を作成できるようにする。

授業計画

1．導入教育方法の理論とは育成されるべき資質・能力の理解
2．「学び合い」や「教えない授業」の検討（主体的・対話的で深い学び）
3．「教えてから考えさせる授業」の検討（主体性の意味）
4．学習のメカニズム講義、協調学習（対話の意味）
5．学習モデル（1）学習転移モデル、経験学習モデルる
6．学習モデル（2）批判的学習モデル（深い学びの意味）
7．「正統的周辺参加モデル」
8．動機づけの理論（1）外発的動機づけ、内発的動機づけ
9．動機づけの理論（2）やる気のなさ、やる気を高める方法、フロー理論
10．指導案（1）指導案の各項目
11．指導案（2）指導案の作成話法・板書等の基礎的技術
12．指導案（3）指導案の修正授業展開と評価規準
13．ICT を活用した授業方法と情報モラル
14．「インストラクショナルデザイン」目標・教材・評価
15．「学習環境」のデザイン学習する組織場の理論定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

取得予定免許の教科の指導法における指導案を確認しておくこと。
また模擬授業に向けて主に生命尊重等の教材を研究しておくこと。
復習としては模擬授業後の反省を行うこと。(計 90 分以上)

テキスト

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

参考書・参考資料等

①佐伯胖『「学ぶ」ということの意味』岩波書店②市川伸一『「教えて考えさせる」授業を創る』図書文化社③ジーン・レイヴ、エティエンヌ・ウェンガー（著）、佐伯胖（訳）『状況に埋め込まれた学習正統的周辺参加』産業図書④中原淳（編著）『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

学生に対する評価

授業中の課題への取組（50%）、指導案と模擬授業（30%）、レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義の内容の概要を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を、思想的歴史的背景から理解できる。
（S）講義の内容を、自分なりに批判的に検討出来る。

課題に対するフィードバックの方法

課題（授業内でのディスカッション等）へのコメント、指導案の添削、模擬授業へのコメント

その他

少人数のため、主体的な姿勢で臨むことが期待される。教室の PC を用いるので USB 等を用意すること。

科目名	情報技術論	学期	後期	単位数	1	担当者	戸 來 知 子
副　題							

ナンバリング	G 2-13-193	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

パソコンの使い方を習得しながら、情報処理の基本知識や情報社会のモラルを学ぶ。教科指導、特別な教科「道徳」特別活動、総合的な学習の時間、との関連において、それぞれの課題や目的に応じて、情報を収集・処理・表現・創造する力を育成する。

授業の到達目標

①コンピュータの構成と情報処理の基本知識を学ぶ。②教師の仕事をこなすために必要なパソコン技術を習得する。③情報社会の抱える問題点を理解し、情報モラルおよびマナーを身につける。

授業計画

1．オリエンテーション。授業の概要を説明する。情報化社会の現状を認識する。
2．インターネットの匿名性の持つ危険と情報社会でのマナーについて学ぶ。
3．個人情報の取り扱いとプライバシーの保護について学ぶ。ネット被害の事例を紹介する。
4．HR 運営・特別な教科「道徳」における情報機器の活用を考える。
5．HR の課題として、Word を使って「学級通信」を作成する。
6．教科指導・総合的な学習の時間における情報機器の活用を考える。Excel を使用した資料を作る。
7．情報検索を体験する。情報通信ネットワークの仕組みを知る。
8．SNS の利便性と危険について解説する。（ブログやフェイスブック等）
9．情報セキュリティとセキュリティ対策について学ぶ。
10．教科指導における情報機器の活用としてパワーポイントの使用を学ぶ。
11．アニメーションのつけ方、写真の挿入の仕方。情報に関する知的財産権と著作権について学ぶ。
12．パワーポイントを使用してのスライド作成の作成を学ぶ。
13．特別活動における情報機器の活用として「修学旅行の資料」を作成する。
14．「修学旅行の資料」を用いてのプレゼンテーションを行う。
15．学校教育においての IT の活用を学ぶ。提出済の課題を返却する。

準備学習（予習・復習）・時間

配布資料を読んで、課題作成のためのレイアウトを考える。（90 分）
配布資料を読んで、要点をノートにまとめる。実技課題を作成する。（90 分）

テキスト

『インターネット社会を生きるための情報倫理』（情報教育学研究会情報倫理教育グループ）

参考書・参考資料等

『エクセル＆ワード・パワーポイント便利技ぜんぶ！』TJMook

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）パソコンの基本的な操作ができる。情報社会のマナーについて言える。。
（B）Excelを使ってグラフが描ける。
（A）個人情報保護の取り組みが言える。。
（S）パワーポイントを使って、教科や総合的な学習の時間に発表することができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題や小レポートを添削して返却する。

その他

毎回出席を取る。課題の提出とプレゼンテーションを必ず行うこと。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

7 年間の中学校社会科教諭の経験から、実際の学校現場で必要とされる資料などを作成しながら、情報倫理を伝える実践的な授業にする。

科目名	生徒指導・進路指導	学期	後期	単位数	2	担当者	戸 來 知 子
副　題							

ナンバリング	G 2-17-194	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われるものである。他の教書金や関係機関と連携して、組織的に生徒指導を行うために必要な知識を学ぶ。進路指導とキャリア教育は共に、生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的な展望からの人間形成を目指す教育活動である。これらのことを念頭に置いて学校の教育課程の中での位置づけを理解し、生徒指導および進路指導・キャリア教育の指導の原理を学び、指導の実際の在り方を考えていく。

授業の到達目標

・学校教育における生徒指導の目的と原則（ガイダンス）を理解する。・教育課程における生徒指導および進路指導・キャリア教育の役割を理解する。・問題行動の社会的背景と集団指導・個別指導の原理を理解する。・ガイダンスの特性を生かした進路指導・キャリア教育を考える。

授業計画

1．オリエンテーション。授業の概要と授業計画。生徒指導・進路指導を学ぶにあたっての留意点を説明する。
2．日本の生徒指導の歴史的系譜。世界の生徒指導を比較して学ぶ。
3．現代の生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義と課題を考える。
4．問題行動と生徒指導の在り方について学習する（不登校の問題をディスカッションする。）
5．いじめ問題を考える。（文科省によるいじめの定義と類型化の紹介。いじめ防止対策。）
6．生徒指導で直面する現代の問題（ブラックバイト、若者の貧困等）を理解する。DVD 鑑賞。
7．非行の問題を考える。－新しい荒れと言われる少年非行の問題－（ディスカッションを行う。）
8．カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。（事例研究から。）
9．進路指導におけるガイダンスの役割について理解する。
10．進路指導・キャリア教育の視点から体験活動や授業の改善を考える。
11．キャリア教育についての理解。キャリア教育の本質を考える。
12．キャリア教育の基本原理を学ぶ。（ブルデュー、スーパー、パーソンズの理論から。）
13．「キャリアの時間軸」、ライフキャリアを考える。キャリアイベント、キャリアリスク等について学習する。
14．生徒指導および進路指導・キャリア教育に関して、地域との連携について学ぶ。
15．これからの生徒指導・キャリア教育に求められることを考える。これまでの学習のまとめを行う。

準備学習（予習・復習）・時間

事前に配布する資料を読んで、分からないところや疑問点をリストアップしておく。（60 分）
事前に配布する問題集のプリントに目を通しておく。（30 分）
授業後は専門用語を中心に学習した内容をノートにまとめ、問題集のプリントの見直しをする。（90 分）

テキスト

①生徒指導提要（平成 22 年 3 月文部科学省）②伊藤一雄著、『新・教育指導の理論と実践』サンライズ出版

参考書・参考資料等

伊藤一雄著、『キャリア開発と職業指導』、法律文化社全米キャリア発達学会著、仙崎武･下村英雄編訳、『D.E. スーパーの生涯と理論、図書文化

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）、出席状況とディスカッション等の参加状況（25%）、学期末試験（55%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）生徒指導の目的と理念を言える。
（B）キャリアエデュケーションの目的を説明できる。
（A）問題行動の対処に関しての地域の連携を説明できる。
（S）文部科学書と厚生労働所のキャリアエデュケーションの取り組みを理解している。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや試験は必ず添削して返却する。

その他

毎回出席を取る。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

7 年間の中学校社会科教諭の経験から、学級担任としての生徒指導や進路指導の実際の在り方や難しさを伝えることを含めて、生徒指導の理論を学ぶ授業とする。

科目名	教育相談	学期	前期	単位数	2	担当者	戸 來 知 子
副　題							

ナンバリング	G 3-17-195	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

生徒が直面する様々な問題、とりわけ、いじめ、不登校、非行、発達障害などを中心に、生徒の「こころ」の問題と行動を理解し、支援していく方法について学んでいく。また、思春期に発症しやすい神経症的な問題や精神的な疾患について、さらには教師のメンタルヘルスの問題についても知識を持てるようにする。その上で、生徒の相談に応じ、援助していくためのスキルとしてカウンセリングマインドを身につける。加えて、教育相談の経過の作成、校内体制の整備など組織的な取り組みの必要性と、地域の医療・福祉・心理の専門機関との連携の意義と必要性を理解する。

授業の到達目標

・学校教育相談の意義と課題を理解する。・教育相談の背景にある問題を理解する。・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論や概念を理解する。・発達障害を理解する。

授業計画

1．オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育相談を学ぶにあたっての留意点などを説明する。
2．教育相談とは何か。学校教育相談および生徒指導との関連について学ぶ。
3．児童・生徒の抱える問題の理解と対応の基本姿勢について概説する。。
4．学校におけるカウンセリングマインドについて学ぶ。
5．カウンセリングの基礎的知識を学ぶ（カウンセリングマインドを身につける）
6．学校における不適応と問題行動について。不登校を考える。
7．学校でのいじめを検討する。
8．非行（反社会的問題と非社会的問題）への対処方法を学ぶ。模擬教育相談の実施。）
9．発達障害について理解する。
10．摂食障害や不安神経症、境界性人格障害などの精神・神経疾患の基礎知識を学ぶ。。
11．同一性の問題について学習する。（自己同一性の問題、並びに性同一性の問題など）。
12．国際化に伴う教育相談の紹介。（外国人未就学児童の問題など））
13．教育相談の学校内体制の整備について学ぶ。（事例の紹介）
14．学校教育相談と地域での連携について学習する。
15．教師のメンタルヘルスについて現状と対策を学ぶ。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

授業の前に、教科書や配布したプリントを読んで、分からないところをチェックしておくこと。（90 分）
授業後は、専門用語を中心に教科書やプリントから重要なところを自分でノートにまとめておく。（90 分）

テキスト

『教職基礎論』、伊藤一雄編著、サンライズ出版。

参考書・参考資料等

①滝口俊子著、『スクールカウンセリング』、放送大学②春日井敏之・伊藤美奈子編著、『よくわかる教育相談』、ミネルヴァ書房

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）、模擬教育相談（20%）、学期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教育相談の目標と意義を説明できる。
（B）教師の教育相談としてのカウンセリングと一般的なカウンセリングの違いを理解している。
（A）発達障害にはどのようなものがあるのかを説明できる。
（S）教育相談の地域連携について理解している。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小レポートや試験などは添削して次回の授業時に返却する。

その他

毎回出席を取る。テーマを選んでのプレゼンテーションを各自、1 回ずつ行う。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

7 年間中学校社会科教諭として勤め、学級担任として生徒の相談に応じてきた経験等を活かして、
専門的な知識を、個々の生徒の個性や家庭の事情などに配慮しながら活用していけるように、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的授業にする。

科目名	宗教科教育法Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	松 長 潤 慶
副　題							

ナンバリング	G 2-17-196	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

学校教育における宗教教育に必要な理論と実際について学習する。宗教教育の意義について学ぶとともに、宗教科教育法を通して戦前と戦後における宗教教育の実態を探り、宗教教育のあり方について考える。そのうえで、実際の宗教教育の進め方について学習する。

授業の到達目標

宗教教育の意義を学び、宗教教育のあり方について考えを深める。

授業計画

1．シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（釈尊の生涯に関するもの）
2．宗教教育とは：①宗教と宗教教育
3．宗教教育とは：②宗教の定義
4．宗教教育とは：③道徳教育と宗教教育
5．宗教科教育法について：①戦前の教育と信教の自由
6．宗教科教育法について：②戦後の教育と信教の自由
7．宗教科教育法について：③憲法、教育基本法と宗教教育
8．宗教教育の歴史：①日本における宗教教育
9．宗教教育の歴史：②宗教と教育の関連
10．宗教教育の歴史：③現代青少年の宗教意識の諸相ぶ
11．カリキュラム構成の実際と計画
12．学習指導案の作成：①祖師の生涯を確認する（釈尊と弘法大師）
13．学習指導案の作成：②釈尊伝の授業構成を検討する
14．学習指導案の作成：③弘法大師伝の授業構成を検討する
15．試験およびレポート提出

準備学習（予習・復習）・時間

授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成､授業資料の収集等の準備が必要になる。（計 90 分以上）

テキスト

斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会（コピー配布）

参考書・参考資料等

①教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林②日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』鈴木出版③藤原聖子『教科書の中の宗教』（岩波新書）岩波書店④小口偉一編『宗教学辞典』東京大学出版社、他

学生に対する評価

定期試験（60%）、レポート（釈尊伝の感想文）（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）宗教教育の意義を認識している。
（B）宗教教育の問題点と課題に通じている。
（A）宗教教育および仏教に関する基本知識を備えている。
（S）宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

各自の学習指導案に対する個別の評価を実施する。

その他

宗教科教育法は他の一般教科とは少し性格が異なる。その点を受講者は十分に留意し、主体的に学習してほしい。そのためには宗教科の教師になるという意味をよく考えることが必要である。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	松長潤慶
副題							
ナンバリング	G 2-17-197	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要
受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、高校生を対象とした宗教教育の授業内容や方法などについて学習する。

授業の到達目標
宗教教育科の授業方法や実際について体験して経験値を上げる。模擬授業を通してみた宗教教育の実際を学ぶ。

授業計画
1．シラバスの説明、講義の進め方等、およびビデオ鑑賞（弘法大師の生涯に関するもの）
2．授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（一心院谷と女人堂）
3．教材研究と学習指導案の作成方法について解説する。
4．学習指導案の点検、宗教科の授業方法、授業記録の作成方法を解説する。
5．模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
6．模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」①誕生
7．模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」③成道
8．模擬授業と授業評価を行う。「釈尊の生涯」④初転法輪
9．提出された授業記録の評価を行う。次回以降の留意点を解説する。
10．模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」①誕生
11．模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」②青年時代
12．模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」③入唐求法
13．模擬授業と授業評価を行う。「弘法大師の生涯」④高野山開創
14．授業記録の提出と反省会
15．模擬授業全体の反省と提出された授業記録の評価を行う。レポート提出

準備学習（予習・復習）・時間
授業資料は配布する。研究授業では指導案の作成、授業資料の収集等の準備が必要になる。

テキスト
①中村元・田辺和子共著『ブッダ物語』（岩波ジュニア新書）岩波書店②松長有慶『空海・心の眼をひらく－弘法大師の生涯と密教－』大法輪閣③冨田向真『青少年のための仏教読本』高野山真言宗布教研究所

参考書・参考資料等
①斉藤昭俊著『宗教科教育法』国書刊行会②教育実習を考える会編『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林

学生に対する評価
模擬授業（学習指導案と教材研究を含む）（80%）、レポート（弘法大師伝の感想文）（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）学習指導案をまとめる授業構成力が確認できる。
（B）授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力をもっている。
（A）仏教・密教に関する基礎知識を十分にもち、教材研究においても能力が確認できる。
（S）宗教教育の意義を深く理解し、実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

その他
宗教科の教師になるということの意味をよく考え、仏教・密教に関する基礎知識を普段からしっかり養い、創意工夫して、模擬授業に望むこと。模擬授業における生徒側からの観察力・批判力も重視する。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）
中学校、高等学校での宗教教育実践で培ってきた経験をより具体的に設定した授業展開を行う。また、実際に本学で実施されている中学校、高等学校の宗教体験授業の参観をすることで、実体験に基づいた宗教教育観を育成する。

科目名	宗教科教育法Ⅲ	学期	前期	単位数	2	担当者	岡田英作
副題							
ナンバリング	G 3-17-198	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要
受講者全員に数回ずつ模擬授業を課し、それぞれの模擬授業について全員で総括しながら、中学生を対象とした教科「宗教」の授業内容・方法について学習する。

授業の到達目標
中学生を対象とした教科「宗教」の授業方法について理解し実践方法を学んで、実際に模擬授業ができるようになる。

授業計画
1．シラバスの説明、講義の進め方等、ビデオ鑑賞（世界の宗教に関するもの）
2．授業テーマの決定、学外学習としての山内歴史探訪（奥之院「大秦景教流行中国碑」等）
3．新聞等の記事を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
4．映像や音声を利用した教科「宗教」の授業方法について解説する。
5．教材研究と学習指導案作成の方法（系統型と経験型授業）について学習する。
6．模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（系統型授業）
7．授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
8．模擬授業「イスラームの歴史と教え」（経験型授業）
9．授業の振り返り、指導記録の方法を学習する。
10．教材研究と学習指導案作成の方法（融合型授業）について学習する。
11．模擬授業「キリスト教の歴史と教え」（融合型授業）
12．授業の振り返り、指導方法と評価について解説する。
13．模擬授業「イスラームの歴史と教え」（融合型授業）
14．授業の振り返り、評価の種類と活用について学習する。
15．授業全体の反省とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間
事前学修として、普段は、模擬授業に必要な宗教に関する情報を調べてまとめておく。(180 分)
事前学修として、模擬授業前は、模擬授業の学習指導案を作成し（120 分）、模擬授業の練習をしておく。(60 分)

テキスト
村上重良『世界の宗教－世界史・日本史の理解に－』岩波ジュニア新書、岩波書店、改版:2009（書店で購入）

参考書・参考資料等
①斉藤昭俊『宗教科教育法』国書刊行会、1984、②教育実習を考える会（編）『実践「教育実習」学習指導案づくりと授業実習・記録の要点』蒼丘書林、1995、③岸本英夫（編）『世界の宗教』大明堂、1965 ／原書房、2004。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価
模擬授業（学習指導案と教材研究等を含む）（60%）、レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）授業の実際における自己表現力とともに生徒側からの観察力・批判力を有している。
（B）学習指導案を作成する授業構成力が確認できる。
（A）宗教に関する基礎知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。
（S）現代の宗教文化に関する知識を十分に有し、教材研究においてもその知識を活かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他
学生によるプレゼンテーション（模擬授業）を取り入れた科目である。
新聞等の記事にも普段から目を向け、宗教に関する知識を養うことが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）
高校教員（教科「宗教」）として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして、教科「宗教」の授業内容・方法について具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	下西　忠
副題							
ナンバリング	G 2-17-199	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要
教材研究の方法を各単元ごとに具体的に指導する。学習指導案の作成の意義・手順などを具体的に指導する。また、指導案の書き方を学ぶ。

授業の到達目標
国語への関心を高め、表現力を伸長し、日本文化と伝統についての理解を深める。学習指導要領を通して、国語科教育の目的・目標を理解させる。

授業計画
1．国語科教育の目的・目標（中学校と高等学校）について解説する。
2．中学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
3．高等学校学習指導要領（国語編）の要点を解説し、指導法の円滑化を図る。
4．高等学校における古典の授業の方法を具体的に考える。
5．学習指導案とは何か。その意義と目的について解説する。
6．教材研究の方法と指導案の作成方法（1）外山滋比古『知的創造のヒント（1）』
7．教材研究の方法と指導案の作成方法（2）外山滋比古『知的創造のヒント（2）』
8．教材研究の方法と指導案の作成方法（3）古文『十訓抄』－顕宗といふ笛吹き－」
9．教研究の方法と指導案の作成方法（4）古文『竹取物語』かぐや姫のおひたち
10．教材研究の方法と指導案の作成方法漢文「返り点のつけかた」
11．国文法の授業の問題点と課題（口語の場合）
12．国文法の授業の問題点と課題（文語の場合）
13．教員による実践授業（1）現代文
14．教員による実践授業（2）古文
15．総括講義国語科の授業の必要性など定期試験

準備学習（予習・復習）・時間
国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく（45 ～ 60 分）

テキスト
①国語総合（第一学習社平成 28 年）②『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）③『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

参考書・参考資料等
国語科教育研究（学芸図書）

学生に対する評価
発表（50%）、レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）（B）にやや劣るもの。。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）（S）にやや不十分な点があるもの。
（S）国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

その他
単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）
大学予備校講師を 15 年、私立高校の非常勤講師として 7 年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法について各単元ごとに学習指導案の作成手順など指具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅱ	学期	後期	単位数	2	担当者	下西　忠
副題							
ナンバリング	G 2-17-200	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要
毎時間 1 名による模擬授業（50 分）とそれに対する他の受講生の意見･批評。また教員の意見･指導（40 分）。忌憚のない積極的な意見を出し合うことにより、授業の内容･教材研究･指導案の書き方などを学ぶ。

授業の到達目標
実際の模擬授業を通して、多くの実践体験をつむとともに、教師に必要なさまざまな資質を養う。また、引き続き教育法Ⅰにおける各単元における指導案の書き方も研究する。

授業計画
1．ガイダンス（模擬授業の意義、指導案の目的と意義）。
2．現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の教材研究と指導案作成を解説する。
3．現代文〈評論〉「独創をうむ条件」の模擬授業を行う。
4．古文〈物語〉「伊勢物語」の教材研究と指導案作成を解説する。
5．古文〈物語〉「伊勢物語」の模擬授業を行う。
6．古典文法「動詞の活用」の教材研究と指導案作成を解説する。
7．古典文法「動詞の活用」の模擬授業を行う。
8．高校現場で国語の授業を見学し授業記録の作成と指導法を学ぶ。
9．高校現場で国語担当教員及び教育実習生の体験談を聞く。
10．高校現場での体験交流を行い、円滑な模擬授業の参考にする。
11．漢文「漁夫の利」の模擬授業と相互評価を行う。
12．古文〈物語〉「竹取物語」の模擬授業と相互評価を行う。
13．国語表現「報告文と手紙を書く」の模擬授業と相互評価を行う。
14．現代文〈詩歌〉「一つのメルヘン」の模擬授業と相互評価を行う。
15．古文〈詩歌〉「新古今集」の模擬授業と相互評価を行う。

準備学習（予習・復習）・時間
国語の目標を確認しながら毎時の授業内容を想定しておく（45 ～ 60 分）

テキスト
国語総合（第一学習社）

参考書・参考資料等
①国語科教育研究（学芸図書）②『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）③『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

学生に対する評価
定期試験（50%）とレポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）（B）にやや劣るもの。
（B）（S）①②③の一部でも欠けているもの。
（A）（S）にやや不十分な点があるもの。
（S）国語科教育の①目的や意義を理解していること。また②適切な教材研究、③十全な指導案が書けていること。④教授能力にも優れているもの。

課題に対するフィードバックの方法
提出されたレポートは次回返却し、講評する。また発表後の検討事項を受講者全員で話し合う。

その他
単位登録は、国語科の教育免許をとる学生に限る。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）
大学予備校講師を 15 年、私立高校の非常勤講師として 7 年間国語科目を指導してきた経験を活かし、授業方法について各単元ごとに学習指導案の作成手順など指具体的に指導する。

科目名	国語科教育法Ⅲ	学期	前期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副題							
ナンバリング	G 3-17-201	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

教壇に立って授業を展開するためには、授業者に明確な授業計画とそれを支える知識がなければならない。そこで本講義はまず、『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』に記された国語科教育の理念や内容を理解し、理想とする国語科教員のイメージについて考える。次に、現代文、古文からそれぞれ題材を選び、教材研究と指導案の作成、模擬授業を通して、国語科教員としての実践力を養っていく。また、不定期に小テストを行い、基礎学力の向上をめざす。

授業の到達目標

現代文と古文の教材の指導法を習得する、実践できるようにする。

授業計画

1．ガイダンス（講義の進め方、成績評価の方法）
2．『中学校学習指導要領国語』の研究①－国語を学ぶ意味－
3．『中学校学習指導要領国語』の研究②－現代文と古文から何を学ぶのか－
4．『高等学校学習指導要領国語総合』の研究①－中学校「国語」との共通点－
5．『高等学校学習指導要領国語総合』の研究②－中学校「国語」との違い－
6．高等学校「国語総合」について教材研究の方法を解説する。』
7．高等学校「国語総合」について学習指導案の作成方法を解説する。
8．高等学校「国語総合」の模擬授業を教材研究の視点から考察する。
9．高等学校「国語総合」の模擬授業を学習指導案作成の視点から分析する。
10．高等学校「古典」について教材研究の方法を解説する。
11．高等学校「古典」について学習指導案の作成方法を解説する。
12．高等学校古典の模擬授業を教材研究の視点から考察する。）
13．高等学校古典の模擬授業を学習指導案作成の視点から分析する。
14．文学史の知識とその活用法について解説する。
15．国語科授業の展開について学習指導案及び模擬授業の総括を行う。定期試験は実施しない。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲について調べ（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）（書店で購入）

参考書・参考資料等

筒井美紀他『ベストをつくす教育実習』（有斐閣・２０１７）。そのほか、授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

模擬授業（60%）、不定期に実施する小テストならびに小レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）国語を学ぶことについて、その意義を理解している。。
（B）国語科教員像を提示できる。
（A）基礎学力があり、学習指導案に沿って授業ができる。
（S）（A）（B）に加えて、教え方にわかりやすさが認められたもの。

課題に対するフィードバックの方法

毎回ディスカッションを重ね、講義後、個別に質問を受け付ける。

その他

①受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。②５分の１以上の欠席があった場合、評価しない。

科目名	国語科教育法Ⅳ	学期	後期	単位数	2	担当者	南　昌宏
副題							
ナンバリング	G 3-17-202	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

基礎的な国語力の養成するため、評論・小説・古文・漢文の読解を通じて、その教材を学ぶ意味、教員としての知識と思考力などを養う。教材研究・指導案作成・模擬授業などを実体験する。

授業の到達目標

基礎学力の向上、指導法の練成、情報機器を活用する能力の上達。教壇に立つための基盤をつくる。

授業計画

1．ガイダンス（講義の進め方、成績評価の基準）
2．評論文の教材研究の方法について解説する。
3．評論文の指導案作成の方法について講義する。
4．評論文の模擬授業と授業評価を行う。
5．小説を教材研究の視点から考察する。
6．小説を学習指導案作成の視点から考察する。
7．小説の模擬授業と授業評価行う。
8．古文を教材研究の視点から考察する。
9．古文を学習指導案作成の視点から考察する。
10．古文の模擬授業と授業評価を行う。
11．漢文を教材研究の視点から考察する。
12．漢文を学習指導案作成の視点から考察する。
13．漢文の模擬授業と授業評価を行う。
14．現代文を学ぶ意味について考える。
15．古典を学ぶ意味について考える。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

教材研究（60 分）
指導案作成（30 分）

テキスト

なし中学・高校の国語科教科書が採用している作品を用意して配布する。

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・東洋館出版）『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省・教育出版）

学生に対する評価

教材研究（25%）、指導案作成（25%）、模擬授業（25%）、定期試験（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）指導案作成・発話・板書・情報機器活用の基本ができている。
（B）上記について、臨機応変な対応ができる。
（A）上記について、教え方に分かりやすさが認められる。
（S）上記について、豊かな教養や教育への情熱が感じられる。

課題に対するフィードバックの方法

意見・質問などについては、授業内で対応する。
オフィス・アワーでも対応する。

その他

受講は国語の教育職員免許状を取得しようとする者にかぎる。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高等学校・高等専門学校における国語科の実務経験がある担当教員が、教室における生徒の反応など、想定される事態について、具体的な事例を挙げて紹介する。

科目名	教育実習の研究	学期	前期	単位数	2	担当者	山脇雅夫 戸來知子
副題							
ナンバリング	G 3-17-203	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

①教育実習の事前に、実習の構造、実習の意義、実習における学びのポイントを確認し、実習に臨む心構えを整える。②教育実習の事後、実習内容のまとめと発表を通じて、実習を振り返り、他の実習生の体験を共有化することで、実習での学びを定着させる。

授業の到達目標

教育実習を通して、学校教育の全体を体験的・総合的に理解する問い目標を達成するため、事前学習並びに事後振り返りを行う。教員としての能力や適性を確認するとともに、将来教員として行う教育実践と教育実践研究に必要な知識・技能が何かを理解する。

授業計画

1．教育実習の構造と意義（担当：山脇）
2．実習生の心得（担当：山脇）
3．授業観察のポイント（担当：山脇）
4．実習日誌の作成のポイント（担当：山脇）
5．実習日誌作成演習（担当：山脇）
6．教育実習
7．教育実習
8．教育実習
9．教育実習
10．教育実習
11．実習内容の振り返り（実習生発表）１（担当：戸来）
12．実習内容の振り返り（実習生発表）２（担当：戸来）
13．実習生ディスカッション（担当：戸来）
14．教員免許取得までに必要な知識・技能（担当：戸来）
15．教育実習での学びを踏まえた教員像（担当：戸来）

準備学習（予習・復習）・時間

『教育実習の常識』の該当箇所を事前に研究しておく（予習）。講義内容を自ら振り返り、教育実習への準備においては実習での学習目標を明確化し、事後楽手においては、体験の深化・共有を図る（復習）。（計 90 分以上）

テキスト

教育実習を考える会編『教育実習の常識』蒼丘書林

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（40%）、授業における発表（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業参加において、授業技術を観察できる。
（B）授業参観において、授業技術をポイントごとに整理して観察できる。
（A）授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解できる。
（S）授業参観において、授業技術をポイントごとに観察できるとともに、その教育的意義を理解し、それを授業実践に生かすことができる。

課題に対するフィードバックの方法

テストにコメントを付し、返却する。

その他

今年度の教育実習Ⅰに行く学生は、必ず「教育実習の研究」を受講すること。

科目名	教職実践演習（中・高）	学期	後期	単位数	2	担当者	山脇雅夫 戸來知子
副題							
ナンバリング	G 4-17-204	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

４年間の教職科目の学習及び教育実習を通じて、教育指導の技術の一層の進化と定着を図ることを目標とする。

授業の到達目標

４年間の教職科目の学習及び教育実習の経験などを通じて、教職に対する理解がどれだけ深まったか。教職に対する意欲がどれだけ高揚したかを確認し、具体的な指導方法の向上を図る。

授業計画

1．本演習の目指す目標・内容について解説する。各自の教職実践演習カルテの記入。
2．各自の教育実習の体験を発表し、今日の学校の抱える課題を共有する。
3．教職および教師に対する見方の変化を発表する。
4．生徒指導（反社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
5．生徒指導（非社会的行動の生徒）の指導方法について各自の体験をもとに解決策を探る。
6．教育実習で体験した生徒指導上の問題について意見交換。
7．自分自身の学校生活を振り返っての生徒指導についての意見交換。
8．キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅰ－進学希望生徒の場合－
9．キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅱ－就職希望生徒の場合－
10．キャリアガイダンス・カウンセリングの実際Ⅲ－進路未決定生徒の場合－
11．ミニ模擬授業Ⅰ－授業方法と技術－
12．ミニ模擬授業Ⅰ－授業構成と評価－
13．授業方法、授業順序、内容構成、生徒指導のかかわりについて考察する。
14．教職実践演習カルテの記入事項の再点検と個人的課題の整理。
15．教職実践演習カルテを記入した個々の学生に対してカウンセリングを行う。まとめ。

準備学習（予習・復習）・時間

配布資料を読んでおく。事前に配布したディスカッションや課題の発表の準備をする。（100 分）
授業で用いた資料やディスカッションの内容などをノートに整理しておく。（80 分）

テキスト

プリント等、資料を配布する。

参考書・参考資料等

①原田恵理子、森山賢一編著、『自己成長を目指す教職実践演習テキスト』北樹出版②伊藤一雄他著『新・教育指導の理論と実践』サンライズ出版 2006,4

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（40%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）教員として必要な最低の実務能力が身についているか。
（B）教員として必要な最低の実務能力を身につけ、教職に対する理解と意欲が深まったか。
（A）生徒指導の基本を身につけ、教職に対する理解が深まったか。
（S）進路指導や職業指導の基本知識を習得しているか。

課題に対するフィードバックの方法

小レポートや指導案等は添削して返却する。

その他

積極的な発言を求める。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

７年間の中学校社会科教諭の経験から、学校生活（教科の授業・特別活動の指導・生徒指導・進路指導など）、教師として働くということをより具体的に理解する授業にするために、アクティブ・ラーニング基本に授業をてんかいしていく。

科目名	空海の思想入門B	学期	前期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副　題	弘法大師空海の生涯						
ナンバリング	G 1-01-248	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。したがって、弘法大師空海の生涯を知ることは、本学での学びの基礎となる。
本授業では、歴史学の立場から弘法大師空海の生涯をたどり、その歴史的意義を理解するとともに、その思想がどのような歴史的背景によって生成されてきたのかを考察できる視点を養うことを目指す。

授業の到達目標

①弘法大師空海の生涯を知り、その歴史的意義を理解する。
②弘法大師空海の思想形成における歴史的背景を考察することができる。
③弘法大師空海の生涯を学ぶことを通して、現代の諸課題に対応できる洞察力を身につける。

授業計画

1．空海が活躍した時代－奈良・平安時代の社会と仏教－
2．讃岐での少年時代－誕生と佐伯直－
3．青年時代の環境－おじ阿刀大足と桓武ファミリーとの交流－
4．山林修行と『聾瞽指帰』の撰述－「沙門空海」の誕生－
5．唐代密教の隆盛－不空三蔵と恵果阿闍梨－
6．長安の日々－留学僧として－
7．密教の宣揚にむけて－帰国後の「韜黙」－
8．伝教大師最澄との交流－「平安仏教」の成立－
9．高野山の開創－密教の宣揚－
10．天皇・太上天皇との交流－真言密教による護国－
11．満濃池と綜芸種智院－真言密教による衆生救済－
12．真言宗の成立－次代への継承－
13．空海以後の密教－日本仏教の密教化－
14．「弘法大師」の誕生－入定留身信仰とその背景－
15．弘法大師空海の生涯と現代－現代社会と弘法大師空海の生涯－

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べておくこと（90 分）、事後学修として、授業内容についてノートに整理しておくこと（60 分）

テキスト

授業時に配布するプリントによって授業を進める。

参考書・参考資料等

①渡辺照宏・宮坂有勝『沙門空海』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、1993 年）
②高木神元『空海　還源への歩み』（春秋社、2019 年）
③吉川真司『天皇の歴史２　聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、講談社、2018 年）
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、毎回の授業で行う課題（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）弘法大師空海の生涯について説明できる。
（B）弘法大師空海の生涯について、時代背景を理解したうえで説明できる。
（A）弘法大師空海の生涯について、その歴史的意義を説明できる。
（S）弘法大師空海の生涯について、その歴史学的意義をふまえ、思想形成の背景について考察することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回の授業において、弘法大師空海ゆかりの地などを紹介する。受講生は、積極的にその地を訪ね、さらに理解を深めていただきたい。

科目名	サンスクリット語ⅠB／サンスクリット語B	学期	通年	単位数	2	担当者	前谷　彰
副　題							
ナンバリング	M 1-07-249	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

サンスクリット語とはどんな言語かを理解するために、その文法体系を学び、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を養う。

授業の到達目標

サンスクリット語とはどんな言語かを理解し、サンスクリット語原典を少しでも翻訳できる能力を付ける。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション
2．音論を中心にした文法体系の理解を深める。①
3．音論を中心にした文法体系の理解を深める。②
4．音論を中心にした文法体系の理解を深める。③
5．音論を中心にした文法体系の理解を深める。④
6．音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑤
7．音論を中心にした文法体系の理解を深める。⑥
8．短文読解力を身に着ける。①
9．短文読解力を身に着ける。②
10．短文読解力を身に着ける。③
11．短文読解力を身に着ける。④
12．短文読解力を身に着ける。⑤
13．原典翻訳①
14．原典翻訳②
15．原典翻訳③

【後期】
1．原典翻訳④
2．原典翻訳⑤
3．原典翻訳⑥
4．原典翻訳⑦
5．原典翻訳⑧
6．原典翻訳⑨
7．原典翻訳⑩
8．原典翻訳⑪
9．原典翻訳⑫
10．原典翻訳⑬
11．原典翻訳⑭
12．原典翻訳⑮
13．原典翻訳⑯
14．原典翻訳⑰
15．原典翻訳⑱、まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。(60 分)
事後学修として、授業で学んだことを復習し、理解を深めておくこと。(60 分)

テキスト

担当者作成のテキストのコピーを配布する。

参考書・参考資料等

辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波全書）

学生に対する評価

学期末（前期・後期）の試験（80%）と、授業態度（20%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）Sandhi法則を理解し、結合文字を分解できること。
（B）音法則の理解を通して、語根を類推する能力を身に着けていること。語の音論を理解していること。
（A）簡単な短文を翻訳する能力を身に着けていること。
（S）難解な仏教外文献を翻訳できること。。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	心理学ⅠB	学期	後期	単位数	2	担当者	上野和久
副　題							
ナンバリング	N 1-10-250	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達的視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画

1．オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2．実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3．感覚と知覚について学ぶ。（その１）＜感覚の仕組み＞
4．感覚と知覚について学ぶ。（その２）＜知覚の仕組み＞
5．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その１）＜記憶の分類＞
6．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その２）＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7．記憶のメカニズムについて学ぶ。（その２）＜脳と記憶について＞
8．学習について学ぶ。（その１）＜古典的条件付け＞
9．学習について学ぶ。（その２）＜道具的条件付け・学習と認知＞
10．学習について学ぶ。（その３）＜学習と動機づけ＞
11．言語と思考について学ぶ。（その１）＜言語の発達＞
12．言語と思考について学ぶ。（その２）＜概念カテゴリー＞
13．言語と思考について学ぶ。（その３）＜推論とイメージ思考＞
14．意識と認知システムについて学ぶ。
15．まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる。。各授業終了後、ｆｅｅｄｂａｃｋ用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次回に提出させる。（計 90 分以上）

テキスト

梅本尭夫 , 大山正 , 岡本浩一 , 高橋雅延著『心理学第 2 版心のはたらきを知る』サイエンス社 ,2014 年

参考書・参考資料等

森津太子、森公美子編著『心理学概論』, 放送大学テキスト ,2018　年　斎藤　勇編,『図説心理学入門』 誠信書房 ,2005 年梅本尭夫 , 大山正著『心理学への招待　こころの科学を知る』サイエンス社 ,2015 年

学生に対する評価

レポート（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
（B）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを理解している。。
（A）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを説明できる。。
（S）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムとともに、脳生理学の理論をからも説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験（activelearning）を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクテーショナー、SE プラクテーショナー、ゲシュタルトセラピー 125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、「人間の心の成長と傷つき」と「回復」について、実験心理学や基礎心理学を臨床心理学と関係づけながら学び、その興味・関心を持てる場としたい。

科目名	心理学ⅡB	学期	後期	単位数	2	担当者	上野和久
副　題							
ナンバリング	N 1-10-251	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

授業計画

1．オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2．動機づけと情動について学ぶ。＜動因とホメオスタシス＞
3．動機づけと情動について学ぶ。＜誘因動機づけ＞
4．動機づけと情動について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
5．性格理論を学ぶ。＜特性論と類型論＞
6．性格理論を学ぶ。＜アイゼンクの性格理論＞
7．性格理論を学ぶ。＜ビッグファイブ理論＞
8．人間の発達理論と課題について学ぶ。＜ピアジェの発達理論＞
9．人間の発達理論と課題について学ぶ。＜フロイトの心理性発達理論＞
10．人間の発達理論と課題について学ぶ。＜エリクソンのライフサイクル理論＞
11．対人関係の心理学を学ぶ。＜集団の機能＞
12．対人関係の心理学を学ぶ。＜意思決定＞
13．対人関係の心理学を学ぶ。＜社会的手抜き・集団規範＞
14．個人と社会の心理について学ぶ。
15．まとめ。疑問点の再確認等。

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消されているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

梅本尭夫、大山正、岡本浩一、高橋雅延著『心理学第 2 版心のはたらきを知る』サイエンス社、

参考書・参考資料等

津太子、森公美子編著『心理学概論』、, 放送大学テキスト
斎藤　勇編　『図説心理学入門』 誠信書房、
梅本尭夫、大山正著『心理学への招待　こころの科学を知る』サイエンス社

学生に対する評価

レポート（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）社,2015年

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をする。
（B）基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学（社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学）の領域を理解する。
（A）心理学の基礎理論か全般を説明できる。
（S）心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験（activelearning）を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

科目名	企画科目(コミュニケーション演習Ⅰ)／人間学実習(コミュニケーション演習Ⅰ)	学期	後期	単位数	2	担当者	橋本久仁彦
副題							

ナンバリング	N 2-10-252	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3

授業の目的と概要

学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手（カウンセラー）と語り手（クライアント）の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間（聞き手と話手）の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を体験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ＝現場の発見を促す。また仏教との関わりについて多角的に講義する。

授業の到達目標

相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得すること。仏教と聞く態度の関連について知ること。

授業計画

1．講義ガイダンス：身体と言葉について・導入
2．身体の動きを聞く芸能①：影舞という在り方
3．身体の動きを聞く芸能②：指と指との「ふれ」と「ことば」
4．円坐の実習・由来について。講義と実習
5．円坐とセラピーの違いについて。講義と実習
6．長円坐と仏教との重なりについて。講義と実習
7．ミニカウンセリング・トレーニング
8．ミニカウンセリングと「傾聴」ということ
9．ミニカウンセリングから「未二観」へ
10．未二観と大乗仏教について講義と実習
11．逐語録検討①：音韻
12．逐語録検討②：間合い
13．逐語録検討③：環境音
14．他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について①
15．他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について②・まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

日常生活の中人間関係、家族や友人、職場などの具体的な関係の在り方について意識しておくこと。(120 分)
どんな疑問や葛藤でも、その具体的な事例を扱うことから授業に入るので臆せず発言されたい。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に伝える。

学生に対する評価

レポートによる評価（50%）・講義への積極的参加（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま辿らず自分の言葉で編集する。
（B）15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
（A）15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
（S）非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目（「コミュニケーション演習Ⅱ」）を受講することが望ましい。

科目名	企画科目(コミュニケーション演習Ⅱ)／人間学実習(コミュニケーション演習Ⅱ)	学期	後期	単位数	2	担当者	橋本久仁彦
副題							

ナンバリング	N 2-10-253	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3

授業の目的と概要

学生の具体的な質問に答えつつそれぞれの心境や課題を意識化する。現場で役立つコミュニケーションの核心である聞くことについて講義と実習を行う。聴き手（カウンセラー）と語り手（クライアント）の両方を体験し、録音記録と逐語記録を作る。二人の人間（聞き手と話手）の間に起こった現象を、音韻・間合い・環境音などのエネルギーのレベルにも着目して、ていねいに観察しながら、ミニカウンセリングの効果を体験する。さらに身体の動きを聞くという体験を通して、身体というコト・バ＝現場の発見を促す。また仏教との関わりについて多角的に講義する。

授業の到達目標

相手が話したいことを話したいようにそのまま聞き受けること、人の言葉を継承するということを体得すること。仏教と聞く態度の関連について知ること。

授業計画

1．講義ガイダンス：身体と言葉について・導入
2．身体の動きを聞く芸能①：影舞という在り方
3．身体の動きを聞く芸能②：指と指との「ふれ」と「ことば」
4．円坐の実習・由来について。講義と実習
5．円坐とセラピーの違いについて。講義と実習
6．円坐と仏教との重なりについて。講義と実習
7．ミニカウンセリング・トレーニング
8．ミミニカウンセリングと「傾聴」ということ
9．ミミニカウンセリングから「未二観」へ
10．未二観と大乗仏教について講義と実習
11．逐語録検討①：音韻
12．逐語録検討②：間合い
13．逐語録検討③：環境音
14 他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について①
15．他力的・共時的な場（シンクロニック・フィールド）について②・まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

日常生活の中人間関係、家族や友人、職場などの具体的な関係の在り方について意識しておくこと。(120 分)
どんな疑問や葛藤でも、その具体的な事例を扱うことから授業に入るので臆せず発言されたい。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に伝える。

学生に対する評価

レポートによる評価（50%）・講義への積極的参加（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま辿らず自分の言葉で編集する。
（B）15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
（A）15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
（S）非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

講師の講義や説明を録音してもよい。身体を動かすので動きやすい服装で参加のこと。講師の場作りの態度を素材にして活発な質疑応答を行う。この講義を受講した後に、企画科目（「コミュニケーション演習Ⅱ」）を受講することが望ましい。

科目名	企画科目（カウンセリング論B）／人間学専門講義（カウンセリング論B）	学期	後期	単位数	2	担当者	木 下 忠 恭
副題							

ナンバリング	N 2-10-254	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

前半ではカウンセリングの各理論や技法の基本的な考え方を示し、後半ではカウンセリングの実際を事例に即して取り上げ、ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

授業の到達目標

カウンセリング理論の基礎を理解し、カウンセリング技法を用いた簡単なカウンセリングができる。

授業計画

1．オリエンテーションとして、授業の内容や計画を説明
2．カウンセリングの歴史的背景を知る
3．心理アセスメントについて
4．様々なカウンセリングを知る（クライエント中心療法）
5．様々なカウンセリングを知る（精神分析的心理療法）
6．様々なカウンセリングを知る（解決思考アプローチ）
7．様々なカウンセリングを知る（認知行動療法）
8．様々なカウンセリングを知る（その他）
9．子どもへのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
10．保護者へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
11．発達障害を抱える人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
12．被虐待へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
13．非行を行う人へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
14．自傷・自殺念慮へのカウンセリングの演習（ロールプレイ含）
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる（90 分）。
各授業終了後、feedback 用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90 分）、次回に提出する。

テキスト

随時プリント配布

参考書・参考資料等

①『カウンセリングの実際問題』河合隼雄著　誠信書房　②『カウンセリングの理論』國分康孝著　誠信書房
③『カウンセリングの技等法』國分康孝著　誠信書房　④『カウンセリングとは何か』諸富祥彦著　誠信書房等

学生に対する評価

課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）カウンセリング基礎知識について、最低限基本用語を説明できる。
（B）カウンセリング基礎知識について、基本的な理論と知識が説明できる。
（A）カウンセリングの技法（最低３つ以上）と基礎知識について説明できる。
（S）カウンセリング理論とカウンセリング技法を用いて、簡単なロールプレイの中でカウンセリングができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業の随所にアクティブラーニング（activelearning）を埋め込みながら、学んでゆく。体験学習が主になるので、積極的な参加が必要。特に自己の身体感覚（フェルトセンス）に気づく体験が多いので、体調管理をして参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士、公認心理師資格を有する教官が、心理支援職という実務経験を活かして、来談者中心療法、精神分析、認知行動療法、ゲシュタルト療法などのカウンセリング技法について、その原理と演習を通して、それぞれの技法における理解と実践をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目（こころのケアとは）／人間学専門講義（こころのケアとは）	学期	前期	単位数	2	担当者	山 添　　正
副題							

ナンバリング	N 2-10-255	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	2,3

授業の目的と概要

心のケアの実践をする主体は、人であり、人と人との関わりの中でケアする訳である。場面を大きく３領域に分け、抽象的に学ぶのではなく、Corey 教授の倫理のテキストとビデオを使い、各事例を視聴した後、ワークブックの問題に取り組む事で、倫理の学習を具体的に進める。

授業の到達目標

倫理の視点より、心のケアの問題を、①意思決定、②価値観と援助関係③境界の扱いと多重関係の三つの視点から理解する。

授業計画

1．倫理的決定と７つのステップ
2．十代の妊娠と守秘義務
3．Bigbrother への対処とカウンセラーの逆転移
4．異文化（多様性）理解と IAT
5．離婚と子どものケア
6．価値観の葛藤：親からの自立と責任
7．不倫と倫理
8．面接室外での面接
9．治療関係と友人関係
10．治療関係と恋愛感情への対処
11．出生前診断と障害児の中絶
12．同性愛と“カミングアウト”
13．安楽死と人生の終結の決断
14．死刑囚をめぐるスピリチュアルな倫理的問題
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、配布テキストの該当ページを毎回読み、内容を理解しておくこと（90 分）、疑問点は授業で質問する。事前学したことと授業中に学んだことを踏まえて、授業最後の作文を書く。そして事後学習として授業で学んだ内容に関して、新たに考えたこと、生活の中で気が付いたことを、次回の授業で発言する．

テキスト

授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

ジェラルドコウリー、パトリックキャラナン 2004 年『援助専門家のための倫理問題ワークブック』創元社

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）倫理の４領域の事例の状況について知識の上で理解ができている。
（B）倫理の４領域の事例の状況について実践的に部分的理解ができている。
（A）倫理の４領域の事例の状況について実践的に全体的理解ができている。
（S）倫理の４領域の事例の状況について自分が対処できる自信がある。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後に実施する作文に書かれた質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

トロント大学大学院留学で、心理臨床における倫理問題の教授方法を学び、臨床心理士の実務をつんだ教員が、倫理の問題を　①倫理的意思決定、②価値観、③境界と多重関係を３領域に分けて、教材化し、心理臨床における倫理問題を日本の事例で探求できる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）／人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）	学期	前期	単位数	2	担当者	大河内大博
副題							

ナンバリング	N 3-10-256	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

授業計画

1．講義ガイダンス：スピリチュアルケアにおけるグループワーク
2．グループワークの基礎①（対人援助概論）
3．グループワークの基礎②（傾聴手法）
4．グループワークの基礎③（スピリチュアルケア援助訓練法）
5．グループワークの基礎④（ケアの哲学的構造）
6．生育歴セッション１－①（自己開示の訓練基礎）
7．生育歴セッション１－②（自己開示の訓練基礎）
8．生育歴セッション１－③（家族関係論）
9．生育歴セッション１－④（家族関係論）
10．生育歴セッション１－⑤（家族関係論）
11．生育歴セッション２－①（アイデンティティの形成過程）
12．生育歴セッション２－②（アイデンティティの形成過程）
13．生育歴セッション２－③（死者との共生）
14．生育歴セッション２－④（死者との共生）
15．生育歴セッション２－⑤：まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前に課された課題作成に取り組み（60 分）、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第 3 集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010 年）

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014 年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（振り返りシート）（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自己課題への気づきがあり、今後取り組む姿勢ができている。
（B）自己課題が明確であり、グループダイナミックスを理解できている。
（A）自己課題への取り組みが出来ており、他者のケアができている。
（S）自己課題への取り組みをグループダイナミックスを通して行い、他者のケアができている。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に秋学期の「スピリチュアルケア演習Ⅱ」と両方の受講を求める。各回、欠席のないようにすること。

科目名	企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）／人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）	学期	後期	単位数	2	担当者	大河内大博
副題							

ナンバリング	N 2-10-257	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

スピリチュアルケアの基本理解と対人援助理論を学習し、グループワークを通して、自己課題に取り組む。ケアされる経験を通してケアを学ぶ教育哲学のもと、自己の課題とグループメンバーへのケアを実践する。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本理解と自己課題の明確化

授業計画

1．スピーチセッション１－①（患者とのラポール形成）
2．スピーチセッション１－②（患者とのラポール形成）
3．スピーチセッション１－③（対人援助パターンの分析）
4．スピーチセッション１－④（対人援助パターンの分析）
5．スピーチセッション１－⑤（フィードバックの訓練）
6．スピーチセッション２－①（自己課題の開示）
7．スピーチセッション２－②（自己課題の開示）
8．スピーチセッション２－③（他職種連携）
9．スピーチセッション２－④（他職種連携）
10．スピーチセッション２－⑤（まとめ）
11．IPR セッション①（職業とスピリチュアルケア）
12．IPR セッション②（職業とスピリチュアルケア）
13．IPR セッション③（家族関係とスピリチュアリティ）
14．IPR セッション④（家族関係とスピリチュアリティ）
15．IPR セッション⑤：まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前に課された課題作成に取り組み（60 分）、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第 3 集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010 年）

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014 年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（振り返りシート）（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）15分間の傾聴場面において、話者の言葉をそのまま迎らず自分の言葉で編集する。
（B）15分間の傾聴場面において、話者の言葉を正確に辿ろうとする姿勢が身についた。
（A）15分間話者の言葉を正確に辿り、敬意を込めて生きた傾聴空間を作り出すことができる。
（S）非構成グループ（現場）の中で錯綜する言葉を正確に辿り、場に明晰性をもたらす力がある。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークが中心で、自己開示を必要とする。原則的に春学期の「スピリチュアルケア演習Ⅰ」の受講者を対象とする。各回、欠席のないようにすること。

科目名	企画科目（スピリチュアルケア概論）／人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）	学期	後期	単位数	2	担当者	窪寺俊之
副題							

ナンバリング	N 2-10-258	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

各授業時間（90 分）の内 60 分を講義に使い、残りの 30 分は受講者とのディスカッションをする。受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くようにする。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの基本的概念（スピリチュアルケア、スピリチュアリティ、宗教的ケア、心理的ケア、終末期医療、日本的スピリチュアリティなど）を理解し関心と興味をもつこと。

授業計画

1．スピリチュアルケアとは何か（I）WHO の健康定義の改正案
2．スピリチュアルケアの必要性、終末期医療現場での苦悩
3．スピリチュアルケアの必要性と現代医療の問題点（治療中心医療の限界）
4．スピリチュアルケアに求められているもの
5．スピリチュアルケアとは何か（II）スピリチュアルケアの定義の多様性
6．スピリチュアルとは何か、スピリットとは何か
7．スピリチュアルケアの本質、関係性、人間とは何か
8．スピリチュアルケアの目的（QOL の向上）
9．スピリチュアルケアと宗教的ケア、心理的ケアの相違点
10．スピリチュアルティの垂直的関係
11．ケアとは何か
12．スピリチュアルケア・ギバー（提供者）の養成
13．スピリチュアルな感性を磨く（スピリチュアルな視点、側面、テーマなど）
14．「竹取物語」のスピリチュアルティ
15．金子みすゞのスピリチュアリティ・授業の振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消されているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店 ,2000 年

参考書・参考資料等

窪寺俊之『スピリチュアルケア序説』三輪書店 ,2004 年
窪寺俊之『スピリチュアルケア概説』三輪書店 ,2008 年

学生に対する評価

レポート評価（50%）・発表（20%）・授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）スピリチュアルケアの基本的用語を理解できている。
（B）スピリチュアルケアの基本に加えて、宗教的ケア、心理的ケアとの関係など周辺領域との関係を広く理解できている。
（A）スピリチュアルケアを全体的に理解することに加えて、ケア者（スピリチュアルケア援助者）として、他の参考図書を読んで理解し、他者に説明することができる。
（S）スピリチュアルケアと他の領域との関係性を踏まえながら、臨床現場でスピリチュアルケアを実践するための姿勢を理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

牧師として、いのちの電話　訓練委員の経験を持つ教員が、受講者の知識と経験を掘り起こしてスピリチュアルケアの本質との関係に気付くよう授業を行う。

科目名	企画科目（メンタルヘルス）／人間学専門講義（メンタルヘルス）	学期	前期	単位数	2	担当者	根岸和政
副題	感情力から共感力へ。						

ナンバリング	N 3-10-259	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	2

授業の目的と概要

サンフランシスコ州立大学田中万里子名誉教授から学んだカウンセリングおよびカウンセラーの在り方を中心に援助職として重要なメンタルヘルス特にセルフケアおよびメンタルダメージ予防を軸としたレジリエンス UP、グループケアについて体験的に学ぶ機会とする。

授業の到達目標

1．自分の感情を上手に扱えるようになること。
2．対人援助場面におけるレジリエンスを理解し、レジリエンス（打たれ強い心）を育めるようになること。
3．グループにおけるセルフケアの方法を体験し実践できるようになること。

授業計画

1．スメンタルヘルスについて
2．セルフケア（ケアする側のケア）の重要性（traumaCare）
3．自己分析
4．セルフケアⅠの心構え
5．セルフケアⅡ（受容と共感）
6．セルフケアⅢ（リフレーム）
7．レジリエンスについてⅠ人間関係力
8．レジリエンスについてⅡ自己肯定感・自己効力感
9．グループケアについてⅠファシリテーションスキル
10．グループケアについて２自己開示
11．グループケアについて３（受容・共感）
12．グループケアについて４（分かち合い）
13．グループケアについて５（問題解決の模索法）
14．グループケアについて６（勇気づけ）
15．試験（小論文）

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学修として、テキストの該当ページを毎回読み、質問事項を準備しておくこと（60 分）
・講義終了毎に、何を学び、何を感じ取ってかをノートに整理しておくこと（30 分）

テキスト

講師が、テキストを作成し配布する。

参考書・参考資料等

・『スタンフォードのストレスを力に変える教科書』大和書房ケリーマクゴニガル神崎朗子訳・『心を癒すノート』創元社伊藤正哉樫村正美堀越勝・『世界のエリートが IQ・学歴よりも重視しリジリエンスの鍛え方』久世浩司実業之日本社・『子どもの「逆境に負けない心」を育てる本』楽しいワークで身につく「レジリエンス」足立啓美鈴木太季久世浩司イローナ・ボニウエル（監修）法研・『仏教とアドラー心理学』岡野守也佼成出版社・『仏教とカウンセリング』友久久雄編法蔵館・『自分を信じるレッスン』手塚郁恵春秋社・『心理療法に生かすロールプレイング・マニュアル』レイモンド J. コルシニ金子賢（監訳）金子書房・『一番やさしく NLP のことがわかる本』浦登記白石由利奈監修日本実業出版社・『コミュニケーション能力理論と実践』サンドラ・サヴィニョン法政大学出版局・田中万里子の DVD『子どもの心育て講座』田中万里子 Ph.DInnerCore9

学生に対する評価

小論文（30%）、発表（20%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義内容を理解している。
（B）演習に積極的に取り組むことができる。
（A）演習に積極的に取り組み、自己開示ができる。
（S）自己洞察による自分の感情の深い理解と課題発見および解決ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

無理に自己開示する必要はない。他の学生の批評・批判は禁忌とする。講義・演習において知り得た個人情報については、外部に漏らしてはならない。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

自立援助ホーム・児童養護施設において児童指導員および管理職としての経験、精神科医療機関でのソーシャルワーカー・心理技術者としての臨床経験、管理職としての経験・短見、国立大学において経済産業省の社会人基礎力育成評価事業における評価員としての体験および教職員・事務職員・学生のカウンセリング・ハラスメント防止・学生支援としてレジリエンス・サポートルームを現在も展開している。メンタルヘルスに対する臨床、人事管理・職員研修講師の経験を生かし、対人援助職者自身のケアについて、個人演習、グループ演習を通して、知識のみに偏ることなく、対人援助現場において実践できることを念頭に講義を展開している。

科目名	企画科目（もの語り心理学）／人間学専門講義（もの語り心理学）	学期	後期	単位数	2	担当者	やまだようこ
副　題	人生とケアを考える						

ナンバリング	N 2-10-260	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2,3,4

授業の目的と概要

もの語り（ナラティヴ）心理学の理論と方法論の基礎を、ワークに主体的に参与することによって実践から体験的に学ぶ。特に、「人生」「喪失」「スピリチュアリティ」「ケア」と関連づけた語りの共同生成ワークと討論を行う。

授業の到達目標

もの語り（ナラティヴ）心理学の理論をワークを通じて学ぶとともに、人生を深く考える態度を養い、ナラティヴによるケアの方法と技法を習得する。

授業計画

1．人生のイメージ（ビジュアル・ナラティヴのワーク）
2．人生のイメージと人生観
3．もの語り（ナラティヴ）とは？
4．もの語りアプローチの人間観
5．ナラティヴ心理学の理論（まとめ）
6．人生を物語る（ライフストーリー）
7．ナラティヴ・インタビューの方法
8．カウンセリングとナラティヴ・セラピー
9．ナラティヴ・インタビューの実践
10．ナラティヴ実践とケアの方法（まとめ）
11．喪失の語り－喪失から生成へのもの語りとケア
12．もの語りの語り直しと生き直し
13．もの語りによる人生の転換とレジリエンス
14．この世とあの世のイメージ
15．喪失の語りとケア（まとめ）

準備学習（予習・復習）・時間

授業後に毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること（90 分）
下記の参考書（①②）を読んでおくことが望ましい

テキスト

なし

参考書・参考資料等

①やまだようこ『喪失の語り－生成のライフストーリー』新曜社② やまだようこ（編）『人生を物語る』ミネルヴァ書房③やまだようこ（編）『人生と病いの語り』東京大学出版会④やまだようこ（編）『この世とあの世のイメージ』新曜社

学生に対する評価

授業への積極的参与と授業時の小レポート（30%）最終レポート（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業への積極的参与
（B）授業への積極的参与とレポートの提出
（A）授業への積極的参与と優れたレポートの提出
（S）授業への積極的参与と特に優れたレポートの提出。

課題に対するフィードバックの方法

授業を通じて積極的に対話を行う

その他

科目名	企画科目（家族心理学）／人間学専門講義（家族心理学）	学期	後期	単位数	2	担当者	小林奈緒美
副　題							

ナンバリング	N 2-10-261	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

夫婦というヨコの関係、親子など血縁というタテの関係、法律上の家族、地域社会との関係など複雑に絡みあった関係から生じる種々の家族問題について、社会的背景を踏まえつつ、事例を通じて、心理学的視点から家族のあり方を考察し、支援方法について学ぶ。

授業の到達目標

人を援助するにあたって、その背景にある「家族」を読み解く力を身につける。

授業計画

1．家族とは何か。
2．夫婦について
3．父と息子について
4．父と娘について
5．母と息子について
6．母と娘について
7．兄弟・姉妹について
8．家族の危機について
9．高齢者と家族について
10．家族と地域について
11．家族療法について
12．家族を支援する自助グループについて
13．家族と地域支援ネットワークについて
14．シェルターと自立支援施設について
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

平木典子・中釜洋子（共著）『家族の心理』サイエンス社 ,2006 年

参考書・参考資料等

柏木恵子（編著）『よくわかる家族心理学』ミネルヴァ書房 ,2010 年

学生に対する評価

授業参加の積極性（30%）、レポートによる評価（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）家族関係について理解できる。
（B）問題が発生した場合、その病理を関係性から読み取ることが出来る。
（A）適切な援助法を考えることができる。
（S）人を援助するにあたって、その背景にある「家族」の関係性を読み解く力がある。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

児童の問題は勿論、成人の問題であっても家族を抜きにして考えることは出来ない。小児療育支援室カウンセラー・スクールカウンセラーとして、問題を抱える家族の支援実践で培ってきたものを学生に伝え、社会の一番小さな単位としての家族関係が個々の人格発達に大きな影響を与えることを共に考え、学んでいく授業を展開し、学生のそれぞれの実践に活かしてもらうことを目指す。

科目名	企画科目（学校心理学）／人間学専門講義（学校心理学）	学期	前期	単位数	2	担当者	木 下 忠 恭
副　題							

ナンバリング	N 2-10-262	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

学校生活において生じる種々の問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングの知識などを通して、児童・生徒、及び、保護者や教師、学校に対して心理教育的支援を提供するための知識を深める。

授業の到達目標

学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

授業計画

1．学校教育と心理学 , 歴史的背景を知る
2．発達心理学的視点と学校教育
3．学校内チーム支援について
4．保護者と学校を支援する視点
5．児童期の発達と学校教育
6．児童期の学習の問題について
7．児童期の不登校について
8．児童期の仲間関係といじめについて
9．児童期における学校内チーム支援の在り方について
10．思春期・青年期の発達と学校教育
11．思春期・青年期の学習の問題について
12．思春期・青年期の不登校について
13．思春期・青年期の仲間関係といじめについて
14．思春期・青年期における学校内チーム支援の在り方について
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

・石隈利紀著『学校心理学――教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』(1999・誠信書房)・学校心理士資格認定委員会編『学校心理学ガイドブック』第 2 版（2007・風間書房）・その他の参考書は、適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学校における心理学的な課題について、基本的な事項を知っている。
（B）学校における心理学的な課題について、資料を見ながらその内容や問題点を説明できる。
（A）学校における心理学的な課題について、一つの事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。
（S）学校における心理学的な課題について、複数の事柄について、その内容を説明し、改善、解決策を提示できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

できるだけ、わかりやすい授業を心がけたい。現在的の課題を扱い、受講生からの積極的な質疑・意見をいただき、“臨床の知” を共に深めていきたい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

教職経験や臨床心理士、公認心理師資格を有する教官が、教員と心理支援職という 2 種類の実務経験を活かして、不登校、いじめ、虐待、発達障害などの問題について、多面的にその原理、分析、対応を学ぶこと通して、学校における心理的な理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目（災害心理学）／人間学専門講義（災害心理学）	学期	後期	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題							

ナンバリング	N 2-10-263	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

PTSD、複雑性悲嘆などの基本的概念を理解したうえで、災害後の時期によって変化していく多様なニーズに応えるための心理学的、及び、その周辺領域の知識を修得する。

授業の到達目標

災害時における心理的支援に学んだ知見を活用する態度を理解している。

授業計画

1．災害時支援における我が国の現状と課題
2．災害教育
3．心のケア（サイコロジカル・ファースト・エイドについて）①
4．心のケア（サイコロジカル・ファースト・エイドについて）②
5．心のケア（サイコロジカル・ファースト・エイドについて）③
6．復興支援学とは
7．復興とコミュニティ
8．復興と災害障害者
9．復興支援とボランティア
10．復興支援とホスピス活動
11．復興支援とナチュラル・サポーター
12．復興支援とジェンダー
13．復興時の分断と格差への対応
14．復興支援と宗教
15．講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし､疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

金 吉晴『心的トラウマの理解とケア　第 2 版』じほう，2006 年。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）災害時に起こりうる心理的事象を理解している。
（B）災害時に起こりうる心理的事象を理解し、必要な心理的支援について考えることができる。
（A）災害時における心理的支援に関する知見を活用する態度を理解している。
（S）災害時における心理的支援に関する知見を活用する態度を理解している、かつ、起こりうる心理的事象について説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、災害時の現場の活動から明らかになった課題と PTSD や複雑性悲嘆などの基本的概念を講義し、災害後の時期によって変化してゆく多様なニーズに応えるための心理学的及びその周辺領域の知識の活かし方を身につけさせる。

科目名	企画科目（死生観Ｂ）／人間学専門講義（死生観Ｂ）	学期	後期	単位数	2	担当者	山本佳世子
副　題							

ナンバリング	N 2-03-264	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

日本人の死生観の変遷と、現代日本人の死生観について、映画や絵本を取り上げながら、理解を深める。講義及びディスカッションを通して、受講者が自身の死生観を見つめ直し、培う。

授業の到達目標

日本人の死生観についての理解を深めると同時に、受講者それぞれの死生観を見つめ直し、培うことができるようになること。

授業計画

1．死生学と死生観
2．死生観の生成と涵養
3．死に向き合う（映画「赤ひげ」）
4．死までの生を生きる（映画「生きる」）
5．グループワーク、ディスカッション①（絵本『100 万回生きた猫』）
6．死からの生を生きる（映画「殯の森」「岸辺のふたり」）
7．故人との関係性（絵本『老夫婦』、映画「加奈子のこと」）
8．日本人の死生観と他界観（絵本『このあとどうしちゃおう』）
9．死者を送る（映画「おくりびと」）
10．グループワーク、ディスカッション②（絵本『わすれられないおくりもの』）
11．この世とあの世を媒介するもの：お迎え（映画「赤ひげ」）
12．この世にいる死者：幽霊（映画「岸辺の旅」）
13．新しい葬送の形：死者はどこにいるのか（歌「千の風になって」）
14．「無宗教」という死生観
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

参考書として挙げられている図書に事前に目を通しておくと理解が深まる（60 分）。
さらに、事後にさらに理解を深めるために読むこともお勧めする（60 分）。
また、挙げられている映画や絵本は一部のみ観賞する。全編観賞することをお勧めする（120 分）。

テキスト

適宜指示する。

参考書・参考資料等

・佐藤弘夫『死者の花嫁―葬送と追悼の列島死』幻戯書房、2015 年
・波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞出版、2004 年

学生に対する評価

期末レポート（50%）、毎回の授業時に提出する課題（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）日本人の死生観について基本概念を理解し、自身の死生観をなんとなく説明できる。
（B）日本人の死生観とその変遷を配布資料に沿って理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
（A）日本人の死生観とその変遷を配布資料を含む複数の資料を見ながら他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、自身の死生観を自分の言葉で説明できる。
（S）日本人の死生観とその変遷を資料を見ずに他者に自分の言葉で説明できる程度に理解し、「日本人の死生観」に比較言及しながら自身の死生観を自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

授業計画は予定であり、取り上げる映画等、一部変更する可能性がある。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

スピリチュアルケア師を指導できる資格を有し、グリーフケアカウンセラーの経験を持つ教員が、日本人の死生観の理解を深め、映画や絵本に現れる死生観をディスカッションしながら自身の死生観の気づき、培う場とさせる科目である。

科目名	企画科目（社会心理学）／人間学専門講義（社会心理学）	学期	後期	単位数	2	担当者	松下歩睦
副　題							

ナンバリング	N 2-10-265	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

自己と他者・集団・社会の社会心理学の基礎的テーマを講義し、様々な社会心理現象をより細かく知ることで理解を深める。自己と他者の分野では、社会における個人の自己のありかたや他者に対する認知や感情が研究されている。また、集団・社会の分野では、より応用的な研究が行われている。たとえば、対人関係を円滑にするための社会的スキル・説得的コミュニケーションなどがあげられる。この授業では、講義をはじめ、映画を通してワールドカフェ法などを行いながら、それらの研究を支える様々な理論的枠組みについて話し合いながら学んでいくことで理解を深める。

授業の到達目標

・社会心理学の基本用語について自分の言葉で説明が出来るようになる
・更に映画を通してより現実的に理解し、意見交換をしながらより多くの意見を取り入れる

授業計画

1．社会心理学概論
2．社会的認知の基礎：脳と認知
3．対人認知：第一印象形成
4．対人感情
5．自己概念
6．自己開示
7．向社会的行動
8．反社会的行動
9．対人コミュニケーション（言語的）
10．対人コミュニケーション（非言語的）
11．説得的コミュニケーション
12．集団の中の人間　リーダー
13．集団の中の人間　葛藤
14．ネットワーク
15．まとめと振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

・事後学修として、テキストの該当ページを読み、専門用語の意味をより深く理解する (45 分)
・講義内容と講義で配布される資料の要点をノートに整理する (45 分)
・事後学修として、授業で学んだことを日常生活とリンクさせ振り返る (45 分)
・課題について調べてまとめ、発表の準備をする。発表後内容について各自で整理する (45 分)

テキスト

山岸俊男（編集）『社会心理学キーワード』有斐閣 ,2001 年

参考書・参考資料等

堀洋道（監修）『新編社会心理学 [改訂版]』福村出版 ,2009 年

学生に対する評価

授業参加の積極性＋小レポート（70%）各テーマ発表（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）社会心理学の基本用語を覚えている。
（B）社会心理学の基本用語について、参考書やノートの言語を用いて、説明できる。
（A）社会心理学の基本用語について、参考書やノートを見て、自分の言葉で説明できる。
（S）社会心理学の基本用語について、自分の言葉で説明が出来、深く理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う
・レポート発表のフィードバック方法は授業の中で指示する

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士としての教育現場や相談機関での実務経験を生かし、集団や社会について体験的に学習可能な教材を選択し、机上の勉強だけにとどまらずより現実的に理解しやすい形で学習することで、具体的に実生活に活かすことが出来る能力を身につけさせる。

科目名	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）／人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）	学期	前期	単位数	2	担当者	五明優介
副　題							

ナンバリング	N 2-10-266	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

・心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解する。・実験や調査のレポートを書き、他者に伝える能力を修得する。・被験者に配慮すべきこと考察して、倫理に則った実験や調査の重要性を知る。・実習では実験者と被検者双方を体験することによって、実験、調査のポイントをつかむ。・調査や実験に影響してくるさまざまな物事に対して考察を行い、どうような場所や人などに調査を行うか把握して、適切に実施する能力を身につける。

授業の到達目標

①心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解し、説明できる。②基本的な実験、調査方法の手順を理解して、適切に実施することができる。③実験結果を統計的に処理して、規定に則った様式でレポートにまとめることができる。④被験者に配慮することの意味を理解し、実施できる。

授業計画

1．ガイダンス（心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導）
2．感覚・知覚領域①錯視
3．感覚・知覚領域①錯視
4．感覚・知覚領域②大きさの恒常性
5．感覚・知覚領域②大きさの恒常性
6．記憶領域③短期記憶測定
7．記憶領域③短期記憶測定
8．記憶領域④単語の再生と再認
9．記憶領域④単語の再生と再認
10．学習領域⑤両側性転移
11．学習領域⑤両側性転移
12．認知領域⑥ストループ効果
13．認知領域⑥ストループ効果
14．レポート課題発表会（各自で各課題を１つ選択し結果と考察を発表する）
15．まとめ（総括と発表への補足説明）

準備学習（予習・復習）・時間

・実習で使う機材や道具の作成や準備を行う（45 分）。前回の実習を振り返り、課題や改良すべき点を確認する（45 分）・授業後に毎回宿題を課すので次回に小レポートとして提出すること（45 分）、また指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと（45 分）。

テキスト

・心理学実験指導研究会編 『実験とテスト . 心理学の基礎－実習編－』 培風館 ,1985 年・鎌原雅彦他 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房 ,1998 年・フィンドレイ 『心理学実験研究レポートの書き方』 北大路書房 ,1996 年

参考書・参考資料等

・日本心理学会認定心理士資格認定委員会 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房 ,2015 年。・他は授業中で紹介する

学生に対する評価

・課題毎に提出するレポートによる評価（60%）・課題発表 (40%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）心理学的実験の用語を覚えており、正しく説明できる。
（B）心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。
（A）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。
（S）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

実験の授業は一旦始まると時間的な融通を利かせられないため、遅刻、欠席は厳禁である。本講義は基礎的な心理学の知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくこと。グループワークを行う講義である。次回欠席が明らかである場合は、事前にグループメンバーおよび講義担当者に申告しておくこと。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

大学病院で研究コーディネートを行っている教員（臨床心理士・公認心理師）による心理実験の実施手順など実務経験に基づいた指導を行う。具体的には、学生がグループになり実習を行いながら、認知や生理の観点における心理的な理解を目指す。また、実験を統計的に処理し、考察を行い、先行研究と比較しつつ自身の考えをまとめられる能力育成を目指す。知識の習得だけでなく、実験で取り扱った内容が日常生活でどのように活用されている具体的な例を提示して、実験内容の活用を考える力をつける。

科目名	企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）／人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）	学期	後期	単位数	2	担当者	五明優介
副　題							

ナンバリング	N 2-10-267	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

・心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解する。・実験や調査のレポートを書き、他者に伝える能力を修得する。・被験者に配慮すべきこと考察して、倫理に則った実験や調査の重要性を知る。・実習では実験者と被検者双方を体験することによって、実験、調査のポイントをつかむ。・調査や実験に影響してくるさまざまな物事に対して考察を行い、どうような場所や人などに調査を行うか把握して、適切に実施する能力を身につける。

授業の到達目標

①心理学における基本的な実験、調査方法の種類や内容を理解し、説明できる。②基本的な実験、調査方法の手順を理解して、適切に実施することができる。③実験結果を統計的に処理して、規定に則った様式でレポートにまとめることができる。被験者に配慮することの意味を理解し、実施できる。④自身の調べたい課題について、実験・調査を計画して、倫理に配慮して適切な手順で実施できる。

授業計画

1．ガイダンス（心理学実験法について・講義の進め方・レポートの書き方指導）
2．社会領域⑦パーソナルスペース測定
3．社会領域⑦パーソナルスペース測定
4．社会領域⑧囚人のジレンマ（ゲーム行動）
5．社会領域⑧囚人のジレンマ（ゲーム行動）性
6．産業領域⑨ SD 法
7．産業領域⑨ SD 法
8．産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
9．産業領域⑩メンタルヘルス質問紙作成及び分析
10．人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
11．人格領域⑪人格の測定法。質問紙作成及び分析
12．臨床領域⑫インタビュー面接法（KJ 法）果
13．臨床領域⑫インタビュー面接法（KJ 法）
14．レポート課題発表会（各自で各課題を１つ選択し結果と考察を発表する）
15．まとめと総括（実験の補足説明）

準備学習（予習・復習）・時間

・実習で使う機材や道具の作成や準備を行う（45 分）。前回の実習を振り返り、課題や改良すべき点を確認する（45 分）・授業後に毎回宿題を課すので次回に小レポートとして提出すること（45 分）、また指定された論文を読み問題点を明らかにした上で授業に臨むこと（45 分）。

テキスト

・心理学実験指導研究会編 『実験とテスト . 心理学の基礎－実習編－』 培風館 ,1985 年・鎌原雅彦他 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房 ,1998 年・フィンドレイ 『心理学実験研究レポートの書き方』 北大路書房 ,1996 年

参考書・参考資料等

・日本心理学会認定心理士資格認定委員会 『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』 金子書房 ,2015 年。・他は授業中で紹介

学生に対する評価

・課題毎に提出するレポートによる評価（60%）・課題発表 (40%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）心理学的実験の用語を覚えており、正しく説明できる。
（B）心理学的実験をテキストをみながら手順どおりに行うことができる。
（A）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施することができる。
（S）心理学的実験の目的・意義を理解して、実施して、レポートにまとめることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見には、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

実験の授業は一旦始まると時間的な融通を利かせられないため、遅刻、欠席は厳禁である。本講義は基礎的な心理学の知識をもとに実験を行うので、予め心理学の概論書を読み予習しておくこと。グループワークを行う講義である。次回欠席が明らかである場合は、事前にグループメンバーおよび講義担当者に申告しておくこと。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

大学病院で研究コーディネートを行っている教員（臨床心理士・公認心理師）による心理実験の実施手順など実務経験に基づいた指導を行う。具体的には、学生がグループになり実習を行いながら、認知や生理の観点における心理的な理解を目指す。また、実験を統計的に処理し、考察を行い、先行研究と比較しつつ自身の考えをまとめられる能力育成を目指す。知識の習得だけでなく、実験で取り扱った内容が日常生活でどのように活用されている具体的な例を提示して、実験内容の活用を考える力をつける。

科目名	企画科目（心理検査法演習Ⅰ）／人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）	学期	前期	単位数	2	担当者	木 下 忠 恭
副　題							

ナンバリング	N 2-10-268	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ，心理的把握の視点を身につける。この講義では、主として、質問紙法によるパーソナリティ把握や心理的概念を把握するために開発された心理尺度に触れ、その理論的背景、解釈方法を学ぶ。尚、この講義を受講後に、心理検査法演習Ⅱを受講することが望ましい。

授業の到達目標

心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

授業計画

1．質問紙法の基本的考え方について
2．パーソナリティ論及びその把握について①　（類型論）
3．パーソナリティ論及びその把握について②　（特性論）
4．MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈①　（実施方法について）
5．MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈②　（MMPI コード表をもとに解釈）
6．MMPI の歴史と実施方法、及び、解釈③　（実際の解釈を行って気づいた点を検討）
7．Y-G 性格検査について
8．Big5 について
9．知能検査について（WISC・WAIS・ビネー式検査など）①　（実施方法について）
10．知能検査について（WISC・WAIS・ビネー式検査など）②　（解釈について）
11．領域別心理測定（対人関係・価値観について）①　＜対人関係の心理測定について＞
12．領域別心理測定（対人関係・価値観について）②　＜価値観の心理的測定について＞
13．領域別心理測定（ストレスと適応について）①　＜生理学的方法によって＞
14．領域別心理測定（ストレスと適応について）②　＜心理学的方法によって＞
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料や参考文献に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

願興寺礼子・吉住隆弘（著）『心理検査の実施の初歩（心理学基礎演習）』ナカニシヤ出版，2011 年
その他、適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）心理検査や心理査定について基本的な事項を知っている。
（B）心理検査や心理査定について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
（A）心理検査や心理査定について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
（S）心理検査や心理査定について、一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または解釈ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士や公認心理師資格を有する教官が、その実務経験を活かして、エゴグラムや YG 性格検査やクレペリン作業検査や WAiS などの心理査定について、その原理、実施、分析を通して、被検査者の理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目（心理検査法演習Ⅱ）／人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）	学期	後期	単位数	2	担当者	木 下 忠 恭
副　題							

ナンバリング	N 2-10-269	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

本講義は、臨床現場で使用されるテストに触れ，心理的把握の視点を身につける。この講義では、投影法によるパーソナリティや心的状態を把握するための理論や方法を学び、人間理解の一助となる視点を身に付ける。尚、この講義を受講する前に、臨床心理学検査法演習Ⅰを受講していることが望ましい。

授業の到達目標

投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

授業計画

1．投影法検査の考え方について
2．ロール・シャッハテストについて①　＜スコアリングについての学習＞
3．ロール・シャッハテストについて②　＜検査者となり検査の実施＞
4．ロール・シャッハテストについて③　＜被験者となり検査を体験＞
5．ロール・シャッハテストについて④　＜解釈について教科書をもとに復讐＞
6．P-F スタディについて①　＜実施方法について＞
7．P-F スタディについて②　＜解釈について＞
8．風景構成法について①　＜実施方法について＞
9．風景構成法について②　＜解釈について＞
10．描画法について（HTP・バウム・スクイッグルなど）①　＜実施方法について＞
11．描画法について（HTP・バウム・スクイッグルなど）②　＜解釈について＞
12．箱庭療法の体験、及び、解釈について①　＜実施方法について＞
13．箱庭療法の体験、及び、解釈について②　＜解釈について＞
14．箱庭療法の体験、及び、解釈について③　＜箱庭療法の応用編　他の心理療法との併用＞
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料や参考文献に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

願興寺礼子・吉住隆弘（著）『心理検査の実施の初歩（心理学基礎演習）』ナカニシヤ出版，2011 年
その他、適時紹介する。

学生に対する評価

次の評価事項、基準にて評価を行う。・課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）投影法や描画法について、基本的な事項を知っている。
（B）投影法や描画法について、資料を見ながら目的や留意点を説明できる。
（A）投影法や描画法について、一つの検査について、資料を見ながら、実施できる。
（S）投影法や描画法について一つ以上の検査について、資料を見ながら、実施し、分析または簡単な解釈ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士や公認心理師資格を有する教官が、その実務経験を活かして、箱庭や PF スタディや風景構成法や S-HTP などの心理査定について、その原理、実施、分析を通して、被検査者の理解をより深めることができる力を身につけさせる。

科目名	企画科目（心理測定法）／人間学専門講義（心理測定法）	学期	後期	単位数	2	担当者	五 明 優 介
副　題							

ナンバリング	N 2-10-270	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

・心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解する。・講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。
・統計に基づいた論文を読み、内容を理解できる知識を修得する。・心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。・授業内で機器（表計算ソフト Excel や統計解析ソフト SPSS などを使用）を用いて機器による計算についての知識を修得する。授業時間外課題としてコンピューターを用いた分析実習とを行う。

授業の到達目標

・統計の基本用語について理解でき、説明できる。・様々な統計手法の特徴を理解して、適切な方法で計算を行うことができる。
・統計ソフトの操作を習得して、統計処理を素早く行うことができるようになる。・統計結果の記載方法を理解して、学術論文などの内容を理解できるようになる。

授業計画

1．データ縮約記述
2．推測統計
3．独立変数と従属変数
4．質的変数と量的変数
5．被験者内要因と被験者間要因
6．t 検定と分散分析
7．１要因の分散分析
8．２要因分析主効果と交互作用・被験者内要因を含む分散分析
9．ノンパラメトリック法
10．相関
11．回帰分析①
12．回帰分析②
13．連関
14．χ２検定①
15．χ２検定②

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ（45 分）、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす（45 分）。
・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い（45 分）、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する（45 分）。

テキスト

・吉田寿夫 『本当にわかりやすくすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房， 1998 年

参考書・参考資料等

・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会 ,2004 年・他は授業中で紹介する

学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する（60%）、レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）統計の基本用語を覚えている。
（B）統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
（S）統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

・予め、「心理統計学」を受講し、統計的方法の基礎的知識を持っていることを前提とする。・電卓やパソコンを取り入れた科目である。・実習やグループワークを行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助している教員（臨床心理士・公認心理師）の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親し

科目名	企画科目（心理統計学）／人間学専門講義（心理統計学）	学期	前期	単位数	2	担当者	五 明 優 介
副　題							

ナンバリング	N 2-10-271	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

・心理学研究における統計解析の基礎手法と意味を理解する。・統計学は、本を読むことや授業を聞いただけでは身につかない。課題を自分で解き、また各種のデータを使って自ら演習を行うといった主体的な学習による知識の取得を目指す。
・講義形式の授業であるが、授業内で電卓やパソコンを用いた計算等の演習を行い、機器を扱える技術を修得する。・統計に基づいた論文を読み、内容を理解できる知識を修得する。
・心理学で扱うテーマは、たとえば、感覚のように人によって異なるものを扱うことが多い。統計学を用いることにより、抽象的な物ごとを科学的エビデンスに基づいて表すことの重要性を知る。

授業の到達目標

・統計の基本用語について理解できる。・心理統計を用いた学術論文を理解できるようになる。
・基本的な心理統計の具体的な算出方法を理解し、実際に答えを導き出すことができる。・計算結果から、統計的な解釈を行い、自身の考えを述べることができる。

授業計画

1．授業の目的と方針：①なぜ心理学研究に統計が必要か
2．授業の目的と方針：②日常生活の中でのデータにもとづく判断
3．さまざまな心理学データ：①変数のタイプ（質的・量的）分類
4．さまざまな心理学データ：②量的変数と質的変数の集計。度数分布・代表値・散布度等
5．２つの質的変数の分析：①クロス表を用いた場合
6．２つの質的変数の分析：②関連と独立性の判断
7．量的変数の分析：①記述統計指標。度数分布・平均・散布度
8．量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布（１）
9．量的変数の分析：②変数の標準化と正規分布（２）
10．量的変数の条件間比較：①条件間比較のポイント・散布度の重要性・データ数の重要性
11．量的変数の条件間比較：②１要因分散分析・③平均による比較が適切でない場合
12．量的変数の条件間比較：④対応のあるデータの性質と分析方法
13．２つの量的変質数間の分析：①相関図の作成方法
14．２つの量的変質数間の分析：②相関係数の算出方法
15．２つの量的変質数間の分析：③相関の解釈の問題点・相関関係と因果関係

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、講義で取り扱う統計手法について調べ(45 分)、毎回の講義で扱った統計手法について要点をまとめ覚えなおす(45 分)。
・事後学習として、講義内で取り扱った統計手法を実際に計算を行い（45 分）、講義内容と講義で配付される資料の要点をノートに整理する（45 分）。

テキスト

・吉田寿夫 『本当にわかりやすくすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房， 1998 年

参考書・参考資料等

・下山晴彦ほか 『心理学研究法入門』 東京大学出版会 ,2004 年・他は授業中で紹介する

学生に対する評価

単元ごとの定期テストの合計点により評価する（60%）・レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）統計の基本用語を覚えている。
（B）統計の基本用語について、テキストを見ながら説明できる。
（A）統計の基本用語についてテキストをみて自分の言葉で説明し、計算の意味を理解している。
（S）統計の基本用語について理解でき、適切な方法で計算を行い、結果の解釈を行うことができる。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。 定期テストは、添削し次回授業時に返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

その他

・電卓やパソコンを取り入れた科目である。・心理測定法も併せて履修することが望ましい。・グループワークを行う科目である。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

・大学病院での研究支援及び医学的論文の作成を援助している教員（臨床心理士・公認心理師）の指導により、統計的な概念、計算方法の理解を目指す。
・グループディスカッションを通じて統計的な解釈に親しみをを持てることを目指す。・身近に使われている統計資料を提示し、そこに含まれる課題などを講義の内容に照らし合わせて考えていく。

科目名	企画科目（深層心理学）／人間学専門講義（深層心理学）	学期	後期	単位数	2	担当者	山 添　正
副　題							

ナンバリング	N 2-10-272	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

日常の生活を送る上で、私たちは、自身の言動をすべて意識して行っているわけではない。例えば、普段口にしないようなことを思わず口走ってしまうことや、平時であればなんでもないことでも、ストレスフルな環境下では、些細なことでも怒りが湧いてくるといったことは誰もが体験していることだろう。このように自身が意識・感知していない領域、すなわち、無意識の心理過程が我々にはあると考え、研究を重ねてきた領域が深層心理学の分野である。本講義では、深層心理学の分野において多大な影響を与えている精神分析学とその諸派の基本的な概念、及び、分析心理学の概念について取り扱う。

授業の到達目標

臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

授業計画

1．精神分析学以前の学説
2．精神分析誕生について．夢判断・錯誤行為
3．無意識の発見・心的構造論
4．神経症の症例を通じて
5．自我心理学とライフサイクル論について
6．自己心理学について
7．対象関係論について①
8．対象関係論について②
9．ラカンの精神分析理論について
10．分析心理学誕生について
11．タイプ論
12．夢分析
13．元型論
14．集合的無意識と東洋思想
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの関連するページを毎回読み、内容を理解しておくこと（90 分）、疑問点は授業で質問する。事前学習したことと授業中に学んだことを踏まえて、授業最後の作文を書く。そして事後学習として授業で学んだ内容に関して、新たに考えたこと、生活の中で気が付いたことをまとめ（90 分）、次回の授業で発言する。

テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター ,2001 年

参考書・参考資料等

適時、紹介する。

学生に対する評価

レポートにて評価する（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）精神分析に関心がある。
（B）精神分析に関する基礎的な知識を身につけている。
（A）精神分析の知識のみならず技能も理解している。
（S）臨床現場で精神分析の知見を活用する態度を有している。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後に実施する作文に書かれた質問や意見については、毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

ユング研究所留学で夢分析を学び、フロイト派の分析家にスーパーバイズを受け、深層心理学をユングとフロイトを中心にして学び、さらに臨床心理士としての実務経験を重ねた教員が、学生に日本人の事例を深層心理学的に理解できる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目（発達心理学B）／人間学専門講義（発達心理学B）	学期	前期	単位数	2	担当者	小林奈緒美
副　題							

ナンバリング	N 2-10-273	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

生涯発達の視点より、乳幼児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達時期における認知、情動、運動、社会性などの特徴を解説する。また、臨床現場における実際についても事例を踏まえて考えていく。

授業の到達目標

発達的観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考えることが出来る。

授業計画

1．発達心理学とは
2．遺伝と環境、及び、初期経験
3．言語の発達について
4．認知の発達について
5．発達段階と発達課題（総論）
6．乳児期の発達について
7．幼児期の発達について
8．児童期の発達について
9．思春期の発達について
10．青年期の発達について
11．成人期の発達について
12．老年期の発達について
13．発達障害とその支援①＜自閉症スペクトラムを中心に＞
14．発達障害とその支援②＜発達障害と発達性トラウマ＞
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる（90 分）。
各授業終了後、フィードバック用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90 分）、次回に提出する。

テキスト

随時、講師作成の資料を配布

参考書・参考資料等

関一夫・斎藤慈子（編）『ベーシック発達心理学』東京大学出版会 ,2018 年
無藤隆・田島信元・高橋恵子（著）『発達心理学入門』

学生に対する評価

課題（複数）レポート（50%）・授業中の発表・ディスカッション、実習等の参加度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）人間の発達過程における重要語句を最低限の説明できる。
（B）人間の発達過程の概ねの理解とそれぞれの発達過程の課題や問題点を説明できる。
（A）人間の発達過程における課題や問題点への基本的な援助方法を説明できる。
（S）発達的観点に基づいて総合的に人を理解し、適切な援助方法を考え、説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

小児療育支援室カウンセラー・スクールカウンセラーとして、種々の心理テストによって発達理論を実証してきたことや、障がい問題、非行問題、閉じこもり問題などを生涯発達理論の視点で捉えた実践で培ってきたものを学生に伝える。発達理論を深め、理論と実践の橋渡し的な授業展開を目指す。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習ⅠA)／人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅠA)	学期	前期	単位数	2	担当者	山 添　正
副　題							

ナンバリング	N 2-10-274	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

まず面接のプロセスが、来談者と面接者との出会いから始まり、治療的関係が形成され、面接作業がどのように進むかについての理論学習と平行して、各ステップごとに教科書と関連する DVD を視聴して、具体的にどのように面接が進められているか実践的に理解します。その後、受講生同士で面接（ピア面接）を行い、記録に残してスーパービジョンを受け、実践的に面接技術の学習をする。

授業の到達目標

テキストは面接過程を 13 段階にわけており、段階ごとの基本的概念とテクニックを学ぶ。

授業計画

1．面接のはじめ
2．治療的関係
3．治療目標の確立
4．多様性の理解と対応
5．抵抗の理解と対処
6．面接における認知的焦点化
7．面接における感情的焦点化
8．面接における行動的焦点化
9．面接における発達的焦点化
10．統合的視点
11．転移
12．逆転移
13．過去が現在に与える影響の理解
14．決断と行動変化への作業
15．評価と終結

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

ジェラルド・コーレイ『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践』金子書房 ,2011 年

参考書・参考資料等

『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践 DVD 版』金子書房

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的概念の理解はできている。
（B）概念だけでなく技能の理解も出来ている。
（A）概念、技能、ロールプレイのパーフォーマンスが優れている。
（S）臨床現場でここでの学びを応用実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

トロント大学大学院留学で、カウンセリング過程の各ステップごとの教材の内容を研究し、その教材を利用しながら、臨床心理士としての実務経験をもとに、具体的に、また実践的に面接の過程の基礎概念を指導し、また日本の事例を紹介しながら、文化差の問題に触れながら説明し、学生のケースにかかわることのできる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習ⅠB)／人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅠB)	学期	前期	単位数	2	担当者	山 添　正
副　題							

ナンバリング	N 3-10-275	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

まず面接のプロセスが、来談者と面接者との出会いから始まり、治療的関係が形成され、面接作業がどのように進むかについての理論学習と平行して、各ステップごとに教科書と関連する DVD を視聴して、具体的にどのように面接が進められているか実践的に理解する。その後、受講生同士で面接（ピア面接）を行い、記録に残してスーパービジョンを受け、実践的に面接技術の学習をする。

授業の到達目標

テキストは面接過程を 13 段階にわけており、段階ごとの基本的概念とテクニックを学ぶ。

授業計画

1．面接のはじめ
2．治療的関係
3．治療目標の確立
4．多様性の理解と対応
5．抵抗の理解と対処
6．面接における認知的焦点化
7．面接における感情的焦点化
8．面接における行動的焦点化
9．面接における発達的焦点化
10．統合的視点
11．転移
12．逆転移
13．過去が現在に与える影響の理解
14．決断と行動変化への作業
15．評価と終結

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

ジェラルド・コーレイ『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践』金子書房 ,2011 年

参考書・参考資料等

『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術：理論と実践 DVD 版』金子書房

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的概念の理解はできている。
（B）概念だけでなく技能の理解も出来ている。
（A）概念、技能、ロールプレイのパーフォーマンスが優れている。
（S）臨床現場でここでの学びを応用実践できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

トロント大学大学院留学で、カウンセリング過程の各ステップごとの教材の内容を研究し、その教材を利用しながら、臨床心理士としての実務経験をもとに、具体的に、また実践的に面接の過程の基礎概念を指導し、また日本の事例を紹介しながら、文化差の問題に触れながら説明し、学生のケースにかかわることのできる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習ⅡA)／人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅡA)	学期	後期	単位数	2	担当者	山 添　正
副　題							

ナンバリング	N 2-10-276	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

ボランティアまたは実習で係わった人との事例報告書作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかを 12 のアプローチ方法を比較しながら、それを自分の発表ケースに当てはめながら、他の受講生の感想も参考にしながら、スーパービジョンを通して学ぶ。

授業の到達目標

事例に対して、12 のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパービジョンを通して学び、自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解ができるようになる。

授業計画

1．スーパービジョンについてのガイダンス
2．精神分析的視点からのケース・アプローチ
3．アドラー派の視点からのケース・アプローチ
4．実存分析的視点からのケース・アプローチ
5．来談者中心療法の視点からのケース・アプローチ
6．ゲシュタルト療法的視点からのケース・アプローチ
7．行動療法的視点からのケース・アプローチ
8．認知行動療法的視点からのケース・アプローチ
9．現実療法的視点からのケース・アプローチ
10．フェミニスト療法的視点からのケース・アプローチ
11．ポストモダン的視点からのケース・アプローチ
12．家族療法的視点からのケース・アプローチ
13．統合的視点からのルースへのケース・アプローチ
14．受講者自身の面接スタイルの探求
15．日本人との面接の留意点

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター ,2001 年

参考書・参考資料等

Gerald Corey（2012）『 Case approach to Counseling and Psychotherapy　8 edition』

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）臨床場面でかかわったケースの記録をまとめている。
（B）ケース・アプローチ方法の基礎知識を理解している。
（A）ケース・アプローチ方法の知識のみならず、技能も理解している。
（S）自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解が出来ている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

トロント大学大学院留学で、統合的カウンセリングの方法を学び、そこでの教材を活用しつつ、臨床心理士としての実務経験をもとに、学生が自分の事例報告書を作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかスーパービジョンを通して、それぞれの理論と事例を理解できる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習ⅡB)／人間学専門講義(臨床心理学面接演習ⅡB)	学期	後期	単位数	2	担当者	山 添　正
副　題							

ナンバリング	N 2-10-277	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

ボランティアまたは実習で係わった人との事例報告書作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかを 12 のアプローチ方法を比較しながら、それを自分の発表ケースに当てはめながら、他の受講生の感想も参考にしながら、スーパービジョンを通して学ぶ。

授業の到達目標

事例に対して、12 のアプローチ方法は、どのようなアセスメントと治療テクニックであるかをスーパービジョンを通して学び、自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解ができるようになる。

授業計画

1．スーパービジョンについてのガイダンス
2．精神分析的視点からのケース・アプローチ
3．アドラー派の視点からのケース・アプローチ
4．実存分析的視点からのケース・アプローチ
5．来談者中心療法の視点からのケース・アプローチ
6．ゲシュタルト療法的視点からのケース・アプローチ
7．行動療法的視点からのケース・アプローチ
8．認知行動療法的視点からのケース・アプローチ
9．現実療法的視点からのケース・アプローチ
10．フェミニスト療法的視点からのケース・アプローチ
11．ポストモダン的視点からのケース・アプローチ
12．家族療法的視点からのケース・アプローチ
13．統合的視点からのルースへのケース・アプローチ
14．受講者自身の面接スタイルの探求
15．日本人との面接の留意点

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、テキストに目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

松井紀和『カウンセリングを学ぶ人の為の心理療法の基礎と実際』カウンセリング教育サポートセンター ,2001 年

参考書・参考資料等

Gerald Corey（2012）『 Case approach to Counseling and Psychotherapy　8 edition』

学生に対する評価

レポート（30%）、発表（30%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）臨床場面でかかわったケースの記録をまとめている。
（B）ケース・アプローチ方法の基礎知識を理解している。
（A）ケース・アプローチ方法の知識のみならず、技能も理解している。
（S）自分はどのケース・アプローチ方法が適切か自分のケースへの適用の理解が出来ている。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

講義中における活発な質疑、議論を求めます。積極的に参加すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

トロント大学大学院留学で、統合的カウンセリングの方法を学び、そこでの教材を活用しつつ、臨床心理士としての実務経験をもとに、学生が自分の事例報告書を作成し、発表する。それに対して、どのようなアセスメントと治療テクニックがあるかスーパービジョンを通して、それぞれの理論と事例を理解できる能力を身につけさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習Ⅲ)／人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅲ)	学期	前期	単位数	2	担当者	山 本 和 美
副　題							

ナンバリング	N 2-10-278	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	2,3,4

授業の目的と概要

・学生が自らの心身に向き合うことでマインドフルネスとは何かを体験的に理解する。
・学生の日常生活においても実践的に身に着けてゆくことを通して、自己理解を深める。
・学生が心理的ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆく。
・授業は、講義と演習を織り交ぜて進めてゆく。

授業の到達目標

・学生が自らの心身に向き合うことでマインドフルネスとは何かを体験的に理解できるようになる。
・学生の日常生活においても実践的に身に着けてゆくことを通して、自己理解を深めることができる。
・学生がマインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨むための人間としての器を培ってゆくことができる。

授業計画

1．臨床心理学におけるマインドフルネスの位置づけ
2．注意の向け方
3．食とマインドフルネス
4．呼吸・身体感覚について
5．自己認知について
6．心身医学：　生物・心理・社会的観点
7．ものごとの関係性
8．心と身体の関係
9．ストレス反応と対応
10．心の性質と情動調律
11．コミュニケーションについて
12．治療的関係
13．共感・共感疲労
14．日常生活でのマインドフルネスの実践
15．ふりかえり

準備学習（予習・復習）・時間

・事後学修として講義内容について復習　(30 分)
・実習内容を振り返り、実習を継続し、自身の体験を記録する　(120 分)

テキスト

その都度プリントを配布する。

参考書・参考資料等

『呼吸による気づきの教え』井上ウィマラ　佼成出版社
『マインドフルネスストレス低減法』春木豊訳　北大路書房

学生に対する評価

レポート（70%）、授業参加の姿勢（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）マインドフルネスの基本的な考え方を理解する。
（B）マインドフルネスを通じて、自己の感覚と向き合うことができる。
（A）マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づく。
（S）マインドフルネスを通じて、自身の在り様に気づき、心理ケアの場面に臨む心構えを身につける。

課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

・アクティブ・ラーニング（グループワーク、実習）を取り入れた科目である。
・身体を活用したワークが含まれるため、学生は動きやすい服装を着用すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士として実務経験をもつ教員により、集団・個人を対象としたカウンセリングの基本およびマインドフルネスの実務経験を生かして体験的に学修する授業を行い、学生自身が自己をより良く理解することを通じて、対人援助の場面での適切な対応につなげる能力を身に付けさせる。

科目名	企画科目(臨床心理学面接演習Ⅳ)／人間学専門講義(臨床心理学面接演習Ⅳ)	学期	後期	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題							

ナンバリング	N 2-10-279	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

人生のあらゆる場面での臨床場面を想定し、どのようなクライアントと面接しているときでも、その人の存在を全人的に理解し関わることができるようにするために、臨床心理学的視点とスピリチュアリティの涵養を含めて理解とトレーニングを積み重ねてゆく。授業は講義と演習を交えながら進めてゆく。

授業の到達目標

生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につける。

授業計画

1．人生と発達
2．世代間伝達
3．発達促進的環境
4．疾病利得
5．終末期を生きること
6．認知症を生きること・家族の支援
7．悲しむ力と育む力
8．トラウマケア、グリーフケア、スピリチュアルケア
9．スーパービジョンとスピリチュアリティ
10．コンステレーション
11．全人的医療と全人的ケア
12．幸せの心理学
13．感情労働と燃えつき防止
14．苦しみと解放
15．講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

窪寺俊之『死とスピリチュアルケア論考』関西学院大学出版会 ､2019 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）生老病死の苦しみについて理解する。
（B）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解する。
（A）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度について考えることができる。
（S）生老病死の苦しみに伴う痛みについて理解した上で、そのケアの態度を身につけ、自身のケア観について他者に述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、講義及びグループ演習を通じて、生老病死の苦しみに伴う痛みを理解し実践するための姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミＩＣ（教育心理学）／人間学専門講義（教育心理学）	学期	前期後期	単位数	2	担当者	上野和久
副題							

ナンバリング	N 3-10-280	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

学校現場における生徒の課題や問題解決に必要な知識を習得すると共に、より有効な教授・学習方法について理解を深めていく。学習をより効果的に習得できるように、言語の発達、記憶のメカニズム、学習のプロセスについて学ぶ。さらに学習の評価についても学ぶ。生徒の成長・発達を理解することで、より効果的な学習ができるように、人間の発達段階について学ぶ。特別な配慮や支援を必要とする生徒についての理解を深める。

授業の到達目標

・学習のメカニズムと過程を理解し、教育活動において一層効果的に指導し、良い結果を得るための心理学的知見を知る。・人間の発達を理解し、生徒の心身の発達と認知機能や言語の発達とを関連づけて理解する。・学習と評価の問題について理解を深める。・発達障害を持つ生徒や特別支援教育との関連からの生徒理解を深める。

授業計画

1．オリエンテーション。授業の概要と授業計画の説明。教育心理学とは何かについて概観する。
2．発達過程と教育の関連について。現代の子どもの心理学的特性を理解する。
3．様々なライフサイクル論の紹介。エリクソンのライフサイクル論・乳児期から遊戯期について学ぶ。
4．エリクソンのライフサイクル論・児童期・青年期の課題と特徴および学習との関連性を知る。
5．エリクソンのライフサイクル論・人生の後半と若い世代への関わりあいについて学習する。
6．学習のメカニズムについて学ぶ。動機づけ、記憶のメカニズム等。
7．学習効果と自尊感情の関連性について理解する。「無気力」について学習する。
8．知的能力の発達について学ぶ（表象的思考の発達と創造性の発達。）
9．学習指導の心理学的理論を紹介する。プログラム学習と協同学習について学ぶ。
10．学習意欲と教育評価について学ぶ。
11．発達障害（LD、ADHG など）について理解する。発達障害（LD、ADHG など）について理解する。
12．生徒の問題行動とその対応法について考察する（いじめ、不登校、引きこもり等）。
13．生徒の不適応とストレス対処法について学ぶ。スクールカウンセラーの役割について考える。
14．特別な支援を必要とする生徒について理解を深める（事例を通して学習する）。
15．自己指導能力を発達させる方法を学ぶ。これまでの学習の総括を行う。定期試験

準備学習（予習・復習）・時間

授業の前に必ず教科書の該当箇所を読んでおくこと。配布している問題集形式のプリントを解答しておくこと。(90 分) 授業後は、専門用語を中心として自分で学習内容をノートにまとめ、問題集形式のプリントを再確認しておくこと。(90 分)

テキスト

桜井茂男編,『教育心理学』. 図書文化 ,2003 年

参考書・参考資料等

伊藤良高・永野典詞・大津尚・中谷彪編、『子ども・若者政策のフロンティア』、晃洋書房 ,2012 年

学生に対する評価

小レポートの提出（20%）・出席状況およびディベート等の状況（25%）・学期末試験（55%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学習のメカニズムを理解している。
（B）様々な学習方法を説明できる。
（A）自尊感情と学習の成果の関連を説明できる。
（S）様々な学習評価を理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

毎回出席を取る。テーマを決めてプレゼンテーションをしてもらう。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

教職経験（教諭ならびに管理職）32 年間の教育現場での知識を和歌山大学において教員養成課程で実践している。その授業の中において、教育心理学を生かしたアクティブラーニングの実践授業を行っている。これらの実践体験をもとに、新しい視点から教育心理学の講義を試みる。それは、大人の枠組みからの教育心理学と、学ぶ側からの教育心理学という 2 方向からみた「学びのこころ」を考える場として授業を行っている。

科目名	人間学特殊ゼミＩＤ（宗教学入門）／人間学専門講義（宗教学入門）	学期	前期	単位数	2	担当者	山脇雅夫
副題							

ナンバリング	N 2-03-281	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

宗教学は宗教を客観的に考察する人間科学の一つである。この講義では、宗教の原初形態の考察から始め、宗教の諸類型、宗教の四大要素などを、宗教学の基礎的知識を学ぶ。

授業の到達目標

宗教学の基本的知識を習得する。

授業計画

1．宗教学の立場
2．宗教の原初形態
3．科学・呪術・宗教
4．宗教の諸類型（有神論と無神論）
5．宗教の諸類型（神秘主義と預言者宗教）
6．宗教の諸類型（救い型・悟り型・つながり型）
7．宗教の構成要素
8．宗教の実在観
9．宗教的人間観・世界観
10．宗教儀礼
11．おまつり
12．宗教と社会
13．宗教体験
14．宗教の機能
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

テキストの該当箇所を読んでおく（予習 90 分)。講義内容を整理し､関連文献を調査する（復習 90 分)。それぞれ講義時間と同等の時間を充てること。

テキスト

脇本平也『宗教学入門』(講談社学術文庫、1997 年)

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポート（60%)、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）宗教学の基礎的知識を理解している。
（B）宗教学の基礎的知識をより専門的に理解している。
（A）宗教学の基礎的知識を理解し、自分なりの宗教理解に活かしている。
（S）宗教学の基礎知識の上に、宗教学の専門的事項について、さらに進んだ学習をしている。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

科目名	人間学特殊ゼミＩＥ（悲嘆学）／人間学専門講義（悲嘆学E）	学期	前期	単位数	2	担当者	森崎雅好
副題							

ナンバリング	N 2-10-282	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し､悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1．悲嘆の定義・理論
2．悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3．犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4．犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5．虐めと虐待①（虐め体験について）
6．虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7．難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8．難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9．ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10．ホスピス・緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11．自死遺族支援①（遺族の心理）
12．自死遺族支援②（サポートグループについて）
13．災害時支援①（災害による喪失体験）
14．災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15．講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂 ,2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミＩＦ（悲嘆学）／人間学専門講義（悲嘆学F）	学期	前期	単位数	2	担当者	森崎雅好
副題							

ナンバリング	N 3-10-283	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

グリーフ(grief)とは悲嘆を意味し､悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1．悲嘆の定義・理論
2．悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3．犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4．犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5．虐めと虐待①（虐め体験について）
6．虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7．難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8．難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9．ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10．ホスピス・緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11．自死遺族支援①（遺族の心理）
12．自死遺族支援②（サポートグループについて）
13．災害時支援①（災害による喪失体験）
14．災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15．義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分)、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂 ,2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導)・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミⅡC（人格心理学）／人間学専門講義（人格心理学）	学期	後期	単位数	2	担当者	上野和久
副題							

ナンバリング	N 3-10-284	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

日常で何気無く使われる「人格」や「性格」という概念を心理学ではどのように扱っているのかを、これまでのカウンセリング理論を概観しながら理解していく。各理論が人間をどのように見ていくのか、「自分」と「他者」を理解するための様々な考え方を学び、臨床の現場でどのように活かすことができるかを考える。

授業の到達目標

性格の諸理論、性格と社会・文化との関連及び性格の適応と異常について理解している。

授業計画

1．ガイダンス．講義の目的・概要の解説を行う
2．性格の諸理論①　精神分析的アプローチ
3．性格の諸理論②　学習理論、自己理論
4．性格の諸理論③　人間性アプローチ
5．性格の類型論
6．性格の特性論
7．性格の発達とライフサイクル
8．性役割と性格
9．家族関係と性格 人間関係と性格
10．コミュニケーションと性格
11．適性について
12．問題行動と性格
13．性格の正常と異常
14．性格の適応的変化．文化と性格
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べる（90 分）。
各授業終了後、ｆｅｅｄｂａｃｋ用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し（90 分）、次回に提出する。

テキスト

国分康孝著『カウンセリングの理論』誠信書房 ,1981 年

参考書・参考資料等

①詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊共著 『新心理学ライブラリ９　性格心理学への招待［改定版］自分を知り他者を理解するために』サイエンス社 ,2003 年
②目幸黙僊、黒木賢一編著、『心理臨床におけるからだ』 朱鷺書房 ,2006 年

学生に対する評価

レポート（50%）・発表（10%）・授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）性格の諸理論に関する用語を理解している。
（B）性格の諸理論の説明ができる。
（A）性格の諸理論の説明ができ、かつ、性格と社会・文化との関連について理解している。
（S）性格の諸理論、性格と社会・文化との関連及び性格の適応と異常について理解している。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験（activelearning）を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

公認心理師、臨床心理士、ガイダンスカウンセラー、NLP プラクテーショナー、SE プラクテーショナー、ゲシュタルトセラピー 125 時間トレーニング終了等の研修並びに資格取得の実績と 32 年間の教育臨床、開業臨床の経験知から、今後、臨床心理学領域における人格心理学の知識を深める。

科目名	人間学特殊ゼミⅡD（一神教の世界）／人間学専門講義（一神教の世界）	学期	後期	単位数	2	担当者	山脇雅夫
副題							

ナンバリング	N 2-03-285	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教のそれぞれの経典を読みながら、これらの一神教の考え方を学ぶ。

授業の到達目標

ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の考え方の基本を理解する。

授業計画

1．セム語族の宗教
2．ユダヤ教の基本
3．性旧約聖書の神
4．性旧約聖書の世界創造神話
5．旧約聖書の人間創造神話
6．旧約聖書における信仰
7．十戒の意味
8．キリスト教の基本
9．イエスの生涯
10．イエスという体験
11．三位一体の神
12．キリストとは何か？
13．イスラム教の基本
14．コーランを読む
15．イスラム法

準備学習（予習・復習）・時間

テキストの関連個所を事前に学習しておく（予習 90 分）。講義内容を振り返るとともに、一神教について自分なりの理解を整理する（復習 90 分）。

テキスト

中村圭志『聖書、コーラン、仏典』(中公新書)

参考書・参考資料等

授業中に読む経典は、授業中に配布。

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）一神教の本質について、テキストの主張を理解している。
（B）一神教の本質について、テキストの主張を理解し、自分のことばで表現できる。
（A）一神教の本質を理解し、多神教等のほかの宗教との違いを理解している。
（S）一神教の本質についての理解し、現代社会におけるその意味を考察できる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにコメントを付し、返却する。

その他

科目名	人間学特殊ゼミⅡE（自殺学）／人間学専門講義（自殺学E）	学期	後期	単位数	2	担当者	森崎雅好
副題							

ナンバリング	N 2-10-286	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業の到達目標

自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

授業計画

1．日本における自殺の現状
2．世界における自殺の現状
3．自殺についての理論①精神分析的視点
4．自殺についての理論②認知論的視点
5．自殺についての理論③対人関係論的視点
6．自殺と精神障害
7．自殺と自傷
8．自殺対策①：危機介入
9．自殺対策②：予防的介入
10．自殺対策③：事後の対応
11．自殺とメディア
12．自殺とインターネット
13．自殺と文化
14．自殺と社会
15．講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消さているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自殺に関する基本的な知識を身につけている。
（B）自殺を志向する心理について理解している。
（A）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
（S）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	人間学特殊ゼミⅢF（スピリチュアルケア実践論）／人間学専門講義（スピリチュアルケア実践論）	学期	後期	単位数	2	担当者	大河内大博
副題							

ナンバリング	N 2-10-287	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

本授業では、国内のスピリチュアルケアの理論について学習し、加えて、会話記録セッションによるグループワークを通して、自らの実践の振り返り、ケア実践の強みと弱みについての自己理解を深める。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの理論を正しく理解し、グループワークを通して自らの実践を振り返る視点を身につける。

授業計画

1．スピリチュアルケアの基礎
2．スピリチュアルケアの理論①（窪寺理論）
3．スピリチュアルケアの理論②（大下理論）
4．スピリチュアルケアの理論③（村田理論）
5．スピリチュアルケアの理論④（伊藤・谷山・小西理論）
6．会話記録セッション①（患者とのラポール形成）
7．会話記録セッション②（患者とのラポール形成）
8．会話記録セッション③（対人援助パターンの気づき）
9．会話記録セッション④（対人援助パターンの気づき）
10．会話記録セッション⑤（他職種連携について）
11．会話記録セッション⑥（他職種連携について）
12．会話記録セッション⑦（質問法とフィードバック）
13．会話記録セッション⑧（質問法とフィードバック）
14．会話記録セッション⑨（カンファレンスのコーディネート）
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前に課された課題作成に取り組み（60 分）、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第 3 集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010 年）

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014 年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自己課題への気づきを得ている。
（B）自己課題が明確であり、グループダイナミックスを理解できている。
（A）自己開示ができ、課題に取り組み姿勢がみえている。
（S）スピリチュアルケアの基本的対人姿勢が理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークでは自己開示を必要とする授業である。土 3 の「スピリチュアルケア演習」（前後期）とセットで受講することが望ましい。

科目名	祖典講読ⅢC	学期	前期	単位数	2	担当者	土居夏樹
副題	『弁顕密二教論』巻上を読む１						
ナンバリング	M 3-01-288	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

弘法大師空海の『弁顕密二教論』では、法身説法という思想を中心に、密教の特徴が論じられている。この講義では、『弁顕密二教論』巻上を原典から読み進み、「密教とは何か」という問題を考えて行く。前期は特に、教相判釈・仏身論の基礎知識と、『釈摩訶衍論』による顕密教判を中心に進める。

授業の到達目標

弘法大師空海の著作に親しみつつ、教相判釈および仏身論の基礎知識を習得し、弘法大師の「密教」の基本的定義を理解する。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ① 教相判釈とは？
3．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ② 仏身論の基礎知識
4．『弁顕密二教論』の思想的背景と撰述時期 ③ 顕密対弁の変遷
5．『弁顕密二教論』巻上を読む（1）顕教と密教 ① 顕教とは？
6．　〃　（2）顕教と密教 ② 秘蔵金剛頂経の説
7．　〃　（3）顕教と密教 ③ 顕教への執着 / 造論の意義
8．　〃　（4）顕教と密教 ④ 法身説法の有無
9．　〃　（5）伝匠の談不＆典拠の問答
10．　〃　（6）『釈論』による顕密教判 ①『釈摩訶衍論』について
11．　〃　（7）『釈論』による顕密教判 ② 五重問答（前編）
12．　〃　（8）『釈論』による顕密教判 ③ 五重問答（後編）
13．　〃　（9）『釈論』による顕密教判 ④ 果海問答 / 因海問答
14．　〃　（10）『釈論』による顕密教判 ⑤ 不二摩訶衍仏・円円海徳諸仏
15．講前期のまとめ―密教と顕教―

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60 分）。
・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60 分）。
・その他の学習については講義内で指示する（60 分）。

テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部 1966 年　（←事務室で購入）

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社
②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社
③小田慈舟『十巻章講説』下巻、高野山出版社
④宮坂宥勝監修『空海コレクション』Ⅰ、ちくま学芸文庫　　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業内での素読（20%）、授業への参加度（20%）、期末レポート（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『弁顕密二教論』の素読ができる。
（B）「仏身論」についての基礎的な説明ができる。
（A）『弁顕密二教論』の引用経論とその特徴について説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、『弁顕密二教論』における「密教」定義の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習をすること。
・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに事務室で受け取り目を通すこと。

科目名	祖典講読ⅢD	学期	前期	単位数	2	担当者	松長潤慶
副題	『般若心経秘鍵』を読む１						
ナンバリング	M 3-01-289	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

『般若心経』は、人々に最もよく知られている大乗仏教の代表的な経典である。弘法大師空海は、『般若心経』に関して独自の見解を披瀝する著作として『般若心経秘鍵』を著した。『般若心経秘鍵』は、『般若心経』の秘められた本質を解き明かす鍵になる書物という意味を持つ。授業では、この思想の背景にある思想を確認しつつ、『般若心経秘鍵』の原典を読み進め理解する。

授業の到達目標

弘法大師空海の著作に親しみ、その思想の特質を理解する。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．『般若心経秘鍵』の特色①（著作の背景）
3．『般若心経秘鍵』の特色②（全体構成）
4．『般若心経』の基礎知識
5．『般若心経秘鍵』の歴史的背景と内容構成
6．序「題目・帰敬序・発起序・大綱序・大意序」
7．正宗分「『般若心経』の題号の釈」
8．「『般若心経』の要旨」
9．「『般若心経』の五分科」
10．「人法総通分」
11．「分別諸乗分・普賢菩薩の悟り」
12．「文殊菩薩の悟り」
13．「弥勒菩薩の悟り」
14．「声聞と縁覚の悟り」
15．弘法大師空海の『般若心経』理解の独自性

準備学習（予習・復習）・時間

予習は必要ないが、授業後に復習することが望ましい。約２時間。

テキスト

高野山大学編『十巻章』高野山大学出版部

参考書・参考資料等

宮坂宥勝監修『空海コレクション２』筑摩書房

学生に対する評価

試験（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる。
（B）原典の内容を部分的に理解できる。
（A）『般若心経秘鍵』を体系的に理解できる。
（S）空海の著作を体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業毎に確認する。

その他

科目名	祖典講読ⅣC	学期	後期	単位数	2	担当者	土居夏樹
副題	『弁顕密二教論』巻上を読む２						
ナンバリング	M 3-01-290	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

前期に引き続き、『弁顕密二教論』巻上を読み進める。この講義では、『弁顕密二教論』巻上に引用された諸宗のテキストおよび大師の解釈、さらにはそれが諸宗の教学本来の立場ではどのように論じられるものであるのか、という点を踏まえつつ、「密教とは何か」という問題を考えて行く。

授業の到達目標

弘法大師空海の著作に親しみつつ、大師当時の諸宗の教学に関する基礎知識を習得し、大師の定義する密教の特徴を理解する。

授業計画

1．前期のまとめと概論（講義の進め方等）
2．『弁顕密二教論』巻上を読む（11）華厳宗の果分不説 ① 因分可説・果分不可説
3．　〃　（12）華厳宗の果分不説 ② 華厳教学における法蔵解釈
4　〃　（13）天台宗の果分不説 ① 三諦と随情説・随情智説・随智説
5．　〃　（14）天台宗の果分不説 ② 顕教の宗極
6　〃　（15）天台宗の果分不説 ③『法華経』教主と「或者」
7．　〃　（16）法相宗の果分不説 ① 四重二諦と三能変
8．　〃　（17）法相宗の果分不説 ② 法相教学における法身説法
9．　〃　（18）三論宗の果分不説 ① 八不と無生法忍
10．　〃　（19）三論宗の果分不説 ②『般若灯論釈』の仏身論
11．　〃　（20）三論宗の果分不説 ③ 三論教学の法身説法
12．　〃　（21）二重二諦と密号名字
13．　〃　（22）五種言説と十種心量
14．　〃　（23）『菩提心論』の顕密対弁
15．後期のまとめ―密教とは何か―

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（60 分）。
・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60 分）。
・その他の学習については講義内で指示する（60 分）。

テキスト

・高野山大学編、『十巻章』、高野山大学出版部 1966 年（事務室で購入）

参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十巻章』、高野山出版社
②栂尾祥雲『現代語の十巻章と解説』、高野山出版社
③小田慈舟『十巻章講説』下巻、高野山出版社
④宮坂宥勝監修『空海コレクション』Ⅰ、ちくま学芸文庫　　※その他、授業において指示する。

学生に対する評価

授業内での素読（20%）、授業への参加度（20%）、期末レポート（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『弁顕密二教論』の素読ができる。
（B）「四家大乗（華厳宗・天台宗・法相宗・三論宗）各宗の基礎的な教義や歴史を説明できる。
（A）四家大乗（華厳宗・天台宗・法相宗・三論宗）批判の問題点を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、『弁顕密二教論』における「密教」定義の特徴を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・素読や基礎用語の解説など、授業内で指名して答えてもらうので、必ず予習をすること。
・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。
・毎回資料を配布する。万が一欠席した場合は、次回までに事務室で受け取り目を通すこと。

科目名	祖典講読ⅣD	学期	後期	単位数	2	担当者	松長潤慶
副題	『般若心経秘鍵』を読む２						
ナンバリング	M 3-01-291	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

『般若心経秘鍵』についての概論と、前期の授業で扱った内容の復習から始め、前期に引き続いて『般若心経秘鍵』を講読し、理解する。前期に引き続き授業を行うので、「祖典講読ⅢD」を受講することが望ましい。

授業の到達目標

弘法大師空海の著作に親しみ、その思想の特質を理解する。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．『般若心経秘鍵』の特色
3．『般若心経』の基礎知識
4．『般若心経秘鍵』の歴史的背景と内容構成
5．「分別諸乗分・観音菩薩の悟り」
6．「行人得益分」
7．「総帰持明分」
8．「秘蔵真言分」
9．「問答形式の補説」
10．「流通分」
11．「上表分」
12．『般若心経秘鍵』のまとめ①（本書の位置づけ）
13．『般若心経秘鍵』のまとめ②（本書の特異性）
14．弘法大師空海の『般若心経』理解の独自性①（空海の思想）
15．弘法大師空海の『般若心経』理解の独自性②（密教教理）

準備学習（予習・復習）・時間

予習は必要ないが、授業後に復習することが望ましい。約２時間。

テキスト

高野山大学編『十巻章』高野山大学出版部

参考書・参考資料等

宮坂宥勝監修『空海コレクション２』筑摩書房

学生に対する評価

試験（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる。
（B）原典の内容を部分的に理解できる。
（A）『般若心経秘鍵』を体系的に理解できる。
（S）空海の著作を体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業毎に確認する。

その他

科目名	密教学講読演習G	学期	後期	単位数	2	担当者	松長潤慶
副　題	密教図像学を学ぶ						
ナンバリング	M 3-01-292	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

密教学講特殊講義Ｆで学んだ知識を基本とし、図像学的見地から各種曼荼羅の尊像の成立に関して様々な角度から比較研究を行う。本授業では、前期で行った図像資料講読演習を基礎とし、曼荼羅に登場する尊格についての講系を総合的に学習する。そのため、基礎知識として前期の授業での講読演習が不可欠となるので通期で受講することが望ましい。

授業の到達目標

各種曼荼羅における密教尊像の基本構成を学習し、図像学の立場から密教の流伝を学ぶことを目的とする。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．曼荼羅尊像に関する基礎知識　（仏の種類）
3．曼荼羅尊像に関する基礎知識　（仏の展開）
4．曼荼羅尊像に関する基礎知識　（密教仏の種類）
5．曼荼羅尊像に関する基礎知識　（密教仏の展開）
6．曼荼羅尊像に関する基礎知識　（曼荼羅諸尊の種類）
7．曼荼羅尊像に関する基礎知識　（曼荼羅諸尊の展開）
8．密教の流伝に関する基礎知識　（初期密教以前の密教要素）
9．密教の流伝に関する基礎知識　（初期密教）
10．密教の流伝に関する基礎知識　（中期密教　前期）
11．密教の流伝に関する基礎知識　（中期密教　前期）
12．密教の流伝に関する基礎知識　（中期密教　後期）
13．密教の流伝に関する基礎知識　（後期密教　前期）
14．密教の流伝に関する基礎知識　（後期密教　後期）
15．密教の流伝の総合的評価

準備学習（予習・復習）・時間

予習は必要ないが、授業後に復習することが望ましい。約２時間。

テキスト

大正新脩大蔵経図像部

参考書・参考資料等

①松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995 年②頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994 年③佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962 年

学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（30%）、ノート作成（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）曼荼羅に関する基礎知識を習得する
（B）密教尊像に関する基礎知識を習得する
（A）尊像の流伝に関して理解する
（S）密教図像に関して体系的に理解できる

課題に対するフィードバックの方法

授業毎に行う。

その他

科目名	仏教学講読演習C	学期	後期	単位数	2	担当者	岡田英作
副　題	心とはなにかⅡ						
ナンバリング	M 3-02-293	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乗仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画

1．オリエンテーション（講義の進め方等）とビデオ鑑賞（仏教に関するもの）
2．アビダルマ仏教－南方上座部ならびに説一切有部の範疇論－
3．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（１）大地法－
4．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（２）大善地法－
5．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（３）大煩悩地法・大不善地法－
6．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（４）小煩悩地法・不定地法－
7．アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（５）心心所の働き方－
8．大乗仏教－大乗経典と大乗論師－
9．大乗仏教－瑜伽行派の範疇論と心の分析（１）六識－
10．大乗仏教－瑜伽行派の心の分析（２）マナ識・アーラヤ識－
11．大乗仏教－転識得智－
12．大乗仏教－仏性・如来蔵－
13．大乗仏教－中観派の範疇論と心の分析－
14．密教－『大日経』「住心品」－
15．授業の総括とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間

講義内容の要点をノートなどに整理すること（60 分）、講義で取り上げた専門用語を辞書類で調べて意味を理解しておくこと（30 分）
紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90 分）

テキスト

竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入･絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

①佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、2013、②師茂樹『「大乗五蘊論」を読む』春秋社、2015、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編［改訂版］』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教についての基礎的な事項を理解している。
（B）仏教における心についての各思想を理解している。
（A）仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
（S）仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること

科目名	仏教学講読演習D	学期	前期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副　題	『発心集』を読む―仏教説話入門―						
ナンバリング	M 3-04-294	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

鴨長明の『発心集』巻３と巻４を読む。毎回いくつかの説話をとりあげ、表現や成立背景の追求からそのテーマについて考えてみる。また各話の配列にも留意して説話集として構造についても考える。仏教説話の基礎的な事柄を学び、その特徴を理解する。

授業の到達目標

説話の構造、配列を理解し、『発心集』の面白さを説明することができるようになる。仏教説話の基礎的な事柄を説明できるようになる。

授業計画

1．ガイダンス－講義の進め方、『発心集』の序文を読む－
2．巻３を読む①（往生）
3．巻３を読む②（武者の往生）
4．巻３を読む③（入水往生）
5．巻３を読む④（断食往生、そして行を非難すること）
6．巻３を読む⑤（入水の苦しさ、全ては心しだい）
7．巻３を読む⑥（きこりと高僧）
8．巻３を読む⑦（こどもの信心）
9．巻４を読む①（三昧座主）
10．巻４を読む②（法華経の聖、乞者を憐れむ①）
11．巻４を読む③（乞者を憐れむ②、僧と女性①）
12．巻４を読む④（僧と女性②、臨終正念①）
13．巻４を読む⑤（臨終正念②）
14．巻４を読む⑥（厭離穢土）
15．巻４を読む⑦（垂迹と方便）、『発心集』の序文を再び読む

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲について調べ（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

講義資料を配付

参考書・参考資料等

伊東玉美『発心集』上下（角川ソフィア文庫）、その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパー（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教説話について理解している。
（B）『発心集』巻１巻２の各話のテーマを理解している。
（A）『発心集』巻１巻２の各話のテーマを理解し、説話集としての構造的繋がりも理解している。
（S）『発心集』巻１巻２のへの理解から、その編纂意図を論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーに、次回講義冒頭で答え、学びの連続性を確保する。

その他

問題意識を持って説話を読んで欲しい。毎回のリアクションペーパーを活用して欲しい。

科目名	仏教学講読演習E	学期	前期	単位数	2	担当者	前谷　彰
副　題	スッタニパータ						
ナンバリング	M 3-02-295	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

『スッタニパータ』の講読を通して、ブッダの肉声に迫り、仏教思想の根幹を学んで行く。

授業の到達目標

仏教思想の基本を、仏教における最古の経典と目されている『スッタニパータ』の講読を通して理解できるようになる。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『スッタニパータ』という経典について解説する。
3．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。①（蛇の経）
4．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。②（犀の一角の経）
5．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。③（いやしい人の経）
6．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。④（慈しみの経）
7．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑤（慈しみの経）
8．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑥（なまぐさの経）
9．『スッタニパータ』から重要な経を選択し、講読・解説する。⑦（戒めの経）
10．『スッタニパータ』コラム１を読んで解説する。（コラム・自灯明）
11．『スッタニパータ』コラム２を読んで解説する。（慈悲）
12．『スッタニパータ』コラム３を読んで解説する。（中道）
13．『スッタニパータ』コラム４を読んで解説する。（非我）
14．『スッタニパータ』コラム５を読んで解説する。（縁起）
15．総まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修としてテキストを読み、専門用語の意味を理解しておくこと。（60 分）
事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

前谷彰訳・解説『ブッダのおしえ』（講談社）

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教の基礎語彙を抑えている。
（B）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（A）「縁起」「慈悲」「中道」「非我」のメカニズムを説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	真言密教講読演習Ｆ	学期	後期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副　題	『性霊集』を読む						
ナンバリング	M 3-01-296	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

弘法大師空海の漢詩文集である『遍照発揮性霊集』(『性霊集』) は、草創期の真言密教において重要な文献であるだけでなく、弘法大師空海の生涯や当時のさまざまな動向を知る上で貴重な史料である。
本講義では、講読演習として『性霊集』所収の漢詩文を読み解きながら、歴史学的な視点からその内容を分析し、草創期の真言密教について考察するとともに、歴史学の立場で卒業論文を作成するための史料読解の手法を修得することを目指す。

授業の到達目標

①『性霊集』を講読することを通じて、弘法大師空海の生涯や草創期の真言密教について理解する。
②歴史学研究の基礎となる史料読解の手法を修得する。

授業計画

1．歴史学の史料としての『性霊集』〈講義〉
2．『性霊集』からみた弘法大師空海の生涯〈講義〉
3．『性霊集』の講読箇所についての討論（ディスカッション）
4　『性霊集』の序文を読む－『性霊集』成立の背景－
5．『性霊集』を読む①（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
6　『性霊集』を読む②（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
7．『性霊集』を読む③（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
8．『性霊集』を読む④（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
9．『性霊集』を読む⑤（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
10．『性霊集』を読む⑥（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
11．『性霊集』を読む⑦（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
12．『性霊集』を読む⑧（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
13．『性霊集』を読む⑨（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
14．『性霊集』を読む⑩（各自が選択した一篇について現代語訳などを発表・ディスカッション）
15．『性霊集』を読んで（講読を通じて各自が得たことについてのディスカッション）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、講読箇所について辞書等を用いて用語を調べておくこと（90 分）、事後学修として、講読箇所について現代語訳や解釈などをノートに整理しておくこと（60 分）。

テキスト

テキストして、密教文化研究所弘法大師著作研究会編纂『定本弘法大師全集第 8 巻』(密教文化研究所、1996 年）を用いるが、担当箇所およびその他の講義についてもプリントを配布し、それらをもとに進める。

参考書・参考資料等

①坂田光全『性霊集講義－平成新訂－』(高野山出版社、2003 年）
②弘法大師空海全集編輯委員会編『弘法大師空海全集第 6 巻』(筑摩書房、1984 年）
③渡邊照宏・宮坂宥勝校注『日本古典文学大系 71 三教指帰　性霊集』(小学館、1965 年）
その他については、講義において適宜紹介する。

学生に対する評価

担当箇所についての発表（60%）、予習・復習などの授業への参加度（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）参考書や辞書などを調べて担当箇所にある語句について説明することができる。
（B）参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈することができる。
（A）参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈し、その内容を深く理解することができる。
（S）参考書や辞書などを調べて担当箇所を解釈し、その内容を深く理解し、課題を見出すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックをおこなう。

その他

本講義は、演習形式として受講生のみなさんの発表とディスカッションを中心に進める。漢文の読解や専門用語の解釈など、論文作成のための史料読解のトレーニングも兼ねている。参考書や辞書などを駆使して粘り強く漢文を読み、ていねいに解釈しようという心がけと積極性をもって臨んでもらいたいと思う。

科目名	真言密教講読演習Ｇ	学期	後期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副　題	『感身学正記』を読む						
ナンバリング	M 3-12-297	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

本演習では、鎌倉後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』下巻を読解する。受講者は、割り当てられた担当箇所について、関係史料・論文を調査し、資料を作成することで研究能力を練磨する。さらに、演習中における質疑・討論を通して、同時期の叡尊の宗教活動のみならず、叡尊と公武両政権との関係について理解する。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、政治史との関係から理解できるようになる。
鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。
仏教史料の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

1．『感身学正記』の概要、講義の進め方、当番の割り振り、文献探索の方法
2．『感身学正記』を読む（1）（弘安元年条）
3．『感身学正記』を読む（2）（弘安 2 年条の前部）
4　『感身学正記』を読む（3）（弘安 2 年条の中部）
5．『感身学正記』を読む（4）（弘安 2 年条の後部）
6　『感身学正記』を読む（5）（弘安 3 年条）
7．『感身学正記』を読む（6）（弘安 4 年条の前部）
8．『感身学正記』を読む（7）（弘安 4 年条の中部）
9．『感身学正記』を読む（8）（弘安 4 年条の後部）
10．『感身学正記』を読む（9）（弘安 5 年条の前半）
11．『感身学正記』を読む（10）（弘安 5 年条の後半）
12．『感身学正記』を読む（11）（弘安 6 年条の前半）
13．『感身学正記』を読む（12）（弘安 6 年条の後半）
14．高野山における調査
15．高野山における調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した資料を作成できるように努力すること（120 分）
報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（60 分）

テキスト

①『感身学正記』本文のプリント
　※第 1 回の講義で配布する。
②受講生が作成する報告資料
　※成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること。
③細川涼一『感身学正記』第 2 巻（平凡社東洋文庫、2020 年）
　※書店で購入。必ず購入して講義に持参すること。

参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』(吉川弘文館、1959 年）
②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誡聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全 4 冊（西大寺、1990 年）
③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』(奈良国立博物館、2001 年）
④松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』(吉川弘文館、2004 年）

学生に対する評価

レポート（50%）、講義中での報告（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
（B）『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
（A）『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
（S）『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスを行なう。

その他

本演習の水準は非常に高く、受講生全員に報告義務を課すので、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。
受講者は、企画科目の「古文書解読」などを履修していなければ、内容の理解や資料作成がおぼつかないので、同科目を必ず履修しておくこと。
なお、本演習では、高野山において、古文書・古典籍の調査を、２回ほど実施する予定である（土曜日もくしは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する）。

科目名	真言密教講読演習Ｈ	学期	後期	単位数	2	担当者	北川真寛
副　題	真言密教の儀礼の解説と体験（上級篇）						
ナンバリング	M 3-01-298	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,5

授業の目的と概要

真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端をより深く体験するために、真言密教における実践行を実際に体験する。

授業の到達目標

・1200 年の歴史を有する真言密教における実践行を体験し、奥深い真言密教の世界にふれる。
・真言密教の読経や声明、特に在家用の読経について学び、実際に読誦できるようになる。
・真言密教の重要な儀礼である授戒や灌頂について学び、正しく理解する。

授業計画

1．真言密教の読経―仏前勤行次第の解説と読誦（2）―
2．真言密教の読経―仏前勤行次第の解説と読誦（3）―
3．真言密教の読経―仏前勤行次第の解説と読誦（4）―
4．真言密教の読経―仏前勤行次第の解説と読誦（5）―
5．真言密教の読経―仏前勤行次第の解説と読誦（6）―
6．真言密教の読経―仏前勤行次第の解説と読誦（7）―
7．真言密教の読経―仏前勤行次第の解説と読誦（8）―
8．真言密教の読経―陀羅尼の解説と読誦―
9．真言密教の写仏―体験―
10．高野山の精進料理―解説と実食―
11．真言密教の声明―解説と実唱（2）―
12．真言密教の声明―解説と実唱（3）―
13．真言密教の瞑想法―解説と実修（2）―
14．真言密教の戒律―解説―
15．真言密教の灌頂―解説―

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、真言密教講読演習Ｉ（真言密教の儀礼Ａ）で学んだことを復習しておくこと（30 分）。
・事後学習として、特に実践した読経などをスムーズに唱えられるように読誦しておくこと（60 分）。

テキスト

・『仏前勤行次第』(高野山出版社、1997 年、440 円)・坂田光全『真言宗在家用『仏前勤行次第』の解説』(高野山出版、2016 年、1,515 円）を用いる。両書の入手方法については、講義初回に応相談。
・その他は、講師が配付資料を用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義での実践行に参加する。
（B）講義での実践行を完遂できる。
（A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
（S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・実際に体験して学ぶこと（アクティブ・ラーニング）を中心にした講義である。
・瞑想法実修の際は、動きやすい服装にて行う。
・別途、実修費を徴収する場合がある（数百円）。
・本講義受講の絶対条件とはしないが、「真言密教講読演習Ｉ（真言密教の儀礼Ｉ）」の講義内容を前提とするため、同講義をあらかじめ受講しておくことが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。

科目名	真言密教講読演習Ｉ	学期	前期	単位数	2	担当者	北川真寛
副　題	真言密教の儀礼の解説と体験（初級篇）						
ナンバリング	M 3-01-299	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,5

授業の目的と概要

真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端を体験するために、真言密教における実践行を実際に体験する。

授業の到達目標

・真言密教における基本的な実践行を体験し、奥深い真言密教の世界にふれる。
・真言密教の実践行がいかなるものかを正しく体解する。
・真言密教の基礎的な実践行を体験し、自ら実践できるようになる。

授業計画

1．真真言密教の読経―仏前勤行次第の解説と読誦（1）―
2．真真言密教の読経―観音経の解説と読誦・理趣経の解説―
3．真言密教の読経―訓読般若心経の解説と読誦―
4．真真言密教の写経―般若心経の写経体験―
5．真言密教の行法―礼拝行の解説と実践―
6．真言密教の行法―護摩行の解説―
7．真言密教の仏像―解説―
8．真言密教の荘厳―仏具・衣体の解説―
9．真言密教の声明―解説と実唱（1）―
10．真言密教の瞑想法―解説と実修（1）―
11．真言密教と茶道―解説と喫茶―
12．真言密教の祈願法―密教占星術解説―
13．真言密教の葬制―古代～現代の日本における葬制解説―
14．真言密教の回向法―十三仏信仰解説―
15．巡礼・遍路―解説―

準備学習（予習・復習）・時間

・事前準備として、都度シラバスを確認し、用意すべき道具類や指示された書類を準備すること（30 分）。
・事後学習として、読経や瞑想などを続けておくこと（60 分）。

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）講義での実践行に参加する。
（B）講義での実践行を完遂できる。
（A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
（S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

・実際に体験して学ぶこと（アクティブ・ラーニング）を中心にした講義である。
・瞑想法実修の際は、動きやすい服装にて行う。
・別途、実修費を徴収する場合がある（数百円）。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。

科目名	真言密教講読演習Ｊ	学期	後期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副　題	地蔵説話の世界						

ナンバリング	M 3-04-300	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,4

授業の目的と概要

地蔵菩薩は私たちに身近な存在である。辻や墓地でその姿を見るだけでなく、「かさじぞう」などの童話でも親しまれている。そうした地蔵菩薩が古典文学作品の中でどのように描かれているのか、いくつかの作品をとりあげて考える。その構成や表現、特徴について学ぶ。

授業の到達目標

地蔵説話の構成や表現、特徴を説明することができるようになる。

授業計画

1．ガイダンス－講義の進め方－
2．地蔵信仰概観
3．地蔵説話を読む―宇治拾遺物語①―
4　地蔵説話を読む―宇治拾遺物語②―
5　地蔵説話を読む―沙石集①―
6　地蔵説話を読む―沙石集②―
7．地蔵説話を読む―沙石集③―
8．地蔵説話を読む―沙石集④―
9．地蔵説話を読む―太平記―
10．地蔵説話を読む―壬生寺縁起とその周辺―
11．地蔵説話を読む―かるかや①―
12．地蔵説話を読む―かるかや②―
13．地蔵説話を読む―かるかや③―
14．地蔵説話を読む―かるかや④―
15．地蔵説話を読む―かるかや⑤、まとめ―

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

講義資料を配付。

参考書・参考資料等

速水侑『地蔵信仰』（塙新書 49）その他は講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパー（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）地蔵信仰の基本的な事柄を理解している。
（B）地蔵説話の構成や表現を理解している。
（A）それぞれの地蔵説話の特徴を述べることができる。
（S）寺蔵説話の特徴からその成立背景について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーに、次回講義冒頭で答え、学びの連続性を確保する。

その他

私語厳禁。講義時の疑問等についてはリアクションペーパーを活用して欲しい。積極的な姿勢を求める。

科目名	密教学特殊講義Ｋ	学期	前期	単位数	2	担当者	川﨑一洋
副　題	インド密教の歴史						

ナンバリング	M 3-01-301	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

インド仏教の歴史において、密教がどのように形成され、展開したかを、歴史を追って考察する。インド密教の時代区分については諸説あるが、この講義では、初期・中期・後期の三区分法を採用し、それぞれの時期の密教の特色を理解できるように努める。また、仏教以外のインドの宗教（主にヒンドゥー教）との関係もあわせて考察し、タントリズムと呼ばれる宗教形態についても理解を深める。

授業の到達目標

密教が、インド仏教の歴史の中でどのように形成され、展開したかを習得する。

授業計画

1．インド仏教史における密教の位置づけ
2．密教の時代区分
3．原始仏教・部派仏教における呪術、大乗仏教と密教
4　『ヴェーダ』の宗教とヒンドゥー教（アーリア文化と非アーリア文化）
5　初期密教経典における儀礼と尊格
6　『大日経』の思想と胎蔵曼荼羅
7．『大日経』の先駆経典
8．『金剛頂経』の思想と金剛界曼荼羅
9．『金剛頂経』の展開（十八会十万頌の広本をめぐって）
10．『理趣経』の成立と展開
11．『秘密集会タントラ』とその流派
12．母タントラ系の聖典と成就者たち
13．イスラームの侵入と『カーラチャクラ・タントラ』
14．インド密教の伝播
15．試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。関連する書籍や論文を探し、目を通しておくこと。(90 分)
講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された著書や論文などに目を通しておくこと。(90 分)

テキスト

松長有慶『密教の歴史』（平楽寺書店）1969 年

参考書・参考資料等

松長有慶『密教』（岩波新書）
立川武蔵・頼富本宏編『インド密教（シリーズ密教 1)』（春秋社）
高橋尚夫他『初期密教』（春秋社）
高橋尚夫他『空海とインド中期密教』（春秋社）
松長有慶編『インド後期密教』〔上〕、同〔下〕（春秋社）　など

学生に対する評価

試験（40%）、質問・発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教と、他の仏教との違いを説明できる。
（B）初期密教・中期密教・後期密教それぞれの特徴を説明できる。
（A）密教の形成と展開を、歴史を追って説明できる。
（S）密教の形成過程と歴史的展開に加え、インドのタントリズムと呼ばれる宗教形態全般についても説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。
試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

サンスクリット語の講義を履修していることが望ましいが、その限りではない。

科目名	密教学特殊講義Ｌ	学期	後期	単位数	2	担当者	川﨑一洋
副　題	インド後期密教入門						

ナンバリング	M 3-01-302	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

弘法大師によって日本に伝えられた『大日経』と『金剛頂経』を中心とする中期密教は、その後（8 世紀以降）のインドにおいて後期密教へと展開し、タントラと呼ばれる数多くの聖典が誕生した。この講義では、代表的な後期密教の聖典を紹介しながら、それらの聖典の成立の過程や基盤となった思想を考察し、インドの文化に対する理解を深める。

授業の到達目標

インド後期密教のさまざまな聖典の概要を把握し、その成立の基盤にあるインドの思想を習得する。

授業計画

1．インド密教史概観
2．『大日経』と『金剛頂経』の特徴
3．『金剛頂経』に見られる後期密教の先駆思想
4　『金剛頂経』の展開（さまざまな瑜伽タントラ聖典）
5　『秘密集会（グヒヤサマージャ）タントラ』の内容と諸流派
6　『秘密集会（グヒヤサマージャ）タントラ』の曼荼羅とその理論
7．その他の方便・父タントラ聖典
8．『理趣経』と『一切仏集会（サマーヨーガ）タントラ』
9．『ヘーヴァジュラ・タントラ』
10．『チャクラサンヴァラ』系のタントラ
11．『チャクラサンヴァラ』系の曼荼羅とその理論
12．その他の般若・母タントラ聖典
13．『カーラチャクラ・タントラ』とその曼荼羅
14．後期密教の時代の二次文献（儀礼に関する文献を中心に）
15．試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、あらかじめ配布された資料を読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。また、関連する著書や論文を探し、目を通しておくこと。(90 分)
講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された著書や論文などに目を通しておくこと。(90 分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

松長有慶編『インド後期密教』〔上〕、同〔下〕（春秋社）
立川武蔵・頼富本宏編『インド密教（シリーズ密教 1)』（春秋社）
田中公明『性と死の密教』（春秋社）　など

学生に対する評価

試験（40%）、発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）後期密教において用いられる専門用語を理解し、説明することができる。
（B）インドの初期密教、中期密教と比較しながら、後期密教の特徴を説明できる。
（A）後期密教に属する個々の密教聖典の特徴を説明できる。
（S）初期、中期、後期の種々の密教聖典の特徴を指摘しながら、インドにおける密教の発展史を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。
試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

サンスクリット語、チベット語の講義を履修していることが望ましいが、その限りではない。

科目名	密教学特殊講義Ｄ	学期	前期	単位数	2	担当者	野田　悟
副　題	空海書学 A-1						

ナンバリング	M 3-06-303	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

日本の漢字の伝来において、写経は非常に大きな意味合いを占める。また日本の書聖空海の思想には、密教を含む東洋思想が原点である。この東洋思想の根幹を占めるのが、表意文字である漢字であることを理解し、唐代楷書を通して理論と実践の両面から焦点を当てる。

授業の到達目標

漢字に興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識と作品制作。

授業計画

1．ガイダンス並びに文房四宝概説
2．臨：顔真卿「多寶塔碑」①　理：提筆と按筆
3．臨：顔真卿「多寶塔碑」②　理：初唐の四大家と顔真卿
4．臨：顔真卿「多寶塔碑」③　理：顔真卿の書と時代
5．臨：顔真卿「多寶塔碑」④　理：書と道教の周辺
6．臨：褚遂良「雁塔聖教序」①　理：諸遂良とその時代
7．臨：褚遂良「雁塔聖教序」②　理：法帖とコピーの違い
8．臨：褚遂良「雁塔聖教序」③　理：王羲之からの流れ
9．臨：褚遂良「雁塔聖教序」④　理：「雁塔聖教序」の結構と章法
10．顔法と褚法の比較研究
11．自選の法帖を徹底臨書①
12．真自選の法帖を徹底臨書②
13．写経①　理：日中の心経比較
14．写経②　理：異体字を考える
15．写経③　理：願文の書き方

準備学習（予習・復習）・時間

毎時、課題の作品を仕上げてくる。(180 分)

テキスト

・中国法書選 40 顔真卿「多寶塔碑」、34 褚遂良「雁塔聖教序」：二玄社・書道字典を持っている方が望ましい。
・写経セット〔LA26-59〕を購入の事。＊その他、必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①『說文解字』(中華書局等) ②『聾瞽指帰』、『篆隷万象名義』等（高野山大学蔵）③『新書源』（二玄社）等々

学生に対する評価

レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）・基本的に作品による評価（素点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）筆順を正しく理解する。
（B）旧漢字を正しく理解し、細かい部分まで理解した臨摹ができる。
（A）臨摹を基にしたレベルの高い写経の創作ができる。
（S）尚古思想での願文を含めた、レベルの高い写経の創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

・使用する文房四宝はガイダンス時に説明する。・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。・基本、本学学部生、大学院生のみ受講可。卒業生は、許可した者のみ可とする。・２回目の受講生は、希望を相談の上、別課題を出し指導する。・夏休みの課題として、写経一巻を課す。創作作品は、２月の学外書道展に出品する予定。(表装の費用は個人で負担)

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校書道教員及び中国美術学院講師として、勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして「書とは何か？」の原点に立ち返り、講じる。

科目名	密教学特殊講義E	学期	後期	単位数	2	担当者	野田　悟
副　題	空海書学 A-2						

ナンバリング	M 3-06-304	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

中国は唐時代以降現在に至るまで、王羲之書法は最も重要である。空海もその継承者の一人で、理論と実践を通して理解する。最後は、空海行書の書風にて創作作品を作る。

授業の到達目標

空海が最も得意とした行書を学び、王羲之書法とその周辺の理解を深める。

授業計画

1．臨摹：「集字聖教序」①　理：王羲之以前の書の名家
2．臨摹：「集字聖教序」②　理：楷書と行書の用筆法
3．臨摹：「集字聖教序」③　理：王羲之書法からの流れ
4．臨摹：「集字聖教序」④　理：尚古思想
5．臨摹：「集字聖教序」⑤　理：王羲之の人と書
6．臨摹：「聾瞽指歸」①　理：書画同源
7．臨摹：「聾瞽指歸」②　理：空海の漢字思想
8．臨摹：「聾瞽指歸」③　理：空海若年の書
9．臨摹：「聾瞽指歸」④　理：風空海と最澄
10．臨摹：「聾瞽指歸」⑤　理：王羲之・李北海と空海書を比較
11．「集字聖教序」と「聾瞽指歸」の比較研究
12．「聾瞽指歸」の背臨
13．「聾瞽指歸」書風にて創作①
14．「聾瞽指歸」書風にて創作②
15．「聾瞽指歸」書風にて創作及び作品提出　　※全体的な能力や達成度を見て、変更あり。

準備学習（予習・復習）・時間

毎時、課題の作品を仕上げてくる。(180 分)

テキスト

・中国法書選：16 東晋王羲之「集字聖教序」、唐李邕「李氏訓碑」二玄社。・その他必要な場合プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・弘法大師書跡大成「空海の書」第一巻・『空海』中央公論社、『光明皇后空海最澄集』二玄社・季刊墨スペシャル第 7 号『写経』二玄社等々

学生に対する評価

レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）・基本的に作品による評価（素点）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）臨摹作品ができる。
（B）臨摹を基盤とした創作作品を創作できる。
（A）臨摹を基盤としたより高い創作作品創作できる。
（S）長落款を含めた、レベルの高い創作作品ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

・本講義は、密教学特殊講義 D の修了者に限る。・書道実技の講座時は、毎回の課題が課される。・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て臨むこと。・再度受講される方は、相談の上、別の課題を課し指導する。・受講生の能力、理解度等を考慮し内容を変更する場合有り。・創作作品は、２月の学外書道展に出品する予定。（表装の費用は個人で負担）

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校書道教員及び中国美術学院講師として、勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして「書とは何か？」の原点に立ち返り、講じる。

科目名	密教学特殊講義F	学期	前期	単位数	2	担当者	松長潤慶
副　題	密教図像学を学ぶ。						

ナンバリング	M 3-01-305	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

インドに興り、東南アジア・中国を経由し、日本に流布した密教は、その発展過程において様々な尊格を生み出した。当授業では密教図像に基づいて、大乗仏教の尊格をも含め、それぞれの密教尊格の形成と発展について、主として漢訳資料の像造表現を中心に考察を加え理解する。インドの図像資料としては、『サーダナマーラー』や『ニシュパンナヨーガーヴァリー』等が基本的な資料であるが、まず、漢訳密教経典・儀軌、ならびに我が国に現存する図像資料を講読し、それぞれの図像的特徴からその尊格の展開をたどり理解を深める

授業の到達目標

密教尊像の基本的な智識を身につけ、漢訳図像資料を研究資料として扱えるようになる。

授業計画

1．概論（講義の進め方等）
2．漢訳資料の基本的な扱い方
3．漢文資料の基本的な講読練習　（般若心経　前半）
4．漢文資料の基本的な講読練習　（般若心経　後半）
5．尊格表現方法の基本知識　（仏の種類）
6．尊格表現方法の基本知識　（仏の展開）
7．尊格表現方法の基本知識　（曼荼羅の種類）
8．尊格表現方法の基本知識　（曼荼羅の展開）
9．漢訳図像資料講読　（図像鈔）
10．漢訳図像資料講読　（図像鈔）
11．密教尊像の基本的な知識を深めるための密教経典・儀軌の考察
12．図像資料講読演習　（密教経典講読）
13．図像資料講読演習　（密教経典講読）
14．図像資料講読演習　（密教経典講読）
15．図像資料講読演習　（密教経典講読）

準備学習（予習・復習）・時間

予習は必要ないが、授業後の復習が望ましい。約 1 時間。

テキスト

大正新脩大蔵経図像部

参考書・参考資料等

①松長有慶編『密教を知るためのガイドブック』法蔵館 1995 年②頼富本宏・下泉全暁『密教仏像図典』人文書院 1994 年③佐和隆研『仏像図典』吉川弘文館 1962 年

学生に対する評価

発表、およびレポート (100%)

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢訳資料を扱える。
（B）密教尊像に関する知識を得る。
（A）密教図像に関する資料を扱える。
（S）密教図像に関して体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

授業毎に確認する。

その他

授業内で講読演習を行うので、出席を重視する。また、各自の授業内での演習およびレポートで判断するレポート（60%）、授業参加の積極性（30%）、ノート作成（10%）

科目名	密教学特殊講義G	学期	前期	単位数	2	担当者	野田　悟
副　題	空海書学 B-1						

ナンバリング	M 3-01-306	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

・密教学特殊講D、E 受講修了者（学外書道展出品者）が次のステップとして学ぶ授業である。・漢字の正書として、また書の基本として初唐の楷書を学ぶ。・唐代楷書を通して理論と実践の双方から焦点を当てる。

授業の到達目標

・漢字に更なる興味を持ち、毛筆による古典臨書を中心とした歴史認識。・写経作品を連幅にて創作する。

授業計画

1．ガイダンス並びに文房四宝、漢字の歴史
2．臨：虞世南「孔子廟堂碑」①　理：初唐の四大家と楷書の完成
3．臨：虞世南「孔子廟堂碑」②　理：虞世南の人と書
4．臨：虞世南「孔子廟堂碑」③　理：太宗と科挙
5．臨：虞世南「孔子廟堂碑」④　理：「内柔外剛」と「内剛外柔」
6．臨臨：歐陽詢「九成宮醴泉銘」①　理：歐陽詢の人と書
7．臨：歐陽詢「九成宮醴泉銘」②　理：中国南朝と北朝の書
8．臨：歐陽詢「九成宮醴泉銘」③　理：「九成宮醴泉銘」の法帖比較
9．臨：歐陽詢「九成宮醴泉銘」④　理：古と今、質と文
10．楷書六体の書き分け①
11．楷書六体の書き分け②
12．自選の法帖を徹底臨書
13．写経①　理：書の原点は写経
14．写経②　理：正・通・俗
15．写経③　理：五明と書の位置

準備学習（予習・復習）・時間

毎時、課題の作品を仕上げてくる。(180 分)

テキスト

中国法書選 31　唐　歐陽詢「九成宮醴泉銘」(二玄社)、中国法書選 32　唐　虞世南「孔子廟堂碑」(二玄社）＊このクラスは字書を必ず持参すること。

参考書・参考資料等

・「説文解字」(中華書局)、書体シリーズ⑴　楷書百科（芸術新聞社）・その他必要に応じてプリントを配布する。

学生に対する評価

基本的に作品による評価（素点)。実技の授業なので、欠席あるなしは、大きく評価が異なる。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）写経作品ができる。
（B）法帖の特徴を細かく分析し、発表できる作品を仕上げることができる。
（A）尚古思想で願文を含めたレベルの高い創作ができる。
（S）独自の落款、跋文を研究し、初唐の特徴を生かした創作ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

・ガイダンス時に、使用する文房四宝の説明をする。・授業以外での個々の自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。・受講生は密教学特殊講義D、E 修了者に限る。・夏休みの課題として写経一巻が課される。・創作作品は二月の学外書道展に出品する予定。（表装の費用は個人で負担）

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校書道教員及び中国美術学院講師として、勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして「尚古思想」の原点に立ち返り、講じる。

科目名	密教学特殊講義H	学期	後期	単位数	2	担当者	野田　悟
副　題	空海書学 B-2						

ナンバリング	M 3-01-307	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	2,4

授業の目的と概要

空海思想は、漢字が原点であると考える。その中で空海の古代文字の知識は、「篆隷万象名義」にも見ることができる。この度は漢隷を学び、楷・行・草より更に古い書体に挑戦する。漢代八分隷の起筆や收筆及び中鋒を鍛錬した上での、線条の重厚さを学ぶ。

授業の到達目標

漢隷八分における作品創作。できるだけ長落款を心掛ける。

授業計画

1．臨：禮器碑①　理：篆書から隷書へ
2．臨：禮器碑②　理：圓筆と方筆
3．臨：禮器碑③　理：碑学研究
4．臨：禮器碑④　理：禮器碑の特徴
5．臨：禮器碑⑤　理：線＝力感の美
6．臨：禮器碑以外の漢隷①　理：結構＝構造の美
7．臨：禮器碑以外の漢隷②　理：章法＝調和の美
8．臨：禮器碑以外の漢隷③　理：中国人哲学の神髄の表れ
9．臨：禮器碑以外の漢隷④　理：書法と易学
10．臨：禮器碑以外の漢隷⑤　理：章境の美
11．二つ乃至三つの法帖の比較研究
12．自選の法帖の徹底臨書
13．反切作品に至る独自練習①　理：簡約の美
14．反切作品に至る独自練習②　理：気韻の美
15．反切作品に至る独自練習③　理：中和の美

準備学習（予習・復習）・時間

毎時、課題の作品を仕上げてくる。(180 分)

テキスト

・中国法書選５　漢 礼器碑（二玄社・必須）・中国法書選３　漢　石門頌、８　漢　曹全碑、９　漢　張遷碑（二玄社・この内の二冊)。

参考書・参考資料等

・『説文解字』(中華書局)・「聾瞽指歸」、「篆隷万象名義」(高野山大学蔵)・書体シリーズ⑸　隷書百科（芸術新聞社）

学生に対する評価

基本的に提出物の評価（素点)、実技の講義なので、欠席のあるなしは大きく評価が異なる。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）隷書の比較臨書ができる。
（B）自選の法帖による創作ができる。
（A）臨書を基にしたレベルの高い創作作品ができる。
（S）隷書の歴史を理解し、「尚古思想」を根底としたレベルの高い創作作品ができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

その他

密教学特殊講義G、または漢字Ｉを修了した者に限る。授業以外での自主練習は、評価に大きく左右されることを心得て望むこと。受講生の能力、理解度等を考慮し、内容を変更する場合有り。非常にレベルの高い受講生は、二月の学外展出品に推薦する。(表装の費用は自己負担)

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高校書道教員及び中国美術学院講師として勤務経験を持つ教員が、その経験を活かして書の美学、哲学の根幹に迫り、論じる。

科目名	仏教学特殊講義Ⅰ	学期	前期	単位数	2	担当者	川 﨑 一 洋
副　題	死後の世界を考える						

ナンバリング	M 3-02-308	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,3,4,5

授業の目的と概要

日本人の死生観には、仏教が大きな影響を与えている。この講義では、仏教の文献を資料としながら、インド、中国、日本の人々がそれぞれ考えた死後の世界について紹介し、日本人の死生観の淵源を辿る。また、死者儀礼にも言及し、葬儀や年忌法要などのあり方や問題点についても考察する。

授業の到達目標

仏教が伝える死後の世界について考察し、日本人の死生観を習得する。

授業計画

1．現代日本人の死生観
2．西洋人の臨死体験
3．東洋人の臨死体験
4．閻魔さまとはどんな人か
5．地獄とはどんなところか
6．極楽とはどんなところか
7．輪廻転生説のゆくえ
8．釈尊の死生観
9．中国で成立した『盂蘭盆経』
10．古代日本人の死生観
11．弘法大師・空海の死生観
12．葬儀の意味
13．戒名とは何か
14．なぜ年忌法要をおこなうのか
15．試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、講義のテーマに関連する書籍やウェブサイトに目を通し、疑問点や問題点をまとめておくこと。(60 分)
講義内容をノートにまとめ、講義で紹介された書籍や論文などに目を通しておくこと。(120 分)

テキスト

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

添田隆昭『大師はいまだおわしますか』(高野山出版社)
梶山雄一『「さとり」と「廻向」』(人文書院)
梶山雄一『輪廻の思想』(人文書院)　など

学生に対する評価

試験（40%）、質問・発表（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教が伝える死後の世界、死生観について、基本的な事柄を説明することができる。
（B）インド、中国、日本、それぞれにおいて考えられた死後の世界について説明できる。
（A）日本の仏教が伝える死後の世界について、インド、中国、日本の伝統的な死生観を参照しながら説明できる。
（S）日本人の死生観について理解し、現代社会におけるその問題点について意見を述べることができる。。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。
試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

真言宗の僧侶であり、日ごろから檀信徒に接し、実際に葬儀や年忌法要に携わっている教員が、体験や実状を踏まえながら問題を提起し、日本人の死生観や死者儀礼について理解を深める。

科目名	仏教学特殊講義Ｃ	学期	前期	単位数	2	担当者	岡 田 英 作
副　題	心とはなにかⅠ						

ナンバリング	M 3-02-309	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乗仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

授業計画

1．オリエンテーション（シラバスの説明、講義の進め方等）
2．心について－ことばの多義性－
3．心について－各宗教の思想－
4．心について－現代の場合－
5．心について－仏教の思想－
6．仏教について－歴史的多様性－
7．仏教について－地域的多様性－
8．ゴータマ・ブッダ－苦の自覚－
9．ゴータマ・ブッダ－苦からの解放－
10．ゴータマ・ブッダ－直弟子たち－
11．初期仏教経典－釈迦の直説は現存するか－
12．最古層の仏典－心への配慮－
13．最古層の仏典－執着と煩悩－
14．初期仏教－五蘊、心・意・識－
15．授業の総括とレポートの講評

準備学習（予習・復習）・時間

講義内容の要点をノートなどに整理すること（60 分）、講義で取り上げた専門用語を辞書類で調べて意味を理解しておくこと（30 分）
紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90 分）

テキスト

竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布）
上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

①相良亨『一語の辞典こころ』三省堂、1995、②竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社現代新書、講談社、2009、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編［改訂版］』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教についての基礎的な事項を理解している。
（B）仏教における心についての各思想を理解している。
（A）仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
（S）仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

課題に対するフィードバックの方法

仏質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。
最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

その他

授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること

科目名	仏教学特殊講義Ｄ	学期	後期	単位数	2	担当者	前 谷　　彰
副　題	漢訳語と原典における語彙の異相						

ナンバリング	M 3-02-310	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

仏教思想を理解する上で、漢訳語だけではどれだけ多くの間違いを生じさせるかの実例を示し、原典（サンスクリット語やパーリ語）との異相を探って行く。

授業の到達目標

漢訳語と原典における語彙の異相を探ることができるようになる。

授業計画

1．オリエンテーション
2．「八正道」について
3．「善」について
4．「中道」について
5．「慈悲」について
6．仏教用語について考える①
7．仏教用語について考える②
8．仏教用語について考える③
9．仏教用語について考える④
10．仏教用語について考える⑤
11．仏教用語について考える⑥
12．仏教用語について考える⑦
13．仏教用語について考える⑧
14．仏教用語について考える⑨
15．総まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事後学習として授業で学修した内容について復習し、疑問点があれば次の授業で質問できるようまとめておくこと。(90 分)

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者がコピーを配布する。

学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教の基礎語彙を抑えている。
（B）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（A）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。
（S）縁起の思想を「中道」「慈悲」「非我」のキーワードを用い、その相即的関係を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回の授業中、次回の授業中にフィードバックを行う。

その他

授業計画については、学生の要望に応じて、担当教員が判断する。

科目名	真言密教特殊講義Ｆ	学期	後期	単位数	2	担当者	南　　昌 宏
副　題	空海『性霊集』を読む						

ナンバリング	M 3-01-311	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,4

授業の目的と概要

弘法大師空海の漢詩文集『遍照発揮性霊集』を精読することによって、空海の文体の特徴などを理解し、作者の心情について考える。あわせて、空海の文章を読解するために必要な中国古典・仏典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。同時に、中国古典・仏典が空海の知識の源泉であることを認識し、その文章作成の技法などについて理解を進めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を読解できる。　○漢文を自学自習するための技法を修得している。　○空海の文体の特徴を説明できる。　○「典故を踏む」という技法を説明できる。○作者の心情を推し量ることができる。

授業計画

1．「納涼房望雲雷」①（全体を通読）
2．「納涼房望雲雷」②（「雲蒸堅似浅」以下を読む）
3．「納涼房望雲雷」③（「颯颯風満房」以下を読む）
4．「納涼房望雲雷」④（「天光暗無色」以下を読む）
5．「納涼房望雲雷」⑤（「魑魅媚殺人」以下を読む）
6．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」①（全体を通読）
7．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」②（「維天長四年」以下を読む）
8．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」③（「侵潤甲膚」以下を読む）
9．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」④（「聞習仏心者」以下を読む）
10．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」⑤（「比鐘谷而」以下を読む）
11．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」⑥（「三界所以」以下を読む）
12．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」⑦（「又夫国以民」以下を読む）
13．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」⑧（「然今霖節」以下を読む）
14．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」⑨（「其雨其雨」以下を読む）
15．「天長皇帝於大極殿啞百僧雩願文」⑩（「祈之河伯」以下を読む）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30 分）、難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60 分）。

テキスト

坂田光全『性霊集講義　平成新訂』(高野山出版社）のコピーを配布する。
運敵『遍照発揮性霊集便蒙』(『真言宗全書』42 巻所収）のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994 年改訂
諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000 年修訂増補
『密教大辞典』法蔵館　昭和 7 年初版
水野弘元『仏教の基礎知識』2009 年新版　など

学生に対する評価

最終試験レポート（50%）、小テスト（25%）、発表（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解し、説明できる。
（S）テキストから問題点・疑問点を抽出できる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○小テストについては、次の講義で解説をする。

その他

授業実数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は 2 分の 1 欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	真言密教特殊講義G	学期	前期	単位数	2	担当者	北川真寛
副題	日本仏教・密教の思想や歴史、文化を学ぶ（初級篇）						
ナンバリング	M 3-01-312	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

日本のスピリチュアルケア実践の背景となる宗教の思想、特に日本仏教・密教の基本的な思想や歴史、用語などを学ぶことを目的とし、高野山を中心とした日本の宗教思想や歴史、文化の基礎について講義する。

授業の到達目標

・自らのスピリチュアリティや仏教・密教学の基礎を涵養する。
・日本仏教の思想や歴史、文化を理解し、説明できるようになる。
・弘法大師を中心とした密教の思想や歴史、文化を理解し、説明できるようになる。

授業計画

1．絵伝にみる弘法大師空海の生涯（1）―概説―
2．高野山の歴史（1）―中世―
3．高野山の歴史（2）―近世・近代―
4．弘法大師空海の教え（1）―即身成仏思想解説―
5．弘法大師空海の教え（2）―十住心思想解説―
6．真言密教の教え―曼荼羅解説―
7．高野山の年中行事と学道
8．真言密教の教学（1）―三密双修の解説―
9．高野山の文化財
10．日本仏教の教え―日本仏教の各宗派の概説―
11．禅の教え―禅宗の解説―
12．天台の教え―天台宗の解説―
13．浄土の教え―浄土信仰の解説―
14．神道の教え―神仏習合の解説―
15．真言密教の社会福祉史

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30 分）。例：4 回目は即身成仏について調べておく。
・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、解説した思想や用語を理解すること（60 分）。

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、テキストの理解度（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な仏教や密教の思想を理解できる。
（B）法基本的な仏教や密教の思想・用語を理解できる。
（A）専門的な仏教や密教の思想・用語を理解できる。
（S）専門的な仏教や密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、日本の仏教や密教の教え・文化・歴史などを僧侶としての立場から解説する。

科目名	真言密教特殊講義H	学期	前期	単位数	2	担当者	北川真寛
副題	日本仏教・密教の思想や歴史、文化を学ぶ（上級編）						
ナンバリング	M 3-01-313	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

日本のスピリチュアルケア実践の背景となる宗教の思想、特に日本密教や弘法大師の思想や歴史、専門的な用語などを学ぶことを目的とし、弘法大師や高野山の思想や歴史、文化について講義する。

授業の到達目標

・自らのスピリチュアリティや密教学の専門性を涵養する。
・真言密教の思想や歴史、文化を理解し、説明できるようになる。
・弘法大師の思想や生涯、さらに弘法大師や高野山への信仰を理解し、説明できるようになる。

授業計画

1．絵伝にみる弘法大師空海の生涯（2）―生誕～入唐―
2．絵伝にみる弘法大師空海の生涯（3）―入唐～帰国
3．絵伝にみる弘法大師空海の生涯（4）―帰国後の活動～入定―
4．弘法大師空海の著作
5．臨弘法大師空海の教学―十住心思想の第八住心解説－
6．日本密教の展開と法流
7．真言密教の教学（2）―絵画形像の解説―
8．真言密教の教学（3）―事六度の解説―
9．真言密教の教え（4）―一門普門の解説―
10．弘法大師信仰（1）―入定信仰―
11．弘法大師信仰（2）―全国に残る大師信仰―
12．高野山の歴史と地理
13．高野山の諸堂解説―バーチャル・ツアー―
14．高野山の神仏習合
15．高野山の町石道

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、真言密教特殊講義G（高野山の宗教文化Ⅰ）で学んだことを復習しておくこと（30 分）。
・事後学習として、教科書や配付資料を見直し、解説した思想や用語を理解すること（60 分）。

テキスト

北川真寛『はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門』（セルバ出版、2018 年）
上記テキストを講義初日に講師が一括で用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（70%）、テキストの理解度（20%）、ディスカッションへの参加度（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基本的な密教の思想を理解できる。
（B）基本的な密教の思想・用語を理解できる。
（A）専門的な密教の思想・用語を理解できる。
（S）専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

本講義受講の絶対条件とはしないが、「真言密教特殊講義G（高野山の宗教文化Ⅰ）」の講義内容を前提とするため、同講義をあらかじめ受講しておくか、もしくは並行して受講することことが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、真言密教の教え・文化・歴史などを僧侶としての立場から専門的に解説する。

科目名	真言密教特殊講義Ⅰ（密教瞑想）	学期	後期	単位数	2	担当者	佐藤隆彦
副題							
ナンバリング	M 3-01-314	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

阿字観は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の観法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字観は在家の人でも修することができる。密教観法の一つである阿字観について一般的な講義をおこなう。阿字観の実修も実際に行うとともに生死観についても言及する。後半は聖地巡礼で高野山を巡る。

授業の到達目標

密教の観法を通して、密教が持つ世界観、死生観に触れ、それを現代的視点で考えることができるようになる。

授業計画

1．密教瞑想とは
2．阿息観の理論
3．阿息観の実践方法
4．阿字の哲学
5．阿息観の実習（阿息観）
6．日本密教の展開と法流
7．密教における死生観（臨終の環境をいかに整えるかについて）
8．密教における死生観（臨終正念）
9．月輪観
10．阿字観
11．聖地巡礼
12．聖地巡礼
13．聖地巡礼
14．聖地巡礼
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事後学習として、授業で習得したことを整理し、身に付けること。（120 分）

テキスト

①山崎泰廣著『真言密教阿字観瞑想入門』（春秋社）その他コピー配布

参考書・参考資料等

『大日経』、『大日経疏』、『定本弘法大師全集』等

学生に対する評価

レポート（80%）、授業参加の積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の基本的文献を調査し読むことができる。
（B）密教の死生観について基本的内容を理解できる。
（A）密教の死生観についてその内容を深く理解できる。
（S）密教の死生観を踏まえたうえで、自らの死生観を論理的に他者に対して述べることが出来る。

課題に対するフィードバックの方法

講義のまとまり毎、実修毎にフィードバックを行う。

その他

楽に坐れる服装で出席のこと。匂いの強い化粧、ネックレス、イヤリングをしないこと。受講の間に、釈尊の胸中、空海の悠大な悟境の片鱗に触れていただきたい。

科目名	真言密教特殊講義L	学期	後期	単位数	2	担当者	川﨑一洋
副題	四国遍路の歴史						
ナンバリング	M 3-01-315	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,3,4,5

授業の目的と概要

この講義では、弘法大師・空海によって開かれたといわれる四国八十八ヶ所霊場を巡る四国遍路の歴史や、四国の各地に残る弘法大師の伝説を、江戸時代に出版された各種の霊場記などを読みながら学び、宗教と巡礼の関係を探る。また、四国遍路を実践するための、作法や計画の立て方などを学ぶ。

授業の到達目標

四国遍路の歴史や、四国八十八ヶ所の霊場の縁起などについて説明できるようになる。
四国遍路の歴史を学ぶことにより、宗教における巡礼の目的や意義を理解する。
四国遍路の作法や計画の立て方を学び、それらを四国遍路の実践に活用できるようになる。

授業計画

1．四国遍路とは何か
2．四国遍路の起源
3．補陀落信仰と四国霊場
4．熊野信仰と四国霊場
5．四国八十八ヶ所霊場の成立過程①（古代・中世）
6．四国八十八ヶ所霊場の成立過程②（近世）
7．四国霊場の確立①（澄禅の日記を読む）
8．四国霊場の確立②（真念の業績・案内書の刊行）
9．四国霊場の確立③（真念の業績・標石や辺路屋の建立）
10．近代（明治から戦後）の四国遍路
11．四国遍路の習俗
12．四国に残る弘法大師の霊跡
13．国霊場巡拝の作法
14．現代の四国遍路と、実践へのアプローチ
15．試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問に思うことなどを整理しておくこと。（30 分）
講義内容と、講義で配布される資料の要点をノートに整理する。（60 分）

テキスト

頼富本宏『四国遍路とはなにか』（角川選書）2009 年

参考書・参考資料等

浅井証善『はじめての「四国遍路 88 ヶ所めぐり」入門』（セルバ出版）
四国遍路と世界の巡礼研究会編『四国遍路と世界の巡礼』（法蔵館）
川﨑一洋『弘法大師空海と出会う』（岩波新書） など

学生に対する評価

試験（40%）、発表・質問（30%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）四国遍路とは何かを、簡単に説明できる。
（B）四国遍路に関する基本用語を説明できる。
（A）四国遍路（八十八ヶ所巡礼）の成立過程を、古代から現代まで、時代の順に沿って説明できる。
（S）四国霊場の成立過程と現状を把握し、宗教における巡礼の意義を説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。
試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

受講前あるいは受講後に、四国遍路の実践をおこなうことをお勧めする。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

四国霊場寺院の住職である教員が、四国遍路の歴史、現状、作法などについて、具体的な知識と情報を提供する。

科目名	密教学演習Ｉ	学期	通年	単位数	4	担当者	土 居 夏 樹
副　題	密教思想の研究方法						

ナンバリング	Ｍ 3-19-316	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2,5

授業の目的と概要

密教や仏教の教義・思想を用いて卒業論文を作成することを希望する者を対象とする。研究テーマの決定や資料・先行研究の探し方などを指導しつつ、受講生が各自の研究課題を定めて基礎的な考察を行い、卒業論文につなげていくことを目指す。

授業の到達目標

文献研究に関わる者のとしての基本的な手法を習得する。

授業計画

【前期】
1．講義概要（授業の進め方）
2．研究テーマの設定（ディスカッション）
3．研究テーマの絞り込み（ディスカッション）
4．資料の探し方① 1 次資料の設定
5．　〃　②先行研究を探す
6．先行研究を読む ①先行研究の読解
7．　〃　②問題設定の検証
8．　〃　③引用資料の検証
9．　〃　④先行研究の読解［再］
10．　〃　⑤問題点の指摘
11．　〃　⑥先行研究の整理
12．研究テーマ発表／中間報告①
13．　〃　②
14．　〃　③
15．前期のまとめ

【後期】
1．講義概要（授業の進め方）
2．研究テーマの設定（ディスカッション）［再］
3．研究テーマの絞り込み（ディスカッション）［再］
4．原典資料を読む　①原典資料の読解
5．　〃　②引用典拠の検討
6．　〃　③引用資料の検討［再］
7．　〃　④原典資料の読解［再］
8．　〃　⑤内容の把握
9．　〃　⑥テーマとの関連
10．各自研究発表①
11．　〃　②
12．　〃　③
13．各自研究発表への講評①
14．　〃　②
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の課題準備（120 分）
・講義内での発表後の復習（60 分）

テキスト

越智淳仁「顕密思想の歴史的展開の研究」、『密教文化』第 231 号、2013 年。※コピーして配布する。

参考書・参考資料等

・水野弘元『仏教用語の基礎知識』、春秋社
・中村元編『岩波仏教辞典』、岩波書店
・鎌田茂雄訳注『八宗綱要』、講談社学術文庫

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、発表内容（40%）、レポート（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）学術論文を批判的に要約することができる。
（B）一次資料を正確に読み解くことができる。
（A）一次資料と学術論文を用いて、自分の考えを文章化することができる。
（S）一次資料と学術論文を用いて、新知見を論述することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表時に評価点・問題点を講評する。

その他

・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。
・積極的な授業参加を期待する。

科目名	密教学演習Ｊ	学期	通年	単位数	4	担当者	奥 山 直 司
副　題	密教思想の研究方法						

ナンバリング	Ｍ 4-19-317	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

密教の歴史、文化、芸術等に関連したテーマで卒業論文を作成することを目的として、研究テーマの選び方、資料・先行研究の探し方などを学びながら、それぞれの研究課題を定め、卒業論文を作成していく。

授業の到達目標

必要な知識と技術を身につけ、卒業論文を作成する。

授業計画

【前期】
1．講講義概要（前期授業の進め方）
2．卒業論文の意義
3．テーマを考える　①河口慧海
4．テーマを考える　②南方熊楠
5．テーマを考える　③高野山の歴史
6．テーマを考える　④明治印度留学生
7．テーマを考える　⑤慈雲尊者
8．テーマを考える　⑥釈雲照
9．テーマを考える　⑦土宜法龍
10．テーマを考える　⑧高野山中国人留学僧
11．テーマを考える　⑨高野山の文化財保護の歴史
12．テーマを考える　⑩弘法大師伝
14．テーマを考える　⑪四国遍路
15．前期のまとめ

【後期】
1．講義概要（後期授業の進め方）
2．資料を読む　①河口慧海
3．資料を読む　②南方熊楠
4．資料を読む　③高野山の歴史
5．資料を読む　④明治印度留学生
6．資料を読む　⑤慈雲尊者
7．資料を読む　⑥釈雲照
8．資料を読む　⑦土宜法龍
9．文章を書く　①高野山中国人留学生
10．文章を書く　②高野山の文化財保護の歴史
11．文章を書く　③弘法大師伝
12．文章を書く　④四国遍路
13．文章を書く　⑤ライフヒストリー　前編
14．文章を書く　⑥ライフヒストリー　後編
15．後期のまとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として配布または指示した資料を読んでまとめておくこと（60 分）。
事後学修としてノートを読み返し、必要事項を覚えること（60 分）。

テキスト

担当者がその都度コピーを配布する。

参考書・参考資料等

奥山直司『評伝　河口慧海』中央公論新社

学生に対する評価

予復習を含めた授業参加度（90%）、発表内容（10%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）術論文を正確に読み解くことができる。
（B）一次資料を正確に読み解くことができる。
（A）一次資料と学術論文に基づいて、問題の所在を明確にすることができる。
（S）一次資料と学術論文に基づいて、学術的な問題を論ずることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

積極的な授業参加を期待する。

科目名	人間学演習ＩＣ・Ｄ・Ｅ（臨床心理学演習）	学期	通年	単位数	4	担当者	森 崎 雅 好 上 野 和 久
副　題							

ナンバリング	Ｎ 3-19-318	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

3 回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味･関心をいだいたテーマに関する文献の収集･要約及び研究計画書を作成し、発表をする。1. 自身が興味･関心をいだいた心理学領域に関する文献を収集する。　2. 文献の要約を行い、受講生が順番に発表を行う。3. テーマに関する議論を行い、問題点・課題点を明らかにする。4. 新たに見出された問題点・課題点について文献を収集しまとめる。5. 以上の手順で、自身が焦点をあてる研究課題を明らかにする。この講義は 4 年生次の卒業論文作成のための準備段階として位置付けられる。

授業の到達目標

自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画

【前期】
1．講義ガイダンス：研究とは何か。
2．興味関心と研究①
3．興味関心と研究②
4．興味関心と研究③
5．興味関心と研究④
6．興味関心と研究⑤
7．テーマ設定①
8．テーマ設定②
9．テーマ設定③
10．テーマ設定④
11．テーマ設定⑤
12．テーマに関する文献収集①
13．テーマに関する文献収集②
14．テーマに関する文献収集③
15．まとめ：研究テーマ発表

【後期】
1．テーマに関する課題の探索①
2．テーマに関する課題の探索②
3．テーマに関する課題の探索③
4．テーマに関する課題の探索④
5．テーマに関する課題の探索⑤
6．目的に関する文献収集①
7．目的に関する文献収集②
8．目的に関する文献収集③
9．目的に関する文献収集④
10．目的に関する文献収集⑤
11．研究計画書の作成①
12．研究計画書の作成②
13．研究計画書の作成③
14．研究計画書の作成④
15．まとめ：研究計画書の発表

準備学習（予習・復習）・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする（90 分）。発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する（90 分）。

テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

酒井 聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版 』共立出版，2015 年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表（50%）最終レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる。。
（B）自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
（A）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
（S）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	人間学演習ＩＩＣ・Ｄ・Ｅ（臨床心理学演習）	学期	通年	単位数	4	担当者	森 崎 雅 好 上 野 和 久
副　題							

ナンバリング	Ｎ 4-19-319	授業方法	演習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2,3,4

授業の目的と概要

4 回生を対象とし、心理学領域に関して、理論や実験、演習等で学習した内容を深めるために、各自が興味・関心をいだいたテーマに関するデータ収集を行い、研究成果の発表をする。この講義は 4 年次の卒業論文作成のための作業段階として位置付けられる。

授業の到達目標

自身の興味・関心のあるテーマに関する先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にする。

授業計画

【前期】
1．講義ガイダンス：研究とは何か
2．研究計画書の見直し①
3．研究計画書の見直し②
4．研究計画書の見直し③
5．研究計画書の見直し④
6．研究計画書の見直し⑤
7．データ収集経過報告①
8．データ収集経過報告②
9．データ収集経過報告③
10．データ収集経過報告④
11．データ収集経過報告⑤
12．データ収集経過報告⑥
13．研究経過報告発表会①
14．研究経過報告発表会②
15．研究経過報告発表会③

【後期】
1．卒業論文作成について
2．データ分析①
3．データ分析②
4．データ分析③
5．データ分析④
6．データ分析⑤
7．結果の整理と考察①
8．結果の整理と考察②
9．結果の整理と考察③
10．結果の整理と考察④
11．結果の整理と考察⑤
12．結果の整理と考察⑥
13．研究成果発表会①
14．研究成果発表会②
15．研究成果発表会③

準備学習（予習・復習）・時間

課題について調べてまとめ、発表の準備をする。(90 分)
発表、討議やワークを踏まえ、内容について各自で整理する。(90 分)

テキスト

研究遂行のための講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

酒井 聡樹『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版 』共立出版，2015 年。また、受講生のテーマにあわせて、個別に適時、紹介する。

学生に対する評価

授業中の課題発表（50%）最終レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自身の興味・関心のあるテーマについて問を立てることができる 。
（B）自身の興味・関心のあるテーマの問に関して、問題点・課題点を列挙できる。
（A）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究をまとめている。
（S）テーマに関する問題点・課題点についての先行研究を踏まえ、自身の取り組む研究課題を明確にしている。

課題に対するフィードバックの方法

課題発表へのコメント返却及び最終レポートへのコメント返却。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、発表及びグループ演習を通じて、自身の立てた問い及び仮説に取り組み、一定の成果を提示する力を身につけさせる。

科目名	総合科目（チベット語入門）	学期	通年	単位数	2	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ
副　題	チベット語初級						
ナンバリング	G 1-07-320	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

チベット仏教の最高学位（ゲシェーハランパ）を持つチベット僧から、丁寧にチベット語の会話とチベット文字を習う。だれでも参加できる入門クラス。

授業の到達目標

【前期】文字（ウチェン）と発音、あいさつを修得し、チベット語会話の基礎レベルに達する。
【後期】文字（ウメー）を修得し、チベット語会話の応用レベルに達する。

授業計画

【前期】
1．オリエンテーション、チベット語の簡単なあいさつ
2．文字（ウチェン）と発音（1）、簡単なあいさつ（続き）
3．文字と発音（2）、少し複雑なあいさつ
4．文字と発音（3）、1から 20 まで
5．「私は日本人です」
6．「あなたはチベット人ですか」
7．「私たちは先生ではありません」
8．「彼はよい犬を一匹飼っています 」
9．「彼女は多分今授業中でしょう」
10．「私は遊びに行きます」
11．「このカメラはあそこの女の子のものです」
12．「あなたはお食事を召し上がりますか」
13．「あの新しい家の屋根」
14．「私はチベットのチャンも好きです」
15．復習

【後期】
1．オリエンテーション
2．文字（ウメー）の練習
3．文字の練習（続き）
4．文字を完全に修得する
5．「これは何ですか」
6．「あなたはいついらっしゃるでしょうか」
7．「あなたはどこの方ですか」
8．「この本はだれが書きましたか」
9．「私は見ます」「彼には見えています」
10．数の数え方
11．応用的会話練習（1）
12．応用的会話練習（2）
13．応用的会話練習（3）
14．応用的会話練習（4）
15．応用的会話練習（5）

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として、その日に習ったことを徹底的に復習して身につけること（180 分）。

テキスト

ロサン・トンデン著、石濱裕美子、 ケルサン・タウワ訳『現代チベット語会話』Vol.1（世界聖典刊行協会）、その他。

参考書・参考資料等

松本栄一・奥山直司『チベット［マンダラの国］』（小学館） ※ その他、必要に応じて講義の中で指示する。

学生に対する評価

授業参加状況（50%）、習熟度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自チベット文字（ウチェン）が一応、読み書きできる。
（B）チベット語の簡単な挨拶ができる。
（A）チベット文字（ウチェン）が自由に読み書きでき、かつ基本的な挨拶ができる。
（S）チベット文字（ウチェンとウメー）が自由に読み書きでき、簡単な内容の会話がよどみなくできる。

課題に対するフィードバックの方法

課質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

科目名	総合科目（チベット仏教入門ⅠA）	学期	前期	単位数	2	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ
副　題	仏教の基礎を学ぶ						
ナンバリング	G 1-02-321	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

チベット仏教に関する基礎知識を修得する。

授業計画

1．ガイダンス
2．三帰依
3．三帰依（続）
4．六加行法
5．六加行法（続）
6．十不善と十善
7．十不善と十善（続）
8．釈尊の四大事 1、2
9．釈尊の四大事 3、4
10．釈尊の十二相 1、2
11．釈尊の十二相 3、4
12．釈尊の十二相 5、6
13．釈尊の十二相 7、8
14．釈尊の十二相 9、10
15．釈尊の十二相 11、12

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90 分）。
事後学修として習ったことを暗記する（90 分）。

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

発表（40%）、授業参加の積極性（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	総合科目（チベット仏教入門ⅡA）	学期	後期	単位数	2	担当者	ﾃﾝｼﾞﾝ・ｳｾﾙ
副　題	仏教の基礎を学ぶ						
ナンバリング	G 1-02-322	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1

授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

授業の到達目標

チベット仏教に関する基礎知識を修得する。

授業計画

1．ガイダンス
2．三帰依
3．六加行法
4．十不善と十善
5．四諦
6．四諦（続）
7．八正道
8．十二因縁
9．十二因縁（続）
10．生死輪
11．生死輪（続）
12．六波羅蜜
13．六波羅蜜（続）
14．空
15．まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90 分）。
事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90 分）。

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

教室で指示する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、習熟度（40%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
（B）仏教の教えの大要を説明できる。
（A）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の簡単な文章を理解できる。
（S）仏教の教えを詳しく説明でき、かつチベット語の経典を読むことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。

科目名	企画科目（古文書解読Ｂ）／古文書解読Ｂ	学期	前期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副　題	中世文書を読む						
ナンバリング	G 2-12-323	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

この授業では、中世の古文書を教材として、「変体漢文」やくずし字を理解する基礎を養う。本年度は、とくに中世天皇の自筆文書、公家様文書・武家様文書を通して、政治史的な背景も押さえつつ、古文書に関する学識を高めることを目指す。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

中世の古文書に関する読解能力を身につける。
古文書を通して、中世の天皇を取り巻く政治状況を説明できるようになる。
古文書を通して、中世国家における公家・武家の権力について説明できるようになる。

授業計画

1．古文書序説（古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など）
2．中世の天皇文書を読む①―後鳥羽上皇筆手印置文の前半部―
3．中世の天皇文書を読む②―後鳥羽上皇筆手印置文の後半部―
4．中世の天皇文書を読む③―後鳥羽上皇筆手印置文の時代背景―
5．中世の天皇文書を読む④―後伏見上皇筆願文案の前半部―
6．中世の天皇文書を読む⑤―後伏見上皇筆願文案の後半部―
7．中世の天皇文書を読む⑥―後伏見上皇筆願文案の時代背景―
8．中世の奉書と直状
9．中世の公家様文書を読む①―院宣―
10．中世の公家様文書を読む②―綸旨―
11．中世の武家様文書を読む①―関東御教書―
12．中世の武家様文書を読む②―関東下知状―
13．古文書・古典籍の複製を扱う
14．高野山における調査
15．高野山における調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）
講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと（90 分）

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993 年）
※書店で購入。また、古文書の図版プリントを配布する。

参考書・参考資料等

①佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局、1997 年）
②石井進『中世の古文書を読み解く』（東京大学出版会、1990 年）
③田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993 年）第 1 部「日本の古文書」
④青木和夫ほか編『文献史料を読む－古代から近代－』（朝日新聞社、2000 年）

学生に対する評価

授業中の参加態度（予習および発言、50%）、期末試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）基礎的なくずし字を解読できる。
（B）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
（A）くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
（S）古文書の読解能力を習得するとともに、古文書の形態や、中世文書に関する専門的な知識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。
『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。（例年、類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意）。
本演習では、高野山において、古文書・古典籍の調査を、２回ほど実施する予定である（土曜日もくしは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する）。

科目名	企画科目（密教入門講座 1）	学期	前期	単位数	2	担当者	密教学科主任
副　題	仕教学・密教学の基礎						

ナンバリング	M 2-01-324	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	2

授業の目的と概要

本講義は、3 回生編入で密教学科に入学した学生を対象にした仏教学・密教学の基礎講座である。
釈尊からはじまる仏教の歴史と思想、その延長線上にある密教の教えやマンダラ、日本仏教の歴史や仏教信仰の展開など、幅広いテーマの入門講座を密教学科教員がリレーで講義する。
・仏教入門（前谷彰教授）
・密教入門（土居夏樹准教授）
・マンダラ入門（松長潤慶教授）
・日本仏教史入門（櫻木潤専任講師）
・仏教説話入門（浜畑圭吾准教授）

授業の到達目標

密教学科が展開している各科目の講義内容に対する理解を深め、それぞれの関心に応じた学習を効率よく進めることができるようになる。

授業計画

1．仏教入門 ① 釈尊の生涯
2．　〃　② 縁起
3．　〃　③ 慈悲と空
4．密教入門 ① 秘密の意味
5．　〃　② 密教の仏
6．　〃　③ 即身成仏の思想
7．マンダラ入門 ① マンダラとは何か？
8．　〃　② 胎蔵マンダラの世界
9．　〃　③ 金剛界マンダラの仏たち
10．日本仏教史入門 ① 奈良仏教の展開
11．　〃　② 平安時代の仏教
12．　〃　③ 鎌倉仏教の誕生
13．仏教説話入門 ① 仏教信仰と説話
14．　〃　② 弘法大師の伝説
15．　〃　③ 説話の中の高野山

準備学習（予習・復習）・時間

・各講師が提示する課題の事前学習（60 分）
・受講後の問題点の整理（60 分）

テキスト

※各担当者から指示する。

参考書・参考資料等

※各担当者から指示する。

学生に対する評価

授業への参加度（50%）、期末レポート（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教学／密教学の基礎を理解している。
（B）仏教学／密教学の基礎を理解し、問題意識をもって説明することができる。
（A）仏教学／密教学の基礎を、自分の問題意識をから1次資料を用いて説明することができる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえ、独自の学術的問題意識を論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、添削し次回授業時に返却する。

その他

・基礎的な知識の習得を目的とした講義のため、受講生の積極的かつ建設的な授業参加を期待する。

科目名	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）	学期	後期	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題							

ナンバリング	G 3-03-325	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問･巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート（2,000 ～ 3,200 字）にまとめる。

授業の到達目標

自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのか、自身のスピリチャリティに影響を及ぼした体験について考察して記述することができる。

授業計画

1．講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2．聖地巡礼に向けての計画書作成①
3．聖地巡礼に向けての計画書作成②
4．聖地巡礼に向けての計画書作成③
5．聖地巡礼に向けての計画書作成④
6．聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7．聖地巡礼経過報告①
8．聖地巡礼経過報告②
9．聖地巡礼経過報告③
10．聖地巡礼経過報告④
11．聖地巡礼経過報告⑤
12．聖地巡礼後の報告書作成①
13．聖地巡礼後の報告書作成②
14．聖地巡礼後の報告書作成③
15．総合報告会：まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

聖地について調べてまとめ､巡礼のための準備をする。(90 分)計画または巡礼後の発表､質疑応答を踏まえ、内容について各自で整理する。(90 分)

テキスト

講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①鎌田東二『究極日本の聖地』KADOKAWA/ 中経出版 ,2014 年
②岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書 ,2015 年

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
（B）聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
（A）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
（S）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

この科目は、3 年次に履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自身にとっての聖地を巡る実習教育を通じて、自身のスピリチャリティ涵養のために必要な学びを自ら立案及び実行し、自身の得た体験の意味に思索を巡らし、言語化する力を身につけさせる。

科目名	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）	学期	後期	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題							

ナンバリング	G 4-03-326	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

聖地巡礼計画書を作り、チェックを受けたうえで実際に訪問･巡礼し、その体験について考察してレポートを提出する。聖地は二つ選択し、それぞれの巡礼体験をレポート（2,000 ～ 3,200 字）にまとめる。

授業の到達目標

自分なりの聖地を見つけ、その体験を深く味わったうえで、自分の中で何が起こったのか、自身のスピリチャリティに影響を及ぼした体験について考察して記述することができる。

授業計画

1．講義ガイダンス：聖地巡礼の意味について
2．聖地巡礼に向けての計画書作成①
3．聖地巡礼に向けての計画書作成②
4．聖地巡礼に向けての計画書作成③
5．聖地巡礼に向けての計画書作成④
6．聖地巡礼に向けての計画書作成⑤
7．聖地巡礼経過報告①
8．聖地巡礼経過報告②
9．聖地巡礼経過報告③
10．聖地巡礼経過報告④
11．聖地巡礼経過報告⑤
12．聖地巡礼後の報告書作成①
13．聖地巡礼後の報告書作成②
14．聖地巡礼後の報告書作成③
15．総合報告会：まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

聖地について調べてまとめ､巡礼のための準備をする。(90 分)計画または巡礼後の発表､質疑応答を踏まえ、内容について各自で整理する。(90 分)

テキスト

講師作成のプリントを配布する。

参考書・参考資料等

①鎌田東二『究極日本の聖地』KADOKAWA/ 中経出版 ,2014 年
②岡本亮輔『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書 ,2015 年

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自分なりの聖地を見つけ、そこでの体験について身体感覚を含めて報告できる。
（B）聖地での体験について、客観的に比較分析することができる。
（A）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解する。
（S）聖地での体験を自身の生育歴や死生観につなげながら理解し、他者に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

この科目は、『聖地巡礼Ⅰ』を受講していなければ受講できない。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自身にとっての聖地を巡る実習教育を通じて、自身のスピリチャリティ涵養のために必要な学びを自ら立案及び実行し、自身の得た体験の意味に思索を巡らし、言語化する力を身につけさせる。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅰ）	学期	通年	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題							

ナンバリング	G 3-10-327	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

スピリチュアルケアに関する「専門知識」､「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は 60 時間とする。また、3 年次の履修とする。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．スピリチュアルケアと臨床現場
3．ケアと倫理
4．実習：傾聴活動①
5．実習：傾聴活動②
6．実習：傾聴活動③
7．実習：傾聴活動④
8．実習：傾聴活動⑤
9．実習：傾聴活動⑥
10．実習：傾聴活動⑦
11．実習：傾聴活動⑧
12．実習：傾聴活動⑨
13．実習：傾聴活動⑩
14．実習の振り返り
15．まとめ：苦悩とケア

準備学習（予習・復習）・時間

各実習実施前に、各自の課題と目標を明確化する（90 分)。実習実施後に、記録記入及び反省を行う（90 分）

テキスト

講師作成の実習資料を配付する。

参考書・参考資料等

窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書房 ,2008 年。他、適時紹介する。

学生に対する評価

実習中の態度（30%）・実習日誌（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
（B）スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
（A）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
（S）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することでできる。

課題に対するフィードバックの方法

定期的に実習日誌を点検し、随時指導を行う。

その他

スピリチュアルケア師資格取得を希望する者は､臨床実習Ⅰ（3 年次）と臨床実習Ⅱ（4 年次）を履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、スピリチュアルケアの臨床現場（高齢者介護施設・緩和ケア病棟・障害者福祉施設など）でのケア実習（実践・グループワーク・指導など）を通じて、ケアに必要な姿勢、態度、能力を身につけさせる。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅱ）	学期	通年	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題							

ナンバリング	G 4-10-328	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

「臨床実習Ⅰ」での学びをさらに深めることを目的とし、4 年次の履修とする。スピリチュアルケアに関する「専門知識」、「援助技法」及び「関連知識」を病院、老人保健施設、障害者施設等などの臨床現場で活用し、チームによる対人援助業務を展開するために必要な技術の習得及びその技術を活用する資質や能力を養うための実習を行う。実習は主として傾聴活動を行い、実習時間は 60 時間とする。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの実践に必要なケア力を身につける。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．スピリチュアルケアと死生観
3．ケアと倫理
4．実習：傾聴活動①
5．実習：傾聴活動②
6．実習：傾聴活動③
7．実習：傾聴活動④
8．実習：傾聴活動⑤
9．実習：傾聴活動⑥
10．実習：傾聴活動⑦
11．実習：傾聴活動⑧
12．実習：傾聴活動⑨
13．実習：傾聴活動⑩
14．実習の振り返り
15 まとめ：苦悩とケア

準備学習（予習・復習）・時間

各実習実施前に、各自の課題と目標を明確化する（90 分）。実習実施後に、記録記入及び反省を行う（90 分）

テキスト

講師作成の実習資料を配付する。

参考書・参考資料等

窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書房 ,2008 年。他、適時紹介する。

学生に対する評価

実習中の態度（30%）・実習日誌（70%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）苦悩する方々へのケアの多様な在り方を知る。
（B）スピリチュアルケアの実践に必要な技術や態度を理解する。
（A）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解する。
（S）スピリチュアルケアの実践に必要な資質や能力について理解し、他者に説明することでできる。

課題に対するフィードバックの方法

定期的に実習日誌を点検し、随時指導を行う。

その他

スピリチュアルケア師資格取得を希望する者は､臨床実習Ⅰ（3 年次）と臨床実習Ⅱ（4 年次）を履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、スピリチュアルケアの臨床現場（高齢者介護施設・緩和ケア病棟・障害者福祉施設など）でのケア実習（実践・グループワーク・指導など）を通じて、ケアに必要な姿勢、態度、能力を身につけさせる。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅲ）	学期	通年	単位数	2	担当者	森 崎 雅 好
副　題							

ナンバリング	G 3-10-329	授業方法	実習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

キリスト教の教義及び世界観並びに神道の教義及び世界観と社会実践活動の実際について、学外実習を通じて学ぶ。遠隔地での学外実習のため現地にて宿泊する。また、各実習終了後、自身の学びや気づきについてキーワードを 3 つ挙げ、レポート（2,000 ～ 3,200 字以内）にまとめる。

授業の到達目標

様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の世界観を再確認し、社会実践活動に結び付ける視点を身につける。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．事前学習①：キリスト教について
3．事前学習②：教会の活動について
4．現地実習①：活動現場視察（自殺防止活動・於：和歌山県白浜町三段壁周辺）
5．現地実習②：実践講義 1（キリスト教の世界観）
6．現地実習③：実践講義 2（キリスト教とケア）
7．現地実習④：礼拝出席
8．実習の振り返り①
9．事前学習③：神道について
10．現地実習⑤：実践講義 1（神道の世界観）
11．現地実習⑥：実践講義 2（神道とケア）
12．現地実習⑦：伊勢神宮参拝
13．実習の振り返り②
14．全体の振り返り
15．まとめ：宗教とケア

準備学習（予習・復習）・時間

各事前学習の前の個人学習（90 分）と各実習の振り返り後の学びのまとめ（90 分）

テキスト

講師作成の資料を配付する。

参考書・参考資料等

藤藪庸一『あなたを諦めない 自殺救済の現場から』いのちのことば社 ,2019 年・伊藤 聡『神道とは何か - 神と仏の日本史』中央公論新社 ,2012 年

学生に対する評価

レポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）様々な宗教的世界観を理解する。
（B）様々な宗教的世界観を理解した上で、自己の抱く世界観を理解する。
（A）自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結びつける視点を身につけている。
（S）自己の抱く世界観を理解し、社会実践活動に結びつける視点を身につけ、それらを他者に伝えることができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

臨床宗教師資格取得を希望する者は必ず受講すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、宗教者によるケア実践活動の現場（キリスト教・神道）での実習を通じて、各宗教の世界観及び実践方法について学ぶことで自身のケア活動の姿勢や態度を内省し、現場での自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅳ）	学期	通年	単位数	2	担当者	川 口 道 雄
副　題							

ナンバリング	G 3-10-330	授業方法	実習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、学術大会や研修会、ボランティア活動などに 3 回または 3 ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを 3 つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート（2,000 ～ 3,200 字以内）にまとめる。

授業の到達目標

現代社会における課題に関する見聞を広め、社会の中におけるケア実践活動のための教養を身につける。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．事前学習①
3．事前学習②
4．現地実習①
5．現地実習②
6．現地実習③
7．現地実習④
8．実習中間報告会
9．現地実習⑤
10．現地実習⑥
11．現地実習⑦
12．現地実習⑧
13．実習の振り返り
14．実習報告会①
15．実習報告会②

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習及び現地実習の前に個人の興味関心のある領域の情報をまとめる（90 分）。
現地実習及び実習の振り返り後の自身の気づき、学びについてまとめる（90 分）

テキスト

講師作成の実習に関する資料を配付する。

参考書・参考資料等

木下大生 (編集), 鴻巣麻里香 (編集)『ソーシャルアクション！あなたが社会を変えよう！: はじめの一歩を踏み出すための入門書 』ミネルヴァ書房，2019 年。他、適時紹介する。

学生に対する評価

レポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
（B）現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
（A）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
（S）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

臨床実習Ⅳは 3 年次に履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

講師は、社会福祉法人光生会の創立者、現相談役を務めている。知的障害、身体障害のある方、高齢者の方及び子どもと子育て中の方への支援を行う法人の運営、並びに、対人援助の実務経験のある講師が、ボランティア活動への姿勢や態度、また、各領域の専門性の高め方について教示し、現代社会における様々な問題に対応するための自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	企画科目（臨床実習Ⅴ）	学期	通年	単位数	2	担当者	川 口 道 雄
副　題							

ナンバリング	G 4-10-331	授業方法	実習	実務経験の有無	有	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

各自が現代社会の課題について、各地で開催されるシンポジウム、研修会、学術大会、ボランティア活動などに 3 回または 3 ヶ所以上参加し、各活動についてキーワードを 3 つ挙げながら自身の学びや気づきをレポート（2,000 ～ 3,200 字以内）にまとめる。

授業の到達目標

現代社会における課題に関する見聞を広め､社会の中におけるケア実践活動のための教養や態度を身につける。

授業計画

1．実習に関するガイダンス
2．事前学習①
3．事前学習②
4．現地実習①
5．現地実習②
6．現地実習③
7．現地実習④
8．実習中間報告会
9．現地実習⑤
10．現地実習⑥
11．現地実習⑦
12．現地実習⑧
13．実習の振り返り
14．実習報告会①
15．実習報告会②

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習及び現地実習の前に個人の興味関心のある領域の情報をまとめる（90 分）。
現地実習及び実習の振り返り後の自身の気づき、学びについてまとめる（90 分）

テキスト

講師作成の実習に関する資料を配付する。

参考書・参考資料等

木下大生 (編集), 鴻巣麻里香 (編集)『ソーシャルアクション！あなたが社会を変えよう！: はじめの一歩を踏み出すための入門書 』ミネルヴァ書房，2019 年。他、適時紹介する。

学生に対する評価

レポートによる評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）現代社会の課題に関して、見識を広めることができている。
（B）現代社会の課題に関して、当事者意識を持つことができている。
（A）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識できている。
（S）現代社会の課題に関して、自己が関与できることについて意識し、かつ、他者に伝えることできる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのコメントを返却する。

その他

臨床実習Ⅴは 4 年次に履修すること。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

講師は、社会福祉法人光生会の創立者、現相談役を務めている。知的障害、身体障害のある方、高齢者の方及び子どもと子育て中の方への支援を行う法人の運営、並びに、対人援助の実務経験のある講師が、ボランティア活動への姿勢や態度、また、各領域の専門性の高め方について教示し、現代社会における様々な問題に対応するための自身の能力の活かし方について考える力を身につけさせる。

科目名	中国文化講読演習Ｂ	学期	前期	単位数	2	担当者	南　昌宏
副　題	『文選』を読む						

ナンバリング	Ｇ 3-04-332	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	1,2

授業の目的と概要

『文選』（中国六朝時代の漢詩文集）を精読することによって、四六駢儷体の特徴など中国文学の文章軌範を理解し、作者の心情について考える。あわせて、『文選』を読解するために必要な中国古典に関する知識、漢文の基本的な文法、旧漢字・歴史的仮名遣いの読み書き、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを広く身に付ける。また、日本と中国との文化について、現代社会と当時との相違について、比較検討することを通じて、独自の視点や疑問の持ち方を修得し、論理的な思考方法を身に付ける。同時に、『文選』を始めとする中国古典が弘法大師空海の知識の源泉であることを認識し、その文章作成の技法などについて理解を進めることによって、密教を学修・研究するための基礎的な能力を養う。

授業の到達目標

○旧漢字・歴史的仮名遣い・難解な語彙などの古典表現を読解できる。　○漢文を自学自習するための技法を修得している。　○四六駢儷体の特徴を説明できる。　○「典故を踏む」という技法を説明できる。　○作者の心情を推し量ることができる。

授業計画

1．鄒陽「上書呉王」①（全体を通読）
2．鄒陽「上書呉王」②（「臣聞秦倚曲臺之宮」以下を読む）
3．鄒陽「上書呉王」③（「城陽顧於盧博」以下を読む）
4．鄒陽「上書呉王」④（「蛟龍驥首」以下を読む）
5．鄒陽「上書呉王」⑤（「飾固陋之心」以下を読む）
6．鄒陽「上書呉王」⑥（「淮南連山」以下を読む）
7．鄒陽「上書呉王」⑦（「深割嬰兒」以下を読む）
8．陸士衡「五等諸侯論」①（全体を通読）
9．陸士衡「五等諸侯論」②（「夫體國營」以下を読む）
10．陸士衡「五等諸侯論」③（「庶雜居而」以下を読む）
11．陸士衡「五等諸侯論」④（「夫然則南」以下を読む）
12．陸士衡「五等諸侯論」⑤（「願法期於」以下を読む）
13．陸士衡「五等諸侯論」⑥（「豈玩二王」以下を読む）
14．陸士衡「五等諸侯論」⑦（「降及亡秦」以下を読む）
15．陸士衡「五等諸侯論」⑧（「豈劉項之」以下を読む）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30 分）、難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60 分）。

テキスト

『文選』（明治書院・新釈漢文大系）のコピーを配布する。（受講生の希望があれば、テキストの変更も可）
湯浅邦弘『中国思想基本用語集』ミネルヴァ書房　2020 年

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994 年改訂
諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000 年修訂増補
近藤春雄『中国学芸大事典』大修館書店　昭和 53 年
他は授業で紹介する。

学生に対する評価

最終試験レポート（50%）、小テスト（25%）、発表（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解し、説明できる。
（S）テキストから問題点・疑問点を抽出できる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○小テストについては、次の講義で解説をする。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	梵字悉曇Ｂ	学期	後期	単位数	2	担当者	五十嵐啓道
副　題							

ナンバリング	Ｇ 1-01-333	授業方法	実技	実務経験の有無	有	関連 DP	1

授業の目的と概要

悉曇とはインド古代文字の一つであるが、日本においては弘法大師空海によって密教と共に請来され、梵語（真言・陀羅尼や種字）を読み書きするための学問（声明業）あるいは書道として相承されて来た。
慈雲尊者飲光は江戸期にあって従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵字資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文（貝葉）を研究して中国風な変化の影響を離れた独自の書風（慈雲流）を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

授業計画

1．梵字悉曇の概説
2．梵字悉曇の概説
3．梵字悉曇の概説
4．摩多体文（51 字母）の書法
5．摩多体文（51 字母）の書法
6．摩多体文（51 字母）の書法
7．摩多体文（51 字母）の書法
8．摩多体文（51 字母）の書法
9．摩多体文（51 字母）の書法
10．悉曇十八章について
11．悉曇十八章について
12．悉曇十八章について
13．悉曇十八章について
14．悉曇十八章について
15．悉曇十八章について

準備学習（予習・復習）・時間

・事前課題１：梵字の歴史の中で慈雲の梵字の特色を述べなさい。（3,800 ～ 4,000 字）　留意点：我が国に梵字が受容されてきた歴史をふまえ、慈雲の果たした役割、また書風の特徴などについて記すこと。
・事前課題２：日本に伝わる梵字悉曇について、知っていることや思う所を書きなさい。（3,800 ～ 4,000 字）留意点：テキストにとらわれず自由に正直に書くこと。
・復習として授業で学んだ文字を練習しておくこと（90 分）

テキスト

①松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門〔基礎編〕』、高野山出版社、2003 年
　部分（標題紙・目次・本文全 270 頁中（5 ～ 35 頁）・奥付）の電子複写
（『梵字入門（基礎編）（応用編）』三密堂書店、1976 年の改定修訂版）
②『悉曇摩多体文手本』半紙大、11 枚（伝受〈講義〉時に配付する）

参考書・参考資料等

静慈圓『梵字悉曇 慈雲流の意義と実習』、朱鷺書房、1997 年
児玉義隆『梵字必携 書写と解説』、朱鷺書房、1991 年

学生に対する評価

事前課題（50%）、作品提出（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）習った「梵字」を書くことが出来る。
（B）「梵字」に慣れて、上達が見られる。
（A）きれいな梵字を書くことが出来る。
（S）「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、随時フィードバックを行う。

その他

・筆記用具、書道用具を持参すること（太筆、細筆、半紙 100 枚、文鎮、下敷き、墨液）。
・①のテキスト中（24,25 頁）の「悉曇梵字々母表」によって 51 字母の読み方と字義を憶えること。読み方は先ずローマ字音を参考とする。
・テキストは難波サテライト教室事務室まで取りに来ること。
・事前課題は、５月末日までに難波サテライト教室（nanba-s@koyasan-u.ac.jp ）までメールで送ること。
・事前課題があるため、どちらも提出し合格した者しか受講を認めない。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の住職である教員が、真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、習字を通して、その上達を指導する。

科目名		学期		単位数		担当者	
副　題							

ナンバリング		授業方法		実務経験の有無		関連 DP	

科目名		学期		単位数		担当者	
副　題							

ナンバリング		授業方法		実務経験の有無		関連 DP	

大　学　院

◆目次について

この『令和２年度講義概要・授業計画』では、まず目次で自分の学科のページを開き、そこに記載されている科目情報およびシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担 当 者	単位	履修年次	資格関係	備　考	頁
前期	水	1	53101	空海の思想入門	乾　　龍　仁	2	1年次	―		1

開講学期
曜日
時間

講義コード

授業科目名

担当教員名

単位数

シラバス
ページ番号

◆講義コードについて

講義コードは５ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

□　□　□　□　□　（５ケタ）

課程
３＝文学部１回生用
４＝文学部２～４回生用
５＝文学部共通
８＝別科生用
９＝大学院生用

曜日
１＝月曜日
２＝火曜日
３＝水曜日
４＝木曜日
５＝金曜日
６＝土曜日
７＝集中講義
８＝実習
９＝論文

時限
１＝１講時
２＝２講時
３＝３講時
４＝４講時
５＝５講時
６＝６講時
７＝７講時

通し番号
01～24＝前期授業
　　および通年授業（高野山）
25～49＝前期授業
　　および通年授業（難波）
51～74＝後期授業（高野山）
75～99＝後期授業（難波）

◆受講登録について

1　受講登録の手続きは、今年度受講する全授業科目を履修登録票に記入し、４月６日（月）から４月 10 日（金）午後５時までに教務課へ提出してください。

2　履修登録票は、枠内にはっきりと、ていねいに記入してください。

①　学籍番号（※身分証明書を参照）・氏名・所属学科・学年を記入してください。

②　履修登録欄には、今年度に受講するすべての授業科目を、『令和２年度講義概要・授業計画』および授業時間表を参照して、講義コード・授業科目名（卒業論文も含む）を記入してください。

※１年間に履修登録できるのは自由科目を除き 50 単位までです。

3　履修登録票を教務課へ提出した学生は、４月 20 日（月）から４月 24 日（金）午後５時までに、教務課で各自の「学生時間割表」を受け取り、誤り・変更がないか確認をしてください。

この時に学生証（身分証明書）が必要です。確認後、誤り・変更がなければ、氏名の横に捺印もしくは署名をし、提出してください。誤り・変更があれば、朱書きで訂正をし、教務課へ提出してください。

4　最後に、各自の「学生時間割表」のコピーを受け取り、１年間保管してください。

5　履修を取り消したい科目がある場合は、前期は５月 29 日（金）まで、後期は 10 月 30 日（金）まで受け付けますので教務課に申し出てください。（※ただし、導入研修、英語Ⅰ・Ⅱは履修取り消しができません。）

6　後期（９月 23 日開講）授業科目の追加及び登録変更は、９月 23 日（水）から９月 30 日（水）午後５時までの後期履修登録変更期間に、教務課へ申し出てください。ただし、通年科目の追加･変更･取消はできません。

◆出席票について

「出席票」は、各授業の第１回目から第３回目まで、毎回各教室で担当教員に提出してください。

それ以降は各担当教員の指示に従ってください。授業実数の３分の２以上の出席がないと「失格」（999）になりますので留意してください。

◆報恩日（21 日）の授業実施について

報恩日（21 日）は、午前中は報恩日の行事に参加してください。午後の授業は実施されません。

◆ＧＰＡについて

1　ＧＰＡとは

ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のＧＰ（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

2　目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修することを目的としています。

3　対象

平成31年度入学生から対象となります。また３年次編入学生は令和３年度入学生からとなります。

4　ＧＰＡの計算方法

履修登録した各科目の成績（ＧＰ）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第３位は四捨五入。

合　否	評　点	評語	ＧＰ	判　定　基　準
合　格	90点以上	S	4	特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	優れた成績である
	79点～70点	B	2	妥当と認められる成績である
	69点～60点	C	1	合格と認められる最低限の成績である
不合格	59点以下	D	0	合格と認められない成績である
失　格	999点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認　定	888点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（履修登録した科目のＧＰ×その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

5　ＧＰＡに参入されない科目

他大学で取得し、本学にて認定された「N」評価の科目。

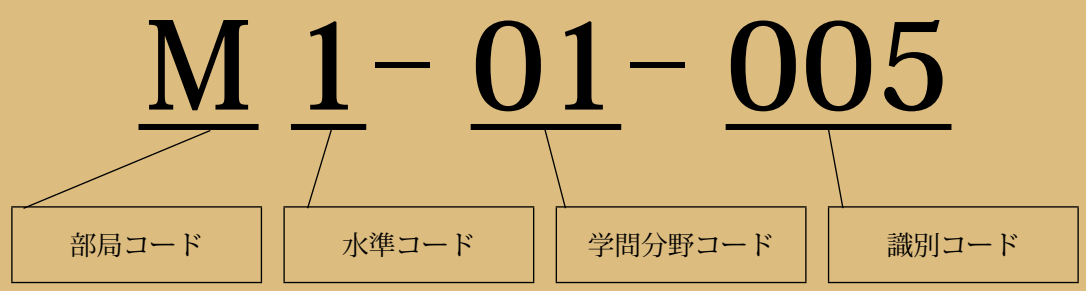
6　履修取り消し

前期は５月29日（金）まで、後期は10月30日（金）までと履修取り消し期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、ＧＰＡ算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと進級・卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。必修科目の中には履修取り消しができない科目（導入研修・英語Ⅰ・Ⅱ）もあります。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

◆科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

＜高野山大学科目ナンバリングの形式＞



1　各コードの定義について

（1）部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するために項目です。

＜部局コード分類表＞

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
N	人間学科
B	別科
D	大学院

（2）水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

（3）学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字２ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	07	外国語	13	情報学	19	論文指導
02	仏教学	08	哲学	14	統計学	20	その他
03	宗教学	09	法学	15	数学		
04	文学	10	心理学	16	キャリア教育		
05	国語学	11	社会学	17	教育学		
06	書道	12	歴史学	18	博物館学		

（4）識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字３ケタで表記しています。

1.文学研究科修士課程（修了要件：30単位）

[密教学専攻　博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1）基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	月	2	91201	密教学講義（大）	佐藤隆彦	2	８単位を超えて修了要件に参入できない。	院-1
前期	水	1	93101	仏教学講義（大）	前谷彰	2		院-1
前期	月	3	91301	インド学講義（大）	奥山直司	2		院-1
前期	火	3	92301	祖典演習（大）	佐藤隆彦	2		院-1

2）主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究Ａ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	主要科目12単位必修	院-2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究Ｂ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-2
後期	金	2	95251	密教史特殊研究Ａ（大）	土居夏樹	2		院-2
前期	木	3	94301	密教史特殊研究Ｂ（大）	坂口太郎	2		院-2
後期	木	3	94351	密教史特殊研究Ｃ（大）	坂口太郎	2		院-3
前期	水	2	93201	密教学演習1（大）	南昌宏	2		院-3
後期	水	2	93251	密教学演習2（大）	南昌宏	2		院-3
後期	金	4	95451	密教史演習（大）	奥山直司	2		院-3
後期	火	3	92351	密教学講読（大）	佐藤隆彦	2		院-4
後期	月	2	91251	密教史講読（大）	松長潤慶	2		院-4
前期	木	2	94202	現代社会と宗教（大）	森崎雅好	2	社会人コースは４単位必修	院-4
前期	金	2	95202	密教と文化（大）	土居夏樹	2		院-4
前期	金	2	95201	事相研究Ⅰ-1（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	僧侶コースは４単位必修	院-5
後期	金	2	95252	事相研究Ⅰ-2（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-5
前期	木	1	94102	事相研究Ⅱ-1（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-5
後期	木	1	94152	事相研究Ⅱ-2（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-5

3）関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	2	92201	仏教学特殊研究（大）	前谷彰	2		院-6
後期	木	1	94151	仏教史特殊研究（大）	櫻木潤	2		院-6
前期	水	2	93201	仏教学演習1（大）	前谷彰	2		院-6
後期	水	2	93251	仏教学演習2（大）	前谷彰	2		院-6
前期	木	1	94101	仏教史演習（大）	櫻木潤	2		院-7
後期	火	2	92251	仏教学講読（大）	浜畑圭吾	2		院-7
後期	月	3	91351	仏教史講読（大）	浜畑圭吾	2		院-7

4）共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	4	92401	仏教芸術の研究1（大）	和田圭子	2		院-7
後期	火	4	92451	仏教芸術の研究2（大）	和田圭子	2		院-8
前期	木	2	94203	アジア地域の宗教文化の研究（大）	南昌宏	2		院-8
後期	木	4	94451	比較宗教の研究（大）	森本一彦	2		院-8
後期	木	2	94252	現代社会と仏教の研究（大）	森崎雅好	2		院-8
後期	木	1	94153	教育学特殊研究（大）	山脇雅夫	2		院-9
通年	論文	論文	49005	修士論文（密教学）	大学院委員長	0		-
前期	論文	論文	49007	修士論文（密教学）（前期）	大学院委員長	0	７月提出許可者	-

2.文学研究科修士課程（修了要件：30単位）

[仏教学専攻　博士前期課程コース・社会人コース・僧侶コース]

1）基礎科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	月	2	91201	密教学講義（大）	佐藤隆彦	2	８単位を超えて修了要件に参入できない。	院-1
前期	水	1	93101	仏教学講義（大）	前谷彰	2		院-1
前期	月	3	91301	インド学講義（大）	奥山直司	2		院-1
前期	火	3	92301	祖典演習（大）	佐藤隆彦	2		院-1

2）主要科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	2	92201	仏教学特殊研究（大）	前谷彰	2	主要科目12単位必修	院-2
後期	木	1	94151	仏教史特殊研究（大）	櫻木潤	2		院-6
前期	水	2	93201	仏教学演習1（大）	前谷彰	2		院-6
後期	水	2	93251	仏教学演習2（大）	前谷彰	2		院-6
前期	木	1	94101	仏教史演習（大）	櫻木潤	2		院-7
後期	火	2	92251	仏教学講読（大）	浜畑圭吾	2		院-7
後期	月	3	91351	仏教史講読（大）	浜畑圭吾	2		院-7
前期	木	2	94202	現代社会と宗教（大）	森崎雅好	2	社会人コースは４単位必修	院-8
前期	金	2	95203	仏教と文化（大）	土居夏樹	2		院-4
前期	金	2	95201	事相研究Ⅰ-1（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	僧侶コースは４単位必修	院-5
後期	金	2	95252	事相研究Ⅰ-2（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-5
前期	木	1	94102	事相研究Ⅱ-1（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-5
後期	木	1	94152	事相研究Ⅱ-2（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-5

3）関連科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究Ａ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究Ｂ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-2
後期	金	2	95251	密教史特殊研究Ａ（大）	土居夏樹	2		院-2
前期	木	3	94301	密教史特殊研究Ｂ（大）	坂口太郎	2		院-2
後期	木	3	94351	密教史特殊研究Ｃ（大）	坂口太郎	2		院-3
前期	水	2	93201	密教学演習1（大）	南昌宏	2		院-3
後期	水	2	93251	密教学演習2（大）	南昌宏	2		院-3
後期	金	4	95451	密教史演習（大）	奥山直司	2		院-3
後期	火	3	92351	密教学講読（大）	佐藤隆彦	2		院-4
後期	月	2	91251	密教史講読（大）	松長潤慶	2		院-4

4）共通科目

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	2	94203	アジア地域の宗教文化の研究（大）	南昌宏	2		院-8
後期	木	4	94451	比較宗教の研究（大）	森本一彦	2		院-8
後期	木	2	94252	現代社会と仏教の研究（大）	森崎雅好	2		院-8
後期	木	1	94153	教育学特殊研究（大）	山脇雅夫	2		院-9
通年	論文	論文	49006	修士論文（仏教学）	大学院委員長	0		-
前期	論文	論文	49008	修士論文（仏教学）（前期）	大学院委員長	0	７月提出許可者	-

3.文学研究科博士後期課程（修了要件：12単位）

[密教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	木	2	94201	密教学特殊研究Ａ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2	※密教特殊演習4単位を含め、12単位以上を履修しなければならない。（複数回履修可）	院-2
後期	木	2	94251	密教学特殊研究Ｂ（大）	T.ﾄﾞﾗｲﾄﾗｲﾝ	2		院-2
後期	金	2	95251	密教史特殊研究Ａ（大）	土居夏樹	2		院-2
前期	木	3	94301	密教史特殊研究Ｂ（大）	坂口太郎	2		院-2
後期	木	3	94351	密教史特殊研究Ｃ（大）	坂口太郎	2		院-3
前期	水	2	93201	密教学演習1（大）	南　昌宏	2		院-3
後期	水	2	93251	密教学演習2（大）	南　昌宏	2		院-3
後期	金	4	95451	密教史演習（大）	奥山直司	2		院-3
後期	火	3	92351	密教学講読（大）	佐藤隆彦	2		院-4
後期	月	2	91251	密教史講読（大）	松長潤慶	2		院-4
前期	木	3	94302	密教特殊演習Ａ-1（大）	佐藤隆彦	2		院-9
後期	木	3	94352	密教特殊演習Ａ-2（大）	佐藤隆彦	2		院-9
前期	金	3	95301	密教特殊演習Ｂ-1（大）	奥山直司	2		院-9
後期	金	3	95351	密教特殊演習Ｂ-2（大）	奥山直司	2		院-10
前期	火	1	92101	密教特殊演習Ｃ-1（大）	乾　龍仁	2		院-10
後期	火	1	92151	密教特殊演習Ｃ-2（大）	乾　龍仁	2		院-10
前期	火	2	92202	密教特殊演習Ｄ-1（大）	乾　龍仁	2		院-10
後期	火	2	92252	密教特殊演習Ｄ-2（大）	乾　龍仁	2		院-11
前期	金	4	95401	密教特殊演習Ｅ-1（大）	土居夏樹	2		院-11
後期	金	4	95452	密教特殊演習Ｅ-2（大）	土居夏樹	2		院-11

[仏教学専攻]

学期	曜日	時限	講義コード	授　業　科　目	担当者	単位	備考	頁
前期	火	2	92201	仏教学特殊研究（大）	前谷　彰	2	※仏教特殊演習4単位を含め、12単位以上を履修しなければならない。（複数回履修可）	院-6
後期	木	1	94151	仏教史特殊研究（大）	櫻木　潤	2		院-6
前期	水	2	93201	仏教学演習1（大）	前谷　彰	2		院-6
後期	水	2	93251	仏教学演習2（大）	前谷　彰	2		院-6
前期	木	1	94101	仏教史演習（大）	櫻木　潤	2		院-7
後期	火	2	92251	仏教学講読（大）	浜畑圭吾	2		院-7
後期	月	3	91351	仏教史講読（大）	浜畑圭吾	2		院-7

講　義　概　要

・

授　業　計　画

科目名	密教学講義（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	佐藤隆彦
副　題	密教の概要を知る						
ナンバリング	D 5-01-205	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵、金剛智三蔵、不空三蔵等によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらなかった。この密教思想の体系化は9世紀初頭に入唐した弘法大師空海によって果たされる。ここでは大師によって確立された密教（真言密教）の思想的特徴を概観し理解する。

授業の到達目標

密教の専門用語を習得し、密教思想を総合的に理解することができる。

授業計画

1．講義内容の説明
2．真言密教の立場
3．東密と台密の違い
4．東密と台密の違い
5．教判論
6．顕密二教判（仏身論と二教判）
7．顕密二教判（弁顕密二教論）
8．十住心教判（十住心思想）
9．十住心教判（十住心思想と曼荼羅）
10. 六大体大（六大の意味）
11. 六大体大（六大の深意）
12. 四曼相大
13. 三密用大（三密の意味）
14. 三密用大（三密の深意）
15. 総まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習としてテキストの該当ページを読んでおくこと（60分）。事後学修として授業の内容を再整理するとともに関連文献に目を通すこと（90分）。

テキスト

高神覚昇著『密教概論』大法輪閣

参考書・参考資料等

①松長有慶著『密教』（岩波新書）岩波書店②勝又俊教著『密教入門』春秋社③金岡秀友著『密教の哲学』講談社学術文庫④佐和隆研編『密教辞典』法藏館⑤中村元他編『岩波仏教辞典』岩波書店

学生に対する評価

試験（80%）、授業参加への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）密教の基本的な用語を理解している。
（B）配布した資料やテキストにしたがって密教の用語を完全に説明できる。
（A）配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を説明できる。
（S）配布した資料やテキスト以外の文献を調べて密教の用語を独自の視点で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックを行う。最後の授業において総まとめを行うとともにフィードバックを行う。

その他

講義にはテキスト・参考書の他に、ノートと配布プリントおよび辞書等を持参すること。授業中に黒板に板書した語句や文章および図はノートすること。

科目名	仏教学講義（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	前谷　彰
副　題							
ナンバリング	D 5-02-206	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

仏教における光の観念について理解する。

授業の到達目標

宗教における光の観念について考察し、仏教は「光」をどう捉えていたかについて説明できるようになる。

授業計画

1．オリエンテーション
2．初期仏教における光の観念 『スッタニパータ』に見る光の用語
3．ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語①（ジョーティ）
4．ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語②（オーバーサ、アーバー）
5．ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語③（アーローカの意味）
6．ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語④（アーローカの意味）
7．ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語⑤（アーローカの意味）
8．ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語⑥（プラ＝カーシュの意味）
9．ヴィナヤ及び種々のニカーヤ文献に見る光の用語⑦（プラ＝カーシュの意味）
10. 初期仏教における解脱論（光の観念を中心として）
11. 見法の用例
12. 禅定（瞑想）と見法
13. 梵行と見法
14. 自然智・無師智・一切智
15. 縁起と救済論

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（120分）

テキスト

前谷　彰 『仏教における光の観念に関する研究』（担当者博士学位論文）の一部コピーをプリントとして配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて担当者が用意する。

学生に対する評価

授業内容をどれだけ理解しているか、学期末のレポート（100%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。

科目名	インド学講義（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	奥山直司
副　題	インド・チベット密教史						
ナンバリング	D 5-01-207	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

インド密教がどのようにして形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点について映像資料なども参考にしながら学ぶ。

授業の到達目標

上座部仏教、一般大乗仏教に対する密教の歴史的特徴を説明できる。
インド・チベット仏教における密教経典分類法を説明できる。
インド・チベット密教史の大まかな流れを理解し、説明できる。

授業計画

1．ガイダンスならびに授業概要説明
2．インド・チベット仏教における密教経典分類法
3．インド初期密教萌芽から形成へ
4．インド中期密教組織化の時代１：『大日経』の密教
5．インド中期密教組織化の時代２：『金剛頂経』の密教
6．インド後期密教新たな展開１：父タントラの密教
7．インド後期密教新たな展開２：母タントラ、不二タントラの密教
8．古代チベット王国と仏教の伝来
9．仏教国教化への道のり
10. 古代チベット王国の崩壊と仏教の復興
11. 諸宗派の形成１：アティーシャとカーダム派、サキャ派
12. 諸宗派の形成２：カギュ派、ニンマ派
13. 諸宗派の形成３：ゲルク派
14. ゲルク派の覇権
15. 試験と総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考資料の次回の授業範囲を読んでおくこと（90分）。
事後学修として、ノートを読み直し、必要事項を暗記すること（90分）。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

①松長有慶『密教の歴史』平楽寺書店、1969年　②立川武蔵・頼富本宏編『インド密教』春秋社、1999年]
③立川武蔵・頼富本宏編『チベット密教』春秋社、2005年

学生に対する評価

課題レポート（20%）、期末試験（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教、大乗仏教、密教、上座部仏教の関係が説明できる。
（B）インド・チベット仏教における密教経典分類法が説明できる。
（A）チベット仏教の四大宗派の特徴が説明できる。
（S）インド・チベット密教史の流れが概括的に説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

遅刻3回で1欠席と見なす。

科目名	祖典演習（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	佐藤隆彦
副　題	『吽字義』を読む						
ナンバリング	D 5-01-208	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

『吽字義』は『即身義』『声字義』とあわせて三部書といわれる。ところが、内容的には密教の実践法とも密接なかかわりが想定される。そこで、『吽字義』と密教実践について着目し、密教教理と密教実践との接点を『吽字義』に探り、多角的総合的に理解をする。

授業の到達目標

授業計画

1．オリエンテーション
2．『吽字義』の成立背景
3．『吽字義』の綱領
4．『吽字義』の講読（漢文の読み方四声点等）
5．『吽字義』の講読（初日から三日）
6．『吽字義』の講読（四日から六日）
7．『吽字義』の講読（七日から八日）
8．『吽字義』の講読（九日から十日）
9．『吽字義』と『阿字観用心口訣』（略観）
10. 『吽字義』と『阿字観用心口訣』（広観）
11. 『吽字義』と『秘蔵記』（本不生）
12. 『吽字義』と『秘蔵記』（字相と字義）
13. 『吽字義』と字輪観（字輪観概要）
14. 『吽字義』と字輪観（字輪観の深意）
15. 総復習とレポート提出

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として授業範囲のテキストを読んでおくこと（60分）。事後学修として、講義の内容を踏まえてノートを整理しておくこと（90分）。

テキスト

『十巻章』高野山大学出版。

参考書・参考資料等

小田慈舟著『十巻章講説』高野山出版社など

学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）・試験（60%）で評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる
（B）原典の基本的な内容を理解できる
（A）原典の基本的な内容を注釈書に沿って理解できる
（S）原典の内容を批判的に検討できる

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックを行う。最後の授業において総まとめを行うとともにフィードバックを行う。

その他

講義で積極的に発言すること。

科目名	密教学特殊研究Ａ（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	T. ドライトライン
副　題	数息観・月輪観・阿字観						
ナンバリング	Ｄ 5-01-209	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

密教に伝わる瞑想の初級編。密教の代表的な観法の月輪観の理論を解説するとともに実習をおこないながら、秘密儀軌のなかの月輪観の典拠の一つである『無畏三蔵禅要』を理解する。阿字観の基本を『阿字観用心口決』から学ぶ。観法の前行として数息観と阿息観の実習もおこなう。理論だけでなく瞑想の実習を授業に取り入れる。

授業の到達目標

密教観法について、説明できるようになる。

授業計画

1．顕教と密教における瞑想：目的と種類
2．数息観の理論と実習
3．阿息観の理論と実習
4．月輪観の理論
5．『無畏三蔵禅要』１（内容と成立について）
6．『無畏三蔵禅要』２（授戒作法について）
7．『無畏三蔵禅要』３（陀羅尼について）
8．『無畏三蔵禅要』４（月輪観について）と月輪観の実習
9．『無畏三蔵禅要』５（月輪の特徴について）と月輪観の実習
10．『無畏三蔵禅要』６（五心と経行法について）審と月輪観の実習
11．『阿字観用心口決』１（内容と成立について）
12．『阿字観用心口決』２（阿字観の次第について）
13．『阿字観用心口決』３（阿字観の意義について）
14．『阿字観用心口決』４（広観と歛観について）と阿字観の実習
15．『阿字観用心口決』５（本不生について）と阿字観の実習

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』のコピーを配布

参考書・参考資料等

北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明できる。
（Ｂ）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』の要点を説明できる。。
（Ａ）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』の全文を読むことができる。
（Ｓ）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『無畏三蔵禅要』と『阿字観用心口決』の全文を読むことができ、密教観法の思想的背景について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。瞑想の実践を毎回行うので、僧侶でない受講者は座りやすい服装で受講すること。僧侶の受講者は黒衣に如法依で受講する。その他のことは講師と相談すること。

科目名	密教学特殊研究Ｂ（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	T. ドライトライン
副　題	阿字観とその意義						
ナンバリング	Ｄ 5-01-210	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

密教瞑想の中級編。前期の数息観・月輪観・阿字観の修法と理論を踏まえて、さらに深く阿字観について学んでいくため、頼瑜の『阿字秘釈』、覚鑁の『阿字観』などをはじめとして、阿字観に関する平安末期や中世の短編著作を講読し理解する。理論だけでなく阿字観の修法を前期に続けておこなう。

授業の到達目標

密教観法について、修法し説明できるようになる。

授業計画

1．数息観・月輪観・阿字観について
2．『大日経』と阿字
3．『大日経疏』と阿字
4．『阿字秘釈』と阿字観の修法
5．『阿字秘釈』と『大日経疏』
6．『阿字秘釈』と『心地観経』
7．覚鑁の阿字観
8．覚鑁の『阿字観頌』と『月輪観頌』を読む
9．覚鑁の『阿字観』の各テキストを読む
10．覚鑁の『阿字月輪観』を読む
11．覚鑁の『心月輪秘釈』を読む
12．覚鑁の『真言浄菩提心私記』を読む
13．成尊の『観心月輪記』を読む
14．明恵の『阿字観』を読む
15．阿字観の世界について

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

『阿字秘釈』の刊本のコピーを配布

参考書・参考資料等

北尾隆心『密教瞑想入門』、北尾隆心『密教瞑想の研究』、山崎泰廣『阿字観瞑想入門』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明できる。
（Ｂ）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の要点を説明できる。
（Ａ）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の全文を読むことができる。
（Ｓ）月輪と阿字の意味とその実践法を理解し説明でき、『阿字秘釈』の全文を読むことができ、密教観法の思想的背景について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。瞑想の実践を毎回行うので、僧侶でない受講者は座りやすい服装で受講すること。僧侶の受講者は黒衣に如法依で受講する。その他のことは講師と相談すること。

科目名	密教史特殊研究Ａ（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	土 居 夏 樹
副　題	『宗義決択集』の研究						
ナンバリング	Ｄ 5-01-211	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

高野山上に今日も続く宝門・壽門という２大学派の内、宝門の論義書である『宗義決択集』を取り上げ、それぞれの内容を通して高野山独自の学派である宝壽二門の教理を踏まえつつ、弘法大師の思想がどのように理解されてきたのかについて考察する。個々の論義を選び、書き下し文・語注・現代語訳とそれを踏まえた発表資料を作成し、発表する。

授業の到達目標

高野山上における教学史を通して、弘法大師の思想が後世どのように問題となり、どのように解釈されてきたのかについて理解するとともに、その問題点を説明できる力を身につける。

授業計画

1．概論 (講義の進め方等)
2．高野山の教学史 ① 覚海と高野四哲・八傑
3．高野山の教学史 ② 宥快と長覚
4．高野山の教学史 ③『宗義決択集』とは？
5．一乗経劫：即身成仏は“密教”だけの教えか？① 即身成仏をめぐる問題
6．　〃　②華天二宗の成仏論
7．　〃　③即事而真
8．六大四曼互能生：六大所生・四曼能生はあり得るか？　①六大と四曼
9．　〃　②壽門の場合
10．　〃　③『大日経』の教主
11．理法身説法：真理そのものは説法するのか？　①理法身と智法身
12．　〃　②真理は一か多か？
13．　〃　③『大日経』教主再論
14．まとめ ① 論義と中院流
15．まとめ ② 宝門と壽門

準備学習（予習・復習）・時間

・事前に取り上げる論義を選び、発表資料を作成する（120 分）
・各発表の内容に関する質問を考えるとともに、自分自身の考えも構築する（60 分）

テキスト

・『宗義決択集』、『真言宗全書』巻 19、続真言主全書刊行会※授業中にコピーを配布する。

参考書・参考資料等

・小田慈舟訳『宗義決択集』、『国訳一切経』和漢撰述部、「諸宗部」21、大東出版社
※その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業内での発表（60%）、定期試験（54）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）論義本文の書き下し文・語注・現代語訳の作成および引用文献の典拠を正確に指摘できる。
（Ｂ）論義の内容を把握し、説明できる。
（Ａ）該当論義以外の資料を用いて、該当論義の特徴を説明できる。
（Ｓ）上記（Ｃ）～（Ａ）を踏まえ、先行研究の状況に基づき自分の考えを論理的に説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

・取り上げる論義やテキストについては、受講生と話し合い、希望等によって変更する場合もある。
・学部生との合同授業のため、学部生の資料作成の指導にあたってもらう。
・発表担当回に、無断で欠席した者は、即時、失格とする。
・必ず質問をすること。授業中に質問をしなかった者は減点するので、そのつもりで予習をすること。

科目名	密教史特殊研究Ｂ（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	坂 口 太 郎
副　題	『感身学正記』を読む						
ナンバリング	Ｄ 5-12-212	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

本講義では、鎌倉時代後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』下巻を読解する。これを通して、同時期の叡尊の宗教活動のみならず、叡尊と公武両政権との関係について学ぶ。とくに、割り当てられた担当箇所について、関係する史料・論文などを調査し、資料を作成することで研究能力を練磨する。さらに、討論を通して、文献の理解度や論理的な思考力を高める。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

鎌倉後期の叡尊の宗教活動を、政治史との関係から理解できるようになる。
鎌倉後期の院・天皇、北条氏得宗の宗教政策を通して、鎌倉後期の時代相を考える視座をつちかう。
仏教史料の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

1．『感身学正記』の概要、講義の進め方、当番の割り振り、文献探索の方法
2．『感身学正記』を読む（１）（文永８年条の前半）
3．『感身学正記』を読む（２）（文永８年条の後半）
4．『感身学正記』を読む（３）（文永９年条）
5．『感身学正記』を読む（４）（文永 10 年条・文永 11 年条）
6．『感身学正記』を読む（５）（文永 12 年条の前部）
7．高野山霊宝館の見学
8．『感身学正記』を読む（６）（文永 12 年条の中部）
9．『感身学正記』を読む（７）（文永 12 年条の後部）
10．『感身学正記』を読む（８）（建治元年条）
11．『感身学正記』を読む（９）（建治２年条の前半）
12．『感身学正記』を読む（10）（建治２年条の後半）
13．『感身学正記』を読む（11）（建治３年条の前半）
14．『感身学正記』を読む（12）（建治３年条の後半）
15．高野山西南院の調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した資料を作成できるように努力すること（150 分）
報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること（30 分）

テキスト

①『感身学正記』本文のプリント
※第１回の講義で配布する。
②細川涼一『感身学正記』第２巻（平凡社東洋文庫、2020 年）
※書店で購入。必ず購入して講義に持参すること。
③受講生が作製する報告資料
※成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること。

参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』(吉川弘文館、1959 年)
②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誡聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全４冊（西大寺、1990 年）
③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』(奈良国立博物館、2001 年)
④松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』(吉川弘文館、2004 年)

学生に対する評価

レポート（50%）、講義中での報告（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（Ｃ）『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。
（Ｂ）『感身学正記』の史料的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。
（Ａ）『感身学正記』と叡尊の生涯について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。
（Ｓ）『感身学正記』および叡尊の生涯について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点後に講評する。

その他

本講義の内容は多岐にわたる上、水準は非常に高い。くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。受講生全員に報告義務を課すので、参考書や講義で紹介する論著を読んで資料を作成すること。熱意のある学生の受講や、積極的な質問を大いに歓迎する。
受講者は、企画科目の「歴史学」や「古文書解読」などを履修していなければ、講義内容の理解や資料作成がおぼつかないので、同科目を前年度までに履修しておくことが望ましい。

科目名	密教史特殊研究Ｃ（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副　題	鎌倉後期の王権と真言密教						
ナンバリング	Ｄ 5-12-213	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

本講義では、鎌倉後期の王権と真言密教の関係について、政治史と仏教史の両面から学び、天皇制の宗教的側面を捉える視座を構築する。とくに、90 年代以降の研究成果を継承しつつ、後宇多院・後醍醐天皇について新たな研究を行なった担当者の研究姿勢を通して、実証的な研究手法を会得する。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予め了承されたい。

授業の到達目標

鎌倉後期の真言密教史を、政治史との関係から理解できるようになる。
中世における院・天皇の宗教的側面を通して、天皇制の歴史的展開を考える視座をつちかう。
密教聖教の持つ史料的価値について、学問的に理解できるようになる。

授業計画

1．網野善彦「異形の王権」をめぐって（1）－その史学史的背景－
2．網野善彦「異形の王権」をめぐって（2）－その影響と問題点－
3．鎌倉後期の政局（1）－両統分立と鎌倉幕府－
4．鎌倉後期の政局（2）－両統の対立と「一代の主」－
5．鎌倉後期の政局（3）－後醍醐天皇の登場と鎌倉幕府滅亡－
6．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（1）－後宇多院の宗教構想と性円法親王－
7．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（2）－大覚寺門跡の発展と性円法親王－
8．鎌倉後期・建武政権期の大覚寺統と大覚寺門跡（3）－後醍醐天皇と大覚寺門跡－
9．後醍醐天皇の寺社重宝蒐集（1）－討幕計画と重宝蒐集－
10．後醍醐天皇の寺社重宝蒐集（2）－重宝蒐集と権門寺院－
11．後醍醐天皇の如意宝珠造作（1）－文観の登場－
12．後醍醐天皇の如意宝珠造作（2）－金輪聖王と如意宝珠－
13．鎌倉後期宮廷の密教儀礼と王家重宝（1）－清浄光寺に伝わる後醍醐天皇像の意味－
14．鎌倉後期宮廷の密教儀礼と王家重宝（2）－後醍醐天皇と即位灌頂－
15．高野山大学図書館における貴重書（密教聖教）の閲覧

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100 分）
講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80 分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

①網野善彦「異形の王権」(『網野善彦著作集』6、岩波書店、2007 年)
②『網野善彦著作集』5 蒙古襲来 (岩波書店、2008 年)
③村井章介編『日本の時代史』10 南北朝の動乱 (吉川弘文館、2003 年)
④阿部泰郎「宝珠と王権」(『岩波講座東洋思想』16 日本思想 2、岩波書店、1989 年)

学生に対する評価

レポート（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）鎌倉後期の王権と真言密教に関する基礎的事項を理解している。
（B）鎌倉後期の王権と真言密教について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
（A）鎌倉後期の王権と真言密教について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
（S）本講義の内容を踏まえて、中世の真言密教について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点後に講評する。

その他

本講義は、高度な歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。登録にあたっては十分に注意すること。
受講者は、企画科目の「歴史学」などを履修していなければ、講義内容の理解がおぼつかないので、同科目を前年度までに履修しておくことが望ましい。

科目名	密教学演習１（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	南　昌宏
副　題	『釈摩訶衍論』の注釈を読む						
ナンバリング	Ｄ 5-19-214	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

『釈摩訶衍論』の注釈を精読することで、漢文訓読に熟達する。難解な言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典を読むことを通じて、中国仏教の展開について、基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点･問題点を見つける訓練をする。毎回、授業に関係がある事項についてレポートをまとめ、提出する。

授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。　○漢訳経典の内容を理解できる。　○漢訳経典を批判的に読むことができる。　○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。　○自分の考えを論理的に表現できる。

授業計画

1．ガイダンス
2．聖法『釈摩訶衍論記』1 葉を読む
3．法敏『釈摩訶衍論疏』1 葉を読む
4．法悟『釈摩訶衍論賛玄疏』1 葉を読む
5．志福『釈摩訶衍論玄鈔』1 葉を読む
6．普観『釈摩訶衍論記』1 葉を読む
7．聖法『釈摩訶衍論記』2 葉を読む
8．法敏『釈摩訶衍論疏』2 葉を読む
9．法悟『釈摩訶衍論賛玄疏』2 葉を読む
10．志福『釈摩訶衍論玄鈔』2 葉を読む
11．普観『釈摩訶衍論記』2 葉を読む
12．聖法『釈摩訶衍論記』3 葉を読む
13．法敏『釈摩訶衍論疏』3 葉を読む
14．法悟『釈摩訶衍論賛玄疏』3 葉を読む
15．志福『釈摩訶衍論玄鈔』3 葉を読む

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30 分）、難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60 分）。
事後学修としてレポートをまとめること（90 分）。

テキスト

聖法『釈摩訶衍論記』、法敏『釈摩訶衍論疏』、法悟『釈摩訶衍論賛玄疏』、志福『釈摩訶衍論玄鈔』、普観『釈摩訶衍論記』それぞれのコピーを配布する。

参考書・参考資料等

那須政隆『釈摩訶衍論講義』成田山仏教研究所　1992 年
森田龍僊『釈摩訶衍論之研究』山城屋文政堂　1935 年
宇井伯寿『大乗起信論』岩波文庫　1994 年　など

学生に対する評価

小レポート（50%）、発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
（S）自分の考えを論理的に記述することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○小レポートについては、添削し、次の講義で返却をする。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は 2 分の 1 欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習２（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	南　昌宏
副　題	『釈摩訶衍論』の注釈を読む						
ナンバリング	Ｄ 5-19-215	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

『釈摩訶衍論』の注釈を精読することで､漢文訓読に熟達する｡難解な言葉や､専門的な語彙を調べる技法を学び､修得する｡漢訳経典を読むことを通じて、中国仏教の展開について、基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。論文執筆時に、古典を利用するに当たっての必要な形式をおぼえる。同時に、古典や先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。毎回、授業に関係がある事項についてレポートをまとめ、提出する。

授業の到達目標

○漢訳経典を音読できる。　○漢訳経典の内容を理解できる。　○漢訳経典を批判的に読むことができる。　○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。　○自分の考えを論理的に表現できる。

授業計画

1．普観『釈摩訶衍論記』3 葉を読む
2．聖法『釈摩訶衍論記』4 葉を読む
3．法敏『釈摩訶衍論疏』4 葉を読む
4．法悟『釈摩訶衍論賛玄疏』4 葉を読む
5．志福『釈摩訶衍論玄鈔』4 葉を読む
6．普観『釈摩訶衍論記』4 葉を読む
7．聖法『釈摩訶衍論記』5 葉を読む
8．法敏『釈摩訶衍論疏』5 葉を読む
9．法悟『釈摩訶衍論賛玄疏』5 葉を読む
10．志福『釈摩訶衍論玄鈔』5 葉を読む
11．普観『釈摩訶衍論記』5 葉を読む
12．聖法『釈摩訶衍論記』6 葉を読む
13．法敏『釈摩訶衍論疏』6 葉を読む
14．法悟『釈摩訶衍論賛玄疏』6 葉を読む
15．志福『釈摩訶衍論玄鈔』6 葉を読む

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30 分）、難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60 分）。
事後学修としてレポートをまとめること（90 分）。

テキスト

聖法『釈摩訶衍論記』、法敏『釈摩訶衍論疏』、法悟『釈摩訶衍論賛玄疏』、志福『釈摩訶衍論玄鈔』、普観『釈摩訶衍論記』それぞれのコピーを配布する。

参考書・参考資料等

那須政隆『釈摩訶衍論講義』成田山仏教研究所　1992 年
森田龍僊『釈摩訶衍論之研究』山城屋文政堂　1935 年
宇井伯寿『大乗起信論』岩波文庫　1994 年　など

学生に対する評価

小レポート（50%）、発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。
（B）未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
（S）自分の考えを論理的に記述することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○小レポートについては、添削し、次の講義で返却をする。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は 2 分の 1 欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教史演習（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	奥山直司
副　題	The People of Tibet 読解						
ナンバリング	Ｄ 5-01-216	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

The People of Tibet はイギリスのチベット学者 Charles Bell が著したチベット学の名著である。本授業は、本書の読解を通じて英語力と日本語力を養うと同時に、チベットの社会と文化について理解を深める。

授業の到達目標

英文原書の精読を通じて、チベットの社会と文化について深く理解することができる。

授業計画

1．ガイダンス
2．1. Geographical, pp.1-2
3．2. Geographical, pp.3-5
4．3. Geographical, pp.6-8
5．4. Historical, pp.9-11
6．5. Historical, pp.12-14
7．6. Historical, pp.15-18
8．7. Shepherds and Herdsman, pp.19-22
9．8. Shepherds and Herdsman, pp.23-25
10．9. Shepherds and Herdsman, pp.26-28
11．10. The Peasants, pp.29-31
12．11. The Peasants, pp.32-34
13．12. The Peasants, pp.35-38
14．13. The Peasants, pp.39-42
15．まとめと総括

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、次回の授業範囲を訳読しておく（120 分）。
事後学修として、自らの訳読を訂正する（90 分）。

テキスト

Charles Bell, The People of Tibet, Oxford: Clarendon Press, 1928.

参考書・参考資料等

スネルグローヴ＆リチャードソン著、奥山直司訳『チベット文化史』（新装版）春秋社、2003 年

学生に対する評価

授業参加・予習復習状況（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストの英文を大体において日本語に翻訳することができる。
（B）テキストの英文を正確に日本語に翻訳することができる。
（A）正確な英文読解の上に、内容を正しく掴むことができる。
（S）内容の正しい把握の上に、著者の解釈や意見を批判的に吟味することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

英文は古風で現代文のように簡単ではないので訳読には相当の努力が必要とされる。

科目名	密教学講読（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	佐藤隆彦
副　題	『菩提心論』を読む						
ナンバリング	D 5-01-217	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

『菩提心論』は勝義、行願、三摩地の三種心を説く。このうち、三摩地段は古来不読段に触れる場合が少なくない。そこで今回は、『菩提心論』の三摩地段に着目し『菩提心論』の講読を通して密教の構造を解明する。

授業の到達目標

『菩提心論』の講読を通して密教瞑想法の理解を深めることができるようになる。

授業計画

1．オリエンテーション
2．『菩提心論』梗概（漢文の読み方、声点）
3．『菩提心論』梗概（十巻章）
4．『菩提心論』梗概（論の作者と構成）
5．『菩提心論』「菩提心の概説」①
6．『菩提心論』「大悲行願心について」②（梗概）
7．『菩提心論』「大悲行願心について」③（特質）
8．『菩提心論』「大智勝義心について」④（梗概）
9．『菩提心論』「大智勝義心について」⑤（特質）
10．『菩提心論』「大智勝義心について」⑥（補遺）
11．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑦（梗概）
12．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑧（特質）
13．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑨（瞑想）
14．『菩提心論』「大定三摩地心について」⑩（阿字観五相成身観）
15．三種心の総復習とレポート提出

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として『菩提心論』の中で該当する部分について目を通し読んでおくこと（90 分）。事後学修として講義内容を踏まえてノートを再整理すること。

テキスト

高野山大学編『十巻章』高野山出版

参考書・参考資料等

①吉祥真雄著『菩提心論講説』藤井佐兵衛②小田慈舟著『十巻章講説』高野山出版社③田中千秋著『田中千秋著作講話集』高野山出版社④生井智紹編『密教自心の探求『菩提心論』を読む』大法輪閣

学生に対する評価

授業における発表への参加の積極性（40%）レポート（60%）とし評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）原典の音読ができる
（B）原典の基本的な内容を理解できる
（A）原典の基本的な内容を注釈書に沿って理解できる
（S）原典の内容を批判的に検討できる

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業内でフィードバックをおこなう。

その他

毎回予習復習をしっかり行うこと。

科目名	密教史講読（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	松長潤慶
副　題	密教付法資料の研究						
ナンバリング	D 5-01-218	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

『秘密漫荼羅教付法傳』は、通常『広付法傳』と呼ばれ、密教の付法を授受した祖師たちの伝記を叙述し、空海自らが密教を相承した正嫡としての証を立てる目的を持つ。本文に典拠として引用される経録、史伝、碑文等も含め講読し、密教の相承に関する理解を深める。基本的には当番制でテキストを読み、発表する形で授業を進める。

授業の到達目標

密教の付法の歴史について理解を深め、かつ文献の読解力と分析力を高めることを通じて密教学をより深く理解する。

授業計画

1．『付法傳』の全体像
2．『付法傳』の歴史的背景
3．『広付法傳』講読 1 因起感通分第一叙意
4．『広付法傳』講読 2 叙意
5．『広付法傳』講読 3 第一祖大日如来金剛薩埵
6．『広付法傳』講読 4 龍猛①
7．『広付法傳』講読 5 龍猛②
8．『広付法傳』講読 6 龍智
9．『広付法傳』講読 7 金剛智①
10．『広付法傳』講読 8 金剛智②
11．『広付法傳』講読 9 金剛智③
12．『広付法傳』講読 10 金剛智④
13．『広付法傳』講読 11 金剛智⑤
14．『広付法傳』講読 12 金剛智⑥
15．『広付法傳』講読 13 金剛智⑦

準備学習（予習・復習）・時間

授業は漢文資料の演習を実施するので、週 3 時間の予習が必要。（計 90 分以上）

テキスト

「定本弘法大師全集」第一巻

参考書・参考資料等

①『密教』中央文庫松長有慶②『弘法大師空海全集』第二巻筑摩書房

学生に対する評価

予習状況（50%）、授業参加状況（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）付法傳を正確に読むことができる。
（B）付法傳の内容を理解できる。
（A）付法傳の内容に関して新しい知見を見出すことができる。
（S）密教付法に関して体系的に理解できる。

課題に対するフィードバックの方法

演習時に個別に指導する。

その他

十分に予習して授業に臨んでもらいたい。

科目名	現代社会と宗教（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	森崎雅好
副　題							
ナンバリング	D 5-03-219	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP	

授業の目的と概要

グリーフ（grief）とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1．悲嘆の定義・理論
2．悲嘆の理論（PTSD と複雑性悲嘆について）
3．犯罪被害者支援①（被害者・加害者の声）
4．犯罪被害者支援②（被害者・加害者の心理的ケア）
5．虐めと虐待①（虐め体験について）
6．虐めと虐待②（被虐体験への心理的ケア）
7．難病支援①（難病とは・我が国の現状）
8．難病支援②（生きることの苦悩と受容の心理的ケア）
9．ホスピス・緩和ケアにおける支援①（病と自己）
10．ホスピス・緩和ケアにおける支援②（死を見つめる心理とそのケア）
11．自死遺族支援①（遺族の心理）
12．自死遺族支援②（サポートグループについて）
13．災害時支援①（災害による喪失体験）
14．災害時支援②（復興期に求められる支援について）
15．講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消されているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂 ,2010 年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができている。
（B）悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
（A）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
（S）悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	密教と文化（大）／仏教と文化（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	土居夏樹
副　題	密教における死生観						
ナンバリング	D 5-01-220	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

授業の到達目標

仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

授業計画

1．概論 (講義の進め方等)
2．凡夫の生死 ① 苦としての生死
3．　〃　② 五蘊と無我
4．　〃　③ 縁起としての生死
5．　〃　④ 輪廻の世界
6．仏陀観の変遷 ① 釈尊の生涯
7．　〃　② 変容する釈尊
8．　〃　③ 神変とマンダラ
9．この身のままで仏と成る ① 六大と人間
10．　〃　② 真理の表現
11．　〃　③ 心とマンダラ
12．生死の意味 ① 因不可得
13．　〃　② 縁起生から本不生へ
14．　〃　③「真に帰す」
15．まとめ ―〈私〉という存在―

準備学習（予習・復習）・時間

・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく（60 分）
・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる（120 分）

テキスト

・各回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫
②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア
③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア
※その他、授業中に指示する。①竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫
②中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア
③小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア
※その他、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業内での発表（20%）、定期試験（80%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏陀観の変遷について説明ができる。
（B）大乗仏教から密教への展開を説明できる。
（A）弘法大師の死生観の特徴を説明できる。
（S）上記（C）～（A）を踏まえて、密教の死生観を学術的に論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験の講評を行い、復習すべき点及び多くの学生が不正解であった問題を中心に講義をする。

その他

科目名	事相研究Ⅰ -1（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	一尊法次第						

ナンバリング	D 5-01-221	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべての伝授を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1．中院流三十三尊法と『中院流三十三尊法聞書』
2．別尊次第について
3．「金輪」
4．「佛眼」
5．「薬師」
6．「阿弥陀」
7．「釈迦」
8．「尊勝」
9．「聖観音」
10．「千手」
11．「十一面」
12．「馬頭」
13．「準胝」
14．「如意輪」
15．「白衣」

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）次第と『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。内容は後期に続くため、「事相研究Ⅰ－２」を続けて受講することを推薦する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	事相研究Ⅰ -2（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	一尊法次第						

ナンバリング	D 5-01-222	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要

三十三尊法は中院流の一流伝受の領域において重要な位置にある。この授業では、『中院流三十三尊法聞書』を講読しながら前期・後期にわたって三十三尊の各一尊法の次第のすべての伝授を受け理解を深める。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

中院流の金剛界の伝授次第の研究を通じて秘密事相の理解を深める。

授業計画

1．「弥勒」
2．「五字文殊」
3．「八字文殊」
4．「延命」
5．「地蔵」
6．「愛染」
7．「不動」
8．「降三世」「軍荼利」
9．「大威徳」「金剛夜叉」「烏樞沙摩」
10．「法華」
11．「舎利」
12．「光明真言」
13．「毘沙門」
14．「炎魔天」「水天」
15．「聖天」「訶利帝」

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

高野山大学編纂『中院流三十三尊』、高岡隆心編『中院流三十三尊法聞書』、高岡隆心編『中院流三十三尊法全』をコピーで配布

参考書・参考資料等

『中院流聖教』10、中川善教『諸尊通用次第』と『諸尊通用次第入句』、大山公淳『中院流の研究』、高見寛恭『中院流院家相承伝授録上』、その他

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）次第と『聞書』の漢文を読み上げることができ、用語を説明できる。
（B）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、意味を解説できる。
（A）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）次第と『聞書』の漢文を読み上げ、参考書を見ずに自分の言葉で真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。授業は伝受形式なので、受講者は一回目の授業から黒衣に如法依で受講する。後期から受講できるが、前期の「事相研究Ⅰ－１」から続く内容のため、前期からの受講を推薦する。受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。

科目名	事相研究Ⅱ -1（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	次第のルーツを探る						

ナンバリング	D 5-01-223	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要

十八道次第の本となった請来された漢文の秘密儀軌を読みながら、十八道次第の理解を深める。『如意輪儀軌』、『無量寿儀軌』、『甘露軍荼利儀軌』、『烏芻澁麼儀軌』、『阿闍法』等を平行して解読しながら比較研究を行う。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。

授業計画

1．秘密儀軌、十八契印、十八道次第について
2．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較①（灌頂と受法について）
3．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較②（修法する場所について）
4．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較③（壇場荘厳について）
5．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較④（浄三業・礼拝・五悔について）
6．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑤（著座・塗香・三部被甲について）
7．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑥（結界法について）
8．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑦（荘厳道場法について）
9．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑧（勧請法について）
10．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑨（結護法について）
11．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑩（供養法について）
12．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑪（入我我入と本尊加持について）
13．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑫（正念誦について）
14．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑬（字輪観について）
15．十八道関連の秘密儀軌の講読・比較⑭（出堂までの行法、出堂のあとについて）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

浄厳の木版『秘密儀軌』からコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	事相研究Ⅱ -2（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	T.ドライトライン
副　題	次第のルーツを探る						

ナンバリング	D 5-01-224	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要

一尊法に関する漢文の秘密儀軌を読みながら、金剛界と胎蔵界次第の理解を深める。胎蔵次第・金剛界次第と関連する秘密儀軌の内容について考察する。『大日経』関連の成就法として『聖観自在儀軌』、『七支念誦法』、『立印儀軌』などを読む。『金剛頂経』系の儀軌については『蓮華部心軌』、『如意輪瑜伽』、『文殊菩薩供養法』、『五秘密儀軌』などを読む。已灌頂者のみが受講できる。

授業の到達目標

秘密儀軌への知識、事相の理解を深める。

授業計画

1．『大日経』系の儀軌を読む①（三三昧耶）
2．『大日経』系の儀軌を読む②（『七支念誦法』を読む）
3．『大日経』系の儀軌を読む③（『聖観自在儀軌』を読む）
4．『大日経』系の儀軌を読む④（『立印儀軌』を読む）
5．『金剛頂経』系の儀軌を読む①（『蓮華部心軌』前半を読む）
6．『金剛頂経』系の儀軌を読む②（『蓮華部心軌』後半を読む）
7．『金剛頂経』系の儀軌を読む③（五相成身について）
8．『金剛頂経』系の儀軌を読む④（『如意輪瑜伽』前半を読む）
9．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑤（『如意輪瑜伽』後半を読む）
10．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑥（『文殊菩薩供養法』前半を読む）
11．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑦（『文殊菩薩供養法』後半を読む　）
12．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑧（『五秘密儀軌』前半を読む）
13．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑨（『五秘密儀軌』後半を読む）
14．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑩（『虚空蔵法』を読む）
15．『金剛頂経』系の儀軌を読む⑪（『虚空蔵求聞持法』を読む、まとめ）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90 分）、事後学習として授業で学んだことに関して復習・整理をしておくこと（90 分）

テキスト

浄厳の木版『秘密儀軌』からコピーを配布

参考書・参考資料等

『真言宗全書』、『続真言宗全書』、『大正新脩大蔵経』、『大日本校訂大蔵経』、『定本国訳秘密儀軌』、など

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（20%）、授業参加の積極性（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）秘密儀軌の全文を読み、用語を説明できる。
（B）秘密儀軌の全文を読み、意味を解説できる。
（A）秘密儀軌の全文を読み、真言密教におけるその意義について説明できる。
（S）秘密儀軌の全文を読み、参考書を見ずに真言密教におけるその意義について説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

受講生全員は毎回該当する漢文のテキストを予習・復習する。別に課題を与えて受講生による発表を行う。プログラムは改訂される場合がある。已灌頂者（伝法灌頂を入壇した者）のみが受講できる。

科目名	仏教学特殊研究（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	前谷　彰
副　題							

ナンバリング	D 5-02-225	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

サンスクリット語やパーリ語の原典における原語と、漢訳語との間には仏教思想を根底から覆さなければならないような重要な異相を認めることができるので、当講義では重要な原語を取り上げ、それらの語がどのような漢語に置き換えられているかを検証することによって、仏教思想の誤謬性について考察する。

授業の到達目標

原語と漢訳語の比較作業を通して、仏教思想のある意味での「歪み」を修正できるようになる。

授業計画

1．原語と翻訳語の異相全般について概略する。
2．八正道について
3．梵行・清浄行について
4．顕示・開顕について①（ブラカーシュ）
5．顕示・開顕について②（ブラカーシュ）
6．苦行について
7．清浄について
8．菩提心・菩薩について
9．一乗・一趣道について
10．一心について
11．涅槃について
12．渇愛について
13．小乗・大乗・密教について①（展開史）
14．小乗・大乗・密教について②（相違点）
15．まとめと講評

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト

担当者がプリントを用意する。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

学期末のレポートによって評価（100%）する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）漢訳語の曖昧さを疑う力を身につける。
（A）原典と漢訳経典におけるキーワードを比較することができる。
（S）仏教における問題のある原語を自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

科目名	仏教史特殊研究（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副　題	仏教関係法令からみた平安時代初期の仏教						

ナンバリング	D 5-02-226	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

最澄・空海らによってもたらされた新たな仏教の潮流は、「日本仏教」の礎と位置づけられている。
本講義では、彼らが活躍した時代の仏教をめぐる動向を、『類聚三代格』に収められる平安時代初期の仏教関係法令から検討する。

授業の到達目標

『類聚三代格』に収められる仏教関係法令を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、「日本仏教」成立期の仏教のあり様を理解することができる。

授業計画

1．『類聚三代格』とはどのような史料か？
2．『類聚三代格』の仏教関係法令
3．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む①－桓武朝の仏教－
4．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む②－桓武朝の仏教－
5．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む③－嵯峨朝の仏教－
6．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む④－嵯峨朝の仏教－
7．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑤－嵯峨朝の仏教－
8．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑥－淳和朝の仏教－
9．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑦－淳和朝の仏教－
10．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑧－淳和朝の仏教－
11．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑨－仁明朝の仏教－
12．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑩－仁明朝の仏教－
13．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑪－文徳朝の仏教－
14．『類聚三代格』の仏教関係法令を読む⑫－文徳朝の仏教－
15．『類聚三代格』の仏教関係法令からみた平安時代初期の仏教

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、次回授業で取り上げる法令について辞書等で用語・語句を調べておく（90 分）、事後学修として、授業で取り上げた法令について、参考文献等を読むことでその社会的背景について理解しておく（60 分）。

テキスト

テキストとして、『新訂増補国史大系　類聚三代格　前篇』（吉川弘文館、1972 年。初版は 1936 年）を用いる予定であるが、授業で取り上げる法令については、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等

①吉川真司『天皇の歴史 2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018 年）。
②堀裕「平安新仏教と東アジア」（『岩波講座日本歴史　第 4 巻　古代 4』（岩波書店、2015 年）。
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート（50%）・授業への参加度（50%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）漢文史料である法制史料を読み下し、内容について説明することができる。
（B）法制史料を読み解き、その法令の歴史的意義について説明することができる。
（A）『六国史』など関係する史料をも収集し、それらを比較検討することによって、その法令の歴史的意義を説明することができる。
（S）法令の社会的背景をふまえて、その歴史的意義を考察するとともに、先行研究にもとづいて、その問題点を指摘し、今後の課題を見出すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

修士論文で歴史に関わるテーマに取り組もうと考えている場合は、必ず受講すること。
本講義では、受講生に毎回任意に漢文史料である法令を読み下してもらう。毎回の事前学修を丁寧に行うことによって授業に臨み、積極的に討論に参加すること。

科目名	仏教学演習 1（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	前谷　彰
副　題							

ナンバリング	D 5-19-227	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

仏教とは何かについての基本的疑問を提示することによって、仏教が初期・大乗・密教と歴史的に展開して行く中にあって、どのような社会的背景をもとに、浄土思想が誕生したかについて考える。

授業の到達目標

仏教の基礎知識についての確認作業を行い、浄土思想が誕生した背景について

授業計画

1．オリエンテーション
2．初期仏教の基礎知識の確認
3．原始浄土思想と問題の所在①
4．原始浄土思想と問題の所在②
5．原始浄土思想の成立①
6．原始浄土思想の成立②
7．本生説話からみた阿弥陀仏起源考極楽浄土の観念①
8．本生説話からみた阿弥陀仏起源考極楽浄土の観念②
9．本生説話からみた阿弥陀仏起源考極楽浄土の観念③
10．臨終来迎思想①
11．臨終来迎思想②
12．実践に関する諸問題①
13．実践に関する諸問題②
14．念仏思想とその系譜①
15．念仏思想とその系譜②

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

授業時に指示する課題をどれだけこなしているか（50%）、学期末のレポート（50%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。

科目名	仏教学演習 2（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	前谷　彰
副　題							

ナンバリング	D 5-19-228	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

仏教とは何かについての基本的疑問を提示することによって、仏教が初期・大乗・密教と歴史的に展開して行く中にあって、どのような社会的背景をもとに、浄土思想が誕生したかについて考える。

授業の到達目標

仏教の基礎知識についての確認作業を行い、浄土思想が誕生した背景について考える。

授業計画

1．臨終来迎思想①
2．臨終来迎思想②
3．臨終来迎説の構造
4．浄土経典における問題点
5．信の形態①
6．信の形態②
7．原始仏教における信との関係①
8．原始仏教における信との関係②
9．原始仏教における信との関係③
10．浄土思想の展開と総まとめ①
11．浄土思想の展開と総まとめ②
12．浄土思想の展開と総まとめ③
13．浄土思想の展開と総まとめ④
14．浄土思想の展開と総まとめ⑤
15．総括と試験

準備学習（予習・復習）・時間

事後学修として授業で学んだことを復習する（60 分）

テキスト

担当者がコピーを配布する。

参考書・参考資料等

藤田宏達『原始浄土思想の研究』

学生に対する評価

授業時に指示する課題をどれだけこなしているか（50%）、学期末のレポート（50%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
（B）仏教の基礎語彙を抑えている。
（A）仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
（S）仏教思想を現代の諸問題に応用し、説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

その他

受講者は、サンスクリット語の基礎知識を習得済であることが望ましい。

科目名	仏教史演習（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	櫻木　潤
副　題	歴史学から仏教を研究する手法						
ナンバリング	D 5-02-229	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

歴史学は、史料にもとづいて歴史的事実を解明する学問であり、そのために史料が読解できることは不可欠なスキルとなる。
本授業では、奈良時代研究の基本史料である『続日本紀』や、空海請来以前の日本密教を考える上で重要な寺院史料である『西大寺資財流記帳』の輪読を通して、歴史学の研究手法と史料の読み方を習得することを目指す。

授業の到達目標

奈良時代の歴史書や寺院の資財帳の講読を通じて、歴史学の研究手法を身につけ、史料が読解できるようになる。

授業計画

1．歴史学の研究手法
2．歴史学研究における史料とその読解
3．奈良時代の社会と仏教－『続日本紀』・『西大寺資財流記帳』を読む前に－
4．『続日本紀』とはどのような史料か？－歴史資料としての歴史書－
5．『続日本紀』「称徳紀」を読む（1）（担当箇所についての発表）
6．『続日本紀』「称徳紀」を読む（2）（担当箇所についての発表）
7．『続日本紀』「称徳紀」を読む（3）（担当箇所についての発表）
8．『続日本紀』「称徳紀」を読む（4）（担当箇所についての発表）
9．『続日本紀』「称徳紀」を読む（5）（担当箇所についての発表）
10．『西大寺資財流記帳』とはどのような史料か？－歴史資料としての仏教史料－
11．『西大寺資財流記帳』を読む（1）（担当箇所についての発表）
12．『西大寺資財流記帳』を読む（2）（担当箇所についての発表）
13．『西大寺資財流記帳』を読む（3）（担当箇所についての発表）
14．『西大寺資財流記帳』を読む（4）（担当箇所についての発表）
15．『西大寺資財流記帳』を読む（5）（担当箇所についての発表）

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、次回の授業範囲について辞書等で語句を調べておくこと（90 分）、事後学修として、授業範囲について、ノートに現代語訳をすること（60 分）。

テキスト

テキストとして、黒板勝美編『新訂増補国史大系続日本紀』（吉川弘文館、1981 年）・竹内理三編『寧楽遺文中巻』（東京堂出版、1977 年）を用いるが、プリントとして配布する。

参考書・参考資料等

①小山田和夫『入門史料を読む古代・中世』（吉川弘文館、1995 年）
②吉川真司『天皇の歴史２聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018 年）
③勝浦令子『ミネルヴァ日本評伝選孝謙・称徳天皇』（ミネルヴァ書房、2014 年）
その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

輪読担当部分の発表（50%）・予習・復習などの授業への参加度（50%）によって評価する。
全授業の３分の２以上（10 回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）歴史学の研究における史料読解の重要性を理解する。
（B）歴史学の研究手法と史料としての歴史書や仏教史料の読み方について理解する。
（A）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を読むことができる。
（S）辞書などを調べて予習・復習をし、漢文で書かれた史料を解釈することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

その他

修士論文を歴史学的にアプローチすることを計画している場合は、必ず受講すること。
本講義では各自に担当箇所を割り当て、発表により史料を読み進めていきます。辞書などを使って予習をして毎回の授業に臨むとともに、積極的に討論に参加すること。

科目名	仏教学講読（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副　題	『和泉式部日記』を読む						
ナンバリング	D 5-02-230	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

平安時代に成立した女流日記文学『和泉式部日記』を読む。紫式部によって歌人として評価された和泉式部は多くの秀歌を残しているが、藤原道長からは恋多きその姿勢を「浮かれ女」（『和泉式部集』）と評価されている。恋人為尊親王の死後、その弟敦道親王から和泉式部へ便りが届くところから始まる同書は、そうした彼女の恋の物語である。しかし一方で「暗きより暗き道にぞ入りぬべき遥かに照らせ山の端の月」と、法華経に基づいて自身の煩悩を見つめる歌も残したとされ、奔放なだけの女性ではなかった。同書の読解を通して、和泉式部の人物像、和泉式部の和歌の特徴、そして平安時代の古典常識などを学ぶ。

授業の到達目標

和泉式部の人物像を理解し、同書の内容、式部の和歌の特徴、平安時代の古典常識などを説明することが出来る。

授業計画

1．ガイダンス―和泉式部の人物像―
2．『和泉式部日記』読解①―第１段～第２段―
3．『和泉式部日記』読解②―第３段～第５段―
4．『和泉式部日記』読解③―第６段～第 10 段―
5．『和泉式部日記』読解④―第 11 段～第 14 段―
6．『和泉式部日記』読解⑤―第 15 段～第 16 段―
7．『和泉式部日記』読解⑥―第 17 段～第 18 段―
8．『和泉式部日記』読解⑦―第 19 段～第 21 段―
9．『和泉式部日記』読解⑧―第 22 段～第 25 段―
10．『和泉式部日記』読解⑨―第 26 段～第 27 段―
11．『和泉式部日記』読解⑩―第 28 段～第 30 段―
12．『和泉式部日記』読解⑪―第 31 段～第 32 段―
13．『和泉式部日記』読解⑫―第 33 段～第 34 段―
14．『和泉式部日記』読解⑬―第 35 段―
15．『和泉式部日記』の時代

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。

テキスト

川村裕子編『ビギナーズ・クラシック日本の古典　和泉式部日記』、角川ソフィア文庫、角川書店、2007 年（書店で購入）

参考書・参考資料等

田中登他編『平安文学研究ハンドブック』、和泉書院、2004 年

学生に対する評価

レポート（50%）、リアクションペーパーと受講態度（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『和泉式部日記』の内容を理解している。
（B）物語における和歌の機能について理解している。
（A）『和泉式部日記』の諸問題について、意見を述べることができる。
（S）『和泉式部日記』の諸問題について、新見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーに、次回講義冒頭で答え、学びの連続性を確保する。

その他

「日本文化特殊講義Ａ」との合同科目。国語の教員免許取得を目指す学生は受講することが望ましい。
講義では積極的な姿勢を求める。

科目名	仏教史講読（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	浜畑圭吾
副　題	『高野参詣記』を読む						
ナンバリング	D 5-04-231	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

遣遙院三条西実隆の『高野参詣日記』を読む。藤原道長以来、貴顕の参詣は後を絶たず、高野山へ登った人々によるいわゆる「参詣記」が多く残されてきた。実隆は大永四年（1524）に住吉、天王寺を経て参詣したが、その途上多くの和歌を詠んでいる。同書を学ぶことで、中世和歌の特質や参詣記の特徴、中世高野山の様相を理解する。

授業の到達目標

高野参詣記の特徴を理解し、説明することが出来る。

授業計画

1．ガイダンス－講義の進め方、発表担当決定－
2．参詣記の世界
3．『高野参詣記』読解①―４月１９日、その１―
4．『高野参詣記』読解②―４月１９日、その２―
5．『高野参詣記』読解③―４月２２日、その１―
6．『高野参詣記』読解④―４月２２日、その２―
7．『高野参詣記』読解⑤―４月２３日、その１―
8．『高野参詣記』読解⑥―４月２３日、その２―
9．『高野参詣記』読解⑦―４月２４日、その１―
10．『高野参詣記』読解⑧―４月２４日、その２―
11．『高野参詣記』読解⑨―４月２５日、２６日―
12．『高野参詣記』読解⑩―４月２７日、２８日―
13．『高野参詣記』読解⑪―４月２９日、５月１日―
14．『高野参詣記』読解⑫―５月２日―
15．まとめ―三条西実隆の文化活動―

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（60 分）、事後学修として、講義内容をまとめておくこと（90 分）。発表担当箇所についての用意を含む。

テキスト

教員が用意する。

参考書・参考資料等

『新日本古典文学大系　中世日記紀行集』（岩波書店）

学生に対する評価

発表（60%）、受講態度（40%）によって評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）『高野参詣記』の基本的な事柄について理解している。
（B）『高野参詣記』について、他文献を利用して、その特徴を述べることができる。
（A）『高野参詣記』を基にして、中世日記紀行文学の特徴を述べることができる。
（S）『高野参詣記』を基にして、高野山に関する文学作品の生成について論じることができる。

課題に対するフィードバックの方法

発表毎に指導し、質疑応答を通して理解を深める。

その他

「４回以上理由もなく無断で欠席した者は、受講者名簿から削除するので注意すること。発表とディスカッションが中心である。積極的な受講を求める。

科目名	仏教芸術の研究１（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	和田圭子
副　題	尊像の信仰の歴史と形像の変化について１						
ナンバリング	D 5-02-232	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。講義では、密教に関係の深い尊像や曼荼羅に登場する主要な尊格について、その信仰の歴史や形像を学ぶことにより、各尊像に対する基本的な知識を習得する。さらに毎回、仏画・仏像等、現存する尊像の画像資料をスライドによって視覚的に確認することにより、各尊像についての美術史的な理解も深める。また本講義では、国宝・重要文化財を多数所蔵する高野山霊宝館において、講義内容をより深く理解するために４回程度の実地見学を実施する。実際に仏像・仏画等を拝観することで、尊像の詳細を確認することができ、像容を理解する上で大変重要である。実地見学では仏像や仏画の基礎的な見方についても学習する。

授業の到達目標

・仏尊の種類や信仰の歴史について学び、各尊像の基礎的な知識を習得できるようになる。
・尊像の形像について学び、各尊像の姿、形の特徴について説明できるようになる。
・仏像・仏画などを実地に見学しその見方を学ぶことによって、見学しながら説明することができるようになる。

授業計画

1．ガイダンスならびに仏教美術の基礎知識について
2．尊像の信仰の歴史と形像①　（如来１）　：　釈迦如来
3．高野山霊宝館での実地見学１：　春期企画展前期（展覧会詳細未定）
4．尊像の信仰の歴史と形像②　（如来２）　：　大日如来
5．尊像の信仰の歴史と形像③　（如来３）　：　阿弥陀如来・薬師如来
6．尊像の信仰の歴史と形像④　（如来４・菩薩１）　：　弥勒仏・弥勒菩薩
7．高野山霊宝館での実地見学２：　春期企画展後期（展覧会詳細未定）
8．尊像の信仰の歴史と形像⑤　（菩薩２）　：　十一面観音・千手観音
9．尊像の信仰の歴史と形像⑥　（菩薩３）　：　不空羂索観音・如意輪観音
10．尊像の信仰の歴史と形像⑦　（菩薩４）　：　文殊菩薩・普賢菩薩
11．高野山霊宝館での実地見学３：　常設展示　仏像他
12．尊像の信仰の歴史と形像①　（菩薩５）　：　地蔵菩薩・虚空蔵菩薩
13．尊像の信仰の歴史と形像①　（菩薩６）　：　妙見菩薩等
14．高野山霊宝館での実地見学４：　大宝蔵展（展覧会詳細未定）
15．レポート講評とまとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、「仏教美術の基礎知識」資料の専門用語等を確認しておくこと（30 分）
・事後学習として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認する（90 分）
・実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめる（60 分）

テキスト

講義内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を毎回配付する。

参考書・参考資料等

①至文堂編『日本の美術』ぎょうせい　②関根俊一編『仏尊の事典』学習研究社
③『日本美術全集』講談社等の美術全集

学生に対する評価

講義および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教美術に関する基礎的な知識がある。
（B）各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。
（A）各尊像の基本的な姿や形について、その特徴について説明できる。
（S）・各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で論述できる。
　　・作品を見ながら、その尊像について見学者に解説できる。

課題に対するフィードバックの方法

・提出されたレポートは、添削してひとりひとりに対し講評を行う。
・質問については、原則として毎回講義内でフィードバックを行う。

その他

・高野山霊宝館での実地見学を行う科目である。

科目名	仏教芸術の研究２（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	和田圭子
副題	尊像の信仰の歴史と形像の変化について２						

ナンバリング	D 5-02-233	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要

仏尊は如来・菩薩・明王・天などに分類され、その姿は多種多様である。講義では、密教に関係の深い尊像や曼荼羅に登場する主要な尊格について、その信仰の歴史や形像を学ぶことにより、各尊像に対する基本的な知識を習得する。さらに毎回、仏画・仏像等、現存する尊像の画像資料をスライドによって視覚的に確認することにより、各尊像についての美術史的な理解も深める。また本講義では、国宝・重要文化財を多数所蔵する高野山霊宝館において、講義内容をより深く理解するために４回程度の実地見学を実施する。実際に仏像・仏画等を拝観することで、尊像の詳細を確認することができ、像容を理解する上で大変重要である。実地見学では仏像や仏画の基礎的な見方についても学習する。

授業の到達目標

・仏尊の種類や信仰の歴史について学び、各尊像の基礎的な知識を習得できるようになる。
・尊像の形像について学び、各尊像の姿、形の特徴について説明できるようになる。
・仏像・仏画などを実地に見学しその見方を学ぶことによって、見学しながら説明することができるようになる。

授業計画

1．ガイダンスならびに仏教美術の基礎知識について
2．尊像の信仰の歴史と形像①（明王１）：　不動明王
3．高野山霊宝館での実地見学１：　秋期企画展前期（展覧会詳細未定）
4．尊像の信仰の歴史と形像①（明王２）：　愛染明王
5．尊像の信仰の歴史と形像①（明王３）：　孔雀明王
6．尊像の信仰の歴史と形像①（天部１）：　梵天・帝釈天
7．高野山霊宝館での実地見学２：　秋期企画展後期（展覧会詳細未定）
8．尊像の信仰の歴史と形像①（天部２）：　吉祥天・弁才天
9．尊像の信仰の歴史と形像①（天部３）：　四天王
10．尊像の信仰の歴史と形像①（天部４）：　十二天
11．高野山霊宝館での実地見学３：　常設展示　仏像他
12．尊像の信仰の歴史と形像①（天部５）：　十二神将
13．尊像の信仰の歴史と形像①（天部６）：　八部衆等
14．高野山霊宝館での実地見学４：　春期平常展（　展覧会詳細未定）
15．レポート講評とまとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、「仏教美術の基礎知識」資料の専門用語等を確認しておくこと（30 分）
・事後学習として、講義内容と配付された資料の要点を整理、確認する（90 分）
・実地見学においては、見学成果を整理してノートにまとめる（60 分）

テキスト

講義内容に沿った参考資料（文字資料・画像資料）を毎回配付する。

参考書・参考資料等

①水野敬三郎監修『カラー版日本仏像史』　②至文堂編『日本の美術』ぎょうせい
③『日本美術全集』講談社等美術全集

学生に対する評価

講義および実地見学への積極性（40%）、期末レポート（60%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）仏教美術に関する基礎的な知識がある。
（B）各尊像の基本的な姿や形について特徴を理解している。
（A）各尊像の基本的な姿や形について、その特徴について説明できる。
（S）・各尊像の代表的な作例を挙げ、その特徴について自分の言葉で論述できる。
　　・作品を見ながら、その尊像について見学者に解説できる。

課題に対するフィードバックの方法

・提出されたレポートは、添削してひとりひとりに対し講評を行う。
・質問については、原則として毎回講義内でフィードバックを行う。

その他

科目名	アジア地域の宗教文化の研究（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	南　昌宏
副題							

ナンバリング	D 5-02-234	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要

中国仏教に関連する文献を精読することで、論文の文体を読むことに慣れる。難しい言葉や、専門的な語彙を調べる技法を学び、修得する。漢訳経典を読むことに習熟し、中国仏教の展開について、基本的・専門的な知識を身に付ける。また、中国と日本との文化、現代社会と当時との相違、弘法大師空海と中国仏教との関係などについて考える。専門的な著作を読むことで、論文執筆時に必要な形式をおぼえる。同時に、先行研究に対する批判的な視点を持てるようにし、疑問点・問題点を見つける訓練をする。毎回、授業に関係がある事項についてレポートをまとめ、提出する。

授業の到達目標

○仏教の専門書を音読できる。　○仏教の専門書の内容を理解できる。　○仏教の専門書を批判的に読むことができる。　○仏教の専門的な事項についての調査能力がある。　○自分の考えを論理的に表現できる。

授業計画

1．『心把捉の展開』目次を読む
2．『心把捉の展開』序論第１節第１項を読む
3．『心把捉の展開』序論第１節第２項を読む
4．『心把捉の展開』序論第１節第３項を読む
5．『心把捉の展開』序論第２節第１項を読む
6．『心把捉の展開』序論第２節第２項を読む
7．『心把捉の展開』序論第２節第３項を読む
8．『心把捉の展開』序論第２節第４項を読む
9．『心把捉の展開』序論第２節第５項を読む
10．『心把捉の展開』本論第１章序を読む
11．『心把捉の展開』本論第１章第１節を読む
12．『心把捉の展開』本論第１章第２節を読む
13．『心把捉の展開』本論第１章第３節第１項を読む
14．『心把捉の展開』本論第１章第３節第２項を読む
15．『心把捉の展開』本論第１章第３節第３項を読む

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30 分）、難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（60 分）。
事後学修としてレポートをまとめること（90 分）。

テキスト

玉城康四郎『心把捉の展開』のコピーを配布する。

参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店　1994 年改訂
諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店　2000 年修訂増補
『密教大辞典』法蔵館　昭和７年初版
水野弘元『仏教の基礎知識』2009 年新版　など

学生に対する評価

小レポート（50%）、発表（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストを正確に音読できる。。
（B）未知の語彙・語法に気付き、調べることができる。
（A）テキストの内容を理解・批判し、説明できる。
（S）自分の考えを論理的に記述することができる。

課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。　○小レポートについては、添削し、次の講義で返却をする。
○オフィス・アワーでも対応する。

その他

授業実数の３分の１を超えて欠席した場合は失格とする。遅刻・早退は２分の１欠席と計算する。
受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	比較宗教の研究（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	森本一彦
副題							

ナンバリング	D 5-03-235	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要

高野山およびその周辺地域によって形成された高野文化圏の実態について信仰生活を中心に検討することを通して宗教学の方法を理解する。

授業の到達目標

高野山およびその周辺地域も含んだ高野文化圏の民俗宗教を中心として、宗教学の方法を理解する。

授業計画

1．高野文化圏の信仰生活について
2．年中行事（１）暦
3．年中行事（２）正月を中心として
4．年中行事（３）盆行事を中心として
5．年中行事（４）双分性
6．社寺の行事（１）寺院の行事
7．社寺の行事（２）神社の行事
8．社寺の行事（３）神仏習合
9．人の一生（１）出産・成長
10．人の一生（２）結婚
11．人の一生（３）葬送
12．高野山をめぐる信仰（１）修正会
13．高野山をめぐる信仰（２）盂蘭盆会
14．高野山をめぐる信仰（３）弘法大師信仰
15．高野文化圏の信仰生活の特徴

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の授業で学修したテーマやキーワードについて理解し、覚えておくこと（90 分）。

テキスト

プリントを配付する。

参考書・参考資料等

高野町史編纂委員会編『高野町史』民俗編高野町 2012.3 その他授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（70%）、授業中の小テストおよびコミュニケーションカード（30%）評価する。

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）民俗宗教の基本用語を説明できる。
（B）民俗宗教の事象を説明できる。
（A）民俗宗教の理論を自分の言葉で説明できる。
（S）現実の現象を民俗宗教の理論を使いながら説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

・小レポートやコミュニケーションカードを提出するので、次の授業でフィードバックする。

その他

・日ごろからニュースや新聞などに触れ、時事問題にも興味を持ち、現在何が起こっているのかを確認しておくこと。・教職に関する授業であるので、教壇に立つことを意識しながら聞くこと。
・授業の終わりに、コミュニケーションカードを記入することによって、授業内容の理解度および授業への参加度を確認する。

科目名	現代社会と仏教の研究（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	森崎雅好
副題							

ナンバリング	D 5-02-236	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連 DP

授業の目的と概要

日本は、国連加盟国の中でも自殺率が高い国であり、依然として自殺者数が高水準で推移している。近年、自殺に関する認識が高まり、自殺対策基本法が制定され様々な対策が講じられるようになった。この授業では、自殺に関する基本的な知識を身につけ、自殺防止のためにできることについて考える。

授業の到達目標

自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。

授業計画

1．日本における自殺の現状
2．世界における自殺の現状
3．自殺についての理論①
4．自殺についての理論②
5．自殺についての理論③
6．自殺と精神障害
7．自殺と自傷
8．自殺対策①：危機介入
9．自殺対策②：予防的介入
10．自殺対策③：事後の対応
11．自殺とメディア
12．自殺とインターネット
13．自殺と文化
14．自殺と社会
15．講義内容の総括と振り返り

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90 分）、
事後学修として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消されているか確認をしておくこと（90 分）

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

厚生労働省『自殺対策白書』該当年度版を使用。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）自殺に関する基本的な知識を身につけている。
（B）自殺を志向する心理について理解している。
（A）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけている。
（S）自殺に関する知識を持った上で自殺を志向する心理を理解し、共感しようとする姿勢を身につけ、かつ、自殺に関する諸問題について自身の意見を述べることができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、自殺防止の活動現場での実践活動の現状及び自殺に関する研究から得られた知見や自殺防止に関する法律・施策について講義し、自殺という現象を理解しようとする姿勢や態度を身につけさせる。

科目名	教育学特殊研究（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	山脇雅夫
副題							
ナンバリング	D 5-17-237	授業方法	講義	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要
本講義は中学校及び高等学校教諭の専修免許状を取得することを目的とした科目である。キャリア教育が重視されるようになったのは、20 世紀後半に起きたグローバル化・情報化と言った産業構造の転換がある。この講義では、その変化がどのようなものであるかと理解し、それがどのような教育的課題を提起しているかを考察する。

授業の到達目標
キャリア教育が提唱されるようになった背景と、キャリア教育において育成されるべき能力について理解する。

授業計画
1．キャリア教育の背景
2．キャリア教育の登場
3．キャリア教育の法規上の位置づけ
4．キャリア教育の定義
5．キャリアとは何か？
6．キャリア発達について
7．キャリア発達に関わる諸能力
8．人間関係形成能力・社会形成能力
9．自己理解・自己管理能力
10．課題対応能力
11．キャリアプランニング能力
12．基礎的・汎用的能力
13．日本のキャリア教育
14．欧米のキャリア教育
15．総括講義

準備学習（予習・復習）・時間
シラバスに予告された内容につき、最低 1 時間ほどを参考者等において調べておく（予習）。講義内容をまとめ、示された参考資料にあたっておく（復習）。(計 90 分以上)

テキスト
なし、必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等
伊藤一雄著「キャリア開発と職業指導」法律文化社 2011

学生に対する評価
講義内容に対する理解と考察の深さで判断する。課題レポート（70%）、議論への参加（30%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）講義の内容を理解できる。
（B）講義の内容を理解し、それを自分の言葉で表現できる。
（A）講義の内容を理解し、それを論理的な文章で表現できる。
（S）講義の内容を理解し、内容の論理的前提及び帰結を論理的な文章で表現できる。

課題に対するフィードバックの方法
レポートにコメントを付け返却する。

その他
教職関係科目を履修していることが望ましい。

科目名	密教特殊演習Ａ -1（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	佐藤隆彦
副題							
ナンバリング	D 5-01-238	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要
真言宗には両部神道を相伝している。著名なものに御流神道、三輪流神道、雲伝神道がある。このうち、御流神道の大家である鑁善が作成し著作が多数残されている。鑁善の著作を読み進め、理解する。

授業の到達目標
博士論文を作成する。

授業計画
1．はじめに　半年間の論点整理。
2．『神道見聞録』翻刻と内容検討
3．『神道見聞録』翻刻と内容検討
4．『神道見聞録』翻刻と内容検討
5．『神道見聞録』翻刻と内容検討
6．『神道見聞録』翻刻と内容検討
7．『神道見聞録』翻刻と内容検討
8．『神道見聞録』翻刻と内容検討
9．『神道見聞録』翻刻と内容検討
10．『神道見聞録』翻刻と内容検討
11．『神道見聞録』翻刻と内容検討
12．『神道見聞録』翻刻と内容検討
13．『神道見聞録』翻刻と内容検討
14．『神道見聞録』翻刻と内容検討
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前準備として講義でおこなう該当箇所についてテキストを校合して準備をしておくこと（90 分）、事後学修として授業内容をもとにテキストを再確認すること（90 分）

テキスト
『神道見聞録』（写本）

参考書・参考資料等
大山公淳『神仏交渉史』

学生に対する評価
発表（30%）レポート（50%）資料作成（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）御流神道について理解する
（B）鑁善の著作を翻刻しその特徴を発表できる
（A）博士論文を作成する
（S）極めて優秀な博士論文を作成する

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義でフィードバックを行う。

その他
大学内の写本調査にととどまらず積極的に資料を収集すること。

科目名	密教特殊演習Ａ -2（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	佐藤隆彦
副題							
ナンバリング	D 5-01-239	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要
真言宗には両部神道を相伝している。著名なものに御流神道、三輪流神道、雲伝神道がある。このうち、御流神道の大家である鑁善が作成し著作が多数残されている。鑁善の著作を読み進め、理解する。

授業の到達目標
博士論文を作成する

授業計画
1．はじめに　半年間の論点整理
2．『神道見聞録』翻刻と内容検討
3．『神道見聞録』翻刻と内容検討
4．『神道見聞録』翻刻と内容検討
5．『神道見聞録』翻刻と内容検討
6．『神道見聞録』翻刻と内容検討
7．『神道見聞録』翻刻と内容検討
8．『神道見聞録』翻刻と内容検討
9．『神道見聞録』翻刻と内容検討
10．『神道見聞録』翻刻と内容検討
11．『神道見聞録』翻刻と内容検討
12．『神道見聞録』翻刻と内容検討
13．『神道見聞録』翻刻と内容検討
14．『神道見聞録』翻刻と内容検討
15．まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
事前準備として講義でおこなう該当箇所についてテキストを校合して準備をしておくこと（90 分）、事後学修として授業内容をもとにテキストを再確認すること（90 分）

テキスト
『神道見聞録』（写本）

参考書・参考資料等
大山公淳『神仏交渉史』

学生に対する評価
発表（30%）レポート（50%）資料作成（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）御流神道について理解する
（B）鑁善の著作を翻刻し、その特徴を発表できる。
（A）博士論文を作成できる。
（S）極めて優秀な博士論文を作成できる。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義でフィードバックを行う。

その他
大学内の写本調査にととどまらず積極的に資料を収集すること。

科目名	密教特殊演習Ｂ -1（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	奥山直司
副題	博士論文を書き進める						
ナンバリング	D 5-01-240	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要
指導教員から具体的な指導を受けることを通じて、博士論文を書き進める。

授業の到達目標
充実した内容の博士論文を書き進めること。

授業計画
1．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」序論
2．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」序論（続）
3．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 1 章第 1 節
4．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 1 章第 2 節
5．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 1 章第 2 節（続）
6．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 1 節
7．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 1 節（続）
8．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 2 節
9．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 2 節（続）
10．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 3 節
11．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 3 節（続）
12．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 4 節
13．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 4 節（続）
14．「『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第 2 章第 5 節
15．前期の成果の確認と反省

準備学習（予習・復習）・時間
指導教員の指導に基づいて論文を書き進めることが事前学修であり、また事後学修でもある（35 時間以上）。

テキスト
安然著『諸阿闍梨真言密教部類惣録』とその関連文献

参考書・参考資料等
末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ―』新潮社

学生に対する評価
論文作成に対する取り組み（100%）。

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（C）日本語で文章を書くことができる。
（B）日本語で学術的な文章を書くことができる。
（A）日本語で緻密な構造を持った学術論文を書くことができる。
（S）日本語で高度な内容を持った学術論文を書くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
最大限の努力をして論文を書き進めること

科目名	密教特殊演習Ｂ -2（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	奥 山 直 司
副　題	博士論文を完成させる						

ナンバリング	Ｄ 5-01-241	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要
指導教員から適切な指導を受けることを通じて、博士論文を完成させる。

授業の到達目標
充実した内容の博士論文を完成させること。

授業計画
1．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第３章第１節
2．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第３章第１節（続）
3．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第３章第２節
4．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第３章第３節
5．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第４章第１節
6．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第４章第２節
7．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」第４章第３節
8．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」結論
9．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」結論（続）
10．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」要旨
11．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」要旨（続）
12．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」全体チェック
13．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」全体チェック（続）
14．『『諸阿闍梨真言密教部類惣録』の研究」将来展望
15．博士後期課程における研究の総まとめ

準備学習（予習・復習）・時間
指導教員の指導に基づいて論文を完成させることが事前学修であり、また事後学修でもある（35時間以上）。

テキスト
『諸阿闍梨真言密教部類惣録』とその関連文献

参考書・参考資料等
末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ―』新潮社

学生に対する評価
論文作成に対する取り組みとその成果（100%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（Ｃ）日本語で文章を書くことができる。
（Ｂ）日本語で学術的な文章を書くことができる。
（Ａ）日本語で緻密な構造を持った学術論文を書くことができる。
（Ｓ）日本語で高度な内容を持った学術論文を書くことができる。

課題に対するフィードバックの方法
質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

その他
最大限の努力をして学位論文を完成させること

科目名	密教特殊演習Ｃ -1（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	乾　　龍 仁
副　題							

ナンバリング	Ｄ 5-01-242	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要
中国密教を大成した不空三蔵に関する史料として西明寺の円照が蒐集し編集した『表制集』が有名であるが、円照はまた別に歴代中国仏教の訳経僧と翻訳経典について膨大な『貞元録』を撰述し、その中にも『表制集』に収録された上表文を用いて不空三蔵の事跡をまとめている。この特殊演習では『貞元録』巻十五・十六にまとめられた不空三蔵の事跡を確認したい。なお博論の中間報告も随時行ってもらう。

授業の到達目標
高史料の漢文を国訳し、詳細な訳注の作成を目指す。

授業計画
1．使用するテキストおよび参考資料の提示と説明
2．『貞元録』巻十五をよむ　１
3．『貞元録』巻十五をよむ　２
4．『貞元録』巻十五をよむ　３
5．『貞元録』巻十五をよむ　４
6．『貞元録』巻十五をよむ　５
7．『貞元録』巻十五をよむ　６
8．『貞元録』巻十五をよむ　７
9．『貞元録』巻十五をよむ　８
10．『貞元録』巻十五をよむ　９
11．『貞元録』巻十五をよむ　１０
12．『貞元録』巻十五をよむ　１１
13．『貞元録』巻十五をよむ　１２
14．博論の中間報告　１
15．博論の中間報告　２

準備学習（予習・復習）・時間
事前に漢文を延べ書きし、単語の意味や人物・年代等について調べておき、演習の時間に臨むこと。（計 180 分以上）

テキスト
西京西明寺沙門円照撰『貞元新定釈教目録』巻第十五（大正蔵、第 55 巻、2157 番）、上都長安西明寺沙門釈円照集『代宗朝贈司空大辨正広智三蔵』六巻（大正蔵、第 52）

参考書・参考資料等
長部和雄訳「広智三蔵和上表制集」『国訳一切経 和漢撰述部 護教部５』（大東出版社）

学生に対する評価
期末のレポート試験（80%）、授業への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（Ｃ）テキストの漢文を延べ書きし、訳注を施すことができる。
（Ｂ）テキストの漢文を正確に延べ書きし、訳注を施すことができる。
（Ａ）テキストの漢文を正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。
（Ｓ）不空三蔵の歴史上での役割について自分の言葉で紹介し、テキストの漢文も正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業の中で議論し、間違いのあった箇所については指摘し、修正を指示する。

その他
授業形式は演習なので、毎回、受講生にテキストの国訳を発表してもらい、さらに語彙について説明してもらうので、予習は必須。

科目名	密教特殊演習Ｃ -2（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	乾　　龍 仁
副　題							

ナンバリング	Ｄ 5-01-243	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要
中国密教を大成した不空三蔵に関する史料として西明寺の円照が蒐集し編集した『表制集』が有名であるが、円照はまた別に歴代中国仏教の訳経僧と翻訳経典について膨大な『貞元録』を撰述し、その中にも『表制集』に収録された上表文を用いて不空三蔵の事跡をまとめている。この特殊演習では『貞元録』巻十五・十六にまとめられた不空三蔵の事跡を確認したい。なお博論の中間報告も随時行ってもらう。

授業の到達目標
史料の漢文を国訳し、詳細な訳注の作成を目指す。

授業計画
1．使用するテキストおよび参考資料の提示と説明
2．『貞元録』巻十六をよむ　１
3．『貞元録』巻十六をよむ　２
4．『貞元録』巻十六をよむ　３
5．『貞元録』巻十六をよむ　４
6．『貞元録』巻十六をよむ　５
7．『貞元録』巻十六をよむ　６
8．『貞元録』巻十六をよむ　７
9．『貞元録』巻十六をよむ　８
10．『貞元録』巻十六をよむ　９
11．『貞元録』巻十六をよむ　１０
12．『貞元録』巻十六をよむ　１１
13．『貞元録』巻十六をよむ　１２
14．博論の中間報告　１
15．博論の中間報告　２

準備学習（予習・復習）・時間
事前に漢文を延べ書きし、単語の意味や人物・年代等について調べておき、演習の時間に臨むこと。（計 180 分以上）

テキスト
西京西明寺沙門円照撰『貞元新定釈教目録』巻第十六（大正蔵、第 55 巻、2157 番）、上都長安西明寺沙門釈円照集『代宗朝贈司空大辨正広智三蔵』六巻（大正蔵、第 52）

参考書・参考資料等
長部和雄訳「広智三蔵和上表制集」『国訳一切経 和漢撰述部 護教部５』（大東出版社）

学生に対する評価
期末のレポート試験（80%）、授業への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（Ｃ）テキストの漢文を延べ書きし、訳注を施すことができる。
（Ｂ）テキストの漢文を正確に延べ書きし、訳注を施すことができる。
（Ａ）テキストの漢文を正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。
（Ｓ）不空三蔵の歴史上での役割について自分の言葉で紹介し、テキストの漢文も正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業の中で議論し、間違いのあった箇所については指摘し、修正を指示する。

その他
授業形式は演習なので、毎回、受講生にテキストの国訳を発表してもらい、さらに語彙について説明してもらうので、予習は必須。

科目名	密教特殊演習Ｄ -1（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	乾　　龍 仁
副　題							

ナンバリング	Ｄ 5-01-244	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP

授業の目的と概要
中国密教を大成した不空三蔵に関する史料として西明寺の円照が蒐集し編集した『表制集』が有名であるが、円照はまた別に歴代中国仏教の訳経僧と翻訳経典について膨大な『貞元録』を撰述し、その中にも『表制集』に収録された上表文を用いて不空三蔵の事跡をまとめている。この特殊演習では『貞元録』巻十五・十六にまとめられた不空三蔵の事跡を確認したい。なお博論の中間報告も随時行ってもらう。

授業の到達目標
史料の漢文を国訳し、詳細な訳注の作成を目指す。

授業計画
1．使用するテキストおよび参考資料の提示と説明
2．『貞元録』巻十五をよむ　１
3．『貞元録』巻十五をよむ　２
4．『貞元録』巻十五をよむ　３
5．『貞元録』巻十五をよむ　４
6．『貞元録』巻十五をよむ　５
7．『貞元録』巻十五をよむ　６
8．『貞元録』巻十五をよむ　７
9．『貞元録』巻十五をよむ　８
10．『貞元録』巻十五をよむ　９
11．『貞元録』巻十五をよむ　１０
12．『貞元録』巻十五をよむ　１１
13．『貞元録』巻十五をよむ　１２
14．博論の中間報告　１
15．博論の中間報告　２

準備学習（予習・復習）・時間
事前に漢文を延べ書きし、単語の意味や人物・年代等について調べておき、演習の時間に臨むこと。（計 180 分以上）

テキスト
西京西明寺沙門円照撰『貞元新定釈教目録』巻第十五（大正蔵、第 55 巻、2157 番）、上都長安西明寺沙門釈円照集『代宗朝贈司空大辨正広智三蔵』六巻（大正蔵、第 52）

参考書・参考資料等
長部和雄訳「広智三蔵和上表制集」『国訳一切経 和漢撰述部 護教部５』（大東出版社）

学生に対する評価
期末のレポート試験（80%）、授業への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）
（Ｃ）テキストの漢文を延べ書きし、訳注を施すことができる。
（Ｂ）テキストの漢文を正確に延べ書きし、訳注を施すことができる。
（Ａ）テキストの漢文を正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。
（Ｓ）不空三蔵の歴史上での役割について自分の言葉で紹介し、テキストの漢文も正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。

課題に対するフィードバックの方法
授業の中で議論し、間違いのあった箇所については指摘し、修正を指示する。

その他
授業形式は演習なので、毎回、受講生にテキストの国訳を発表してもらい、さらに語彙について説明してもらうので、予習は必須。

科目名	密教特殊演習Ｄ -2（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	乾　龍仁
副　題							

ナンバリング	Ｄ 5-01-245	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

中国密教を大成した不空三蔵に関する史料として西明寺の円照が蒐集し編集した『表制集』が有名であるが、円照はまた別に歴代中国仏教の訳経僧と翻訳経典について膨大な『貞元録』を撰述し、その中にも『表制集』に収録された上表文を用いて不空三蔵の事跡をまとめている。この特殊演習では『貞元録』巻十五・十六にまとめられた不空三蔵の事跡を確認したい。なお博論の中間報告も随時行ってもらう。

授業の到達目標

史料の漢文を国訳し、詳細な訳注の作成を目指す。

授業計画

1．使用するテキストおよび参考資料の提示と説明
2．『貞元録』巻十六をよむ　1
3．『貞元録』巻十六をよむ　2
4．『貞元録』巻十六をよむ　3
5．『貞元録』巻十六をよむ　4
6．『貞元録』巻十六をよむ　5
7．『貞元録』巻十六をよむ　6
8．『貞元録』巻十六をよむ　7
9．『貞元録』巻十六をよむ　8
10．『貞元録』巻十六をよむ　9
11．『貞元録』巻十六をよむ　１０
12．『貞元録』巻十六をよむ　１１
13．『貞元録』巻十六をよむ　１２
14．博論の中間報告　1
15．博論の中間報告　2

準備学習（予習・復習）・時間

事前に漢文を延べ書きし、単語の意味や人物・年代等について調べておき、演習の時間に臨むこと。（計 180 分以上）

テキスト

西京西明寺沙門円照撰『貞元新定釈教目録』巻第十六（大正蔵、第 55 巻、2157 番）、上都長安西明寺沙門釈円照集『代宗朝贈司空大辨正広智三蔵』六巻（大正蔵、第 52）

参考書・参考資料等

長部和雄訳「広智三蔵和上表制集」『国訳一切経 和漢撰述部 護教部５』（大東出版社）

学生に対する評価

期末のレポート試験（80%）、授業への積極性（20%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）テキストの漢文を延べ書きし、訳注を施すことができる。
（B）テキストの漢文を正確に延べ書きし、訳注を施すことができる。
（A）テキストの漢文を正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。
（S）不空三蔵の歴史上での役割について自分の言葉で紹介し、テキストの漢文も正確に延べ書きし、的確な訳注を施すことができる。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で議論し、間違いのあった箇所については指摘し、修正を指示する。

その他

授業形式は演習なので、毎回、受講生にテキストの国訳を発表してもらい、さらに語彙について説明してもらうので、予習は必須。

科目名	密教特殊演習Ｅ -1（大）	学期	前期	単位数	2	担当者	土居夏樹
副　題							

ナンバリング	Ｄ 5-01-246	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

高野山では、応永年間（1394—1427）に宝性院宥快（1345-1416）、無量壽院長覚（1340-1416）といった２大学匠が現れ、高野山内の学僧は宝門・壽門２派に分かれるようになった。今回取り上げる『大疏指南鈔』は、壽門学派の祖とされる長覚が記した「論義書」である。その内容は『大日経疏』の「住心品」注釈に関する 90 題の教理問答を収録したものであり、壽門学派における最重要書とされる。しかしながら、『大疏指南鈔』は活字化すらされておらず、壽門学派の教学研究はほとんどなされていない。この『大疏指南鈔』所載の論義を一つひとつ読み進め、それぞれの論義における長覚の特徴を明確にする。

授業の到達目標

『大疏指南鈔』所載の論義の内容を通して長覚の思想的特徴を明確にし、学術論文として発表する。

授業計画

1．オリエンテーション
2．「自証極位事」① 書き下し・現代語訳
3．　〃　② 問題点と先行研究の整理
4．　〃　③ 関連資料１　出典
5．　〃　④ 関連資料２　周辺資料
6．　〃　⑤ 問題点の整理
7．　〃　⑥ 考察
8．　〃　⑦まとめ
9．「初地即極事」① 書き下し・現代語訳
10．　〃　② 問題点と先行研究の整理
11．　〃　③ 関連資料１　出典
12．　〃　④ 関連資料２　周辺資料
13．　〃　⑤ 問題点の整理
14．　〃　⑥ 考察
15．　〃　⑦まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の資料作成（120 分）
・演習後の資料修正（60 分）

テキスト

『大疏指南鈔』、高野山大学図書館蔵（増福院寄託）・刊本

参考書・参考資料等

※『宗義決択集』、『真言宗全書』第 19 巻、続真言宗全書刊行会
※印融『大疏指南鈔鉤物』、高野山大学図書館蔵（真別所寄託）刊本

学生に対する評価

授業内の発表（50%）、学術論文の作成（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）資料の読解が問題なくできる。
（B）周辺資料を収集し、整理できる。
（A）先行研究を収集分析し、問題点を明示できる。
（S）演習の成果を学術論文にまとめることができる（1本）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で作成してきた資料の講評を実施する。

その他

・博士後期課程では、自身の研究成果を学会で発表することが求められる。受講生の研究水準の向上を期すため、毎回の課題を実施しなかった場合は、厳重に注意する。

科目名	密教特殊演習Ｅ -2（大）	学期	後期	単位数	2	担当者	土居夏樹
副　題							

ナンバリング	Ｄ 5-01-247	授業方法	演習	実務経験の有無	無	関連 DP	

授業の目的と概要

高野山では、応永年間（1394—1427）に宝性院宥快（1345-1416）、無量壽院長覚（1340-1416）といった２大学匠が現れ、高野山内の学僧は宝門・壽門２派に分かれるようになった。今回取り上げる『大疏指南鈔』は、壽門学派の祖とされる長覚が記した「論義書」である。その内容は『大日経疏』の「住心品」注釈に関する 90 題の教理問答を収録したものであり、壽門学派における最重要書とされる。しかしながら、『大疏指南鈔』は活字化すらされておらず、壽門学派の教学研究はほとんどなされていない。この『大疏指南鈔』所載の論義を一つひとつ読み進め、それぞれの論義における長覚の特徴を明確にする。

授業の到達目標

『大疏指南鈔』所載の論義の内容を通して長覚の思想的特徴を明確にし、学術論文として発表する。

授業計画

1．オリエンテーション
2．「四仏属心数事」① 書き下し・現代語訳
3．　〃　② 問題点と先行研究の整理
4．　〃　③ 関連資料１　出典
5．　〃　④ 関連資料２　周辺資料
6．　〃　⑤ 問題点の整理
7．　〃　⑥ 考察
8．　〃　⑦まとめ
9．「瑞相三身事」① 書き下し・現代語訳
10．　〃　② 問題点と先行研究の整理
11．　〃　③ 関連資料１　出典
12．　〃　④ 関連資料２　周辺資料
13．　〃　⑤ 問題点の整理
14．　〃　⑥ 考察
15．　〃　⑦まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

・毎回の資料作成（120 分）
・演習後の資料修正（60 分）

テキスト

『大疏指南鈔』、高野山大学図書館蔵（増福院寄託）・刊本

参考書・参考資料等

※『宗義決択集』、『真言宗全書』第 19 巻、続真言宗全書刊行会
※印融『大疏指南鈔鉤物』、高野山大学図書館蔵（真別所寄託）刊本

学生に対する評価

授業内の発表（50%）、学術論文の作成（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

（C）資料の読解が問題なくできる。
（B）周辺資料を収集し、整理できる。
（A）先行研究を収集分析し、問題点を明示できる。
（S）演習の成果を学術論文にまとめることができる（1本）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で作成してきた資料の講評を実施する。

その他

・博士後期課程では、自身の研究成果を学会で発表することが求められる。受講生の研究水準の向上を期すため、毎回の課題を実施しなかった場合は、厳重に注意する。

科目名		学期		単位数		担当者	
副　題							

ナンバリング		授業方法		実務経験の有無		関連 DP	

教　員　別　索　引

【あ　行】

有　松　孝　雄　企画科目（仏画）　文 - 30
　　仏教芸術（別）　文 - 30
五十嵐啓道　梵字悉曇Ｂ　文 - 73
伊　藤　一　雄　特別支援教育　文 - 47
伊　藤　佳世子　英語Ⅰ　文 - 1
　　英語Ⅰ（再履修）　文 - 1
　　英語Ⅱ　文 - 11
　　英語Ⅱ（再履修）　文 - 12
伊　藤　博　美　教育方法論　文 - 48
乾　　龍　仁　空海の思想入門Ａ　文 - 1
　　弘法大師空海の生涯（別）　文 - 1
　　密教特殊演習Ｃ - １（大）　院 - 10
　　密教特殊演習Ｃ - ２（大）　院 - 10
　　密教特殊演習Ｄ - １（大）　院 - 10
　　密教特殊演習Ｄ - ２（大）　院 - 11
今　井　邦　夫　体育実技　文 - 34
上　田　恭　寿　国語学Ⅰ　文 - 37
　　国語学Ⅱ　文 - 38
　　国語学講義Ⅰ　文 - 40
　　国語学講義Ⅱ　文 - 41
上　野　和　久　人間学基礎ゼミⅢＡ　文 - 14
　　人間学基礎ゼミⅣＡ　文 - 14
　　企画科目（カウンセリング論Ａ）　文 - 15
　　人間学専門講義（カウンセリング論Ａ）　文 - 15
　　企画科目（発達心理学Ａ）　文 - 17
　　人間学専門講義（発達心理学Ａ）　文 - 17
　　人間学演習ＩＢ　文 - 28
　　人間学演習ⅡＢ　文 - 28
　　心理学ＩＢ　文 - 52
　　心理学ⅡＢ　文 - 52
　　人間学特殊ゼミＩＣ（教育心理学）　文 - 60
　　人間学専門講義（教育心理学）　文 - 60
　　人間学特殊ゼミⅡＣ（人格心理学）　文 - 61
　　人間学専門講義（人格心理学）　文 - 61
内　海　周　浩　法式　文 - 6
　　法式（別）　文 - 6
大河内　大　博　企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅰ）　文 - 54
　　人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅰ）　文 - 54
　　企画科目（スピリチュアルケア演習Ⅱ）　文 - 54
　　人間学専門講義（スピリチュアルケア演習Ⅱ）　文 - 54
　　人間学特殊ゼミⅡＦ（スピリチュアルケア実践論）　文 - 61
　　人間学専門講義（スピリチュアルケア実践論）　文 - 61
岡　田　英　作　宗教科教育法Ⅲ　文 - 50
　　仏教学講読演習Ｃ　文 - 63
　　仏教学特殊講義Ｃ　文 - 67
岡　本　文　音　伝統文化実習（茶道）　文 - 34
　　伝統文化（茶道）　文 - 34
奥　山　直　司　密教史概説Ⅰ　文 - 13
　　密教史概説　文 - 13
　　密教学特殊講義Ａ　文 - 22
　　宗教学Ⅰ　文 - 35
　　世界の宗教（別）１　文 - 35
　　宗教学Ⅱ　文 - 36
　　世界の宗教（別）２　文 - 36
　　宗教思想史ⅠＡ　文 - 36
　　密教学演習Ｊ　文 - 69
　　インド学講義（大）　院 - 1
　　密教史演習（大）　院 - 3
　　密教特殊演習Ｂ - １（大）　院 - 9
　　密教特殊演習Ｂ - ２（大）　院 - 10

【か　行】

加　賀　　博　企画科目（寺院経営講座）　文 - 31
　　寺院と法律（別）　文 - 31
学　科　主　任　導入研修　文 - 1
亀　位　卓　阿　英語Ⅲ　文 - 28
川　口　道　雄　企画科目（臨床実習Ⅳ）　文 - 72
　　企画科目（臨床実習Ⅴ）　文 - 72
川　﨑　一　洋　密教学特殊講義Ⅰ　文 - 22
　　密教学特殊講義Ｊ　文 - 22
　　仏教学特殊講義Ｈ　文 - 23
　　真言密教特殊講義Ｋ　文 - 25
　　密教学特殊講義Ｋ　文 - 65
　　密教学特殊講義Ｌ　文 - 65
　　仏教学特殊講義Ⅰ　文 - 67
　　真言密教特殊講義Ｌ　文 - 68
木　地　茂　典　企画科目（自然科学）　文 - 10
　　教養講義（自然科学）　文 - 10
木　地　茂　典　企画科目（数的処理）　文 - 10
　　教養講義（数的処理）　文 - 10
　　情報処理　文 - 34
北　川　真　寛　真言密教講読演習Ｈ　文 - 64
　　真言密教講読演習Ⅰ　文 - 64
　　真言密教特殊講義Ｇ　文 - 68
　　真言密教特殊講義Ｈ　文 - 68
木　下　忠　恭　企画科目（カウンセリング論Ｂ）　文 - 53
　　人間学専門講義（カウンセリング論Ｂ）　文 - 53
　　企画科目（学校心理学）　文 - 55
　　人間学専門講義（学校心理学）　文 - 55
　　企画科目（心理検査法演習Ⅰ）　文 - 57
　　人間学専門講義（心理検査法演習Ⅰ）　文 - 57
　　企画科目（心理検査法演習Ⅱ）　文 - 57
　　人間学専門講義（心理検査法演習Ⅱ）　文 - 57
木　本　滋　久　漢字Ⅱ　文 - 42
　　条幅制作Ａ（漢字）　文 - 44
窪　寺　俊　之　企画科目（スピリチュアルケア概論）　文 - 54
　　人間学専門講義（スピリチュアルケア概論）　文 - 54
高祖彩恵子 / 辻佐智子　企画科目（舞踊）　文 - 35
　　宗教芸能（舞踊）　文 - 35
小　林　奈緒美　企画科目（家族心理学）　文 - 55
　　人間学専門講義（家族心理学）　文 - 55
　　企画科目（発達心理学Ｂ）　文 - 58
　　人間学専門講義（発達心理学Ｂ）　文 - 58
五　味　和　樹　企画科目（華道）　文 - 34
　　伝統文化（華道）　文 - 34
五　明　優　介　企画科目（心理学基礎実験演習Ⅰ）　文 - 56
　　人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅰ）　文 - 56
　　企画科目（心理学基礎実験演習Ⅱ）　文 - 56
　　人間学専門講義（心理学基礎実験演習Ⅱ）　文 - 56
　　企画科目（心理測定法）　文 - 57
　　人間学専門講義（心理測定法）　文 - 57
　　企画科目（心理統計学）　文 - 57
　　人間学専門講義（心理統計学）　文 - 57
近　藤　堯　寛　布教　文 - 6
　　布教Ａ　文 - 6
　　布教（別）　文 - 6

【さ　行】

齋　藤　天　譽　梵字悉曇Ａ　文 - 33
　　梵字悉曇（別）　文 - 33
坂　口　太　郎　総合科目（古文書学）　文 - 30
　　総合科目（書誌学）　文 - 30
　　企画科目（歴史学）　文 - 35
　　歴史学　文 - 35
　　企画科目（古文書解読Ａ）　文 - 35
　　古文書解読Ａ　文 - 35
　　日本文化特殊講義Ｂ　文 - 41
　　日本文化特殊講義Ｃ　文 - 41
　　博物館概論　文 - 45
　　博物館資料論　文 - 45
　　真言密教講読演習Ｇ　文 - 64
　　企画科目（古文書解読Ｂ）　文 - 70
　　古文書解読Ｂ　文 - 70
　　密教史特殊研究Ｂ（大）　院 - 2
　　密教史特殊研究Ｃ（大）　院 - 3
櫻　木　　潤　密教学基礎ゼミＡ１　文 - 3
　　密教学基礎ゼミＡ２　文 - 3
　　密教史概説Ⅱ　文 - 13
　　仏教学講読演習Ｂ　文 - 20
　　仏教学特殊講義Ｂ　文 - 23
　　密教学演習Ｄ　文 - 26
　　宗教思想史ⅡＡ　文 - 36
　　生涯学習概論　文 - 44
　　博物館教育論　文 - 46
　　空海の思想入門Ｂ　文 - 52
　　真言密教講読演習Ｆ　文 - 64
　　仏教史特殊研究（大）　院 - 6
　　仏教史演習（大）　院 - 7
佐　藤　隆　彦　密教学基礎ゼミＣ１　文 - 4
　　密教学基礎ゼミＣ２　文 - 4
　　密教学概論Ⅰ　文 - 12
　　密教学概論　文 - 12
　　真言宗の教え（別）１　文 - 12
　　密教学概論Ⅱ　文 - 12
　　真言宗の教え（別）２　文 - 12
　　祖典講読ⅢＡ　文 - 18
　　真言宗典講読２（別）１　文 - 18

佐藤隆彦	祖典講読Ⅳ A	文 - 19
	真言宗典講読２（別）２	文 - 19
	真言密教特殊講義Ⅰ（密教瞑想）	文 - 68
	密教学講義（大）	院 - 1
	祖典演習（大）	院 - 1
	密教学講読（大）	院 - 4
	密教特殊演習Ａ - １（大）	院 - 9
	密教特殊演習Ａ - ２（大）	院 - 9
塩野三恵子	かなⅠ	文 - 7
	かなⅡ	文 - 43
	条幅制作Ｂ（かな）	文 - 44
嶋田博	教職入門	文 - 47
	教育課程論	文 - 48
下西忠	日本文学史概説Ⅰ	文 - 38
	日本文学史概説Ⅱ	文 - 39
	国語科教育法Ⅰ	文 - 50
	国語科教育法Ⅱ	文 - 50
就職担当	企画科目（キャリア研修）	文 - 18
	キャリア研修	文 - 18
	総合科目（インターンシップ）	文 - 29
鈴木裕範	企画科目（地域産業論）	文 - 17
	人間学専門講義（地域産業論）	文 - 17

【た　行】

高田綾子	キャリアカウンセリングⅠ - １	文 - 10
	キャリアデザインⅠ	文 - 10
	企画科目（キャリアカウンセリングⅠ - ２）	文 - 10
	キャリアデザインⅡ	文 - 10
	キャリアカウンセリングⅡ - １	文 - 15
	キャリアデザインⅢ	文 - 15
	キャリアカウンセリングⅢ - １	文 - 29
	企画科目（キャリアカウンセリング゛Ⅲ - ２）	文 - 31
	キャリアデザインⅣ	文 - 15
竹村和也	現代の人権	文 - 11
	教養講義（人権論）	文 - 11
	人権と福祉（別）	文 - 11
	日本国憲法	文 - 42
辻秀道	声明	文 - 6
	声明（別）	文 - 6
	企画科目（声明上級）	文 - 33
	声明上級	文 - 33
	声明上級（別）	文 - 33
辻・本間・西山	企画科目（詠歌）	文 - 7
	布教Ｂ（詠歌）	文 - 7
テンジン・ウセル	総合科目（チベット仏教入門ⅠＢ）	文 - 29
	総合科目（チベット仏教入門ⅡＢ）	文 - 30
	チベット語	文 - 32
	チベット語（別）	文 - 32
	総合科目（チベット語入門）	文 - 70
	総合科目（チベット仏教入門ⅠＡ）	文 - 70
	総合科目（チベット仏教入門ⅡＡ）	文 - 70
土居夏樹	祖典講読ⅢＢ	文 - 19
	祖典講読ⅣＢ	文 - 19
	真言密教特殊講義Ｃ	文 - 24
	真言密教特殊講義Ｊ	文 - 25
	密教学演習Ｅ	文 - 26
	宗教史Ⅰ	文 - 36
	宗教の歴史（別）１	文 - 36
	宗教史Ⅱ	文 - 37
	宗教の歴史（別）２	文 - 37
	祖典講読ⅢＣ	文 - 62
	祖典講読ⅣＣ	文 - 62
	密教学演習Ⅰ	文 - 69
	密教史特殊研究Ａ（大）	院 - 2
	密教と文化（大）	院 - 4
	仏教と文化（大）	院 - 4
	密教特殊演習Ｅ - １（大）	院 -11
	密教特殊演習Ｅ - ２（大）	院 -11
徳重弘志	サンスクリット語ⅠＡ	文 - 3
	サンスクリット語Ａ	文 - 3
	サンスクリット語（別）	文 - 3
T.ドライトライン	密教学講読演習Ｂ	文 - 20
	観法の理論と実習（別）１	文 - 20
	密教学講読演習Ｃ	文 - 20
	観法の理論と実習（別）２	文 - 20
	真言密教講読演習Ｂ	文 - 21
	真言密教講読演習Ｃ	文 - 21
	真言密教講読演習Ｄ	文 - 21
	真言密教講読演習Ｅ	文 - 21
T.ドライトライン	真言密教特殊講義Ｄ	文 - 24
	真言密教特殊講義Ｅ	文 - 25
	密教学演習Ｇ	文 - 27
	密教学特殊研究Ａ（大）	院 - 2
	密教学特殊研究Ｂ（大）	院 - 2
	事相研究Ⅰ - １（大）	院 - 5
	事相研究Ⅰ - ２（大）	院 - 5
	事相研究Ⅱ - １（大）	院 - 5
	事相研究Ⅱ - ２（大）	院 - 5

【な　行】

内藤栄	博物館経営論	文 - 45
中西雄泰	真言密教特殊講義Ａ	文 - 24
	密教儀礼の理論と実習（別）１	文 - 24
	真言密教特殊講義Ｂ	文 - 24
	密教儀礼の理論と実習（別）２	文 - 24
那須真裕美	博物館資料保存論	文 - 45
	博物館情報・メディア論	文 - 46
人間学科主任	企画科目（ボランティア）	文 - 8
	ボランティア	文 - 8
根岸和政	企画科目（メンタルヘルス）	文 - 54
	人間学専門講義（メンタルヘルス）	文 - 54
野田悟	漢字Ⅰ	文 - 7
	密教学演習Ａ	文 - 25
	中国文化講読演習Ａ	文 - 42
	中国文化特殊講義	文 - 42
	篆刻	文 - 43
	篆刻Ⅰ	文 - 43
	篆刻Ⅱ	文 - 43
	書道史（中国）	文 - 44
	書道史	文 - 44
	密教学特殊講義Ｄ	文 - 65
	密教学特殊講義Ｅ	文 - 66
	密教学特殊講義Ｇ	文 - 66
	密教学特殊講義Ｈ	文 - 66

【は　行】

橋本久仁彦	企画科目（コミュニケーション演習Ⅰ）	文 - 53
	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅰ）	文 - 53
	企画科目（コミュニケーション演習Ⅱ）	文 - 53
	人間学実習（コミュニケーション演習Ⅱ）	文 - 53
土生川正賢	中国語Ⅰ	文 - 33
	中国語Ⅱ	文 - 33
浜畑圭吾	密教学演習Ｋ	文 - 27
	人間学演習ⅠＦ	文 - 27
	国文法Ⅰ	文 - 38
	国文法Ⅱ	文 - 38
	日本文学Ⅰ	文 - 39
	日本文学Ⅱ	文 - 39
	日本文学概論Ⅰ	文 - 39
	日本文学概論Ⅱ	文 - 40
	日本文化特殊講義Ａ	文 - 41
	国語科教育法Ⅲ	文 - 51
	仏教学講読演習Ｄ	文 - 63
	真言密教講読演習Ｊ	文 - 65
	仏教学講読（大）	院 - 7
	仏教史講読（大）	院 - 7
廣田恵美子	企画科目（日本語留学生上級Ａ）	文 - 31
	企画科目（日本語留学生中級Ａ）	文 - 32
福本幹雄	社会福祉各論Ⅱ（地域福祉Ⅱ）	文 - 9
	社会福祉論	文 - 9
	地域福祉Ａ（別）	文 - 9
	社会保障総論Ⅱ	文 - 9
	社会保障論	文 - 9
	社会保障Ｂ（別）	文 - 9
戸來知子	心理学ⅠＡ	文 - 8
	心の科学（別）１	文 - 8
	心理学ⅡＡ	文 - 9
	心の科学（別）２	文 - 9
	教育心理学	文 - 47
	道徳教育の研究	文 - 48
	道徳教育指導論	文 - 48
	特別教育活動指導	文 - 48
	総合的な学習の時間・特別活動	文 - 48
	情報技術論	文 - 49
	生徒指導・進路指導	文 - 49
	教育相談	文 - 49

【ま　行】

前谷　彰	仏教学概論Ⅰ	文 - 12
	仏教学概論	文 - 12
	仏教史概説Ⅰ	文 - 13
	仏教史概説	文 - 13
	釈尊の生涯（別）	文 - 13
	仏教学講読演習Ａ	文 - 20
	仏教学特殊講義Ａ	文 - 22
	密教学演習Ｃ	文 - 26
	サンスクリット語Ⅱ	文 - 32
	サンスクリット語上級	文 - 32
	サンスクリット語ⅠＢ	文 - 52
	サンスクリット語Ｂ	文 - 52
	仏教学講読演習Ｅ	文 - 63
	仏教学特殊講義Ｄ	文 - 67
	仏教学講義（大）	院 - 1
	仏教学特殊研究（大）	院 - 6
	仏教学演習１（大）	院 - 6
	仏教学演習２（大）	院 - 6
松下歩睦	企画科目（社会心理学）	文 - 56
	人間学専門講義（社会心理学）	文 - 56
松長潤慶	密教学基礎ゼミＢ１	文 - 4
	密教学基礎ゼミＢ２	文 - 4
	密教学講読演習Ａ	文 - 19
	密教学演習Ｆ	文 - 27
	宗教科教育法Ⅰ	文 - 49
	宗教科教育法Ⅱ	文 - 50
	祖典講読ⅢＤ	文 - 62
	祖典講読ⅣＤ	文 - 62
	密教学講読演習Ｇ	文 - 63
	密教学特殊講義Ｆ	文 - 66
	密教史講読（大）	院 - 4
松長・土居	祖典講読ⅠＡ・Ｂ	文 - 13
	真言宗典講読１-1（別）	文 - 13
	祖典講読ⅡＡ・Ｂ	文 - 14
	真言宗典講読１-2（別）	文 - 14
	祖典講読ⅠＡ・Ｂ	文 - 14
	真言宗典購読１（別）	文 - 14
松本貴子	人間学特殊ゼミⅠＢ（日本文化）	文 - 28
	人間学特殊ゼミⅡＢ（日本社会）	文 - 29
	企画科目（日本語留学生上級Ｂ）	文 - 31
	企画科目（日本語留学生中級Ｂ）	文 - 32
密教学学科主任	企画科目（加行Ⅰ）	文 - 7
	加行Ⅰ	文 - 7
	企画科目（加行Ⅱ）	文 - 8
	加行Ⅱ	文 - 8
	企画科目（巡礼・遍路）	文 - 8
	巡礼・遍路	文 - 8
	企画科目（密教入門講座１）	文 - 71
南　昌宏	漢文Ⅰ	文 - 2
	漢文	文 - 3
	漢文Ⅱ	文 - 2
	密教学演習Ｈ（再履修）	文 - 27
	漢文学概論Ⅰ	文 - 40
	漢文学概論Ⅱ	文 - 40
	国語科教育法Ⅳ	文 - 51
	真言密教特殊講義Ｆ	文 - 67
	中国文化講読演習Ｂ	文 - 73
	密教学演習１（大）	院 - 3
	密教学演習２（大）	院 - 3
	アジア地域の宗教文化の研究（大）	院 - 8
宮田永明	常用経典	文 - 6
	常用経典（別）	文 - 6
森崎雅好	人間学特殊ゼミIA（悲嘆学）	文 - 18
	人間学専門講義（悲嘆学Ａ）	文 - 18
	人間学特殊ゼミIIA（自殺学）	文 - 18
	人間学専門講義（自殺学Ａ）	文 - 18
	企画科目（災害心理学）	文 - 55
	人間学専門講義（災害心理学）	文 - 55
	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅳ）	文 - 59
	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅳ）	文 - 59
	人間学特殊ゼミⅠＥ（悲嘆学）	文 - 60
	人間学専門講義（悲嘆学Ｅ）	文 - 60
	人間学特殊ゼミⅠＦ（悲嘆学）	文 - 60
	人間学専門講義（悲嘆学Ｆ）	文 - 60
	人間学特殊ゼミⅡＥ（自殺学）	文 - 61
	人間学専門講義（自殺学Ｅ）	文 - 61
	企画科目（聖地巡礼Ⅰ）	文 - 71
	企画科目（聖地巡礼Ⅱ）	文 - 71
森崎雅好	企画科目（臨床実習Ⅰ）	文 - 71
	企画科目（臨床実習Ⅱ）	文 - 72
	企画科目（臨床実習Ⅲ）	文 - 72
	現代社会と宗教（大）	院 - 4
	現代社会と仏教の研究（大）	院 - 8
森崎・上野	人間学演習ⅠＣ・Ｄ・Ｅ（臨床心理学演習）	文 - 69
	人間学演習ⅡＣ・Ｄ・Ｅ（臨床心理学演習）	文 - 69
森本一彦	人間学基礎ゼミⅠＡ	文 - 5
	人間学基礎ゼミⅡＡ	文 - 5
	社会学Ⅱ	文 - 9
	社会学	文 - 9
	社会保障Ａ（別）	文 - 9
	人間学概論Ⅰ	文 - 11
	教養講義（社会科学）	文 - 11
	人間学概論Ⅱ	文 - 11
	教養講義（人文科学）	文 - 11
	伝統文化実習（民俗調査）	文 - 15
	人間学実習（社会調査）	文 - 15
	企画科目（高野文化圏論）	文 - 16
	人間学専門講義（高野文化圏論）	文 - 16
	企画科目（社会調査入門）	文 - 16
	人間学専門講義（社会調査入門）	文 - 16
	企画科目（社会調査方法論）	文 - 16
	人間学専門講義（社会調査方法論）	文 - 16
	企画科目（情報リテラシー論）	文 - 17
	人間学専門講義（情報リテラシー論）	文 - 17
	企画科目（地域連携）	文 - 17
	人間学専門講義（地域連携）	文 - 17
	地域福祉Ｂ（別）	文 - 17
	人間学演習ⅠＡ	文 - 28
	人間学演習ⅡＡ	文 - 28
	宗教学方法論	文 - 37
	教育社会学	文 - 47
	比較宗教の研究（大）	院 - 8

【や　行】

山口隆介	博物館展示論	文 - 46
山添　正	企画科目（こころのケアとは）	文 - 53
	人間学専門講義（こころのケアとは）	文 - 53
	企画科目（深層心理学）	文 - 58
	人間学専門講義（深層心理学）	文 - 58
	企画科目（臨床心理学面接演習ⅠＡ）	文 - 58
	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅠＡ）	文 - 58
	企画科目（臨床心理学面接演習ⅠＢ）	文 - 58
	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅠＢ）	文 - 58
	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＡ）	文 - 59
	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡＡ）	文 - 59
	企画科目（臨床心理学面接演習ⅡＢ）	文 - 59
	人間学専門講義（臨床心理学面接演習ⅡＢ）	文 - 59
やまだようこ	企画科目（もの語り心理学）	文 - 55
	人間学専門講義（もの語り心理学）	文 - 55
山本和美	企画科目（臨床心理学面接演習Ⅲ）	文 - 59
	人間学専門講義（臨床心理学面接演習Ⅲ）	文 - 59
山本佳世子	企画科目（死生観Ｂ）	文 - 56
	人間学専門講義（死生観Ｂ）	文 - 56
山脇雅夫	現代思想	文 - 2
	哲学	文 - 2
	哲学Ｂ（別）	文 - 2
	人間と宗教	文 - 2
	哲学Ａ（別）	文 - 2
	人間学基礎ゼミⅠＢ	文 - 5
	人間学基礎ゼミⅡＢ	文 - 5
	企画科目（死生観Ａ）	文 - 16
	人間学専門講義（死生観Ａ）	文 - 16
	哲学方法論	文 - 37
	教育原論	文 - 46
	人間学特殊ゼミⅠＤ（宗教学入門）	文 - 60
	人間学専門講義（宗教学入門）	文 - 60
	人間学特殊ゼミⅡＤ（一神教の世界）	文 - 61
	人間学専門講義（一神教の世界）	文 - 61
	教育学特殊研究（大）	院 - 9
山脇・戸來	教育実習の研究	文 - 51
	教職実践演習（中・高）	文 - 51

【わ　行】

和田圭子	仏教学特殊講義Ｆ	文 - 23
	仏教学特殊講義Ｇ	文 - 23
	仏教芸術の研究１（大）	院 - 7
	仏教芸術の研究２（大）	院 - 8

講義概要・授業計画　令和２年度（2020）

2020年４月１日発行

編集・発行　高　野　山　大　学
〒648-0280　和歌山県伊都郡高野町高野山385
Tel.（0736）56－5027（教務課）
Fax.（0736）56－5048
E-mail : kyomu@koyasan-u.ac.jp
URL : http//www.koyasan-u.ac.jp

印刷　藤井印刷株式会社

KOYASAN UNIVERSITY

高野山大学